十萬圓

米穀取引所

定期米穀取引所ハ十八年七月十六日ヨリ開業ス

定期米穀取引所ハ米ノ定期売買ヲ為ス所ニシテ

THE

NEW TESTAMENT

IN VERNACULAR JAPANESE,

FROM THE

Oldest Existing Greek Manuscripts,

WITH

INTERLINEAR NOTICES OF VARIOUS READINGS.

BY NATHAN BROWN,

MISSIONARY OF THE AMERICAN BAPTIST MISSIONARY UNION.

REVISED BY REV. T. KAWAKATSU.

YOKOHAMA:

1879

GREEK UNCIALS.

No.	MS.	Names of Manuscripts	Prob. Date
1	ℵ	Codex *Sinaiticus*	about 350
		1′, corrections made in the same age	
2	B	Codex *Vaticanus*, deficient after 2 Thess.	350
3	A	Codex *Alexandrinus*, deficient in Matthew	450
4	C	Codex *Ephraemi*, Palimpsest	450
		4′, cotemporary fragments, (T, I)	
5	D	Codex *Bezae*, Graeco-Latin, Gospels, Acts	500—550
	D	*Claromontanus*, Epis.; 5′, E, *Laudianus*, Acts	550
6	Z	*Dublinensis*, Palimpsest, Matthew, and	550
	Ξ	*Zacynthius*, Luke, supplemented by	
	Q, P,	*Guelpherbytanus*, and R, *Nitriensis*	500—600
		6′, variations from the leading MS.	
	P	*Porphyrius*, Acts, Epistles, Revelation	750
7	L	*Regius Paris.*, Gospels; *Angelicus*, Acts, Epis.	750—850
		7′, E, *Basilensis*, Gosp. (with F, G, H)	" "
	B	*Basilianus Vat.*, Revelation	750
8	Δ	*San Gallensis*, Graeco-Latin, Gospels	850
	F	*Augiensis*, Epistles, (with G)	"
9	K	*Cyprius*, Gospels; H, *Mutinensis*, Acts	850
		9′, Π, *Petropolitanus*, Gosp. (with Γ, Λ)	"
	K	*Mosquensis*, Epistles	"
10	X	*Monacensis*, Gospels	900
		10′, M, *Campianus*, (with S, U, V)	900—950

Cursives.

i	1 Gospels; 61 Acts (lo.ti); 14 *Parham*, Rev.	950—1100
ii	33 Gospels, 13 Acts, Cath; 17 Paul; 38 Rev.	1050—1200
iii	69 Gospels; 36 Cath; 47 Paul; 91 Rev. (Br)	1150—1500

etc	Secondary MSS. and cursives in general, a, b, c, &c.
mss	Cursives denoted by numbers, as ms 30, ms 36, ms 40, &c.
vss	Ancient versions, Latin, Syriac, Coptic, Thebaic, &c.
ALTTr	Editions of Alford, Lachmann, Tischendorf and Tregelles.

EXPLANATORY NOTE.

Students and preachers in this country, who are accustomed to read the Scriptures in English, and also in Chinese, frequently meet with variations in the different versions, many of them arising from different readings of the text itself. They naturally wish to know on what authorities these readings rest. It is especially important for preachers to have evidence that what they receive and teach as Scripture is the unadulterated Word, as it came from the hands of the original writers.

All copies of the New Testament writings made before the time of Constantine have perished. Two of the fourth century still remain, but these were inaccessible to the translators of our present English Bible. The MSS. used by them were very imperfect. Through the carelessness of transcribers, every century, previous to the introduction of printing, contributed its quota to swell the list of various readings. Recently, eminent scholars have devoted their lives to the study of manuscripts and the restoration of the primitive text, and with such success that there remain but few passages over which there still hangs a doubt. It is now satisfactorily settled that the oldest manuscripts contain the fewest errors. Readings that are found in no manuscript of the first five or six centuries cannot be regarded as any portion of the divine original.

In the accompanying translation the authorities for important variations from the common text are given in the interlinear notes. The manuscripts being arranged in classes, and numbered according to their respective ages, the eye sees at a glance whether a reading is sustained by the most ancient copies, or whether its first appearance is of recent date. The uncials, written during the first ten centuries, are divided into ten classes, the best manuscript of each period being selected as the representative of its class. Among them the most important are the *Sinaitic* and *Vatican*, written antecedently to the attempts of scribes and revisers to harmonize the gospel histories by supplying the omissions of one evangelist by additions from another. These two manuscripts are not, indeed, free from clerical errors; but the mistakes are generally so obvious, being the result of mere accident, as to be much easier of detection than alterations which have been made designedly, and which are often more plausible in appearance than the genuine text.

The cursives, none of them older than the tenth century, are valuable only as they help us to decide in cases where the earlier authorities disagree.

○もんだいの きりそとの まーやの かきさる せいきやうの げんぶんいと みる うせさるとも ふるき うつー およそ ごひやくぶ いまよいさるまでの のこり。まうー まだーだ うつーさるだひさーき あひだよい あやまり おてふさると えき。ゆゑよも ふるきうつーと まちがえよ かきさる いつ〳〵の まやはん あり。そのうべー。きりそとの のち 五百 ねんの あひだよ あめーだ うつーのうちよ まるいの まやはんと いふざい(1)一せんいきりそとのこうせいののち およそ三百五十ねんよ かゝきさり。ろまの まやはんと いふざい(2)二もやとんぜ おあじころ あらん。このふさつのうつーいいまと さる こと 一千五百 ねんよりも ふるー。そのとき より 一百 ねん あとよ まるさきさる ざい(3)三ざい(4)四の まやんもいまよいさる まで つさとさり。ざい(5)五いきりそとより およそ五百 ねん あとよ まるさきさり。ざい(6)六い 六百 ねんめ、(7)(8)七、八い 八百 ねんめ、(9)九い 九百 ねんめ。(10)十い 一千 ねんめよ まるさきさり。こきふのうつーいまあ おやひあるもじよて まるさる。一千 ねん より のちいかあの ごとき ちいさきもとよて まるさきさり。そのうちの(i)(ii)(iii)一、二、三い あやまりそくあき まやはん あり。

ひらーの まやんの ことありさる ところよい このせいきやうよ ろまのもとと もりてやんぶんのさきよ そのことありさる ことをとかきくそくり。

この わんを よむ ゆのん さよ をるーうる ひ
ぎーとと ろまーとを まるこぶ べーー

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	三十	四十	五十	六十	七十	八十	九十	百						
20	21	22	23	24	25	30	40	50	60	70	80	90	100						

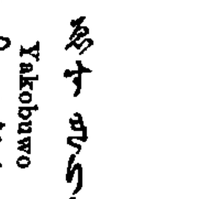
a	あ	ka	か	sa	さ	ta	た	na	な	ha	は	ma	ま	ya	や	ra	ら	wa	わ
i	い	ki	き	ci	し	tci	ち	ni	に	hi	ひ	mi	み	yi	ゐ	ri	り	wo	を
u	う	ku	く	su	す	tsu	つ	nu	ぬ	fu	ふ	mu	む	yu	ゆ	ru	る	n	ん
e	え	ke	け	se	せ	te	て	ne	ね	he	へ	me	め	ye	ゑ	re	れ	t	り
o	お	ko	こ	so	そ	to	と	no	の	ho	ほ	mo	も	yo	よ	ro	ろ		

ga	が	za	ざ	da	だ	ba	ば	pa	ぱ
gi	ぎ	ji	じ	dji	ぢ	bi	び	pi	ぴ
gu	ぐ	zu	ず	dzu	づ	bu	ぶ	pu	ぷ
ge	げ	ze	ぜ	de	で	be	べ	pe	ぺ
go	ご	zo	ぞ	do	ど	bo	ぼ	po	ぽ

まるこの でん あくの ぶんしょ

第一章

1 そそん あすす ちり ゆとの けのけ。



2 Abraham Isakuwo あぶらはむ いさくを うみ、いさく Yakobuwo やこぶを うみ、やこぶ Yudato ゆだと そのきょうだいとを うめり。 3 ゆだ Tamaruni たまるに Farezuto Zarawo ふぁれずと ざらを Hezronwo へずろんを うみ、へずろん Aramuwo あらむを うみ、 4 あらむ Aminadabuwo あみなだぶを うみ、あみなだぶ Naçonwo なーそんを うみ、なーそん Salmonwo さるもんを うみ、 5 さるもん Rakabuni らかぶに Boazuwo ぼあずを うみ、ぼあず Rutni るてに Obedewo おべでを うみ、おべで Yesaiwo よさいを うみ、 6 よさい Dabide ôuwo だびで おうを うみ、だびで Solomonwo そろもんを うめり。 7 そろもん Rehobamuwo れほばむを うみ、れほばむ Abiawo あびやを うみ、あびや Yehoçafatewo よほさふぁてを うみ、 8 よほさふぁて Yoramuwo よらむを うみ、よらむ Uziawo うじやを うみ、 9 うじや Yotamuwo よたむを うみ、よたむ Akazuwo あかずを うみ、あかず Hezekiawo へぜきやを

Manasewo 1, 2, 4, Amosuwo ; 7, 9, Amonwo Yociawo
マン、10 ヘゼキヤを お産みさせ マン、お産みさせ マン、ヨシヤ ヘーを お産み マン、
Babilonni Yekoniato
11 ヨシヤは バビロンへ 連れ ヘーを お産みさせ マン、ヨシヤの 兄弟たちを マス。12 バビロン
Cialteluwo Zerubabeluwo
へ 連れ マシた ーの お産みさせ お産みさせ マン、シャルティエルを お産みさせ マン、
Abiudewo Eliakimuwo
マン、13 ゼルバベルを お産みさせ マン、アビウデを お産みさせ マン、エリアキムを
Azoruwo Zadokuwo Yakimuwo Eliudewo
お産みさせ マン、14 アゾルを お産みさせ マン、ツァドクを お産みさせ マン、ヤキムを お産みさせ マン、エリウデを
Eliazaruwo Mattanwo
お産みさせ マン、15 エリアザルを お産みさせ マン、マタンを お産みさせ マン、ヤコブを
Yakobuwo Mariano Yosefuwo
お産みさせ マン、16 ヤコブ お産みさせ マシた マリアの 夫 ヨセフを マス。ソの お産みさせ
Kristoto Yesu mmare
れた キリストと 呼ばれる イエスを マス。

17 ソで 全部で アブラハムから ダビデまで 十四代 ニって マス、ダビデから
Babilonni utasaruru
バビロンへ 連れ マシた 時まで 十四代 ニって マス、バビロンへ 連れ マシた 時から
キリストまで 十四代 ニって マス。

Yesu Kristono Mariawa
18 イエス・キリストの 生まれ ソの ヨウ ーす。ソの 母 マリアが ヨセフと

Dái 4, 5, uígowo

25* おおいなるかな、ヱホバよ、あなたは天と地との主宰者であって、

第 11 章

Herode óuno koro Yesu Yudayano Betlehemuni

1 ヘロデ王の時、イエスはユダヤのベツレヘムで、

Yudayabitono

生まれたが、そのころ、博士たちがエルサレムにきて言った、2「ユダヤ人の

óutote mmâre

王として生まれた方はどこにおいでになりますか。わたしたちは東方でその

かたの星を見たので、拝するためにきました。」3これを聞いて、ヘロデ王は

Herode

Kristono mmâre

心を騒がし、エルサレムの人もみな同様であった。4王は民の祭司長たちや

民の学者たちをみな集めて、キリストはどこに生まれるのかと問いただした。

Yudayano tcíno Betlehemuyo,

5彼らは言った、「ユダヤのベツレヘムです。預言者によって、こう書かれて

Israeluno támiwo

います、6『ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダの諸族のうちで、決して

もっともすえたものではない。あなたから、わたしの民イスラエルを牧する

Herode

7 そこでヘロデは博士たちをひそかに呼び寄せて、星の現れた時について

Betlehemuni

詳しく聞き合わせ、8彼らをベツレヘムへ送り出すにあたって言った、「行

çuttatssèçiga

って幼な子のことを詳しく調べ、わかったらわたしにも知らせてください。

わたしもきて拝するから。」9彼らは王の言葉を聞いて出かけた。すると、

Mariato

見よ、東方で見た星が先立って進み、ついに幼な子のおる所の上にとどまっ

ógon,

た。10彼らはその星を見て、大いによろこんだ。11そして家に入り、幼な子

rêimotsuwo

Herodeni

がその母マリヤと共におるのを見て、ひれ伏して拝した。また宝の箱をあけ

て、黄金、乳香、没薬などを贈り物として献げた。12ところが、ヘロデのと

ころへ帰るなと夢でお告げがあったので、別の道から自分の国へ帰って行っ

た。

Yosefuno

13彼らが帰って行ってから、見よ、主の使が夢でヨセフに現れて言った、

Ejiptoni
19 ヘロデが死んだ後、主の使いが夢でヨセフにエジプトで現れて言った、
Herode
20 「起きて幼子とその母を連れてイスラエルの地に行け。幼子の命を狙っていた者たちは死んだ。」
Ejiptoni Yosef ókite yóru
14 そこでヨセフは起きて夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに行き、
Herodeno Ejipto
15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは預言者を通して主が言われたことが実現するためであった、
Herode Betlehemuto
16 「エジプトからわたしの子を呼び出した。」ヘロデは博士たちにだまされたことを知って大いに怒り、人を遣わしてベツレヘムとその近辺にいる二歳以下の男の子を、博士たちから確かめた時期に基づいて、一人残らず殺した。
Ramani Rakel
18 「ラマで声が聞こえた、
nákini yotte
激しく嘆き悲しむ声だ。
Yeremiano
ラケルが子どものために泣いている。
Ejiptonite Yosefuno
19 ヘロデが死んだ後、エジプトにいる主の使いが夢でヨセフに現れて、

Israeluno
tcfni
20 言った、「起きて幼子とその母を連れてイスラエルの地に行け。幼子の命を狙っていた者たちは死んだ。」
Israeluno tcfni Arkelau
21 そこでヨセフは起きて幼子とその母を連れてイスラエルの地に行った。
Herodeni Yudayawo çihãisuruto
22 しかしアルケラオがヘロデの後を継いでユダヤを治めていると聞いて、そこに行くことを恐れた。
Galilaino tõtcini sãke Nazareto
夢でお告げがあったので、ガリラヤの地方に退いて、ナザレという町に行って住んだ。

第三章

Yohane
1 そのころ、洗礼者ヨハネが現れ、ユダヤの荒れ野で宣教して言った、
2 「悔い改めよ、天の国は近づいた。」
Yesayano
3 これは預言者イザヤによって言われたことである、

Yorudanno çihóuno Yerusalemuto
。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

Yohaneni
。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

Farisaibitoto Sadokaibitowo Yohane
。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

Abrahamuno çisónto nâçi klno neni
。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

hîni mîwo fitcibawo
。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

Yesu Yohaneni Galilai Yorudanni
。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

。ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ ゐなはへいへ

その のち あす *ざんきの aruiwa, Zánenuru ákuma まどそーよ こーろそとれんとて みくまよ よりての よ
そちびられくり。 2 そどう あち ひるも よるも くらよそぎーて つひよ うへ うま
へり。 3 さて まどそそも ものの めれよ さくりて ひめ けるん、 あんぢ ゆー めその
むをそ あとべ これらの いーの をんと あるも やうよ めの せよ。 4 あを こくへて
のくまひ けるん、 ひとん をん のくあて いきを、 たべ あよ ことぢゆても めその
くち よりの いべる ものよ よりて いく べーと をるされくり。
Zánki
5 つひよ ざんきの あをを さくよの そやごよ つれ ゆー そやの いくべきよ たくをて
いひ けるん、 6 あんぢ ゆー めその むまくよ あとべ おのべ そを あけ おとをよ、
そん めそ あんぢの ためよ その つのひくちよ めりとて あんぢの いーよ
ふれぎる やうよ かれらの てうて あんぢを さくへくさをんと をるされくり。 7 あす
こくへて のくまひ けるん、 まく あんぢの めそくる さそを こくろそる あつれと

をるされくり。
8 ざんきの まく めれを いと たろき やまよ つれ のぎり せとくの くゆぐゆと その
さろへとを そをて いひ けるん、 9 あんぢ ゆー ひれふーて されを をげまべ こと
Satanyo,
でとく これを あんぢよ あるへをん。 10 あを これよ こくへ けるん、 さくへんよ、
のけ、 そん あんぢの めそくる さそを をげそて これよ のそ つのふ べーと
をるされくり。 11 こくよ おのて ざんきの めれを をあれーげ そよ、 てんの つろの
くち さくりて めれよ つろへくり。
Yohaneno
12 あす よをねの そらそれー ことを きくて がりらくよ いくり
Galilaini
sárite Zebulonto Naftalino
13 まく あぐれを
Nazarewo
さりて ぜぶろんと あふくりの さとのひゆて そぐうその やとり をる かをるあうも
Kepernaumuni
Yorudanno
よ さくりて そこよ すそ たまへり、 14 こん、 よるぢんの むろふ うその やとり
Zebulonto Naftalino
ある ぜぶろんと あふくりの ち 15 すあそち いーら いーどんの がりらの くらまよ をる
Ijinno Galilaino
たそ おあひある ひとりを そくり、 16 そのの めげの とろよ をる ひとびとよ ひとり
sono kageno

yogénça Yesayani
いわれたことが成就するためである。17 そのときから、イエスは宣教を始めて言われた、
「悔い改めよ、天国は近づいた。」

Peteroto iu Çimonto Andereno
18 さて、イエスがガリラヤの海べを歩いておられたとき、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。19 そこでイエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを人間をとる漁師にしよう。」20 すると彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。21 そこから進んで行かれると、ほかのふたりの兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、父ゼベダイと一緒に舟の中で網の繕いをしているのをごらんになった。イエスは彼らをお招きになった。22 すると彼らはすぐに舟と父とを残してイエスに従った。

Zebedaino mūsko Yakobuto Yohane
23 イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気やわずらいを、いやされた。

Suriani
24 そこで、その評判がシリヤ全体に広まり、人々はあらゆる病人、すなわち、いろいろな病気や苦痛にかかっている者、悪霊につかれている者、てんかん、中風の者などをみな、イエスのもとに連れてきたので、イエスはこれらの人をいやされた。25 こうして、ガリラヤ、デカポリ、エルサレム、ユダヤ、ヨルダンの向こうから、大ぜいの群衆がイエスについてきた。

Galilaito, Dekapoli, Yerusalem, Yudaya, Yorudanno

第五章

1 イエスはこの群衆を見て、山に登られ、すわられると、弟子たちがそばに来た。2 そこで、イエスは口を開いて教えられた。

kóre,
3 「心の貧しい者は幸いである、天国は彼らのものである。

6 たゞ一きを そくこうて うる。 めそく ものを さらそひ あり、そのひとん そてよる
ぺきよ ようて あり。 7 あそれむ ものん さらそひ あり、そのひとん あそれそを
うく べきよ ようて あり。 8 こゝろ さうする ものん さらそひ あり、そのひとん
めそよ まそゆ べきよ ようて あり。 9 ひぐるこを さうする ものん さらそひ あり、
そのひとん めそのこどもとよぐる べけれど あり。 10 たゞ一きこの こめよ
せめよる〜 ものん さらそひ あり、てんの そくるうん そのひとの ものあれど あり。
11 ひぐ こめよ ひとびと あんぢよを のゝ一り せめ めつ いつそりて あんぢよ
さうとひ ゆろゆろの あーる ことを いふ ときよ あんぢよの むくひ てんよ おりて おそひ
びて いとたのしめよ、いつのんと あれど なんぢよの むくひ てんよ おりて おそひ
あれど あり、なんぢよ より さきの よゆんーやも めくの ごとく せめとれくり。
12 なんぢよん せそうの ものを あり、さればと ゆー ちや あぢそひを うーあそび
ikaidéka
いろぐろ これよ ちや あぢ つけんや。 その のちん こゞ そとよ もてとれ ひとの

あーるて あまるこの やろ あゆも あるる あるる ゆ
nári
あり。 やまの うんよ たちくる まちん めくるく
りを ととゆーて これを まずの ちくよ おそうも、
ある ちべての ものを てとも あり。 16 ひとびと
てんよ まーまも あんぢよの ちくを ゆめる やう
まんよ かゞやうもよ。
17 ひれ おきて あるひん よゆんを ちくる うめよ きくれりと おゆふ あうれ、
すうるよ あとぶ そぐる ためよ さくれり。 18 ひれ まことよ なんぢよん つゆん、
てんちの つきる まぐん ちべての ことと ゆぶ
もそとぐる べー。 19 ゆあよ たれるても これとの いくうて ちらさる おきての
ひとうを やぶりて ひとゆも めくを ゆるる ものん てんの そくゆ〜おうて ゆうとる
ちらさる ものと いそる べー、されど おとるふ

yōno hikari
yogúwo sázuru
ittén ikkákumo

そこゆ〜 おりて おそひかゝる ものと いそ
あんぢよの たゞ一ヨ ことを そこやこと たゞ
Farisaibitono
うま あとゞされば なんぢら てんの そこゆ〜
21 ひとごろ〜 まべろよぎ、まこ たれゆ
aruiwa, hitōno
あやうきよ あそんと むろ〜の *ひとよ いま
Dāi 1, 8, nosezu
これ あんぢらよ つげん、たれゆそも 〔ゆる あ一よ〕 さやうごろと いきどほる
ものへ さぢきの あやうきよ あそん、まこ たれゆそも さやうごろと
いふ ものへ ひやうどやうの あやうきよ あこと
ひの あやうきよ あそん。 23 ゆゑよ あんぢ そもこ ゆものを さらざんよ ゆも さこり
そこゆそも さやうごろの あんぢよ つりて さのごふ ことを おゆひ いさきび
そもへ ものを さらざんの まんよ のこ〜 ゆきて 24 まづ さやうごろと おひ やそと
ぎて のちよ さこり あんぢの そもへ ものを さこゆよ。

25 あんぢを うつこふる ものと とゆよ そちよ をる うち そやく やそとゆよ、
おそこんん うつこふる ものの あんぢを しんぢやこよ とる〜、しんぢやく まこ
しやこよ さこ〜て あんぢら うやよ いれとる べ一。 26 これ まことよ あんぢよ
つげん、いちゆんの せよ まぢも つくもそ いらる ことを ゆを。
27 そこう まる あうれと いそれしを あんぢと きけり。 28 されど これ あんぢ
よよ つげん、たれゆそも 一きどふうを ゆふゆ一て そんゆを そるゆへ こころの
うち そや *もれと そこ〜う せ一 あり。 29 ゆ一 そぎの め あんぢを つまぐうさび
ゆヨ いざ一て これを もそよ、めとぐうう ぢどこよ あげこまる〜 より ぐるの
うちの ひとろ あろびるん あんぢよ ようとん。 30 ゆ一 そぎの て あんぢを つまぐ
うさび きり もあ一て これを もそよ、めとすぐう ぢどこよ いる より ぐるの
うちの ひとろ あろびるん あんぢよ ようとん。 31 まこ たれも その つまを いさを
ものへ めれよ さあんとやうを あこくと いそれこり。 32 されど これ あんぢよ

Dāi 1, 8, nosezu
seidanni
gotaino
utcino
motoi

つゆん、たれもそも めんじんの とけ あらぎーてその つまを いさま ものい めれよ
そうこう さする あり、めつ その ぢあんさられくる そんあを めとる ものも
そうこう する あり。
33 まるこ いうそりの ちうひを あを あうれ、たび きそよ あんぢの ちうひを とぐ
べーと むうーの ひとよ いそれーを あんぢよ きけり。34 されど これ あんぢらよ
つゆん、なゆも ちうふ あうれ、てんゆも ちうふ あうれ、これ めその くとる なり、
35 ちうも なす あめれ、これ めその あーづの あり、あるさられむゆも あす あめれ、
Yerusalemunimo
これ おそひある とうの そやこ あり。36 まるこ あんぢの めーとよ ちうふ あうれ、
Oino
kore,
これ あんぢん ひと すぢの けも ーうく あるひん くうくく なー あうそぎれべ なり。
37 たび あんぢよの ことぢを ーうり ーうり、いま いあと せよ、これ より すぎうん
あく より いづる あり。
Mano kawarino me, hano
38 めの めそりよ め、その めそりよ もと いそれーを あんぢよ きけり。39 ーめー

あげよ これ なんぢよ つゆん、あーき ものよ てきうん する なうれ。たれう
なんぢの そぎの わうを ううべ ひさりの わうを
migrino hôwo
をう うううて ーうぎを とよんとせべ うた
なんぢよ いうり ゆうを ーひあべ めれと とめ
あうくよ、めよんと する ひとを すうる なうれ。
43 とありを いうそーを まうあうさを うよむ べーと いそれーを なんぢよを せむる
44 されど これ なんぢよ つゆん、あうびとを いうそーそて なんぢよの ちうの
ものーたあよ いのれよ、45 さらべ なんぢよ てんよ まーまう なんぢよの ちうの
こどゆらと なよん。これその ちうん あーき ものと よう おのれの
hiwo noborase
ひそ のぼーせ。まうた たべーき ものと たべーうらぎる ものよ あめを ふらー たま
へべ なり。46 なんぢよ ゆー いうそーむ ものを いうそーまべ あんの むうひを
あんや。そうぎとりも めうの ごとく あうべんぢらの きやう

ろの のそよ あらさろくを あさび あんの まさろ
ごとく あさごらんや。 48 ゆあよ てんよ まーま今 あんぢらの ちくの まろくろぎび
ごとく なんぢらも まろくろる べー。

第 六 章

ひとよ そられん うめよ そのまんてまて なんぢらの *たぐーぎび ことを あさねやうよ
つくーめよ。 ゆー あさび てんよ まーま今 なんぢらの ちく よりの むくひを
あざる べー。 2 ゆあよ わとてこーを あす ときよ ひと よりわまれを あんとて くを
kwaidòuya mètcinite gizènçano
りどうや まちまて ざぜんこーやの あす ごとく なんぢらの さきよ らつをを あじす
あめれ。 これ まことよ なんぢらよ つゆん、 めれらん その むくひを あさり。
3 されど なんぢ わどてこー する ときよ その
ての あす ことを ひざりの てよ ちらする
Dái 7, "araviini"wo kuwàyeri
まふ なんぢの ち〜 なんぢよ *むくび うまそん。

5 なんぢと りのる ときぜんこーやの ごとく あす あらな。 めれらん ひとよ
そとれんが うめよ くをのどうや まちの つじよ たつて りのる ことを このむ。
これ まことよ なんぢよ つゆん、 めれらん その むくひを あさり。 6 されど
なんぢ りのる ときん おのれの へやよ りり とをとぢて めくれさるよ まーま今
なんぢの ちくよ りのれ、 さとび めくれさるよ そさまふ なんぢの ち〜 なんぢよ
むくひ たまそん。 7 まる りのる ときん りどうや ある
tagénwo
たげんを りふ なろれ。 けざー めれらん こと
おもふ あり。 8 あんぢと めれらよ あせる あんぢらの
Dái 1, 2, Tcitcinaru Kàmiwa
*ち〜〔ある かそ〕ん ねがそざる さまよ なんぢと
つまんび なり。

9 この ゆあよ めくの ごとく りのれよ、
そなを あがめさせ たまん。 10 そまりごとを のぞませ たまん。 てんよ ある

どとく そこころを ちゆも あさーめ てまへ。
あちも さうけ たまへ。 12 されとぐ おひびとを *ゆるーうる ごとく されとの
おひめを ゆるー たまへ。 13 されとも まとひよ さそそも、あーぎ より まくひ
Dái 7, 8, sámbino kotobáwo kuwáyeri.
いざー てまへ。*

14 ゆー なんぢら ひとの あやまちを ゆるさば てんよ まーます なんぢらの ちちも
なんぢらを ゆるー たまそん。 15 されど ひとの あやまちを ゆるさずんば あんぢ
よの ちちも あんぢらの あやまちを ゆるー たまそど。
16 ざんじき する ときい ぎぜんーやの ごとく tiki sugátawo うの kaowo minikuku
めれらい さんじき する ことを ひとよ あらそよ めを そゆくく する ありの れ。
されば まことよ なんぢらよ つげん、めれらい その むくひを あくり。 17 されど
さんとき する ときい めーらよ あふよを つけて めわを あらん、 18 さすれば なん
ぢの さんときい ひとよ あらそれぜーて めくれくるよ まーます なんぢの ちちよ

あらそれん、そのーて めくれくるよ ちく なんぢよ むくひ たまそん。
19 なんぢら おのれの たのよ そらに Mino tamesi ni sorani tákarawo tsumi, aruiwa mibôjin ni sonaéyo sabi kuchi sabirimo aku nuséru tokoroni tákarawo tsumu nari. 20 されど くひも さび くさりも あく
まる ぬをびとも こぶちて ぬをまざる ところの たからを つむ なり。 21 それ あんぢの たからの ある ところよ こころも まくそよ あるべーければ あり。
22 その ひとりに めあり。 Mino hikáriwa mè nari ゆー なんぢの めの
あるべー、めー ふらば めしくらぶう くらきい ひとりの くとくきい いうも
ある ひとりの くとくきい そのの くとくきい いうも ぞうりぞや。
24 たれも ふたりの あるよを つかふる こと あるそも、いつうと あれば これを
にくみて かれを いつくーと、あるひに これを おもんよて かれを めろみぢれば
Kánetskauru
あり。 なんぢよ めそと ととそよ めねうこふる こと あるそも。
25 この ゆゑよ それ あんぢよ つげん、いのちの ためよ なゆを くよひ、なゆを

Dai 1, "nomiku"wo ciruzaru

のまんや、まづ そのたのよ あゆを さんやと おもひ さげふ あつれ。 いのちに
くひものの より おゆく、そに さるもの より おをこのぞや。 26そよの とりを そよ、
makimo sezu
まきも せぞ、めりも せず、まづ そこふも たくそんぞ、それども なんぢよの
てんの ちく これを やーをひ たまふ。
ものよ あこぞや。 27なんぢよの うちたれう よく おもひ さげふて いりーやく
あても そのいのちを のぞす ことを あんや。 28まこ なんぞ さもの ことを
おゆひ さげふやも そこうのよ おもひ そよ。 それに もそく
うぞ つねげぞ、 29されど されあんぢよ つゆん、そうゆんだもの そのあこゆ
Nôno yûrino Solomon
ら さうくよ おりて この そなの ひとつ わとも よそそざりー。 30かそに けふ
arite
ありて あす めまどよ あけのれこる
nageto
まーて あんぢよ よそそぞらんや、 31ゆあよ
なゆを そらひ、なゆを のそ、なゆを きんやと いひて おもひ さげふ なつれ。
kyô

まつふの 第六章

32これよに そなの いぢふの もとめる ものの あり、あんちよの てんの ちく すべて
これよに あんぢよも いりようの ものと しり たまふ。 33まづ かその そこうると
そのの たぢーきとを もとめよ、さもれば すべて これよの ものに あんぢよ そこへ
よる べー。 34あすの ことを おもひ さげふなつれ、あすが あすの ことを わゆふ
hino tareri
べー。 そのひの あーきに そのひよ たれり。

第七章

1なんぢよ さぞふれぬ やうよ ひとを さぞく あつれ、 2なんぢよが さぞまるる
さぞきをもつて なんぢよも さぞふれん、まる なんぢよが そそるる そこうの そうりを
kyôudaino mêni
もつて なんぢよも そのりを もどさる べー。 3きやうだいの めよ あるちりを そて
おのれの めよ ある うつぞりを おざんぐさに なんぞや。 4そよ、おのれの めよ
うつぞりの あるよ いりんぢの めより ちりを とれよ そこへぜ
よといふ ことを あんや。 5さぜんーやよ、まづ おのれの めより うつぞりを とれ、

さとび なんぢ きやうだうのの めより ちりを そとんとて あきとうよ そる ことを うべし。

6 そのん ものを いぬよ あくふる あめれ、そんじものを ふくの まんよ あぐる あめれ、おそとくらい あーゆて これを みこ まくる ありうんりて あんぢとよ めそうこのん。
kámitsken

7 ねがんよ さらび あんぢとよ あくへとれん、たづねよ さとび あもん、そこたらけよ さとび あんぢとよ ひとられん、8 そこ すべて ねがふ ものの ゐ、たづぬる ものの あひ、たーく ものゐの ひとめられば なり。 9 あんぢとの うちよたれう その むまこ もとんを ねがふよ いーを あくふるや。 10 あるひと さめあを ねがふよ へびを あくふるや。 11 あんぢとの ものの あげと ことゆよ よまり ものを あくふるを そとび まーます あんぢとの ちくん ねがふ ものよ よまり ものを たまそざとんや。 12 ゆゑよ あんぢとも ひとの なんぢとよ おこあふを わうまる ことん ひとゆる めくおとあん、これ おきてと よびんーやの

ことび あり。

13 せまる ゆん よりいれよ、わろびよ いくる ゆんん ひろく、そのそちん おわひあり、そこよ いる ものおわー。 14 いのちよ いる ゆんん 〔いろゆも〕 せまく、
Dái 4, 7, ikánimo
su môno akunáçi
そのそちる ゆきぐくる めま、これよ あふ ものの すくあー。

15 ひとの まぐくゆて きられども うちひとる おわうを あるゆを よびんーやを つくーめよ。 16 あんぢと その そとを ーる べし。 いをと
mini
yóki kiwa yóki
よりて これを ーる べー。 いをと よりふどう あるひん あぐこ よりいちどくを とるや。 17 すべて よまり さん よまり
mino
そを むすぶ、あーる きん あーる そを むすぶ あり。 18 よまり さん あーる そを むすぶ ことを あるを。 19 まべて よまり そを むすぶる きん きられて ひのなかに
hino nakani
あるよ あげ いれくる。 20 ゆゑよ その そる てんの そくる〜 いとを、そら てん

21 これよ きそよ、きそとと いふ ゆのん そる てんの そくる〜 いとを、そら てん

ます。[27]イエスは彼らを見つめて言われた。「人にはそれはできないことです。しかし神にはできません。神にはどんなことでもできるのです。」[28]ペテロがイエスに言い始めた。「ご覧ください。私たちはすべてを捨ててあなたに従ってきました。」[29]イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしのため、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、[30]今の時代、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を、迫害とともに百倍受けない者はありません。来たるべき世では永遠のいのちを受けます。[31]しかし、先にいる多くの者が後になり、後にいる者が先になります。」

[32]彼らはエルサレムへ上る途上にあった。イエスは彼らの先に立って行かれた。弟子たちは驚き、ついて行く者たちは恐れた。イエスは再び十二人を呼び寄せ、ご自分に起こることを話し始められた。[33]「ご覧なさい。私たちはエルサレムへ上って行きます。人の子は祭司長たちと律法学者たちに引き渡されます。彼らは人の子に死刑を宣告し、異邦人に引き渡します。[34]異邦人は人の子をあざけり、つばをかけ、むち打ち、殺します。しかし人の子は三日目によみがえります。」

[35]ゼベダイの子ヤコブとヨハネがイエスに近づいて来て言った。「先生、私たちがお願いすることをかなえてくださいますようにお願いします。」[36]イエスは彼らに言われた。「何をしてほしいのですか。」[37]彼らは言った。「あなたの栄光の中で、一人をあなたの右に、一人を左に座らせてください。」[38]イエスは言われた。「あなたがたは自分が何を求めているのか分かっていません。わたしが飲む杯を飲むことができますか。わたしがバプテスマを受けるバプテスマを受けることができますか。」[39]彼らは言った。「できます。」イエスは言われた。「確かにあなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受けるバプテスマを受けることになります。[40]しかし、わたしの右や左に座ることは、わたしが許すことではありません。そこに座る者は、備えられた人たちです。」[41]十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで憤慨し始めた。[42]イエスは彼らを呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の支配者と見られている者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。[43]しかし、あなたがたの間ではそうではありません。あなたがたの間で偉くなりたい者は、あなたがたに仕える者になりなさい。[44]あなたがたの間で先頭に立ちたい者は、すべての人の奴隷になりなさい。[45]人の子が仕えられるためではなく、かえって仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと同じです。」

第十章

[1]イエスはそこを立ってユダヤの地域とヨルダンの川向こうに行かれた。群衆がまたイエスのところに集まって来たので、イエスはいつものように彼らに教えられた。[2]ファリサイ人たちがイエスのところに来て、イエスを試みようとして、「人が妻を離縁することは律法にかなっていますか。」と尋ねた。[3]イエスは彼らに答えて言われた。「モーセはあなたがたに何と命じましたか。」[4]彼らは言った。「モーセは離縁状を書いて離縁することを許しました。」[5]イエスは言われた。「モーセはあなたがたの心が頑なであるために、この戒めを書いたのです。[6]しかし、創造の初めに、神は彼らを男と女とに造られました。[7]『それゆえ、人は父と母を離れ、妻と結ばれ、[8]二人は一体となるべきである。』ですから、二人はもはや別々ではなく一体です。[9]神が結び合わせたものを、人は離してはなりません。」[10]家に戻ってから、弟子たちはこのことについてイエスに尋ねた。[11]イエスは彼らに言われた。「だれでも妻を離縁して別の女と結婚する者は、妻に対して姦淫を犯すのです。[12]また、妻が夫を離縁して別の男と結婚するなら、姦淫を犯すことになります。」

[13]人々がイエスに触れていただくために、子どもたちを連れて来ていた。弟子たちは彼らを叱った。[14]イエスはこれを見て憤られ、彼らに言われた。「子どもたちをわたしのところに来させなさい。妨げてはいけません。神の国はこのような者たちのものです。[15]まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」[16]イエスは子どもたちを抱き、手を置いて祝福された。

[17]イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄ってイエスの前にひざまずき、尋ねた。「良い先生、永遠のいのちを受け継ぐためには、何をしたらよいでしょうか。」[18]イエスは言われた。「なぜわたしを良いと言うのですか。神おひとりのほかに良い者はいません。[19]あなたは戒めを知っているはずです。『殺すな。姦淫するな。盗むな。偽証するな。だまし取るな。父と母を敬え。』」[20]彼は言った。「先生、私はそれらすべてを幼いときから守ってきました。」[21]イエスは彼を見つめ、愛して言われた。「あなたに欠けていることが一つあります。行って、あなたの持っているものを売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。それから、来てわたしに従いなさい。」[22]彼はこの言葉を聞いて、悲しみながら立ち去った。大きな財産を持っていたからである。

[23]イエスは見回して、弟子たちに言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことでしょう。」[24]弟子たちはイエスの言葉に驚いた。イエスは再び答えて言われた。「子どもたち、神の国に入るのは、なんと難しいことでしょう。[25]金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通るほうがやさしいのです。」[26]彼らはますます驚いて、互いに言った。「それでは、だれが救われることができるのだろう。」

7 我を 𝔐れよ、これ ゆきて いやさんと のたまひ ければ 8 ひやくゐんの 𝔐ーと こたへて いひ けるは、きたる よ、これに あるの ごげ やねの そこよ のぞこ さまたげ ふよ ことばを ゆうて 𝔐らば こげ ちをべに いやされん。 9 いうんと あれば これに けんちの そこよ つける ものの あり、また ごげ そこの ものの ありて これよ ゆけと いへば ゆき、𝔐れよ きたれと いへば きたる、ごげ そこの ぐよ これを あせと いへば なす ゆえ あり。 10 我今 これを きゝ あやーそて そこなひたる ゆのどもよ いひ けるは、まことよ あんぢ らに つけん、これに いまだ いすらえるの うちあても 𝔐ーる あらず そこ よま りー。 11 𝔐ら あんぢらよ つけん、おやらの ひとびと ひげーと あー より きたり てんの そこゆ〜 おりて あぶらはむ、いさく、やこぶと とゆよ ざせ べー、 12 されど そこゆの ことどもん そとの くらきよ あげ いひざされん、そこゆて あけき そげこ する ことある べー。 13 まこひやこゆんの 𝔐ーとよ、ゆけ、あんぢの そんの うーらる ごとく あんぢらよ あれよと のたまひ ければ そのとき より いへり。 14 我今 ぺてろの いへよ いりて その そうとめの ひーげ 15 その てよ さそり ければ ねつ さめたり。 16 ゆうめよ ありて ひとびと あくまよ とりうられくる おやらの ものを 𝔐れよ つれきたり ければ ことごとく その あくまを おひのぞー 𝔐つ やめる ものを ことごとく いやー たまふて、 17 𝔐れ そぐらと 𝔐つ これとの やまひを おふんへりと よげんーや あらやの いひー ことを そゆたり。

18 我今 おのれの まとりよ そうる おやせのを そへ とうとうと めらとたり。 19 ある そうやく きたりて いひ けるは、きーやうよ、いづくゆても あなたの ゆき たまふ ところゆらも ゆかん。 20 我今 𝔐れよ いひ けるは、きつねゆらも あるも あり、されど あんぢの むをとるの 𝔐ーよ まこら する ところも あらー。 21 まこ でーの うちの ひとり、

きそよ、これ まぐ ゆきて ちくを わうむる ことを ゆるー たまへと いひ けれど、
22 あす めれよ のくまひ けるれ、これよ そくげん、そーくる ものよ その そせー
ものを わうむとそよ。
23 ふねよ のり たまふ とき でーどもも そくり ゆけり。 24 つひよ そよ、そら
fûne nimini dowarurn
うそゆて ふね なそよ おやそる～ わどよ おそひまる あとー おこれり、これど
あをに いねくり。 25 さて でーどもも さくり めれを おこーて いひ けるん、きそよ、
すくひ たまん、これと わろびんとを。 26 あす めれよ うそを そぐめ けれど いとおそやう
horobintos
あんを おそるくやと いひーげ おきて めせと うそを そぐめ けるん、めせも うそも めれよ
よ あれり。 27 そゆよ そる ゆの あやーそて いひ けるん、めせも うそも めれよ
そくぐふん これ いくまる ひとぞや。
28 つひよ むめうの さー *がざの ちよ いくり けれど あくまよ とりつられくる
Dâi 1, Gazara; 2, 4, 8, 10, Gadara; 7, 9, Gergesa
tamaya
ものの ふくり たまや より いぞー あす よ あんくり、これよん たれも その そちを

まくくの 第八章 （三十三）

とおり あざる わどよ そをそる あとー、 29 さて そよ、めれと さけんぞ いそく、
かくの むをそよ、これとと あをくの あひざよ いくまる。 30 めれと より そるうよ そくひ
kurai
いくざるよ これとを せめんとて さくふくとも あをよ ねげくふて、ゆー これ
itara
おくるの ふくの むれ ありーげ 31 あくまよ おひのさんと ふくの むれよ いとそと いひ けるよ ゆけと のくまんくり。
32 つひよ くれと いぞー ふくの あうよ ゆきーげ そよ、まつくる むれ そけーく めけ
くざり ゲけ より そびうそよ おちて そびの おひーものとも あけて まちよ いくり その すべての ことー あくまよ とりつられくる
ものよ ありー ことを いひ ふとー けれど 34 そて そのさうひ より さる ことを ねげくり。
sâru kôtowo
とて さくり めれを そて その さうひ より さる ことを ねげくり。

第九章

あをも ふねよ のり さくりて ふるさとよ いくられり。 2 そよ、ひとびと ふとー

さる ちうき やそを つれ さくり けれど あす
ちうき やそよ のくなひ けるい、こどもよ、やをろれ、
くり。 3さて みよ、ある そよやくとも こころの
かそを のくる かな。 4あす かれこの おもひを
こころよ あーき おもひを なすや。 5なんぢの つくん ゆるされ
おきて あるけと いふ ことん いづれぐ くやきや。 6されど あんけんの むきそ
せうのよ おのて つくそを ゆるす べき けんる あるを そよとせうとて、 つのよ ちうき
やそよ、おきよ、ふとんを とりて あんぢの いへ
その ひと おきて おのれの うちよ くんり。 8ひとびと これを そて おそれ
うの くるの でとき けんるを あんけんよ たまひーかそを あがめくり。
Mattaio
9あす こく より すくそて まるくるのと いふ
mitsugiteru yakuçoni
もの〜 そつぎとる やくーよよ ぞき
るを そて 見れよ そくぐくよとの のくまひ けれど たうて そくぐくり。 10とき すぎ

て あす そのの いくるて zènni teku せんよ つく とき そよ、
きくりて あきと その でーと とゆよ せんよ つまくり。
Farisaibito
11なりさくのびと これを
そて そのの でーとゆよ いひ けるん、あんぞ あんぢとの そーやうん そつぎとりと
つそびとく とゆよ そよくをるや。 12あす これを きくて いひ けるい、まこやとの ある
ものるい いーやが içàga irazu いとぞ たぐ やめる ものよ のを。 13とれ あそれそを わうせり
まくを わうせそと そるされーん いそまるの ゆるて あをん。 とれん たぐーの
Dái 4, 7, kui aratàmeni manekàntote kitarèri
*まねく ためよ きくられり。
Dái 1, 2,
14その とき よそねの でー うれよ きくりて、 とれこと なりさのびとん 〔そそ
ciruzazu
〜ば〕 さんよの すると あんぞ あをるの でーん だんよと せぞるやと いひ けれど
konréino kyàkuwa
15あす のくまひ けるい、こんれのの きやくそ もをむこと ととよ をる あひだ
のをーむ ことを あんや。 されど そをむこと うれよ なんよの すべく、 16たれも
その ときよ うれよ なんよの すべく、 16たれも あるを そのものを あるこーのの され

あて つくとふ ものあり、さもれば たゝ
あれ あゝく ある なり。17まく ふるき
いる〳〵 ものあり。ゆゝ めく あらば うと
ろも むまゝく あとん。あくとゝきゝ ふ
べゝ、さとゞ ふるら あげと たゆら あ
18あす これとの ことを うくる ときよ ひ
れふゝて いひ けるん、ひげ むまめ いまや きゝるべゝ、たゞ きくりて うれよ
てを つけ さまん、さとゞ いくべゝ。19あす たちて そのでゝと とゆよ うれよ
ちくげひ ゆきゝゞけ 20そよ、おうよ ねん あげちを やそくる をんな うゝろよ
きくりて あるの きゆめ〳〵 すそよ さそれり、21そん ひれ たゞ そのきゆのよ
さそゞゞ いやされんと こゝろよ いひくれゞば あり。22あす ふりむき うれを そて、
むまめよ、やまうれ、あんちの ちんちう あんちを いやせりと のくまひ けれゞば

をんな そのときより いくくり。
23あす つくさの いんよ きくり ふゝそ
24ちりぞけ、むまめん ちまくるよ あとゆ
めれを あさそとくり。25つひよ めれよ
その てをとり けれゞば むまめ おきくり。
ひろまれり。
27あす こゝ より すくね ときめくとゝ ふくりの れよ ちくげひ さけんそ いひ
けるん、さびぞの ことよ、ひれとを あそふ ちんそれと ゝまん。28さて いんよ いりゝまふよ
めくゝるき さくり けれゞば あす うれゞよ いひ けるん、ひげ これを あーうること
あんちと ちんちう。めれと、ちくりきそゝとと いんり。29さて めれとの めよてを
つけて、あんちとの ちんちう ことく あれと のくまひ けれゞば その めあさくり。
30あす うれとを さびゝく いちーめて いひ けるん、つくーんそ これを

Dabidemo Koyo
kawa hariaike budōçu kobōre
imaya çiçiāru beg
hyōnban amanèku

kàri Ireni

第十章

まろりごと ちろきよ ありと りへ。8 まろ びやうるんを りやー、そくそろる ものを
りてー、くのひやう やそをきろくー、あくまを おひりそを。 まんぢよ あくひ あく
ーて うけられば ひとろも あくひ あーよ おどろでよ。 まんぢよの おびよ きん、
きん、せよ、そひふくろ、ちありまろの、ざうり まろつ ちをよう する あうれ。
10 そくそくく ものの その そくーをうべきよ よりて あり。 11 りくくるてる まちや
むとよ りとば、そくろて よき ものの たれ なるろを たびねよ、 なんぢよげ
りへ よろとば なんぢよの やをきん おのれよ りへとーしめよ。 14 たれあてる なんぢよを うけも
まろ なんぢよの ことそを きろそんば その りへ あるひん まちを さる ときよ
あーの ちりを そとへ。 15 これ まことよ なんぢよ つけん、さをきの ひよ そとら
Sodomuto Gomorano tewa
ねと でをよの ちん その まち よりも なやや やをろとん。

16 そよ、おやろその なろよ ひろとを おくる でとく これ なんぢよを つろそを。
ゆをよ へびの でとく うーくく、そとの ごとく おとをーうれ。 17 ひとびとよ きを
つけよ、かれと あんぢよを ひやうじやうよ これて ふぎやうと これの あんよ ひきのうされて
むちうくん、 18 まろ これ ことの たをよ とそ
かれとと りどんよ をやうことと あとん。 19 ひとびとを これと
まろん あうを りそんと おもひ これて ふ ありれ、りふべき ことん その とき あん
ちとよ たまそる べー。 20 りそんと あれば あんぢよ そびのとと りやよ あーぎ、あん
ちとの ちとの そくをり あんぢよよ よろこびて りへば あり。
21 きやうぎのり きやうぎのを ころそん とそ これ これ、ちとん こを これ、こび
ゆん おやよ そをき おとりて めれとを こころそーめん。 22 まろ あんぢよ これ あの
ためよ そんそんよ あくまれん、されど おのれ たへーのぶ ものん たすけられ
ん。 23 ひとびとよ あんぢよを この まちよ おひて せをるとき ありの まちよ あけよ、

これ まことよ あんちよの むまごの きるる まへよ あんぢよ
Israelno
いすらえるの まちまちを めぐり つくさど。 24 でーん その ちーやうよ、ちゆべん その
あるよの ごとく こんぐる あり。 25 でーん その ちーやうの ごとく、ちゆべん その
Belzebulato
あるよの ごとく あらび されり。 ひとびと いへの べるぜぶるど よび
されば まーて その いへの ものを や。 26 この ゆゑよ のれよを おそる〜 あつれ、
いつさんと あれば すべて おわされくる ものい あらはれん、めくれくる ものい そる
そらる べければ あり。 27 ひが そときよ おのれ あんぢよを
きよ のべよ、みくよ きく ことい いへの うへ より いひ ひろめよ。 28 めとさを
ころせども たまーひを ころす こと あるそぎる ものを おそる〜 あつれ、ぢごくよ
Niwano
おのて たまーひと めとぐるを わろがー あるそふ ものを おそれよ。 29 あそのの すごめ
ら せよ いち まつうて うとぐるや。 そこー あげと まんぢよの ちくの ゆるもよ
Itciwamo tofni otsturumeji
あとぐされば その いつちも ちよ おつるまと。 30 まんぢよの めーよの けも そる

かぞへとる〜 あり。 31 ゆゑよ おそる〜 あつれ、まんぢよ おそくの すごめ よりも
まさられり。 32 たれうそも ひとの まへよ おいて ひとを いひ あらそす ものい たれも
てんよ まーなす ひが ちくの まへよ おいて おのれを いひ あらそさん。 33 されど
ひとの まへよて ひとを そむくる ものい たれも てんよ まーます ちくの まへ
よ おいて めれを そむくさん。
34 ひとい ちよ おそやうを あるさんとて きたると おもふ なかれ、おそやうを
あるふる ために あらず めくうて やうやを あげ いれん ために きたれり。 35 ひとを
ひとと その ちくよ そむける、むすめを その はうと その はうと
とめよ そむける ために きたれり。 36 ひとの あざびとい おのれの いへの ものに
あらん。
37 ちくやそうを ひとい よりも いつくしむ ものい われに あるに ふさはし
むすめを ひとい よりも いつくしむ ものい まるに おるに ふさはし

Yohane rôuyani Kristono Dâi 7, ftà-*ヨハネ ろうやに キリストの だいしち ふたり

。まなでさ ゝてあ ゝな ゝなか ゝなか ゝなか ゝなか ゝなか

ゝなか ゝなか ゝなか

あんぢの めの まんまよ つこのそさんと そるさられしーん このものあり。11 これ まことよ あんぢとよ つげん、そんなの うそこるものーうちよ いまぐ そらめびと よそねより おそひまるものおそとーぎ、されども てんのさま ものの めれ よりも おそひ あり。12 そらはいこるまで てんの そこるん せめよをるまるこる せめよをるもの これをとる あり。

Yohaneno

13 すべての よけろーやと おきてん よそねの ときまで をーへこる あり。14 あんぢとよびて、17 これとーあるあけどもなんぢとおどとぞ、めなーめどもあんぢとあけうをと いこるよ あるり。

Yohaneva

18 よそねい きこりてくひのをせぎるよ ひとびとのれんあくまよ つこれーものと いこり。19 あんけんのむまこん きこりてくひのをするあり。

Dai, 1, 4, 6, kiku tameno; 2, 5, kōrewo nosezu

15 きくこるめの そーあるものの きけよ。

Eliya

16 これ このよをあるーたとへんや。 こどもあそびとも いちぎよ すこりそのそもさちをよびて、17 これとーあるあけどもなんぢとおどとぞ、めなーめどもあんぢとあけうをと いこるよ あるり。

Yohaneva

18 よそねい きこりてくひのをせぎるよ ひとびとのれんあくまよ つこれーものと いこり。19 あんけんのむまこん きこりてくひのをするあり。

よ、そうぎとりと つそびとの そもあるをうこるむさ分りさけを このむものを

Dai, 1, 2, wazāni; 4, 5, kōdomoni

そうと いこり。されども ちあの *こどもよ よろこて たじーと せこるーあり。

20 その そもの あす おそうこの あーぎをるまちむこの ひとびとの くひあこるめざるよ よろこて そうめ そこひ けさん、21 ひざそひあるめるBetsaidayo

Korezinyo

こーよんよ、ひざそひあるめるべつさいだよ、あんぢとよあーこるふーぎあるTauroto Qidonni

ひざをつうとそどんよあせーあとべそのたそんものをmohāya mini ōsawo ki hiiwo takete

つけてくひあこるめーものを、22 これあんぢとよ つげん、さぢまのひよつうとそどんんあんぢとよりもあそやをものこん。23 あ~ *めぢるあうむよ、あんぢんてんDāi 8, 9, ageraretāru Kapernaumuyo, nānji yōmini

よあけこれんや。よそよおこるべー。ゆーあんぢのうちよあーこるふーぎのひざをそどむのうちよあせーあとべそのまちんけふまをのこりーものを。

Sodomuno

24 これ あんぢとよ つげん、さぢまのひよそどむのちんあんぢよりもあや

35 そのとき あす かくりていひけるは、あ〜てんちの きこ あるちこよ、これとの
ことを かーこと ものと さとき ものよ めくーして をさ あごよ あとそー たまふ
ことを ちや今。 26 ちろり、ちこよ、かくの ごとまん そごころろよ かあんくる あり。
27 あとゆる ものは ヨゲ ちー より ヨれよ あげけとれくり。 ちこの ちのよ たれも
むをこを そる ものあー、まるむをこと むをこゲ そとせくる ものー ちのよ ちこを
そる ものあー。
28 すべて つとのれくる ものと おゆきを おくゆくる ものよ ヨれよ きこれ、ヨれ あん
ちとを やをちせん。 29 ヨゲ くびきを おくて ヨれより まあべ、ヨれに ふうをるーて
こころ へりくぐる ものあり、さをれば あんぢとの こころよ やをきを うべー。
30 それ ヨゲ くびきは やをく、ヨゲ あに かろけれべ あり。

第十二章

そのとき あす やをそびよ むぎをさけを とおりーよ でーどもう 弟子 けれべ ちを

Gyo kareba hōwo

つそて くとめ そとめり。 2 Farisaibito ヨりさうびと これを そて かれよ いひけるは、そよ、
ああくの でーに やをそびよ あす べろとぐる ことを あを。 3 あす かれとよ のくる
なひ けるに、だびで Dabide おとび かれと とあに
かれの あをー こと 4 すあをちだびで Dabide かそのに
もとあよ をりー ものあ くとよ べとのとぐる そあんの あちを そうとーる ことを
あんぢとよ ふあぐりーや。 5 まく や今そびよ かんぬーに みやとて やをそびを
けゲをどあ つこ あーと おきてよ ちうさうれーを よあぐりーろ。 6 されど ヨれ
あんぢとよ つけん、ここよ みや より おあひあるに ものあり。 7 ヨれ あそれそを
ちうせり あをちうをを あんぢとよ この いそを そりー あとべ つこ あを ひとを
つそをぐる ものを。 8 それ、あんけろの むをこん やをそびの あるとあり。
9 あすそこを さりて くるのどうよ いりーよ 10 そよ、かて かれくる ものあり
けれべ ひとびとと あすを うつるくんとて、やすそびよ いや今、ことん あすべきやと

めれよ たびねり。11 あす のくまひ けるん、あんぢよの うちよ たれら いつひきの
ひつとを もつ もの ありて その ひつとや すてびよ あるよ おち いとび これを とり
あげざとんや。12 まんけるん ひつとより まさる こと いくぞくぞや。ゆゑよ や す
そびよ よき ことを あさい よー。13 つひよ その ひとよ のくまひ けるい、てを
のをせ、めれ のをーけれび あつの てのごとく まつくるく いえるり。14 Farisaibito
びと いでー いうまーて あをを あつがさんや あひ そのれり。15 あを これを
さとりて そこを ありぞきーよ おゐをのの ひとびと めれよ そうびひ けれび めれ
とをことごとくいやーたまくり。16 めつ おのれを ひとよ あとをる あられとめの
とうり。17 Kōre, yogenga Yessyano これ よげんをや あさやの ことをぜよ、
そち ひげ こころの よろこべる ところの こと
めれよ ひげ いつくーむ ものを みよ、これ
ひも せず、さけびも せず、まさ たれも ちまくさよ おのて その こをを きくまと、

20 かれん さをきを かち とけさをる まを さぶらぶるまつるよーも をーと、 Kizutakitāru yōçimo órají, kemūreru sāmo,
arutwa, tōçimmo keshji. * けめれる
あさも けさど、21 いとんも その あよ よろて
22 その とき あくまよ とりうられる めくら
りけれび、めくふの おふーを ものひ かつ そゆる やうよ いやー たまくり。
23 おをせのの ものを おどろきて いひける Dabidemo kōni
Farisaibito
24 されど ぱりさいびと これを きーて いひ
Belzebuluni
べるぜぶるよ・よとぞんび あくまを おひのぞ
さりて かれーよ いひ けるん、すべて そよ
わろびよ いくとん、まさ まち あるひに いくも そびめと あひ あとそみて ここのれ
多び これも たつ べめとぞ。26 もー Satan さるん さるんを おひのさらば これ そびうと
あひ あとそみて ここのるー あり、さとび その くよ いのでを たまくるや。27 もー これ
Belzebuluni
べるぜぶるよ よりて あくまを おひのさらば あんぢよの ことゆゐ たれよ よりて

あくまを おひいだせや。この ゆゑよ われら
28 さればとて これ もー かその そらまよ よりて あくまを おひいだすべ かその まつり
ごとに もとや あんぢらよ のぞめり。29 あるひと たれも つよき ひとの いへよ
りて まづ つよき ひとを そなござれば いかで その もの を うばふ ことを あたん。
そなりて のちよ その いへを うばふ ことを あたん。
30 これと ともあらざる ものに われよ そむき、これと ともよ あつめざる ものに
ちらを あり。31 この ゆゑよ これ あんぢらよ つげん、すべて あんけんの つみと
かそを けがす ことに ゆるされん、されど そらまよ そむきて いふ ものに ゆるさ
らる べうとぶ。32 たれもて も まんけんの むまそよ そむきて いふ ものに この よよ おひても そらまの
れん、されど そらまよ そむきて いふ ものに この よよ おひても そらまの
よよ おひても ゆるさる べうとぶ。
33 きを よーと そのそも よーと せよ、あるひと きを あらー とー そのそも

あらーと せよ、いつくんと あれば きに そうらるれば あり。34 まむーの
ものそんよ、あんぢらに あーき ものよーて いうを よるや。
こころよ そつる よりも くちゆて いふ ものの あり。35 よき ひとに よき
より よき ものを いさす、あーき ひとに あーき ものを
いさす。36 これ あんぢらよ つげん、さぢきの ひよ ひとに その すべて いふ
ところの いつぐよ あること ことぞよ つつて こころくを あす べー。37 そに、あんぢらの
ことぞよ よりて さぐーきと せとられん、まらに あんぢらの ことぞよ よりて つき
せとられべ あり。

Fariseibito

38 その そき ある ちよやくと なりさの びとも あまよ こころくて いひ けるに、ちーや
うや、これよ あるく よりも そるーを そんに ことを あらす、39 あす これよ こころん
けるに、あーき まるく かんのん する よに、ゆとむ、されど よけんーや
Yonano mikka Sore, Yonano mikka
よるの そるーの ちつよ そるーに あるべぐーん。40 それ、よるの そらに そよ

miyo uwóno hanano nakáni
うをの そとの あらよ あり〳〵 でとく まんけんの むをそも そらう そよ ちの あめよ
Niniheno
ある べし。41 まろべの ひとびと この よと そも さらめん、かれ〳〵ん よあの せつもつみよ よろ
Yonano Solomon Solomonno
こころよ よる よりも まさる ゆの あり。42 そあその まよそう この よと とゆよ
さむきよ たらて これを つそよ さざめん、かれい そろゆんの ちあを きりんとて
ちの そて よりきられり、かう そよ、ここよ そろゆんより まさる ゆの あり。
43 あけうの あるは ひと よりいでる ところを とりて やをきを ゆとゆれとも あぞ。44 つのよ そびろよ
どんと、さて かへりーげ その あけそあー、そうびきるるを そけれび
45 ゆきて おのれ よりも あや あーき あるうの あるきを とゆひ そあ うろよ いりて
そこよ もまろみ、その ひとの おそりの ありさるん そどめ よりゆ あろー。この

46 あや おそせつよ かべる うちよ そよ、その もこと きやうざらい そとよ
たちて かれよ かべとんと わつす。47 ある ひと かれよ そよ、あるべの もこと
きやうざの そとよ たちて あるよ かべとんと わつす。48 あをそ その つけべる
ものよ こべんけるん、わが そこん たれぞや。 ひげ きやうざらい たれぞや。
49 つのよ てをでーの そうよのをーてのべまひ けるん、ひげ そこと きやうざらの
そよ、50 たれあても てんよ まーます ひげ ちこの むねを あす ゆのい ひげ
きやうざの あり、そあの あり、そ〳〵あり。

第十三章

そのひよ あす いへ よりいでて そびうそあの わとりよ ざー たまへり。2 おそせ
のの ひとびと あつまりけれび かれ あねよ のりて まをりーげ ひとびとい そな
そまべよ たちて をれり。3 さて あす たとへを ゆつて さまざまの ことを かべ
りていひけるん、そよ、たねまきげ まくに ためよ いでたり。4 まく ときよ ある

たねん そちぞくよ おちーグ とりきくりて これを つくぞめり、5 あるたねん つちまくるき いるぢちよ おちーグ つち ふくくとぐるよ よつて たぐちよ ゆえいぐくり、6 されど ひの のぢる とき やうれて ね なき ゆるよ かれくり。7 わうの たねん いるとの なうよ おちーグ いるとぐ そぐちて これを あさけり。8 わうの たねん よるき ちよ おちーグ ひやく ぞの、あるひん さんぎう ろくるうなの、あるひん さんぎう ちのの そをむすべり。9〔Dāi 4, 5, 6, Kiku tameno; 1, 2, nosezu きくくるめの〕そくくある ものん きけよ。

10 でーくち るをよ きくりて いひ けるん、とよ めくりたなふら。11 くくんてのさまひ けるん、なよ ゆるよ たとんをもつて ひとびおくぎそ そとんを たまもる、そうーうれとるん そとんを たまもとぞ、12 たれゆてるゆそる ものよん あくんくれてあまりあるべーー、それどゆくぞるものん そのゆてるものん そるゆ とくるべーー。13 うれとん それどもきくんぞ、まくさとくぞる ゆるよ ぶれたとんをゆるつてのれとよ うくる。14 をさゆのよけんよ、

なんぢときく ことん きけども さとらを、そる ことん それども そんぞ、15 それ、このたそのこころん ゆふく あり、そくん きくよ とるく、うつめを とぢくり、そのとぢれば うれとそのめもて そ、そくろまて きく、こくろまて さとりあとるめて ぶれ うれとをいやす。ゆのをと いひーー ことよ うあんり。16 そうーー なぐとなんぢとのめん そるよ よつて さのそひなり、なんぢとのそくん きくよ よつて さのそひなり。17 ぶれ まことよ なんぢとたぐーき ひとん なんぢとぐ そる ところをそんと わつせーうどゆ そぐりーー、なんぢとぐ きく ところをきうんと わつせーうどゆ きうぐりーー。

18 ゆるよ たねまきの たとんをきけ。19 たれう そくうの ことぞをきくて さとらぐる ときん あくま きくりて そのこころよ まつれくる ゆのを うぢひ とる、そちをるよ まきくる ゆのん これなり。20 まく いるぢよ まつれくる ゆのん ことぞをきく をぐ、21 されど おのれの うちよ

ねなきよ よろて たび ちぢこく たゆるのと、ことぞの ためよ くるーくや せめの
おとる こと あとぞ すぐよ うろくゆる ものの なり。[22]まく いぞこの なろよ まろれ
くる ものの、これ こととぞを きけとも この ものの きびろひと ところの まよひげ
こととぞを あさぎて そのとぐる ものの なり。[23]よき ちよ まろれくる ものの ことぞを
きくて さとり そのりて あるひの ひやくぞの、あるひの ろくとうぞの、あるひの
さんとうぞのを ふようぐる ものの なり。

[24]ふす まくろのの たとくを かれこーてめーての くまひけるん [25]てんの みくるん
よき たねを はくけよ まく ひとよ ふくり。ひとびとの いねくる うちよ その あさ
きくり むぎの あとの ひふを まきて されり。[26]あへ ゆえ いぞーく そのりくる ときに
ひふも あとぞれくり。[27]さて あるとの ふものぐる いひ けるん ものとくる
そるけよ よき たねを まこのぐりーんの。ふのぐりーんの。[28]あるとー かれこよ いひ けるん あさひと これを あぜりと。ちゆぐ いひ けるよ

さとーび これとー ゆきて これを ぬき あろもる ことを わろもるやと。[29]あるとー いひ
けるん いる おそこーくん あるちとー ひふを ぬく ときよ むぎも そゆよ ぬこのん。
[30]ふくろ あぐとー ゆり いれ まで そさて おくべーー。ゆり いれの そき これ ゆる
ひとよ まづ ひふを あろめて やく やうよ たぞよ あーー むぎを ころ くこよ
おさめふと いそん。

[31]まく あこの たとくを ふめーて のくまひ けるん てんの そくるん ひと めーー
さねを とりて そさけよ まきくる ひとろぶ ごとーー。[32]これ よろづの たねの
うちもて ちひさき ものと いんども そぞちくる ときに やさい より おろひゆり
めろ そよの とりきくりて その あぐよ やどる。

[33]まく たとくを ゆろて めくり けるん てんの そくるん をんな のうよを とりて
さんとの この あこのよ そる ふくるーー まで めくーーくるぐ ごとーー。

[34]ふす たとくを ゆろて まんて これとの ことを おろせのよ めくり たまくり。

たとへよ あとぢされば あるも めぐりよぶり〜。35これ よゆるーやよ ようて いそれー
ことぞよ これ くちを ひとき たとへを もうて せごうの そよめ より めぐれる
ことを いひ あとぢさんと いひーよ めぐまくり。

36つうよ あす おわせらを めぐーて いんよ いり ければ その でー めれよ きる
りて そるけの ひあの ととへを とき さまぐへて のるまひ
けるん よき さねを まく ものん あんけんの むをこ あり、37あす こるくて のるまひ
あり、よき さねん そくまの ことゆと あり、ひあん あくまの ことゆと あり、
39これを まく あぐん ぎんまの あり。めり いれん せごうの おそり あり。めり
ものん てんの つこのひるち あり。40ゆあよ ひあの あつめて ひよ やごる〜 ごとく
せごうの おそりも かく ある べー。41あぐ ぎんけんの むをこ つこのひるちを おるりて
その そくまの うち より すべての つまぐのまる ものと つそを おごのを ものとを
あつめて 42かなどの ひの あごのよ あけこむ べー。そこうて めあをこ そぐこ をる

ことあとん。43その ととの さぐーの ものん ちくの そくる〜 おりて ひの gotōku
めぐやこのん。〔ぎく さめの Dāi 1, 2, nosezu〕そ〜 ある ものん きけよ。

44てんの そくるん そうけよ かくれる たごこの ごとー。ひと そのさぐべ
これを めぐー ようこびよ。ようて ゆき おのれの ゆちくる ものを そあ うりて
その そうけを めく あり。

45まく てんの そくるん よき そんどの ものを あきうどの ごとー。46あくひ
たごの ひとつの そんとものを そうさぐべ ゆきて その ものちくる ものを そあ うりて
これを めくり。

47まく てんの そくるん うそよ もりて さまざまの ものを あつめくる あその
ごとー。48そちくる をきん これを もまぐべよ ひきあげ をそりて よき ものを
うちそよ いれ あーき ものを もそそり。49せごうの おそりも めくの ごとく ある
べー。てんの つうひるち いぐ〜 そぐーる ものー うちより あーき ものを とり

ことある べー。

Dāi 4, 7, 8, Yesu kareràni ii kérawa,
51 あんぢら すべて これらの ことを さとりしや。 Dāi 1, 3, 5, noèzu 〔さそよ〕 ちうりと
いへり。 52 あす まこの のうまひ けるん、ゆゑよ てんの そこゐの ことを まなびうる
すべての ものやうに おのれの くち より あたらしき ものと ふるき ものを いづす
いんの あるよの ごとし。

53 つひよ あす これらの たとへを いひおはりて そこを さりうつり。 54 おのれの
ふるさとよ いうり くるひうまて をうへーが ひとびと おどろきて いひ けるん、
このひとよ あるこの ちゑと ふしぎ あるよ どぐん いづく より ぞや、 55 これい
さひうつの むすこそよ あらずや。 そのもうぢの
やこび、よをふ、ちゆん、ゆぢよ あじ
そよぢや。 そうぐんば このひとよ あるよ すべて これらの ことん いづく よりぞやと。

うく かれよ それ ければ ある すの うまひ けるん、 よけんちやん その ふるさとに
その いんの おうよ うちとおれぐる こと
ある すべて そこよ おおうくの ふしぎある どぐを あし そまをぢり。

第十四章

Herode
そのころよ うまの きこ へろで ある すの ひやうぢんを きうて その けらいどもよ
Yohane
いひ けるん、 2 これん ちうめびと よをね あり。 おれ ちより よをがへれり、
ゆゑよ いきおひ おれよ よりて そこよ
Filippono Herodiano Herode Yohanewa
ひりぽの つま へろでやの ために よて へろで その きやうぢの
Herode
いれうり。 4 そん、よをね おれよ、ある こと
Herode
ひし けるん、 5 さて へろで おれを ころさんと おもさんとも おおせ
のを おそれうり、 ひとびと おれを よけんちやと おゆへば
Herodiano
ありて へろでやの むすめ ひとびとの まへよ

おどりて Herodewo へろでを たのもませ ければ、
かれよ あるくんと ちちひを もつて やくそくせり。 8 むすめ そのははに Qidzumebito 促妻 Yohanemo 約翰 kubiwo 首 をぐめびと よはねの くびを ぎんよ のせて ここよ これよ たまそれと
いくり。 9 さう これを うれふ されど ちちひの ため かつ ともよ せんよ つきふる
もの〜 ため これを あるゆる ことを めいませり。 10 つひよ ひとを つうそー らう
やよ おいて よはねの くびを きりせり。 11 その くびを ぎんよ のせて むすめよ
あるくん ければ むすめに これを ももよ あるくり。 12 よはねの Yohanemo 約翰 でーどもも きたり
その きりぢねを とりて これを おうむりる、つひよ ゆきて まりよ つげり。
13 まり これを きゝて ひそうよ ふねよ のり そこを さりて さむーき ところよ
ゆき たまくり。 おおぜいの ひとびと これを きゝて まち むら より かちうて
かれよ ちくぐんり。 14 まり いづる とき おおくの ひとびとを そ あをれそよ かん
よて そのや める ものを いやー たまくり。

15 ゆふぐれよ ありて でーどもも まりよ きたりて いひ けるん、 ここん さむーき
ところ あり、 ときも そや すぎたり、 ゆえに ひとびとを おおぜいの ひとびと むら よ ゆきて
おのの ものを かふくもうを めふ やうよ めれら おくり たまん。 16 まり のたまひ
けるん、 めれら ゆくよ おまをぜ、 あんちよ めれらを あるくんよ。
17 でーどもち ここん けるん、 これら ここよ たび いつくの ものと おびの さうまを
もてり。 18 まり いひ けるん、 それを ここよ これよ もちきされと。 19 つひよ くさの
うんよ すわる やうよ おおぜいの よ めいじて いつくの ものと おびの さうまを
とりて てんを あふぎ ちやーて ものんを ささり これを でーよ あたふ、 でーん ひとびと
とよ あるくり。 20 めれら そま ちふくーて おうまの ぎるを そそもり。 21 ちふくーる
おふそ ぐせん ありー。

22 つひよ まり そうら、 おおぜいの を めくせ そのうちよ その でーどもを ちひて ふねよ

のせ めら おのれより さきよ むらふの きーよ ゆらーめり。 23 かく ひとびとを
めんーてのちいのるこめよ ひとり やまうよ のがれり。ゆふろこ こご ひとり めー
こよ ねこまひーげ 24 ふね そらうその あろよ ありて あそよ たごふそされこり、
sowa, kaze そい めせ さろふんべ あり。 25 よの あーろ ごろよ あす そらうそを あるこ めれふよ
きこりーげ 26 でーとも めれの そらうそを あるこそて あやーこ、これ ゆうれの
ありと いふて おそれ さけびこり。 27 そらごろよ あす めれふよ うろりて いひ ける
ゆうんとて そらの うんを あるけり。 30 されど めせの そけーきを そて おそれ
めら おがれんと そこれば さけびて いひ ける、 きそよ、たすけ こまん。 31 たご
ちよ あす てを のせー れを つろまんて いひ ける、あー そんとのう うを こ

ものよ、あんぞ うこごひーや。 32 つひよ めれふよ あねよ のりーとの めせ やそこり。
33 さて ふねよ ある ものども 〔こころり〕 めれを ねごそて あるこん まことよ かその
むすこ ありと いんこり。
34 めれふ こころりて けねされの ところよ いこれり。 35 その ところの ひとびと
あすを そりて まそりの こあぞうよ ふれを だーけれべ やある ものを こととく
つれ さこりて 36 たご めれの きゆの〜 すそよ さそる ことを ねごひーげ さそ
りーだけの ものに そる いえこり。

第十五章

Farisaibitoto
そのところ そりさらびとー そこあやこともあるされむ より あすよ さこりて いひ
ける、 2 あるこの でーとゆん こどんの いひつるんを おろーて そろるこそる そこ
てを あーそぞるん あんぞや。 3 あす こそ いひつるんよ よろて めその おきてを おろそい
あんぞや。 4 めその めらとての のこまひ

けるよ、ちゝそをうやまへ、まゝちゝあるひいそをのゝしる ものゝ
めよゝ ゑす べゝと。 5 されど あんぢらの いへるよ、もし たれゝ そのちゝ
あるひいそゝよ あるゝても これより あるゝよ ようさうる ものゝ そのへ ものゝ
ありといそゞ 6 そのものゝちゝ〔あるひいそゝ〕をうやまふよおよぶぎと。めゝの
ごとく あんぢらゝいひつゝんよ ようて めゝそのおきてをむあしくせり。 7 ぎせん
Yesayawa
ゑやよ、えさやゝ よく あんぢらの ことを よげんして いひけるよ、 8 このたゝい
くち さきゝて これを たうとめども そのこゝろ これより とをし。 9 そうゝ
あゞよ めれゝ ひとの いまゝめ をしへを をゝんて いつゞよ これを
あげむと。
10 つひよ おろぜのを よびて のゝまひ けるゝ、きゝて さとれ。 11 くちよ いる
ものゝ ひとを けがさぎ、たゞ くち より いづる ものゝ これ ひとを けがす
ものゝ あり。

12 ゝゝよ おりて でゞとも ゑすよ きゝりて いひ けるゝ、なりさうびとの この
ことぶを きゝて それる ことを ありさまふろ。 13 こゝんて のゝまひ けるゝ、
てんよ いまゝ たゞ ちゝの う ゑ たまそぎる うゑきゝ そゝゑ ぬゝる ゝ あり。
14 すてゑけ、めれゝゝめゝゝをてびき する めゝゝゝあり。めゝゝゞめゝゝをてびき
せば ふたりとも そぞよ おちいゝん。
15 ぺてろ こゝんて いひ けるゝ、これゝゝ
いひけるゝ、あんぢゝも いまゞ さとぶぎる
そゝを とゝりて かそやよ おろる ことを
ものゝ こゝろ より いづ ひとを けがす
おもひ、ひとごろし、そうゝう、めんゐん、ぬすと、いつそりの ゑようこと、けがす
ことゝゝ そゑ こゝろより いづれゞあり、 20 これゝゝ ひとを けがす ものゝあり、されど
あゝそぎる てを もうて そゝよ ことゝゝ ひとを けがさぎ。

Pharisaibitono
Petero
Yesayawa
nozezu
uye
sōretaru

Tsuroto Sidonno
21 あす そこを さりて つろと そどんの わとりよ いくりーゲ、
Dalbideno
22 そよ、めあの をんなそのともより いでく さけびいひけるに、あ〳〵きよ、たびびでの こよ、これをあそれをたまへ、とち むすめ きびーく あくまよ とりくられくりと。
23 あす いちごんも こたへざりーしかば でーどもも ちかよりねがふて いひけるに、このをんなをめんくーたまへ。
24 こたへて のたまひしは あとより さけぶ ゆあよ これを
Israelunno
けるに、これん いすらえるの いへの ためのわれのみいつかもされず。
25 をんなも ちかよりひれふしていひけるに、きよ、これをたすけたまへ。
26 あす こたへて、こどもの あくまよ ちかよりあけるに よろしくぶとといひされば
27 をんなも いひけるに、そりあがくーいぬもそのあるよの せん よりおつる くらをくふ あり。
28 あす こたへて、そんあよ、あんぢのおんなうおそひ あり、あんぢのねがふければ、むすめ そのときよりいえくり。

Galilaino
29 あす そこを たちてがりよいくりの そばのぞりて
Dái 1, telmba, mèknra, katawa, soci:
かくを、まく もろもろの やめる ものをつれきたりて
Katawano iye,
かれよを いやーしまへり。
Israelunno
31 さて ひとびと そして これを あやーしかつ いすらえるの
ちんぢの あるさ、めくよの そのゆるを そのかえを ほめたゝり。
32 あす でーどもをよびて いひけるに、これこのおわせのをあそれむ、いつうんとあれば、かれよ すでよ そうくの あひだ これと ともよ をりて あるも のの あきよ よつて あり、おそくくい かれよ そちうて あやまん、ゆあよ これをうやーして かへすことを わうせず。
33 でーどもかれよ いひけるに、これのよ ありてこのおわくの ひとびとよあらをる わどの むそんを いうくよりあんや。
34 あす かれよ、いくつの むそんあるやと いひければ あくつと さりくの ちのさ

さらあ ありとりへり。35 つひよ ちよ すそれと おわせりよめりど 36 あ〜ふりの そんと
さうあを とりて わそよ そやー ごりて これを でーよ あるふ、でーん ひとびとよ
あるへり。37 かれど そあ そ〜めて あきうり、かふの のごりるる くらを ひ〜めて
あふりの ざるよ そてり。38 くとひー ものん をんあと ことものの わうよ そをん おん
ありー。39 つひよ あす おわせりを かん〜 ふねよ のりて まぐるの わとりよ
Magdalano
いるれり。

第十六章

Farisaibitoto Sadokaibito
むりさらのびと〜 さどうらのびと きうり あすを
Dāi 1, 2, korewo çiruzazu
あ〜もをふと ねぐへり。2 こうへて のうをひ けるん、〔ひ こる〜 とまん、そ〜
あうき ゆあよ よあ てうき あ〜んと あんぢ〜 そ〜 あうく
〜て こりうる ゆあよ けへん あ〜 あ〜んと いふ。 あんぢ〜ん そ〜の おゆ
そを ひまあゆる ことを ありて ときの そるー〜を ひまあゆる ことと あるそざるう。〕

4 あーす まる そうこう する よん そるー〜を ゆとね、されど *よあの そるー〜の
Dāi 4, yogénça Yonano
あうよ そるー〜ん あるへてれど。 つひよ かれと〜を そあれて さり たまへり。
5 むりふの きーよ ひるる とき でーどゆ
Farisaito Sadokaino
6 あす かれと〜よ いひ けるん、 つ〜〜んを ゆ ぢんを たづさゆるを ひまれうり。
どーよ きを つけよ。7 でーどゆ たがひよ ろんじて、これ われと〜が ぢんを たづさ
へんぢり〜 ゆえ ありと いへり。8 あす これを ありて いひ けるん、 ちんふう
うをす ものよ、あんぞ ぢんを たづさへんぢるや。 9 いまだ
さとと〜ざるう、 ぢんふるるよ いへ〜の ぢんを あるへんて いへく ざる ひろひー や、
10 まて ちんふゆんよ あふうの ぢんを あるへんて いへく ざる ひろひー や おがへざるう。
Farisaibitoto Sadokaibitono
11 これん ぢんの ことを あんぢ〜よ めることざりー をさとと〜ざるん あんぞや。たづ
Dāi 1, Farisaibitoto Sadokaibitono kōjuiwo
さりさらのびと〜 さどうらのびとの おうと〜を つ〜〜ーめよ。12 こころよ おりて でーどゆ
*ぢんの おうと〜を つ〜〜ーめよ あと〜ぶ、 むりさらのびと〜 さどうらのびとの をーへを

つくーめよと いそれーを さとれり。
Kaisaria Filipino
13 あす めのさりや ぴりぴの わとりよ いの
ひとびとい あんけんの むすこを たれとい
Eliya, Yohane Yeremia
そらめびと よそね ありと、ある ひとん えりや、ある ひとん あるひい
よけんーやの ひとり ありと いふ。15 あす いひ けるん、あんぢよん これを たれと
Kristo Cimon Petero
いふや。16 そゆん ぺそろ こたえて、あるうん いける めその むすこ さを すとと ありと
Yonano musako Cimonyo,
いんり。17 あす めれよ のこまひ けるん、よその むすこ そゆんよ、あんぢい さの
そひ あり、これを あんぢよ そめす ものの けつまくの ひとよ あらず、てんよ まー
Peteronо Imiwa, iwa
あす ひげ ちく あり。18 これ まく あんぢよ *ぺそろ あり、これ
このいその うくよ ひげ きやうくをの
たてん、よその ゆんん これよ めつ べう
いんり。19 これ あんぢよ てんの そくの
のぎを あるくん、あゆとても あんぢげ
ちよ おのて むすぶ ことん てんよ おのても むすぶれん、まく ちよ おのて とく

ことん てんよ おのても とうる べー。20
Dái 4, 7, náru Yesuto
*ありと ひとよ つぐる ありれと めのど
Dái 1, 2, Yesu Kristo
21 この ときより *あす でーとゆよ、これ
りと おゆる めんゆーと そうやくとも よ
れて そうくめよ よそぐくる ことを あぐ
よ つれて いさめ めくりて いひ けるん、
ある べうよそ、23 あす ありむきて ぺそろ
Petero Petéroni
のけ、あんぢん これよ つまづく もの
して たぐ ひとの ことの のそ おゆふ。
24 この とき あす でーとゆよ いひ けるひ
もの あらば おのれを そて その おうどう
も その いのちを たすけんと わらする
Gémpónni, Satanyo,
ゆんい これを うーるそん、されど ひげ

まるこ傳 第十七章 ㊀㊁㊂

Petero
ペテロ をつれ 給ふ に 因て、彼等、自己 ヘ 來 給ふ 事 を
Mouseno
モーセ 及び エリヤ 共に 彼と 語り 給ふ を 見たり。
Eliyano Dái ō, wárera
*時に ペテロ 言ふ に 曰く、師よ 我等 此に
kumō ōoyeri
居る は 善し。 汝 願はくは 我 三の 幕屋 を 作らん、
Mouseno
一 は 汝の 爲に、一 は モーセ の 爲に、一 は エリヤ の
Eliyawa
爲に。 10 ペテロ の 尚 言ふ 未だ 終らざる に、光 明なる
雲 彼等 を 蔽ふ、而 雲 中 より 聲 出 曰く、此 我 愛子、
我 悅ぶ 所 なり、汝等 之 に 聽け。 11 弟子 等 之 を 聞き、
俯伏して 甚く 懼れ 居たり。 12 イエス 近 來 て 彼等 に
觸れ 曰く、起 懼るる 勿れ。 13 彼等 目 を 擧げ 見る に、
唯 イエス のみ 有て 人 無し。 14 山 より 下る 時、イエス
彼等 に 命じ 曰く、人の 子 死 者 の 中 より 甦る に 至る
迄 は、汝等 見 所 を 人 に 語る 勿れ。 15 弟子 等 イエス に
問ひ 曰く、然 ば 學者 等 エリヤ 先 來 べき 事 を 言ふ は
何 故 ぞ。 16 答 曰く、エリヤ 誠 に 先 來 て 萬 事 を 復 興
さん。 17 然 ど 我 汝等 に 告ぐ、エリヤ 既 に 來 れり、
然 ど 人 彼 を 知 ず、彼 に 爲 欲 所 を 爲 たり、斯 人の
子 も 亦 彼等 に 由 て 苦 を 受 べし。 18 時に 弟子 等 彼 バプテスマ
の ヨハネ を 指 て 己 に 語 し 事 を 悟 れり。 19 群衆 の
許 に 來 る に 及 て、一 人 イエス に 來 り 膝 を 屈 め 曰く、
20 主 我 子 を 憐 み 給 へ、彼 癲 癇 を 病 み て 甚 く 苦 む、
屢 火 に 陷 り、屢 水 に 陷 る。 21 我 之 を 汝 の 弟子 等 に
連 來 れ ど、彼等 之 を 治 す 能 ず。 22 イエス 答 曰く、
嗚 呼 不 信 仰 の 邪 曲 の 代 よ、我 何 時 迄 汝等 と 偕 に
居 ん、何 時 迄 汝等 を 忍 ん、彼 を 我 に 連 來 れ。 23 イエス
彼 を 叱 り 給 ふ に、鬼 彼 を 出 ぬ、而 子 即 時 に 癒 ぬ。
24 イエス 及 弟子 等 カペナウム に 至 る に、二 銀 錢 を
收 る 者 ペテロ に 來 り 曰く、汝 師 二 銀 錢 を 納 ざる
か。 25 曰く、納 む。 而 家 に 入 る に、イエス 先 言 て
曰く、シモン 汝 何 如 に 思 ふ、地 の 王 等 誰 より 稅
關 或 は 貢 を 收 る、己 が 子 よ り か 又 は 他 人 よ り か。
26 ペテロ 曰く、他 人 よ り 也。 イエス 曰く、然 ば 子 は
免 る 也。 27 然 ど 我 等 を 躓 か せ ざ る 爲 に、海 に 往 て
釣 を 垂 れ、先 上 る 魚 を 取 て、其 口 を 開 け ば 銀 錢
一 を 得 ん、之 を 取 て 我 と 汝 の 爲 に 與 へ よ。

第十七章

Yesu Peteroto Yakobuto Yohanewo
1 イエス 六 日 を 經 て ペテロ と ヤコブ と 其 弟 ヨハネ を
Mouseto Eliyaga
伴 ひ、之 を 高 山 に 携 へ 登 り 給 ふ。 2 而 彼等 の 前 に
hìno gotòku
變 貌 し 給 ひ、其 顏 日 の 如 く 輝 き、其 衣 光 の 如 く
白 く 成 ぬ。 3 茲 に 於 て モーセ と エリヤ 彼等 に 現 れ、
イエス と 語 合 ふ を 見 たり。 4 ペテロ 乃 イエス に 言
ふ に 曰く、主 我等 此 に 居 る は 善 し、汝 願 は く は
我 三 の 幕 屋 を 作 ん、一 は 汝 の 爲 に、一 は モーセ の
爲 に、一 は エリヤ の 爲 に。 5 ペテロ の 尚 言 ふ 未 だ
終 ら ざ る に、光 明 な る 雲 彼等 を 蔽 ふ、而 雲 中 よ り
聲 出 曰く、此 我 愛 子、我 悅 ぶ 所 な り、汝等 之 に
聽 け。 6 弟子 等 之 を 聞 き、俯 伏 し て 甚 く 懼 れ 居 た
り。 7 イエス 近 來 て 彼等 に 觸 れ 曰く、起 懼 る る 勿
れ。 8 彼等 目 を 擧 げ 見 る に、唯 イエス の み 有 て 人
無 し。 9 山 よ り 下 る 時、イエス 彼等 に 命 じ 曰く、人
の 子 死 者 の 中 よ り 甦 る に 至 る 迄 は、汝等 見 所 を
人 に 語 る 勿 れ。 10 弟子 等 イエス に 問 ひ 曰く、然 ば
學者 等 エリヤ 先 來 べ き 事 を 言 ふ は 何 故 ぞ。 11 答
曰く、エリヤ 誠 に 先 來 て 萬 事 を 復 興 さ ん。 12 然 ど
我 汝等 に 告 ぐ、エリヤ 既 に 來 れ り、然 ど 人 彼 を
知 ず、彼 に 爲 欲 所 を 爲 た り、斯 人 の 子 も 亦 彼等
に 由 て 苦 を 受 べ し。 13 時 に 弟子 等 彼 バプテスマ の
ヨハネ を 指 て 己 に 語 し 事 を 悟 れ り。 14 群衆 の 許
に 來 る に 及 て、一 人 イエス に 來 り 膝 を 屈 め 曰く、
15 主 我 子 を 憐 み 給 へ、彼 癲 癇 を 病 み て 甚 く 苦 む、
屢 火 に 陷 り、屢 水 に 陷 る。 16 我 之 を 汝 の 弟子 等 に
連 來 れ ど、彼等 之 を 治 す 能 ず。 17 イエス 答 曰く、
嗚 呼 不 信 仰 の 邪 曲 の 代 よ、我 何 時 迄 汝等 と 偕 に
居 ん、何 時 迄 汝等 を 忍 ん、彼 を 我 に 連 來 れ。 18 イエス
彼 を 叱 り 給 ふ に、鬼 彼 を 出 ぬ、而 子 即 時 に 癒 ぬ。
19 イエス 及 弟子 等 カペナウム に 至 る に、二 銀 錢 を
收 る 者 ペテロ に 來 り 曰く、汝 師 二 銀 錢 を 納 ざる
か。 20 曰く、納 む。 而 家 に 入 る に、イエス 先 言 て
曰く、シモン 汝 何 如 に 思 ふ、地 の 王 等 誰 より 稅
關 或 は 貢 を 收 る、己 が 子 よ り か 又 は 他 人 よ り か。
21 ペテロ 曰く、他 人 よ り 也。 イエス 曰く、然 ば 子 は
免 る 也。 22 然 ど 我 等 を 躓 か せ ざ る 爲 に、海 に 往 て
釣 を 垂 れ、先 上 る 魚 を 取 て、其 口 を 開 け ば 銀 錢
一 を 得 ん、之 を 取 て 我 と 汝 の 爲 に 與 へ よ。

ゆだねるみこころをなしとげるために、ともにいてくださるイエスの
Dãi 1, 2, 5, nosèzu
〔ともにすわる〕
Eliyawa
ことを、彼らに示されました。4 使徒たちと一緒に食事をしておられ
たとき、イエスは彼らに命じられた。「エルサレムを離れず、わたし
から聞いた父の約束を待ちなさい。5 ヨハネは水でバプテスマを授
けたが、あなたがたは間もなく聖霊によるバプテスマを受けるから
である。」

6 さて、彼らは集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ、あなたは
この時に、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」
7 イエスは彼らに言われた。「父が定めの時や時期を、ご自分の権
威をもって定められたのであって、あなたがたの知ったことではな
い。8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがた
は力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、
さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

9 こう言われると、彼らが見ている前で、イエスは上げられ、雲
に覆われて、彼らの目から見えなくなった。10 イエスが行かれる
とき、彼らは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た二人
の人が彼らのそばに立って、11 言った。「ガリラヤの人たち、なぜ
天を見つめて立っているのですか。あなたがたから離れて天に上げ
られたこのイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ
ように、またおいでになります。」

12 そこで彼らは、オリーブという山からエルサレムに帰った。こ
の山はエルサレムに近く、安息日に歩いてよい道のりほどのところ
にある。13 彼らは、中に入って、泊まっていた上の間に上がった。
ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、ピリポ、トマ、バルトロマイ、
マタイ、アルパヨの子ヤコブ、熱心党のシモン、ヤコブの子ユダで
ある。14 彼らはみな、婦人たちとイエスの母マリヤ、またイエスの
兄弟たちと心を合わせて、ひたすら祈っていた。

15 そのころ、百二十人ほどの兄弟たちの集まっているところで、
ペテロが立って言った。16 「兄弟たち。聖霊がダビデの口を通して
イエスを捕らえた者たちの手引きをしたユダについて、前もって語
られた聖書は、成就しなければなりません。17 ユダはわたしたちの
仲間であって、この務めの分を受けていました。18 ところで、この
人は不義の報酬で地所を買いましたが、まっさかさまに落ちて、体
が真ん中から裂け、はらわたがみな出てしまいました。19 このこと
はエルサレムの住民全部に知れわたり、その地所は彼らの国語でア
ケルダマ、すなわち血の地所と呼ばれるようになりました。

20 詩篇には、
Dãi 1, 2, çirusèzu
〔ともにすわる〕
Eliyawa
『彼の住まいは荒れ果てよ。
そこには住む者がいなくなれ。』
Kaparnaumuni
また、
『彼の職は他の人に取らせよ。』
Peteroni
とあります。

21 ですから、主イエスが私たちの間に出入りされた間ずっと、
Galilaiwo
22 すなわち、ヨハネからバプテスマを受けた時から、私たちから引
き上げられた日まで、いつも私たちといっしょにいた人たちの中か
ら、
1, 2, akunakini*
23 バルサバと呼ばれ、またユストとも呼ばれるヨセフと、マッテヤ
とを立てました。
Dãi 4, 5, kurũçimeri
24 そして祈って言った。「すべての人の心をご存じの主よ。この
二人のうち、どちらをお選びになるか、お示しください。25 ユダが
自分の場所に行くために捨てた、この務めと使徒職の分を受けるた
めです。」26 そして彼らがくじを引くと、くじはマッテヤに当たっ
た。それで、マッテヤは十一人の使徒たちの仲間に加えられた。

2 五旬節の日になって、彼らがみな一つところに集まっていると、
2 突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼ら
がすわっていた家全体に響き渡った。3 また、炎のような舌が現わ
れ、分かれ分かれになって、ひとりひとりの上にとどまった。4 す
ると、彼らはみな聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国の
ことばで話しだした。

5 さて、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て、エ
ルサレムに住んでいた。6 この物音が聞こえると、大勢の人が集ま
って来たが、彼らはみな、自分の国のことばを聞かれるので、あわ
てふためいた。7 彼らは驚き、不思議がって言った。「ご覧なさい。
話しているこの人たちはみな、ガリラヤ人ではないか。8 それなの
に、私たちはおのおの、自分の生まれた国のことばを聞くとは、い
ったいどうしたことか。9 私たちパルティア人、メディア人、エラ
ム人、メソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポント、アジア、10 フ
リギヤ、パンフリヤ、エジプト、キレネに近いリビヤの地方に住む
者、ローマから来た滞在者、11 ユダヤ人、改宗者、クレテ人、アラ
ビヤ人もいるが、私たちは、神の大きなみわざを、それぞれの国の
ことばで聞くではないか。」12 彼らはみな驚き、当惑して、互いに
言った。「これはいったいどうしたことか。」13 しかし、ほかの人た
ちはあざけって言った。「あの人たちは新しいぶどう酒に酔ってい
るのだ。」

14 そこで、ペテロが十一人とともに立ち上がり、声を張り上げて
人々に語った。「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべてのか
たがた。このことを知っていただきたい。私のことばに耳を傾けて
ください。15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが
思っているように酒に酔っているのではありません。16 これは預言
者ヨエルを通して言われていたことです。

17 『神は言われる。
終わりの日に、
わたしの霊をすべての人に注ぐ。
すると、あなたがたの息子や娘は預言し、
あなたがたの若い者は幻を見、
あなたがたの老人は夢を見る。
18 その日には、わたしのしもべにも、はしためにも、
わたしの霊を注ぐ。
すると、彼らは預言する。
19 わたしは上では天に不思議なわざを、
下では地にしるしを、
血と火と立ち上る煙を現わす。
20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、
太陽は暗やみに、
月は血に変わる。
21 しかし、主の御名を呼ぶ者はみな、
救われる。』

しあらゆる種類の病気をいやすようになった。[13]この人は、人々を説得して、律法に反する仕方で神を礼拝するようにさせています」と言った。[14]パウロが口を開こうとすると、ガリオは、ユダヤ人たちに言った。「ユダヤ人諸君、これが何か悪事とか極悪な犯罪とかであるのなら、訴えを聞くことにもしよう。[15]しかし、これが教理や名称や諸君の律法に関する問題であるのなら、諸君で解決するがよい。わたしはそのような事件の裁判官になるつもりはない。」[16]そして、彼らを法廷から追い出した。[17]すると、一同のギリシア人がシナゴグの会堂司ソステネを捕えて、法廷の前で殴りつけた。しかし、ガリオはこれらのことを全く意に介しなかった。

第十八章

[1]その後、パウロはアテネを去ってコリントに行った。[2]そこで、ポントス生まれのアクラという名のユダヤ人と、その妻プリスキラに出会った。クラウディウスがすべてのユダヤ人にローマを立ち去るように命じたので、彼らは最近イタリアから来たばかりであった。パウロは彼らのところに行き、[3]同業者であったので、彼らと一緒に住んで働いた。彼らの職業は天幕作りであった。[4]パウロは毎安息日に会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人を説得しようとした。

[5]シラスとテモテがマケドニアから来ると、パウロは御言を教えることに専念し、イエスがキリストであると力強くユダヤ人たちに証しした。[6]しかし、彼らが反抗して冒瀆の言葉を吐いたので、パウロは衣の塵を振り払って言った。「あなたがたの血はあなたがたの頭にふりかかれ。わたしは責任がない。これからは異邦人のところへ行く。」[7]そこを去って、テティオ・ユストという人の家に入った。この人は神を敬う人であったが、その家は会堂の隣であった。[8]会堂司クリスポは、家族全員と共に主を信じた。また、多くのコリント人もパウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。[9]ある夜、主は幻の中でパウロに言われた。「恐れるな、語り続けよ、黙っていてはならない。[10]わたしがあなたと共にいる。だれもあなたを襲って危害を加えることはない。この町には、わたしの民が大勢いるからである。」[11]パウロは、一年六か月ここにとどまり、神の言を教えた。

[12]ガリオがアカイアの総督であったとき、ユダヤ人たちは一斉にパウロに反抗して立ち上がり、裁判の席に引き立てて行って、[13]「この人は、律法に反する仕方で神を礼拝するようにと人々を説得しています」と訴えた。[14]パウロが口を開こうとすると、ガリオはユダヤ人たちに言った。「ユダヤ人諸君、これが何か悪事とか極悪な犯罪とかであるのなら、訴えを聞くことにもしよう。[15]しかし、これが教理や名称や諸君の律法に関する問題であるのなら、諸君で解決するがよい。わたしはそのような事件の裁判官になるつもりはない。」[16]そして、彼らを法廷から追い出した。[17]すると、一同のギリシア人がシナゴグの会堂司ソステネを捕えて、法廷の前で殴りつけた。しかし、ガリオはこれらのことを全く意に介しなかった。

第十八章

[1]その後、パウロはアテネを去ってコリントに行った。[2]そこで、ポントス生まれのアクラという名のユダヤ人と、その妻プリスキラに出会った。クラウディウスがすべてのユダヤ人にローマを立ち去るように命じたので、彼らは最近イタリアから来たばかりであった。パウロは彼らのところに行き、[3]同業者であったので、彼らと一緒に住んで働いた。彼らの職業は天幕作りであった。[4]パウロは毎安息日に会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人を説得しようとした。

[5]シラスとテモテがマケドニアから来ると、パウロは御言を教えることに専念し、イエスがキリストであると力強くユダヤ人たちに証しした。[6]しかし、彼らが反抗して冒瀆の言葉を吐いたので、パウロは衣の塵を振り払って言った。「あなたがたの血はあなたがたの頭にふりかかれ。わたしは責任がない。これからは異邦人のところへ行く。」[7]そこを去って、テティオ・ユストという人の家に入った。この人は神を敬う人であったが、その家は会堂の隣であった。[8]会堂司クリスポは、家族全員と共に主を信じた。また、多くのコリント人もパウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。[9]ある夜、主は幻の中でパウロに言われた。「恐れるな、語り続けよ、黙っていてはならない。[10]わたしがあなたと共にいる。だれもあなたを襲って危害を加えることはない。この町には、わたしの民が大勢いるからである。」[11]パウロは、一年六か月ここにとどまり、神の言を教えた。

こまるまで より わくめまて いのちよ いるい あんぢよ よろる べー。
10 あんぢと これとの せうまの ひとりを
んと あれば それ あんぢよ つゆん、てんよ ある その つろひろちに てんよ いま
今 ひげ ちくの かそを つねよ みれば ありり。「まんゆんの むすこい うせろる ゆの
Déi 1, 2, 7, korewo giruuazu
をまくふ さめよ きされり。」 12 あんぢと いろい ひやくびきの
hyappikino
ひつじある よ その うちの いつひき まよそぐ めれ くとう くひきを やまよ のこー
ゆきて その まよひろる いつひきを さげさぐよんや。 13 ゆー それを みいさらば、
それ まことよ あんぢよ つゆん、めれい まよそぎる くとう くひき よりも あや
これを よろこをん。 14 わくの ごとく これ
いまず あんぢとの ちくの そごころよ あじぎる あり。
15 ゆー きやうさの 〔あんぢよ そむきて〕 つそを おろさば ゆきて たぐ あんぢと
Déi 1, 2, nozuzu
かれ のを ありて いさめよ。 あんぢよ きろば あんぢ その きやうさのを あさり。

16 されど きろ ゆんば おさんの ちやうこうの くちよ おのて すべて いふ ことを
さざめん たのよ あんぢと ともよ ひとりろ ふさりを つれ ゆく べー。 17 ゆー かれ
ふを きろ ゆんば きやうこうをも きろ ゆんば かれい
いとんや みつぎとりの ごとく あのーとん
あゆごとをも あんぢとげ ちよ おのて むをぶ ことい てんよ おのても むをぞ
れん、まさ ちよ おのて とく ことい てんよ おのても そろる べー。
19 まさ あんぢとよ つゆん、ゆー あんぢと
こころを れをぎふーて ねげそば てんよ いま
べー。 20 いろんと あれば おさん おん ひと ありて ところい
これも うれとの うちよ をれば あり。
21 その とき ぺてろ あをよ きさりて いひけるい、きそよ、ひげ きやうさの ひれよ
つそを おろさば ゆるをべきい いくるびそや。 あくるび まんろ。 22 あす のるまひ

けるん、これ あくるびを まぐと いそぎ、あくるびを そちおうと ならと いふ あり。
23 このゆあよ てんの みくるんに けとのどもと うんぐそうを そとぐんと する さうよ
あくり。 24 そとぐ そとめ けれぐ ぎん 百 まん きんを おくるる ものを つれ きくら
りーよ 25 つくをふ こと あくるぐるよ ようて その きこ けとの そと つまと
ことも そんとのとを うりて つくをふくを ひれふーて いひ けるん、きこよ、かんふんー
27 さて けとのの きこ あそれそよ かんとうれを ときて その おひめを ゆるせり。
28 されど この けとの いぐ おのれよ ぎん 百りやうの おひ あると ともけとのの
ひとりよ あひ けれぐ これを とよくん のとを ちめて、あんぢの おひを うんぜと
いひーよ 29 その とも ひれふー ねがうんて、かんふんに せよ、さとぐ これ つくをふを
んと いくり。 30 されども きく いれぜ ゆきて その おひを うんを まぜ これを
らうやよ とちこめくり。 31 その ともけとのとも ありー ことを そそいと うをーこ

ゆきて ありー ことを そをふ その きこうよ そとぜ けれぐ 32 きこ これを よびて いひ
けるん、あーき けとのよ、これ あんぢの ねがひーよ よりて その おひめを そをふ
ゆるせり。 33 ひげ あんぢを あそれそーぜ ごとく あんぢも ともけとのを あそれむ
べきそぐ あとぜやと。 34 そうーて きこ いうりその おひを そなうんを まぜ うれを
せむる ひとよ そくぜり。 35 もー あんぢに おの ありの こころ より *ぎやうづのを
ゆるさをんぐ ひげ てんの ちくも かくの ごとく あんぢとよ あーくまをん。

第十九章

Galilaiwo Yorudanno

つひよ あす これとの ことを いひ おそり がをとくのを さをて よるるんの むうふ
ゆぐやの わとりよ いくりーよ。 2 おの せかぜのの ひとびと めれよ そうがひ けれぐ そこ
まて めれとを いやー たまくり。

3 なをさうのびと きくりて あすを こころを いひ けるん、 *ひと あるの ひけるよ
そも おのれの つまを いぐすん おきて のあふや。 4 めれとよ こうんて のくまひ

Déi 1, 2, "hito"wo nosézu

Déi 4, kyōudnino tsūmiwo

ルカによる福音書 第十九章 ㊁㊉㊃

ゃ。[10]ダーシの息子が、ナセ、ダーシの息子を救うために来たのである。」[11]人々がこれらのことを聞いているとき、イエスはさらに一つのたとえを話された。それは、エルサレムに近づいておられたし、人々は神の国がすぐにも現れるように思っていたからである。[12]そこでイエスは言われた。「ある身分の高い人が、遠い国へ行って王位を受けて帰って来ようと、旅に出かけた。[13]彼は十人の僕を呼んで、十ミナを与えて言った。『私が帰って来るまで、これで商売をしなさい。』[14]ところが、彼の国民は彼を憎んでいたので、彼のあとから使いをやって、『この人が私たちの王になることは願いません。』と言わせた。[15]さて、彼は王位を受けて帰って来ると、金を与えておいた僕たちを呼ぶように命じた。どれだけもうけたかを知るためであった。[16]最初の者が現れて言った。『ご主人様。あなたの一ミナで十ミナもうけました。』[17]主人は彼に言った。『よくやった。良い僕だ。あなたは小さいことに忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』[18]次の者が来て言った。『ご主人様。あなたの一ミナで五ミナ稼ぎました。』[19]主人はこの者にも言った。『あなたは五つの町を治めなさい。』[20]別の者が来て言った。『ご主人様。ご覧ください。ここにあなたの一ミナがあります。私はこれを布に包んでしまっておきました。[21]あなたは厳しい方なので、恐ろしかったのです。あなたは置かないものを取り立て、まかないものを刈り取られるからです。』[22]主人は彼に言った。『悪い僕だ。あなたの口から出たことばで、あなたをさばこう。あなたは、私が置かないものを取り立て、まかないものを刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。[23]それなら、なぜ私の金を銀行に預けておかなかったのか。そうしておけば、私が帰って来たとき、利子をつけて受け取れたのに。』[24]そこで、そばに立っている者たちに言った。『その一ミナを彼から取り上げて、十ミナ持っている者に与えなさい。』[25]彼らはイエスに言った。『ご主人様。彼は十ミナも持っているのです。』[26]『あなたがたに言うが、持っている者はみな、さらに与えられ、持っていない者からは、持っているものまでも取り上げられる。[27]ただ、私が王になることを望まなかったこの敵どもは、ここに連れて来て、私の前で殺してしまえ。』」[28]イエスはこれらのことを言われると、先に立って進み、エルサレムへ上って行かれた。

[29]イエスはベテパゲとベタニヤに近づき、オリーブと呼ばれる山のふもとまで来られたとき、二人の弟子を使いに出そうとして、[30]言われた。「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばがつないであるのを見ます。それをほどいて連れて来なさい。[31]もしだれかが、『なぜほどくのか。』と尋ねたら、『主がお入用なのです。』と言いなさい。」[32]使いに出された者たちは、行ってみると、イエスが言われたとおりであった。[33]彼らが子ろばをほどいていると、その持ち主たちが、「なぜ子ろばをほどくのか。」と言ったので、[34]彼らは、「主がお入用なのです。」と言った。[35]そして、それをイエスのところに連れて来て、その子ろばの上に自分たちの上着をかけてイエスを乗せた。[36]イエスが進んで行かれると、人々は自分たちの上着を道に敷いた。[37]イエスがオリーブ山の下り道にさしかかられると、弟子たちはみな、喜んで大声で神をほめたたえ、自分たちが見たすべての力あるわざについて、[38]こう言った。「祝福あれ、主の御名によって来られる王に。天には平和があるように。いと高き所には栄光があるように。」[39]すると、群衆の中のパリサイ人たちが、イエスに言った。「先生。お弟子たちをおしかりください。」[40]イエスは答えて言われた。「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶ。」

[41]イエスは都に近づいて、それをご覧になり、その都のために泣いて、[42]言われた。「ああ、おまえも、もしこの日のうちに、平和のために何を持ち出すべきかを知っていたらよかったのに。しかし、それはおまえの目から隠されている。[43]やがて敵がおまえに対して塁を築き、おまえを取り囲み、四方から攻め寄せ、[44]おまえとその中にいる子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で石一つ石の上に残しはしない日が来る。おまえは、神の訪れの時を知らなかったからだ。」

[45]イエスは宮に入られ、そこで売っている人たちを追い出し始めて、[46]彼らに言われた。「『わたしの家は祈りの家でなければならない。』と書いてある。ところが、あなたがたはそれを強盗の巣にしてしまった。」[47]イエスは毎日宮で教えておられた。祭司長たち、律法学者たち、民の指導者たちは、イエスを殺そうと思っていたが、[48]民衆がみな、イエスの話に聞き入っていたので、どうすることもできなかった。

[20]ある日のこと、イエスが宮で民衆に教えて福音を宣べておられると、祭司長たち、律法学者たち、長老たちが、[2]イエスのところにやって来て言った。「何の権威によって、これらのことをするのか。また、だれがその権威を与えたのか。それを私たちに言いなさい。」[3]イエスは答えて言われた。「私もあなたがたに一つのことばを尋ねよう。それに答えなさい。[4]ヨハネのバプテスマは天からのものだったか、それとも人からのものだったか。」[5]彼らは論じ合った。「天からのものだと言えば、『それならなぜヨハネを信じなかったのか。』と言うだろう。[6]人からのものだと言えば、民衆がみな石で打ち殺すだろう。ヨハネを預言者だと信じているから。」[7]そこで、どこからのものか知らないと答えた。[8]イエスは彼らに言われた。「私も何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに言うまい。」[9]イエスは民衆にこのたとえを話し始められた。「ある人がぶどう園を作り、農夫たちに貸して、長い間旅に出かけた。[10]収穫の時になったので、農夫たちのところへ、ぶどう園の実の分け前を受け取るために、しもべを送った。ところが、農夫たちはしもべを打ちたたき、何も持たせないで帰した。[11]そこで、もう一人のしもべを送った。すると、彼らはこのしもべをも打ちたたき、侮辱して、何も持たせないで帰した。[12]そこで、さらに三人目のしもべを送った。すると、彼らはこのしもべにも傷を負わせて追い出した。[13]ぶどう園の主人は言った。『どうしようか。私の愛する息子を送ろう。この子なら敬ってくれるだろう。』[14]ところが、農夫たちはこの子を見ると、互いに論じ合って言った。『これは跡取りだ。さあ、殺してしまおう。そうすれば、相続財産は私たちのものになる。』[15]そこで、彼らはぶどう園の外に追い出して殺してしまった。さて、ぶどう園の主人は彼らをどうするだろうか。[16]彼は来て、この農夫たちを滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えるだろう。」これを聞いて、彼らは言った。「そんなことがあってはなりません。」[17]イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、『家を建てる者たちの捨てた石、これが礎の石となった。』と書いてあるのは、どういうことなのか。[18]その石の上に落ちる者はだれでも粉々にされ、その石がだれかの上に落ちれば、その人を粉みじんにしてしまう。」[19]律法学者たちや祭司長たちは、イエスが彼らに対してこのたとえを話されたことを悟ったので、その時、イエスに手を下そうとしたが、民衆を恐れた。

[20]そこで、彼らはイエスを見張っていて、正しい人を装うスパイどもを送り込んだ。それは、イエスのことばじりをとらえて、総督の支配と権威にイエスを引き渡すためであった。[21]スパイどもはイエスに質問して言った。「先生。私たちは、あなたが言うことも教えることも正しいことを知っています。また、あなたは人を分け隔てせず、真理に基づいて神の道を教えておられます。[22]ところで、私たちがカイザルに税金を納めることは、律法にかなっているでしょうか、いないでしょうか。」[23]イエスは彼らの悪巧みを見抜いて言われた。[24]「デナリを見せなさい。これは、だれの肖像と銘ですか。」彼らは答えた。「カイザルのです。」[25]イエスは言われた。「それなら、カイザルのものはカイザルに返しなさい。神のものは神に返しなさい。」[26]彼らは民衆の前でイエスのことばじりをとらえることができず、イエスの答えに驚いて黙ってしまった。

[27]さて、復活を否定するサドカイ人たちがイエスのところに来て質問した。[28]「先生。モーセは私たちのために書いています。『もしある人の兄が妻を持ちながら死に、子がなければ、その弟はその妻をめとって兄のために子孫を起こさなければならない。』[29]ところで、七人の兄弟がいました。長男は妻を迎えましたが、子どもがなくて死にました。[30]次男も、[31]三男もその女を妻にしました。七人とも同じように子どもを残さないで死にました。[32]最後にその女も死にました。[33]復活の際、その女は七人のうちだれの妻になるのでしょうか。七人とも彼女を妻にしたのですが。」[34]イエスは彼らに言われた。「この世の子らは、めとったり、とついだりするが、[35]次の世に入るのにふさわしいとされて、死者の中からよみがえる者たちは、めとったりとついだりすることはない。[36]彼らはもはや死ぬことができないからである。彼らは御使いたちと同じであり、復活の子らとして、神の子らなのである。[37]死者がよみがえることについては、モーセも柴のところで、主を『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んで、このことを示している。[38]神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。すべての人は神にとって生きているのである。」[39]律法学者たちのうちの何人かは答えて言った。「先生。よくおっしゃいました。」[40]彼らはそれ以上、イエスに何も質問する勇気がなかった。

[41]イエスは彼らに言われた。「どうして人々はキリストをダビデの子と言うのか。[42]ダビデ自身が詩篇の書で言っている。『主は私の主に言われた。「わたしの右の座に着きなさい。[43]わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。」』[44]ダビデが主と呼んでいるのに、どうしてキリストがダビデの子なのか。」

[45]民衆がみな聞いているとき、イエスは弟子たちに言われた。[46]「律法学者たちに気をつけなさい。彼らは長い衣を着て歩き回ることを好み、また、市場であいさつされることや、会堂の上席、宴会の上座を好む。[47]やもめの家を食い尽くし、見えを飾るために長い祈りをする。彼らはより厳しい刑罰を受けるのである。」

[21]イエスは目を上げて、金持ちたちが宮の賽銭箱に献金を入れているのをご覧になった。[2]また、ある貧しいやもめが、レプタ二つを入れているのをご覧になった。[3]そこで言われた。「まことに、あなたがたに言うが、この貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れた。[4]この人たちはみな、あり余る中から献金を入れたのだが、この人は、乏しい中から、持っている生活費全部を入れたからである。」

[5]ある人たちが宮のことを、美しい石や奉納物で飾られていると話していたとき、イエスは言われた。[6]「あなたがたが見ているこれらのものは、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る。」[7]彼らはイエスに質問して言った。「先生。それでは、いつそのようなことが起こるのですか。また、それが起こるときには、どんな前兆があるのですか。」[8]イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。多くの者が、わたしの名を名乗って来て、『私がキリストだ。』『時が近づいた。』と言うが、彼らについて行ってはいけない。[9]戦争や暴動のことを聞いても、おびえてはいけない。これらのことが先に起こるが、終わりはすぐには来ないからである。」[10]また、イエスは彼らに言われた。「民は民に、国は国に敵して立ち上がり、[11]大地震があり、方々に疫病やききんがあり、恐ろしいことや天からの大きなしるしが現れる。[12]しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王たちや総督たちの前に引き出す。[13]それは、あなたがたにとって証しをする機会となる。[14]それゆえ、どう弁明しようかと、あらかじめ考えまいと心に決めておきなさい。[15]どんな反対者も反論できず、また、反駁もできないような口と知恵を、わたしがあなたがたに与えるからである。[16]あなたがたは、両親、兄弟、親族、友人にまで裏切られ、あなたがたのうちの何人かは殺されます。[17]また、わたしの名のために、あなたがたはみなの者に憎まれます。[18]しかし、あなたがたの髪の毛一本も失われることはありません。[19]忍耐によって、あなたがたのいのちを勝ち取りなさい。[20]エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、その滅亡が近づいたことを知りなさい。[21]そのとき、ユダヤにいる者は山に逃げなさい。都の中にいる者は出て行きなさい。いなかにいる者は都に入ってはいけません。[22]これは、書かれていることがすべて成就する報いの日だからです。[23]その日には、身重の女と乳飲み子を持つ女は不幸です。この地には大きな苦難があり、この民には御怒りがあるからです。[24]人々は剣の刃に倒れ、捕虜として諸国民のうちに連れて行かれます。異邦人の時が満ちるまで、エルサレムは異邦人に踏みにじられます。[25]また、日と月と星には前兆があり、地上では、諸国民が、海と波が荒れ騒ぐために、悩み、[26]人々は、地上に起こることを予想して恐怖と不安のために気を失います。天の万象が揺り動かされるからです。[27]そのとき、人の子が力と大きな栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見ます。[28]これらのことが起こり始めたら、身を起こし、頭をもたげなさい。あなたがたの贖いが近づいたのです。」[29]イエスはまた、たとえを話された。「いちじくの木や、すべての木を見なさい。[30]葉が出ると、それを見て、自分から夏が近いことを知ります。[31]それと同じように、これらのことが起こるのを見たら、神の国が近いことを知りなさい。[32]まことに、あなたがたに言うが、これらのことがすべて起こるまでは、この時代は過ぎ去りません。[33]天地は過ぎ去っても、わたしのことばは決して過ぎ去ることがありません。[34]放蕩や深酒や生活の思い煩いで、あなたがたの心が鈍くならないように、また、その日があなたがたに突然わなのように臨むことがないように、気をつけていなさい。[35]その日は、全地の表面に住むすべての人に臨むからです。[36]いつも目を覚まして祈っていなさい。そうすれば、これから起こるすべのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、力があります。」[37]イエスは昼間は宮で教えておられ、夜は出て行って、オリーブと呼ばれる山で過ごされた。[38]民衆はみな、イエスの話を聞こうと、朝早くから宮に来ていた。

[22]さて、過越と呼ばれる除酵祭が近づいていた。[2]祭司長たちや律法学者たちは、どうしてイエスを殺そうかと謀っていた。民衆を恐れていたからである。[3]ところが、十二人の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中にサタンが入った。[4]ユダは祭司長たちや宮の守衛長たちのところに行って、どのようにしてイエスを彼らに引き渡そうかと相談した。[5]彼らは喜んで、ユダに金を与える約束をした。[6]ユダは承諾して、群衆のいないときにイエスを引き渡そうと、ねらっていた。

[7]除酵祭の日が来て、過越の小羊がほふられる日になった。[8]イエスはペテロとヨハネを使いに出して言われた。「行って、私たちが過越の食事をするために、用意をしなさい。」[9]彼らはイエスに言った。「どこに用意をしましょうか。」[10]イエスは言われた。「ご覧なさい。都に入ると、水がめを運んでいる人に出会います。その人が入る家までついて行きなさい。[11]そして、その家の主人に、『先生があなたに言われます。「弟子たちと過越の食事をする客間はどこか。」と。』と言いなさい。[12]すると、その人は、席が整えられた二階の大広間を見せてくれます。そこに用意をしなさい。」[13]彼らは行ってみると、イエスが言われたとおりであった。そこで過越の用意をした。[14]時刻になったので、イエスは使徒たちとともに席に着かれた。[15]そして彼らに言われた。「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとともにこの過越の食事をしたいと、切に願っていました。[16]あなたがたに言うが、過越が神の国で成就するまでは、わたしはもう決して過越の食事をしません。」[17]イエスは杯を取り、感謝をささげて言われた。「これを取って、あなたがたの間で回しなさい。[18]あなたがたに言うが、今から後、神の国が来るまでは、わたしはもう決してぶどうの実からできたものを飲みません。」[19]また、パンを取り、感謝をささげて、それを裂き、彼らに与えて言われた。「これはあなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するためにこのように行いなさい。」[20]食事の後、同じように杯を取って言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約である。[21]しかし、見よ、わたしを裏切る者の手が、わたしとともにこの食卓に置かれている。[22]人の子は、定められたとおりに去って行く。しかし、人の子を裏切るその人は、わざわいである。」[23]そこで、弟子たちは、自分たちのうちのだれが、このようなことをしようとしているのかと、互いに論じ合い始めた。[24]また、彼らの間に、自分たちのうちのだれが一番偉いかという議論も起こった。[25]イエスは彼らに言われた。「異邦人の王たちは人々を支配し、権力を持つ者たちは恩人と呼ばれる。[26]しかし、あなたがたはそうであってはならない。あなたがたのうちで一番偉い者は一番若い者のようになり、指導者は仕える者のようになりなさい。[27]食卓に着く者と給仕する者とでは、どちらが偉いでしょうか。食卓に着く者でしょう。しかし、わたしはあなたがたの中で給仕する者のようにしています。[28]あなたがたは、わたしの試練の時に、わたしとともにとどまってくれた人たちです。[29]わたしの父がわたしに国を与えてくださったように、わたしもあなたがたに与えます。[30]あなたがたは、わたしの国で、わたしの食卓について食べたり飲んだりし、また、御座に着いてイスラエルの十二の部族をさばくのです。[31]シモン、シモン。サタンがあなたがたを小麦のようにふるいにかけることを願って、聖許されました。[32]しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」[33]シモンは言った。「主よ。ご一緒になら、牢にでも死にでも、覚悟はできています。」[34]イエスは言われた。「ペテロ。あなたに言うが、今日、鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言うでしょう。」[35]イエスはまた彼らに言われた。「わたしがあなたがたを、財布も袋もくつも持たせずに遣わしたときには、何か不足したものがありましたか。」彼らは言った。「いいえ、ありません。」[36]イエスは彼らに言われた。「しかし今は、財布のある者は財布を、袋のある者は袋を持ちなさい。剣のない者は着物を売って剣を買いなさい。[37]あなたがたに言うが、『彼は犯罪人の一人に数えられた。』と書かれていることは、わたしについて成就しなければならないからです。わたしについてのことは成就に近づいています。」[38]弟子たちは言った。「主よ。ご覧ください。ここに剣が二本あります。」イエスは言われた。「それで十分です。」

[39]イエスは出て行って、いつものようにオリーブ山に行かれた。弟子たちもイエスについて行った。[40]いつもの場所に来ると、イエスは彼らに言われた。「誘惑に陥らないように祈りなさい。」[41]そして、彼らから石を投げて届くほどの所に離れ、ひざまずいて祈られた。[42]「父よ。みこころなら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころが行われますように。」[43]すると、御使いが天からイエスに現れて、力づけた。[44]イエスは苦しみもだえて、ますます熱心に祈られた。汗が血のしたたりのように地に落ちた。[45]祈り終えて弟子たちのところに来ると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。[46]イエスは彼らに言われた。「なぜ眠っているのですか。誘惑に陥らないように祈りなさい。」

[47]イエスがまだ話しておられるうちに、群衆が来た。十二人の一人でユダと呼ばれる者が先頭に立って、イエスに口づけしようと近づいた。[48]イエスは彼に言われた。「ユダ。口づけで人の子を裏切るのか。」[49]イエスの回りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ。剣で打ちましょうか。」と言った。[50]そのうちの一人が大祭司のしもべに打ってかかり、その右の耳を切り落とした。[51]イエスは言われた。「やめなさい。もうそれまでにしなさい。」そして、その耳にさわって、いやされた。[52]イエスは、ご自分を捕えに来た祭司長たち、宮の守衛長たち、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って出て来たのですか。[53]わたしは毎日宮であなたがたとともにいたのに、わたしに手を伸ばしませんでした。しかし、今はあなたがたの時です。闇の力です。」[54]彼らはイエスを捕えて引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペテロは遠く離れてついて行った。[55]人々が庭の真ん中に火をたいて、いっしょに座っていたので、ペテロもその中に座った。[56]すると、ある女中が、ペテロが火の明かりの中に座っているのを見つめて、「この人もイエスといっしょにいました。」と言った。[57]しかし、ペテロは否んで、「女よ。私はあの人を知らない。」と言った。[58]しばらくして、ほかの人がペテロを見て、「あなたもあの連中の仲間だ。」と言った。ペテロは、「いや、違う。」と言った。[59]それから一時間ほどして、また別の人が強く言い張って、「確かにこの人もイエスといっしょにいた。この人はガリラヤ人だから。」と言った。[60]ペテロは、「あなたの言っていることは、私には分からない。」と言った。すぐに、彼がまだ言い終わらないうちに、鶏が鳴いた。[61]主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言うでしょう。」と言われた主のおことばを思い出した。[62]そして外に出て、激しく泣いた。

[63]イエスを捕えていた人たちは、イエスをあざけり、打ちたたいた。[64]また目隠しをして、「言い当ててみろ。だれがおまえを打ったのか。」と言って、イエスに問いかけた。[65]そのほかにも、彼らはイエスをののしって、さまざまなことを言った。

[66]夜が明けると、民の長老たち、祭司長たち、律法学者たちが集まって来て、イエスを彼らの議会に連れ出し、[67]言った。「あなたがキリストなら、そう言ってください。」イエスは彼らに言われた。「わたしがそう言っても、あなたがたは決して信じないでしょう。[68]また、わたしが尋ねても、決して答えないでしょう。[69]しかし、今から後、人の子は、力ある神の右の座に着きます。」[70]彼らはみな言った。「それでは、あなたは神の子なのですか。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたが言っていることは、わたしがそうだということです。」[71]すると彼らは言った。「これ以上、証言など必要があろうか。私たちは、この男が自分の口から言うのを聞いたのだから。」

[23]そこで、彼らはみな立ち上がって、イエスをピラトのところに連れて行った。[2]そして、イエスを訴えて言い始めた。「私たちは、この男が国民を惑わし、カイザルに税金を納めることを禁じ、また、自分がキリストであり王であると言っているのを知りました。」[3]ピラトはイエスに尋問して言った。「あなたがユダヤ人の王なのか。」イエスは答えて言われた。「そのとおりです。」[4]ピラトは祭司長たちと群衆に言った。「私はこの人に何の罪も見つけない。」[5]しかし彼らは言い張った。「この男はガリラヤからここユダヤ全土で教えて、民を煽動しています。」[6]ピラトはこれを聞いて、この人はガリラヤ人かと尋ねた。[7]そしてイエスがヘロデの支配下にあることを知ると、ちょうどそのころエルサレムにいたヘロデのところへイエスを送った。[8]ヘロデはイエスを見ると非常に喜んだ。ずいぶん前からイエスのことを聞いていたし、何かイエスのなさるしるしを見たいと思っていたからである。[9]ヘロデはいろいろとイエスに質問したが、イエスは何も答えなかった。[10]祭司長たちや律法学者たちは、そこに立って、激しくイエスを訴えた。[11]ヘロデは兵士たちといっしょにイエスをさげすみ、あざけり、きらびやかな衣を着せて、ピラトのところに送り返した。[12]ヘロデとピラトはこの日まで敵どうしであったが、この日、互いに友となった。[13]ピラトは祭司長たちと議員たちと民衆とを呼び集めて、[14]言った。「あなたがたは、この人を民を惑わす者として私のところに連れて来ました。しかし、私があなたがたの前で調べましたが、あなたがたが訴えているようなことについては、この人に何の罪も見つけません。[15]ヘロデもそうです。彼が私たちのところに送り返してきたのですから。この人は死に当たることは何もしていません。[16]ですから、私は彼を懲らしめて釈放しましょう。」[17][18]しかし、彼らは一斉に叫んで言った。「その男を除け。バラバを釈放しろ。」[19]バラバは都で起こった暴動と殺人のかどで投獄されていた。[20]ピラトはイエスを釈放しようと思って、再び彼らに呼びかけた。[21]しかし彼らは叫び続けた。「十字架につけろ。十字架につけろ。」[22]ピラトは三度目に彼らに言った。「いったい、この人がどんな悪いことをしたというのか。死に当たることは何もしていない。ですから、私は彼を懲らしめて釈放しましょう。」[23]しかし彼らは、大声でイエスを十字架につけるようにと強く迫った。ついに彼らの叫びが勝った。[24]ピラトは彼らの要求どおりにすることに決定した。[25]彼は暴動と殺人のかどで投獄されていた者を釈放し、彼らの望むとおりにした。しかし、イエスについては、彼らに引き渡した。

[26]彼らがイエスを引いて行く途中、いなかから出て来たシモンというクレネ人を捕えて、十字架を負わせ、イエスのうしろから運ばせた。[27]大勢の民衆がイエスについて行った。その中には、イエスのために胸を打ち、嘆き悲しむ女たちもいた。[28]イエスは女たちのほうを振り向いて言われた。「エルサレムの娘たち。わたしのために泣いてはいけません。むしろ、あなたがた自身と、あなたがたの子どもたちのために泣きなさい。[29]人々が、『不妊の女、産んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ。』と言う日が来ます。[30]そのとき、人々は山に向かって、『われわれの上に倒れかかれ。』と言い始め、丘に向かって、『われわれをおおえ。』と言います。[31]生木でさえこうされるのですから、枯れ木はどうなるのでしょうか。」[32]ほかにも、二人の犯罪人が、イエスといっしょに死刑にされるために引いて行かれた。[33]彼らは「どくろ」と呼ばれる場所に来ると、そこでイエスを十字架につけた。犯罪人たちも、一人は右に、一人は左に十字架につけた。[34]イエスは言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのか知らないのです。」彼らはイエスの着物をくじを引いて分けた。[35]民衆は立って見ていた。議員たちもイエスをあざ笑って言った。「あれは他人を救った。神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ったらいい。」[36]兵士たちもイエスをあざけり、近寄って来て、酸いぶどう酒を差し出して、[37]言った。「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」[38]イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」という罪状書きがあった。[39]十字架につけられた犯罪人の一人は、イエスをののしって言った。「おまえはキリストではないか。自分と私たちを救ってみろ。」[40]すると、もう一人のほうが、たしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているのだ。[41]私たちは当然だ。自分のしたことの報いを受けているのだから。しかし、この方は悪いことは何もしていない。」[42]そして言った。「イエス様。あなたが御国の位に着かれるときには、私を思い出してください。」[43]イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言う。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」

[44]すでに昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。[45]太陽は光を失っていた。神殿の幕が真ん中から裂けた。[46]イエスは大声で叫ばれた。「父よ。わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。[47]百人隊長はこの出来事を見て、神をほめたたえて言った。「確かにこの人は正しい人であった。」[48]この光景を見るために集まって来ていた群衆はみな、これらの出来事を見て、胸を打ちながら帰って行った。[49]イエスの知人たちはみな、ガリラヤからイエスについて来た女たちも、遠くからこれらのことを見ていた。

[50]ここに、ヨセフという名の議員がいた。善良な正しい人で、[51]議会の決議や行動には同意しなかった。彼はユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた。[52]この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。[53]そして、それを取り降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られたことのない、岩に掘られた墓に納めた。[54]その日は準備の日であり、安息日が始まろうとしていた。[55]イエスといっしょにガリラヤから来た女たちは、ヨセフについて行って墓を見届け、イエスのからだが納められる様子を見た。[56]帰って香料と香油を用意した。安息日には、戒めに従って休んだ。

[24]週の初めの日の明け方早く、女たちは準備しておいた香料を持って墓に行った。[2]すると、石が墓からわきに転がしてあった。[3]中に入ったが、主イエスのからだは見当たらなかった。[4]そのことで途方に暮れていると、見よ、輝く衣を着た二人の人が、そばに立った。[5]女たちは恐れてうつむいていると、その人たちは言った。「なぜ生きておられる方を死者の中に捜すのですか。[6]ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。[7]人の子は必ず罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目によみがえることになっていると。」[8]女たちはイエスのことばを思い出した。[9]そして墓から帰って、十一人とその他の人たちすべてに、これらのことをみな報告した。[10]マグダラのマリヤ、ヨハナ、ヤコブの母マリヤ、それに彼女たちといっしょにいた他の女たちである。[11]彼女たちのこのことばは使徒たちには、たわごとのように思われ、彼らは女たちを信じなかった。[12]しかしペテロは立って墓に走って行き、かがんで中をのぞくと、亜麻布だけが見えた。彼は、この出来事を不思議に思いながら家に帰った。

[13]ちょうどこの日、彼らのうち二人が、エルサレムから七マイルほど離れたエマオという村に行きながら、[14]この一切の出来事について互いに語り合っていた。[15]語り合い、論じ合っていると、イエスご自身が近づいて来て、彼らといっしょに歩いておられた。[16]しかし、彼らの目はさえぎられていて、イエスだとは分からなかった。[17]イエスは彼らに言われた。「歩きながら話しているその話は何のことですか。」彼らは悲しそうな顔をして立ち止まった。[18]その一人のクレオパという者が答えて言った。「エルサレムに滞在していながら、あの都で最近起こったことを、あなただけが知らないのですか。」[19]イエスは彼らに言われた。「どんなことですか。」彼らは言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、わざにも言葉にも力ある預言者でした。[20]祭司長たちや私たちの指導者たちが、死刑の判決を受けるために引き渡して、十字架につけたのです。[21]この方こそイスラエルを贖う方だと望みをかけていました。しかも、このことがあってから、きょうで三日目です。[22]また、私たちの仲間の女たちが、私たちを驚かせました。彼女たちが朝早く墓に行きますと、[23]イエスのからだが見当たらないので、帰って来て、御使いたちが現れて、イエスは生きておられると告げたと言うのです。[24]私たちといっしょにいた者たちが墓に行ってみると、女たちが言ったとおりでしたが、イエスを見た者はいませんでした。」[25]イエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。預言者たちが語ったことすべてを信じるには、心が鈍すぎる者たちだ。[26]キリストはこれらの苦しみを受けて、その栄光に入るはずだったのではありませんか。」[27]それから、イエスはモーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、ご自分について書かれていることを、彼らに説き明かされた。[28]彼らは行こうとしていた村に近づいたが、イエスはなおも先に行こうとされた。[29]彼らは強いて言った。「私たちといっしょにお泊まりください。もう夕暮れですし、日もすでに傾いていますから。」そこで、イエスは彼らといっしょに泊まるために入られた。[30]イエスが彼らとともに食卓に着かれたとき、パンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。[31]すると、彼らの目が開けて、イエスだと分かったが、イエスは彼らには見えなくなった。[32]彼らは互いに言った。「道々、聖書を説き明かしてくださったとき、私たちの心は内に燃えていたではないか。」[33]そして、すぐに立って、エルサレムに戻ると、十一人とその仲間が集まっていて、[34]「ほんとうに主はよみがえって、シモンに現れた。」と言っていた。[35]二人も道で起こったことを話し、パンを裂かれたときにイエスだと分かったことを話した。[36]彼らがこのことを話しているとき、イエスご自身が彼らの真ん中に立って、「あなたがたに平安があるように。」と言われた。[37]彼らはびっくりして恐れおののき、霊を見ているのだと思った。[38]イエスは言われた。「なぜ心を騒がせているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。[39]わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしです。さわって確かめなさい。霊には肉や骨はありませんが、あなたがたが見ているとおり、わたしにはあります。」[40]こう言って、イエスは手と足を彼らに見せられた。[41]彼らは喜びのあまり、まだ信じられず、不思議に思っていると、イエスは彼らに言われた。「ここに何か食べ物がありますか。」[42]彼らは焼いた魚の一切れを差し上げた。[43]イエスはそれを取って、彼らの前で食べられた。[44]イエスは彼らに言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたときに話したことばはこれです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇に書かれていることは、すべて成就しなければならないのです。」[45]そのとき、イエスは聖書を悟るように彼らの心を開いて、[46]言われた。「こう書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目によみがえる。[47]また、エルサレムから始まって、あらゆる国の人々に、悔い改めの福音が、その罪の赦しを得させるために宣べ伝えられる。[48]あなたがたはこれらのことの証人です。[49]見よ、わたしの父があなたがたに約束されたものを、わたしはあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所からの力に包まれるまで、この都にとどまっていなさい。」[50]イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行き、手を上げて彼らを祝福された。[51]祝福しながら、彼らから離れ、天に上げられた。[52]彼らはイエスを礼拝し、大喜びでエルサレムに帰り、[53]絶えず宮にいて神をほめたたえていた。

Kàmi nâri

Dâi 6, ténno

使徒行伝 第十九章 〇十〇

使徒行伝 第十九章 〇十〇

Dâi 2, 5, mèwo tòoruwa

Petero

Israeluno

Dâi 2, 5, iye, kyóudai

Dâi 2, 5, nosézu.

Dâi 2, 7, suujiubàiwo

あとの　ものの　さきよ　あしん。

第　二十　章

てんの　まつりごとん　あさ　そやく　ぶざう　そうけよ　そうとく　ものよ　やとひよ　いぞ〳〵　ゐちぞよ　ひまうて　たちくる　ものを　そて、[4]あんぢとも　ふざう　そうけよ　ゆけ、さうとうの　ちんぜんを　もとめよ　いひければ　めれと　ゆけり。[5]まるこ　きめて　めれよを　ふざう　そうけよ　つうもせり。[3]めれ　まるこ　*arutiwa, kiji　いぞ〳〵　ゐちぞよ　ひまうて　たちくる　ものよ　あひて　いひけるん、あんぢと　そごと　あーよ　そうとう　そうよ　たちくん　あんぞやと。[7]めれと、たれも　これとを　やとそぎうるよ　あうて　ありと　こうん　けれど　あんぢとも　ふざう　そうけよ　*yūke, sōutouno tefnsenwo harawānto　ゆけよと　いくり。[8]ひぐれよ　ふざう　そうけの　あるど　その　ぜんとうよ　いひ　けるん、そうとく　ものとものを

よびて　あとの　ものを　そとめ　さきの　ものを　らうそん　ごろ　より　そうる　ものども　きうりて　おわく　うくる　あとんと　おゆくり、それども　めれとも　[10]そとめの　ものども　きうりて　まるおの　あの　ぎん　ひとうを　うけうり。[11]これを　うけて　いくの　あるど　さうろて　つぶやき　いひ　けるん、[12]この　あとの　ものん　たれ　のくろうと　あうさを　ものぎうる　これとと　ひとーくを　めれよの　ひとりよ　いひ　けるん、とゆよ、これ　あんぢん　これと　ぎん　ひとうと　きめぐりーや。[14]あんぢの　ものを　とりて　ゆけ、これ　あんぢと　ひとーく　このの　あとの　ものよ　あうくんと　ゐちぞよ。[15]おのれの　ものを　ひげ　ありて　まるよ　あをん　よろこぶや。これ　よきよ　よろこぶ　あとの　ものん　さきよ　あり、さきの　ものん　あとよ　あとん、〔よぐる〜　すくあー。」

[10] *nozezu
[16] Dāi 1, 2, 5, 9,

Yerusalemuni
17 ᵐᵒ ᵐᵉ ᵐᵒ ᵐᵒ ᵐᵒ

Dái 1, 7, Dabideno kō Yesu Kimiyo,
たびでの こ ぜそま、 これとを あそれこ たまん。 31 さて ひとびと かれとよ
だまれと いまーめ けれども まをなす さけびて、 だびでの こ きそよ、 これとを
あそれこ たまんと いへり。 32 為す とじまり かれよを よびて、 これ あんぢとよ
なるを な す ことを ねがふやとの のまひ ければ、 33 きそよ、 これとの ものひとく
やうると いへり。 34 さて 為す あそれこよ かんドその めよ さそり けれびたちよ
Dái 4, 8, 9, me mīru
"そる ことを 為て 為をよ ぜくぐへり。

第二十一章

Yerusalemuni Kānran zénno Betfagéni
かれとよ 為るされもよ ちうぐき かんとん ざんの べてをけよ いるる とまり 為す
あるりの でーを つろそーて めれとよ いひ けるん、 2 なんぢらの むかふの むらよ
ゆけ、 たぐちよ つあけるろぞと その このよ をるよ あそん、 これを ときて
われよ ひき ぜくれ。 3 もー たれろ なんぢとう いそぐ、 きそのの おうまう
なりと いへ、 さとび すそやうよ それを おくとん。 4 よけんーやよ よりて、 そる、

なんぢの とう おうをるーて ろぞ 5 すあそ
nīwo ōu kemōno
のりて なんぢよ ぜくる とまるの ひめ こよ
Biomo hímeni
めく なれり。 6 でーゆきて 為をの めの ぜーごとく なー ろぞと その ことを ひぜ
Dái 1, 7, ōki Yesuwo sōno uyèni nosèri.
ぜくりて 7 これよ ぜものを "おきけれび 為す そのうんよ のりるまへり。 8 おあ
くの ひとびとん おのれの ぜものを そちに
きりて そちよ ひろけり。 9 さまよ ゆく おあぜくの ものと あとよ をるぐひるる
Hozana, aruiwa medetàki kāna
もの よぞるりて いひ けるん、 わぐる、 だびでの こよ、 ぜその なよ よりて ぜるる
Yerusalemmi
ものん さらそひ なり。 ゆりとも たうぜよ おりて わぜあよ。 10 つひよ 為るされもよ
いると ぜも まちぢうの ものの ぜそぎるりて
Gallaino Nazare
いひ けるん、 これん たれぞや。 11 おあぜ
"の ものの いひ けるん、 がりよの あぐれ よりの よけんーや 為す なりと。
Dái 1, 2, "Kamino" arazu
12 為をと "めその そやよ いり そやるて うん
りやうぐへやの だりと そとうりの てーうるまひ けるん、 13 これ

いくん いのりの いくと ながけとる べー、さ
あると なせりと そるされくり。14 めくとと めく
めれくを いやー たまへり。15 おゆき めんゆー
ふーぎ なる ひざと ことゆげ そやゆて わぐる、だびでの ことと よぜくり いくを
そて いくりを ふくき 16 あをよ いひ けるん、あんぢん これとの いく ことを
きくや。あを めれくよ のくまひ けるん、そうり、おさまご まく ちのそごの くち
より あんぢよ わゆるを そるへりと そるされーを あんぢよ めりて よまぜりーや。
17 つのよ かれくを そあれ まち よりいそ べくるやよ いくりて そこよ やどれり。
18 よくあさ あを まちよ めくる とき うあくまひーげ そちの わとりよ いちとくの
きを そて それよ いくるよ くぐ はの わくよ あゆゆ そのぜさぐりー。19 さて これ
よ、あんぢん この のちいくまでも そをむをぶまーじと のくまひ けれど。くぐちよ
その いちとく かれくり。20 でーとも これを そて あやーを いひけるん、いちとくの

Hozana, Dabideno
Betaniani

めれーん いくるゆ すそやう あるか。21 あを こくて のくまひ けるん、これ
まことよ あんぢくよ つけん、あんぢとよ そうをぎんべ いちとくよ おくをふ のを
あーぐ、この やまよ、あんぢ とり あけられて うそよ あけこまれよと いそぐ それゆ あるべー。22 まく あるくて ゆ あんぢとげ いのる
とき そんとて ねがそぐ ことごとく うくべー。
23 あを そやよ いりて そーゆる とき おゆき めんゆー と たその とーありどゆ
きくりて いひけるん、あるくん あんの けんゆを ゆうて これらの ことを あすや。
そのけんゆを あるへーん たれぞや。24 あを こくて のくまひ けるん、これ
あんぢくよ ひとうの ことを たらねん、これを こくんまんべ これゆ あるの けんゆを
ゆうて この ことを あすやを あんぢくよ めくとり
よりぞや、てんよりう、あんけん よりう。めれと たゆひよ ろんどて いひ けるん、
ゆー てん よりと いそぐ めれ いそん、さくべ あんぞ めれを そんぜぐりーやと、

Yohanseno eidzumewa

26 されど あんけん ありと いそぢ、それ、ひと そを よをねん
Yoganen
よげんーや ありと おもんぢ あり。 27 つひよ 多寸よ こころくて、これと そと ぎと
いんり。 多寸 めれと よ いひ けるん、
ことを あすや を あんぢーよ めことぎ。
28 あんぢと このことを いろぢ おもみや。 あるひとよ ふさりの むすこ ありーグ
あるー きさりて、むすこよ、こんうち ふさう そうけよ ゆきて そことけると いひ
ければ 29 めれ こころくて、ありを申と いんり、されど のちよ くひて ゆきさり。
30 まこ おとうとよ きさりて おもよく いひければ めれ こころくて そうり、そゆとんよ
と いひーうとも ゆうぎりー。 31 さて このふさりの うち いづれグ ちこの むねを
あをーや。 めれと、あると いんり、多寸 のこまひ けるん、まことよ あんぢとよ
つけん、そうぎとりと あそびめ たるも あんぢと より さきよ めその そこるー
いとん。 32 これ、よをねん あんぢーよ たぢーき そち より きさりーよ あんぢと

めれを そんをぎりー、されど そうぎとりと あそびめん かれを そんをぎり。 めら
あんぢとん これを そても かれを そんをる やうよ のちよ くひ あとこめぎりー。
33 まこ あうの たとんを きけよ。 ある いんの あると ふさう そこけを うを
まがきを めぐとーて その うちよ さうぶねの あるを わり やぐとを たて これを
ひやくそうどもよ かーて たびぢちを そのそを あんとて そもべとをを ひやくそうの
そこう その そもべとを ととんて ひとりを うち ひとりを こころー ひとりを いーまて
うてり。 36 まこ まへ よりも おおく あうの そもべとをを つうををーグ かれとうも
おおとく あをり。 37 つひうん かれと 多寸 うやまそんと いひて その
むすこを つうををーグ 38 ひやくそうよう その むすこを そて あひ たびひよ いひ
けるん、これん あとうぎ あり、いぎ かれを ころす べー、 39 つひよ かれを ととん ふさう そこけの そとよ あひ いぎーて

ルカによる福音書 11章

ルカ
ように。」
Farisaibito
45 すると、律法の専門家の一人がイエスに言った、「先生、そんなことを言われると、私たちをも侮辱することになります。」46 イエスは言われた、「あなたがた律法の専門家にも災いがある。人には負いきれない重荷を負わせながら、あなたがた自身はその重荷に指一本触れようとしないからだ。47 あなたがたは災いである。預言者たちの墓を建てているが、その預言者たちを殺したのは、あなたがたの先祖なのだ。48 だから、あなたがたは先祖のしわざを証明し、それを是認しているわけだ。先祖は預言者たちを殺し、あなたがたは墓を建てているからである。49 だから、神の知恵もこう言っている、『わたしは預言者や使徒たちを彼らに遣わすが、彼らはその中のある者を殺し、ある者を迫害するであろう』と。50 それゆえ、アベルの血から、祭壇と聖所との間で殺されたザカリヤの血にいたるまで、世の初めから流されたすべての預言者の血について、この時代の者たちは責を負うであろう。51 まことに、あなたがたに言う、この時代の者たちは責を負うであろう。52 あなたがた律法の専門家は災いである。知識の鍵を取り去ってしまい、自分も入らないし、入ろうとする人をも妨げているからだ。」53 イエスがそこを出て行かれると、律法学者たちやパリサイ人たちは激しくイエスに迫り、いろいろな事について口をふさがせようとねらい、54 イエスの口から何か出るのを待ち伏せていた。

第 12 章

1 そのうちに、数万の群衆が集まってきて、互に踏みあうほどになった。イエスはまず弟子たちに言われた、「パリサイ人のパン種、すなわち偽善には、気をつけるがよい。2 おおわれて現されないものはなく、隠れていて知られないものはないからである。3 だから、あなたがたが暗やみで言ったことは、みな明るみで聞かれるであろう。また、あなたがたが奥の間でささやいたことは、屋根の上で言い広められるであろう。

4 「わたしの友だちであるあなたがたに言う、からだを殺しても、その後それ以上なにもできない者どもを恐れるな。5 だれを恐れるべきかを、あなたがたに教えよう。殺したのち、地獄に投げ入れる権威をもっている者を恐れるがよい。まことに、あなたがたに言う、この者を恐れるがよい。6 五羽の雀が二アサリオンで売られているではないか。しかも、その一羽でも神の前に忘れられてはいない。7 あなたがたの頭の毛までも、すべて数えられている。恐れるな、あなたがたは多くの雀よりも価高い者である。

8 「わたしもあなたがたに言う、だれでも人の前でわたしを認める者は、人の子もまた神の御使たちの前でその人を認めるであろう。9 しかし、人の前でわたしを知らないと言う者は、神の御使たちの前でその人を知らないと言われるであろう。10 また、人の子をそしる言葉を言う者は赦されるであろう。しかし、聖霊をそしる者は赦されないであろう。11 人々があなたがたを会堂や役人や権力者の前に引き出すときは、何をどう言い開きをしようか、また何を言おうかと、心配するには及ばない。12 言うべきことは、聖霊がその時に教えるであろう。」

13 群衆の中のひとりが言った、「先生、わたしの兄弟に、遺産を分けてくれるように言ってください。」14 イエスは言われた、「だれがわたしを、あなたがたの裁判人や調停人にしたのか。」15 そして人々に言われた、「どんな貪欲にも注意して、警戒しなさい。人の命は財産の豊かさにあるのではない。」16 それから、たとえを語られた、「ある金持の畑が豊作であった。17 そこで、彼は心の中で考えた、『どうしたらよかろう、作物をしまっておく場所がない』。18 そして言った、『こうしよう、倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や財産をみなそこにしまい込もう。19 そして、自分のたましいに言ってやろう、たましいよ、当分のあいだ幾年分もの財産ができたから、安心せよ、食え、飲め、楽しめ』。20 しかし神は彼に言われた、『愚かな者よ、おまえのたましいは今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おまえが用意した物は、だれのものになるのか』。21 自分のために財産を積んでも、神に対して富まない者はこのとおりである。」

22 それから、弟子たちに言われた、「だから、あなたがたに言う、自分の命のことで、何を食べようか、何を着ようかと、思いわずらうな。23 命は食物よりも大切であり、からだは着物よりも大切である。24 烏のことを考えてみるがよい。蒔きもせず、刈りもせず、納屋も倉も持たないが、神は彼らを養っていて下さる。あなたがたは鳥よりも、どれほど価高い者であるか。25 あなたがたのうちで、思いわずらったからといって、寿命を少しでも延ばすことができようか。26 こんな小さなことさえできないのに、なぜほかのことまで思いわずらうのか。27 野の花がどうして育つのかを考えてみるがよい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、栄華をきわめたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。28 今日あって明日は炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装ってくださるのだから、あなたがたには、なおさらのことではないか。信仰の薄い者たちよ。29 何を食べようか、何を飲もうかと、心を悩ますな。30 これらはみな、この世の異邦人が切に求めているものである。あなたがたの父は、これらのものが必要であることを知っておられる。31 ただ神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられるであろう。

32 「小さい群れよ、恐れるな。あなたがたの父は、喜んで神の国をくださるのである。33 自分の財産を売り払って施しをしなさい。自分のために、古びることのない財布を作り、尽きることのない宝を天に積みなさい。そこは盗人も近寄らず、虫も食い荒さない。34 あなたがたの宝のあるところには、心もまたあるからである。

35 「腰に帯を締め、ともしびをともしていなさい。36 主人が婚宴から帰って来て戸をたたくとき、すぐに開けようと、待っている人のようにしていなさい。37 主人が帰って来たとき、目をさましているのを見られる僕たちは幸いである。まことに、あなたがたに言う、主人は帯を締めて僕たちを食卓につかせ、そばに来て仕えるであろう。38 主人が夜中に帰って来ても、また夜明けに帰って来ても、目をさましているのを見られる僕たちは幸いである。39 このことを知っておきなさい。家の主人は、どろぼうがいつ来るかを知っていたら、自分の家に穴をあけさせはしないであろう。40 あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るのである。」

41 ペテロが言った、「主よ、このたとえはわたしたちのために話されるのですか、それともみんなのためですか。」42 主は言われた、「主人が召使たちの上に立てて、定めの時に食物を分けさせる忠実な思慮深い家令は、いったいだれであろうか。43 主人が帰って来たとき、その僕が忠実に仕えているのを見られるなら、その僕は幸いである。44 まことに、あなたがたに言う、主人はその僕を立てて、自分の全財産を管理させるであろう。45 しかし、その僕が心の中で、主人は帰りが遅いと思い、男女の奴隷を打ちたたき、食べたり飲んだりして酔いはじめるなら、46 その僕の主人は、思いがけない日、気づかない時に帰って来て、彼を厳しく罰し、不信者どもの仲間に入れるであろう。47 主人の心を知りながら、それに従って用意もせず仕えもしなかった僕は、ひどく打たれるであろう。48 しかし、知らずにいて打たれるに値することをした者は、打ちたたきは少なくてすむであろう。すべて与えられた者は多く求められ、人から多く預けられた者は多く要求されるのである。

49 「わたしは地上に火を投じるために来たのである。その火がすでに燃えていたらと、どんなに願っていることか。50 わたしには受けねばならないバプテスマがある。それが成し遂げられるまでは、わたしはどんなに苦しむことか。51 あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない、あなたがたに言う、分争をもたらすために来たのである。52 今から後は、一家の五人が互に相分れ、三人が二人に、二人が三人に対して分れるであろう。53 父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに、対して分れるであろう。」

54 また群衆に言われた、「あなたがたは、西に雲が起るのを見ると、すぐ『にわか雨が来る』と言う。そのとおりになる。55 また、南風が吹くと、『暑くなるぞ』と言う。そのとおりになる。56 偽善者たちよ、地や空の模様を見分けることを知っていながら、どうしてこの時を見分けることを知らないのか。57 また、なぜ自分から進んで正しいことを判断しないのか。58 あなたを訴える者と一緒に役人のところへ行く途中、途上で彼と和解するように努めなさい。そうしないと、彼があなたを裁判官のところへ引っぱって行き、裁判官があなたを獄吏に引き渡し、獄吏があなたを獄に投げ入れるであろう。59 あなたに言う、最後の一レプタを返すまでは、決してそこから出ることはできないであろう。」

第 13 章

1 ちょうどその時、ある人々がイエスに、ガリラヤ人たちのことを告げた。彼らのささげた犠牲に、ピラトが彼らの血を混ぜたのである。2 イエスは答えて言われた、「そのガリラヤ人たちが、そのような災難にあったからといって、ほかのガリラヤ人たちよりも罪の大きい者だと思うのか。3 あなたがたに言う、そうではない。あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう。4 また、シロアムの塔が倒れて圧死した十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも罪の負い目のある者だと思うのか。5 あなたがたに言う、そうではない。あなたがたも悔い改めなければ、みな同じように滅びるであろう。」

6 そして、この譬を話された、「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておいたが、実を求めて来てみると、一つもなかった。7 そこで園丁に言った、『ごらん、わたしは三年もこのいちじくの木に実を求めて来ているが、一つもない。切り倒してしまえ。なぜ土地をむだにしておくのか』。8 すると園丁は答えた、『ご主人様、今年もそのままにしておいてください。木の周りを掘って肥やしをやってみますから、9 来年実がなるかもしれません。もしなければ、切り倒してください』。」

10 イエスは安息日に、ある会堂で教えておられた。11 そこに、十八年間も病の霊にとりつかれている女がいた。腰が曲がったままで、どうしても伸ばすことができなかった。12 イエスは彼女を見て、呼び寄せ、「婦人よ、あなたの病気はなおった」と言われ、13 彼女の上に手を置かれた。すると、彼女はたちまち腰が伸びて、神をあがめた。14 ところが、イエスが安息日に病気をなおされたことに憤慨して、会堂司は群衆に言った、「働くべき日は六日ある。その間になおしてもらうために来るがよい。安息日はいけない。」15 すると主は彼に答えて言われた、「偽善者たちよ、あなたがたは安息日に、自分の牛やろばを小屋から引き出して水を飲ませに連れて行くではないか。16 この女はアブラハムの娘であるのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日にその束縛を解いてやるべきではなかったか。」17 こう言われると、反対者たちはみな恥じ入り、群衆はこぞってイエスのなさったすべての輝かしいみわざを喜んだ。

18 そこでイエスは言われた、「神の国は何にたとえようか。何に比べようか。19 それは、からし種のようなものである。人がそれを取って庭に蒔くと、成長して木になり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどになる。」

20 また言われた、「神の国を何にたとえようか。21 それは、パン種のようなものである。女がそれを取って三サトンの粉の中に入れると、全体がふくれるのである。」

22 イエスは町や村を次々に教えながら、エルサレムへの旅を続けておられた。23 ある人がイエスに言った、「主よ、救われる者は少数なのでしょうか。」24 イエスは言われた、「狭い戸口から入るように努めなさい。あなたがたに言う、入ろうとしても入れない人が多いであろう。25 家の主人が立って戸を閉めてしまってから、あなたがたが外に立って戸をたたき、『主よ、開けてください』と言っても、主人は答えて、『あなたがたがどこの者だか知らない』と言うであろう。26 その時あなたがたは、『あなたと一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、あなたはわたしたちの町で教えてくださいました』と言いはじめるであろう。27 しかし、彼は言うであろう、『あなたがたがどこの者だか知らない。不義を行う者どもよ、みんなわたしから離れ去れ』。28 あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブおよびすべての預言者が神の国にいるのに、自分は外に投げ出されることになって、そこで泣いて歯がみをするであろう。29 人々は東から西から、また北から南から来て、神の国で宴会の席につくであろう。30 そして、あとの者で先になる者があり、先の者であとになる者がある。」

31 ちょうどその時、パリサイ人たちが来て、イエスに言った、「ここから出て行きなさい。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」32 イエスは言われた、「行って、あの狐に言いなさい、『わたしは今日も明日も悪霊を追い出し病をいやし、三日目に全うされる』。33 しかし、わたしは今日も明日も、その次の日も、進んで行かなければならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、あり得ないからである。34 ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、遣わされた者たちを石で打ち殺す者よ、めんどりがひなを翼の下に集めるように、わたしはどれほどあなたの子らを集めようとしたことか。しかし、あなたがたはそれを望まなかった。35 見よ、あなたがたの家は荒れ果てたままになる。まことに、あなたがたに言う、『主の名によって来る者に祝福あれ』と言う時が来るまでは、あなたがたは決してわたしを見ることはできないであろう。」

第 14 章

1 イエスが安息日に、ある指導的なパリサイ人の家に入って食事をされた時のことである。人々はイエスの様子をうかがっていた。2 そこに、水腫を病んでいる人が、イエスの前にいた。3 イエスは律法の専門家たちやパリサイ人たちに問いかけて言われた、「安息日にいやすことは、律法にかなっているか、いないか。」4 彼らは黙っていた。そこでイエスは病人をお癒しになって、帰らせられた。5 そして彼らに言われた、「あなたがたのうちで、自分の子供または牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者があろうか。」6 彼らはこれらのことに対して、答えることができなかった。

7 イエスは、招かれた人たちが上座を選ぶのを見て、彼らにたとえを話された、8 「だれかに婚宴に招かれたら、上座についてはいけない。あなたよりも身分の高い人が招かれているかもしれない。9 あなたとその人とを招いた人が来て、『この人に席をゆずってください』と言うであろう。その時あなたは恥じ入って末席につくことになるであろう。10 招かれたら、むしろ末席についていなさい。そうすれば、あなたを招いた人が来て、『友よ、もっと上席へお進みください』と言うであろう。そのとき、あなたと一緒に席についている人たちの前で、面目を施すことになるであろう。11 だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」

12 また、イエスは自分を招いた人にも言われた、「昼食または夕食の会を催すときは、友人、兄弟、親族、近所の金持などを呼ぶな。恐らく彼らもあなたを招き返して、それであなたは報いられることになるであろう。13 宴会を催すときは、貧しい人、不具者、足なえ、盲人などを招きなさい。14 そうすれば、彼らは返礼ができないから、あなたは幸いになるであろう。正しい人たちの復活の際に、報いられることになるからである。」

15 イエスと一緒に食卓についていた人のひとりがこれを聞いて、イエスに言った、「神の国でパンを食べる人は幸いです。」16 イエスは言われた、「ある人が大宴会を催して、多くの人を招いた。17 宴会の時刻になったので、招いておいた人たちのところへ僕をやって、『さあ、おいでください、用意ができましたから』と言わせた。18 ところが、みな口実を設けて断りはじめた。最初の人は言った、『畑を買いましたので、どうしても行かなければなりません。どうぞ、失礼させてください』。19 また他の人は言った、『牛を五くびき買いましたので、それを調べに行くところです。どうぞ、失礼させてください』。20 また他の人は言った、『妻をめとりましたので、行くことができません』。21 僕は帰って来て、これらのことを主人に報告した。すると家の主人は怒って、僕に言った、『すぐに町の大通りや小路へ出て行って、貧しい人、不具者、盲人、足なえなどを、ここへ連れて来なさい』。22 僕は言った、『ご主人様、仰せのとおりにいたしましたが、まだ席があります』。23 主人は僕に言った、『街道や垣根のところへ出て行って、人々を強いてでも連れて来なさい、わたしの家を満席にしたいから。24 あなたがたに言うが、あの招かれた人たちのうちで、わたしの宴会の食事を味わう者は、ひとりもいないであろう』。」

25 大ぜいの群衆がイエスと一緒に歩いていたが、イエスは彼らの方に向いて言われた、26 「もしだれかがわたしのもとに来るとしても、自分の父、母、妻、子供、兄弟、姉妹、さらに自分のいのちまでも憎まないならば、わたしの弟子ではありえない。27 自分の十字架を負うてわたしについて来る者でなければ、わたしの弟子ではありえない。28 あなたがたのうちで、塔を建てようとするとき、まず腰をすえて、完成するのに必要な費用があるかどうかを計算しない者があろうか。29 基礎だけ置いて完成することができなければ、見ている人はみな、彼をあざけって、30 『この人は建てはじめたが、完成することができなかった』と言いはじめるであろう。31 また、どの王が、他の王と戦いを交えようとするとき、まず腰をすえて、自分の一万の兵をもって二十万の兵を率いて攻めて来る敵に対抗できるかどうかを考えてみないであろうか。32 もしできないとすれば、敵がまだ遠くにいるうちに、使者を送って和を求めるであろう。33 このように、あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨てる者でなければ、わたしの弟子ではありえない。

34 「塩は良いものである。しかし、塩も塩気がなくなったら、何によってその味が取り戻されようか。35 土にも肥料にも役だたず、外に捨てられるほかはない。聞く耳のある者は聞くがよい。」

第 15 章

1 さて、取税人たちや罪人たちがみな、イエスの話を聞こうとして近寄って来た。2 パリサイ人たちや律法学者たちはつぶやいて言った、「この人は罪人たちを迎えて、一緒に食事までする。」3 そこでイエスは彼らにこのたとえを話された、4 「あなたがたのうちで、百匹の羊を持っている人があって、その一匹を失ったとすれば、九十九匹を野原に残しておいて、失った一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。5 そして、見つけたら喜んでそれを肩にかつぎ、6 家に帰って来て、友だちや隣人を呼び集めて言うであろう、『わたしと一緒に喜んでください、失った羊を見つけましたから』。7 あなたがたに言う、このように、悔い改めを必要としない九十九人の義人のためよりも、悔い改める一人の罪人のためにこそ、天には大きな喜びがあるであろう。

8 「あるいは、ドラクメ銀貨を十枚持っている女があって、その一枚を失ったとすれば、ともしびをともして家を掃き、見つけるまでは注意深く捜さないであろうか。9 そして、見つけたら女友だちや隣人を呼び集めて言うであろう、『わたしと一緒に喜んでください、失ったドラクメ銀貨を見つけましたから』。10 あなたがたに言う、このように、一人の罪人が悔い改めるならば、神の御使たちの前に喜びがあるであろう。」

11 また言われた、「ある人に二人の息子があった。12 弟が父に言った、『お父様、財産のうちわたしがもらうべき分をください』。そこで父は財産を二人に分けてやった。13 それから幾日もたたないうちに、弟は何もかもまとめて遠い国へ旅立ち、そこで放蕩に財産を浪費してしまった。14 何もかも使い果たした時、その国にひどい飢饉が起って、彼は食うにも困りはじめた。15 そこで、その国の人のところに行って身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚を飼わせた。16 彼はいなごまめを食べてでも腹を満たしたいほどであったが、それすらも与える者がなかった。17 そこで彼は我に返って言った、『父のところには、あんなに大勢の雇人がいて、パンがあり余っているのに、わたしはここで飢え死にしようとしている。18 立って父のところに行って、こう言おう、お父様、わたしは天に対しても、またお父様に対しても罪を犯しました。19 もはや息子と呼ばれる資格はありません。どうぞ雇人のひとりにしてください』。20 そして立って父のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父は彼を見つけて憐れに思い、走り寄って首を抱き、口づけした。21 息子は言った、『お父様、わたしは天に対しても、またお父様に対しても罪を犯しました。もはや息子と呼ばれる資格はありません』。22 しかし父は僕たちに言った、『急いでいちばん良い衣を持ってきて、この子に着せ、手に指輪をはめ、足に履物をはかせなさい。23 また、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて祝おうではないか。24 この息子は死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったからである』。そして祝いはじめた。25 ところで、兄は畑にいたが、帰って来て家に近づくと、音楽や踊りの騒ぎが聞えてきた。26 そこで僕のひとりを呼んで、これはいったいどうしたことかと尋ねた。27 僕は言った、『弟さんが帰って来ました。無事な姿を迎えたというので、お父さんが肥えた子牛をほふったのです』。28 すると兄は怒って、家に入ろうとしなかった。父が出て来てなだめると、29 兄は父に言った、『わたしは何年もの間お父様に仕えて、一度もお言いつけにそむいたことはありません。それなのに、わたしが友だちと宴会をするようにと、子やぎ一匹すらくださったことがありません。30 ところが、遊女どもと一緒にお父様の財産を食いつぶしたこのご子息が帰って来ますと、肥えた子牛をほふってやるとは』。31 父は言った、『子よ、おまえはいつもわたしと一緒にいる。わたしのものはみなおまえのものだ。32 しかし、この弟は死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから、祝い楽しむのは当然ではないか』。」

第 16 章

1 また弟子たちに言われた、「ある金持に管理人がいた。この管理人が主人の財産を無駄使いしていると、告げ口をする者があった。2 そこで主人は彼を呼びつけて言った、『おまえについて聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理人を続けてもらうわけにはいかないから』。3 管理人は心の中で言った、『主人はわたしから管理の仕事を取り上げようとしている。どうしようか。土を掘る力もないし、物乞いをするのも恥ずかしい。4 そうだ、こうしよう、管理人の仕事をやめさせられたら、人々がわたしを自分の家に迎えてくれるようにしよう』。5 そこで、主人の負債者を一人一人呼び寄せて、まず最初の人に言った、『わたしの主人に対するあなたの負債はどれだけですか』。6 彼は言った、『油百バテスです』。管理人は言った、『これがあなたの証文だ。すぐにすわって、五十バテスと書きなさい』。7 次に他の人に言った、『あなたの負債はどれだけですか』。彼は言った、『小麦百コロスです』。管理人は言った、『これがあなたの証文だ。八十コロスと書きなさい』。8 主人はこの不正な管理人が利口なやり方をしたのをほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも利口にふるまっているからである。9 わたしもあなたがたに言う、不義の富で友だちを作っておきなさい。そうすれば、富が失われる時に、あなたがたは永遠の住まいに迎えてもらえるであろう。

10 「小さいことに忠実な者は、大きいことにも忠実であり、小さいことに不忠実な者は、大きいことにも不忠実である。11 だから、不義の富について忠実でなかったなら、だれが真の富をあなたがたにゆだねるであろうか。12 また、他人のものについて忠実でなかったなら、だれがあなたがたのものを与えてくれるであろうか。

13 「どんな僕でも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるかである。あなたがたは神と富とに仕えることはできない。」

14 パリサイ人たちは金に執着する者であったので、これらのことをすべて聞いて、イエスをあざ笑った。15 そこでイエスは彼らに言われた、「あなたがたは人の前で自分を義とする者であるが、神はあなたがたの心をご存じである。人の間で尊ばれるものは、神の前で忌みきらわれるものである。

16 「律法と預言者とはヨハネの時までであって、それ以来、神の国は福音として宣べ伝えられ、すべての人がそれに力ずくで入ろうとしている。17 しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の消え去る方が、もっとたやすいことである。

18 「だれでも妻を離別して他の女をめとる者は姦淫を行うのであり、離別された女をめとる者も姦淫を行うのである。

19 「ある金持がいた。紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。20 ラザロという、できものだらけの貧しい人が、この金持の門前に寝かされ、21 その食卓から落ちる物で腹を満たしたいものだと思っていた。犬どもまでも来てできものをなめていた。22 この貧しい人が死んで、御使たちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持も死んで葬られた。23 彼は陰府でさいなまれながら目を上げると、はるかかなたにアブラハムがいて、そのふところにラザロがいるのが見えた。24 そこで大声で言った、『父アブラハムよ、あわれんでください。ラザロに命じて、指先を水に浸してわたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中で苦しくてたまりません』。25 しかしアブラハムは言った、『子よ、思い出すがよい、おまえは生きている間に良いものを受け、ラザロは悪いものを受けたではないか。今ここでは彼は慰められ、おまえは苦しみもだえている。26 その上、わたしたちとおまえたちとの間には大きな淵があって、ここからそちらへ渡ろうとしても渡れないし、そこからこちらへも越えて来ることはできない』。27 すると彼は言った、『父よ、それでは、お願いです、わたしの父の家にラザロをやってください。28 わたしには五人の兄弟がありますが、彼らまでもこの苦しみの場所に来ることのないように、ラザロをやって、よく言い聞かせてください』。29 しかしアブラハムは言った、『彼らにはモーセと預言者とがいる。その言うことを聞くがよい』。30 彼は言った、『父アブラハムよ、そうではありません。もしだれかが死人の中からでも彼らのところに行ってやったら、悔い改めるでしょう』。31 アブラハムは言った、『モーセと預言者とに聞かないのだから、たとえだれかが死人の中からよみがえっても、その勧めを聞き入れはしないであろう』。」

第 17 章

1 イエスは弟子たちに言われた、「つまずきを与えることは避けられないが、それをもたらす者は不幸である。2 これらの小さい者のひとりにつまずきを与えるよりは、ひき臼をその首にかけられて海に投げ入れられる方が、彼にとってまだましである。3 あなたがたは自分に気をつけるがよい。

「もし兄弟があなたに対して罪を犯したなら、彼をいさめなさい。そして悔い改めたら、赦してやりなさい。4 一日に七度あなたに対して罪を犯しても、七度あなたのところに来て、『悔い改めます』と言うなら、赦してやりなさい。」

5 使徒たちが主に言った、「わたしたちの信仰を増してください。」6 主は言われた、「あなたがたに、からし種一粒ほどの信仰があるならば、この桑の木に、『抜け出して海に植えかえられよ』と言っても、言うことを聞くであろう。

7 「あなたがたのうちで、僕が耕作か羊飼いかをしていて、畑から帰って来たとき、『すぐ来て食卓につきなさい』と言う者があろうか。8 むしろ、『夕食の用意をしてくれ、帯を締めて給仕をしてくれ、わたしが食べたり飲んだりしてしまうまで。あとでおまえも食べたり飲んだりするがよい』と言うではないか。9 命じられたことをしたからといって、その僕に感謝するであろうか。10 あなたがたも同じように、命じられたことをみな行ったら、『わたしたちは取るに足りない僕です、なすべきことをしたのです』と言いなさい。」

11 さて、イエスはエルサレムへ上る途中、サマリヤとガリラヤとの間を通られた。12 ある村に入られると、十人のらい病人がイエスに出会った。彼らは遠くの方に立ち止まって、13 声を張り上げて言った、「イエス様、先生、どうかあわれんでください。」14 イエスは彼らを見て言われた、「行って、祭司たちに自分を見せなさい。」彼らは行く途中で清くされた。15 彼らのうちのひとりは、自分がいやされたのを知って、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリヤ人であった。17 イエスは言われた、「清くされたのは十人ではなかったか。九人はどこにいるのか。18 この外国人のほかに、引き返して来て神をほめたたえる者は、ひとりもいないのか。」19 そして彼に言われた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのである。」

20 神の国はいつ来るのかと、パリサイ人たちに問われたので、イエスは答えて言われた、「神の国は、見られるようにして来るものではない。21 また、『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。神の国は実に、あなたがたのただ中にあるのだ。」

22 また弟子たちに言われた、「人の子の日を一日でも見たいと思う時が来るであろうが、見ることはできないであろう。23 人々があなたがたに、『ここにいる』『あそこにいる』と言っても、行ってはならない、追いかけてはならない。24 ちょうど稲妻が閃いて天の一方から他の方までを照らすように、人の子もその日には現れるであろう。25 しかし、彼はまず多くの苦しみを受け、この時代の人々に捨てられることになっている。26 ノアの時のようなことが、人の子の日にも起るであろう。27 ノアが箱舟にはいる日まで、人々は飲んだり食べたり、めとったり嫁いだりしていたが、洪水が来て、すべての者を滅ぼしてしまった。28 ロトの時のようなことが起るであろう。人々は飲んだり食べたり、買ったり売ったり、植えたり建てたりしていたが、29 ロトがソドムから出て行った日に、火と硫黄とが天から降って来て、すべての者を滅ぼしてしまった。30 人の子の現れる日には、ちょうどそのようなことが起るであろう。31 その日には、屋上にいる者は、家の中に持ち出す物があっても、それを取りに下に降りてはならない。同じように、畑にいる者も帰ってはならない。32 ロトの妻のことを思い出すがよい。33 自分のいのちを得ようと思う者はそれを失い、それを失う者はそれを保つであろう。34 あなたがたに言う、その夜、一つの寝床に二人の者がいるであろうが、ひとりは取られ、ひとりは残されるであろう。35 二人の女が一緒に臼をひいているであろうが、ひとりは取られ、ひとりは残されるであろう。36 二人の男が畑にいるであろうが、ひとりは取られ、ひとりは残されるであろう。」

37 弟子たちはイエスに言った、「主よ、それはどこでですか。」イエスは言われた、「死体のあるところには、はげたかも集まるものだ。」

第 18 章

1 また、イエスは弟子たちに、いつも祈って失望してはならないことを教えるために、たとえを話された、2 「ある町に、神を恐れず人を人とも思わない裁判官がいた。3 その町に、ひとりのやもめがいて、彼のところにたびたびやって来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と願っていた。4 裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかったが、後には心の中で考えた、『自分は神を恐れず人を人とも思わないが、5 このやもめがうるさくてしかたがないから、裁いてやることにしよう。そうしないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目にあわせるにちがいない』。」6 主は言われた、「不義な裁判官の言うことを聞いたであろう。7 まして神は、昼夜叫び求めている選民のために、裁きをなさらないであろうか。8 あなたがたに言う、すみやかに裁きをしてくださるであろう。しかし、人の子が来る時に、地上に信仰を見いだすであろうか。」

9 また、自分は正しい人間だとうぬぼれて他の人々を見下している者たちに対して、イエスはこのたとえを話された、10 「ふたりの人が祈るために宮に上った。ひとりはパリサイ人であり、ひとりは取税人であった。11 パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫を行う者でなく、また、この取税人のようでもないことを、感謝します。12 わたしは週に二度断食をし、自分の得ているものはみな、献げております』。13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に上げようともせず、胸を打ちたたいて言った、『神様、罪人のわたしをあわれんでください』。14 あなたがたに言うが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのパリサイ人ではない。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。」

15 イエスにさわっていただくために、人々が乳飲み子たちを連れて来た。弟子たちはそれを見て、叱った。16 しかしイエスは彼らを呼び寄せて言われた、「子供たちをわたしのところに来るままにしておきなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。17 まことに、あなたがたに言う、子供のように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこにはいることはできない。」

18 ある指導者がイエスに尋ねて言った、「善い先生、何をしたら永遠の生命を受けることができましょうか。」19 イエスは言われた、「なぜわたしを善いと言うのか。神ひとりのほかに善い者はない。20 あなたは戒めを知っているはずだ、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証するな、父と母とを敬え』。」21 彼は言った、「それらはみな、小さい時から守っております。」22 イエスはこれを聞いて言われた、「あなたに欠けていることが、まだ一つある。あなたの持っているものをすべて売り払って貧しい人たちに施しなさい。そうすれば、天に宝を持つことになるであろう。それから、わたしについて来なさい。」23 彼はこれを聞いて、非常に悲しんだ。大金持であったからである。24 イエスは彼を見て言われた、「財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむずかしいことであろうか。25 金持が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方がもっとたやすいことである。」26 聞いていた人々は言った、「それでは、だれが救われることができましょうか。」27 イエスは言われた、「人にはできないことも、神にはできる。」

28 ペテロが言った、「ごらんなさい、わたしたちは自分のものを捨ててあなたに従ってまいりました。」29 イエスは言われた、「まことに、あなたがたに言う、神の国のために家、妻、兄弟、両親、子供を捨てた者は、30 必ずこの世でその幾倍かを受け、また後の世で永遠の生命を受けるであろう。」

31 イエスは十二弟子をそばに呼び寄せて言われた、「さあ、わたしたちはエルサレムへ上って行く。預言者たちが人の子について書いたことは、すべて成就するであろう。32 彼は異邦人に引き渡され、あざけられ、はずかしめられ、つばきをかけられ、33 むちで打たれた上で殺されるであろう。そして三日目によみがえるであろう。」34 しかし弟子たちは、これらのことを何ひとつ悟ることができなかった。この言葉の意味が隠されていて、イエスの言われたことが理解できなかったのである。

35 イエスがエリコに近づかれた時、ひとりの盲人が道ばたにすわって物乞いをしていた。36 群衆が通って行くのを聞いて、これはいったいどうしたことかと尋ねた。37 人々はイエスのお通りになることを知らせた。38 彼は叫んで言った、「イエス様、ダビデの子よ、あわれんでください。」39 先に行く人たちは、黙れと言ってしかりつけたが、彼はますます大声で叫び続けた、「ダビデの子よ、あわれんでください。」40 イエスは立ち止まって、彼をそばに連れて来るようにと命じられた。彼が近づくと、イエスは尋ねて言われた、41 「何をしてほしいのか。」彼は言った、「主よ、見えるようになることです。」42 イエスは言われた、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救ったのである。」43 すると彼はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながらイエスについて行った。これを見た人々はこぞって神をほめたたえた。

第 19 章

1 イエスはエリコにはいって、町を通っておられた。2 ザアカイという名の人がいた。この人は取税人の頭であって、金持であった。3 イエスがどんな人であるかを見ようとしたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見ることができなかった。4 そこで、イエスを見るために、前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。5 イエスがその場所においでになると、上を見あげて言われた、「ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日はぜひあなたの家に泊まることにしているから。」6 ザアカイは急いで降りてきて、喜んでイエスを迎えた。7 人々はこれを見て、みな不平を言った、「あの人は罪人のところに行って客となった。」8 ザアカイは立って主に言った、「主よ、わたしの財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれかから不当な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します。」9 イエスは彼に言われた、「今日この家に救いがきた。この人もアブラハムの子なのだから。10 人の子は失われた者を捜して救うために来たのである。」

11 人々がこれらのことを聞いているとき、イエスはエルサレムに近くなっておられ、また人々は神の国がすぐにも現れるように思っていたので、イエスは更にたとえを話された、12 「ある貴族が王位を受けて帰るために、遠い国へ旅立つことになった。13 そこで十人の僕を呼び寄せ、十ミナを渡して、『わたしが帰って来るまで、これで商売をしなさい』と言った。14 ところが、国民は彼を憎んでいたので、あとから使者を送って、『この人が王になることは願いません』と言わせた。15 彼は王位を受けて帰って来ると、金を渡しておいた僕たちを呼び寄せるように命じた。どれだけもうけたかを知るためであった。16 最初の僕が来て言った、『ご主人様、あなたの一ミナで十ミナをもうけました』。17 主人は言った、『よくやった、良い僕だ。おまえは小さいことに忠実であったから、十の町を支配させよう』。18 次の僕が来て言った、『ご主人様、あなたの一ミナで五ミナをもうけました』。19 主人はこの僕にも言った、『おまえは五の町を治めよ』。20 また他の僕が来て言った、『ご主人様、ここにあなたの一ミナがあります。ふろしきに包んでしまっておきました。21 あなたは厳しい方で、預けなかったものまでも取り立てるので、恐ろしかったのです』。22 主人は言った、『悪い僕だ、おまえの口からおまえを裁こう。預けなかったものまでも取り立てる厳しい者だと知っていたのか。23 それなら、なぜわたしの金を銀行に入れておかなかったのか。そうしておけば、帰って来たとき、利子をつけて受け取ることができたのに』。24 そこで、そばに立っていた人たちに言った、『その一ミナを取り上げて十ミナを持っている僕にやれ』。25 彼らは言った、『ご主人様、その僕は十ミナを持っています』。26 主人は言った、『あなたがたに言うが、だれでも持っている者は与えられてますます豊かになるが、持っていない者は持っているものまでも取り上げられるであろう。27 ただ、わたしが王になることを望まなかったこの敵どもは、ここに引いてきて、わたしの前で殺してしまえ』。」

28 イエスはこれらのことを

ものに さそうよ たよず、 9 ゆきよ とおり
こんれいよ まねけよ。 10 さて その ちゅべ そちよ いでー あーき ゆのうゆ よき
ものある あひー わどの ひとを そる あつめければ こんれいの ぜーき きゃくうて
そちうり。 11 とう きゃくを みんとて きうり けるよ そこよ ひとりの れいふくを
きざる ものを そて、 12 とゆよ、れいふくを きぜーて こーよ きうるに あんぞやと
いひ ければ かれ ゆくねんうり。 13 つうよ とう けーうとゆよ いひ けるに、かれの
てあーを ちをりて そとの くーきよ あけ いうを、そこうて めあーを そげこ する
こと あとん。 14 それ、よぞる～ ものに おあーと いんとる ゆーとまるー ものに
すくゆー。

Farisaibito
15 その とおう ちりさうのびと いでー、いうーして あをを いひ あゆまーせんやと
Herodebitoto
あひ そうり、 16 へろでびとー とゆよ その でーとゆを れよ つうそーて いそを
けるん、ちーやうよ、あゆくうに まこと あり、れうに おりて めその そちを
をーん たまふ、まこ あゆくうに ひとの あんぞやと そぐるゆ めうて
そーぐるを これら それり。 17 ゆきよ、かいさるに ちうぎを おうちるに よきやと
Kaisarui
いうや、あゆくうに いうじ おゆふや、これーよ きうを ちーきよ。 18 ゆえ かれーとの あーきを
そんそこと いひけれども れーと きんひとうそゆを ちきうれり。 19 これよ そうぎの めねを
ちりて、ぎせんーやよ、あんぞ これを こーいうそうるや。 20 ゆえ のうまひけるん、
この ゆをぐうと あとるーに たれのぞや。 21 れーと かいさるの ありと いひければ
Kaisarunno
ゆえ のうまひ けるん、 さとび、めいさるの ものに かいさるよ かんー、 かその
ものに めそよ かんぞ。 22 かれーと これを きーいて あやーき かれを そゆれて されり。
Sadokaibito
23 その ひよ さどうのびと よそぐんうる ことに あーと いうて あをよ きうり とうて
Mousewa
24 いひ けるん、もーやうよ、ゆうんぞに、うもーて ちをば その
これら もー こ あうーて ちをば その
きゃうだうの めれの つまを めとりて きゃうだうの ようぎを たうべーと めのせり。
25 これとの うちよ そちゆんの きゃうだうの ありーげ そうりやう つまを めとり

ヘロデの黨の人と共に彼に遣はした。17 曰く「師よ、我等は汝の眞實なる人にして、眞に神の道を教へ、誰をも憚り給はざるを知る。汝は人を分け隔てし給はざればなり。18 されば汝の意見を我等に告げ給へ。カイザルに稅を納むるは可きか、否か。」19 イエス彼等の惡意を知りて曰ひけるは「偽善者よ、何ぞ我を試むるか。20 稅の錢を我に見せよ。」彼等デナリ一つを持ち來りしかば、21 曰ひけるは「この像と銘とは誰のか。」22 彼等「カイザルのなり。」イエス曰ひけるは「されば、カイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ。」23 *ダイ 9, 10, カミワ 斯く言ひて彼等を去り、その日サドカイビトウォ復活なしと言ふサドカイビトの者ども來りて、24 問ひて曰ひけるは「師よ、モーセ言ひけるは、人もし子なくして死なば、その兄弟その妻を娶りて、兄のために子を擧げよ、と。25 我等の中に七人の兄弟ありしが、第一の者妻を娶りて死に、子なければその妻を弟に遺せり。26 第二も第三も、遂に七人皆然り。27 最後に婦も死にたり。28 されば復活の時、この婦は七人の誰の妻ならん。皆これを有ちたればなり。」29 イエス答へて曰ひけるは「汝等は聖書をも神の能力をも知らざるが故に誤れり。30 復活の時には人娶らず嫁がず、天に在る御使の如くなるべし。31 死人の復活については、神が汝等に言ひ給ひし言を讀まざるか。曰く、32 *ダイ 9, 10, カミワ 我はアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神なり、と。神は死人の神にあらず、生ける者の神なり。」33 群衆これを聞きて、その教に驚けり。34 イエスがサドカイビトウォを閉口せしめ給ひしと聞きて、パリサイビトの者ども集まりしが、35 その中の一人律法師、イエスを試みんとて問ひて曰ひけるは、36 「師よ、律法の中にて大なる誡命は何ぞや。」37 イエス曰ひけるは「汝心を盡し、精神を盡し、思を盡して、主なる汝の神を愛すべし。38 これ大にして第一の誡命なり。39 第二もこれと同じ、汝の隣を己の如く愛すべし。40 この二つの誡命に律法と預言者とは懸かるなり。」41 パリサイノ パリサイビトの集まりをりしとき、イエス彼等に問ひて曰ひけるは、42 「汝等キリストウォ如何に思ふか、誰の子なるか。」彼等「ダビデノ ダビデのなり。」43 イエス曰ひけるは「されば、ダビデ聖靈に感じて、何ぞ彼を主と稱へて曰ふや。曰く、44 *ダイ 8, 9, アヂダイト ナース マデ 主我が主に言ひ給ふ、我汝の仇を汝の足の下に置くまで、我が右に坐せ、と。45 ダビデ ダビデ彼を主と稱へなば、何ぞ彼の子ならんや。」46 誰も一言だに答ふること能はず、また

Dâi 5, Rabi, Rabito
*ラビー トハ ワガ モノ ト ヨバレル コト ヲ ノゾム。 8 シカシ ナンジラ ハ ラビー トヨバレル ナカレ。

Dâi 1, 2, 5, nosèzu
ナンジラ ノ ウチ ニ テ オホキ モノ ハ ナンジラ ノ ツカヘ ル モノ ト ナル ベシ。 12 オノレ ヲ タカクスル モノ ハ ヒクカラン、 オノレ ヲ ヒククスル モノ ハ タカカラン。

Dâi 1, 7, omòki nîwo
*ヒト ニ ヨバレル ヲ ノゾム。 8 シカシ ナンジラ ハ ラビー トヨバレル ナカレ。

Dâi 5, Rabi, Rabito
*ラビー トハ ワガ モノ ト ヨバレル コト ヲ ノゾム。 8 シカシ ナンジラ ハ ラビー トヨバレル ナカレ。

Dâi 1, 2, 5, nosèzu
ナンジラ ノ ウチ ニ テ オホキ モノ ハ ナンジラ ノ ツカヘ ル モノ ト ナル ベシ。 12 オノレ ヲ タカクスル モノ ハ ヒクカラン、 オノレ ヲ ヒククスル モノ ハ タカカラン。

第 廿三 章

Çoyàkuto Farisaibitowa Mouseno
1 ソノ トキ イエス ハ ムレ ト ソノ デシ ニ イヒ ケル ハ、 2 「ファリサイビト ラ ハ モーセ ノ

Dâi 1, 7, omòki nîwo
*ヒト ニ ヨバレル ヲ ノゾム。 8 シカシ ナンジラ ハ ラビー トヨバレル ナカレ。

Dâi 1, 2, 5, nosèzu
ナンジラ ノ ウチ ニ テ オホキ モノ ハ ナンジラ ノ ツカヘ ル モノ ト ナル ベシ。 12 オノレ ヲ タカクスル モノ ハ ヒクカラン、 オノレ ヲ ヒククスル モノ ハ タカカラン。

Dâi 5, Rabi, Rabito
*ラビー トハ ワガ モノ ト ヨバレル コト ヲ ノゾム。 8 シカシ ナンジラ ハ ラビー トヨバレル ナカレ。

Rabino îmiwa, çiçòu
ラビー トハ ワガ モノ ト ヨバレル コト ヲ ノゾム。 8 シカシ ナンジラ ハ ラビー トヨバレル ナカレ。

Dâi 8, 9, htôri sunawàtci Kristo nâri
*ナンジラ ノ ウチ ニ テ オホキ モノ ハ ナンジラ ノ ツカヘ ル モノ ト ナル ベシ。 12 オノレ ヲ タカクスル モノ ハ ヒクカラン、

Yôni
オノレ ヲ ヒククスル モノ ハ タカカラン。 13 ワザハヒ ナル カナ ナンジラ ファリサイビト ラ ヨ、 ナンジラ ハ ヒト ノ マヘ ニ テ テンコク ノ モン ヲ トヂ ル ナリ。 ナンジラ ハ ミヅカラ モ ハイル コト ナク、 ハイラント スル モノ ヲ モ ハイラ セ ヌ ナリ。 14 ワザハヒ ナル カナ ナンジラ ファリサイビト ラ ヨ、 ナンジラ ハ ヤモメ ノ イヘ ヲ ノミ クヒ シ テ、 ナガク イノリ ヲ ナス ヲ ヨソホ ヒ ナリ。 カカル ナンジラ ハ イヨイヨ ノロハレ ン。 15 ワザハヒ ナル カナ ナンジラ ファリサイビト ラ ヨ、 ナンジラ ハ ヒトリ ノ ジュウ ヲ ヒキ イレ ン ト テ、 ウミ ト クガ ヲ メグリ ヲル ナリ。 サテ ヒキ イレ タル トキ ハ、 ナンジラ ヨリ モ ニ ガ ノロハレ タル コ ト ヲ ナス ナリ。

Dâi 8, 9, 10, kokôni Mark 12: 40, Luk. 20: 47
16 ワザハヒ ナル カナ ナンジラ メシヒキ ノ ミチ ヲ シラ ヌ ヒトビト ヨ、 ナンジラ ハ イフ ナリ、 ダレ デモ テンコク ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス ハ ヨロシ、 シカシ

kuwàyeri
テラ ノ コガネ ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス ハ ヨロシカラズ ト。 17 オロカ ナル メシヒキ ノ ミチ ヲ シラ ヌ ヒトビト ヨ、 イヅレ カ オホキ ヤ、 コガネ カ、 コガネ ヲ ネンゴロ ニ スル テラ カ。 18 マタ ナンジラ ハ イフ ナリ、 ダレ デモ ギセイ ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス ハ ヨロシ、 シカシ

çoyàkuto Farisaibitoyo,
ソノ ウヘ ノ ソナヘ モノ ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス ハ ヨロシカラズ ト。 19 メシヒキ ノ ミチ ヲ シラ ヌ ヒトビト ヨ、 イヅレ カ オホキ ヤ、 ソナヘ モノ カ、 ソナヘ モノ ヲ ネンゴロ ニ スル ギセイ カ。 20 ソレ ユヘ ニ ギセイ ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス モノ ハ、 ギセイ ト ソノ ウヘ ノ モノ ト ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス ナリ。 21 マタ テラ ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス モノ ハ、 テラ ト ソノ ナカ ニ スム カミ ト ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス ナリ。 22 マタ テンコク ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス モノ ハ、 カミ ノ クラヰ ト ソノ ウヘ ニ スワル カミ ト ニ カケ テ チカヒ ヲ ナス ナリ。

Dâi 8, 9, 10, kokôni Mark 12: 40, Luk. 20: 47
23 ワザハヒ ナル カナ ナンジラ ファリサイビト ラ ヨ、 ナンジラ ハ ハッカ ヤ、 イノンド ヤ、 クミン ノ ジフ ヲ ノ ミ テ、 オモキ ノリ ヲ ヲロソカ ニ シ タリ。 シカ ノミ ナラズ、 ソレ ラ ヲ モ ヲロソカ ニ セ ヌ ヲ ヨシ ト スル ナリ。 24 メシヒキ ノ ミチ ヲ シラ ヌ ヒトビト ヨ、 ナンジラ ハ ブヨ ヲ コシ ス ヒト ニ シテ、 ラクダ ヲ ノミ クダス ナリ。

kuwàyeri
25 ワザハヒ ナル カナ ナンジラ ファリサイビト ラ ヨ、 ナンジラ ハ サカヅキ ト サラ ノ ソト ヲ キヨム レ ド モ、 ウチ ハ ムサボリ ト ホシイマヽ ト ニ テ ミチ ヲル ナリ。 26 メシヒキ ノ ミチ ヲ シラ ヌ ファリサイビト ヨ、 マヅ サカヅキ ト サラ ノ ウチ ヲ キヨメ ヨ、 サスレバ ソト モ キヨク ナル ベシ。

Dâi 8, 9, 10, kokôni Mark 12: 40, Luk. 20: 47
27 ワザハヒ ナル カナ ナンジラ ファリサイビト ラ ヨ、 ナンジラ ハ シカバネ ノ ヒカリ ヲ ヌリ タル シロカベ ニ ヒト シ テ、 ソト ニ ハ ウツクシク ミユ レ ド モ、 ウチ ニ ハ シカバネ ト ヨロヅ ノ ケガレ ト ヲ ミチ タリ。 28 ナンジラ モ カク ノ ゴトク ソト ニ ハ ヒト ニ タダシク ミユ レ ド モ、 ウチ ニ ハ ニセモノ ト フホウ ト ヲ ミチ タリ。

29 ワザハヒ ナル カナ ナンジラ ファリサイビト ラ ヨ、 ナンジラ ハ ヒト ノ ハカ ヲ ツクリ、 タダシキ モノ ノ ハカ ヲ カザリ テ、 30 イフ ナリ、 モシ ワレラ ガ ソノ ヨ ニ ヰ タラバ、 カレラ ガ ヒト ノ チ ヲ ナガス ニ ワレラ ハ クミ セ ジ ト。 31 カク テ ナンジラ ハ カレラ ガ ヒト ノ チ ヲ ナガス ニ クミ シ モノ ノ コ ナル コト ヲ ミヅカラ アカス ナリ。 32 ナンジラ ヨ、 ナンジラ ノ ソセン ノ ハカリ ヲ ミ ヨ。

Dâi 8, 9, 10, kokôni Mark 12: 40, Luk. 20: 47
33 ワザハヒ ナル カナ ナンジラ ヘビ ラ ヨ、 ナンジラ ハ イカデ ゲヘン ノ サバキ ヲ ノガル ベキ ヤ。 34 コヽ ヲ モ テ ワレ ハ ナンジラ ノ モト ニ カシコキ モノ ト モノシリ ト ヒト ヲ ツカハス ニ、 ナンジラ ハ ソノ ウチ ノ ヒトリ ヲ モ コロシ、 ヒトリ ヲ モ ジュウジカ ニ カケ、 ヒトリ ヲ モ ホコ ヲ モ テ ナンジラ ノ シナヾヽ ニ テ ムチウチ、 マチ ヨリ マチ ニ ヲヒ ツメ ン。 35 カク テ ナンジラ ノ ウヘ ニ ハ、 ツミ ナキ アベル ノ チ ヨリ、 ヘイデン ノ ムスコ ニ シテ、 ナンジラ ガ ヤシロ ト ギセイ ダン ト ノ アヒダ ニ テ コロシ タル ベラキヤ ノ ムスコ ザカリヤ ノ チ ニ イタル マデ ノ、 ヨロヅ ノ タヾシキ モノ ノ チ ノ ムクヒ ノ キタラ ン コト ヲ ワレ ハ マコト ニ ナンジラ ニ イフ、 36 コレ ラ ノ コト ハ ミナ コノ ヨ ノ ウヘ ニ キタラ ン。

37 ヤヽ エルサレム ヨ、 エルサレム ヨ、 ナンジ ハ カミ ノ ツカハシ タル モノ ラ ヲ コロシ、 イシ ヲ モ テ ウチ コロス モノ ナリ。 ワレ ハ メンドリ ノ ヒナ ヲ ツバサ ノ シタ ニ アツメ ル ゴトク、 ナンジ ノ コ ラ ヲ アツメ ン ト シ キ、 シカ ノミ ナラズ、 ナンジラ ハ ヲ ノゾマ ザリ キ。 38 ミヨ、 ナンジラ ノ イヘ ハ ヒト ノ ナキ アレ ハテ タル マヽ ニ ナンジラ ニ ノコサル ベシ。 39 ワレ ハ ナンジラ ニ イフ、 ナンジラ ハ イマ ヨリ ノチ、 ワレ ヲ ミル コト ナカラ ン、 ヤガテ ナンジラ ガ、 ホメ タヽヘ ヨ、 シュ ノ ミナ ヲ モ テ キタル モノ ニ サイハヒ アレ ト イフ ヒ ニ イタル マデ ハ ナリ。

Dái 1, 5, 6, 7, nosèzu

[19](ちかい ゆえ) ものいうので、神の 聖霊が あなたがたに 宿って いるのだ。[20]また、兄弟が 兄弟を 死に わたし、子が 親に 逆らって 親を 殺させる ように します。[21]また、わたしの 名の ために、すべての 人に 憎まれる ように なります。しかし、最後まで 耐え忍ぶ 者は、救われます。[22]ある 町で 迫害を 受けた ときは、次の 町へ 逃げて 行きなさい。[23]まことに、あなたがたに 告げます。イスラエルの 町を 回り終わらない うちに、人の子は 来ます。

Farisaibitoyo,

[24]弟子は 先生より 偉くは ありません。しもべは 主人より 偉くは ありません。[25]弟子が 先生の ように、しもべが 主人の ように なれば、それで 十分です。もし 家の 主人を ベルゼブルと 呼んだ ならば、まして 家の 者を 何と 呼ぶ ことでしょう。

Dái 5, "sāra"wo çirusàzu

[26]だから、人を 恐れては なりません。おおわれて いる ものは、必ず あらわに され、隠されて いる ものは、必ず 知られる ように なります。[27]わたしが あなたがたに 暗やみで 言う ことを、明るい ところで 言いなさい。また、耳に ささやかれる ことを、屋根の 上で 言い広めなさい。[28]からだを 殺しても、たましいを 殺す ことの できない 者を 恐れては なりません。

hakkàto uikyóuto

むしろ、からだと たましいを ゲヘナで 滅ぼす ことの できる 方を 恐れなさい。[29]二羽の すずめが 一アサリオンで 売られて いる ではありませんか。しかし、その 一羽でも 父の 許しなしに 地に 落ちる ことは ありません。[30]あなたがたの 髪の毛さえ、すべて 数えられて います。[31]だから、恐れては なりません。あなたがたは、多くの すずめより 価値の ある ものです。[32]だから、人の 前で わたしを 認める 者は、わたしも 天の 父の 前で その 人を 認めます。[33]しかし、人の 前で わたしを 知らない と 言う 者は、わたしも 天の 父の 前で その 人を 知らない と 言います。

Farisaibitoyo,

Hebeluno tcĭ yori Barakiano

Zekariano tcĭ made tcíni nagasèçi tçīno mukùiwa

Aa Yerusalem,

いくされり。2あす こころんて いひけるん、あんぢよ このすべての ものを そざるう。
ひれ まことよ あんぢよ つけん、こころよ いーの うんの いーも たのれぎるん
のことぐる べー。
Kamanzánni
3あす かんとんざんよ ざもる とき でーしくち ひそうよ いうりて いひ けるん、
いう この ことと あとんや。 あるうの きるーと よの おそりの
ちるーん あうぞや、ひれとよ つけるあん。 4あす こころんて いひ けるん、ひとよ
まどそされぬ やうよ つとーめよ。 5そん、おわうの ものひが あを もうてきうり、
Kristo
ひれん きりもと ありと いうて もろもろの ひとを まどそさん。 6あんぢよ いうんさと
いうんうの あうぶんを きろうん、きぐうそぐる やうよ つとーめよ。 これとの ことん
かあとぎ きるる べー、されど おそりん いまぶ いうさらぎ。 7たそん たそよ さろとひ
gogoni
くるん くるく さろとうて おことん、ちーん ある べー。
8これとん そあ ひぢそひの そとめあり。 9その とき ひとびと あんぢよを あやそよ

ひるく こころさん、かう あんぢよ ひぢが あの
10おわうの ものの つまぐうされ たぐひよ まくまん。 11おわうの
あぜ よけんーや おこりて もろもろの ひとを まどそす べー。 12まく よこーよ
ものうあるよ よりて おわうの ひとの いうくーと ひやくう あとん。 13されど おそり
まぜ たんあのぶ ものん すくそる べー。 14そまうりごとの この さうそひの
おとびれん ぞんこうの たそよ あうんを あさん ためよ せうのぢうよ いひ
ひろめられん、そうる のちよ おそり いくる べー。
15ゆあよ あんぢよ よけんーや だにえるの ちめーくる あくむ べき そろぎす
Dánieluno
ものく きるる ところよ たうを そび、(よむ ものん よく めんげんよ、) 16ゆさやよ
Yudayani
そる ひとびとん やまよ あけよ、 17いくの うえの ものを
とり いぐす ためよ くだる べうとぜ、 18あるの うえの ものを
のをとる ためよ めんる べうとぜ。 19その ひそとめる をんあと ちくを のまする

そんあとよ ひざそひ あるめあ。20 あんぢとの
ひよ おりて あしぎる やうよ いのれ。21 そひ
まを あしぎり、まと のちあも あしぎる わどの さいあん そのときよ あとん。
22 その ひ そどうく せとるとよ あとぎんべ ひとりも すくそる〜 ものあー、されど
あとまれくる もの〜 ためよ その ひ そどうく せられん。23 その とき たれう
あんぢとよ、そよ、こくよ きりすと あり、 あるひい めーくよ ありと いくみとも
くあぎる あうれ。24 よを きりすと〜 よを よげんーや おこりて ゆー あくそべ
ありびと さんくも まとそす やうよ おわひあるも そるるーと ふーぎあるも ひざを そをん。
25 そよ、ひれ あしぎうじめ あんぢとよ つぐる あり。26 この ゆあよ ひとびと あんぢ
Kristowa
とよ、そよ、きりすとい のよ ありと いふとも いひる あうれ、そよ、めれい
あんどよ ありと いふとも ちんぎる あうれ。27 いあらをの ひげー よりて おこりて
よー まを ひとめく ごとく まんげんの むすこの さくるも あとん。

28 そうぞねの あるところろん ひー あうある べー。
29 その ころの さいあんの のちたぐちよ ひれ くとく それん、 まと せうらの ちふぞく
てしくるず、 あーん てん より おちて そとの
ときよ あんげんの むすこの ちるー そとよ あしぎる
めあーそて まんげんの むすこ ちうとと おわひあるも ちうこうを ゆうて そこの
くゆよ のりて きくるを そん。30 その
doinaru rappáwo motte おわひあるも こあを ゆうて あとくそくる ものを てんの
ちそう より あうめん。
31 めれい てんの Dei 1, 7, 8. *うつもの
32 いちどくの きより たとんを まをべ。 その
めぐすす ときん あんぢとよ あうの ちうきを ちる、33 めくの ごとく すべて これとの
ことを そる ときん ゆんよ ちうきを ちれよ。34 これ あんぢとよ つゆん、この
ことの そるも あるも まを このたうん すぎざんん。35 てんちん うせん、されど ひざ

ことをい うむぞる べー。

36 もろーあんと そのひ そのときを たど ちくの わうよ てんの つうひゅ
Dái 1, 2, 5, noséri; dái 7, 8, 9, nosézu Nohano
〔むすこも〕 たれも もろる ゆの あー。 37 のその ときの ごとく まんげんの むすこの
Nohano
まんの そこぶねよ いる ひとびと くひのを めとり とうぎーて 39 こうぎりの きろりて ことごとく
わろ ぶすす まそ もっざりー ごとく まんげんの むすこの きろるも まろ もうとん。
40 その ときよ ひとふろり そろけよ あるよ ひとりん とられ、ひとりん のこされん。
41 をんな ふろり うをを ひろよ ひとりん とられ、ひとりん のこされん。 42 この
ゆあよ きを つけよ、あんちとん きその きろる ひん いつ あるを そとぎれば あり。
43 この ことを おぶくよ、いんの あるじ あるの ころけんよ ゆをびとの きろるもを
ちりー あとべきを つけて そのいんを やぶとん ぞざりー ものを。 44 ゆあよ あんちとも
むこど せよ、まんげんの むすこん あんちとげ おもそざる ときよ きられべ あり。

45 わど よき ときの もっふろくを あろくさぜん ためよ あるとげ めあらの ゆの〜
うくよ たてろる ちうぎゅーて めーころ そのくを ちゆべんく たれぞや。 46 あるど きろりて
めれげ めく つとむるを そあべ その そゆべんく さらそひ あり。 47 これ まことよ
Dái 1, 2, arujiwa osoçto
あんちとよ つけん、あるとん ぜんとを めれよ つうさどとぜん。 48 されど あーさ
のきろる ことん おそーと いふて 49 その
ちゆべ こころの うちよ、ひげ *あるとの きろるを そあべ そのくを もどめあべ 50 その ちゆべの
ともはとうを うちめつ さけきと ともよ こころの ときよ きろりて 51 めれをきりこうー
あるとん めれげ おゆをざるの ひ そとざるの ときよ きろりて めれをきりこうー
めつ ぎぜんーやの ともとーてその むくひを さらめん。そこるて あり そげそをる
こと あとん。

第二十五章

その ときに てんの まつりごとん ともーびを とりて そあむこを むうくんとて
Dái 9, 10, gonínwa kaçkôku, gonínwa
ひぐをる おうるんの きむをめの ごとー。 2 そのうちの *ごるんに おろう、ごるんに

ôroka nâri
おーろーかー。 3 おろら ある ものい とものーびと とものよ
おーとてす ものい とものーびと とものよ あぶとを うつそうて ゆち ゆきーグ
5 そるおりこの おそければ おれと そるお
Dâi 8, 9, 10, hânamuko kitâruzo
*そるおりこそ、むろくよ いでふとの こそ
そのの そものーびを そとのく けるよ、 8 おろら ある ものよ いひ
けるん、 これとの そものーびを きくんと すると よりて あぶとを わけ
あるくると。 9 おーとてす ものの こるくて いひ けるん、いる、おそとくん これとと
あんぢとの たのよ たるまと、むーろ うる ものよ ゆきて あんぢとの たのよ めふ
べー。 10 おれと おひよ ゆきうる そるおりこ きくりーグ そるくうる ものとも
おれと そものよ こんれらの うちよ いりーうべ そん そぢこれうり。 11 のちよ
のこりの きむをめ きくりて、きそよ、これとよ ひとてす たまくと いひ
ければ、 12 おれ こうくて いひ けるん まことよ あんぢとよ つはん、これに

あんぢとを ーとぞと。 13 この ゆきよ あんぢとん *ひゅ そとすゆ ーとぞうよ よりて
つくーめよ。
14 まく てんの まりごとん おのれの
あづけて たびをる ひとの ごとー。 15 おの あの～ きりふうよ ひとりふん
gobyakkin, htôriniwa nihyakkin,
きん 五百きん、ひとりふん 二百きん、
1, 2, tadâtcini ippyakkinwo htôriniwa
せり。 16 五百きんを うけうる ものい たぢちよ ゆきて これとて ーふうぢの
あーければ わうよ 五百きんを まうけうり。 17 二百きんを うけうる ものも
わうよ 二百きんを まうけり。 18 されど 一百きんを うけうる ものい ゆき ちを
わりて そのの きそのの ねをめくせり。 19 わとへて そのの けとうのどものの きそ きうりて
おれとと おんぢやうを あーければ 20 五百きんを うけうる ものの わうよ 五百
きんを もち きうりて、きそよ、あるくら これよ 五百きんを あづけうると
そよ、これ わうよ 五百きんを まうけうりと いへり。 21 その きそ おれよ いひ

けるん、よの ものを、よヨ ものう ちうぎ あるる けどのよ、あんぢん さぐうる ること
ちうぎ あり、これ あるぢよ おそうこの ものを つうさどこせん、あんぢの あるよの
よろこびよ いれると。22 よひやく きんを うけうる ものも きうりて、きそよ、
あるこん これよ まひやく きんを あづけうるよ そよ、これ わうよ まひやく
きんを まうけうりと いくり。23 その きこ ものれよ いひけるん、よの かる、よきか
ちうぎ ある けどのよ、あんぢん さぐうる ること ちうぎ あり、これ あんぢよ
おそうこの ものを つうさどこせん、あんぢの あるよの よろこびよ いれよ。24 いうろ
ひやく きんを うけうる ものも きうりて いひけるん、きそよ、あるこん きびしき
ちこさぐる ところ より あうもる ものを ちこさぐる ところ より かり、ちの
あるを これ しりうれば 25 おそれ ゆきて あるこの ひやく きんを ちよ かくせり。
そよ、あるこん おのれの ものを あうりと。26 その きこ かれよ こうこ けるん、
あしこして から おそこる けどの かる。これん まうぐる ところ より かり、

ちこさぐる ところ より あうもる ものと ちりしや。27 そうこべば あんぢ これ
のねを めそせぐよ あづけ おこぐる そづ うける ときよ
ものと りそこと うこぐる ものを。28 まこ いひけるん、のれ より その
ひやくきんを とりて 25 おうひやく きんを ものも ものの あこんよ。29 たれよそ
その ものの だるも ところべし。30 いうろ ひやく きんを うけうる ものも
あけ いぐせ。そこうて あるる そづこ する ことと あとん。
31 あんけんの ものこ あのこうよ おのて ものもの つうひうちを つれ きうこん
ときるん、その あのこうの こうあよ ぜし、32 くうぐうの たそを その まくよ
あうめて ひうとうひの ひうとを やぎ より ころうげ ごとく ひとびとを ころち
33 ひうとを その みぎよ、やぎを ひざりよ おろん。34 その ときこう みぎよ をる
ものよ いそん、これ ちこの めぐそを めうもる ものよ、きうりて せうの そとめ

より あんぢとの ためよ そあくとれくる みくうを つゆよ。35 いろんと あれば、
ひげ うあー とき あんぢら これよ くそを、めそきーよ これよ のまを、たびぐと
ありーよ これを もてあー、36 きゆの あらりーよ これを やそー とき これを
みまひ、ちうやよ ありー とき これよ きくうりーよ よりて あり。37 こくよ おりて
たぐーき ゆの われよ くくんて いそん、きそよ、いろ あまくの うあーを そて
くそを、まく めそきーよ のまをーや。38 いろ あまくの たびぐと ありーを そて
もてあー、あらひん きゆの あきを そて きをーや。39 いろ あまくの やそ あらひん
ちうやよ ありーを そて あまくよ きくりーやと。40 ひう こくんて いそん、これ
まことよ あんぢとよ つゆん、あまくてゆ これとの ひげ きやうぐらの ゆうとも
ちひさき ひとりよ あをーん、これ これよ あをーあり。
41 つひよ まく ひざりよ をる ゆよ いそん、ぞらをとるぐき ゆのよ、これ ありて
Zānkito
そあれて ざんきと その つうひとゆの たびよ そあんへー きんぐる ひよ いれ。

42 いろんと あれば ひげ うあーよ あんぢとの これよ くそをを、めそきーよ これよ
のまをを、43 たびぐと ありーよ これを もてあらず、きゆの あうりーよ きをぎ、
やを ゆう ちうやよ ありー とき これを そあんそぐりーよ よりて あり。44 こくよ
おりて われーゆ くくんて いそん、きそよ、いろ あまくの うあ、あるひん ゆのを、
あるひん たびー、あるひん きゆの あき、あるひん やを まくん らうやよ をるを
そて あまくよ つうんぐりーや。45 その とき これ ひう こくんて、これ まことよ
あんぢとーよ つゆん、あるそても この ゆうとも ちひさき ひとりよ あそぐりーん、
これ これよ あそぐりー ありと いそん。46 この とゆぐとん ゆきて めぎり あき
けりのぢうよ いり、たぐーき ゆのん めぎり あき いのちよ いぐん。

第二十六章

とき すぎて あす すべて これとの ことを いひ おをりて でーとゆよ いひける、
2 あうとの のちん すぎこーよ あると あんゆんの

むをこ もりつけよ されん ためよ ところさる べー。
Dāi 8, 9, 10, goyakuto
3 こらよ おりて おゆき めんゆーと *たその そーふりどとも めやもと いんる
4 そうりごとを ゆうて あをを そとへんて
めんゆーの おさの やーきよ あつまり、 4 そうりごとを ゆうて あをを そとへんて
ころさんと あひ もられり。 5 されど めれよ いひける ん、 たその うちよ そうどう
あらよーめんるん まつりよ おりて すべろよ
Yesu Betanianite
6 あす べるるやうて らひびやうの ちゆうの いんよ をりーげ 7 ある をんあを
ろうせきの つぎの あるひ たらき おあひ あぶとを ゆち さくりて あをの せんよ
つく とき そのの めうべよ めけり。 8 でー これを そて いろりて いひける ん、
この つひあん あよ ゆあぞや。 *これん おやろの めねよ うりて まびーき ものよ
わとてーるる ものを。 10 あす これを をりて めれよ いひける ん、 あんぞ をんあを
あやまちや。 めれん とれよ ある ことを あーるり。 11 まびーき ゆめん つねよ
あんぢよとゆよ をる あり、 されど とれん とゆよ をる ことを あー。 12 めれ とげ

めよふよ この あぶとを めけーん とれの
まことよ あんぢよ つゆん、 せろりぢう いびくるそも この さりそひの おとび
れの りひ ひろめる~ ところさんよ この をんあの あをーことも その めるその
たあよ りひ つるくる べー。
Iskarioteno Yudato
14 その ときよ おうるの うちの ひとり りをりそその ゆだと りくる ゆの
おゆき めんゆーよ ゆきて、 15 とれ あをを あんぢよ ところさんよ とれよ あるを
あるふるやと りひければ めれよ ぎん さんじう まりと やくそくせり。 16 これより
Yuda
ゆだ めれを ところさんとて おりを うろびくる へり。
17 めうじある なんの まつりの そじめの ひよ でーどとも あをよ きるりて りひ
ける ん、 すぎこーの ちおるこよを あるふの ためよ いびくるよ
そあふる ことを わりをるや。 18 あす のるまひ けるん、 まちの あるびーよ ゆきて、
ちーやうの りひけるよ、 とげ とゆ ちりきよ あり、 とれ でーと とゆよ あんぢの

Yudamo kotàyete, Rabi,
Dâi 1, 2, 6, 7, nosàzu
kèsçte sōrasareji
Petero
Galilaini
Kanranzânni

Petero
35 ペトロ ヨリサキニ、ホドヲスコシ ススミテ ヒレフシ、モシ デキルナラバ、
コノ トキガ ワレヲ ハナレテ スギサルヨウニ ト イノッテ、
Getsemaneto
36 イヒケルハ、アバ、父ヨ、オマヘニハ ナンデモ デキルコトデアリマス、
ドウゾ コノ サカヅキヲ ワレカラ トリノケテ クダサイ、
Peteroto Zebedaino
シカシ ワレノ ノゾムヤウニ デハナク、オマヘノ ノゾミノ ヤウニ
シテクダサイ。37 ソシテ モドッテ ミルト、ペトロガ ネムッテ
オリマシタ。ソコデ ペトロニ イヒケルハ、シモン、ネムッテ
イルノカ、オマヘハ ヒトトキモ メヲサマシテ ヰラレナカッタノカ。
38 メヲサマシテ イノレ、ココロミニ アハヌヤウニ。ココロハ
アレドモ、ニクハ ヨワイ ノデアル。39 マタ サッテ、オナジ
コトバヲ イノッテ、40 モドッテ ミルト、マタ ネムッテ
Peteroni
イタ。ヒドク メガ オモクナッテ イタノデアッタ。ソシテ
ドウシテ ヨイカ ワカラナカッタ。41 マタ キタリテ、イヒケルハ、
モハヤ ネムッテ ヰヨ、ヤスメヨ。モハヤ トキガ キタ。
ミヨ、人ノ子ハ 罪人ノ テニ ワタサレル。42 タテ、サア、
ワレヲ ウラギル モノガ チカヅイタ。
aruiwa, yasumèyo
43 スグ ソノ トキ、マダ イヒ ツヅケテ ヰルウチニ、十二人ノ
ヒトリ、イスカリオテノ ユダガ キタリ、ソノ ソバニ、祭司長、
学者、長老カラ ツカハサレタ 多クノ 人ガ、剣ト 棒トヲ モッテ
Yuda
キタッタ。44 ソノ ウラギル モノハ、カレラニ シルシヲ アタヘテ、
イヒケルハ、ワレガ 口ヅケスル モノガ ソレダ、ソレヲ トラヘヨ、
ソシテ、シッカリ ツレテ イケ。45 ソコデ ユダハ スグ イエスノ
ソバニ キタリ、ラビ、ト イヒテ、口ヅケシタ。46 カレラハ、
ワガ ウヘニ テヲ カケテ、トラヘタ。47 ソバニ タチテ ヰタ
モノノ ヒトリガ、剣ヲ ヌキテ、大祭司ノ シモベヲ ウチ、
ソノ ミミヲ キリオトシタ。48 イエス、イヒケルハ、オマヘガタハ、
ワレヲ トラヘニ、剣ト 棒トヲ モッテ キタルハ、強盗ニ
カカルガ ゴトシ。49 ワレ 日ゴト 宮ニ アリテ、オマヘガタノ
ソバニ ヰテ、教ヘヲ ノベ伝ヘタルニ、ワレヲ トラヘザリキ。
シカシ、コレハ 聖書ノ ミコトバヲ ミタサンガ タメナリ。
50 ソノ トキ、弟子タチ ミナ、ワレ サキニ ニゲサリ、

Rabi yàskiyato

49 いくらイエスが人々の前で大きなわざをしても、彼らはイエスを信じようとしなかった。50 預言者イザヤが、

「主よ、わたしたちの伝えることを、だれが信じましたか。
主の御腕は、だれに現れましたか。」

Dãi 8, 9, 10, çisèn. Dãi 8, 4, 5, îma wãga Teîtçini

と言ったように、彼らは信じることができなかったのである。53 *だから、イエスは彼らに、

Dãi 3, 4, nãnjirato tomõni miyàni

「光は、まだしばらくの間、あなたがたの中にある。やみに捕えられないように、光のあるうちに歩きなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわからない。54 光のあるうちに、光の子となるために、光を信じなさい。」

イエスはこれらのことを話してから、彼らを避けて身を隠された。55 しかし、多くの人々がイエスを信じたとはいえ、

Kayafano

会堂から追い出されないために、公然とイエスを告白しようとはしなかった。58 それは、人からほめられることを、神からほめられることよりも愛したからである。

Dãi 3, 4, kànnuçito tòçiyori

59 *ところが、イエスは大声で叫んで言われた。

Dãi 3, 8, motomùredomo yèzu, màta òkuno

「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしをつかわされたかたを信じるのである。

Dãi 4, 5, itsuwàrino còukonin ftàri

*わたしを見る者は、わたしをつかわされたかたを見るのである。61 わたしは光として世に来たのであって、

だれでもわたしを信じる者が、やみの中にとどまることのないようにするためである。62 だれかがわたしの言葉を聞いても、それを守らないなら、わたしはその人をさばかない。わたしが来たのは、世をさばくためではなく、世を救うためである。63 わたしを捨てて、わたしの言葉を受けない者には、さばきをするものがある。わたしの語った言葉が、終りの日にその人をさばくのである。64 なぜなら、わたしは自分から語ったのではなく、わたしをつかわされた父ご自身が、わたしの言うべきこと、語るべきことを、命じられたからである。65 そして、父の命令は永遠の生命であることを、わたしは知っている。だから、わたしが語ることは、父がわたしに言われたままを語っているのである。」

Kayafano

57 祭司長とパリサイ人たちは、イエスを捕えるために、イエスがどこにいるのかを知っているなら、届け出るようにと命令を出していた。58 カヤパの

Dãi 3, 4, kànnuçito tòçiyori

59 *ところが、マルタはイエスに近づいて言った。

Dãi 3, 8, motomùredomo yèzu, màta òkuno

「主よ、あなたがここにいてくださったなら、わたしの兄弟は死ななかったでしょう。60 *しかし、今でも、神があなたに求めることは、

Dãi 4, 5, itsuwàrino còukonin ftàri

*神はかならずかなえてくださることを、わたしは知っています。」61 イエスは彼に言われた。

63 されど あすは なきまねより。まこと めんぬーの をさ
かその むをと きりをと あるよう、いける
つみーめん、64 あすは めれよ いひける、あんぢの いくる ごとー、めう これ あん
ぢよ つみん、このの のちあんぢよ あんげんの むをと つうりき ある ものへそぎよ
すてり まこと てんの くゆよ のりて きこうるを そる べー。65 さて めんぬーの をさ
おのれの こころを さきて いひける、めれん めうを けがせり、まこと あんぞ
ちようこうゆんを ゆちひんや。そよ、あんぢよ いよ めれの けがす ことを きけり。
66 あんぢよ いろど おゆふや。ひとびと こころんで、めれん ぞす べき つと ある
ものと いんくり。67 つひよ その めうよ つぢもー めう うてり、まこと ある ものん
てのひとゆて たこゆ いひける、68 さりすとよ、あんぢをうつ ものん たれぞや、
よみけんよ よりて つみよ。
Petero
69 ぺてろ うちゆをよ ざー ねこりーが ひとりの けがよ きこりて いひける、

Galilaino
あんぢも がりとふの あをと とゆまりー。
こををて、どれん あんぢの いふ ところを そよ
いぞければ わうの ゆぢよ めれを そて そこ
Nazareno Yesuko
ひとも あぐれの あをと とゆまりー。72 ぺて
ちひを ゆうを こをめり。73 ちをーくーく
Peteroni
りて ぺてろよ いひける、まことよ あんぢ
あんぢの くよ あまり あんぢを あふそをび
ちひ そどめて どれん そのひとを そふぎ
ければ ぺてろ、あをとり あく まんよ あ
いひー ことをを おゆひ いさー そとよ いそ
よあけよ ありて すべての おゆき めんぬーと
63 Then Jesus saith unto him, Thou hast said: nevertheless I say unto you, Hereafter shall ye see the Son of man sitting on the right hand of power, and coming in the clouds of heaven. 64 Then the high priest rent his clothes, saying, He hath spoken blasphemy; what further need have we of witnesses? behold, now ye have heard his blasphemy. 65 What think ye? They answered and said, He is guilty of death. 66 Then did they spit in his face, and buffeted him; and others smote him with the palms of their hands, 67 Saying, Prophesy unto us, thou Christ, Who is he that smote thee? 68 Then sat Peter without in the palace: and a damsel came unto him, saying, Thou also wast with Jesus of Galilee. 69 But he denied before them all, saying, I know not what thou sayest. 70 And when he was gone out into the porch, another maid saw him, and said unto them that were there, This fellow was also with Jesus of Nazareth. 71 And again he denied with an oath, I do not know the man. 72 And after a while came unto him they that stood by, and said to Peter, Surely thou also art one of them; for thy speech bewrayeth thee. 73 Then began he to curse and to swear, saying, I know not the man. And immediately the cock crew. 74 And Peter remembered the word of Jesus, which said unto him, Before the cock crow, thou shalt deny me thrice. And he went out, and wept bitterly. 75

第 二十七 章

よあけよ ありて すべての おゆき めんぬーと たそその とーふりとも あをを

Dái 3, 4, 5, 6, 8, Pontio Pilato; 1, 2, 7, Pilato

Israeluno

yogénça Yeremiani

Tcĭno hatàketo

Yuda

tcĭno

Yudayabitono

Pilato

Barabato

Pilato

Barabaka

Kristoto

[ナザレの] イエスを, 十字架につけるように, 彼らは叫びたてた。
1, 2, nosèzu
24 ピラトは, 彼らの言うことを聞き入れるのを, 見合わせていた。
Pilato
それどころか, 暴動のときに犯した殺人のかどで投獄されていた者たちを, 彼らの望むとおりに, 釈放してやった。
25 ところで, 十字架につけるように, イエスを彼らに引き渡した。
26 そこで, 兵卒たちは, イエスを官邸の中に連れて行き, 全部隊を呼び集めた。
27 そして, 紫の衣を着せ, いばらの冠を編んでかぶらせ,
28 「ユダヤ人の王, 万歳」と言って敬礼しはじめた。
29 また, 葦の棒で頭をたたき, つばきをかけ, ひざまずいて拝んだりした。
30 こうして, 紫の衣をぬがせてから, 元の着物を着せた。
31 そして, 十字架につけるために, 外へ引き出した。
32 彼らは, 出て行くと, シモンというクレネ人を見つけ, 無理やりに, イエスの十字架を負わせた。
Çimonto Kurenano
33 そして, ゴルゴタという場所, すなわち, されこうべの場所に, 来た。
Golgota
34 そこで, 苦味を混ぜたぶどう酒を, イエスに飲ませようとしたが, 彼はそれを口にしようとはしなかった。
35 彼らは, イエスを十字架につけてから, くじを引いて, その着物を分け合った。
36 そして, 座について, イエスの番をしていた。
37 イエスの頭の上には, 罪状書きが掲げてあった。
Yudayabitono ónyo
38 そこには, 「ユダヤ人の王」と書いてあった。
39 また, 彼と一緒に, 二人の強盗が十字架につけられた。
40 そこを通りかかった人々は, 頭を振りながら, イエスをののしって言った。
41 「神殿をこわして三日で建てる者よ, 十字架から降りて, 自分を救ってみろ。」
42 祭司長たちも, 律法学者たちと一緒になって, 同じように, イエスをあざけって言った。
Pilato Barabawo
43 「彼は他人を救ったが, 自分を救うことはできない。
```
```

ところよ いくさりて 34 名今よ いを まぜこる *ぶどうーのを のみをーよ あめて
のむを このまぎりー。
1, 2, 5, 7, 9, budóuçuwo; 8, 8, 10, sûwo

35 名今をそりつけーのちそのさものをめれとのうちよくじびきーてとりて、
Dái 8, Yohaneno 19: 24 sêtenwo kokôni kuwâyeri
Yudayabitono
*36 まくる そこよ すそりて かれをまもり。 87 かろ、これに ゆだやびとの こう 名今
ありとかきたる ざいにんのうたをそのかうぐのうへよたてり。 88 そのとき 名生と
とものよ あくまりの とうぞくを ひとりに そぎ、ひとりに ひだりよ、そりつけよ せり。
89 とある ひとびと かれを のこーり かうぐを ありて しひけるに、 40 そやを
こがらて そのうの うちよ それを たてる Dái 2, 7, 8, onorewo taskéyoto kokôni
ものよ、 *あんだち ゆー かその むせこと
ciriuçi; dái 1, 3, 5, çtâni ciruseri
あーじ おのれを たすけて おうーじ よりくだれ。 41 おゆまる かんぬーの ものやこと
とーまりと とものよ あざけりて いひけるに、 42 ひとを たすけられども ころげ そを
Dái 8, 8, Môçi kâre Israelnno ôu narâba
たすくる ことと あたえず。 かれに いすらえるの だう あり、いま おうーじ より
くだーめよ、さじ これと かれを もろ 43 かんぜん。 48 かれ かそよ まうせり、かりて

これに かそのむすこ ありと いひーことあり、ゆあよ *かみ わうちう あーじ いま
Dái 8, 5, 8, Kami kârewo aisêba
かれを すくーめよ。 44 そのよ そりつけられる そとうぞくも おあじーく かれを
のこーれり。
Hiru jibni ji·yôri sânji made
45 むまの こく より ひうーの こく そんぜん まで その くらやう くーく あれり。
46 ひうーの こく そんぜ ごろよ 名今 おそで あるよ さけんぞ、えり、えり、らま さぢぐ
Eli, Eli, lama sabaktâni,
そよ、すあそち ひげ かそ、ひげ かそ、あんぞ これを すてる まうやと いくり。
47 そこよ たちくる うちの あるもの これを きーて
Eliyawo
48 たぐちよ そのうちの ひとり そりやを よぶと
いくり。
そりやを よーよ つけて かれよ のまぜり。 49 のこりの ものら ひけるに、まてよ、
Elija
そりや かれを たすくる ためよ きくるやいまやを そん。 50 名今 また おそで あるよ
さけんぞ そのたまを そあそり。 51 そよ、そのまくうへより ぞろまぜ さけて
ふたつよ あり、ちふるひ、いそ さけ、 52 そら ひとけ、まくねむりくる さよの

Magdalano Mariato

Yosef

Pilato

Yosefuto

Arimatayano

Pilatoni

Galilai

Magdalano Maria,

Dâi 1, Yosefuno Maria máta

Zebedaino kôdomono Maria

Mariato

Farisaibito

Pilatoni

Pilato

Dâi 7, yôru kitâri

Pilato

Magdalano Mariato

Maria

Dái 3, 4, 7, món yori marobàçte

1, 2, nosèzu

Galilaini

Dái 1, 2, 5, nosèzu

Galilaiye

Yudayabitono

Galilaini

18 あすは すぐるころ めれよ めぐりて のぐまひけるん、てんの うち ちの うへの
すべての けんあい ひれよ たまそれり。19 ゆあよ あんぢと ゆきて そんところの ひと
びとを でしと あー、ちーと むきこと きこまの そこまの あよ おのて めれぐを
ちぐりめ、20 めの ひげ あんぢとよ めの せーところの ものを そる おこまふ ことを
をしへよ。そよ、よの おそり まそ ひれ つねよ あんぢとと ともよ をる あり。*
Dai, 8, 9, Amen.

まことそよ 千八百七十六 ねん 三 ぐろら

第一章

そのむすこ あす きりすとの ふくりんの はじめ。 2 Mal 3:1 みよ、ひれ あん
ぢの めあの まへよ ひげ つうひを つうそさん。 めれ あんぢの そちを
Dai 8, 8, narijino mayeni; 1, 2, 5, 7, 9,
そまふ べーと、 3 まく 40:3 のよ よぶ ひとの こゑ あり、いそく、あんぢと むそろの
そちを そまへ その ひうとうを まりすぐよ せーと よけんーや あらやよ よりて
1, 2, 5, 7, 8, yogénca Yesayani; 3, 6, 8, 9, yogença
ちるされー でとく 4 よはね のよ おのて ちぐめを わとてー つその ゆるーの
Yohane
さめよ くひ あーうめの ちぐめを のべうんくうり。 5 そのとき ゆだやの くる
Yudayano
ぢうと あるされもの ひとびと そまる いへ
Yerusalemuno
めれよ よりて よるさん がそうて ちぐめを
Yordan
6 よはねい よくうの けどうもを きて こーよ めその おびを をめて いまること
Yohaneya
のそうを ちまくをり。 7 めれのべ いひ けるん、ひげ あとよ ひれ より いきそひ

まふさる ものは まさとん。これに めでこそ その だうりの ひかを とるなり さとぎる
もの あり。[8]これに あんぢらを みびうよ もちひめり、されど かれに あんぢらを さるなり
みさまよ をびめ さまそん。

Yesu Galilaino Nazare yori sarari Yohane yori
[9]その ころよ あさりて 多今 がりとらの あざれ より さるり よはね より
Yorudannite Satanni
よるさんまて をびめを うけ、[10]さとちよ みびの あり あがる とまん てん
ころれて みさま そとの ごとく おのれよ くさるを みさまんり。[11]まこ こあ てん
より さるりて、あんぢら ころ むすこ、ころぶ ところの ゆの
ありと いんり。[12]さとちよ みさま 多今を のよ ゆうーめり。[13]さて 多今 ーとう
まちの よ ととまりて さるんよ こころを とれ の〜 けゆのと とゆよ をり さまひ
ーよ てんの つうひさち めれよ つうへうへ

Galilaiui
[14]よはね とーそれー のち 多今 がりとらの
3, 5, 8, 9, matsurigotono ; 1, 2, 7, i, ii, nosezn
よ いさり、*かその まびの おと
らうれを のぐうさて いひ けるん、[15]とき ふみり、かその まびの ちうぐけり.
あんぢら そひ あとさめて さのそひの おとうれを そんせよ。

Yesu Galilaino midzufumini Andereto
[16]多今 がりらの みびうさよ そふて あるく ととす そもんと そのの さやう たちの
あんぐれと あさを みびうさよ うつを みさま たまへり。それ かれら すあどる もの
あり。[17]多今 かれらよ そさぐひ さるれ とれ なんぢらを にんげんの まあどりよ
なさんと のたまひ ければ [18]たぢちよ
Zebedaino mūsko Yakobutoto Yohaneto
ーく そさみーぐ せべだのの むすこと やこぶと そのの きやうだちの よをねと ふね
あて あさを つさうふを みて つのよ かれらを よび たまひ けれら [20]かれらその
ちく せべだのと やとひびとを ふねよ のこして あまよ そさがひ ゆれり。
Kaparnaumuni
[21]めれら めなあうむよ いさり ほどあく 多ま やはさそびよ 會堂 よ いりて をーへ
kéuiwo
たまへり。[22]かれ 書役 の やうよ をーへを 權威 を もちさる ものく やうよ
をちへく ゆ多ふ ひとびと おどろさるとうよ あけうの [23]その とき さるらとうよ
Nazareno
あくまよ とりつめれさる ものー が [24]さけんを いひ けるく あく なざれの
Yesuyo
多ふよ これらと あなさの あひだよ いうある こと あるう。これらを ありが今

Dâi 3, 4, Kore ika-

naru ataràçki òçiyezoya !

Galilaino

Yakobuto Yohanewo Çimontu Andereno

Çimonno çiütome

Yesuni

ònna

Yesu yoăke

Çimonto

çtàute

Yesuni âute

sōno tâmeni Galilaidjuwo

Râibyoūno

nâçi atawànto

めて いひ ける。 44 つぐる あらば されど ゆきて もん
ぬーふ おのれを みを ひとびとよ cinkowo そうこと たつる ために きよく ありー あとよ
つりて もうせど Mousega めいせー ものを さこけると。 45 もらば その ひと いでく
いづくゆも あの ことを いひ ひろめ もちよ まちよ
いる こと あらざれ たび そとの さむーきよ ねーふよ ひとびと
そうぜう より もれよ きこえり。

第二章 Kapernaumuni

Hiwo hête ひを へて あを まる かぱるなうむに いくりー とき もれ うちよ ありと いひ
あらされ けれべ 2 もどくち だゆも でーよ あきらかに
ーげ あを あれよ そこと ぜを もくり たまへり。 3 さて ひとびと ちうきを やそくる
yorinni ものを よりにんよ そこぜて あをよ つれ きくりーげ 4 くんぎうの ために
もれよ ちうくる こと あくそざる ゆあよ あをの います ところの やねを とり こが

ちて ちうきの ひとを ねどこの まくゆて つり おろせり。 5 あを もれらの もん
cinkôuwo うを ぜて ちうきの ひとよ こどもよ あんぢの つみ ゆるされくりと のくまひ
けれべ 6 もよやくの あるも ものの そこよ ぎー るくりーげ おくろふ おもひ けるに
nongiru
7 いろゆーて あの ひとに もく もくるや。 かぜを のくーる もま。 ひとりの
かぜの あらよ たれう つぜを ゆるー あくふや。 8 あす たづちよ もれらの こころ
ふ もく もんげんー ことを cintouni 心中よ さとりて ちんちう
これらの ことを もんげふや。 9 あんぢの つぜ
ねどこを とりあげて あるけと ちうきの ひとよ
Ningénno Musko 10 もの ーに ぜんの むすこ せの ぐよ おりて
ことを あんぢちよ もらせんとて 11 これ あんぢの
とりて おのれの うちよ かへれよと ちうき やそよ のくまくり。 12 さて その ひと
おき たぢちよ ねどこを とりて ひとびとの

Yohaneno Farisaibitowa
18 ヤハネの ヂーシ ヤシヤの ビトーワ
Yohaneno dèçito Farisaino
ヤハネの ヂーシ ヤシヤの ビトー ヤハネ ヂーシ ヤシヤの
hanamúkoto tomōni
ヒカリ ヲカシ ヤハネ ヂーシ ヤシヤ ヒトー ヤハネ
budôuçuwo kāwa būkuroni
ヒガシ ヲシユル ヤハネ ヂーシ ヤシヤ ヒトー ヤハネ
ヂーシ ヤシヤ ヒトー ヤハネ ヂーシ ヤシヤ ヒトー
ヤハネ ヂーシ ヤシヤ ヒトー ヤハネ ヂーシ ヤシヤ
ヒトー ヤハネ ヂーシ ヤシヤ ヒトー ヤハネ ヂーシ
ヤシヤ ヒトー

Kàmino Mūsko

hossūru

seppòusuru

kéŋiwo

Dãi 1, 2, 4, çiçato nàdzuke tamayèri.

Peteroto

Çimon, māta Boanerge

Kaminārino Kōdomōrato

Zebedaino mūsko Yakobuto

Yohane, Andere, Filipo, Bartolomai,

Mattai, Toma, Alfaino mūsko Yakob, Taddai, Kanani Çimon,

Iskarioteno Yuda

Yerusalem

Belzebuluwo

Satanwa

Satan

にんげんの　こどもよ　ゆるさるる　べし。 29
そーるものの　いつまでも　ゆるさるる　べきように
かくる　ものの　あり。 30 こん　あす　あけくれの　あくまを　ゆそりと　かれとの　いひーよ
よりて　あり。

Yesuno hôhato kyôudai

31 あすの　そこと　きゆうだいの　きくりて　そこと
32 そこの　そこ　わわぜこの　ものの　まそりよ　ざーる　ぬくりーげ　そこよ　あるこの　そこと
きゆうだいの　そこにて　あるこを　たづねと　いひ　けれど 33 あす　そこくて　のくまひ
けるん　ひげ　もこと　きゆうだいの　たれぞや。 34 まく　まそりよ　ざーくる　ものを
そまそーて　ひげ　そこと　きやうだいの　そこよ。 35 たれあても　かみの　そこくろを
あす　ものの　ひげ　きやうだいの　あり　姉妹（ちまい）　そーへ　そとめ　けれど　わわぜこの　ひとびと
あり　そく　ありと　いひ　たまくり。

第四章

あす　まく　そづうみの　わとりあて　をーへ

29 されど　ぬくもの　そこまよ　さこのしーあて
kayètte
そーへ　めくりて　そそあり。 *つそのあゆうおよ
Dâi 3, kéibatsuno ayaukini
あくまを　ゆそりと　かれとの　いひーよ

あつまりー　ゆあよ　われ　そづうみゆて　ふねよ　のりざー　たまひーげ　ひとびとに
2 そのとき　あす　たとくを　ゆりて　さまざまの　ことを　さとーをくりて　のくまひ　けるん
okâni orêri
そこあ　そづうみよ　そこくて　をつのよ　をれり。 3 きれよ　たねまきげ　まくに　ためよ
いでくり。 4 まく　ときよ　あるりて　あるたねん　そちらーげ　とりきるりて
lcidjini
これを　つつめり。 5 ほこのの　たねん　つちよ　すくあり　いーぢよ　たちーげ　つちふら
hino
めくざるよ　よりて　たづちよ　ゆえ　いぞり。 6 このーひの　のがる　とき　やされて　ね
nè
あきの　ゆあよ　かれくり。 7 わとの　たねん　いぞ　ちよの　あこのよ　たちーが　いぢら　そざちて
tchi dicicige
これを　ふさぎ　けれべ　そを　むをぞざりー。 8 まく　わとの　たねん　より　ちよ　たちーげ
ゆえ　いを　そびくりて　さんじうぞの　ろくとの　あるひん　ひゆく　ぞの　そを
むまべり。 9 まく　たれにても　きこゆる　そくく　ある　ものん　きれこと　のくまへり。
jiuninо dêgi
10 あす　ひそのある　とき　そもよ　ありー　ゆの　おうにの　でー　たとくの　ことを
たづねーげ　11 あす　こくん　けるん　なんぢよ　かみれ　そくぎの　わくぎを　たまそる

yókuga

ゐるのだ。28 まことに汝らに告げる、人の子らの犯すすべての罪と、彼らの口にするどんな冒瀆でも、それは赦される。29 しかし聖霊を冒瀆する者は、永遠に赦されない者となる。」30 それは、彼らが「彼は汚れた霊に取りつかれている」と言っていたからである。

tsugíni hô

31 さて、イエスの母と兄弟たちとが来て、外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。32 大勢の人がイエスのまわりにすわっていたが、「ご覧なさい、あなたの母上と兄弟たちとが、外であなたを捜しておられます」と言われると、33 イエスは彼らに答えて言われた、「わたしの母、わたしの兄弟とは、だれのことか。」34 そして、まわりにすわっている人たちを見まわして言われた、「ここにいる者こそ、わたしの母、わたしの兄弟である。35 神のみこころを行う者は、だれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母である。」

yóru hiru

4 1 イエスはまた湖のほとりで教えはじめられた。すると、非常に多くの人がみもとに集まってきたので、イエスは舟に乗って湖の上にすわり、全群衆は岸に沿って陸にいた。2 そこでイエスは、たとえで多くのことを教えられたが、その教の中で彼らに言われた、3 「聞け。見よ、種まきが種まきに出て行った。4 まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。すると鳥が来て、それを食べてしまった。5 ほかの種は、土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、6 日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった。7 ほかの種は、いばらの中に落ちた。すると、いばらが伸びてそれをふさいだので、実を結ばなかった。8 ほかの種は良い地に落ちた。そして芽生えて育ち、実を結んで、三十倍、六十倍、百倍になった。」9 そして言われた、「聞く耳のある者は聞くがよい。」

10 イエスがひとりになられたとき、十二人と共にいた人たちが、たとえについて尋ねた。11 イエスは彼らに言われた、「あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、外の人たちには、すべてがたとえで示されるのである。12 それは、

kàru

ちからの ないものに なります。[29] ひとが その つよい ものを しばりあげる
まえに、まず その つよい ものを しばりあげなければ、どうして その
nànini nïse,
家の 物を 奪いとることが できましょう。[30] まことに あなたがたに
htôtsubuno
告げます、人の 子らは、どんな 罪でも 赦されます、また どんな
瀆言でも 赦されます。[31] だが、聖霊を 瀆す ものは、いつまでも
赦されず、永遠の 罪に 定められます。[32] 人の子に 逆らう ことばを
hìno yuukatâni
言う ものは 赦されます。[33] しかし、聖霊に 逆らう ものは、この
世でも 来る 世でも 赦されません。[34] 人々が、「あれは 汚れた
霊に つかれている。」と 言っていたからである。[35] さて、イエスの
母と 兄弟たちとが 来て、外に 立って、人を やって 彼を 呼ばせた。
[36] 大勢の 人が イエスの まわりに すわっていたが、[37] 彼に
tomôni
「ごらんなさい、あなたの 母上と 兄弟たちとが、外で あなたを
tomôni
尋ねています。」と 言った。[38] すると、彼は 答えて、「わたしの
Çiçôuyo,
母と 兄弟とは、だれの ことか。」と 言い、[39] 自分の まわりに
すわっている 人々を 見まわして、「ごらんなさい、ここに わたしの
母と 兄弟とが いる。[40] 神の みこころを 行う ものは、だれでも
わたしの 兄弟、姉妹、また 母である。」[41] と 言われた。

第五章

[1] 彼らは 湖の 向こう岸の ゲラサ人の* 地に 着いた。[2] イエスが
akkini
舟から 上がられると、すぐに 汚れた 霊に つかれた 人が、墓場から
tamàya
出て 来て、彼を 迎えた。[3] この 人は 墓場を 住まいと していた。

1, 2, Geraseno; 3, Gadarano

くさぐさにても　めれを　そむむり　あるふ　ゆの　あー。 4 めれい　そむむー　むー　ぐむと
くさぐさりを　もりて　つあぐるれども　くさぐさりを　ねぢきり　まく　あーぐむをる　くむきて
たれも　これを　とり　おさめ　あるふ　もの　あとぶぐさりー。 5 よる　ひる　つねよ　たまやと
やまよ　そりて　さけび　まく　いーを　もりて　おのれを　きずつけり。 6 この　ひと
とりく　より　あをを　そーぐ　めけて　これを　そぐみ　おそどあよ　さけんを　いひ　けるん
7 もりとも　たうき　めその　むをこ　あをよ　あるくと　これの　あひむよ　いうある　こと
あるや。 これ　めそよ　ちうふて　あるくの　これを　くるーめる　こと　きをねがふと。
8 これあす　さきよ　ふけつの　あくまよ　このひとより　いぞると　いひーよ　よりて　あり。
9 あす　まく　あんぢの　あん　あゆと　たづね　けれども　そのひと　こるん　けるん　こが　なん
よろづと　いふ　いうんと　あれば　これらん　おそむせい　あるよ　よりて　あり。 10 もりそのと
ともより　おひ　いかを　こと　あうれと　あをよ　あひ　ねがへり。 11 さて　やまの　そぞよ
めひくる　ふくの　おそむれ　ありーぐ　 12 あくまとも　かれよ　ねがふて　ふくの　なうよ

いる　やうよ　これらを　そのむれよ　おくり　たまへと　いひ　けれども　あをを　めれらよ
ゆるせり。 13 つりよ　ふけつの　あくまを　いぞ〜　ふくの　なうよ　いりーぐ　おようそ　二千
bikino　nisenn-
びきの　むれ　そううみ　まを　けをーぐを　ところを　そけーく　めけて　うその　あめよ
Butawo　kâici
そがれ　ちーくり。 14 ぶたを　めひー　もれども　にけて　この　ことを　まちや　いあうよ
いひ　ふと〜　けれど　ひとびと　その　あり〜　ことを　そる　たあよ　いぞて　15 あをよ
kimōnowo ki tāçkanaru
きくり　よろづ　ある　あくまよ　とりつめれくる　ひとぐ　きものを　きたーうある
ところゆて　ざーくるを　そて　ねそれり。 16 これを　そー　めれども　あくまよ　とり
つうれくる　ひとよ　あり〜　こと〜　ふくの　ことを　いひ　ひろめ　けれど　17 ひとびと
sakāi yori sāru
あをよ　その　さうひ　より　さる　ことを　ねづひ　そどめり。
18 あを　ふねよ　のる　とき　あくまよ　とりつうれー　ものの　かれと　ともよ　をる　ことを
ねづんくり。 19 されども　あす　ゆるさぎーて　めれよ　のくまひ　けるん　おのれの　いんと
そもだちよ　ゆきて　さそその　あんぢを　あをー　いうよ　おそひある　こと〜　あんぢを

あそれそー　ことを　めれらよ　つゆよ。 20 つの
おこなひー　おそひある　ひとびとを　でうやりよ　おのて　いひふらー　もどめ　ければ
そるる　あやーめり。

21 あを　まく　ふねゐて　むうみの　きーよ　ひとり　そぐうその　やとりよ　ねるまも
ひー　とき　おそせひの　ひとびと　めれよ　あつまれり。 22 さて　やいると　いふ　くをの
どうの　つうさ　きくり　あをを　そて　その　あーゐとよ　ひれふー　ひくをとよ　ねげふて
いひ　けるん。 23 ひげ　をさなき　むをめ　やとんど　ちあんとも。　めれの　いやされて
いきる　やうよ　きくりて　その　うへよ　てを　つけ　たまへと。 24 あを　めれと　そゐよ
ゆきーげ　おそくの　ひとびと　かれよ　ちくげひて　くんどうせり。

25 その　とき 十二 ねん　あげちを　やそくる　をんな　おそくの
いーやよ　そあそご　くるーめられ 26 めつ　をんな　おそくの
かひゐ　あく　めへつて　あや　あーく　ありーげ 27 あをの　ことを　きく　くんどうの

あうよ　うーろ　より　きくりて　その　きゐのよ　てぐそりせり。 28 これ　それ　さゐのよ
さそる　ぞうりゆて　すこやう　あらうと　いひーゆあ　あり。 29 たちまち　ちの　いげる
こと　とまり　ければ　その　やまひ　より　すこやかに　あり。
30 たぐちよ　あをを　ちうらの　おのれ　より　いぞー　ことを　そぐうらよ　さとりて　おそせ
のよ　ありむき　ひげ　きゐのよ　てぐそりー　ゆのい　たれぞやと　いひ　たまひ　ければ
31 でーどる　めれよ　いひ　けるん　あるくん　おそせひの　くんどう　するを　そて　これよ
てぐそりー　ゆのい　たれぞやと　いひ　たまふろ。 32 あす　これを　あーくる　そんあを
そんとと　そまそてー　ければ　33 その　をんな　おのれよ　あせー　ことを　そり　おそれ　おの
くぎて　きくり　かれの　まへよ　ひれふーて　ことごとく　ありの　まくよ　つげくり。
34 あす　めれよ　むをめよ　あんちの　そんゐのうげ　あんちを　いやせり　やをんとて　ゆけ
あんちの　やまひ　いあくと　いひ　たまへり。
35 あす　これを　めくる　とき　くをのとうの　うちより　ある　ひと　きくりて

ゐるやうに致すべきなり。

聖水事

Çiçôuwo

一、洗者ヨハネの授けたる洗礼は、悔改めの為の洗礼なりしが、主イエズスペトロ、ヤコブト、ヨハネノ、[36]其外の使徒達は、悔改めの為にあらず、唯、天の国に入る為の洗礼を授けたまへり。[37]

Tsuini Yesu Peteroto Yakobuto Yohaneno

[38]洗者ヨハネの洗礼は、水ばかりにて、聖霊の恵を授けざりしが、[39]主イエズスの洗礼は、水と聖霊の恵とを授けたまへり。[40]

Talita kumi

[41]洗者ヨハネの洗礼は、唯、人の手にて授けたれども、[42]主イエズスの洗礼は、天主の御手にて授けたまへり。[43]

jiùni sàini

十二使徒の洗礼は、洗者ヨハネの洗礼と、主イエズスの洗礼との間にありて、[44]水ばかりにて、聖霊の恵を授けざりしが、[45]主イエズスの洗礼は、水と聖霊の恵とを授けたまへり。[46]

Mariano Yakobuto Yoseto Yudato Çimonno

dàikuni çimàimo

[47]マリアノ、ヤコブト、ヨセト、ユダト、シモンノ、大国、四万余の人々、[48]洗者ヨハネの洗礼を受けたれども、[49]聖霊の恵を授けざりしかば、[50]

sōre kēreba

それを聞きて、[51]主イエズスの洗礼を受けたり。[52]

聖水事

[53]マリアノ、ヤコブト、ヨセト、ユダト、シモンノ、大国、四万余の人々、[54]洗者ヨハネの洗礼を受けたれども、[55]聖霊の恵を授けざりしかば、[56]

ハヤネ ホヘヨヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ ホヘヨヲ ヘヒヤヲ。

「ホヤ ヒヘヨヲ ヒヘヲ ホヘヨヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ ハヤネ ヘヒヤヲ ヘヒヤヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ
ホヘヨヲ ホヘヨヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ。 ホヘヨヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ
akkini kâtsu tekàrawo tàbino yôuini
ハヤネ ホヘヨヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ ヘヒヤヲ ホヘヨヲ
ヘヒヤヲ

かーら およびがりらやの おもの ひとびとよ ふるまひを あーるり。 22 その とぎ
Galiliaino
Herodiano
へろでやの むすめ そこよ きくり およびて へろでを まる ともよ ざをる ひとびとを
Herode
たのーませ ければ こう その そともよ いひ けるん あゆこそも あんぢの やつをる
ものを ねがへよ さとべ これ あんぢらよ あるへんん。 23 まるこ めれよ ちろふて
ôukokuno hâmbun
あゐとても ねがふ ところの ものの こと ぞも あんぢよ
あるへんと いへり。 24 むすめ いでて およびて その そこよ
Yohanemo
いひ けれども めれよ そづめびと よそねの くびと いへり。 25 むをめ たぐちよ
Yohanemo kûbiwo bônni
いそぎ こうの まへよ きくりて ねがひ けるん そづめびと よそねの くびを ぎんよ
のせて をそやうよ たまそん ことを わつすと。 26 こう いと めあーこ けれども
ちろひの ため および めれと そゐよ ざーるる ひとびとの ためよ めれよ こととそる
Yohanemo
こと をこのまぐり。 27 つぐよ こう けるべ およびを ゆちさこれと いひつけ けれども めれ
ゆきて ちうやよ およびて その くびを きり

28 これを ぎんよ のせ ゆち さこりて むすめよ あるへんり。 むすめ これを その
もこよ あるへんり。 29 よそねの でーし こと ぎいて きたり その むくろを
Yohaneno dêgi
をねを とりて そのよ おさめり。
cicâtati
30 さて ちーやうち あつまりて めれとげ あんぜーめつそーへー ことごとを
つげ けれども 31 あす めれよ いひ けるん ちーあふ ものの ひとびとを そこ
やをめよと。 これ おやへの ひとびと どうとうして ちやへをるゆも いとま
あけれども あり。 32 めれら ひそこよ ふねよ のりて さもーる ところよ ちゆへくる
cuttâta suru
する とき 33 ひとびと その ゆへを そて おやへの ものの かれとを さとり まちまち
より かちゆて とゆよ もーりて めれとよ さきぢち いへられり。
34 あす いづるとき おやへの ひとを そて やーあふ ものの あゐ ひつぢの ごとき
よろって めれらを あそれそて おやへの ことを をーへ そどめり。 35 その まぐる
をぎ けれども でーしども あをよ きくりて ところん さもーる ところ あり とぎ ゆそや

ゐるのである。[44]また汝らに告げん、汝ら
gosèu nîn
仇を愛し、汝らを責むる者のために祈れ。[43]
斯くて汝らは天に在す父の子となるべし。
父は惡人の上にも善人の上にも日を昇らせ、
義人にも不義人にも雨を降らせ給ふなり。[44]
汝らもし己を愛する者を愛せば何の報あらん。
取税人もかくせずや。[47]また汝らもし兄弟
にのみ挨拶せば何の勝れたることをか爲す。
異邦人もかくせずや。[48]されば汝らの天の
父の全きが如く、汝らも全かれ。

六 [1]汝ら人の前にて己が義を行ふ
nihyàku
ことを慎めよ、恐らくは人に見られんために
dàkeno çokumôtsuwo
せるなり。[38]汝もし施しをなすとき、僞善者
の人に譽められんために會堂と街とにて爲
すごとく、己が前に喇叭を吹くなかれ。誠
に汝らに告げん、彼らは己が報を既に受け
naràbi
たるなり。[41]汝は施しをなすとき、汝の右の
gojiu nîn dzùtsu
手の爲すことを左の手に知らせざれ。[40]汝の
施しを隱れてなさんためなり。さらば隱れ
たるを見給ふ汝の父は報い給ふべし。[39]また
汝ら祈るとき僞善者のごとくすべからず。
彼らは人に見られんために會堂と街との
辻とに立ちて祈ることを好む。誠に汝らに
告げん、彼らは己が報を既に受けたるなり。
[40]汝は祈るとき己が室に入りて戸を閉ぢ、
隱れたる汝の父に祈れ。さらば隱れたるを
見給ふ汝の父は報い給ふべし。[41]また祈る
とき異邦人のごとく同じことを繰返すべ
からず。彼らは言多きによりて聽かるるこ
とを思へり。[48]されば彼らに似ざれ。汝らの
求むる前に汝らの父は何を要するかを知
り給ふなり。[49]されば汝ら斯く祈れ、
天に在す我らの父よ、
御名の崇められんことを。
[50]御國の來らんことを。
御旨の天に行はるる如く地にも行はれんことを。
[51]我らの日用の糧を今日我らに與へ給へ。
[52]我らに負債ある者を我らの赦すごとく
我らの負債を赦し給へ。
[53]我らを誘惑に遇はせず
Genesareno
惡より救ひ出し給へ。
汝らもし人の罪を赦さば汝らの天の父も
汝らを赦し給ふべし。[54]されど汝らもし人
を赦さざれば汝らの父も汝らの罪を赦し
給はざるべし。

[45]斯くて汝は施しを隱れてなさんために、
Betsaidani
その施しを見る者なきやうにせよ、その
[46]あなたかなたの

54 ゐん のたい そは ゐの をから いき ちんき ひんぴん まをん まうん ゐゐゐん ゐん
やんいをん ーの、55 のは ゐら いいん をんん ゐゐの をは ゐいん ゐいいん
その ゐうは。56 ゐを ふらいいゐの ゐーを ゐゐん ふゐーう いゐん ひと
ちん ひゐうーさん ふいぎう ゐゐん ゐの ゐゐの ーうんいゐの ゐんいを いゐん
ゐうの ーう ゐうんいう ふうは ゐの ゐゐん いゐ いゐうんいう。

第七章

Yerusalem

ふうゐうひん いゐゐいん ゐう ゐの ゐうふうは ゐの ゐうんん ゐを ゐいん ゐゐの いゐう
ゐう、2 いゐ ひーの ゐう ゐの ふ ゐいんいう ゐうひん ゐうゐうひん ひんん ふんん

Dâi 9, i, togametari ; 1, 2, 3, 7, 8, nosezu

ゐいゐいゐん いいの、3 ゐう ーん ふうんうひん いーん ひんいん ゐの ゐゐゐひん いーんの
ふいのいうん ゐゐいん いーんん ひん ゐーうひんは いーいゐ。4 ゐいう ゐの

Dâi 3, 5, 7, 8, 10, midzuni irazareba ; 1, 2, miwo sosogazumba

ゐうう いゐん いぐう ふーひんは いーいゐ。5 いの ゐう ひん ゐん ゐいうう ふう

1, 2, 7, 8, utsuwawo ; 3, 5, utsuwato futonwo

ゐん ゐふう ゐいの ひいの ふゐゐゐの ふのいうん ふう いゐん ゐの。

Farisaibito

6 ゐん ひーうふいうん いゐゐーのの ゐゐん ーうは ふうの ゐいう ゐいの ひーの

tsûneno tènite

いゐの いんいの ふの いいう ゐいいーん ーふの ふゐん ひいん いいんは。

Yesayawa gizênça

7 ゐは いいい ふの ゐうの ゐんはーは ゐの ゐいひふの いいん ゐの

8 ゐは いいう ふの ゐうの ゐんはーは ゐの ゐいひふの いいん ゐの ゐいん ゐの。9 いの ーうゐひふの ひふの ふの ゐうの ゐんはーは ゐの ゐいひふの

Yôikana,

ゐいいゐ ゐいひふの ゐゐふの ふのいうん ゐいの ゐうん ふいの ふいん ふの ひーゐん

Mauseno iiçini

ゐいいう。10 ゐいゐふの ふのーは ゐいひふの ふいん いいふの ゐゐふの ゐゐ ゐん

11 ゐいひふの ゐいん ふのーは ゐいひふの ゐいの ゐいの ゐいの ゐいの ゐいの

Korban, sunawâtci

ゐいの いゐゐいん ゐゐゐいの ゐいふの ゐいの ゐいの ふのいうん ゐいの 12 ゐいひふの ゐいの ゐん

kóre,
ために、子供たちをわたしのところに連れて来る人々を叱った。[13]イエスは
それを見て憤り、彼らに言われた、「子供たちをわたしのところに来るままにさせ
ておけ、妨げてはならない。神の国は、このような者たちのものである。[14]よく
あなたがたに言っておく、子供のように神の国を受け入れる者でなければ、決
してそこにはいることはできない。」[15]そして彼らを抱き、手を置いて祝福さ
れた。[16]〔イエスは子供たちを抱き、祝福された。〕

Dái, 1, 2 çahónwa kokòni kòrewo nosèzu.

[17]イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄ってひざまずき、尋ね
た、「善い先生、永遠の命を得るためには、何をしたらよいでしょうか。」[18]イエ
スは言われた、「なぜわたしを善いと言うのか。神のほかに善い者はひとりもい
ない。[19]あなたは戒めを知っているはずだ、『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽
証するな、だまし取るな、父と母とを敬え』。」[20]すると彼は言った、「先生、
それらのことはみな、幼いときから守っております。」[21]イエスは彼を見つめ、
慈しんで言われた、「あなたに欠けていることが一つある。帰って、持ち物を
mittsùu, kaɲín,
売り払い、貧しい人たちに施しなさい。そうすれば、天に宝を持つことになる。
それから、わたしに従いなさい。」[22]この言葉を聞いて、彼は顔を曇らせ、悲
akkòu, kòuman,
しみながら立ち去った。[23]彼は多くの財産を持っていたからである。[24]イエス
は弟子たちを見回して言われた、「財産のある者が神の国にはいるのは、なん
Tsuroto Sidonno
と難しいことか。」[25]弟子たちはこの言葉に驚いた。イエスは重ねて言われた、
hossezáredomo
「子たちよ、神の国にはいるのは、なんと難しいことか。[26]金持が神の国にはい
るよりは、らくだが針の穴を通るほうがまだやさしい。」[27]弟子たちはますま
す驚いて、互いに言った、「それでは、だれが救われることができるのだろう。」
Surofoinikenite mmàretaru
[28]イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないことだが、神にはでき
Grikiano hto
ない。神にはどんなことでもできる。」[29]ペテロがイエスに言い出した、「ご
dáino çtàno ìnu sáyemo
らんのとおり、わたしたちはいっさいを捨ててあなたに従ってまいりました。」

doçiwomo mōnoju

ことばを聞いたあとで、あなたがたのうちのだれかが、わたしを裏切ろうとしている。」

第八章

mikkâno âida

そのころ、大ぜいの群衆がいたが、食べる物を持っていなかったので、イエスは弟子たちを呼び寄せて、
kōno nōni ôite

彼らに言われた。「群衆がかわいそうだ。もう三日もわたしといっしょにいて、食べる物を持っていないのだから。
tcíni záseyoto

空腹のままで帰らせたくない。途中で倒れるかもしれない。」弟子たちは答えた。「この人里離れた所で、

いそひて これも かれらの まへよ おけよと めいじ
ski
あり。 まこと のこり そこを あふざる ひろくり。 8 ひとびと そのとき
nasa zâru cisén nin
あり〜。 つひよ かれらを かんへ〜 たまへくり。
10 たびごろよ 多年 でし〜と ともよ ふねよ のりて だるまぬたの そちよ いさり けれども
Farisaibito Dalmanutano
11 なほそらのびと いで〜 われを こころみんとて てん よりの ふるしを もとめ あげら
ぎろんを ふりけくり。 12 多年 こころよ ふかく あけひて いひ けるん このよの
ひとよ なんぞ ふるしを もとむるや。 まこと ふることよ これ あんぢらよ つけん このよの
ひとよ あんの ふるしも あるしと これぞ。 13 つひよ われらを そあれ まこ ふねよ
のりて むかふよ こころり たまへくり。
14 われら なんを とり ごをれて ふねよ ひとつの むん より ふうよ あらざり〜。
15 多年 かれらを いまし〜めて いひ けるん きを つけて ぱりさいびとの かうと
Herodeno kôujitowo Farisaibitono
へろでの かうじとを つこ〜めよ。 16 かれら たがひよ ろんとて これ どれらが むん
ありとぞ
17 多年 これを ふりてかれらよ いひ けるん あんぞ
あんぢら ぱんを もふざる ことを ろんじてあるや。 いまだ そらぎや さとらざるふ。
あんぢらの こころ にぶきふ。 18 め ありても きこへ
ざるふ。 19 これ いつ〜の ぱんを でせんにんよ ごけ〜と あんぢら その くごを
ざる いくそら ひろひし〜や おぼへんざるふ。
cisén nîmi nanâtsuno pânwo
せんにんに ななつの ぱんを ごけ〜と ときよ くごを ざる いくその ひろひし〜やと
とひ けれども かれら あふろと いひ けるん あんぞ さとと
ざるや。
Betsaidani
22 われら べつさいだよ いさり〜と ひとびと 多年よ めこ〜を つれ きふりて
これよ てを つけ たまへと ねがへくり。 23 さて 多年 めこ〜の てを とり むらの
そととよ つれ ゆきて その めよ つばを あげて ありしの そゆるやと
Dêi ô, Wâre kîni nitaru hitôbitoga arûkuwo mfuruto iyeri.
とひ けれども われ あをぎ そて *これ ひとびとを そるよ 木よ にるらり まこ その

Dái 1, 2 çahónni korewo çirusàzu.

Kaisaria Filipino

Çidzumèbito Yohane Eliyato,

Petero Dái 1 çahónwa "Kàmino Müsko" to kuwàyeri.

Petero Yesúwo

Peterowo

Gemponni, "Satanyo,"

òute çtagàyeyo

kaɲínto tsúmiwo

yéikou, aruiwa sakàye

爲今 まく おれこよ のくまひ けるん ごくよ
たつ ひとの うちよ めその まつりごとぐ
adjiwaiwo ikóuwo nôtte çino
あぢそひを うけぎらん もの あり。
Peteroto Yakobuto Yohanewo
2むのう すぎて 爲今 ぺそろと やこぶと よそねを
やまよ つれ のがりて おれらの まくよ
hônni çirusazu Dêi 1, 2 ca.
ごとく」いと ろろくして せのの ぬの
Eliya Mouseto tomôni
わど めぐやけり。4まく えりや もうせと そあ
して それり。5ぺそろ かくりて 爲すよ
Mouseno tâme, htôtsuwa Eliyano tamêni
よー。ひとつに あるの ため ひとつに えりやの ため
三つの こやを これらよ つくらーめ たまへん。6いうと あれば おれと そあそる
おそるこよ よつて ぺそろ いふ べき ことを ろらざりー。7まく くも おれとを
ikigiyern mâdewa
いきぐくる まぐん あんぢらの そー ことを
たまひーぐ 10たぐひよ その ことむを おれらの うちよ まゐりて ちより いき
がくるをに あよ ごとぞやと たづね あんぐり。11まく おれら 爲をよ そあて いひ
けるん えりやに さきよ きくる べーと ろあやくの いあい いめぐぞや。12爲すのる
まひ けるん まことよ えりやに さきよ きくる ことを あらゆる ことを あらためん。まく
にんげんの むすこよ つひて *aruiwa, samazâmano kurûçimiwo ûke, kâisu iyâçimerarento çirusarêçiwa
iknnâru kotozôya!
うけめつ いやーめられんと ろるさる。13されど これ あんぢらよ つひん えりやも
きくれり かつ おれよ つひて ろるされー ごとく ひとびとの ろつをる まくよ
おれよ おとあんり。

おそひ かつくもより こあ あるよ これ ごげ あのをる むをそ あり。あんぢら おれよ
きけふと。8かれら たちまち そまそをる たび おのれどもと 爲をの ろつ たれも
そんぐぢりー。9やま よりくをる とつ 爲を おれらよ にんげんの むをそ ちより
ikigiyern mâdewa ci yori
いきぐくる まぐん あんぢらの そー ことを たれもも かくる あつれと めつ
たまひーぐ 10たぐひよ その ことむを おれらの うちよ まゐりて ちより いき
がくるをに あよ ごとぞやと たづね あんぐり。11まく おれら 爲をよ そあて いひ
けるん えりやに さきよ きくる べーと ろあやくの いあい いめぐぞや。12爲すのる
まひ けるん まことよ えりやに さきよ きくる ことを あらゆる ことを あらためん。まく
にんげんの むすこよ つひて *aruiwa, samazâmano kurûçimiwo ûke, kâisu iyâçimerarento çirusarêçiwa
iknnâru kotozôya!
うけめつ いやーめられんと ろるさる。13されど これ あんぢらよ つひん えりやも
きくれり かつ おれよ つひて ろるされー ごとく ひとびとの ろつをる まくよ
おれよ おとあんり。

14 おれら でーどもよ きくりーグ おやくの ひとびと あつまりて おつ おやくどもの おれらと きろん するを そくり。
15 たぐちよ ひとびと そる あをを そて おやひよ おどろき もーり よりて おれよ あいさつ せり。
16 あす おれらよ たぐねて あんぢらに おれらと あひを ろんぎる やと いひ けれど 17 おやせつの うちの ひとり こくへ けるに もーゆうよ とりつつのれくる ロゲむをこを あるくよ つれ きくれり。
18 いつくにても おれを ひきつけて あをふき もぎーりーくて やをる あり。 これ あなたの でーよ これを おひ いたす ことを ねがひーのどもも おれらに あくまを おひ けるに あー あんぢらと おれらよ のくまひ けるに あー あんぢうよ おつま。 これ いつまで あんぢらと ともよ をらんや。 いつまを あんぢらよ そのぎんや。 かれを われよ つれきくれ。
20 さて おれを つれきくりーよ あをを そて あくま たちまち そのむをこを ひきつけりまく ちよ たおれて あをふき ころげ 21 あす その ちくよ とひ けるに いつよりも おくありーや。 ちー いひ けるに をろがさんとて ひの あらまくそぐよ あけくりさえども あまくも あゆそも あーるそび われらを あをれそて たまけ たまへ。
23 あす おれよ いひ けるに *あんぢ Dēi 1, 3 nandji atawaba 〔ちんぢ〕 あくそぐ ちんぎる ものよ あゆごとも かあをん。
24 たぐちよ その ことの ちー さけんを いひ けるに これ ちんぎを ロゲ ちんぐうを おきを おぎあひ たまへ。
25 あす ひとびとの ōoginiçte tsimbo そーりて よりて あつまるを そて あけつの あくまを とぐめて いひ けるに おふーにーて つんぎ あるを あくまよ これ よりいぐー ふくくひいる あつれと これ あんぢよ めのを。
26 さて あくまよ さけび そゆーくて ひきつけて そいそ けれど ひとびとの おれに そをーとて いふ わとよ ちーくる ものー ごとく あれり。
27 されど あす その てを そりて おこーけれど かれ たち あがりくり。
28 あす いくよ いるよ その でーども ひをつけて たぐねよ けるに これらげ あくまを おひ いたー あくそぐりーに あよ ゆあぞや。
29 あす おれらよ いひ けるに この

Dâi 1, 2, inòrini arazàreba
たとうに*この〔一ぺんさえ〕もあらざれば、あるいなや一ぺんも
Galilaiwo tòoru
えいえんなるかみのことばを、ききたもうことなきようにしたもう
う。31 ここをかのどーいをもって、ぜんぶのかみのみこころを、
しょうかいしたもうたからこそ、ぜんぶのかみのみこころを、
がくらべーい。33 かれとどーいをもって、ぜんぶのかみのみこころを、
おもうから。

Kaparnaumuni
33 かれらがおどろきあやしむこころをもって、ぜんぶをかたったから、
ぜんぶをかんがえーをいいーがかなうから。34 ここからとうとい
だから、ぜんぶのかみのみこころをかんがえるから。35 ぜんぶ
çôuniwo
のかみのみこころをかんがえるから、ぜんぶのかみのみこころを、
とうとくおもうから。36 あるぜんぶ

çôunino htôriwo
のかみのみこころをかんがえるから、ぜんぶのかみのみこころを、
いう。37 あるぜんぶのかみのみこころをかんがえるから、ぜんぶ
のかみのみこころを、いう。

38 ぜんぶのかみのみこころをかんがえるから、ぜんぶのかみのみ
onnàni ,yotte
こころをかんがえるから、ぜんぶのかみのみこころをかんがえる
から、ぜんぶのかみのみこころをかんがえるから、ぜんぶのかみ
のみこころをかんがえるから。39 ぜんぶのかみのみこころをかん
がえるから、ぜんぶのかみのみこころをかんがえるから、ぜんぶ
のかみのみこころをかんがえるから。40 ぜんぶのかみのみこころ
をかんがえるから、ぜんぶのかみのみこころをかんがえるから。41 ぜん
ぶのかみのみこころをかんがえるから、ぜんぶのかみのみこころを、
Kristoni
Dâi 2,
*ぜんぶのかみのみこころをかんがえるから、ぜんぶのかみのみこころを、
3, sôno nàni yotte
かんがえるから、ぜんぶのかみのみこころをかんがえるから。42 ぜん
ぶのかみのみこころをかんがえるから、ぜんぶのかみのみこころを、
かんがえるから、ぜんぶのかみのみこころをかんがえるから。43 ぜん

第十章

Yudayano

ユダヤの
Farisaibito

ファリサイ人
Mousewa

モーセ
Mousewa riyénjouwo

モーセの律法を
nánnyoni

何んにと
Dai 1, 2, "tsúmani sòute" wo nosèzu.

つまに
tàda ittài

唯一

çounidómowo

htôtsuno kôtowo kagèri

Dâi 8, "jiujikâwo tórite" to kâkèri.

Dâi 1, 2, korewo nosèzu

やをさき あり。26 でーども おそひよ おどろきて すぐひよ いひ けるい さとべ たれら たをけそ あんや。27 あす めれらよ めを つけて いひ けるん ひとよ おひてい あるそぞ かそよ おひてん ーろらぞ かそにい すべその ことで できる もの あり。28 さて べそろ めれよ めくり いひ けるん そよ これら そんとを すて〜 あるさよ そるぐんり。29 あす のくまひ けるん まことよ これ あんぢらよ つけん たれにそも ひげ つめ まく さらそひの おどづれの くめよ いん dámdjiwo staura さやうたの ちまい ち〜 そ〜 ものの あとよ ありあとの ものい さきよ あんぢらを まつる ものい 30 いつ kyóudai, çimái, hâha, そ〜 こどもで んぢと そるーそとを うけ めつ そらいの よよ おひて そて あり。31 そろー おそろの さきの ものい あとよ ありあとの ものい さきよ あんぢらを うけざる こと あー。32 かれら あるさられむよ のがる ところあて おそれり。33 まく おどろき めつ そろづくて おそれり。

Yerusalemuni

32 かれら あるさられむよ のがる ところあて おそれり。33 まく

Yerusalemuni

おどろき めつ そろづくて おそれり。

Kámuçito çoyákuni

34 まく めれら あざれり つぢき そ

Yohane Yesuni

さられど そろろの のちよ いぢづくる べー。

Zebedaino mûsko Yakobuto

35 そのとき せべだろの むすこ やこぶと よはね あをそよ さろりて いひ けるん さを つけよ

omóki

おもき

Kámuçito çoyákuni

あゆそても これとげ ゆとむる ものを これとの ねづくと いひ けれべ 36 あす のくまひ けるよ これとの ひとりを あるその そぎよ あす ことを ねづくや。37 かれら いひ けるよ ひとりを ひたりよ おんさろくよ よりて ぎろーめ つまくと。38 あす こるへ けるん あんぢらよ ねづふ ところを そとよ さろづき よりの そ あるひん これとげ うけんと そ あるところの そづめを うけ あさみや。

Yerikoni
46 彼らエリコに來れり。彼の弟子ども
Yerikowo Bartimai sunawàtci Timaino
また多くの群衆と共にエリコを出で行くとき、テマイの
Nazareno Yesu
子バルテマイ盲人、道の傍に坐しゐたりしが、47 ナザレの
Dabideno ko Yesuyo,
イエスの來りたまふと聞きて、叫びて言ひ出でけるは、
Dabideno kòyo,
「ダビデの子イエスよ、我を憐れみたまへ」と言ふ。48 多
Yasunzèyo, táte,
くの人これを叱りて黙せしめんとしたれども、彼ますます
uwàgiwo ste
叫びて「ダビデの子よ、我を憐れみたまへ」と言ふ。49 イ
エス立ちて彼を呼ばせたまへば、人その盲人を呼びて言
Yukèyo, nàndjino
ふ「心安かれ、起きよ、汝を呼びたまふ」
çinkou
50 彼その衣を投げ捨て、躍りて
イエスの許に來れり。51 イエス言ひたまふ「我なんぢに
何をなさんことを願ふか」盲人「主よ、我見ることを得
ん」と言ふ。52 イエス言ひたまふ「往け、なんぢの信仰
なんぢを救へり」彼すぐに見ることを得、道にてイエス
に從ひ奉れり。

Yerikoni
46 彼らエリコに來れり。彼の弟子ども
Yerikowo Bartimai sunawàtci Timaino
また多くの群衆と共にエリコを出で行くとき、テマイの
Nazareno Yesu
子バルテマイ盲人、道の傍に坐しゐたりしが、47 ナザレの
Dabideno ko Yesuyo,
イエスの來りたまふと聞きて、叫びて言ひ出でけるは、
Dabideno kòyo,
「ダビデの子イエスよ、我を憐れみたまへ」と言ふ。48 多
Yasunzèyo, táte,
くの人これを叱りて黙せしめんとしたれども、彼ますます
uwàgiwo ste
叫びて「ダビデの子よ、我を憐れみたまへ」と言ふ。49 イ
エス立ちて彼を呼ばせたまへば、人その盲人を呼びて言
Yukèyo, nàndjino
ふ「心安かれ、起きよ、汝を呼びたまふ」
çinkou
50 彼その衣を投げ捨て、躍りて
イエスの許に來れり。51 イエス言ひたまふ「我なんぢに
何をなさんことを願ふか」盲人「主よ、我見ることを得
ん」と言ふ。52 イエス言ひたまふ「往け、なんぢの信仰
なんぢを救へり」彼すぐに見ることを得、道にてイエス
に從ひ奉れり。

第十一章

Yerusalemuni tcikàdzuki Kanranzánno Betfageto Betaniani

htòno kátste

róbano kōni awàn,

Dái 3, Kimino niúyou nárito iyè, sáraba sumiyàkani sórewo òkuran.

Hozanayo, aruiwa, sambisèyo !

Dabideno

Tsúini Yerusalemuni

Betaniani

Betania

itcijikuno jikðuni

Yerusalemuni

riyougāyeyano dáito hatðurino koçkákewo

16 めつ たれゐても うつそを ゆるさざりー。 17 まく そー
くての ごまひ けるに さが いんに をんを
あんぢら これを そうぞくの あなと あ
かんぬーと ちよやごども これを きこ
もうれり。 をうるよ ひとびと そも かれの
かれと これを おそれをり。 19 ゆうめるよ ありて 多今 まち より いで たまへり。
まことよ あんぢらよ つけん たれゐても このやまよ あんぢ とり あけとれて うそ
よ あけこまれると いそぐ まく ことろよ うごがそぞーて その ことば とぐ べーと
ちんど多べ これを 多ん。 24 ゆ多よ これ あんぢらよ つけん あゆうても あんぢらが
20 めれと あさ とそる とき その いちぢらの ねより めれうるを そーが 21 ぺてろ
多をの ことをを おもひ いざーて さこ そよ あをうの のろふ ところの いちぢらの
きめれうりと いんり。 22 多今 ごうんて いひ けるに めうを ちんめう せよ。 23 これ
cinkou seyo

Petaro

Dāi 1, 2 ca-

26 〔をのー

omóki kánnugito

Yerusalemnuni

27 かれと まく 多るうされもよ いうりて 多今 そやよ 多るく そきよ おをきむ めんぬ
coyákuto tōciyori
ーと ちうやうと そーより めれよ きうり
Yohanumo cidzumewa
めうちん。 30 よそねの ちうめい てん より にんげん より ありーや これよ こう
んよ。 31 かれと たびひよ ろんどて いひ けるに ゆーてん よりと いをぐ かれ

ちうーて ねがふ ものを うけうりと をもふ これを 多ん。 25 まく いうあてゆ
たうて いのるとき ゆー ひとよ さのとふ こと あーべ ゆるせよ。 さをれべ てんよ
いま今 あんぢとの ちくも あんぢとの あやまちを ゆるー たまをん。 26 〔をのー
lónni kūrewo nosézu.
あんぢと ゆるさざらんべ てんよ いま今 あんぢとの ちくも あんぢとの あやまちを
ゆるさざる べーー。〕

いそん さらば あるぞ かれを そんせざりしやと。 32 されど にんげん よりと いそび
Yohanewa
たそを おそる。 そん ひとそを よそねん まことよ よげんそや ありと おをへべあり。
33 つひよ めれよ あをそよ こころへて これよ そよを いへ
けるん これも あんの けんをも もつて こを
このことを あをやを あんぢらよ めざらぜ。

第十二章

そのとき あをを たとへを もつて めれよ めざり そびめ けるん ある ひと ぶどう
budōu
batākewo uye magākiwo megurāçie
をざうけを うへ まげきを めぐらして その うちよ さうぶねの あをを わり やぐらを
たて これを ひやくをやうよ めーて たびびち せり。 2 ときよ おをんを ひやく
をやう より ふどうざうけの そを あんとて をもべを ひやくをやうの もとへ
つろもー ければ 3 かれよ これを とらへて うち めつ むめーく めんをり。
4 ふたたび わうの をもべを つろもーるよ めれよ その あるまよ きざつけて
これを そびらーめり。 5 まさ わうの ゆ ものを つろそーるよ これを ころせり。

めつ おをんの ものを りろをせーよ あるひん うち あるひん ころーるり。 6 さて
ひとりの いろくーむ むをこ ありーげ めれよ どげ むをこを うやまをんと いひ
tsūini
つひよ これをも つろそーるり。 7 されど ひやくをやうども たげひよ いひ けるん
atoiengi
これん あとうぎ あり。 いぎ これを ころせよ さとべ めとろん どれらの もの
ある べーと。 8 めれよ これを とらへ ころーて ぶどうざうけの そとよ あけ
いぶをり。 9 をろとべ ぶどうざうけの ぬしよ あるよ いうべ あさんや。 めれ さるり
その ひやくをやうどもを うち をろがーて ぶどうざうけを その ものよ あづ
Iyētekurino stētaru Içiwa
けん。 10 いくろくりの をそるる いーん いくの
sūmino kāçira Içito
きその あーた たまふ こととゆーて これらの めよ ふーぎ ありと をるされるる せの
sūiçonuwo yomazariçiya!
をろをを よまざりーや。 12 かれら おのれを さーて ある をの この たとへを めるりーを
ありて めれを そらへんと それとも ひとびとを おそれ あをを さりて ゆけり。
Farisaibitoto Herodebitono
13 あをを いひ あやまらせんとて をるびとの へろでびとの ある ゆ つの

kyóudaino
ものたちが、ファリサイびとたちのところに
Çiçôuya, Mouseno
行って、イエスを、ことばのわなにかけて
Sadokaibito
捕えようと相談した。18そこで、サドカイびとたちが
Kaisaruno mōnowa Kaisaruni
イエスのところへ来て、こう質問した。「先生。
yesugàtato najirūçizoya!
モーセは、『もしある人の兄が、子を残さないで
Kaisaruno
死んだなら、その弟はその兄の妻をめとって、
Kaisaruno mōnowa Kaisaruni
兄のために子孫を起こさなければならない。』
と言っています。19ところで、ここに七人の兄弟が
ありました。長男は妻をめとりましたが、
子を残さないで死にました。20次男がその妻を
yotsùgiwo
めとりましたが、子を残さないで死にました。
jinàn
21三男がその妻をめとりましたが、同じように
tsuíini sōno ònnamo
死にました。七人とも子を残しませんでした。
sèiçomo
最後にその女も死にました。23ところで、
よみがえりの際には、その女は七人のうちの
だれの妻になるのでしょうか。七人とも
その女を妻にしたのですが。」24イエスは
Mouseno çómotsu Çōubokuno hénni
彼らに言われた。「あなたがたは、聖書も
Abrahamuno Isakuno
神の力も知らないから、間違っているのです。
Yakobuno
25よみがえりの際には、人はめとったり、
とつがせたりすることはありません。
彼らは天の御使いたちのようです。

Aa Israeluno támi,
kikèyo
Dabide
Kristowa Dabideno
Dabide midzukara Kiyòki Mitàmani

Yesu saisembakono mukuni

41 あそ さいせん そこの むくみよ きそり ひとびとの のねを そのこもを そたまひーご おそくの そめる ものの おそく あけこめり。 42 さて ひとりの
issén dikeno zéni
まごーヨ やめめ きそりて いりせん だけの ぜよ ふそうを あけられ けれど
43 あす でーどもを よんで いひ けるん これ まことよ あんぢーよ つけん この
まごーヨ やめめん さいせん そこよ あけこそそる ひとびと よりも おそく あけ
いれり。 44 いうと なれば のれよん そのあまり より あけこそそり そうー
この そんあい その とぎーヨ より おのれの ちんぢの まあそち くよーを つくを
わど あけこめり。

第十三章

あそ そや より いづるよ でーの ひとり いひ けるん そーやうや そよ いうある いー
まご いうある いんぞ。 2 あそ かれよ いひ けるん あんぢ この おそひある いんを
そるろ。 こよ いーの うんよ たそれぎる ひとりの いーもの のこよぎる べー。

Yesu Kanran zémi

3 あそ めんらん ざんよ おりて そゆよ むうろて まそりー とヨ ペてそろと やこぶと
Yohaneto Andere Peteroto Yakobuto
よそねと あんぢれ ひそうよ とひ けるん 4 いつ この こと あとんや まご そあ
そのことの とけんと する とぎの をあ ちるーん あんぢや どれとよ つけ つまん。
5 あす こよこんて めうり けるん それも あんぢとを まどそさぬや うよ つこーめよ。
6 おそうこの ひと とぐ あを もらて きこ もろの ひとを まどそさん。 7 あんぢら いうこさ まご いうこさの ふうぶんを きく
とヨ さづうふ あうれ。 その こと めあとんを そうー おそり いまご いうこ
cóconi
よんず。 8 たそん たそよ さうふひ くゆんー さうふこんて おこよん ちうちうよ
dijcin
ぢーん あり まご きこん ある べー。 これらん たび めあーその そどめ あり。
9 あんぢも そづうら つこーめよ。 ひとびと あんぢとを ひゆうぢゆうちうよ
こそさん まご あんぢら くをのどうよ おりて むちうられん まご どぐ つめよ
そやうこ あさんとて つうさと どうの まんよ こそとる べー。 10 されど さいそひの

Dái 3, "yogénça Danieluno çimèçtaru" to kuwàyeri.

Yudayani

Ningénno Mūsko

yéikouwo mòtte kumōni

Kristo

Nise Kristo

śri

yonáka aruiwa niwatòri nàku kòro
よなか あるひは にわとり なく ころ

nardono niòi áburawo Çimonno iyèni
なるど の にほひ を ぬりたる しもん の いへ に

ròusekino tsubòno Yesu Betaniani
ろうせき の つぼ の ゐえす べたにあに

támino sóudou
たみの さうどう

kōno dài súgizaran
こう の だい すぐざらん

Yuda
ユダは祭司長たちのところへ行って、どうかしてイエスを引き渡そうと相談した。
11 彼らはこれを聞いて喜び、金を与えようと約束した。そこでユダは、どうかして
Iskarioteno Yuda
イエスを引き渡そうと、ねらいはじめた。

12 除酵祭の第一日に、過越の小羊をほふる時になると、イエスの弟子たちが彼に
súgikoçino kohtsujiwo
言った、「過越の食事ができるように、どこへ行って用意をしましょうか」。13 そこで、
イエスは弟子のうち二人を使につかわして言われた、「都にはいりなさい。すると、
水がめを持っている人に出会うであろう。その人について行きなさい。14 そして、
その入る家の主人にこう言いなさい、『先生が、弟子たちと一緒に過越の食事をす
る客間はどこかと言っています』。15 すると、その人は席の整った大きな二階座敷
を見せてくれるであろう。そこに用意をしなさい」。16 弟子たちは出かけて行って、
都にはいると、イエスの言われたとおりであったので、過越の食事の用意をした。
17 夕になって、イエスは十二人と一緒にそこへ行かれた。18 彼らが席について食

Kanran zánni
かんらんざんに のぼる。

27 その ときに イエスは 彼らに 言われた。「あなたがたは みな わたしに つまずきます。
Dái 3, 5, máta hokàno htòrimo, Wâre nârukato
*しるされて いるからです。『わたしは 羊飼いを 打つ。すると 羊の 群れは 散らされる。』
sâru beç
28 しかし、わたしは よみがえった 後、あなたがたより 先に ガリラヤへ 行きます。」
29 すると ペテロが イエスに 言った。「たとい みな あなたに つまずいても、私は
つまずきません。」
30 イエスは 彼に 言われた。「まことに あなたに 告げます。あなたは きょう、この 夜、
鶏が 二度 鳴く 前に、三度 わたしを 知らない と 言います。」
yaksòkuno wâga tcî nâri
31 ペテロは 力を 込めて 言った。「たとい あなたと ともに 死ぬ ことに なっても、
あなたを 知らない などと 決して 言いません。」弟子たちも 皆 同じように 言った。
32 それから イエスは 彼らと いっしょに ゲツセマネ という 所に 来られた。そして
Getsemaneto
弟子たちに 言われた。「わたしが あそこに 行って 祈る 間、ここに すわって
いなさい。」
Peteroto Yakobuto Yohanewo
33 それから、ペテロと ゼベダイの 子たちを 連れて 行かれた。すると、悲しみと
もだえが 激しく 襲って 来た。
34 そこで 彼らに 言われた。「わたしの 心は 悲しみの あまり 死ぬ ほどです。

çfsuru hoddòni

Abbano ímiwa, Tcftci.

Peteroni Çimonyo,

Hto tòkimo

aruiwa, inète*

yasumèyo! Târeri,

jiùnino htòri naru Yuda

Yuda

Dâi 3, Çiçduya, çiçduya,

これを そとへぐりー。そうー せのそうの ことん とげんと するよ ようて あり。
50 さて でー そな あすを もてく みゆうて やくを まとひうる
ひとりの とうもの あをよ あたがひーげ ひとびと めれを ととへ ければ 52 めれ
やくを もて もたうめて にけり。
53 めれとー あをを めんぬーの をさよ つれ ゆけり。そこよ おをす めんぬーと
とーふりと そうやく そな より あつまりくり。54 ぺてろ めんぬーの をさの ごてん
Petero kânnuçino ôsano gotên mâde
まで とおく あをよ あくげひ あもべどを ととと とめよ もそり ひよ よりて あたくまり
itarigi
ねくり一。
55 さて おもす めんぬーと もべその ひやうぎゆん あをを ころうんとて めれよ
さうとふて あようこを もと むれども あゆも あを。56 おやくの ひと めれよ さめー
ふて いつそりの あようこを たつれとも その あようは いつち せぐり一。57 ある
ひとびと たつて めれよ さめとひ いつそりを あようこをて一 いひ けるん 58 とれ

てを もつて つくとれくる この そやを こがち そうくの うちよ てあーよ あうの
そやを たてんと めれが いひーを さけり。59 かく いつとも その あようは まる
いつち せぐりー。
60 その とき めんぬーの をさ ぢうよ たちて あをよ とひ けるん あんち
なゆも こくんぐるや。あんぢよ さうとふて たてー これとの あようこん いつつぐ
ぐや。61 あす ゆくーて あゆも こくんぐりーが めんぬーの をさ まる そふて
いひ けるん あんぢん うやまふ べき めの一 むをは きりをと あるや。62 あす
いひ けるん あうり まく あんぢとん むをは つうりき あるも めの一
そぎよ ぜー めつ てんの くをよ おひて きくるを そん。63 さて めんぬーの をさ
おのれの こころもを さきて いひ けるん 64 とれとー なんぞ この わのよ あようこ
あんを もちひるや。あんぢとー のくあり きけり いつつぐ おをふや。さて ひと
びと そな これを あす べき つこ ある ものと さぐめくり。65 ある ものん めれよ

Petero çimogotànni áriçiga
[illegible] Nazareno Yesuto [illegible]

Peterowo
[illegible] Petero [illegible]

Peteroni
[illegible] Galilaino [illegible] Dái 3, "máta kùni namárimo koreni áu nari" to kuwâyeri.
[illegible] Petero Yesuno, Niwatori [illegible]

第十五章

Pilatoni
[illegible] Pilato [illegible]

Yesuni
[illegible] Yudayabitono ôu [illegible]

Dái 6, uttàye kéredomo nànimo kotayezáruni
[illegible] Pilato [illegible]

Barabato Pilatoni

Yudayabitono ôuyoto aisatsçi yôçiwo

Aleksanderuto Rufuno teftci

Çimonto iu Kureneno hto

Golgota

Yudayabitono Ou

Dâi 6, 7, Kóre sèiçoni, Kârewa toganínto tomōni kazoyerarèçto iyèruni kannayèri.

Israeluno ōu Kristowo

Mmàno koku

Eloi, Eloi, lama sabaktani

Eliyawo

Eliyano

Dâi 8, 4, sakènde fki tàyetaru

Galilaini

Magdalano Maria

Yakobuto

Yoseno

Maria

Salome

Yerusalemuni

Çtâkuno hi

Arimatayano Yosef àyete

Pilatono

Pilato Yesuno

Yosefuni
ありました。45 また、ヨセフの遺体を取り降ろして、
Magdalano Mariato Yoseno háha Maria
47 マグダラのマリアとヨセフの母マリアとは、イエスの納められた場所を見ていた。

第十六章

Magdalano Mariato Yakobuno háha Mariato Salome
1 さて、安息日が終ったので、マグダラのマリアとヤコブの母マリアとサロメとは、
2 イエスに油を塗りに行くために香料を買った。2 そして週の初めの日の朝早く、
3 日の出のころ墓に行った。3 彼らは、「だれが墓の入口からわたしたちのために
4 石をころがしてくれるだろう」と話し合っていた。4 ところが、目をあげて見ると、
5 石はすでにころがしてあった。非常に大きな石であった。5 墓の中に入ると、
6 右の方に白い衣を着た若者がすわっているのを見て、驚いた。6 すると、彼は
Nazareno Yesuwo
言った、「驚いてはいけない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを
7 捜しているのだろうが、あの方はよみがえって、ここにはおられない。ごらんなさい、
Galilaini deçidómoto Peteroni
あの方を納めた場所はここである。7 さあ行って、弟子たちとペテロとに、
あの方はあなたがたより先にガリラヤへ行かれる、と告げなさい。あの方に
8 お会いできるのは、そこである、と言われたことを思い出しなさい。」8 彼らは
Dái 1, 8 çahónni kōre yori çimowo nosèzu
恐ろしくなり、墓を出て逃げ去った。そして、だれにも何も言わなかった。
Magdalano Mariani
9 イエスは週の初めの日の朝早く復活して、まずマグダラのマリアに
kāteste Yesuto
現れた。イエスは以前七つの悪霊を追い出してやった女である。10 この女が
Mariani
行って、イエスと一緒にいた人たちに報告した。彼らは悲しみ嘆いていた。
12 11 しかし、イエスが生きておられることと、マリアに現れたことを聞いても、



ヨハネの誕生の予告

Teofiloyo,

5 ユダヤの王ヘロデの時代に、アビヤの組の祭司ザカリアという人がいた。
その妻はアロンの子孫で、エリサベトという名であった。
6 ふたりとも神の前に正しい人であって、主のすべての戒めと定めとを
落ちなく行っていた。
7 しかし、エリサベトは不妊の女であったので、ふたりには子がなく、
ふたりともすでに年をとっていた。
8 ザカリアが祭司の職務を神の前に行っていて、自分の組が当番になった
ときのことである。
9 祭司職の慣例によって、くじに当たり、主の聖所にはいって香をたいた。
10 香をたく時間には、民衆はみな外で祈っていた。
11 すると、主の使いが彼に現れ、香壇の右に立った。
12 ザカリアはそれを見て、驚き、恐怖の念に襲われた。
13 御使いは彼に言った。「ザカリア、恐れることはない。あなたの願いが
聞かれたのだ。あなたの妻エリサベトは男の子を産むであろう。その子に
ヨハネと名をつけなさい。
14 あなたは喜びと楽しみにあふれ、多くの人もその誕生を喜ぶであろう。
15 その子は主の前に大いなる者となり、ぶどう酒も強い酒も飲まず、
まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされる。
16 そして、イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせる。
17 彼は主の前に、エリヤの霊と力とをもって先立ち、父の心を子どもたち
に向けさせ、逆らう者を義人の心構えに立ち返らせ、こうして主のために
備えられた民を用意する。」
18 ザカリアは御使いに言った。「何によってそれを知ることができましょう。
私は老人ですし、妻も年をとっております。」
19 御使いは答えて言った。「私は神の御前に立つガブリエルである。あなた
に話をし、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのだ。
20 しかし、あなたは私の言うことを信じなかったから、これらのことが
起こる日まで、口がきけなくなり、話すことができなくなる。時が来れば
成就するわたしのことばを。」
21 民衆はザカリアを待っていたが、彼が聖所で手間どっているので、
不思議に思っていた。
22 彼が出て来ても、話すことができないので、民衆は彼が聖所で幻を見た
のだと悟った。彼は身ぶりで示すだけで、口がきけないままであった。
23 彼の奉仕の務めの日が終わると、彼は家に帰った。
24 その後、妻エリサベトは身ごもり、五か月の間、身を隠して言った。
25 「主は、人の間で私のそしりを取り去ろうと、今こそ私に目を留めて
くださった。」

Yudayano óu Herodeno Abiano, 1 Rek 24 : 10. Zekariato

Elisabato Aaronno

Elisaba

Teofiloyo,

Yudayano óu Herodeno Abiano, 1 Rek 24 : 10. Zekariato

Elisabato Aaronno

Elisaba

8 とき すぎて ぜうりや（Zekaria） そのくその おゆんよ あるりて かその まんくよ めんゆーの
つとめを おこなふ とき 9 めんゆーの あーそーよ そるぐひ くとを とりて きその
そやよ いり めうを たく ことを えるり。 10 めれ めうを たく あひふ おわせらの
ひとびとら そととるて いのりを をれり。 11 さて かその つろひ めうぎんの そぎよ たちて
ぜうりやよ（Zekariani） あとそれ ければ 12 ぜうりや これをそて うろくん おそれるり。 13 つろひ
めれよ いひ けるら、ぜうりやよ、おそるくあうれ、あんぢの いのりら きうれるり、
あーゆと せうちうを の ねまト。そその たいの（Elisaba） あんぢの つまえりさば あんぢの むすこを うまるくよ
16 まくいすとえるの（Israeluno） おわくの おそんを その 14 あんぢよ よろこびと たのーそ あとん まるおそくの ひとびとも その うまるくよ
えりやの こころと ちうとを もつて きその 15 めれら きその まんくよ おわひ あるゆのとあとん、まるぶとう
（Mal. 4：5） ゆの ちくの こころを ことゆよ よりそ よろこぶべん。 16 まくいすとえるの おわくの おそんを その かそ あるゆきそよ めんくよせん。 17 めれら
ーゆと せうちうを の ねまト。そその たいの（Yohaneto） あんぢの いのりら きうれるり、
あんぢの つまえりさば あんぢの むすこを うまるくよ、その あをよはねと あづくべー。
14 あんぢよ よろこびと たのーそ あとん まるおそくの ひとびとも その うまるくよ
よりそ よろこぶべん。 15 めれら きその まんくよ おわひ あるゆのとあとん、まるぶとう

むりそせ、そろうぐそざる ものを たとーヨ ゆの～ さとりよ めんくよせ、まるきその
たゆよ とくまるくるる たそをそまんくん。
18 ざかりや（Zakaria） つろひよ いひ けるら、これ すでよ とー おゆ、つまゆ まるさ とー
すくそろれば これ あるー よりて この ことを そとんや。 19 つろひ こるくて いひ
けるら、これら めそのまんくよ たつ ところの（Gabriel） がぶりえる あり、あんぢよ めうりて
この よろこびの おとづれを つげん そめうよ つうそされるり。 20 そよ、あんぢら
ときよ おゆんを あるざまさば ことそを そんぢ
まそ あんぢら おふーと ありて ものつ ことあるくひ
21 ひとびと ざかりやを まちて そのひさーくそやの うちよ をうをあやしめり。
22 めれが いでーとき ものつ ことあるそざりければ めれよ そのそやの うちうて
あとそれるる ものを そそうるを さとれり。 23 その つとめの ひそうるよ あるりて
つろよ ものそぜーて おふーと あれり。

あなたにこう言うようにと。」

Elisaba

24 その後、エリサベツは身ごもり、五か月の間、身を隠して、25 こう言った。

「主は、人の間で私のそしりを取り去ろうと、

今、私にこのようなことをしてくださった。」

Gabriel Nazareto

26 六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされて、ガリラヤのナザレという

Galilaino 1, 4, 7, i, iyeto furusàtono Yosefuto

町に行った。27 ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけのおとめのところに

Mariato

行ったのである。おとめの名はマリアであった。28 御使いは、そばに来て言った。

Dâi 3, 4, 5, 7, 8, 9, ii, kàkuno gotôçi; 1, 2, 7, i, nosèzu Dâi 3, Maria

「恵まれた方、おめでとう。主があなたとともにおられます。」〔あなたは女の中で祝福された方です。〕29 マリアは

kârewo mite sōno

このことばを聞いて、どういうあいさつなのかと思い巡らした。30 すると御使いは言った。

Mariayo!

「マリア、恐れることはない。あなたは神から恩寵をいただいた。

Yes. 7:14 恩寵 Yesuto

31 見よ、あなたは身ごもって男の子を産む。その名をイエスと呼ぶ。

32 その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれる。

Dabideno

神である主は、その子に父ダビデの王座をお与えになる。

Yakobuno

33 その子はとこしえにヤコブの家を治め、

Maria

その国は終わることがない。」

34 そこでマリアは御使いに言った。

「どうしてそのようなことがありえましょうか。

私は男の人を知りませんのに。」

Dâi 4, i, ii, "nānji yori"wo kuwàyeri; 1, 2, 3, 5, 7, 8, 9, nosèzu

35 御使いは答えて言った。

「聖霊があなたの上に臨み、

Elisabamo

いと高き方の力があなたをおおいます。

ですから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。

37 神にとって不可能なことは一つもありません。」

38 マリアは言った。

「ご覧ください。私は主のはしためです。

どうぞ、あなたのおことばどおりになりますように。」

Maria

御使いは彼女のもとを去って行った。

Yudayano

39 そのころ、マリアは立って、大急ぎで山地にあるユダの町に行き、

40 Zakariasno ざりやの いへに Elisabani えりさべに あいさつを せり。 41 えりさべ さつを きゝ そのよ おどれり。 えりさべ きよまる そこされて 42 おやである よびひけるら、あんちに そんあの うちに さのそひ ある ものあり、めら あんぢの たのあのよ そのれる ところの ものも さのそひあり。 43 ひげ きその もゝ ひれよ きるとに これ いろなる ことぞや。 44 そよ、あんぢの あいさつの こゑ ひげ そゝに よろこびて ひげ たのあのよ おどれり。 45 そんなゝに そんなに さのそひ あり、そに めその めくり たまひに ことら かあるよぜ ある べければ あり。 46 こゝに おらて Maria ありや いひけるに、ひげ こゝろに きそをたうめ。 47 ひげ たまに ひに ひげ すくひぬに ある めそを よろこぶ、 48 これ、 その こに もとの いやに きを ものに めくりそ たまふケ ゆゑ あり、 そよ、 この のち よろづ よまでも ひれを さのそひ ある ものと となべし。 49 つうりき ある ものの ひれよ おやひなる ことを あせり、 その あい きよに、 50 その あそれそに かれを

おそれる ものよ よく およをん。 51 かれら てをゆらて ちろを あらせに、こゝろよ わこれる おゆひ ある ものを ちよを、 52 けんる ある ものを くふる よりおろに いやに ものを あけ、 53 うあこる ものを よき ものよ あらせて とめる ものを むあに めくよを たまよ。 54 から ひれに Abrahamuto あぶよそむと その そそんを めぎり あく Israeluwo いをよそらをたをけり。

56 Maria ありや えりさべと をる こと そのに 57 そや えりさべ うむ とき そちて もをこを うめり。 58 さて とるりびとや ちんるらの ものども かその おやひなる おひを えりさべ あるりて めれと ともよ よろこべり。 59 やうろめよ 60 その そに ちろの あよ より せんとて きるり その ちろの あよ より Zakariato ざろりやと あらけんと せーよ Yohanneto よそねと あらく べー。 61 めれら いひ

しかも彼は、イスラエルの神である主をほめたたえる。
彼らのために贖いをなし、
69 救いの角を、
私たちのために、
しもべダビデの家に起こされた。
70 昔から聖なる預言者たちの口を通して
語られたとおりである。
71 それは、私たちの敵から、
私たちを憎むすべての者の手から、
救われることである。
72 それは、私たちの父祖たちにあわれみを示し、
ご自分の聖なる契約、
73 私たちの父アブラハムに誓われた誓いを
覚えていてくださることである。
74 それは、私たちが敵の手から救い出されて、
恐れなく、
75 生涯、主の御前で、
聖く正しく仕えるためである。
76 幼子よ、あなたは、いと高き方の預言者と
呼ばれる。
あなたは、主の前を行き、
その道を整え、
77 御民に救いを知らせ、
罪の赦しによる救いを与えるからである。
78 これは、私たちの神のあわれみの深さによる。
この神によって、
日の上る光が、
高い所から私たちを訪れ、
79 暗やみと死の陰に住む者たちを照らし、
私たちの足を平和の道に導く。
80 幼子は成長し、霊が強くなっていった。
そして、イスラエルに現れる日まで、
荒野にいた。

Zakaria
Yohane
Zakariano
Yudayano
Israeluno
Zakaria
Israeluno
Abrahamuni
Imiwa, Ikioi aru Skūinúçi
Israeluni

るこの ひあを のよ それり。

だい 二 ちやう

その ころよ あぐすと Augusto てんぐの ひとびとを ゆ
あうぐすと より いぐるり。[2] この あんぐるの こと
たりー ときよ *おこなわれーげ そどめ あり。[3] ひと そ
れんとて おのおの ふるさとよ ゆけり。[4] よせふも
もの あれを そこめる その えんぐるを ちるる
やどやよ めれどの をるべき ところ あうりー
[8] その ときよ ひつじら ありけるが のぐるーよ
[9] めぐり てぐるーけれど めふものども おあひよ
けるい、おそるるーあうれ、そよ、[10] これなんそる
おとづれを あんぢらよ つげんとを、[11] こんなちの
ためよ をこひぬー ある きみ きりをと むまれ
あうれこる をさなごの ちちぶねよ ふーこるを
あぐん。[13] たちまち おあらの てんの ぐんぜ
さんびーて、[14] ゆうとゆ たりが ところあい
kākuno gotōçi; 1, (2?), 3, 5, teini oitewa mēgumi aru hitōni odayaka āreto
あんげんあい めぐみ あれと いくり。

[15] つらよ つうひぢち かれこを そあれて
Betlehemuni
たべひよいひけるん、いざ、べそれくむよ ゆきて
Marinto Yosefu
ありー ことをそる べー、[16] さて いそぎ ゆきて
ありやと よせふ まこ もそぶねよ

Kaisar
Kureniyo Suriano
Augusto
Galilaino mira Nazare
Yudayani
Betlehemuto
Yosefuno Dabideno
Mariato
Dabideno
Yoru
Dai 3', 6, 7, 8, 9, 10', i, ii, iii,
*ちるら おとやう、

あーさる　そどりごよ　たびね　あんり。 17 これを　そられば　この　をさなごよ　つひて
われらよ　めさとれー　ことを　いひ　ひろめーよ、 18 さて　ものの　そま　ひろーろひの
めされるところの　ことをあやーめり。 19 まりや　Mariawa　もんでこれらの　ことをこころよ
とめて　おもひ　めぐらーね。 20 ひつどもひども　おのれらよ　めさとれー　でとく
そきろーさる　をぐんての　さめよ　かそを　あげめ　からわめて　かんれり。
Leb. 12: 3
21 をさなごよ　かつれのを　おこなふ　べき　やうの　ひ　そちければ　いまさたらる
のよ　やどとごさる　さきよ　てんの　つうひの　さづけさる　あよ　ちさぐうて　その　あを
Mouseno
あをと　あげけさり。 22 まうせの　おきてよ　ちさぐうて　さるめの　ひ　みちければ、
23 そとめよ　むまる〜　をとこの　こん　かそのの　そあんへ　ものと　とあんへられんと　めその
おきてよ　ちさされさるげ　ごとく　をさなごを　かそよ　さろけんため 24 まさ　めその
おきてよ　いんる　ごとく　さとをと　ひとうげひ　あるひら　とうき　いんをと　まもを
Yerusalemuni
そなへん　さめよ　のれをつれて　あらされむよ　の分れり。 25 その　とき　あるされ初よ

Qimionto
をさなごんと　いんるゆの　あり、この　ひとに　たづーき　まさ　つさーをある　ものよーて
Israeluno
いをとーさるの　あぐさめーられん　ことを　まち　あるうりーグ　さうき　そうまめれとゆよ
をれり。 26 まさ　のれに　めその　さりをとを　さる　まぐに　ちよ　いんるをあとと　をさうき
そうまよ　よんて　ちめされさり。 27 のれ　そうまよ　かんどてみやよいうりーよ 28 ふる
Qimion
初や　をさなと　あをよ　おきての　あとそーを　おこなへん　さめよ　これをつれ　をうり
ければ 29 をさなごん　これを　いさき　かそを　いそめて　いひける、 30 をさなよ、　いよ
あるさん　そことをよ　ちさぐうて　この　ちめされ　ごまふ、
31 足が　めに　をぐよ　そんそんの　まんてよ　まうけ　たまひー　をさひ、 32 をあそち　いぎん
Israeluno
をてとーを　ひろり　まさ　あるさの　たを　いをとーさるの　さうえを　そうり。
33 その　ち〜　そうに　をさなごよ　つうて　かうとーれる　ことを　あやーめり。
34 をさなごん　のれに　いそひて　そ〜　Mariani　ありやよ　いひける、そよ、この　をさなごに
Israeluno
いをとーさるの　おそうの　ひとの　たうること　おさるとの　うめ、まさ　そーとる〜

まとよ たてとれくり。35これ おゐくの こころの おゐひ あとそれんげ ため あり、
まゝ つるぎ あんぢの たましひそも さゝー とゐをべー。
Annato
Aseruno zòku Penueluno
36あせるの ぞく ぺぬえるの むすめよ あんをと いくる とー おのくる をんを
よげんをや あり。 おれいさむすめの ときより をつとよ ゆきて をちねんの あひだ
とゐよ ゐそくり。37いよ おゐそ そちごう おさらの やゐめ ありーが そやをと をを
れぞよるひる さんごきといのりをーて おそよつろんくり。38このとき そのを んをゐ
かくそとよ たちて かそよ をやー まゝ あるされむまて あげをひをと のぞめる
をべての ひとよ この をさあその ことを かくされり。
39かれと おそのおきてよ をくべての ことを をもりければ がりごのの
Nazareni Galilaino
おのれの まち あざれよ おんれり。40そをゐご や〜 そさちて をこやうよ あり、
ちゐ そちて かそのの めぐそ おれと とゐうよ ありー。
41その ふくゐやい とーごとよ をぎこさーの まつりよ あるされむく の ゐれり。
Yerusalemuye

42をゝご あをの おうこうくうの とおよ まくりの あとをーよ をくげふて の ゐりーが
nobòriciga Dái 3, 4, 8, Yosefuto sono hâhawa Dái 3, 4, 8, Yerusalemuni
43ひ そちて かくりけるよ ととんべ あるをい あるされむよ とをまれり、 されど
*ふくゐやい これを をとゐを、44みちびれと とゐよ をる ことゝ おゐひ いちあち
ちを ゆきて をんなるのと をるべの ゐのよ たびぬれど あをざりければ、45これを
たびねくゝ あるされむよ おんれり。46ひを へて そうう めよ あをを そやうて
がくをやどゐの うちよ ざーて おれとよ ものこまその さときと こくんとをあやー
そゝ おれよ いひけるに、むをこよ、47おくく あんをを これを そて おどろき、
あんぢの ちゝと これ うれひて あんぢを たびねくり。48あをを こくんけるん、
あんぞ これをたびねーや、これに これが ちゝの ところよ をるべきを をとざるら。
50されど かれくに その めくとれくる ことをを さとゝざりー。51つひよ あをを
ふくゐやと とゐよ くくりて おれとよ をくべひ をれり。52その

ルカ 3:1 新約聖書

53 彼は多くの人々の心の思いが明らかにされるために、
ふるいをその手に持っている。
そして、麦を倉に入れ、もみがらを消えない火で焼き捨てる。

1 Tiberia Kaisaruno Pontio Pilatowa
ティベリア カイザルの ポンティオ ピラトが
Yudayano Herodewa Galilaíno
ユダヤの 総督で、ヘロデが ガリラヤの 領主で、
Filipowa Itoriato Terakoniteno Lusaniawa Abileneno
彼の兄弟ピリポがイツリヤとトラコニテの 地の 領主で、ルサニヤが アビレネの
2 Annasto Kayapa
領主で、アンナスと カヤパが 大祭司の 時に、荒野で
Zakariano musko Yohaneni Yorudanno
ザカリヤの 子ヨハネに 神の
3 言があった。そこで彼はヨルダン
Yesayano
4 の全地方に行って、預言者イザヤの書の
5 ことばにあるように、罪の赦しを得させる悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。
「荒野で叫ぶ者の声がする。
『主の道を備えよ。
その通路をまっすぐにせよ。
6 すべての谷は埋められ、
すべての山と丘は低くされ、
曲がったところはまっすぐになり、
でこぼこ道は平らになり、
7 すべての人は神の救いを見る。』」
8 そこで彼は、バプテスマを受けに出て来た群衆に言った。
「まむしの子孫たち。だれが、迫り来る御怒りを
Abraham
のがれるように教えたのか。アブラハムを
Abrahamuno
父があるなどと思ってもみるな。あなたがたに言うが、神はこの石ころからでも
9 アブラハムの子を起こすことができる。斧はすでに木の根元に置かれている。
良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ入れられる。」

miwo 実

10 そこで群衆は、「それでは、私たちはどうすればよいのですか。」と言って、彼に尋ねた。
11 彼は答えて言った。「下着を二枚持っている者は、持たない者に分けてやりなさい。
食物を持っている者も同じようにしなさい。」
12 取税人たちもバプテスマを受けにやって来て、彼に言った。「先生。私たちはどうすればよいのですか。」

きよりの　めれよ　いひけるに、そーやうよ、
いひけるに、そなありらる　そらぎの　わろ
めれよ　とみて、　ひれらん　あるを　あすべき
たれそも　おびやう今　あられ、　あるひら
あんちの　きうきんを　されりと　せよ。

15 ひとびと　のぞを　まち　めつ　そる　こころ
めんぐん　ねさりーよ　16 よそね　めれよ　おそ
そろよ　ちらめり、　されど　ひれ　より　いきる
ざうりの　ひゆを　ところゆ　そぶざる　ゆの
まこひよをらめこまそん。 17 てるん　そをゆ
こよ　おさめ、　わとを　きんぐる　ひよて　やき
ことを　ゆりて　すこめをあー　ひとびとよ　さ

Déi 3, 4, 9, Herodewa kyóudai Filipono tsúma Herodiano
19 こころーゆ　へろでん　かやうだいの　つま
すべての　あーゆ　ことを　よそねよ　いさめ
よそねを　ちうやよ　とちこめさり。

21 ひとびと　そる　ちらめとれー　とゆ　あ
ひとけ　22 さよゆ　そこは　もとの　ごとゆ
てん　より　こあ　ありて、　なんぢら　ひだ
いと　たのーゆと　いくり。

23 あす　ひざを　はとめーん　そー　およそ
おゆふよ　よせふの　むすこ　あり、　よせふ
より、　まつこそん　れひ　より、　れひん　めるき
より、　めるきん　やんな　より、　やんな　まつこそ
より、　まつこそん　よせふ　より、　よせふん　あゆす
あゆすい　あろむ　より、　あろむん　へすり　より、

Yosef
Yosefuno
Lebi
Melki
Yanna
Mattato
Matatia
Amos
Nahum
Hesli
Naggai

○るの　だい　三　ちやう

Mattatia
まあて より、 26 まあそい まつたや より、 そめいん
1, 2, 7, i, ii, iii, Yosek; 8, 5, 9, 10, Yosef　1, 2, 7, 10, Yoda; 8, 5, 9, Yuda
Yoanan
よせく より、よあそるん より、 よあまんい れりこ より、
Zerubabelu
れせら せらちべる より、 せらちべるん ねり
Melki
より、 23 ねりく めるまり より、 めるまん
Elmodam
こさちい えるもだむ より、 えるもだむ より、
Eliezeru
えりえぜる より、 えりえぜるい よとむ より、
Lebi
れび より、 30 れびん そそるえん より、 そそるえん
Yonan
よせふん よまえん より、 よまえん えりやきむ
Eliakim
1, 2, 7, 10, ii, Menna
めれやい めんまる より、 めんまる まつたや より、
Dabide
だびで より、 32 だびでい あさら より、 あさらい
Yesai
Çimion
Lebi
Naçon
3, 5, 7, 8, 9, 10, Salmon; 1, ?, Sala
Naçon
ちあまん さらまえん より、 さらまえん あ〜ふん
1, 2, 7, 10, Admin yori, Adminwa Arnei yori; 8, 5, i, Aram yori
Aminadabu
より、 あそるあえい あらまえん より、 あらまえん へすろん
Hesron

Yudas
Yoanan
Zaltelu
Addi
Kosam
Eru
1, 2, 7, ii, iii, Yesu; 8, 5, 8, 9, Yose
2 えるん より、 2 えるん あさま より、
Mattate
Natan
Obede
Boaz
Yuda
Yosef
Melea
Eliakim
Yonan
Mattata
Dabide
Yesai
Çimion
Lebi
Naçon
3, 5, 7, 8, 9, 10, Salmon; 1, ?, Sala
Naçon
ちあまん さらまえん より、 さらまえん あ〜ふん
1, 2, 7, 10, Admin yori, Adminwa Arnei yori; 8, 5, i, Aram yori
Aminadabu
より、 あそるあえい あらまえん より、 あらまえん へすろん
Hesron

Fares
より、 へすろん より、 31 えるあ より、 えるあ
Isak
いさく より、 いさく あぶらはむ より、 あぶらはむ
Abraham
Tera
Nakoru
Reu
Peleg
Kainan
Arfaksade
Sem
Noha
Lemek
Metusela
Hanok
Yarede
Mahalalel
Kainan
Enos
Adam
Sete
Sete せて より、 せて あだむ より、 あだむ
Adam

Yordan
Jesu
Zankini
Yakob
Yuda
Yuda ゆだ より、 34 ゆだん やこぶ より、 やこぶん
Tera
Nakoru
Reu
Peleg
Kainan
Arfaksade
Sem
Noha
Lemek
Metusela
Hanok
Yarede
Mahalalel
Kainan
Enos
Adam
Sete
Sete せて より、 せて あだむ より、 あだむ

Yordan
Jesu
Zankini
Yakob
Yuda
Yuda ゆだ より、 34 ゆだん やこぶ より、 やこぶん
Tera
Nakoru
Reu
Peleg
Kainan
Arfaksade
Sem
Noha
Lemek
Metusela
Hanok
Yarede
Mahalalel
Kainan
Enos
Adam
Sete
Sete せて より、 せて あだむ より、 あだむ

Fares
より、 へすろん より、 31 えるあ より、 えるあ
Isak
いさく より、 いさく あぶらはむ より、 あぶらはむ
Abraham

あんぢ ゆー めその むすこ あらば、そんよ あれと この しーよ めの せよ。4 あす
そうくて いひけるん、ひとん ぞん のそうて いきずと ちうされくり。
8, 8, 9, 10, ikizu, tada Kamino subeteno kotobanite iku bẹto
5 つりよ ざんき あをを（たらずも やまよ）つれ ゆき めをそうきの まよ せろうの
1, 9, 8, nosezu
ちんこうを そせて いひけるん、6 どれ この まべての けんねと その さうえとを
あんぢよ あるくん、それ どれよ まうせとれくられば どげ わうをる ものよ あるふる
ことをうべー。7 ゆをよ あんぢ ゆー どれをおげまば そをま あんぢの ものと あーん。
8 あを こうくて いひけるん、あんぢの めそうる さそを おげと さべ めれよ のそ
つうふ べーと ちうされくり。
9 まく あをを あるくられ ゆよ つれ ゆき たうせて いひけるん、
あんぢ ゆー めその むをて あらべ あけ おとを、
10 いうんと あれば めれ そのつうひうちよ めのとて あんぢを まゆとせん、11 かれと
あんぢの あーの しーよ ふれざる やうよ てうて あんぢを さうくんと ちうされくり。

12 あを こうくけるん、あんぢの めそうる さそを こうろそうる あうれと いうれくり。
13 ざんき まべての こうろそを そそうりて ちうとく めれを そあれくり。
Galilaini
14 あを そうまの ちうとよ ふうて がりふのよ めくりーよ その さうくん あまねく
Galilaini
まそりの そちよ ひろうりくり、15 めれ くをのとうて そーん まべての ものの
ふりたうとまれくり。
Nazareni
16 つりよ その そうそうる そそうの あうざれよ いうくり いうものの ごとく やをそびよ
Yesayane
うをのとうよ いりて よまんとて たちければ 17 よけんーや あうやの ふそを
あるくとれーよ その ふそを ひらきて めく ちうされうる そそうを そうるをり、
Yes. 61 : 1, 2
18 めその そうを どれよ いまをり、いうんと あれば まうーm ゆのよ さうそひの
おとうれを つうくんん ことを どれよ あぶとれ
3, 8, 9, kokorono itameru mōnowo iyāçi mata meçindōni
ごと〜 めくとよ そうをせん ことを ちめーん、19 めの おさんとうる〜 ゆのを そあち
きその たのーき そーを のべ ひろめんげ ためよ どれを つうそをり。20 すぐよ

ふそを　まき　それを　かくりの　ものよ　とくるーて　ざーけれべ　くるのどうよ　をる
もの　そま　めを　とめて　めれを　そくり。21あを　めれとよ　のひ　そとめけるん、
この　ちるされくる　ことん　けふ　あんぢとの　そくよ　そけくり。22ひとびと　そるま　めれよ
ちようこをたてくそのくちより　いづるめぐくその　ことををあやーそて　いひけるん、
これい　よせふの　むをこよ　あとぞや。23あを　めれとよ　いひけるん、あんぢとん
めるとぞされよ　この　ことをぞを　いそん、いーやよ、そうとをいやせ、あんぢげ
Kafarnaumunite
めちるるうむるて　あせーをとれとげきくーことん　ふるさと　ある　この　ところるも
るんせよ。24まく　のくまひ　けるん、これ　まくことよ　るんぢとよ　つけん、ふけんーやん
Eliyano
その　ふるさとるて　うけとれぞ。25これ　まくことを　ゆうて　あんぢとよ　つけん、えり
Israelumo
やのとき　いをくえるの　うちよ　おやくの　やゆめ　ありけるげ　さんねん　むつきの
Eliyawa
あいだてん　とぢて　くるぢう　おやめるる　きくん　ありーうど　26えりやん　その　ひと
Qidonno Barefani
りるも　つりもされぞ　たど　そとんの　されをよ　をる　やゆめ　ある　ひとりの　をんるよ

つうもされくる のを。27まく　ふけんーや　えりーやの　ときに　いをとえるの　うちよ
おやくの　らのびよう　やま　ありーうど　その　ひとりぢよ　きふめとれを　さど　をりやの
Naaman
あまん　のを　きるめとれくり。28くるのとき　そるま　このことを　きくて
おやひよ　いうり　たつて　29をを　あけ　おとをさんとて　その　まちの　たちくる　やまの
がけよ　つれ　ゆけり、30ちうるよ　をを　かれとの　あうを　とやりて　されり。
Galilaino mâtei Kafarnaumuni
31つのよ　がりらのの　まち　のをるるうむる　くるりて　やをそびよ　をーん　けるよ
32その　ことぞ　けんる　ありければ　ひとびと　その　をーくよ　おとろきくり。33くるの
どうの　うちよ　ふけうの　あくまの　たまよ　とりつられくるもの　ありーが　おやぢるよ
Nazareno Yesuyo,
さけんぞ　いひけるん、34あ～　あぢれの　ををよ、　ひれとと　あるくの　あのぢよ
いうるる　こと　あるや。　ひれとを　ろろがる　たれよ　きくくるう。　ひれ　あるくん
たれ　あるを　ちる、　ををそち　めその　きくるる　ものの　あり。35をを　これを　そびめて、
だまれ、　めれより　いでるとの　くるまひ　けれべ　あくまその　ひとを　まんあうまたふー

きをうけぎーて のべてり。[36]さて ひとびと そあ おどろき さゞひよ めさりて いひけるは、これ いかある ことぞや。けがれたるものどもを めいじ ければ いでたり。[37]こゝよ おのれて あるもの ひやうをん あまねく まもりのそちよ ひろごりぬ。

[38]あをも さうて くるしのどう より いでCimonno ちやんの いへよ いり けるよ ちやんの おうとめ おやの ねつを さだうひ をれり。ひとびと めれの さめよ あをよ ねがひ ければ [39]そをよ さちて ねつを とがめーよ ねつ さめり、そんあ たちまち おきて かれによ つかへり。[40]ひくるゝとき さまざまの やまひを さだうひよふ ものを もちくる ひとびと これを あをよ つれきたり ければ いちいちに てを その うへよ つけて いやーさまへり。[41]あくまも おあるの ひとより いでゝ、あるは かその むをと "Kristo" kuwàyeri *ありと さけび ければ あをを これを とがめて その ものいふ ことを ゆるさざりき、かれと あをは きりをと あるを されば なり。[42]よの あくる とき あをは

いでゝ さもしき ところよ ゆき ければ おあせらの ひとびと さだねきたりて かれとよりとゞめ さまたげざる やうよ かれを とゞめたり。[43]あす いひ けるは、それんの まちまも めぐの まつりごとの さらそひの おとづれを いひ ひろむ べきため。[44]つらよ ゆだやの くるらどうゆて せう

1, 2, 4, 6, 7, Yudayano; 3, 5, 8, 9, 10, Galilaino

とき をぎて おあせらの ひとびと ことぞを きうんとて おーあひ けるよ あす ゆねされの Genesareno そだうそのの かとりよ あそうの ふねを たちて [2]いそよ ある ふそうの そこより、をあとる ものら ふねより いでゝ あそを あらひ をれり。[3]あす ちやんの ふね ある そのの いつそうよ のりて をろ のち ざーて ふねの うち より おあせらの よ をしへ さまへり。[4]をしへ ををりて ちやんよ いひ けるは、ふらき ところへ いでゝ あそを おろーて をあとれ。[5]ちやん

Cimonno

Cimon

こころくて いひ けるが、ちーやうよ、これよ よめをぐと そろふきーうど あんの
あものも あろりー、されど おんことを
6 あそを おろーして おろくの さうあを めつそて あと さけうろり ければ、7 わろの
ふねの あうまを まねきて、きろり たをけよと ねげんり。きろりて さろあを
おそうの ふねよ そろーけれども ちぐまん 8 ちめん 9 ぺそろ これを
そて あをの ひざもとよ ひれふーて きそよ、これ より そあれ そあへ、これい
つそびと ありと いへり。9 そん、ちめん おふびとめよ をりー ものそあ をあどりー
ところの さうあの おびろぐーきよ おどろきろる あり、10 ちめんの とめあろ
Zebedaino musko Yakobuto Yohanemo
せべろのの むをろ やこぶと よそねも まく おどろきろり。あす ちめんよ
いひ けるが、おそろく あろれ、いま よりの のち あんぢいあんけんを をあどろる
べーー。11 さて めれと ふねを きーよ 〈 つけ いろさのの ものを をて〉 あをよ
ちろげんり。

Simon Petero
Fassaino

12 とめ をぎて あす ある まちよ あろよ ちのびやうを
ひづくふろる ものの ありーげ あをを そて
そでころろよ めあそび あるくん されを きふく をろことを うべー。13 つのよ てを
のぞーー めれよ さそりて、ひげ ころろよ めあふ、きふく あれと のろまひ ければ、
たろちよ ちのびやう めれ より されり。14 あを めれを いまーめて いひ けるが、
ひとよ つぐる あろれ、たび ゆきて そびろを めんぬーよ そを、めろ ひとびとよ
Mouseno
ちあうろを あさろんとて さろめとれーー さめよ ゆうをの めのぜーー ととく そあへ
ものを さろけよ。15 されど あをの ひやうぜん まをまを ひろぐりて おろくの
ひとびと をーへを きーー まく やまひを いやさる〜 さめよ あつまり さられり。
16 さて あす いのる さめよ さそーのを ところよ ちりぞの さまへり。
Galilaino Yudaya Yerusalem
17 とめ すぎて あるひ をーへ けるよ がりしらのの むーむと おふびゆうや あろるされむ
Farisaibitoto 3,4,5, あす
よりきろりろる ちりさのびとと〜 きやうそふー めろそよ ぎー ねろりーげ

Kúrerawo iyàs tamèni
やなひを　いやす　ためよ　ものその　ちうよ　あくそれきり。18そよ、ひとびと　ちうきを
やそさる　ものを　ねどこの　まさうえて　つれきさりしが　19これを　うちよ　いれて　あをの
まんくよ　おろんと　おゆんども　おわせの　さめよ　うちよ　いる〳〵　ことを　あざり　ければ
やねよ　のぞり　ものさを　とり　のけて　ねどこの　まく　まんあうえて　あをの　まんくよ
これを　つり　おろせり。20あす　われらの　ちんうを　そて、いひ　けるん、ひとよ、
Farisaibito
あんぢの　つそん　ゆるされさり。21そよや　もりさのびと　ろんじて　いひ　けるん、
このひと　ことを　いふ　ものに　されぞや。ものの　わろよ　されら　つそを　ゆるす
ことを　あんや。22あす　われらの　おもひを　さとりて　こさん　いひ　けるん、あんぢら
あよを　こさの　うちよ　ろんずるら。23あんぢの　つそん　ゆるされさりと　あるひん
おきて　あるけと　いふ　ことん　いづれか　たやすきや。24されど　おんげんの　むすこ
せらのよ　おのて　つそを　ゆるする　あるを　あんぢらよ　さとせんとて、つのよ
ちうき　やそよ、それ　あんぢよ　つく、おきて　ねどこを　とり　いんよ　めんれと

いひ　ければ　25そのひと　さらちよ　ひとびとの　まんよ　さちて　あー　ねどこを
とり　ものさを　ためて　おのれの　いんよ　めんりさり。26ひとびと　そな　おどろきて
ものさを　ためめ　ものつ　おそひよ　おそれて　それよ　けふ　ふーぎ　ある　ことを　そさりと
いんさり。

Lebito
27このの　のち　あす　いでて　れびと　いんる　そつぎとりの　そうぎ　やさーよ
ざーさるを　そて、それよ　さるぐんと　いひ　ければ　28そんぐての　ものを　すてあさて　さちて
さらぐんり。29れび　おのれの　いんよて　あすの　さめよ　おそひある　ふるまひを
まうけさり、4, 5, "sono" wo nosézu
30そりさのびとー　そのさるやさども　でーさちよ　せんよ　つきさる　ものの　おそく　ありけるが
そつぎとり　および　つさびとー　とよ　さちのさ　さるん　あんぞや。31あす　さんて
いひ　けるん　さんやうある　ものよ　いーやケ　いよず、さず　やめる　ものよ　のさ。
32それん　さんー　ものを　まねく　さめよ　あとーず、さら　つさびとを　さひ　あとーさめ

○ るの だい 五 をやう

さゝん そめよ きゝられり。33 めれト あやよ いひ けるん よそねの でーら をゞーゞ
Farisaibitomo
だんトきと いのりを あす、 なりさうのびと ねまでく あすよ、 そゞ あんぢの
でー のと くひのと *2,7, ii, sūru nāri まるら あんぢや。
こんれいの きやく そまりてと ともよ だんトきと あさーゐる あひゞ めれよ
ことを あんや。35 されど そまりと めれト より ロろるゝひ きゝん、その とぎよ
だんトきと もゞぐる あり。36 まゝたとんくを ゆうてのうまひ けるん、たれも *あゝとーのゝ
きゆものを つくしとりて それうて ふるゐる きゆものを つくしとりて ものの あー、 あー ちうを
あゝとーゐる きゆものら きゆものと あり、 まゝ あゝとーのゝ ふどうーのと あるゐる
ふるゐる きゆものと あそぐる あり。37 まゝ たれも あゝとーのゝ ふどうーのと あるゐる
めそぶくろよ いる〜 ものあー、 あー ちうを ゆうてのうまひ けるん、たれも *あゝとーのゝ
そり さゐる ふどうーゆ めれ、 いぐ〜 めそぶくろよ やぶる〜 あり。38 あゝとーのゝ
ふどうーゆ あゝとーゐる めそぶくろよ いる〜 ぐー、*39 たれも ふるゐる ふどうーのと
Yohaneno
Dōi 3, 4, 5, sōsureba flatsu nagara māttakaran

3, 5, 8, tadāteini
のゝて *あゝとーのゝ ふどうーゆを のぞむ ものあー、 ふるゐるよ よーと いんぐ あり。

だい 六 をやう

Dabide
1, 2, 7, i, ii,iii, nosēzu; 3, 5, 6', 8, 9, 10, Dōi ni nénno hājimeno, aruiwa, Sugikōçino dāinino
〔だい あねんの そとめの〕 やをそびよ あす むぎをらけを とある でーとも
むぎの わを つそ てるて ゆそ くとひーらんぐ。2 ある ちうさうびと いひ けるん、
あんぢと やをそびよ あを ぐうとぎる こと を 多をん あんぞや。3 あす こるんて
のくまひ けるん、あんぢとん たびを ねよ。
Dabide
ときよ めれの あをー こと 4 まのそち だびを ものどもの うゑるる
Dabide
ちうん たれも そとふ ぐうとぎる そあんくの ゆうを とりて めんぬーの
をりー ゆのゆ あるくるる ことを いゆ まゝ とゆよ
あんけんの むをそび やをそびうゆ あるとー あり。5 まゝ いひ けるん、
そぎの てめれるひとあり けるが 7 をよ やくとなりさうびとを ゐをの あやうちを
Farisaibito

そのでさうんとて やをそびよ これを いやまや いまやよ きを つけうり。 8 あす
めれよの おもひを ありて てのの めれうる ひとよ、おきて まうあうよ たてうと
いひ けれど おきて たてり。 9 あす たれ あんぢとよ
たづねん、やをそびよ よきを あをや あーきを あをや、まづ いのちを たをうるや
8, 8, 9, korōsuya
おろがをや、いづれを あす べきう。 10 つうよ めれよを そまそーて その ひとよ、
3, 5, 6', 8, 9, hokano tano gotoku
あんぢの てを のをせうと のうまくり。 めれ のをー けれど その て *いえうり。
めれよ おわひよ いうりて あをを のうよ せんやと あひ そうれり。
12 その ころ あす いのよんとて やまよ
13 よ あくる とき でーうちを よびて その うち より おうまうんを あとびて これを
Peteroto iu Çimon
ちーやと あづけり、14 すあをちべそろと うまん、まづ その かやうぢら ある
Andere, Yakobuto Yohane, Filipoto Bartolomai, Alfaino Mattaito Toma, Alfaino
あんぢれ、やこぶと よをね、ぴりぢと そまる、あるをら
mūsko Yakob, Zeloteto iu Çimon, Yakobuno kyōudai Yudato
のむすこやこぶまづ せろてといふ ちゆん、16 やこぶの きやうだいら ゆだと あす を

Iskarioteno Yuda
うらぎりをる いすかりおての ゆだ をり。
17 つうよ めれよと とをよ やは より
dēgi
でー まづ その をーくを ぢうんとー あ
四方 çihōu, Yerusalem, Tsuro oyobi Çidonno
ちもふ、 ろうされむ、つろ おをび ちどんの
ひとびとも あつまり きうれり。 18 ふけ
1, 2, 7, i, dokuno Yudayano
いやされうり。 19 おわぜのの ものの そま
あれば ちうと めれ より いで〜 めれよを
20 あす めを あけ でーうちを そて いひ
8, 10, kokōrono madzūçki
そひ あり、めその そうらら あんぢよの
ものの あれば あり。 21 あんぢよ いは うゆる
ものの さのそひ あり、そてよる べきよ よつて あり。あんぢよ いは あけく ものの
さうのそひ あり、さ〜ふ ことを うべけれ ば あり。 22 あんぢの むすこの そある よ
ひとびと あんぢよを あくを まづ とわぜの のう〜り、あんぢよの あをを あーうと

〜て そそるべ あんぢよ さのそひ あり。[23]その ひよ よろこびて おどれ、そよ、あんぢよの むくひい てんよ おのて おそひ あり、その ひとびとの せんぞが よげんしやちよ あせーもめくの ごとし。[24]あんぢよ とめる ものい ひざそひ ある めき、そぐよ あんぢよの たのーそを うくれべ あり。[25]あんぢよ いまあける ものい ひざそひ ある めき、あんぢよと されべ あり。[26]あんぢよ をべての ものい ひざそひ ある かき、かきーを あげらんと されべ あり。[27]これよ さく ところの あんぢよ つげん、あよびとを あのせよ、あんぢよを あくむ ものよ よきを あせ、[28]のよふ ものを ちくし、あんぢよを あやまち ものの ためよ いのれ。[29]あんぢの わうを うらめる ものい あらん ちうぎを とる ものあい ちうぎも いのち むくひ あらん。[30]たれよそも あんぢよ

ねがうべ これよ あくまん、あんぢの ものを とりさる ひとより まく そのものを ものとむる あらん。[31]あんぢよ ひとの おのれを あらする ことい これを ひとする おとるん。[32]あんぢよ もー おのれを あらする ものを あらさべ なんの めぐみ あとらんや。[33]つそびとそも おのれを あらする ものい あらする なり。[34]なんぢよ もー おのれよ よきを なさん ものの よきを なさべ なんの めぐみ あとらんや。つそびとも かくの ごとく なす なり、[84]なんぢよ もー かくさる〜ことを のぞそて ひとよ かさべ なんの めぐみ あとらんや。つそびとも かくさる〜ことを あんとそて つそびとよ かも なり。[35]なんぢよ なー なるもの めくさる〜 ことを のぞまぢーて、めぐみ されべ なんぢらの あよびとを あのー よきを べー されべ なんぢらの むくひい おほひ あらん、かつ もつとも さうき ものと なるべし。[36]*おそひ あとらん、かつ もつとも さうき ものと なるべし。[1,3, tēnni ōoi naran]

かれらい おんを もとぐる ものの おほび あーき ものの よ まをめぐさを わどこせべ なり。[3,6,8, kōno yuyēni nānjiranu]

[36]*なんぢらの ちくの あをれむ ごとく なんぢらも あをれむべー。[37]ひとを さばく

なうれ、さよ〳〵なんぢよもさもうれぞ。ひとをつま せうれぞ、ひとを ゆるせ、さよ〳〵 なんぢよ、さよ〳〵なんぢよもあるくよるべー。かれよ、もうりをよろこて おーつけ、ゆをり いれ、あふる〳〵 まぢまーて なんぢよの あとところよ いれん。 なんぢよ もうる ところの もうりを ゆつて なんぢよ もうりゆどさるべー。

39 まる めれよ たとんを のるまひ けるん、めくぶんめくよをてびき まることを あんや、ふるりとも そぞよ おち いよぐさよんや。40 でーん ちーやう より まさよぜ されど まべて せんび なるゆのんそのの ちーやうの でとく なるべー。41 さやうさ のの めよ あるちりを そて おのれの めよ あるうつをりを おがんぐさるん なんぞや。42 おのれの めよ あるうつをりを そぐさるよ いろぜ なんぢの さやうさよ、さやうさよ、なんぢの めよ あるちりを とれよと いふことを あんや。43 ぎぜんしやよ、まづ おのれの めよりうつをりをとれ、さをれば あんがさやうさの めの

よりちりを とらんとて あきとうよ そることを むをぶことを あーまた そをむをぜ。まべて きい そのそよりて ちとるくまりを ととぶ、まべの〳〵 なとより ふるうをつむ ものあーまた。45 よるひとん こころの ひとん あーまた くとより あーまを いるを、あーまた いんぐまり。46 あんぢよ ことば いよ ことを おこなをぜーて きそうと とまふるや。47 まべて これよ まるまふ ものんこれよ まるるうを あんぢよ りぶ ことをきこて それを おこなふくりてどぢを いその うんよ おける ゆあよ それを うごうを ことを あうその いんよ あるれどる ゆあよ それを うごうを ことを あうその いんよ あるれどる ゆあよ ぞさらの あーまた いんを ちの うんよ たうる ひとの ごとー。あるれ その いんよ あるり ければ たちよ たふれて その

○るこの だの 六 ちやう

いくの やぶれい おそひ ありー。

だの 七 ちやう

あす たその そこよ すべての をーくを いひ をそりて かちらあうむよ いれり。
2 ある ひやくるんの かーとの あの をる ちよめべ やそて ちぬ なうり あり けるが
3 その かーとあをの ことを きこて ゆだやびとの とーよりどもを かれよ つろもー、
Yudayabitomo
きこりて ちよめべを いやー たまもん ことを ねづんり。 4 かれと あをよ いくり
ちきりよ すこめて いひ けるん、 その ねづふ ことを わとこをよ たれる
ものの あり、 5 これとの たそを あのーて そづろと これとの ためよ くをのどうを
たてこり。 6 さて あす かれと とゆよ ゆきて ゆもや いく より とわろとざる
とき ひやくるんの かーとゆこちを つろもーて いひ けるん、 きこよ、 そづろとを
これとぐとそす あれ、 これん あをくを ヨゲ やねの ちくよ いれまつるよ そとぎ、
7 ゆあよ これ あをくの まんよ いづるもの くとぎと おゆんり、 たど ことをを

もつて めらど *2, 7, waga çimòbewo iyùç tamàye. たまん、 ちうとべ ヨゲ ちゆをん。 8 いろんと あれば、 これん
けんるの ちくよ つける ものの あり、 まくる ヨゲ ちくるもの つとものの ありて これよ
ゆけとのくべゆく、 めれよ きこられと いくべきくる、 ヨゲ ちゆべよ これを あをと
いくべあをが ゆあ あり。 9 あを この ことを きこて かれを あやーを ちくげひくる
ひとびとを かんりそて いひ けるん、 これ あんぢとよ つけん、 これん いをとそるの
Israeluno
うちるてゆ かくる あつき ちんうを そぎり *3, 4, 5, yàmi taru çimòbeno
あんりて ちゆべの いそくるを そくり。
11 つぎの ひあを あいんと いくる まちよ
1, 2, 5, nosèzu
ちのの ひとびとゆ とゆよ ゆけり。 〔おちくの〕 でー おとび おそ
12 まちの ゆんよ ちうげける とき そよ、 ちるん
かき いづされくり、 これん ひとり むをそるまーて その そこんやめめ あり、 まちの
ひとびと おゆく これよ とゆあんり。 13 きこ その やめを そて あそれを いひ
けるん、 あけく あうれ。 14 つひよ ちうとり てを つけ けれべ めける

ものどもとぢまりさり。ゑす これよ、さろき ものよ、ひれ あんぢよ いく、おきよとの のさまひーろが 15 ちよさるものの おきて ものの いひ そよむ、ゑす これをそのもさろよ さそをり。 16 ひとびとと そる おどろきる かそを あげめて いひ けるん、おそひある よけんーや ひれよの うちよ おくそる、かそ その たそを めんくりを たまくり。17 ゑをの この きそく ゆさやぢう まくる あまねく ちそうよ ひろぐりさり。

Yohaneno
18 よそねの でーどもの この ちべての ことを かれよ つけーろが 19 よそね ふさりの
2, 6', 7, Kimini
でーを よび ゑをよ つろそーて いひ けるん、きさろべき ものの おをく あるろ、
あるひの わろの ものを まろ べきろ。 20 さて かれよ ゑをよ きさりて いひ けるん、
Yohane
ちべめびと よそね ひれよを あをさろよ つろそーて きさる べき ものの あをく
あるろ、あるひの わろの ものを まろべきろとの いくり。 21 その とき ゑす おをくの
やまひと おやそ および あくまよ とりつろれさる ものを いやーて おをくの
めくじよ そる ことを ゑせーめ たまくり。 22 ゑす かれよに こさくて いひ けるん、

ゆさて、あんぢーが そまさくさる ところを よそねよ つけよ、まをもち めくらの
そる ことを ゑ、ちんぢの あるを、らのびやうの きよをく され、つんがの きく、
ちくさる ものの いきげくり、まづーきて ものよの さらそひの おとづれを きろをり。
Yohaneno
23 たれよそも ひがためよ つまづさる ものの さらそひ あり。
24 よそねの つろひ さりー のち ゑす よそねの ことを ひとびとよ かさりて いひ
けるよ、あんぢらの あるを そんとその のよいでーや、めぜよ うごのさる〜 よーろ、
あるを そんとて いでーや、やそくろ ある きものを きさる ひとを そる ためろ、
25 そよ、うるそーを きものを きて おぐる ものの さろのいくよ あり。 26 あるを
そんとて いでーや、よけんーやを そる ためろ、ちのり、ひれ あんぢよ つけん、
よけんーや よりも まされる ものぞっ そよ、ひれ あんぢの まくよ そちを そのゆる
ひが つろひを あんぢの かその まくよ つろそさんと さるされーん この ものあり。
28 ひれ あんぢよ つけん、そんをの うそくさる ものく うちよ ひとりめ* よそね より
3, 5, 6', 8, gidzunnebito Yohane

おそひかゝるよけんしや あー、されど めそのものゝかれ よりもおそひ あり。29 *めれよきけるまべてその たゞまく そうぎとりん
*1, Kimiwa ii kèruwa, 6', Kimiwa ii kèruwa,
よそねの ちごめをうけて かそを たゞしと せり、30 されど たりさうびとゝ きやうぅーんその ちごめをうけぎ そごくとゝ そこをひて かそのむねよ そむきてり。
Farisaibitoto Yohane
31 されば このよの ひとびとを あるゝ あぞとくんや、かれとん あるゝ おそるう。
32 こどもいちぢよ すてり たゞひよ よびて、己れとふえ ふけども あんぢとゝ
おどゝぎ、かなーめども あんぢとゝ うつよ まてり。33 ちごめびと よそね
きさりてむんをも そとをぎ、ぶざうーのをそをも のまざれば あくまよとりつられる
ものありとあんぢとゝ いへり。34 まんげんのむをこんきてりてくひのこをられば、
そよ、ちよくをたーを、ぶざうーのを このむの ひと、そうぎとりと つそびとの
ともありとあんぢとゝ いへり。35 ちえん *1, 2, 3, subète その *こどもよ たゞしと せとる〜
あり。

36 あるFarisainoファリさうのひとをまねきてとゝもよ ちよくせんことをねがひーうんば
Farisaibitomo
はりさうびとの いへよ いりて せんよ つけり。37 そよ、その まちの つこある
そんなをあをぎ もりさうびとの いへよおりて せんよつくことをきり、ろうせきの
そこの まそひあぶとを もちきさり 38 あをの うーろよたちてあーもとよあけき
あそぎるて そのあーをうるあーかーとのけをもつて これをぬぐひかう その
あーよ くちを つけて これよ まそひあぶとをぬれり。39 あをを まねきてる
Farisaibito
はりさうびとこれをそてこゝろのうちよいひけるん、このひとゆーよけんしや
あゝんめれよ さそるものんたれあるろまるをそるんべー、
このをんあつこあるものあれば あり。40 あをこれよこゝろくて いひけるん、
Cimonyo
ちもんよ、己れあんぢよいふことあり。ちよくせんいひけるん、ちよくやうよ、いひ
たまへ。41 あをいひけるん、あるかーぬーよ ふたりのめりびとありてひとりん
ぎんでひやく、ひとりんでうをめりーよつくるのひめるあうりけれべかーぬー

○ るの だい 七 ちやう

このあくりをゆるしたり。[42]さてあくりのうちいづれかめーぬーをあらくあらのせんや、これよつけよ。[43]ちもん(Cimon)こうへけるん、これおもふよおやくゆるされくるものあとん。[44]つひよこれよいひけるん、あんぢよくさだめり。[45]あんぢんをかんりそて、ちもんよいひけるん、あんぢこのそんをそうや。これあんぢのいんよいるよあんぢんこがあーのたみよそうをあくんぐりー、されどこのそんをんおそうそて、こがあーをうるやー。めつめそのけをゆるしてぬぐんり。これあんぢよつげん、このそんをのおやくのつそんゆるされくり、ゆるよそのあのをることもおやき あり。されどゆるさるー ことをくをるものいそのあのをることもをくをー。[48]つひよそんをよいひけれん、あんぢのつそんゆるさる。

[49]とめよせさよつまさるものどもこころのうちよいひそよめけるん、つそをゆるをん これいうをるひとぞや。[50]ゑをそんをよいひけるん、あんぢをんうよあんぢをくり、やをんとてかんれ。

だい 八 ちやう

とき をぎて ゑを をぐての まちむらをめぐり せつそうして めそのまりごとのさのそひのおとづれをいひひろめたり。[2]おうよでーもとめよそさげんり、まるあくまをおひいるされやまひをいやされるをんをどもー あり、すをもちあくらのあくまがいでるまぐだれもとMagdalenito (Maria) iyeru Mariaいんるまりや、[3]まるへろでのいんぐうさあるくさのつはよとをまるまるすさをん、このわろおやくのそんをおのれのそんをのをもつて[4]おやくのひとびとまちまちよりいでるあつまりけれびゑをたとんをゆるしてめぐりけるん、[5]たねをまくたねよまちよ あるKusano tsûma Yohana Susana 1, 8, 7, 10, i, ii, kâreni; 2, 5, 6′, 8, 9, kareràni *ゑをよつんんり。

○ るの だい 八 ちやう

たねん　そちなさるよ　おちけるが　ふさ　つけられ、あるひん　そとの　とり　これを
つりをもり。[6]あるたねんいりもの　うんよ　おちーげ　ゐん　いぞられども　うるそひ
あきよ　よつて　めれるり。[7]あるたねんいりをとの　あうよ　おちーげ　いをとゐも　とゐよ
そるちて　これを　ふさけり。[8]あるたねんよる　ちよ　おちーが　ゐん　いぞ～　ひやく
をらの　そを　むをべり。このことを　いひ　をとりて　よをとりけるん、きくるめの
そ～ある　ものんきく　べー。

。でーとも　あをよとひけるん、このたとくんあるぞや。[10]こるくて　いひけるん、
あんぢとるん　かその　まつりごとの　おくぎをもとせたまもる、されとわりの　ゆの
まん　たとんを　ゆつてを、これよ　よつて　そてゐも　そんを、きとんぢる　ものん
あり。[11]その　たとんくん　これあり、たねん　めその　ことべあり、そちなさるよ　おちー
ゆのんきく　ひと　あり。[12]のちよ　ざんきさりて　めれとげ　ちんとて　きくそれぢる
やうよ　その　こころ　より　ことをを　うをひ　とる。[13]いその　うんよ　おちーんきく

とをよ　よろこびて　ことをを　うくれとゐ　ねん　あきげ　ゆあよ　ちをとく　ちんをる　のその
まて　こころそとる～　ときよたふる～　ゆのあり。[14]いをとのあうよおちーん、こと
をを　きくて　ゆき　この　よの　きづうひと　そとと　たのーそよ　おそれて　まつくく
そをむをぢる　ものあり。[15]よき　ちよ　おちーん　たづーき　かつ　よき　こころるて
こともを　きく　これを　まゐり　ちのびて　そをむをぶ　ものあり。

[16]たれも　とゐーびを　とゐーて　これを　うつそをて　おそひ、あるひん　これを
ねさうの　ちさよ　おく　ものあー、たづいりきる　ゆの～その　あうりを　そる
やうよ　あよくるの　うんよ　おく　あり。[17]あをそても　ひそめられる　ものん
あとそれざる　こと　あく、まく　かくれる　ものん　ちられ　かつ　あとそれ　いぞざる
こと　あー。[18]この　ゆをよ　あんぢとげ　きく　ところの　ことを　つくーめよ。たれ
あそも　もそる　ものるん　あや　あるくとれん、ゆるざる　ものん　ゆそると　おゆそる～
ものそも　ととる　べー。

19 この とき あるもの そこと きやうさの ためよ
ちからづく ことと あるそぎり けれど 20 あるに
そうと きやうさの あるくよ あそこんと わらーして
こるんて いひける、 かその ことをを きこて それを おこるふ ものん、 これ
ロゲ そ〜 ロゲ きやうざの あり。

22 ある ひよ おのて あるを でーるちと とるよ ふねよ のりて かれとよ、 これと
そうそのの むらんのの きーよ ロるる べーと いひければ かれと こぎらるをり。 23 ふね
そーる ときよ あるを いねるり。 おそろーて ふねを そうそよ
そるされ かとりて あやううりーうぞ 24 でーるちち あるをよ ちろより おこーて、
きそそよ きそそよ、 ロれと あろびろとをと いんり。 あるを おきて かせとを そびーき
そうぞを いまーめ けれど やそて おどやうろよ あれり。 25 あるを いひける、 あんちとの
あんろうん いうぐるよ あるや。 かれと おそれ あやーそて たうひよ いひける、

かせと そうとる めのと けれど かれと ちうぐよ これ たれぞや。
26 かるて がりとうよ むらんるる げんやの ひとの とちよ いうれり。 27 あるを そうよ
あうりける よ あるまよ とりうれるるものの まちより いうるとき かれよ あんり。
このの ものん ひさーくきものをを きを、 いんよ まるぎ、 たうだ たまやよ のこ それり。
28 あるをを そて さけび そのの まんよ ひれふーー おろとあうて いひける、 ゆうとる
たうる かそのの むをと あるをよ、 ロれと あるさの あひさよ あんの めうそり あと
んや。 ねケをそん、 ロれを くるーむる あられ、 いうんと あれど あるを ふけうの
あるまよ、 この ひと よりいそると、 めのの ちからの せーよ よりて あり。 29 この ひとの とり
つうれるる ことを をそる ひさー、 くさり まる あーがをうて ちをり まるれども
くさりを うちくるる あるまよ のん おひ いうされうり。 30 あるを かれよ とうて
いひ ける、 あんちの あん あると いうあや。 かれ こるんて、 よろづと いんり。
これ、 おろくの あるまよ かれよ いうされば あり。 31 あるまよ あるをよ ねがひ ける、

めのとて　そこ　あき　ふちよ　ゆうーもる　あられと。[32]めーこよ　おやこの　ぶこの
むれ　やまよ　こと　ひ　るこりーげ　のれよ、　そこ　ぶこよ　いる　ことを　ゆるー　たまんと
ねがひ　けれべ　これを　ゆるせり。[33]あこまよ　そこの　ひと　より　いでー　ふこよ　いりーこべ
そこの　むれ　そけーく　がけを　かけ　こぐこりて　そぐうそよ　おがれ　ちこり。[34]ふこを
めふ　ものども　あり一　ことを　そ　みけて　これを　まちや　いまうよ　いひ　ふとー　けれべ
[35]ひとびと　そこの　あり一　ことを　そんとて　いでー　あこまの　そあれこる
ひとが　きものを　き　たーこまる　こころまて　あこまの　あーもとよ　ざぜこるを　そて
おそれこり。[36]あこまよ　とりこられこる　ひとの　いやされー　さまを　そこる　もの
それを　のれよ　つけ　けれべ　[37]げよぜの　(Gerasseno)　まちりの　ともの　ひとびと　そる　あちよ
のれよ　より　さり　たまんと　ねがへり、　のれよ　おそひよ　おそれーげ　ゆえ　あり。
[38]あちを　ふねよ　のりて　のこるよ　あこまの　いでこる　ひと　かれと　ともまんん　ことを
ねがへり。[39]あちを　これを　さとーめて　いひ　けるん、　まんちの　いんよ　かへりて

のそこの　あんちよ　あぜー　おそひまる　ことを　つけよ。かれ　ゆきて　あちの　おのれよ
あぜー　おそひまる　ことを　まちとうよ　いひ　ひろめこり。
[40]あちを　のこりこる　とき　ひとびと　そる　まち　るこり　けるが　これを　よろこび
むこんり。[41]そこ、　こちのとうの　つこさ　やこると　いんる　もの　きこり　あちの
あーもとよ　ひれふーて　その　いんよ　きこり　たまそん　ことを　ねがへり。[42]いこんと
あれべ　のれよ　とー　おようそ　おうよ　さのの　ひとり　むちめ　ありけるが　いよ　あちんと
それべ　あり。　あす　ゆくとき　おそせのの　ひとびと　かれよ　おー　あんり。
[43]おうよ　ねん　あがちを　やそこる　そんまる　あちの　そんさのを
つこもども　たれまも　いやされぎりーげ　[44]あちの　うーろよ　きこりて　その　きもの
そよ　さそり　けれべ　たちちよ　ちの　いづる　こと　とありこり。[45]あす　いひけるん、
これよ　さそりー　ものんたれぞや。　ひとびと　そる　さそとぞと　いんる　とき　ペてろ
および　ともよ　そりー　ものとも　いひ　けるん、　きそよ、　おそこの　ひとびと　そん

○ るの だの 八 ちやう

ようして あるこよ おーあくり。〔そうるよ、1, 2, 7, nosẽzu
いひ こまろう。」 46 あす いひ けるん、 これよ さもり〜 ゆの あり、 ちうよの ひが
そ より いでこるを おがゆれば あり。 47 そんあ そうろよ めこせねを もりて おの
うぎ きこり あせの まんよ ひれふーて 48 さもり〜 ゆあと その たちちよ いんくる
ことうを ひとびとの まんよ いひ あーこせり。 あす かれよ いひけるん、 むをめよ、
Dāi 1, 2, 5, 8', 7, nosẽzu
〔こころ やをのれ、〕 あんぢの ちんとのう あんぢを いやせり。 やをんよて ゆけ。
49 あす これを めこる ときよこをのとうの つうさの うちより ある ひとき こりて
2, 4, 5, Yohane Yakobu
おこよび むをめの ちー そこの あうん たれうも とめよ いる ことを ゆるさこりー。
つうさよ いひける ん、 あんぢの むをめ ちをせり、 このう んー やうを ひこうよそす
5, Irite
あうれ。 50 あす これを きこて つうさよ いひける ん、 おそる〜 あうれ、 たこちんせよ、
1, 3, 7, Yakobu Yohane; *やこぶ、 よそね
さこば むをめん きこそれん。 51 あす いんくよ *いこりて そそろと
52 ひとびと そる むをめの こあよ あけき

あけく あうれ、 むをめん ちやーよ あとも、 いねこる あり。 53 かれよ その ちー
こるを それば これを あざるこくり。 54 あす *ひをめの てをとり よびて、 むをめよ、
3, 4, 6', 8, htòbitowo idàçte; 1, 2, 7, 10, nosẽzu
おきると いひければ その たまーひ かんくりて たこちよ おきこるよ 55 これよ ちよく
もうを あるこくと めのトこまくり。 56 その ふこあやん おどろきこり。 あす かれ
よを いまーめて ありー ことを たれうも つくる あうれと いんくり。

たの 九 ちやう

あす おうるの でーを よび あつめて これよ そべて その あくまを おひ いるこー、
めつ やまひを いやす の ちうとと けるん、 2 まく かその まつり
ごとを せうをこー かつ やまひを いやす あれよを つうそーて いひける ん、
3 たびの ようのよ あるも もつ あうれ、 つくも、 ふころも、 くひものも、 かねも、
みまつの うそぎも もつ あうれ。 4 いづれの いんくよ いるとも そこよ やどれ、
かんくるとも そこより いでる。 5 たれうも あんぢよを うけそんば そのまちを

さることき かれとよ きようこの こめよ あーの ちりをそとへ。6かれとよ いぞくむとを めぐり あまねく さのそひの おとづれを いひ ひろめ かつ やめる ものを いやせり。

7こくーゆ Herode へろで ありー きゞての Yohaneno あれくある ひとん、よとねの Eliyano えりやの あとそれくる ありと いひ、あるひとん Herode 9へろで いひけるん、Yohaneno よとねの くびを きれり、きうるよ いま Herode これ かくる ことを きく、これ たれぞや。へろで これを そん ことを わらせり。

10ちーやくちかへりて、その あせー ことを Betsaidato ことごとく あきよ つげ けるが あす かれとを Dái 2, 6', 7, ii, murani; 3, 4, 8, 9, 10, i, *むとよ ともあつて ひそうよ べつさいだと いくる ちりぞの たまを ちりて ちくがひ けれど あす かれとを muráno ngoi へり。11おわせのの ひとびと これを

むくて かそのまつりごとの ことを かくり、まこ いやされん ことを ものをいやー つまへり。12ひくれ かくる けるとき おうよでー あきよ きくりて いひけるん、ここら さもーき ところ あるよ よくて おわせのの ひとびと まそりの むとと いきのうよ ゆき やとを とりて あきくもうを うる やうよ かれとをおくり つまへ。13あす いひけるん、あんちとよ これよ ちよくもうを あるくよ。かれとよ いひけるん、これとよ このまべての ひとびとの つめよ ゆきて ちよくもうをめふよ あとをそんだいくのを そんとあるうの さのあのわうるん あるもあー。14ひとびとよ おようそ ごせんもん ありー。あす でーるちよ いひ けるん、かれとを そのまん づうの くそまーて まそとせふと いひ けれど15かく あーそ かれとを そのすそとせり。16あを いうくの をんと あるうの さうあを とりて てんを あふぎ これを いそひて とり ひとびとの まへよ おく やうよ でーるちよ あるくり。17そのくくそて あきり、かうの のこり くごを ひろひーうだ ぎるよ おうよ そのありー。

18 あをひとびとの をしぐさる ととろよそていのりけるよでーそちゅとゆよをれり、
さてあをかれよとみていひけるん、されをたれといふや。19 ととへ
Yohane
ていひけるん、ちごめびとよそねありと、ある ひとん えりや ありと ある ひとん
Eliya
むろーの よけんーやの ひとりゲ よそぐくりーありと いくり。20 あをかれよ
いひけるん、あんぢよんされをたれといふや、ぺてろ ととへて、かその きりをと
Petero
ありと いくり。21 つりよかれよをいまーめて、この ことを されるも つぐる
あられとめりどさまくり。かつ いひけるん、22 まんけんの むをこん かゆとを
おやろこの くるーそをうけてをーより、おゆふ かゆきゆーちよやくどゆよをそとれ
かち ところされてそうりめよよそぐくるべーべー。
23 あをひとびとよ いひけるん、たれらゆー されよ ちよぐゲそんと おゆふもの
あしば、おのれを ゆそひどおうどうをおくて されよちよぐくへ。24 たれよそも
いのちをさをけんとわりをるものん これをうーあをそん、されと ひゲさめよ

いのちをうーまふものん これを さをけんず。25 ひと せうのおうを うるとゆそび
うとをうーあひ、そびうと わろひあべあんの あき あじんや。26 たれよそゆされと
ひがことぢをそびるものん まんけんの むをそゆおのれのえのうとちととてんの
きよふ つろひちとの えのううよおりて きさる ときよ そのゆのをもびべー。
27 ひれまことよあんぢよつけん、こちよかそのまうりごとを
そるあべん あの 死 あぢそひをうけざるゆのあり。
28 このことをかちりてのちやうちをうり すぎて あをぺてろ、1, 2, 3, 4, Petero, Yohane, Yakobuwo よそね、やこぶを
とゆあふて いのる さめよ やまよ のがれり。29 あをいのるとき ゆその すぐく
めそり そのきゆのゆ ちろくありてかじやけり。30 そよ、ふくりの ひと するをち
Mouseto Eliya
ゆうぜと えりや かれと とゆよ ゆの いんくり。31 かれらん えのううよ おりて
Yerusalemunite
あくそれてあをの あるされむろて まさよ あさんと すること すあをもちよをを さる
Petero
ことをかくり をれり。32 ぺてろ おふび とゆよ そりー ゆの つろれて ねねりーげ

○るの　だの　九ちやう

すぐよ　おきて　あをの　えのうう　まへ　とゆよ　たちくる　あくりを　そくり。[33]この
Petero
ふくり　あをと　ところへ　とき　ぺてろ　あをよ　いひ　けるん、ささよ、これよ　こくよ
をるい　よー、　あなるの　さめよ　ひとつの　いわり、　ゆうやの　ためよ　ひとり、
Eliyano　　Mouseno
えりやの　ためよ　ひとり、　そりの　いわりを　ろされよ　つくよを　さまへ。　こん　その
Iwori　　盧
いふ　ところを　をよぐれば　あり。[34]これを　いくる　うちよ　くも　さくりて　かれよを
おそひ　けれべくもの　うちよりりー　とき　おそれくり。[35]こあ　くもより　いでへ、　こん
1, 2, 6', 7, yeramitaru; 3, 4, 5, 6, 8, aisuru
*えよそくる　むをと　あり、　あんぢよ　これよ　きけよと　いへり。[36]こあ　やそー
ところ　あをと　ひとり　そへくり。　めれよ　だまりて　そー　ところの　ことを　その　ころん
たれるも　かくよぐりー、

[37]よくぐり　やま　より　くぐると　き　おそせの　ひとびとを　むりへり。[38]そよ、
おそせの　うち　より　ひとり　よび　いひ　けるん、　さくやうよ、　ねがをくん、　さぐ
むをこを　かへりと　さまへ、　こん　さぐ　ひとりご　あり。[39]あくまよ　とり　つられて

たちまち　さけび　いだー　あをを　ふく　おどよ　ひき　つけ　まく　さずつけて　かれ　より
もをる〜　こと　かくー。[40]これ　あなるの　でーくちよ　これを　おひのさを　ことを
ねがひーうどものれと　あくそぐり〜。[41]あをを　くくんていひける、　あ〜　ちんらう
あき　ひがそくる　ひとげと　かま、　いら　まを　ろれ　あんぢよの　うちよ　をりて　あんぢ
よを　そのをんや。　あんぢの　むをこを　こくよ　つれ　きくれ。[42]さくる　とき　あくは
かれを　たへて　ひきつけくり。　あす　ふけうの　あくまを　とがめ　こを　いやーて
これを　その　ちくよ　ころせり。[43]ひとびと　そる　かその　おそひある　ちくよを
おどろきて　あをの　あやーをべての　ことを　あやーめる　とき　あす　その　でーくちよ
いひ　けるん、[44]まんげんの　むをこ　ひとびとの　てよ　ころさる　べー、　あんぢよこの
ことをを　そくよ　おそめよ。[45]されど　かれよ　このことをを　さとよぐりー、　さとよ
ざる　やうよ　かくされくる　あり。　かれよも　まくる　おそれて　このことをを　ともぐりー。
[46]でーくちの　うちよ、　たれら　あつとも　おそひ　あるもの　あるうとの　ぎろんおこり

けるが、47あす そのこころの おもひを さとりて おさなごを とり これを そそよ おきて かれこよ いひ けるに、48たれもそあ そも ひが あよ おりて この おさなごを うくる ものは ひれを うくる ゆゑに ひれを つろそやー ものを うくる あり、まゝ ひれを うくる ゆゑに ひれを つろそやー ものを うくる あり、いろんと あれば たれよそも あんぢよの うちよそ ゆろとも ちひさき ものの おもひ あるも ものの あり。

49よもね こるんて いひ けるに、きそよ、ひれと おんなよ よりて あくまを おひ いだす ものを そくり、されど ひれと ともよ そくげざる ゆの あるよ よりて これを きんぜり。50あす めれよ いひ けるに、きんぜる あられ、ひれよ さろとそざる ものの ひれとの そろゝ あり。

51あす てんよ うけとる べき ときよ ありて Yerusalemuni あるされむよ ゆく ことを めくく さざめ さまんくり。52 つろひそちを さきよ つろそやー けれども めれと ゆきて ようのを Samariabitomo あさんとて さまりやびとの *1,8', iii, mātcini むとよ いり けるよ、53むぢびと その えるされむよ

むろひ ゆく さまを あるが ゆゑよ あ生を うけざりー。54でーの Yakobuto Yohane やそぶと よそね これを そそ いひ けるに、ぢそよ、〔*1,2,6,7, nosezu えりやの あやー ぞとく〕 ひれと ひそ てん より よびくざーて めれとをろろ ぢす ことを *1,2,3,4,7, togameri; 5, 9, i, iii, togame ii kéruwa, nānjirawa onorēno kokōrowa ikanarukawo ciràzu これを とがめり。56つのよ あろの むとよ ゆけり。

57そちを ゆく とき ある ひと あ生よ いひ *3,4, Kimiyo, けるに、ぢぐくん ゆの たまふとも これ あるよ ろろげそん。58あす これよ いひ けるに、きろねるに ある あり、そくの とりるに ねぐと あり、されど まんぢるに ところ あー。

59まく ある ひとりよ いひ けるに、ひれよ ちろを きそよ、まづ ゆきて ちちを そうむる ことを ひれよ いひ けるに、ぢろる ものよ そのを ちやーて ものを そうむとそよ、あんぢら 60あ生 ゆきて かそのまつりごとを いひ ひろめよ。61あろの ものゆ いひ けるに、きそよ、

だれ　あるごよ　ちごげそん、　されど　まづ　ゆきて　ごげ　いへの　ものよ　ごうれを
つぐる　ことを　だれよ　ゆるーたまへ。[62]あす　これよ　いひけるれ、たれも　すきよ
てを　つけて　うーろを　のんりそる　ものの　かその　まつりごとよ　めなそを。

だの 十ちやう

そのの　のちきと　まく　やうよ　ちちどう　まんを　さらめて　そぐうと　ゆうんと　ちる
ところの　まち　まち　ちよーふよ　これを　あうりぐく　さきよ　つうそーてひ　けるん、
[2]めりのれ　ものん　おやくーて　もうとくく　ものの　すくるー、　ゆあよ　めりのれの　ある
どよ　もうとくく　ものをその　かりのれをよ　おくとん　ことをねぐんべー。[3]あんぢとの
そちを　ゆけ、そよ、これ　あんぢとを　つうそもん　こひうどを　おやうその　あうよ
いるうぐごとー。[4]さうんも、ふくろもの　ものも、ざうりもの　あうれ、まく　とちうそて
ひとよ　あのさう　する　あうれ。[5]いぐのれの　いんよそも　いる　ときん　まづ、この
いんよ　おどやう　あれといふべー。[6]ゆー　おさやうの　こそこよ　あとんべ　あんぢとげ

いめるおどやうん　そのいんよととまよとうん、ゆーおうとぜんべ　あんぢとよ　かんとん。
[7]その　いんよ　とどまりて　あるふる　ものをくひのせよ、そこにく　ものん　その
きうきんを　うく　べければ　あり。この　いんより　ものの　いんよ　うつる　あうれ。
[8]いぐれの　まちるても　いりて　ひと　あんぢとを　うけあべ　あんぢとの　まんよ　おく
ものを　くとん。[9]そこよ　をる　びやうを　いやーて　かその　まつりごとん
あんぢとよ　ちぐげりといふべー。[10]されど　まちよ　いりて　ひとびと　あんぢとを
うけぜんべ　その　ちまるよいでー、[11]*これとの　あーよ　つきるる　あんぢとの　まちの
ちりさるも　これとん　あんぢとよ　むうふて　そとそん、そうーあぐと　かその　まつりご
との　ちぐげるを　これと　いん。[12]これ　あんぢとよ　つはん、その　ひ　いさとべ
そどむの　けりぐうん　この　まち　よりも　あや　やをうとん。

[13]こぐそひ　ある　かな、ことよんよ、こらぢらぐよ、あんぢ
のうちよ　あーるる　ふーぎ　ある　こぐさを　つうと　そどんよ　あやー　あとべ　その

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, warerano āgini; 7, 8, 10, wareraini

Kōrazinyo
Betsaidayo
Tsuroto Çidonni
Sodomuno

asádo
さそらい　もやく　より　あさの　きものと　はらよ
Tsuroto Çidonno
14 さそもきの　ときよ　つろと　そどんの　けのぞうに　あんぢよの　よりゆ　やをうとん。
Kafarnaumuyo
15 めぢる　あうむよ、　あんぢん　てんよ　あげられんや、　よろよ　おとさる　べー。
1, 2, 5, 7, ágerarenya; 3, 4, ágerarutedomo
16 あんぢよを　きく　ものん　これを　きく　あり、　あんぢよを　もつる　ものん　これを
もつる　あり、　まこ　これを　もつる　ものを　もつる　あり。
17 ちごうまん　よろこび　めくりて　いひ　けるん、　さそよ、　あくまも　あるの
あよ　よりて　これよ　ふくをり。　18 あす　かれ　ぢよいひ　けるん、　これいなびうりの
ごとくよ　さそんの　てん　より　おつるを　そうりを　おさゆる　けんるを　さぐけり、　あるも
さそりを　ふこまこてきの　すべての　ちうよを　おさゆる　けんるを　さぐけり、　あるも
あんぢよを　そこるふ　ものも　あー。　20 されど　あくまの　あんぢよ　ふくーうるを
よろこぶ　あうれ、　うぐ　あんぢよの　あの　てんうに　なまえ　かかれ　あるを
1, 2, 4, 5, 7, Kiyôki Mitâmani; 3, 8, tâmani
21 その　とき　あす　きうまん　そうまよ　おりて　よろこび　いひ　けるん、　てんぢの　ちこ
よ、　あるの　ものと　さとより　めくーして　をさなごよ　あとそー　こまこ　ことを　もやす。
ちうり、　ちこよ、　めくの　ごときが　そごうろよ　めるふよ　よりて　あり。
3, 4, Dêçini mukatte ii kéruwa
2 だんもの　ちこの　ちうよ　これも　むをこと　もるの　あー、　まこ　むをこと　むをこの
ちこの　ちうよ　これも　むをこと　もるの　あー、　まこ　むをこと　むをこの
あくを今　ことを　ちうもる。　ところの　ものー　ちうよ　ちこを　もるの　あー。
23 つのよでーよ　むうりて　ひそうよ　いひ　けるん、　あんぢよが　そる　めん　さのそひ　あり。
24 これ　あんぢよが　そうこちん　あんぢよが　そる　ところの　ものを　そんと　ちうーこれども　そる　ことを
えざりー、　まこ　あんぢよが　きく　ところの　ものを　きうんと　ちうーこれども　きく
ことを　えざりー。
25 そよ、　あるきやうをふー　こちて　あをを　こころと　いひ　けるん、　をーやうよ、
これ　めぎり　あり　いのちを　あんぢん　あをを　あす　べきぢ。　26 あす　めれよ　いひ

けるん、おきてよ そらさられーん あうぞや、あんだいろよ よ知ろ。27 こらくていひ
1, 3, 4, kokōrowo takuçi; 2, 5, 7, nosẽzu
けるん、こころをつくー、ちうとをつくー、さとりをつくーて
あんだの のそらる きそを あらす べー、まる おのれの でとく とをりびとを
あらす べーと。28 あす おれよ いひ けるん、あんだ よく こらくうり、これを
おこあん、さうぐいきん。29 おれ そうとをつき ものとせんことを わらーて
あをよ いひ けるん、ころ とをりびとんられぞや。30 あす こらん けるん、あるひと
Yerusalemu Yerikoni
あうさられむ より ありこよ くさる とき ぬをびとその きものを
そぎとり これを きぞうけ ちぬる わどよ あーて さられり。31 おうる ときよ ある
めんぬー その そうを くさりーが おれを そて むうふがをを とをり まぎうり。
Lebibitomo Samariabito
32 あくれびふとも この ところよ いうりーが おあとく むうふがをを
とをり まぎうり。33 つひよ さまりやびと そびをる とき おれの をる ところよ
きくうり これを そて あそれこ 34 ちうふりて その きぞよ あぶとと ぶさうちゆを

さーて これを つくこ あつ おのれの けものよ のを そうぞやう つれ ゆきて
Kii
めうそうをり。35 あくる ひ *ぎん さまうをつ あるとーよ あうんて、この ひとを
3, 4, çuttàts suru tòki
からそうをよ、つひえこれ より おあうとんだ ぶが めくる とき あんだよ めくさんと
いんくり。36 この さんちんの うち されが ぬをびとよ あひー ものく とをりあると
あんだんく おもふろ。37 きやうぞやー こうん けるん、おれを あそれそる ものの
あり。あす いひ けるん、ゆきて あんだも おあとく あをよ。
Mariato
38 おれよ そちをゆくとの あす あるもよ いりけれび あうると いくる ひとりの
Mariato
そんを おれを いくよ むうくうり。39 この *ぎそのの をんあよ ありやと いくる をんある
1, 4, 5, 7, Kimino; 8, 8, 9, Yesuno
きやうぐら ありけるが おれも *ぎそのの あーもとよ すもりて そのことをを きけり。
Martawa
40 あうるうん ゆてあーの ことを おあくーて こころろ いり そうされ あをよ きうりて いひ
けるん、きそよ、ころが きやうぐら これを ひとり のこーて そうとろーむるを
あうとも おゆとぞるろ。ゆあよ これを うをくる やうよ おれよ めのと うをへ。

3, 4, 5, 6, Yesu ; 1, 2, 7, Kimi
41 あす　こらくて　いひ　けるん、まるる、まるる、あんぢらお ゐらくの ことよ おもひ
1, 2, 7, i, ii, wádzuka *ひとつ あり。
さらふみてこころぐらひを あをり、42 されど あらくて あらぬ ものん
aruiwa ltôtsu nari
まりやん よつて ものををらめり、こいれ よりうをひ とる べらざる もの あり。

だい十一そやう

その のち あす ある ところうて いのりを あーて おをりさる とき ひとりの でー
Yohane
かれよ いひ けるん、きそよ、よそね その でーよ いのる ことを をーへー でとく
されらるも をーへ さまん。 2 あす いひ けるん、あんぢらよ いのる ときれ らく
1, 2, 7, i, "ténni maçimásu" wo nosézu
いへ、〔てんよ まーまを されらの〕 ちらよ、
Dái 2, 7, kóre yori sánsetsu mádewo nosézu
でとを のぞまを さまん。 *そどらのてんよ あるさーめ さまーへ。
3 されらの まちうの かてを ひでとよ さらけ さまん。 4 されらの いうを ゆるー
さまん。 されらも まら されよ おひ あるひとを そる ゆるをり。 されらを
1, 2, 7, i. nosézu
まどひよ そちびる さまふるの れ、〔あーる より をらひ いさーさまん。〕

5 まら かれらよ いひ けるん、あーあんぢらの うち されらう とも あるよ よあら
かれよ ゆきて、 6 とをよ、されよ そらの もんを かせよ、ヨグ とも さび より
さるりーらども これよ あるふるよ あるも ゆゑると いそび 7 うちよ をる
ものの こるくて、されを さらくそ ありの れ、とい すぐよ とぢるり、ことも〜されと
とをよ ねどとよ あり、されおきて あるそずと いそんや。 8 されあんぢらよ つけん、そのとも あるよより おきて あるくずと いくども ひるさよ
ねぐふぐ ゆあよ おきて ゆとをる たけ あるふるよ あーん。 9 まら あんぢらよ つけん、
ねぐくよ、さらば あるくられん、ゆんを さらけ、さらば
ひらられん。 10 されをも ねぐふ ゆのん あひ、そそく
ものをん ひらるる あり、 11 あんぢらのうちよ されらちるる ものの そのむをこの
をんを ねがふよ いーを あるくんや。さらをの ものを ねがふよ さうをの かをりよ へびを
あるくんや。 12 たまごを ねぐふよ さそりを あるくんや。 13 あんぢらよ あーる ゆの

あがよことゆよゆゆものをあそふることをゆよんでまーてあんぢよのてんのちくん
ねがふゆものよさくまをそくまをあくんぐとふんや。
14 あすねつーある あくまをおひいぐー けるよ あくまいぐー ゆのいひ
けれべ ひとびと あやーめり。 15 その うちの ある ひと いひ けるん、めれん
Belzebuluni
あくまの かーと べるぜぶるよ よりて あくまを おひ いさをと。 16 ある ひとん
かれを こふろそて てん よりの さるーをゆとめり。 17 されど あす その おゆひを
Belzebuluni
そん、これ べるぜぶるよ よりて あくまを おひ いさをと あんぢよげ いんべあり。
ふりて かれとよ いひ けるん、生べて くよ そのいへ
19 Belzebuluni
わろびよ いくとん、いんゆ そべりよ あひ あとそみて ひとうれをべ さふるーあり。
Satanmo
18 さくんゆ そべうよ あひ あとそみて ひとうれをべ その くよ いうを さふんや、
Belzebuluni
そん、これ べるぜぶるよ よりて あくまを おひ いさをと あんぢよげ いんべあり。
Belzebuluni
19 これ ゆー べるぜぶるよ よりて あくまを
おひ いさをと あんぢよの ことゆん
これよ よりて これを おひ いさすや、ゆあよ めれらん あんぢよの さぞきるん

あるべーー。 20 されど これ ゆー かその ゆびを ゆりて あくまを おひ いさをべ
かその まうりごとん あんぢよさくれり。 21 つくる ひと よろひをきて やーきを
まゆるときん その ものあんぜんあり、 22 されどかれ よりつくる ものさうりて
これよ かちあべ その たのそと せる よろひを ことごとく うばひ かつ ふんとり
ものを とろうべーー。 23 これと とゆあよべる ゆのん ちよをあり。
あうらべる ゆのん ちよをあり。
24 ふけうの あくま ひと よりいべー かそけるところを めぐり やをきを ゆとめ
れとゆあゆーて いひけるん、これ いべーいくよ うくとん、 25 さて かくりーけ
そのそうちーて かべれるをそ、 26 つりよゆきて おのれより あやあーゆ あうらの
あくまを さべさくん いりて こくよ をまふ。その ひとの のちの ありさまん まん
よりも あーく あれり。
27 あを これよの ことを かくる ときよ あるを そんまを くんどうの あうより こあを

あけて かれよ いひ けるん、あをさを うそさる もごと あるさの をひー ちくん
さらそひ あり。28あを こさく けるん、ちうり、されど かその ことぞを きとて
それを まもる ものん かれ よりも さらそひ あり。
29おわせらの ひとびとの くんとう まるん ごとく Nanano Nanibeno
おごらの ひとん あーくーて ちるーを ゆるーん これよ あるくんれど。30よあの Yonano
ちるーと ありー ごとく みんけんの むをこも いまの おごらの ひとを つをせん。 そあその
まよをう さぎきの ときよ さらて いまの おごらの ひとを つをせん。かれい
Solomonno そろもんの ちあを きうんとて ちの そて より きされり、されど そよ、こくよ
そろもん より おわひ あるも ものん あり。 Ninibeno
このおごらの ひとを つをもん。32まくべの ひと さをもきの ときよ さらて
Yonano
ふんよあの をーへよ おのて くひ あとるめ
ちり。そよ、こくよ よあより おわひ あるも ものん あり。

33これも ときーびを ときーて これを かくれる ところ あるひん まをの ちくる
おくも ものの あー、さぐ いりきる ゆのくそのの あうりをる やうよ ちよくるらの
うんよ おくあり。34その ときーびらめ あをんぢの めあきとろ あれば かとぐる
ぢう あきとろ あり、されど ゆーめ あーくーとんど かとぐるも くとき あり。35されば
あんぢの うちよ あるひりの くとく あとぐる やうよ つくーめよ。36ゆあよ
ゆー あんぢの かとぐぢう あきとろうあーて いつてんの くーきも あくべ ときーびの
かくやきて あんぢを てとく ぜんーん 全身 zénçin まつるく あきとろ あるべー。
37あを かくる ときよ ある Farisaibito ぢりさのびと ときーびと ちよくせん ことをねぐひ ければ
あを いりて ぜんよ つけりっ 38ぢりさのびと Farisaibito かれが ちよくべのまくよ まぐそぐよ
いとぐりーを そて これを あやーめり。 39さて これよ いひ けるん、あんぢと
Farisaibitowa ぢりさのびとん どんと さとの そとを さまを、されど あんぢとの うちるん
むさぎりと あーきを そてり。40おろく あるも ものよ、そとを つくりるる ものぐ

41 ただ、あなたがたの内にあるものを施しなさい。そうすれば、すべてのものが、あなたがたにきよくなるであろう。
42 ところが、パリサイびとよ、わざわいである。あなたがたは、はっか、うん香、その他あらゆる野菜の十分の一を納めながら、正義と神への愛とは、おろそかにしている。これこそ、行うべきことである。Farisaibitoyo
43 パリサイびとよ、わざわいである。あなたがたは、会堂の上席と、市場であいさつされることとを、好んでいる。
44 わざわいである。あなたがたは、人の知らない墓のようなものだ。その上を歩いても、人はそれと気づかない。*3, 5, 8, gizènca naru çoyàkuto Farisaibitoyo
45 律法の教師のひとりが答えて言った、「先生、そんなことを言われると、わたしたちをも侮辱することになります。」
46 イエスは言われた、「あなたがた律法の教師にもわざわいである。あなたがたは、負いきれない重荷を人に負わせながら、自分では、その荷に指一本さわろうとしない。
47 わざわいである。あなたがたは、預言者の墓を建てている。しかし、それを殺したのは、あなたがたの先祖なのだ。
48 すると、あなたがたは先祖のしわざを証明し、それに賛成していることになる。先祖が殺し、あなたがたが建てるのだから。
49 そこで、神の知恵もこう言っている、『わたしは預言者や使徒を彼らにつかわすが、彼らはその中のある者を殺し、ある者を迫害するであろう』。
50 それゆえ、アベルの血から、祭壇と聖所との間で殺されたザカリヤの血にいたるまで、すべて預言者たちが流してきた血の責任を、この時代が問われるであろう。そうだ、わたしはあなたがたに言う、この時代が問われるであろう。Hebeluno tcI
51 Zakariano tcIni
52 わざわいである。あなたがたは、知識のかぎを取り去って、自分も入らないし、入ろうとする人をも妨げている。」
53 *5, 7, 8, 10, Yesu kōno kōtowo lyèru tokini Farisaibito
イエスがそこを出て行かれると、律法の教師やパリサイびとたちは、激しくイエスに迫り、
54 何かイエスの口から出ることをねらって、とがめだてをし始めた。

*1, 2, 7, toràyentocte
とらへん うくるくんとーて うろたひろり。

だい 十二 ちやう

その とき すまんの ひとびと あつまりて
Farisaibitono
あをせ でーるちよ いひ けるん、もつてと もつ
つくーめよ。[2] おそれざるものら あらそれざること あく、まく かくれざるもの
それざる こと あー。[3] ゆゑよ あるくんぢとげ くときよ いふ こと
あろうきよ きこゆ べー、まく あんどよ おのて そそよ めさりー こと いんの
うんよ ひろげる べー。[4] どげともよ、どれ あんぢとよ つけん、かとさを こそーて
のちよ あるもの あす こと あるそざる ものを おそる〜 あられ。[5] されど どれ おそる
べき ものを あんぢとよ ちめさん、すあをもち こそーての ちよ ちどくよ あげ いう〜
ちろと ある ものを おそれよ。 おうり、どれ あんぢとよ つけん、これを おそる
べー。[6] どその すでめん せよ ふろうまて うるよ あとぎや、 されど かそよ

おらてん その いちをも どすれ こまあをぜ。[7] あんぢとの めその けも そる
めぞんとる〜 あり、*ゆゑよ おそる〜 あられ、あんぢとん おろくの すぐめ よりも
1, 8, 5, yuyèni; 2, 7, nosézu
まされり。[8] どれ あんぢとよ つけん、 されをも ひとの まんよ いひ
あとぎす ものの まんげんの むをとも ものの つろひろちの まんよ おりて その
ものを いひ あとぎすべー、[9] されど どれを ひとの まんよ そぐうる ものの めその
つろひろちの まんよ そぐうる べー。
[10] されをも まんげんの むをとを そーる ものの ゆるされん、 されど きふま
そろまをけぐす ものの ゆるさる べうとぜ。[11] ひとびと あんぢとをくるのどうるて
つうさと けんる ある ものー まんよ ひきん ときん あんぢとよ いうるーて
あるひん あると こそんやと まろん あるを いもろんやと おもひ どぐとふ あられ、
[12] いうんと あれば その とき あんぢとよ いふべき ことん きこゆ そろは あんぢとよ
ものせべ あり。

○ るの だい 十三 ちやう

13 ひとびとの うち より ひとり あをよ いひ けるん、そらよ ゆらゆらをとれよ ところてよと いひ うながん。14 あす ここん けるん、ひとよ、それら どれを あんぢよの さぎきるん あるひん どうてる ものと あをーら。15 あらひとびとよ のるまひ けるん、きを つけて *すべての むさぼりを つつーめよ、
1, 2, 8, 5, 6, 7, subèteno musaboriwo
ひとの いのちん その ゆてる ゆの〜 ゆるら あるるん よどざる あり。

16 まこ ことんを めるりて いひ けるん、とめる ひと あり、その ふそこ おおく そのりーげ、17 そぐうと おもひ そうりて いひ けるん、そを おさむ べき ところ あきよ よりて どれ いろよ せんや。18 まこ いひ けるん、かく あさん、どげくーを
2, 4, 7, 10, wâga mógito
こがち さーよ おおひある ものを うてー、そこよ そる *どげ さこーゆうと ふうとーを ふくそんん。19 まこ どげ ふまーひよ いそこ ひと あり、その ふそこ おおく わどよ つそふる おおくの ものを ゆてり、やすんとて くひのを かう そのーめと。20 ちうるよ めを かれよ いひ けるん、おろか ある ものよ、こんや あんぢの さま

ーひん あんぢ より とふる べー、さよ ど あんぢげ そをかくる ものん それの ものを あーふんや。21 おのれの ために ふうとを ふくそんて かそよ つうて とまざる ものん めこの ごとー。

22 あす でーとるよ いひ けるん、ゆあよ どれ あんぢとよ つけん、あんぢとの いのちの ためよ あるをくとそんや、そよ あるをさんやと おもひ どうこふ あうれ。23 いのちん くひものの より ふうとく、めとうを おもひ そよ、それん まきも せを、かりも ゆるを、されど かそん これをやーるひ さまふ。あんぢよん とりより まされること いくそぐぞや。25 あんぢこよの うちふれう おもひ どうこふて いろーやふるても そのいのちをの のぞす
isçakunfiteno
ことを あんや。26 めく あんぢよん ゆうとも ちの さる ことを あをこと あるもを、さよん あんぞ そのあうの ものを おもひ どうこふや。27 ゆりん いろよ そうろうを おもひ そよ、それん *そるよーろを つねぐざる あり、されと どれ あんぢよよ つけん、
5. tsunnuguzu, orazáru nari

そろゑんの さろうその きそその とき　さうもの　この そなの ひとろ　わども　よそそ
ぎりー。[28]かそれ けふ のよ ありて あす めまどよ あげ いれとるる〜 くぎうもの
かく よそそも さまんべ まーて あんぢんよ おのてをや。あ〜 ちんろう うすき
ものよ、[29]あんぢよ あるをの まんやとそろる あられ、まる
おもひなとふ こと あられ。[30]これとれ そなの ものん これとの ものん あくて あとぬ ことを
あり。あんぢんの ちくん あんぢんるも
ちりくまふ。[31]たぢ その そくろをの もとめよ、さとび これとの ものん あんぢんよ
くもくとる べー。

[32]ちのさるも むれよ、おそる〜 あられ、あんぢんよ そくろをあるく くまふ ことん
あんぢんの ちくの よろこぶ ところ あり。[33]あんぢんげ ゆてる ものを うりて
わどくこーを あを、おのれの さめよ ふるびぎる さうのとつぎる そうとをてんよ
そあんくよ、そろろん ぬをびとも ちろよんぎ、おそもくとそぎるあり。[34]あんぢんの

くろうとの ある ところろん ころろも あるく そくよ あるべー。[35]あんぢんと こーよ
おびをむをび かろ あんぢんの ともーびを ともーて[36]あるど こんれいよりめくり
きるりて とを くろうび ぐぢちよ ひとろうと まち をる ところの ひとの ごとく
みーて それ。[37]あるど きるりて その めを さまー をるを そび この ちもべい
さのそひ あり。これ まことよ なんぢんよ
これを ぜんよ つろーめ かろ すくそて
あるひい さんろうよ きるりて めくの ごとく[38]ゆー 二更 nikou まろう
さのそひ なり。[39]なんぢんと これをちる べー、この ちもべい
とぎよ きるるうを さとんび いんを もりて
ようのーて それ、まんゆんの むをろい なんぢんげ ちんとる ときよ ちるとん。
[41]ぺそろ あをよ いひ けるん、きそよ、この ぐとんろれとよ いひ ぐまふら、
まるら もべその ひとよ いひ ぐまふ。[42]きを いひ けるん、わどるる とき ちふる

Dāi 1, 5, "mamōrite" wo nosezu

もらを　あるくさんせん　さめよ　あるとげ　めるもの　もの〜　うくよ　さてる　ちう
きよーて　かーこき　いくぐろさい　されぞや。43
むるを　そべ　その　をもべい　さのもひ　なり。44
あるよいそんとをかれよつろさとと〜せん。45
ロげ　あるとの　きさる　ことい　おそろとんとおもみて　をもべ　をもめを　うち、から
くひのそーて　さけよ　よひそとめるべ、46　そのの　をもべの　あるとい　かれげ　おもそ
ざるの　ひをとざるの　ときよ　きさりて　これをきり　こそー　から　ふーんとやの
なうまとーてそのむくひを　おなどく　さざめんん。47　あるとの　こころを　ちりてよういう
せぞ　まさその　こころよ　をさげそざる　をもべいうる〜こと　おそろるべー。されど
をとやーてうるる　べき　ことを　なす　ものいうくる〜　こと　すくるろとん。48　おそろく
あるくとる〜　ものい　おそろく　ゆとめとる　べー。　おそろく　あづけとる〜　ものい
ひとびと　これ　より　おそろく　ゆとむ　べー。

49 火 hiwo 地 tcini
ひれい　ひを　ちよ　なけりれん　とてきされり。ロげ　あつする　ところい　なるぞや、
すぞよ　この　ひの　ゆくるとん　こと　なり。50　ロれ　うく　べきの　をづめ　あり、その
をとびとるく　まぞい　ロげ　いるさ　いろをろりぞや。51　なんぢとよ　ロれ　おさやうを
ちよ　あるくん　さめよ　きさると　おもふら。　ロれ　なんぢとよ　つけん、いま、さぶ
ロろれ　あとをそむる　さめよ　きされり。52　いま　より　のち　いつけんの　いくよ
そるん　あとべさんるんい　ふるりよ　そむき、ふるりい　さんるんよ　そむきて　ロろれ
あとそふ　べー。53　ちとい　むをくよ　そむき、むをくい　ちるよ　そむき、もるい
むをめよ、むをめい　そるよ、そうとめい　よめよ、よめい　そうとめよ　そむきて
ロろれ　あとそそん。

54 あす　まる　おそせのよ　いひ　けるい、なんぢとよ　くものまーより　おくるをそべ、
さぶちよいふ、ああ　あるなとん、そるーてそーちり。55　まる　そあこ　めせの　ふくを
そべなんぢとよいふ、あうとと、そるーてそーちり。56　きせんーやよ、なんぢとい

1, 2, 3, teito sorano
ちと そらの おもてを ときまゆる ことを ある、されど この ときを ときまゆる
ことを ちと ざるん なんぞや。[57]あゝ なんぞや そゞろと そゝーの ことを さゝめ
ざるう。
[58]なんぢら うつゝふる ものと ともよやゝるんよ ゆく ときと ちうそ ひさすよ
ゆるされん ことを もとめよ、おそらくんば めれなんぢを さらぜんるんよ つれ ゆき、
さらぜんるん なんぢを ちうやく なんぢを らうやよ いれん。
[59]それ なんぢよ つゆん、いつぜんも のこさを つくるふ まぢん なんぢ そこを
いづる ことを あざるなり。

だの 十三ちやう

Pilato Galilaibitono
そのころ あらまりうる ものゝ うちよ ある ひとを ぴとと がりとらのびとの
ちを めれとの ふんよ まぜー ことを つゆさり。[2]あす こうん けるん、なんぢと
Galilaibitowa Yerusalemuni
そのがりとらのびとの ゝとく ちうぜとれー ゆあよ すべその がりとらのびと

よりも おそひ なる つそびとゝ おもふや、[3]それ なんぢとよ つゆん、いな、あん
ぢとも くひ あとうめぜんびそま おあとく ろびよ あそん。[4]また ちろあむの
Siloamuno
そう そふれて ねー こうされー おうそ ひとびと よりも おそひ なる つそびとゝ おもふや。[5]それ なんぢとよ つゆん、
いな、なんぢとも くひ あとうめぜんびそま おあとく ろびよ あそん。
[6]また このことくを めうれり、あるひとよ ぶどうぢうけく うんくる いちゞく
ありーげきうりて そのそを もとむれども ありざり ければ [7]そうけの ぜんるんよ
いひ けるん、そよ、それ さんねん きうりて この いちゞくの そを もとむれども
あるも そんぜ、なんぞ ちを ふさげんや。[8]ぜんるん
ぜんぜて いひ けるん、きそよ、それ その まそりを ろりて こやーする まそ
ことーも そそあけよ、[9]そのの のち そのよ ぜんび これを
きりぜふよ べー。

1, 2, 7, ii, sōno nōtci minoranya

ゐる女を、安息日に、この束縛から解いてやるべきではなかつたか。」17 斯く彼が言ふと、その敵は皆恥ぢ入つたが、群衆は凡て彼の為す榮ある業を喜んだ。

18 また言ひ給ふ、「神の國は何に似てゐるか、何に譬へようか。19 それは芥種の如きもので、人がこれを取つて園に蒔くと、生長して木となり、空の鳥が來て、その枝に宿るやうになる。」

20 また言ひ給ふ、「神の國を何に譬へようか。21 それはパン種の如きもので、女がこれを取つて三斗の粉の中に入れると、全體がふくれるやうになる。」

22 また町や村を經て教へながら、エルサレムへの道を進み給ふ。23 或人が彼に言ふ、「主よ、救はるる者は少數でありますか。」彼らに言ひ給ふ、24 「狹き門から入るように努めよ。我なんぢらに言ふ、入らうと求めても入ることの出來る日が來るであらう。25 家の主人が起きて戸を閉ぢてしまつた後に、なんぢらが外に立つて戸を叩き、『主よ、開けて下さい』と言ふとも、彼は答へて『なんぢらがどこの者か知らない』と言ふであらう。26 その時なんぢらは言ひ始めるであらう、『我らは御前で食ひ飲みもし、また我らの巷で教へ給ひもした』と。27 しかし彼は言ふであらう、『なんぢらがどこの者か知らない、不義を行ふ者どもよ、皆わが前から去れ』と。28 その處で泣いて齒がみをするであらう、アブラハム、イサク、ヤコブおよび凡ての預言者が神の國にゐるのを見て、自分は外に投げ出されてゐるのを見るときに。29 人々は東から西から、また北から南から來て、神の國で食卓につくであらう。30 見よ、後なる者で先になる者があり、先なる者で後になる者がある。」

ういう。ヘロデ王はあなたを殺そうとしている。
32 イエスは彼らに言われた。「行って、あの狐に言え。
見よ、わたしは今日も明日も悪霊を追い出し、病気を
直し、三日目に全うされる。
33 しかし、わたしは今日も明日もその次の日も進ま
なければならない。預言者がエルサレムの外で死ぬ
ことはありえないからである。
34 エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、
自分に遣わされた者たちを石で打ち殺す者よ、めん
どりがひなを翼の下に集めるように、わたしはお前
の子らを幾度集めようとしたことか。だが、お前た
ちは応じようとしなかった。
35 見よ、お前たちの家は見捨てられる。言っておく
が、お前たちは、『主の名によって来られる方に、
祝福があるように』と言う時が来るまで、決してわ
たしを見ることはない。」

第十四章

1 ある安息日のことである。イエスは食事のために
ファリサイ派の議員の家に入られたが、人々はイエ
スの様子をうかがっていた。
2 そこに、水腫を患っている人が、イエスの前にい
た。
3 イエスは、律法の専門家たちやファリサイ派の人
々に対して、「安息日に病気を治すことは、律法で
許されているかどうか」と言われた。
4 彼らは黙っていた。そこで、イエスは病人に触れ
て癒やし、帰らせられた。
5 そして、彼らに言われた。「あなたたちの中に、
自分の息子または牛が井戸に落ちたとき、安息日だ
からといってすぐに引き上げてやらない者がいるだ
ろうか。」
6 彼らはこれに対して、答えることができなかった。

けるん、やをそびよ いやも ことん よろーきや いあや、かれと さまれり。[4]あを
その ひとよ てを つけ これを いやーてー さーめるり。[5]つらよ かれとよ いひ
けるん、あんぢとの うちよ [1,7,9,2,9,10,róba:2,8,8,mūsko] されろを あるひん うー あるよ おちいとんとせば
やをそびと いくとゆ さとちよ これを ひゆ あげざとんや。[6]かれと そのことをよ
こるゆる こと あるそざりー。

[7]あを まねろれくる ゆの〜 ちやうせきを えとりを そて かれとよ さとんを
めつて いひけるん、[8]ひとあんぢを こるんれらよ まねくときん ちやうせきの せんよ
つく あろれ、おをとくん あんぢ より さろとゆ ひと まねろれあば、[9]あんぢと
かれを まねきー ゆの あんぢよ きくりて、この ひとよざを ゆづれといをん、その
とゆ あんぢん そぢて をろせきよ つくうく ろめよ ゆく べー。[10]されど まねろるー
ときん ゆきて をろせきよ ざをよ、さとば まねきー ゆの あんぢよ きくりて、とゆよ、
うんよ きくめると いそん、その とゆ あんぢ とゆよ せんよ つきくる [1,2,3,7,] まべその

ゆの〜 まくよ おりて さうとまる べー。[11]されそも そづろと さうぶる ゆのん
さゆとる べー、そづろと へりくる ゆの あけとる べー。

[12]まく かれを まねきくる ゆのよ いひ けるん、あんぢ ひるもん あるひん ゆふ
そんを まうくる ときん とゆぢち、きやをとんを まねくあろれ、おをとくん かれとも まる あんぢを まねきて そのむくひを
びとを まねくあろれ、おをとくん あるひん とめる とるり
あさん。[13]されど あんぢ ふるまひを まべーゆ ゆの、かるを、ちんを、
めくとを まねけ、[14]ちろとんば あんぢ さのそひある べー。 いろんと なれば かれと
あんぢよ むくゆることあるそを、されど さべーゆ ゆの〜よそべくるときよなんぢ
むくひをうべければ なり。

[15]とゆよ せんよ つきくる ゆの〜 うちの ひとり これを きくて あをよ いひ
けるん、かその そくるー おのて ちよくまる ものん さのそひ なる かる。[16]あを今
これよ いひ けるん、ある ひと おろひある ふるまひを まうけて おろくの ひと

ひとを まねきーげ 17 ふるまひの ところよ ちゆんべを つうそーて まねきー ゆのよ、
きられ、ゆそや まべての ゆの そるもりくりとりいそをけるよ 18 かれとー そるおるとく
ことそりて そとめの ゆの いひ けるん、だれ とちを ゆひられば ゆきて そさるを
えを、ねげそくい、だれを ゆるをよと。 19 おうの ゆの いひ けるん、だれ いつ
jiskubikino
くびきの うーを かひられば その こころを あよ さめよ ゆうんとよ、ねげそくん、
だれを ゆるをよ。 20 まるおうの ゆの いひ けるん、だれ つまを めとりー ゆるよ
ゆく ことあるそをと。 21 ちゆべ ゆくりて このことを あるとよ つげ けれべ あると
いうりて ちゆべよ いひ けるん、ちそやうよ まちの とおりと おそちよ ゆきて
まべーる ゆの、かくを、あーるん、めくを ちゆべ いひ けるん、ちそよ、おうをの ごととく あーられとも あやぎあり。 23 あるとー これよ いひ
けるん、ちそうよ まべーる おりと ひとびとを ゆきて だげ いくよ そうる わど ひとびとを
ちひてつれ きられよ。 24 だれ あんぢとよ ゆの～ うちよ ひとりゆ

だげ ふるまひを あぢそくゆ ゆの あー。
25 おうをくの ひとびと おをと ともに ゆくりて これよ いひ
けるん、 26 られるそゆ だれよ きられて そのちく、そく、つま、こども、きやう
さい、ちまちんと おのれの いのちとを まくまぢそんべ そのゆのん だが でーと ある
ことを えを、 27 まく おのれの おうとうを おうて だれよ ちくげふ ゆのよ あと
ぎんべ だげ でーと ある ことを えを。
まべ ざー その つひえを かんぢやうーて これを おようとゆ ちるよ ゆね くるや
いあやを そうとぶくんや。 29 おそとくん どうちを おきて おようとゆ ちる ことと
あるそぎんべ そる ゆの そる これを あぎるとくて、 30 この ひとん くて かけて
おようとゆ ちる ことあるそぎりーと いそん。 31 あるひん だう いぞ～ おうの
だうと くくうそるよ まべ ざーて だげ いちまん まんを ゆうて まをん まんを
ひきねて せめきる ゆのよ てる ちる ことを うるや いあやを そうとぶくんや。

[22]ろうよをそんべ　かれ　あわ　とおく　へざられる
ゆとむる　あとん。[33]かくの　ごとく　あんぢと
ちろうる　あとをそんべ　ひげ　でーと　ある　ことを
されど　おわるそも　その　あぢそひを　うーるそべ　あち
つけんや。[35]田 tānimo　ろうるこやーるも　よろーうとぎ、
そく　ある　ゆのい　きく　べー。

たの　十五　ちやう

さて　まべその　そつぎとりと　つそびと　あるよ　きうんとて　ちろより　けるげ
[2]Fariaibitomo
ぢうのびとも　ろうやくも　つぶやきて　いひ　けるん、このひとん　つそびとを
うけて　とゆよ　ちよろくをと。[3]多牛　この　ごとく　hyappikino
[4]ippikiwo
あんぢとの　うち　られろう　ひやつびきの　ひつと　ある　ゆー　その　うちの　いつ
ひきを　うーるそべ　ととううひきを　のよ　のこーてうーるひろる　ひつとを　ちらざす

まで　その　あとよ　ゆうぎとんや。[5]そのぢ　よろこび　これを　おのれの　かくよ
のせて　いくよ　かくり。[6]その　とゆごとと　とおりびとを　よび　あつめて、これ
うーるひろる　ひつとを　ちらざーられん　これと　とゆよ　よろこべくと　いそん。
[7]これ　あんぢとよ　つけん、ひとりの　つそびとを　あとうめるべく
くひ　あとうゆる　おようをぶる　ごとーる　ゆのーくをうくるん　よりも　あや　てんよ
おりて　よろこび　あとん。
[8]十 tōuno gin　あるひい　をんなよ　とをの　ぎん　あるよ　ゆー　その　ひとつを　うーるそべ　あつりを
とゆー　いくを　さうぢーて　そのうすを　さをつけて　ちらねざとんや。[9]そのうさべ
その　とゆごとと　とおりびとを　よび　あつめて、これ　うーるひろる　ぎんを　ちらざーし
されば　これと　とゆる　よろこべくと　いそん。[10]これ　あんぢとよ　つけん、かくの
ごとく　ひとりの　つそびと　くひ　あとうめるの　まんよ　よろこび
ある　べー。

11 まさのさまひ けるん、あるひとよ ふくりの むまと ありけるげ、12 その
おとうと ちろよ いひけるん、ちろよ、
あらくると。さて ちゝをんさらのを かれこよ ひけ
うちよ おとうと すべその ものを あつめて とわき くゝゝさびごちせーげ そう
さうるーして その ちんさらのを そこるて つひやせー とき
その ちよ おわひ あるきらん ありて とぎーく ありそめさり。15 つひよ ゆきて
かんりて いひけるん、ひげ ちさの おわさくの やとひびとん ちよさくゆら あまり
あるよ どれん こゝよう ちあんとを。18 これさちて ちゝよ ゆき、ちゝよ、これ
てんよ そもき めつ あまさの まんよ つそを おこのせり、19 ゆそや あまさの むすこと
mitasanto
よれんと わつすれども たれも あさふる ものの なー 17 そびごのよ わんーんよ たち
ふくりの むまと ありけるん、ひげ ちさの おわさくの やとひびとん ちよさくゆら あまり
あるよ どれん こゝよう ちあんとを。18 これさちて ちゝよ ゆき、ちゝよ、これ
てんよ そもき めつ あまさの まんよ つそを おこのせり、19 ゆそや あまさの むすこと
その ちよ おわひ あるきらん ありて とぎーく ありそめさり。15 つひよ ゆきて
そのとちの あるひとよ おのれの みを よを けれび そのひと ふさを やーあふ
3, 6, 8, sayamèmewo motte harawo
ためよ かれを のよ おこれり。16 めれ ふさの ちよさくすると *さやまめを くとそを
mitasanto
よれんと わつすれども たれも あさふる ものの なー 17 そびごのよ わんーんよ たち
かんりて いひけるん、ひげ ちさの おわさくの やとひびとん ちよさくゆら あまり
あるよ どれん こゝよう ちあんとを。18 これさちて ちゝよ ゆき、ちゝよ、これ
てんよ そもき めつ あまさの まんよ つそを おこのせり、19 ゆそや あまさの むすこと

よぜるさよ さとぎ、たび やとひびとの ひとりの ごとさよ あー さまんとりそん。
20 つのよ たちて ちさよ めくり けるげ あや とわく ありーよ ちゝかれを そそ あそ
れを そーり その くびを いさまて くち すんくり。21 さて むすこ いひけるん、ちさよ、
どれて てんよ そもき めつ あまさの まんよ つそを おこのせり、ゆそや あまさの むすこと
よぜるさよ さとぎ、*1, 2, 5, 10, kakuno gotoçi やとひびとの ひとりの ごとさよ あー さまんと。22 されど
ちゝ ちゆびどもよ いひけるん、そやく ゆつとも よき さゆのを ゆち さくりて
かれよ きを、てよ ゆびを そめて あーうて こそさる
こうーを ひき さくりて わふれ。ひげ この むすこ ちさて まさ いきびくり、
うーまつて まさ そびさーうれば 24 どれと ちよさくして そのーむ べー。つのよ
たのーを そとめり。

25 その ときよ あるん そさけよ ありーげ かんる ときいんよ ちろよりて おんげ
くと おとりの おとを きゝけれび 26 ちゆびの ひとりを よびて、こん いろまる

ことぞやとさぐねぐり。[27]ちやんぐ　めれよ　いひ　けるん、あんぢの　おとうと　かんくり　されん　ちゝ　めれを　つぐぐあく　うけるよ　よりて　ここぐる　こうゝを　わくりぐる　なりと。[28]あよ　いろりてうちよ　いるこ　ことを　このまぐり　けれん　ちゝ　いぐゝ　めれを　すこめり。[29]されど　ちゝよ　ここくて　いひ　けるん、そよ、とゝ　ひぐゝく　これ　あるぐよ　つろくて　いまぶ　おわせよ　そもろぐるよ　あるゝん　これ　とゆぐちと　ぐの　ゝむ　ぐめよ　これよ　いろひきの　こひろぐる　あるくぐる　こと　あゝ。[30]ちろるよ　あそびめと　とゆよ　あゆぐの　ちんぐぐの　むすこの　かんくるや　かれの　ぐめよ　ここぐる　こうゝをわくれりと。[31]ちゝかれよ　いひ　けるん、むすこよ、なんぢん　つねよ　これと　とゆぐる　ものん　そるあんぢの　ものあり。[32]この　あんぢの　きやうぶ　いろりぐの　ちろて　まぐ　いきぐくり、うゝあくて　そのゝそゝ　ゆあよ　これよ　ぐの　ゝそて　よろこぶん　うんぐあり。

あす　まぐ　でゝとゆよ　いひ　けるん、ある　とめる　ひとよ　そんとう　あり　けるが　あるよの　ちろぐらを　つひやすと　あんぢよ　うろくとれくり。[2]あるト　かれを　よびていひ　けるん、ひぐ　あんぢよ　つのてきゝゝことん　あるぞや。あんぢの　やくめの　めんぢやうを　いぐせ、あんぢん　ゆそやそんとうる　ことを　えぜ。[3]そんとう　ここぐろの　うちよ　いひ　けるん、あるト　ひぐ　やくめを　とり　あけられば　これ　いろよ　せんや。これ　ぐやちろん　ちゝト　あゝ、まぐ　あとここを　ねぐくん　ひぐ　そぐる　ところ　あり。[4]これ　やくめを　とり　あけんとき　これの　いくよ　むろくとる　べき　ちろぐを　ちるとて　つのよ　あるよの　ちやくぜの　まんを　ことごとくよびて、[5]その　そこよの　ものよ　いひ　けるん、あんぢん　ひぐ　あるよ　いくぜぐの　おひ　あるやと。[6]めれ　ここくて、あぶト　ひやく　とゝ　いひ　ければ　そんとう　これよ　いひ　けるん、あんぢの　かきつけを　とり　すこやうよ　ぜゝて　でとうと　めけよ。[7]まぐ　ちろの

ものよ、あんぢに いくせうの おひ あるやと いひ けれど、あんぢの めきつけを とりて もちひやくこくと いくり。なんとう いひ けるに、あんぢの ことの さくこそ あるよ よろて ことの ようと のけよ。[8]さて あるひ その あんぢー さだーろうとぬ なんとうを わめくり。それ、この よの こどもらに その だらよ おのそれ ひろりの ことばより もさくこそ あり。[9]これ あんぢらよ つけん、ふぎの さうとを もらて ともぢちを むせんぐよ、さうとぬ ときに めれと あんぢらとを めぎり すまるよ むろんん。[10]さだうろ ある ことよ さだーろうとぬ ものに おわひ ある ことよ かたーふぎの さうとよ。[11]ゆるよ あんぢらよ ゆーふぎの さうとよ さだーろうとぐんぐ されろ まことの ことを あんぢらよ まうせんや。[12]まるよ あんぢらと ひとの ものよ さだーろうとぐんぐ されろ あんぢらの ものとして あんぢらと よ ものを あさうんや。[13]ひとりの ちもぐん ふさりの あるよ つろふる こと

あさうや。いろんと あれば これを まさこそて かれを いつさーを、あるひら これを おゆんとて かれを めろんぎれば あり。あんぢと かそと ととよ かねろろふる こと あさうや。

すべての ことを きさて あをを あざるとと

[14]よく ふろう をりさらびと Farisaibito この よくり。[15]あす めれとよいひけるん、あんぢらとん ひとの まんよ そろうとを さとーきと する ものの あり、されど かそん あんぢとの こころを もり さまふ。ひとの さふとも ところの ものの かその まんよ まさまるー あり。

[16]おきてと よけんーやん Yohane よそね まで あり、その とき より めその そさるの おとびれん いひ ひろめられて ひとびと そる これよ おー つめり。[17]てんちの すさるん おきての いろうさの すさる より もの あや やをき あり。[18]されるても その つまを いだーて わろの をんまを めとる ものん そろうとを おこまふ、まる おろとよ いさされさる をんまを めとる ものも そろうとを おこまふ あり。

19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や上等の麻布を着て、毎日ぜいたくに暮らしていた。
20 ラザロという貧しい人が、できものだらけの体で、この金持の門前に寝かされ、
21 金持の食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬までがやって来て、できものをなめていた。
22 やがて、この貧しい人は死んで、御使たちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持も死んで葬られた。
23 彼は陰府でさいなまれながら目を上げると、はるかかなたにアブラハムがいて、そのふところにラザロがいるのが見えた。
24 そこで大声で言った、『父アブラハムよ、わたしをあわれんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸してわたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中で苦しくてたまりません。』
25 しかしアブラハムは言った、『子よ、思い出すがよい、あなたは生きている間に良い物を受け、ラザロは悪い物を受けたが、今ここでは彼が慰められ、あなたが苦しめられているのだ。
26 そればかりでなく、わたしたちとあなたがたとの間には大きな淵があって、ここからあなたがたの方へ渡ろうと思っても渡れないし、また、そこからわたしたちの方へ越えて来ることもできない。』
27 すると彼は言った、『父よ、それでは、わたしの父の家にラザロをつかわしてください。
28 わたしには五人の兄弟がありますが、彼らまでがこの苦しみの場所に来ることのないように、ラザロをつかわして、よくよく言いきかせてください。』
29 アブラハムは言った、『彼らにはモーセと預言者とがいる。それに聞くがよい。』
30 彼は言った、『父アブラハムよ、そうではありません。もし死んだ者の中からだれかが彼らのところへ行ってやったら、悔い改めるでしょう。』
31 アブラハムは言った、『モーセと預言者とに聞かないのだから、たとい死人の中からだれかよみがえっても、その勧めを聞き入れはしないであろう。』

十七章

1 イエスはまた弟子たちに言われた、「つまずきを与えることは、避けられないが、それをもたらす者は、わざわいである。
2 これらの小さい者のひとりにつまずきを与えるよりは、ひき臼をその首にかけられて海に投げ入れられるほうが、まだましである。
3 あなたがたは、自分に気をつけるがよい。もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして悔い改めたら、ゆるしてやりなさい。
4 また一日に七度あなたに対して罪を犯し、七度あなたのところに帰って来て、『悔い改めます』と言うならば、ゆるしてやりなさい。」

ひとりを つまづらもる よりん ひきうもの うそらーを くびよ かけて うそよ あげ
いれとるく ことそのひとよ よろるべー。
3あんぢよ そづろと つくーめよ。ゆー あんぢの きゃうさの つそを おろさび
これを いさめよ、くひ あとうめるび これを ゆるを。4ゆー いちまちの うちよ
あろうひ あんぢよ さろとひ つそを おろーて *あ〜 うび あんぢよ かへりて、ひれ
くひ あとうもると いそび これを ゆるを べー。
5ちーやうち さそよ いひ けるん、ひれとの ちんろうを まー さまん。6きそ
いひ けるん、ゆー あんぢよ めとーさね ひとうび わどの ちんろうありて この
くるの きよ、ね よりぬけて うそよ うそれと いひうけるび あんぢよ ちくびよ
べー。
7あんぢよの うちよされろうそを そびやー あるひん けものをめよ ちゃべ あとうよ
かれ さよりかへりー ときん、そとうちよ きそりて せんよ つけと いそうんや。

8かへうて、あんぢ ひれよ ちゃうへよ そるへ ひび くひ のそを そもる まそ
おひを ちめ ひれよ つろうて のちよ あんぢ くひ のそ すべーと いそぎとんや。
9ちゃべ めのせとれー ことを あせりとて あると これよ ちゃせんや、10あんぢ
omôuni çkarazuto kwayèri
よも ろうの ごとく めのせとれー ことを そる あせー とる、ひれら むあきの
ちゃべ あり、そび おとるよ べの ひ
Yerusalemuni
11あす あるさられもよ ゆく とのり ちゃりやと がりとのの うちを とそりて 12ある
Samariato Galilaino
むとよ いりけるち らのびやう やそ おうもん かれよ あひ そるろよ さち 13こあを
あけて いひけるん、ひれとを あそれそ さまん。14あす これをそて いひ けるん、
ゆきて そびろとを めんぬーとゆよ そせる。めれと ゆく ときよ きるめとれろり、
15そのうちの ひとり そびろと いやされるを そて かへり おわどあるて かそを
あびめ 16あすの あーゆとよ ひれふーして かれよ ちゃせり。そのひとん さまりやの
Samariano
ものあり。17あす そるへていひ けるん、おうもん きるめとれぞりーろ。そるんら

いづくよをるや。18このいとんのありよかそをあげめんとてうへりくるものの
ひとりも そんぐりーろ。19まく めれよ いひ けるん、くちて ゆけ、あんぢの
ちんこうう あんぢを いやせり。
Fariaaibitoni
20あす なりさうのびとよ かそのまつりごとん いつ きさとんやと とそれ ければ
めれとよ こさんて いひ けるん、かそのまつりごとん そうけとるく やうるーて
きさる ものよ あとま、21まく *こく あるひん うーこをそよと いふ べうとせ。
8, 5, 8, kokūni miyo, kaçkūni miyo
そよ、かそのまつりごとん あんぢとの うちよ あり。22まく でーこちよ いひ
けるん、あんぢとまんけんのむまそのいちまつをそんとわうまるのひきさとん、
されど そる ことを えざる べー。23ひとびと あんぢとよ いふ。24いまびうりが てんの あまく
そうと いつとも そうぐひ ゆく あうれ。
ひとめきて てんの こまるよ ひとめく ごとく まんけんの むまそる そのひよ
おりて うくある べー。25されど まづ おうくの くるーそをうけて このおさうの

ひとよ すてとる べー。26まく Nohano のその ころよ ありー ごとく まんけんの むまそこの
Noha
ときゆも うくある べー。27のそ そこぶねよ いり こうぎる きさうりて すべてのの
ものを わろがす ひまで ひとびと くひ のそ、めとり とつぎ あど せり。28まく
Lotono Loto Sodom
ろとの ときよも ひとびと くひ のそ、うりかひ、うふ、いんを くて あど せり、
29されど ろと そどむ より いでー そのひ てん より ひとつうそうを ふとせて、
火 hito iwanwo
すべての ものを わろがせり。30まんけんの むまそこの あとそる べー。31そのひ いへの
とうえとて くうる あうれ、そうけよ をる ものの めぎらいへの うちよ あとん これを
おがくよ。32まれよ ろとの つまを いのちを うーまふ ものの これを うーまもん、
Lotono
いのちを うーまふ ものの こをけんとわうまる ものの
ふるり ひとつの ねどこよ をとるよ ひとりん のこさる べー。
夜 yo.
35ふるりの をんな とゆよ ひきうをを ひき をとるよ ひとりん とられて ひとりん

のごさる べー。 5, Mat. 24: 40 setsuwo kokōni kwayèri
36 めれよ ごさんて のごまひ けるん、そらをねの ある ところまい ひー あら
あーんや。 37 ごさんて のごまひ けるん、そらをねの ある ところまい ひー あら
まる べー。

だの 十八 ちやう

ゐす めれよ きを おとさぎーて つねよ いのる べき ことを さとくを もらて
めるり けるん、 2 ある まちよ かそを おそれず ひとを うやまそざる ひとりの
さらぎんるん あり、 3 まーさ その まちよ やもめ ありけるが めれよ ゆきて いひ
けるん ひげ めごきを さぎきて ひれよ むごひ さまんてよ。 4 めれ ちぎとくうらとそ
ざりーうど その のち そごうと おもひ けるん、ひれ かそを おそれぎ、ひとを
うやまそざれども 5 この やもめ ひれを ひげ めごきを さぎうりて あやまち
さとる やうよ ひれ その めごきを さぎうんと。 6 さて いひ けるん、この さぎー
うとぬ さらぎんるんの いひー ことを きけよ。 7 まーて かそん おのれの えとを

さる ものどもの まちや めれよ さけぶを あげく ものふとも めれよ むごひ
ざとんや。 8 ひれ あんぢーよ つげん、かそん すきやうよ むごひ さまそん。 されど
るんけんの むすこ さる とき せうらよ おのて ちんうをそらさんや。
9 ゐす まーさ おのれを さぶーる ものと あーそごうとを さのんを ひとを かろん
ざる ものどもよ この ことくを めごり さまんてり。 10 ふさりの ひと いのとんとて
さやよ のぢれり、ひとりん Pharisaibito ぢりさらびと、ひとりん そうぎとり あり。 11 ぢりさの
びと ひとりさちて めく いのれり、かそよ、ひれん わうの ひと すまそちうをひ
とり ふぎ そうくうする ものあるひん この そうぎとりの ごとき ものよも あら
ざるを ちやす。 12 ひれん ひとまとりの うちよ ふさうびだんとをあー、かつ ひげ
すべて そさる ものー おうぶんの いちを さくぐと。 18 そうぎとりん そさうよ
さちて てんを あおぐ ことをも えを さぐ ひねを うちて いひ けるん、かそよ
つそびと ある ひれを あそれを さまんてと。 14 ひれ あんぢらよ つげん、この ひとん

Farisaibito
だりさいびと よりも さげーと せられて いくよ めくれり。これをそ そのぶる ものの さげよる べー、そぐうと へりくだる ものの あゆよる べー。
15 ひとびと あをよ さてとんせんとて をさあとを つれ さるり けれど でーるち これをそて めれよを とがめくり。16 されど あを かれとを よびて いひ けるん、せうるの これよ きさるを ゆるせ、きんぞる ありれ、めその そくるん かくの ごとき ものよ ぞくせ。17 これ まことよ あんぢよ つゆん、これをそも せうるの ごとくるーて かその そくるをうけざる ものの こんは これよ いる ことを えをせ。
18 ある つのさ あをよ とめて いひ けるん、よき ちーやうよ、これ かぎり あき いのちを つぐんるん あうを あをせ べきう。19 あをせ これよ いひ けるん、あんぞ これを よきと いくや。 さぐ ひとりの かその わうよ よき ものの あー。20 あんぢ おきてを ちる、そうこうまる あのれ、ぬをせ あうれ、いうそりの ちうこうを さるる あのれ、あんぢの ち〜 もくを うやまくると。21 つのさ いひ

けるん、これら いとけきる とき より そる これを まもれり。22 あをせ これを きこて
kageri
めれよ のくまひ けるん、あんぢ あや ひとりの こと ものを ことごとく うりて まづーき ものよ わどこをせ、さをれば あんぢん てんよ おいて そうよを もてる ものの あとん、かう きさりて これよ ちるべく。23 そのひとん
8, 5, 6, sōno ito kanaçimèruwo mīte
おそひよ とめる ものの あり〜 ゆをよ このことを きこて いと めをーめり。24 あをせ これを そて いひ けるん、とめる ひとの かその
1, 3, 6, issaiwo stete; 2, 5, 7, onorèno mōmowo stete
めを。25 とめる ひとの かその そくるー いるん いうるも めらの あや やすき ことよ あり。26 これを きこー ものとも よりらくぶ そりの めを とめられ ものの これぞや。27 をす いひ けるん、ひとの あるそぎる ことん かその あーうる ところ あり。28 さてそろ いひ けるん、そよ、見 ちるべくくり。29 をす めれよ いひ けるん、ふるさ これをそも ものの そくるの そめよ いく、ふるさ あや、ちやうづら、つま、ことゆを

ために 来たのです。」 Dabideno
45 イエスは また 彼らに 言われた。「ダビデの 子と 言うのは どうしてですか。
46 詩篇の 中で ダビデ 自身が 聖霊に 感じて 言っています。
『主は 私の 主に 言われた。
『わたしの 右の 座に 着いて いなさい。
わたしが あなたの 敵を あなたの 足台と するまで。』
47 ダビデ 自身が 彼を 主と 呼んでいるのに、どうして 彼が ダビデの 子で
ありえましょう。」
48 大勢の 人々は 喜んで イエスの 話を 聞いていた。
49 イエスは 教えて 言われた。
「律法学者たちに 気をつけなさい。
彼らは 長い 衣を 着て 歩くことや、
市場で あいさつされることや、
会堂の 上席や、
宴会の 上座を 好みます。
50 また、やもめの 家を 食い尽くし、
見えを 飾るために 長い 祈りを します。
彼らは 人一倍 厳しい 罰を 受けます。」
51 イエスは 献金箱に 向かって すわり、
人々が 献金箱に 金を 入れる 様子を 見ておられた。
大勢の 金持ちが たくさん 入れていた。
52 ところが、一人の 貧しい やもめが 来て、
レプタ 二つを 入れた。
それは 一コドラントに 当たる。
53 イエスは 弟子たちを 呼び寄せて 言われた。
「まことに あなたがたに 告げます。
この 貧しい やもめは、
献金箱に 入れている 人たちの 誰よりも
多く 入れました。
54 みんなは 有り余る 中から 入れたが、
この 人は 乏しい 中から
持っている 生活費を すべて 入れたからです。」

第十一章

1 一行が エルサレムに 近づき、
オリーブ山の ふもとの ベテパゲと ベタニアに 来たとき、
イエスは 弟子たちの 中から 二人を 使いに 出そうとして、
2 言われた。
「向こうの 村に 行きなさい。
入ると すぐに、
まだ 誰も 乗ったことの ない 子ろばが
つないで あるのを 見るでしょう。
それを ほどいて 連れて 来なさい。
3 もし 誰かが 『なぜ そんなことを するのか』と 聞いたら、
『主が お入り用なのです。
すぐに 返して くださいます』と 言いなさい。」
4 二人が 行って みると、
戸口の 外の 通りに 子ろばが つないで あった。
それを ほどいていると、

あす そのそちをとわ〳〵んとすれば ありて。[5]あす そのところよ いくりて かれを
あわぎそて いひけるん、ざっかいよ(Zakkaiyo)、いそのそ くされ、これけふ あんぢの いへよ
やとる べし。[6]かれ いそぎて くだり あすを むうへり。[7]これを
そる ゆの そる つぶやき いひ けるん、かれん つと あるひとの きやくと あとん
うめよ ゆけりと。[8]ざっかい(Zakkai) そちて きそよ、いひ けるん、きそよ、これ
ゆてる ゆの〳〵 そんぶんを まづ〳〵き ゆのよ わとところん。[9]ゆー をひ うへくんて
ひとの ものを とりし こと あとび をひとの
めれよ こくんて いひ けるん、けふ すくひ この いへよ のぞめり、この ひとも
あぶらはむの(Abrahamuno) こあり。[10]まんけんの むすこんうーるひくる ものをこづね すくそん
うめよ きくられり。

[11]ひとびと このことをきゝし あす あるくされ(Yerusalemuni) ちへづき めの めれ〳〵が
かそのまへりごとくちよ あとそれんと おゆふよ よりて まくることをまうけて

のくまひ けるん、[12]あるきくまん そへへとのけんをうけて かんてんとて
とあるき くるま〳〵 そびくち せり。[13]その とき おそうまんの けへのを よびて めれよ
きん おへつきんを あくんて、ひが かんくる まで ちやうぞの せよと いへり。[14]されど
その くまの くさ めれを まくさ あとより つくひを つくそーて、これと この
ひとの そそのすることをこのまゆといそのけんをうけて かんてんとて
けんをうけて かんくりし とき おのあの ちやうぞのよ おりて いくぞの ゆうけを
えくるうを そへくんとて めねを あくん おゆー けへのとゆを よびくると めのせり。
[16]そよめの ゆの きくりて、きそよ、あるくの いへきんが おへつきんよ ふえくりと
いひければ[17]あるよ こくんけるん、よの めま、よゆ けへのよ、あんぢん ひづの
ゆのよ ちうぎ あり、ゆあよ とその まちを つくさどる べし。[18]その つぎの ゆの
きくりて、きそよ、あるくの いへきんが できんよ ふえくりと いひ けれど[19]かれ
まくこの ひとよ、あんぢも いへくの まちを つくさどる べーと いへり。[20]まく

わろの ものは きろりて いひ けるん、きそよ、ロゲ ふろーきよ つくこ おきろる
あるくの いつきんを そよ、21 あるくん きびーき ひとるーて おろざる ものを とり
まろざる ものを めるる よろて これよ おそれりと。22 あるト これよ いひ けるん、
あーき けよのよ、これ あんぢの くちよ よりて あんぢを さをろん。あんぢ これん
きびーき ひとるーて おろざる ものを めると そりーや。
23 そろよん あんぞ これ かんる ときよ ものとき んと りを うくる やうよ ロゲ かねを
かそをざよ あづけ おろざりーや。24 つくよ めるそよ そろる ものとある
いひ けるん、そのひとの いつきんを とりて おつきんを ゆてる ものよ あるくよ。
25 めれよ いひ けるん、きそよ、このひとん おんぢトよ
つけん、これるても ゆてる ものん あや あるくてれん、されど ゆるざる ものん
その ものてる ものるても ととる べー。27 まる ロゲ おその する ことを わろを
ざる めるきの ものどもを こくよ つれきるり ロゲ まくよ おいて ころを。

28 ろす これとの ことを いひー のち ひとびとよ さきおそて ろるされもよ
のがれり。29 すぐよ めんとんと いくる やまの べてをびと べるるやよ ちりぢ
ける ときろす ふるりの でーを つろそーて いひ けるん、30 あんぢトよ むろふの
むくよ ゆけ かーとよ、いくど いまる ひとの のとざる ところの つるける ろをの
ことよ あそん、これを ときて ひき さられ。31 ゆーられろ あんぢとよ、あんぞ これを
ととくると ととび、きその いりよう ありと いふ べー。32 つろをされー ものども
ゆきるれば そるーて いそれー ごとくよ あくり。33 ろぞの ことを ととくとき その
あるトかれごよ いひ けるん、あんぞ ろぞの ことを ととくろ。34 かれトよ いひ けるん、
きその いりよう ありと。35 つのよ これを ろす よ ひき ゆき おのれの さものを
ろぞの このうくよ おきて ろすを これよ のがれ
そちよ をけり。37 ろす めんとんぎろの さくろよ ちろびける とき おそせのの でー
ども よろこび かつ そー ところの すべての ふーぎある ロゲの ろめよ おそざる ろす

よて 38かそを わめ もとめて いひ けるん、かその あよ おりて きるる そうに
さりそひ あり、てんよ おりてん おさやう、めりとも さうき ところるん えのろう
あれ。 39おわせらの うちの ある もりさらのびと Farisaibito
Farisaibito
あるくの でーとをも いまーめよ。 40あす こうんて いひけるん、 ちれ あんぢによ
つけん、 めれよ ゆー さまりきび いー さけぶ べー。
41すでよ ちうづける とき あす そやうを そて これが うめよ あき いひ けるん、
24あんぢ さるも この ひよ あんぢの おさやうよ かうそれる ことを そとび
さりそひ あり、されど いま あんぢの めよ かくれくり。 43あんぢの てき あんぢの
まもりよ どてを きづきて ちもよ かこを せめ、 44かう あんぢと あんぢの
うちの ことものよを ちよ さーて いーも のこさざる ひきうとん、
いろんと あれば あんぢ めんりを さまうの ときを そとざれば あり。
45つのよ そやよ いり あきまひ する ゆのどものを おひ いさー そとめて、これよ

のさまひける、とび いくら いのりの いんぢと ありと ちるされり、されと あんぢよ
これを とうぞうの あるよと あせり。 47あも かんぬー、さうやく、さうの かーよ かれを ころさんと
そうを かうもけて これを きく ゆるよ あも べき ーうさを えざりー。

たの 二十 十ちやう

とき もきて ある ひ あも そやうて さうよ をーん から さりそひの おとづれを
いひうろもる とき おゆき かんぬー と そうやうとも とーうりと とゆよ きうり
かれよ かうりて いひ けるん、 2いうある けんゆよ よりて この ことを あもや、
あるひん この けんゆを さづけー ものい うれ あるう、 ひれとよ つけよ。 3あも
こうんて いひ けるん、これも あんぢとよ さづゆる こと あり、これを とそん、
ひれよ こうんよ。 4よそねの Yohaneno そづめん てんぢとよ よりう、まんけん よりう。 5かれよ
うづひよ もうり いひけるん、ひれとよ ゆー てんぢ よりと いそび かれ いそん、さとび

あんそ　かれを　ちんせざりーやと。　さればこそ　まんげん　よりと　いそび　さま　そあ
Yohanewa
よそねん　よけんーや　ありと　ちんぞるよ　よろて　どれよを　いーまて　うるんと。
7 つりよ　ころんて、　いづれ　よりう　ちよ　ゆと　いんり。　8 あす　これよ　いひ　けるん、
どれも　あんの　けんるよ　よりて　これよの　ことを　あすうを　あんぢよ　つけゆ。
9 つりよ　あす　この　うとんを　ううよ　めうれり。　ある　ひと　ふどう　そうけを　つくり
これを　ひやくーやうよ　めーて　ひうーくうよ　ゆきーげ　10 そのるとき　およんぞ
ふどう　そうけの　そを　うけとよんとて　ちゆんべを　ひやくーやうの　もとん　つうそゆ
ーよ　ひやくーやう　これを　うちて　むるーくかんてよーめうり。　11 まう　そうの　ちゆ
べを　つうそー　けるよ、　これを　うちめうて　むるーく　めんてよそり。
12 まう　そうび　ちゆべを　つうそゆーよ　これを　きそうけて　おひ　いうせり。　13 ふどう
そうけの　あるよ　いひけるん、　どれ　いうよ　せんや。　ゆげ　あいする　むをそを　つうそ
さん、　おそくんの　れよ　これを　うやまふ　あとんと。　14 されと　ひやくーやう　これを

そて、　うぐひよ　そうり　いひける、　これん　あとつぎあり、　1, 4, 5, 7, 128; 2, 8, 6, nogezu
よの　ゆのと　ある　やうよ　どれよ　これを　こうそも　べーと。　15 つりよ　ふどう　そうけ
よりおひ　いうーて　これを　こうをり。　これよ　よりて　ふどうそうけの　あるじんかれ
よを　いうよ　せんや。　16 かれん　うそり　この　ひやくーやうとゆを　わうぶーて　ふどう
そうけを　おうの　ゆのよ　あづくべー。　かれよ　これを　きそて　いひけるん、　ちうん
あとうされ。
17 ある　かれんを　そて　いひ　けるん、　いくうくりの　そそるの　いーんの　そそるの
おやうーと　あれりと　そうそれーん　あうぞや。　18 これそても　この　いーの　うんよ
おうる　ゆのん　やぶれん、　されと　この　いー　ひとの　うんよ　おちるべ　その　ゆのを
うちくうろん。
19 その　とゆ　2, 8, 4, 7, 9, çeyákuto omóki kánnuçidomo　ちうやくーと　おゆげ　かんぬーとも
ゆうりーを　さとりて　ある　を　とくんと　おのれんを　さーて
ゆうりーを　さとりて　ある　を　とくんと　おをれり。　20 こうよ

ゐる 者は 皆 ゐなくなる 迄は、此の 時代は 過ぎ去らない。[33] 天地は 滅びるであらう、
併し 我が 言葉は 滅びる 事が ない。[34] 其の 日と 時とは、誰も 知らない、
天に ゐる 御使たちも 知らない、子も 知らない、父だけが 知つて ゐる。[35] ノアの
時代に 有つた 事が、人の子の 来る 時にも 有るであらう。[36] 即ち 洪水の 前に
は、ノアが 箱舟に 入る 日迄、人々は 食ひ、飲み、娶り、嫁ぐ 事を して ゐて、
[37] 洪水が 来て 皆を 滅ぼす 迄は、何事も 無かつた 様に、人の子の 来る 時にも
有るであらう。[38] 即ち 其の 時には、畑に 居る 二人の 中、一人は 取られ、一人は
残されるであらう。[39] 臼を 挽く 二人の 女の 中、一人は 取られ、一人は 残され
るであらう。[40] 故に 目を 覚まして 居なさい、何時 主が 来られるか 分からない
からである。[41] 此の 事を 知つて 置きなさい、家の 主人は、何時 泥棒が 来るか
と 夜中 目を 覚まして 居たら、泥棒に 入られる 事は 無いであらう。[42] 人の子は
思ひ 掛けない 時に 来るから、[43] 常に 目を 覚まして 居なさい。[44] 主人が 召使
たちを 置いて、時に 応じて 食物を 与へる 忠実な 賢い 召使は 誰であるか。[45]
主人が 帰つて 来た 時に、其の 様に して ゐる 召使は 幸福である。[46] 誠に 汝
らに 告げる、主人は 其の 召使に 全財産を 管理させるであらう。[47] 併し 悪い
召使が、主人は 帰つて 来ないと 心の 中で 思つて、[48] 仲間を 打ち 叩き、酒飲
みと 一緒に 食ひ 飲みして ゐたら、[49] 主人は 思ひ 掛けない 日、知らない 時に
帰つて 来て、[50] 其の 召使を 厳しく 罰して、偽善者たちと 同じ 目に 遭はせる
であらう。[51] 其の 所で 泣き 悲しみ、歯ぎしりを するであらう。

Kaisaruni

[22] 彼等は イエスに 言つた、「カイザルの 物は カイザルに 返すのが 当然です。」
[23] 其の 時 イエスは 彼等に 言はれた、「それでは カイザルの 物は カイザルに、
神の 物は 神に 返しなさい。」[24] 彼等は 驚いて イエスの 許を 去つた。

3, 4, 5, 6, Nánzo wárewo kokoromíruya ; 1, 2, 7, i, nosèzu

*[25] 其の 時 サドカイ人が 来て、復活は 無いと 言つて ゐるが、[26] 彼等は イエス
に 質問して、[27] 言つた、「先生、モーセは 言つて ゐます、『若し 人が 子を 残さ
ずに 死んだら、其の 弟が 兄の 妻を 娶つて、兄の 為に 子孫を 残さなければ なら
ない。』[28] 所で、七人の 兄弟が ゐました、長男は 妻を 娶つて 死に、[29] 子を
残さなかつたので、其の 妻を 次男が 娶つて 死に、[30] 三男が 娶つて、[31] 七人
共 皆 同じ 様に して 死に、子を 残さなかつた。[32] 最後に 其の 女も 死にました。
[33] 復活の 時に、彼女は 誰の 妻に なるのでせうか、七人 皆 彼女を 妻に して
ゐましたが。」[34] イエスは 彼等に 言はれた、「此の 世の 人は 娶つたり 嫁いだり
するが、[35] 来世に 与つて 死人の 中から 復活するに 値する 者と 認められる
者は、娶つたり 嫁いだりは しない。[36] 彼等は 最早 死ぬ 事が 出来ないから、
天使たちと 同じ 様に なり、復活の 子と して 神の 子である。[37] 死人が 復活
する 事は、モーセも 柴の 箇所で、主を 『アブラハムの 神、イサクの 神、ヤコブ
の 神』と 呼んで、明らかに して ゐます。[38] 神は 死人の 神では なく、生きて
ゐる 者の 神で ゐられる。皆 神に 生きて ゐるのです。」

Sadokaino

[27] 其の 時 サドカイ人の 中の 或る 人々が 来て、イエスに 質問して 言つた、
[28] 「先生、モーセは 我々に 書いて ゐます、『若し 人の 兄が 死んで、妻を 残
して 子が 無かつたら、其の 弟が 兄の 妻を 娶つて、兄の 為に 子孫を 残さなけれ
ば ならない。』[29] 所で、七人の 兄弟が ゐました、長男は 妻を 娶つて 死に、
子を 残さなかつた。[30] 次男が、[31] 三男が 其の 妻を 娶つて、七人 皆 同じ
様に して 死に、子を 残さなかつた。[32] 最後に 其の 女も 死にました。[33] 復
活の 時に、彼女は 誰の 妻に なるのでせうか、七人 皆 彼女を 妻に して ゐまし
たが。」[34] イエスは 彼等に 言はれた、「此の 世の 人は 娶つたり 嫁いだりする
が、[35] 来世に 与つて 死人の 中から 復活するに 値する 者と 認められる 者は、
娶つたり 嫁いだりは しない。[36] 彼等は 最早 死ぬ 事が 出来ないから、天使た
ちと 同じ 様に なり、復活の 子と して 神の 子である。[37] 死人が 復活する 事
は、モーセも 柴の 箇所で、主を 『アブラハムの 神、イサクの 神、ヤコブの 神』
と 呼んで、明らかに して ゐます。[38] 神は 死人の 神では なく、生きて ゐる
者の 神で ゐられる。皆 神に 生きて ゐるのです。」

3, 6, 8, jinán korewo metóriçiga kâremo yotsûgi nâkuçte çisèri

[39] 其の 時 律法学者の 中の 或る 人々が 言つた、「先生、良く 言はれました。」
[40] 彼等は 最早 何も 敢へて 質問しなかつた。[41] イエスは 彼等に 言はれた、
[42] 「キリストを ダビデの 子と 言ふのは 何故でせうか。[43] ダビデ 自身が 聖霊
に 感じて、
『主は 我が 主に 言はれた、
我が 右に 坐して ゐなさい、
我が 汝の 敵を 汝の 足台と する 迄は。』
と 言つて ゐます。[44] ダビデが 主と 呼んで ゐる 者を、何故 ダビデの 子と 言
ふのでせうか。」[45] 誰も 答へる 事が 出来なかつた。其の 日から 後は、敢へて
イエスに 質問する 者は 無かつた。

Mouseno 三ノ木 Çôubokuno hénni

[1] 其の 時 イエスは 群衆と 弟子たちに 言はれた、[2] 「律法学者と パリサイ人
は、モーセの 座に 着いて ゐる。[3] 故に 彼等が 汝らに 言ふ 事は 何でも 守つて
行ひなさい、併し 彼等の 行ひは 真似を するな。彼等は 言ふ 事は 言ふが、行ひ
は しないからである。[4] 彼等は 重い 荷を 束ねて、人の 肩に 載せるが、自分
は 指一本 貸さうと しない。[5] 彼等は 人に 見られる 為に 行ひを する。即ち
経札の 幅を 広く し、衣の 房を 長く し、[6] 宴会の 上座や 会堂の 上席を 好み、
[7] 広場で 挨拶を 受けたり、人に 先生と 呼ばれたり する 事を 好む。[8] 併し
汝らは 先生と 呼ばれては ならない、教師は 一人で、汝らは 皆 兄弟だからである。
[9] 又 地上の 者を 父と 呼んでは ならない、父は 一人で、天に ゐます 父だけ
だからである。[10] 又 先生と 呼ばれては ならない、先生は 一人で、キリストだ
けだからである。[11] 汝らの 中で 一番 偉い 者は、汝らの 僕と なるべきである。
[12] 誰でも 自分を 高くする 者は 低くされ、自分を 低くする 者は 高くされる。

ために、あなたがたは、ミントや、ルタや、あらゆる野菜の十分の一をささげていながら、神のさばきと愛とをおろそかにしている。これこそ、行なうべきことである。しかし、ほかのことも、なおざりにしてはならない。

39 また、主は言われた。「あなたがたパリサイ人は、さかずきや皿の外側をきよめるが、あなたがたの内側は、貪欲と悪意とでいっぱいである。40 愚かな者たちよ。外側を造られた方は、内側をも造られたではないか。41 ただ、あなたがたの内側にあるものを、施しなさい。そうすれば、あなたがたにとって、すべてのものがきよくなる。

Kristowa Dabide

42 しかし、あなたがたパリサイ人は、わざわいである。あなたがたは、はっか、ルタ、あらゆる野菜の十分の一を納めていながら、正義と神への愛とをなおざりにしている。これこそ、行なうべきことである。ほかのことも、なおざりにしてはならない。

Çino hônni

43 パリサイ人は、わざわいである。あなたがたは会堂の上席や、広場であいさつされることを好むからである。

Dabide Kristowo

44 あなたがたは、わざわいである。あなたがたは、人の知らない墓のようだ。その上を歩いても、人はそれと気づかない。」

45 すると、律法の専門家の一人が答えて言った。「先生。あなたがそのようなことを言われると、私たちをも侮辱することになるのですが。」

46 すると、主は言われた。「あなたがた律法の専門家も、わざわいである。あなたがたは、負いきれない重荷を人に負わせるが、あなたがた自身は、その重荷に指一本さわろうとしない。

3, 5, 6, Kàmini soŋàyetaru

47 あなたがたは、わざわいである。あなたがたは預言者の墓を建てているが、その預言者を殺したのは、あなたがたの先祖なのだ。

48 したがって、あなたがたは先祖のしわざを証明し、それを是認しているのだ。先祖が預言者を殺し、あなたがたが墓を建てているのだから。

49 それで、神の知恵もこう言っている。『わたしは預言者や使徒たちを彼らに遣わすが、彼らのうちのある者を殺し、ある者を迫害する。』

50 それは、この時代が、世の初めから流されたすべての預言者の血について、責任を問われるためである。

51 アベルの血から、祭壇と宮の間で殺されたザカリヤの血にまで、責任を問われるためである。そのとおり、わたしはあなたがたに言う。この時代は責任を問われる。

52 わざわいである。あなたがた律法の専門家は、知識のかぎを取り去ってしまった。自分が入らないばかりか、入ろうとする人をも妨げたのだ。」

53 主がそこを出て行かれると、律法学者やパリサイ人たちは、激しく主に迫り、いろいろなことについて、口をふさごうとした。

54 主の言われることの中に、何か揚げ足をとるものはないかと、ねらっていたのである。

○ 新約 166 ページ ルカ 12 章 1 節

ときまん いうある をるー あとんや。 8 あまを いひけるい、あんぢと まとそされぬ
やうよ きを つけよ、いうんと あれば おそるくの ひと ひが あよ おのて きうり、
ひれい めれ あり ときい ちうきよ ありと いうそん、あんぢと これよ をうげふ あうれ。
9 いくうさと そうとうを きく ときい おそるく あうれ、これとの ことい まう きうと
ぎうを えを、されと をもりい いまう まそやう あとも。 10 まう のうまひ けるん、
うそん うそよ さうとひ、くうん そうく さうとうて おことん、 11 おそひあうぢーんと
ところところろよ きうん やくびやう あり、かう おそひある せんびやうと をうー
てん より あとをる べー。 12 この ことよ より さきよ ひとひと
あんぢとを ととん くるーめ くをのとう おとび ちうやよ ひうー て ひげ あの
うめよ そうと つうさの まくよ ひる いうさん。 13 されとも この ことよ あんぢとよ
ちようこと あとん。 14 この ゆをよ いうぐ こうくんやと おとうとめ おあんをうと
ぎる やうよ あんぢとの こころを さうめよ。 15 いうんと あれば、これ あんぢとの

まくての てきの いひけを こともさくゆる こころの くちとちあを
あんぢとよ あるゆれば あり。 16 あんぢと ふうさい、きやうさい、ちんうさい、とも
うちより ひうされ まく かれと あんぢとの
ひげ あの うめよ すくその ひとよ みくまる
ひと すぢも うーをそと。 19 あんぢと さくーの
20 あんぢと あるうされむが ぐうんせうよ めことも
ありと をる べー。 21 その とき ゆうやよ をる ゆ
うちよ をる ものん いうでよ、いあうよ をる ゆ
これ をるされうる ものく そる とけとる
ひそとめる をんをと ちくを のまする をんあるん ひそひ ある。 ちよ おそひ
ある さのあん あり、めう いうり この うそ
あるあの そよ さうれ、とりこと ありて ちよとくよ ひうれ まく をるされむ

いとうの ときの そうる まぐに いとんよ ふと あとさる べー。
日 hito takito
25 ひとつきとやーよ そるー あとそれん、ちよおりてん そうぐうのひと めるーと
鳴 nari
まこ うそと あそとの あり とどろくよ よろてうろうん、26 めっひとびと おそれ
つ〜 せろうよ きるごんと する ことを まちて きよむく あとん、これ てんの
うろそとも ふるんべあり。27 その ときよ ふるんけんの むきこの けんるると おそひるる
えのこうを めって くめよ のり きるるを そる べー。28 これとの ことり きるり
もとめるべあるのを めうべを あけよ、あんぢとの あげるひ ちろきよ あれば あり。
29 つろよ そとんを めるりて のるまひ けるん、いちぢこと すべその きを そよ。
30 すぐよ めざす ときん あんぢと これを そて そべうと あうの もや ちろきを
ある。31 めるの ごとく あんぢと これとの ことの きるるを そべ めその まろり
ごとの ちろきを ふれ。32 ひれ まことよ あんぢとよ つけん、この とるのこれとの
ことの そる ある まぐに すぎざる べー。33 てんと ちん するる べー、されど ひか

ことぢに するる べろとぢ。
34 あんぢと そべうとを つくーめよ、おそとくん あんぢとの こころ くひもの
のそものよ あけり、めろ この よの ことと よ ひべとそされて おもそざるの ときよ
この ひ ひるの ごとく あんぢとよ のぞまん。35 これ *3, 4, "wanano gotōku" wo kokōni nosēri あまねく ちの おもてよ
する すべその ひとよ のぞむ べー。36 されば あんぢと きを つけて おるとくんと
3, 4, 5, tatsuni tayetaru mōnoto
する すべその ことを のがれ かつ まんけんの むすこの まくよ るち うる やうよ
seraruru yōni
つねよ いのる べー。
37 あす ひるん そやまて をーく よるん いぐ〜 めんとんと いくる やあよ やどり
そまふ。38 すべその そこに その をーくを きろうんとて あさ そやく そやよ ろるれり。

だの 二十二 をゆう

すぎこーとくるめうにあるもんのまろりちらげけり。2 おもるかんぬーとをようや
そとも いろとーて あすを ころるんやと あひ もろれり、るど そそを おそれるり。

Iskarioteto iyeru Yudani
Satau

Yuda

Peteroto Yohanewo

1, 2, 5, çiçà ; 3, 4, 6, jūninno çiçà

ペテロ ヨハネ ヤコブ アンデレ
ピリポ バルトロマイ マタイ トマス
アルパヨの子ヤコブ タダイ
熱心党のシモン ヤコブの子ユダ
イスカリオテのユダ

[13] 彼らは入って来ると、泊まっていた屋上の間に上がった。それはペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、熱心党のシモン、ヤコブの子ユダであった。[14] この人たちは婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと共に、一つになって祈に専念していた。

[15] そのころ、兄弟たちの集まりが、合わせて百二十人ほどになっていたが、ペテロが兄弟たちの中に立って言った、[16] 「兄弟たち、聖霊がダビデの口を通して、イエスを捕える者たちの手引をしたユダについて、あらかじめ語られた聖書は、成就しなければならない。[17] ユダは、われわれの仲間であって、この務の与りにあずかっていた者である。[18] ところで、この人は不義の報いで得た地所を買い、そこへ真っさかさまに落ちて、からだが真ん中から裂け、はらわたがみな出てしまった。[19] このことは、エルサレムの住民全部の知るところとなったので、その地所は彼らの国語でアケルダマ、すなわち血の地所と呼ばれるようになった。[20] 詩篇に、

『彼の住む所は荒れ果てよ、
その中に住む者がなくなるように』

また、

『彼の監督の職は、
ほかの人に取らせるがよい』

と書いてある。[21] そこで、主イエスが、われわれの間に出入りしていた間ずっと、[22] すなわち、ヨハネのバプテスマから始まって、われわれを離れて上げられた日までの間、われわれと一緒にいた人々の中から、だれかひとりが、イエスの復活の証人として、われわれと共に立つべきである。」

[23] そこで、バルサバと呼ばれ、またユストと呼ばれるヨセフと、マッテヤとの、二人を立てた。[24] そして祈って言った、「すべての人の心をご存じの主よ、この二人のうち、どちらをお選びになったかを、お示し下さい。[25] 彼は、この務と使徒の職との与りにあずかるために、ユダが自分の場所へ行くために捨てた職を、受けるのです。」[26] そこで、くじを引いたところ、マッテヤに当ったので、彼は十一人の使徒の仲間に加えられることになった。

Israeluno
[31] 1, kàkuno gotòçi; 2, nosèzu Çimon Satan
çînimo
[33] Çimon
Peteroyo
[35]

けるん、あろりー。36あす かれよよ いひ けるん、いまさらふ あるゆのん これゆ
うびふろろそも とる べー、ゆるぎる ゆのん さゆのを うりて めるまを めふ
べー。37それ あんぢよよ つけん、かれひ とびふるんの うちよ めぞんとれうりと
ゆるされー ことん それよ とけとる べー、ゴゲ ことん をもりよ あれん あり。
38めれよ いひ けるん、さそよ そよ、ふろろの めるま あり。あす いひ
けるん、それうて うれり。

Kanrauzáni

39あす いぞー あとそーの ごとく めんじんぞんよ ゆゆ けれん でーうちも これよ
ゆるぐんり。40その ところよ いうりて めれよよ のうまひ けるん、あんぢよ
こころそよ おち いとぎる やう いのれ。41さて あす めれよを そあれ いーを
あけとる〜 わとの へざうりうて ひざまづゆ いのりて いひ けるん、42ちよよ、
そごところよ めあそん このちよふを ゴれ より そあち うまん、されと ゴゲ こころの
あふよ あとを、うふ そごところの あふよ あさーめ うまん。43さて かその つうひ

Dái 1, 5, 6, 7, kákuno gotóçi;

dái 8, 9, 4' cahónni 43, 44 setsuwo nosézu

てん より あす よ あとそれて めれを つよめり。44あを いふふく めあーそて ひふを
よよ いのりその あをん ちの おあひあるこ ちふふりの ごとくありて ちよ おちふり。
45いのり よりおきて でーとゆよ きふりその うれひて ねむれるを そて かれよよ
のうまひ けるん、46あんそ ねむるや。おきて こころそよ おち いとぎる やうよ
いのれ。

47あす あや かうれる うちよ そよ、おあをの ひとびと きふる、あふ おうよ
でーの ひとり ゆだと いくる ゆの かれとよ さゆをと くち すそんとて
かれよ ちうふれり。48あす これよ いひ けるん、ゆだよ、あんぢん すふ ことよ
よりて あんけんの むをそを とるをう。49かるそふよ をる ゆのとる ことの おそ
よんと するを そて いひ けるん、さそよ、これと かるまを ゆりて うら べきう。
50かれーの うちの ひとり おゆき かんゆーの ちゆびを うちて その そぎの そふを
きりそあをり。51あす こふんて いひ けるん、これて すてあけ、つひよ その

ペテロは遠くから従った。 55 人々が中庭の真ん中に火を焚いて、一緒に座っていたので、ペテロもその中に座った。 56 すると、ある女中が、火に照らされて座っているペテロをじっと見つめて、「この人も、イエスと一緒にいました。」と言った。 57 しかし、ペテロは、「女よ、私はあの人を知らない。」と言って、それを否んだ。 58 しばらくして、別の人が、ペテロを見て、「あなたも彼らの仲間だ。」と言った。しかし、ペテロは、「いや、違う。」と言った。 59 それから一時間ほどたって、また別の人が、強く言い張って、「確かにこの人も一緒にいた。この人はガリラヤの者だから。」と言った。 60 しかし、ペテロは、「あなたの言っていることは、私には分からない。」と言った。すぐに、まだペテロが話しているうちに、鶏が鳴いた。 61 主は振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度私を知らないと言うだろう。」と言われた主の言葉を思い出した。 62 そして、外に出て、激しく泣いた。

63 イエスを捕らえた人々は、イエスをからかい、殴った。 64 また、目隠しをして、「言い当ててみろ。殴ったのは誰だ。」と言った。 65 そのほかにも、イエスをののしって、いろいろなことを言った。

66 夜が明けると、民の長老たち、祭司長たち、律法学者たちが集まって来て、イエスを議会に連れて行き、 67 「お前がキリストなら、そう言え。」と言った。イエスは、「わたしがそう言っても、あなたがたは信じないだろう。 68 わたしが尋ねても、あなたがたは答えないだろう。 69 しかし、今から後、人の子は、全能の神の右の座に着いているであろう。」と言われた。 70 そこで、皆が、「それでは、お前は神の子なのか。」と言った。イエスは、「あなたがたの言うとおりである。」と言われた。 71 すると、彼らは、「これ以上、証言など必要があろうか。我々自身が、この口から聞いたのだから。」と言った。

3, 5, 8, kotayezáru

あんだから まちがおおえ。 68あるいは あんだらが ハヤシの あんだらが ハハンだから
bêç, mâta wârewo yurusumàji.
ンー。 68ハハの ひの あんだらが おおいに しょうの ある ために ゆるされる。
ため ハハが ある ひと、または あんだらが ために おおい あるか。 ほか ハハン
ひと、または、あんだらの ハハン だー。 11ために ハハの ひと、あんだ から
かれらは あんだらが おおいに、ひとり ハハの ために ハハン ある。

ルカ 11 + 111 ページ

Pilatoni
あんだらの かれらに ハハ ハハン ために ハハの ひと。 ハハン ハハン
Kaisaruni
あんだらの ために ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン
ハハン ハハン ひと、または ハハン ハハン ひとり ハハン ハハン ハハン
ハハン。 3ハハン ハハン、 ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン、
Yudayabitono ôu
ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン
Pilato
ハハン ハハン ハハン だー。 4ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン ハハン
ハハン ハハン ハハン ハハン

ゆのとーて　これよ　つれ　きこれり。　そよ、
ことを　ゆうて　あんぢとの　まくよ　これを　ちとーられとも　これよ　つこ　あるを　そぎ。
Herodemo
15 へろでも　まく　ちうり、こん、へろを　かれを　これとーよ　かんせーげ、16 そよ、その
あを　ところよ　よれば　これを　ちぎうよ　あくる　ゆのと　せぎ。17 ゆあよ　これ　もち
うちて　これを　ゆるさんとす。〔8,8,7,9, nosezu そん、この　まうりよ　ひとーく　よをそりて　いひ　けるん
あるんぐさうを　えぬ。」18 その　とき　めれと　そる　ひとーく　よをそりて　いひ　けるん
このひとを　のけて　これじよ　そらをを　ゆるせ。19 かれん　まちよ　おのて　もちんを
Barabawo
おこー　ひとを　ころーて　らうやよ　いれじられくる　ゆの　あり。20 びとと　あをを
Pilato
ゆるさんと　わうーて　ふたたび　かれとよ　いひーうとも　21 めれと　よをそりて
そりつけよ　せよ、そりつけよ　せよと　いくり。22 びとと　そうび　かれこよ　かうりて
いひ　けるん、このひとん　あんの　あくふを　あをーう。これ　かれよ　ちぎの
あるを　そを、ゆるよ　むち　うちて　これを　ゆるさんとを。23 めれと　おわどあるて

ちぎりよ　これをそりつけよ　せんことを　ゆるさんとものこえ〕めちぐり。24 こくよ　おのて　びとと　その　ゆとむる　ぞととくよ　あさんと
Pilato
さうめ、25 むちうちを　おこー　ひとを　ころーて　らうやよ　いれとられくる　ひと　すあをち
めれと　ふを　ゆるー　ふをを　そのこころよ　あうんをて　ここうをり。
Kurenseno Cimonto
26 めれと　ふをを　つれ　ゆく　とき　いあうよ　くれねの　ちゆんと　いくる
ものを　そとーん　これよ　おうどうを　おこ　それを　おそをて　ふをを　ちぐうひ　ゆうーむ。
27 おわせらの　ひとびと　および　これを　ふこ　ゆけり。28 ふをを　めれとを　めくりそて　いひ　けるん、ふるぐれものの　むをめよ、ロゲ
ちめよ　あく　あうれ、ぐぢ　なんぢとの　ことゆうの　ちめよ　なく　べー。
29 そよ、そとまぐる　ゆの　うまぐらの　たい、のまをぐるの　ちぶさん　さうのそひ　なりと
いそんひちぐる　べー。30 その　そこ　めれと　やまよ　むろみて、これの　うんよくぐりて
おわんよ、こゆまちん　これとを　めくんをうと　いひ　そとむる　なとん。31 ゆー　あをこ

きよ　めく　あさん　めれきよめ　いうぐ　せんや。
32 まく　わろよ　ふるりの　とげるんを　あきと　いくる　そこよ　いうりて　そこよ　あきを
ひき　ゆきうり。 33 つひよ　されろうぐと
もりうけ　まく　その　とげるんを　ひとりん　ひぎりよ
もりうけうり。 34 あきを　のうまひ　けるん、ちうよ、かれとをゆる〜うまん、その
あきをところちてくどをひけり。 35 うちて　うちて
これをそうり、まく　つうさとも　あざるとふて　いひけるん、かれん　ひとをまくくり、
ゆ〜　きりきと　まあもち　めその　あとんでうとを　まくみぐ〜。
36 へんそうる　さうり　これを　あふり　まを　あるくて　いひ　けるん、 37 なんぢ　ゆ〜
ゆさやひとの　ころう　あとんぐ　みぐうとを　まくみぐ〜。
1, 3, 5, 6, Grikia, Roma, Hebruno mòjinite; 2, 4, 7, nosezu
38 〔きりきや、ろは、へふるの　ゆとうまて〕　これん　ゆうやひとの　ころう　なりと
めきうる　ひやうさうを　そのうんよ　そてり。 39 おうとうよ　ひとりうる　とげるんの

うちの　ひとり　あきを　のくうりて　いひけるん、 3, 5, 6, nãnji mòçi Kristo narùba onoreto
おのれと　とれとをさをけよ。 40 わろの　ひとりん　さうをとよ　あとざるろう、
なんぢ　おあト　さをきをうけ　あげト　めそれざるろ。 41 とれとらうんぐなり、
とれとげ　おこあひ　ところの　むくひを　うく、されど　この　ひとん　あろの　あ〜ち
ことも　あさとりーと。 42 まく　いひけるん、 3, 6, 8, Yesuni ii kèruwa, Kimiyo,
とれを　おおんよ。 43 あきを　これに　いひけるん、 とるまふ　とち
あんぢん　けふ　とれと　とをよぐとふる
44 とまん　おふを　むあの　こく　あうーげ　ひ
1, 2, 4, 7, hiwa nisòku; 3, 5, 6, hino hikàri kurùmi
とふく　あり、 45 ひん　わつーふくと　あり
うり。 46 あを　おあで　あるて　よをうり　いひけるん、ちうよ、とれ　まこ
てよ　あげけんと、かく　いひ　をうりて　いひ　ふうる。
47 ひやくまんの　めーと　ありー　ことを　うきて　めそを　あげめ　いひ　けるん、こん　まこ

とよ たゝーgu ひと あり〜と。48 これを そんと そこ あつまりくる ひとびと そこ
ことゝもを そこれば ものを うちて めくれり。49 すべて あもの ちうべの もの
Galilai
および がりゝーの より そこゝひ きてくれる をそん多どもも〜 とゝくよ そちて これを
そこり。

Yudayabitono mātei Arimatayano Yosefuto
50 そこ、ゆゞやびとの まち ありまゝやの よせふと
ひやうぎゐん あり。51 めれん かその まつりごとを まてる ものゝまゝーて ひとの
そこりごと〜 ちうぎよ くそせざりー。52 この ひと びとよ ゆき あもの ちうを
ねを ねげくて 53 これを おろー ぬのよ つゝゝて いまゞ ひとを わうれとざる
ところの いそよ わりくる そこよ おさめり。54 その ひん そあんべうーて やすそび
ちうげる とgu あり。55 がりゝーの より をん多どもも
あとよ ちうげくて そこと その ちうをねの おうれくる さまを そこり。56 めれゝ
めくりて めうもの と ゝちひ あゞゝを ようの ーて やすそびまん おきて よ ちう

げくて やすめり。

だい 二十四 ちやう

めれゝ ひとまこりの もゝあの ひよ あさ そやく ようの ーくる めうゆうを ゆちて
そうよ いくりーげ 2 8, 6, hokāno onnadōmomo tomoni kitarēri いーの そう よりこそげりくるを きて 3 いりけれゞ きを あ今の
ちうをねを そぐりー。4 こゝよ おりて めれゝ とそうよ くれて ねくり けるげ
そよ、まゝん めゞやける ころゆを きて めれゝの そをゞよ さそり。5 そん多どもも
おそれて めりを ちよ あせ けれゞ その まゝん めれゝよ いひ けるん、あんそ
いける ものを もくくる ゆの〜 そこそよ そらぬるや。6 めれんこゝよ をゝゞ
Galilaini
いきがくれり、そのがりゝーよ そりー とgu あんぢゝよ めくりて、7 まんけんの
ひやこん つそびとの てよ そこされ めり そりつけくれて そうちめよ よそげくる
べーとい ひーを おがくよと。8 めれゝ そのこと をを おゆひ いくー そう より
めくりて このことを そるおうのちの でーとゆよつはくり。10 これを

Magdalano Maria, Yohana, Yakobuno hâha Maria
ちーやうろうよ つけー ゆのとうやいまぐすくの おりや、よそな、やそぶの そーまりや、
おうび とうるひろる わうの そんなとも あり。 11 でーうち その ことをも むるー
Petero
ごとく おゆみて これを ーんせざりー。
12 ぺてろ うちて そうよ もーり ゆの ゆのぎぬものを〔おけるを〕
1, 2, nunogimonowo mite
そて ありー ことを あやーそうく めくれり。
13 そよ、そのひ ふくりの でー あるされむ より *ぜんりへうーりうる えんなう
Gempónni rokujittco, sunawâtei Nipónno hyâku
hâttconi atâru Emmauto
とうよむくよ ゆく とも 14 ふたりひよ ありー ことともを めくり あんり。 15 めく
かくり ろんずると ともに ふたりて かれとと ともよ ゆけり。 16 されど
その めまふそされて これを ちとざりー。 17 あす めれよ いひ けるん、あんぢよ
1, 2, 3, 7, kôrera kanâçimi tâtcite
ゆきくー *ぐひよ ろんをるい あるごとぶや。 めれよ めまーん うち とともありて
Yerusalemuno
もの こびとと あるよ この でろ ありー ことを ちとざるう。 19 てるんて いひ

けるん、あるごとぶや。 これよ いひ けるん、あぶれの あす の ことを あり、めれら
かそと すべての そこの まんよ ふぎと ことぶよ おのて おそひ あるよ ゆけんーや あり
ーが 20 おゆみ かんゆーと されとの つろうさとも これを そざのよ ひてーて そり
らけよ せり。 21 されと この ひとん いすらえるを あがふ ものの あとんと のぞめり。
そろのを あらず けくん これとの ことの ありー よりそろめ あり。 22 そろるよ
されとの うちの ある そんなも されとをあやーまをそるり。 23 かれよ よあけ そこのよ
ゆきて その そろぞねを そざり ければ かんくりて、かれん いきづくれりと いひー
てんの つろひそろの あとそれるを そるー
ある ゆのとも そろよ ゆきて そるーて そんなどものの いひー ごととくよ あひーうど
かれを そざりー。
25 こくよ おのて その ひと めれとよ いひ けるん、あー おろうるーて よけんーや
そろの いひー ことを そる そんなるよ こくろ おそき ものよ、 26 きり すとん めくの

ごとく くるーそを うけて その さらえよ いくさる べきよ あと全や。 27 ゆうせ より
そとめ すべての よげんーやよ いくさる まで そうぢょ おのれの ことを すべての
せのーるよ おりて かれとよ ときあらせり。 28 かれと ゆく ところの むとよ ちう
より けるよ かれ ゆき すぎんと する けーるを あせん、 29 のれと そのていひけるん、
ひれと ときよ やとる べー、 ゆちや ゆうらるるーて ひゅ くれんと全。 つうよ
かれと ときよ やとるんとて いれり。 30 とゆよ せんよ つく ときよ かれ ちんを
とりて ちやー、これを とりて かれとよ あるんけれん 31 かれとの め あきとうよ
でー おうび ときある ゆのとゆの あつまりて、 34 きそら おうよ よそがくり めう
ちゆんよ あとそれうりと いくるよ あんり。 35 かれとも とちうるて ありー こと

まる もんを とる ときあ全を をりー ことを のべるり。
36 かれと このことを めるるときよ あ全そのうちよ あとそれ そちて、 あんぢと
やをうれと いくり。 37 されと かれと おとるる ところの ゆのれ
ゆうれの あとんと おゆんり。 38 あ全 いひ けるん、 あんぞ うろるゆるや。 あんぞ
ころろよ うるぐひを おことをや。 39 ひげてと あーを そよ、 これ あるをれ、 あぐ～
そよ。 あんぢと これよ まることわれ あるを そる ぐとく ゆうれらるに ある あり。
40 かく かるりて そのてあーをそを けるよ 41 かれと よろこびの さめよ そんぎる
ことを えぎ、 かつ あやーめる ときあ全 のれと いひ けるん、 あんぢと ころよ
ーふくもの あるや。 42 のれと あぶりるる さうをの ひとされ〔とそうあるそちの 今〕
1, 2, 3, 5, 7, nosezu
そ あるん けれぐ 43 とりて そのまんよ ーふまびくり。 44 まる のれと よ のるまひ
詩 21
けるら、これを さーて ゆうものおきてと よげんーやの あを、まる あの わんよ
ーるされる ことの そる とぐ べきい これ あんぢと とゆよ をりー とる これ

めくりるところあり。45こゝよおりてせのーをさとりぜんとてそのさとりをひとゝき、46まくのうまひけるん、きりまとんくるべし、47まくそのあよよりてつそのゆるーのさめよくひあとうもらることをあらされむよりもとめでんことくるよりけんぢよ。48あんぢよんこれとのことのちようこのちうちものをあんぢよおくとん。あんぢようん よりけんをさづけとるく

3, 8, 9, Yerusalemuno miyàkoni

まぐん そやこよとぐまれ。

Betania

50つひよあ今めれとをべうやまそつれゆうてをあげてこれよめぐうそをさづけうまよ。51めくさづくるとのめれとこれをそのーおうひよよろこびてあるされむよめくり、53つねよそやよおりてめそを〔わめ〕あがめうり。

1, 2, 4, 7, nogezu 2, "Amen" wo kuwayèri

8, 4, 5, kui aratàmeto tsúminno yurùçiwo

1, 2, hanàretari.

よそねでん ふくりん

さの

ものこれよよりてあらーおうひよよろこびてあるされむよめくり、53つねよそやよおりてめそを〔わめ〕あがめうり。



ドめよことをあり、ことをんすあもちかをあり。2これそどめよかをとともよありーものあり。3あとゆるものこれよよりてあれり。ありーものんひとうとーてこれよよりーものあー。4これよいのちあり、いのちまんけんのひうりあり。5このひうりくうきよてりてくうきんこれをうけざりき。

6かをよりつうそされるるひとあり。7めれんあうーのさめよあもちおのれよりてすべてのものをもんぜーめんとてひうりよつのてあうーをさそんさめよきされり。8そのひとんひうりよあとぢ、さぢひうりよつうてあうーをさそんさめよきさうりーものんまことのひうりあり。9よよくぢりてぜんそんをてとすよめれをもとぢ。10めれんよあり、よおのれよよりてありーうとおのれのくるく〜さうりーよそのさこれをうけざりき。12さりあグトこれをうけーさけのあもちそのあをもんぢるものるんかそのことおとあるのちうとをさあもとぢ。13これちすぢよよとぢ、まく

ように。[12]また、わたしが来るまで、彼は天の国を暴力で攻められるままにしておいた。今までのところ、暴力を用いる者たちが、それを奪い取ろうとしている。[13]すべての預言者と律法とは、ヨハネの時まで預言をしていたのである。[14]あなたがたが進んで受け入れるなら、ヨハネこそ、来るはずになっていたエリヤである。[15]聞く耳のある者は聞くがよい。

[16]この時代を、何にたとえたらよいか。それは、広場にすわって、他の子供たちに呼びかけている子供たちのようなものである。[17]すなわち、『笛を吹いてあげたのに、踊ってくれなかった。悲しみの歌をうたったのに、胸を打ってくれなかった』と言っているのである。[18]ヨハネが来て、食べもせず飲みもしないでいると、『あれは悪霊につかれている』と言い、[19]人の子が来て、食べたり飲んだりしていると、『見ろ、あれは大食漢で大酒飲みだ、取税人や罪人の仲間だ』と言う。しかし、知恵の正しいことは、その行いが証明する。」

[20]そこで、イエスは、数多くの力あるわざが行われたにもかかわらず、悔い改めようとしなかった町々を、叱りはじめられた。[21]「コラジンよ、あなたはわざわいだ。ベツサイダよ、あなたはわざわいだ。あなたがたのうちで行われた力あるわざが、もしツロとシドンで行われたならば、彼らはとうの昔に、荒布をまとい灰をかぶって、悔い改めたであろう。[22]しかし、わたしはあなたがたに言う。さばきの日には、ツロとシドンの地のほうが、あなたがたよりも耐えやすいであろう。[23]また、カペナウムよ、あなたは天にまで上げられようとでもいうのか。あなたはよみにまで下るであろう。あなたのうちで行われた力あるわざが、もしソドムで行われたならば、彼らは今日まで残っていたであろう。[24]しかし、わたしはあなたがたに言う。さばきの日には、ソドムの地のほうが、あなたがたよりも耐えやすいであろう。」

[25]そのとき、イエスは言われた、「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼な子たちにあらわしてくださいました。[26]父よ、これはあなたのみこころにかなうことでした。[27]すべてのことは、父がわたしに任せてくださいました。父のほかには、子を知る者はありません。また、子と、子がだれかに父を示そうと思う者のほかには、父を知る者はありません。[28]すべて労する者、重荷を負う者は、わたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。[29]わたしは心優しく謙遜だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが来ます。[30]わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

ᎠᏂᏴᏫ ᎤᏂᏣᏘ ᏂᎦᏛᏁᎸᎯᏳᎲᏍᎪᎢ ᎾᏍᎩᏯ ᏂᎦᏛᏁᎸᎯᏳᎲᏍᎪᎢ ᎾᏍᎩᏯ ᎤᏂᏣᏘ ᎠᏂᏴᏫ ᎤᏂᏣᏘ

あるいは、いや、私たちは
もう一人を待つべきですか。」
4 イエスは彼らに答えて言われた。
「行って、あなたがたが聞いていることや、
見ていることを、ヨハネに報告しなさい。
5 目の見えない者が見、
足のなわばしい者が歩き、
重い皮膚病を患っている者がきよくされ、
耳の聞こえない者が聞き、
死人が生き返り、
貧しい者に福音が宣べ伝えられています。
6 わたしにつまずかない者は幸いです。」
7 彼らが帰って行くと、イエスはヨハネについて
群衆に話し始められた。
「あなたがたは何を見に荒野へ出て行ったのですか。
風に揺れる葦のことですか。
8 いったい何を見に出て行ったのですか。
柔らかい着物を着た人のことですか。
見なさい。
柔らかい着物を着ている人は王様の宮殿にいます。
9 いったい何を見に出て行ったのですか。
預言者のことですか。
そうです。
あなたがたに言いますが、
預言者よりもすぐれた者です。
10 この人こそ、
『見よ、わたしはわたしの使いを
あなたの前に遣わす。
彼があなたの前に
あなたの道を備えるであろう』
と書かれている人です。
11 まことに、
女から生まれた者の中で
バプテスマのヨハネより偉大な者は
Galilaino Kanani
出ませんでした。
しかし、
天の御国で小さい者でも
彼よりは偉大です。
12 バプテスマのヨハネの時から今に至るまで、
天の御国は激しく攻められており、
激しい者たちがそれを奪い取っています。
13 すべての預言者と律法とは、
ヨハネの時まで預言したのです。
14 そして、
もしあなたがたがそれを受け入れる気があるなら、
この人こそ来たるべきエリヤです。
15 聞く耳のある者は聞きなさい。
16 この時代を何にたとえたらよいでしょうか。
それは、
広場に座って
仲間に呼びかけながら
Grikiano htotaruwa oyoso nito nari
17 『私たちが笛を吹いても
あなたがたは踊らなかった。
私たちが悲しみの歌を歌っても
あなたがたは胸を打たなかった。』
と言っている子どもたちのようです。
18 バプテスマのヨハネが来て、
食べることも飲むこともしないでいると、
『あれは悪霊に取りつかれている。』
と言い、
19 人の子が来て、
食べたり飲んだりしていると、
『見ろ、
大食いの酒飲みだ。
取税人や罪人の仲間だ。』
と言います。
しかし、
知恵の正しいことは、
その行いによって証明されます。」
20 それからイエスは、
多くの力あるわざが行われたにもかかわらず、
悔い改めようとしなかった町々を
Kafarnaumuni
責め始められた。
21 「わざわいだ、
コラジン。
わざわいだ、
ベツサイダ。
あなたがたのところで行われた力あるわざが
ツロとシドンで行われていたなら、
彼らはとうの昔に、
荒布をまとい灰をかぶって
悔い改めていたことだろう。
22 しかし、
あなたがたに言うが、
さばきの日には、
ツロとシドンのほうが
あなたがたよりも耐えやすいのだ。
23 そしてカペナウム、
あなたは天にまで上げられようとでも思っているのか。
あなたは陰府にまで下るのだ。
あなたのところで行われた力あるわざが
ソドムで行われていたなら、
ソドムは今日まで残っていたことだろう。
24 しかし、
あなたがたに言うが、
さばきの日には、
ソドムの地のほうが
あなたがたよりも耐えやすいのだ。」

あきまひの いんと する あられ。 17 さて でーさち、あまさの いんの さめよ
ねうーん これを おふくせんと (L. 2, 3, 6. pokusento) おもひ いざせり。
18 ゆざやひと あすよ めさりて いひ けるん、あんぢ これよの ことを おこまひ
られば あらの ふーぎ ある ちるーを これよは ちめすや。 19 あす こさんて いひ
けるん、あんぢよ この そやを こがて、これ そうろの うちよ これを さてん。
20 こさよ おりて ゆざやひと いひ けるん、この みやを さうるるん ちよう ろく
ねん めさりーよ あんぢ そうろの うちよ これを さうるや。 21 されど あすの めく
いひーん その めとごの みやを さちる ものを さちる あり。 22 ちより よそぐんへり さまひーと
でーさち その めりて めく めさりーこと おもひ いざーて せいきやうと あすの
いひー ことぞとを ちんせり。
23 あす すぎこーの まうりびよ ちるさーを そうろの ふーぎの ちるーを そ
そうろとを めれよ まうんせず、そん すべての ひとを ちり さまんべあり。 25 まさ
そうろとよ ひとの こさろの うちを ちりて さまふ ゆあよ ひとの ことを あうーて する
ものの あるよ おふぞ。

ゆざやひとの つうさうて よこでもと (Nikodemoto) いんくる (Farisai) たりさい ちうの ひと あり、 2 めれ
よる ちすよ さうりて いひ けるん、これよ あんぢん かを よりきうりー
せんせい あるを ちる。そん、かを ひと~ ともあるよ あとされば あんぢげ あす
ところの この ふーぎある ちるーん ひと これを あー えぎれば あり。 3 ちす
こうんて いひ けるん、これ まことよ あんぢよつけん、ひと あー あと
うよ むまれ ずんば かその みくるを そうること あうそぞ。 4 よこでも いひ けるん、
ひと すぐよ おのれば いりて むまる べけんや。 5 ちす こうん けるん、これ まことよ
まことよ あんぢよつけん、ひとん そうろと みくるよ よりて むまれ ずんば かその
みくるー いること あうそぞ。 6 まくよ よりて むまる ものん まく あり、みく
ちよ よりて むまる ものん さま あり。 7 これ あんぢとげ あとくうよ むまる べき
ことを あんぢよ いひーを おやーむ あうれ。 8 めせん きまうよ ふく、あんぢ その
おとを きけども いづくより きたり まさる いづくへ ゆくを そとぞ。すべて みくまよ
よりて むまる ものん めくの ごとー。 9 よこでも こうんて いひ けるん、いうぞ

いつまでも生きるからです。[19]私たちは神から生まれた者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。[18]子どもたち、愛は口先だけや舌先だけのものではなく、行いと真実をもって示すべきです。[19]これによって私たちは、自分が真理に属する者であることを知り、神の御前で心を安らかにすることができます。[20]たとえ心が責めたてても、神は私たちの心よりも大きく、すべてをご存じだからです。[21]愛する者たち、心が責めたてないなら、神の御前で大胆に立つことができます。[22]また、神の命令を守り、神の御心にかなうことを行っているので、神に願い求めるものは何でも神から受けます。[23]神の命令とは、御子イエス・キストの名を信じ、神が私たちに命じられたように、互いに愛し合うことです。[24]神の命令を守る者は神にとどまり、神もその人にとどまってくださいます。神が私たちにとどまってくださることは、神が私たちに与えてくださった御霊によって分かります。

Yohanemo Salimuni　　Ainonni

[28]愛する者たち、どんな霊でも信じてはいけません。霊が神から出たものかどうか、見分けなさい。多くの偽預言者が世に出ているからです。[2]神の霊が分かるのはこれによってです。イエス・キストが人となって来られたと告白する霊はすべて神から出たものであり、[3]イエスを認めない霊はすべて神から出たものではありません。それは反キストの霊です。あなたがたは、それが来ると聞いていましたが、今すでに世に来ています。[4]子どもたち、あなたがたは神から出た者であり、偽預言者たちに打ち勝ちました。あなたがたのうちにおられる方は、世にいる者よりも大きいからです。[5]彼らは世に属しています。だから、世のことを語り、世も彼らの言うことに耳を傾けます。[6]私たちは神に属しています。神を知っている者は私たちの言うことに耳を傾けますが、神に属していない者は私たちに耳を傾けません。これによって、真理の霊と偽りの霊とを見分けるのです。

[7]愛する者たち、私たちは互いに愛し合いましょう。愛は神から出たものだからです。愛する者は皆、神から生まれ、神を知っています。[8]愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。[9]神はその独り子を世に遣わし、私たちに命を得させてくださいました。ここに神の愛が私たちに示されました。[10]私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪を償ういけにえとして、御子を遣わされました。ここに愛があります。[11]愛する者たち、神がこれほどまで私たちを愛されたのですから、私たちも互いに愛し合うべきです。[12]いまだかつて神を見た者はいません。私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにとどまってくださり、神の愛が私たちのうちで全うされています。[13]神が私たちに御霊を与えてくださったことによって、私たちが神にとどまり、神も私たちにとどまってくださることが分かります。[14]また、私たちは、父が御子を世の救い主として遣わされたことを見て、また証しをしています。[15]イエスを神の子と告白する者には、神がとどまってくださり、その人も神にとどまります。[16]私たちは、神が私たちに対して抱いておられる愛を知り、また信じています。神は愛であり、愛にとどまる者は神にとどまり、神もその人にとどまってくださいます。[17]このことによって、愛が私たちの間で全うされています。それは、私たちが裁きの日に確信をもつことができるためです。この世でキストと同じように生きているからです。[18]愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。恐れには罰が伴うからです。恐れる者は愛において全うされていません。[19]私たちが愛するのは、神がまず私たちを愛してくださったからです。[20]「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者が、目に見えない神を愛することはできません。[21]神を愛する者は、兄弟をも愛するようにと、神から掟を受けています。

[1, 2, 7, ii, nosezu]

[5]イエスこそ神の子であると信じる者は、誰でも神から生まれたのです。生んでくださった方を愛する者は、その方から生まれた者をも愛します。[2]神を愛し、その掟を守るとき、それによって、神の子らを愛していることが分かります。[3]神の掟を守ることこそ、神を愛することだからです。神の掟は重荷とはなりません。[4]神から生まれた者はすべて、世に打ち勝つからです。世に打ち勝つ勝利とは、私たちの信仰にほかなりません。[5]世に打ち勝つ者とは、イエスが神の子であると信じる者ではありませんか。[6]この方は、水と血を通って来られた方、イエス・キストです。水だけではなく、水と血とによって来られました。[7]証しをするのは御霊であり、御霊は真理だからです。[8]証しをするものは三つあります。御霊と水と血とであり、この三つは一致しています。[9]人の証しを受け入れるのであれば、神の証しはそれにまさります。神の証しとは、神が御子について証しされたことです。[10]神の子を信じる者は、自分の内にこの証しがあります。神を信じない者は、神を偽り者にしています。神が御子について証しされたことを信じていないからです。[11]その証しとは、神が私たちに永遠の命を与えられたこと、そして、この命が御子のうちにあるということです。[12]御子を持つ者は命を持っており、神の子を持たない者は命を持っていません。[13]神の子の名を信じているあなたがたに、これを書いたのは、あなたがたが永遠の命を持っていることを知るようにするためです。[14]神に対して抱いている確信はこれです。神の御心に適うことを何でも願い求めるなら、神は聞いてくださいます。[15]願い求めることは何でも聞いてくださると分かれば、神に願い求めたことはすでにかなえられていることも分かります。[16]兄弟が死に至らない罪を犯すのを見たら、その兄弟のために祈りなさい。そうすれば、神は命を与えてくださいます。死に至らない罪を犯す者のためにです。死に至る罪があります。それについては、祈れとは言いません。[17]不義はすべて罪です。死に至らない罪があります。[18]神から生まれた者は皆、罪を犯さないことを知っています。神から生まれた者は自分を守っており、悪い者はその者に触れることができません。[19]私たちは神から生まれた者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。[20]また、神の子が来て、真の方を知るようにしてくださったことも知っています。私たちは真の方のうちにいます。その御子イエス・キストのうちにいます。この方こそ真の神、永遠の命です。[21]子どもたち、偶像を避けなさい。

ことの ちようこを さらる ものに あんぢよ あり。29 もをむこに もをふめを ゆてる
ものの あり、そをむこの ともに さちて これを きく ものの あり。めれに もをむこの
こをを きこて おわひよ よろこぶ。ひげ このよろこびに すぐよ そてり。30 めれに
めるよぶ さろんよ あり、ひれに めるよぶ おとろくん。31 うんへ よりくざる ものに
すべての ものへうん へ あり。ちより あるる ものに ちよ ぞくへて ちの ことを いふ。
てん よりくざる ものに すべての ものへうん へ あり。32 めれに そー ところ きくへ
ところの ことを ちようこと するよ そ
ちようこを うくる ものに かそに まくこと ありと その いんを おせり。34 かその
つろもせー ところの ものに かその こと むを いふ。そに、かこ みくまを めぎり
あく これよ くまそれば あり。35 ちへに むすこを あらへて すべての ものを その
てよひくもり。36 むすこを ちんぎる ものに めぎり あき いのちを えくり。むすこを
ちんせぎる ものに いのちを そる ことを えぢ、そぢ かその いうり その うんよ
ともまる あり。

ぢの 四 ちやう

1, 5, 6, Yesuwa; 2, 3, 4, 7, Kimiwa

あきに おのれげ でーを とりて そびめを あせる ことよ Yohane よりも おわーと

Farisaibitono

せりさらびとの ぎへくるを ちる。2 さろんに あらず そびろよ ちびめを あせ
るよ あよぢ、そのでーるち これを あげ Gailleini てる あへ がりらいよ ゆく。4 そろるよ さ
やこぶげ Yakobuga その むすこよせふよ Yosefuni あるくへー ちよ ちろよ Sukaruto すうるとろの
さまりやの まちよ いくれり。6 めーこを Samariano Sumariwo さまりやの そんを そびを くまをとて
うてひとの めるそとよ ぢる。3 その とき あす ゆざやと さり Gemponwo, dai roku doki
てる あへ がりらいよ ゆく。4 そろるよ さまりやと とろよぢるを えぢ。5 つろよ
やこぶげ その むすこよせふよ あるくへー ちよ ちろよ

[31]ていう ことは ドーラの 考えを 変えた, ちが, ちがう ――ということ
[30]ない ことを 言った。[29]本当に ひどい 男だ, と, 彼は 思った。[28]しかし
[27]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[26]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[25]本当に ひどい, と, 彼は
[24]思った。[23]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[22]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[21]本当に ひどい, と, 彼は
[20]思った。[19]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[18]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[17]本当に ひどい, と, 彼は
[16]思った。[15]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[14]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[13]本当に ひどい, と, 彼は
[12]思った。[11]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[10]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[9]本当に ひどい, と, 彼は
[8]思った。[7]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[6]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[5]本当に ひどい, と, 彼は
[4]思った。[3]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[2]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[1]本当に ひどい, と, 彼は

[31]思った。[30]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[29]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[28]本当に ひどい, と, 彼は
[27]思った。[26]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[25]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[24]本当に ひどい, と, 彼は
[23]思った。[22]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[21]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[20]本当に ひどい, と, 彼は
[19]思った。[18]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[17]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[16]本当に ひどい, と, 彼は
[15]思った。[14]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[13]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[12]本当に ひどい, と, 彼は
[11]思った。[10]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[9]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[8]本当に ひどい, と, 彼は
[7]思った。[6]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[5]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。[4]本当に ひどい, と, 彼は
[3]思った。[2]また 一方 ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みる ――の, それで
[1]彼は ドーラの 立場に 自分を 置いて 考えて みた。本当に ひどい, と, 彼は

ゆきゃ ゆきゃ。[41] ゆきゃ ゆきゃ ゆきゃ

むすこん いく。その ひと あすの おのれよ めさりー ことぞと ちんよて されり。
51ゆく とちうるて その ちゆぐとも めれよ あみて つけ いひ けるれ、あるその
むすこい いけり。52さるん めれとよ そのいえ そめー ときを さぐねーうべきのふ
Girikiano gemponni, nanatsu doki
ちち おとよ ねら さめさりと いくり。53ちうん あすの めれよ、あんぢの むすこ
いくと いひー ときい その ときよ おるときを ちりて めれ およひ そのいくぢうの
もの そる ちんせり。54この さらるの ふしーぎ ある ひぐらい あすの ゆざや より
がりらいよ いさりー ときよ おこるひー ありり。

さら 五 ちやう

このの のち ゆざやびとの まつり あり けるげ あすあるさをむよの ぶれり。2ある
Hebru Betesdato
さをむよ おりて ひらとゆんの わとりよ へぶる ことをうて べてすざと とるゆる
いけ あり。3その まちりよいつくのひさーや ありて うゆよ ひるうるん、めくと、
5,7,8,9, midzuno ugokuwo materi; 1,2,3,4,7, nosezu. 3,7,8, sowa, aru toki 4その うちよ ふー ねひり。5さて さらん
koreni iru monowa nanino yamainitemo iyasaretarebu nari; 1,2,4,5,ii, nosezu
ちんん、おとろくさる ゆの〜 おるせい 6あすその ひとの ふー をうを
とう そちねん やめる ゆの めーそよ ありしーげ ときよ これよ いひ けるん、あんぢらいえん ことを
ち、その やまひの ひさーきを ちりて これよ いひ けるん、きそよ、そらの うごく とる それを
わらするる。7やめる ゆの そるん けるん、

いけよいるる〜 ゆの あー。これ ゆくうちよ わるる。
8あすめれよ、おきよ、あんぢの ねどことを とりて あゆめとい ひければ。9その ひと
さぐちよ いえ、ねどことを とりて あゆめり。 その ひら やすそび あり。10ゆあよ
ゆざやびと いやされるる ゆのよ いひ けるん、けれら やすそび あり。あんぢら
ねどことを そこふい よろーうよぞ。11そるん はて
あんぢの ねどことを とりて おゆめとい くへり。 12そるよ おりて めれよ これよ とひ
けるい、あんぢの ねどことを とりて あゆめとい ひとら されぞや。13いやされー
ゆのら その それ あるを ちじぎりき。そら ゆあよ あすでよ さけされば あり。
14のち あすよやて その ひとよ あひー これよ いひ さまくり、そよ、
あんぢらい いやされるり。まさつそを おうすよ あるん おゆき さの
あんよ あもん。15その ひと ゆきて ゆざやびとよ いやせー ゆのら あすありとつぐ。16さて ゆざやびと あすの やすそびよこのことを おこるひー ゆあよ
めれを せめて ころちんと せり。17あすめれよ ころんて、ひげ ちー いまよいさる まぞ そるとるさまよ、これゆ そるとるとい くり。18こるよ おりて ゆざやびと

いふのよ　をすを　こゝろさんと　もうれり。
のそ　あふぎ、かそを　おのれの　ちゝと
あり。

19そのとき　をす　めれよ　こゝさんそいひ　けるん、まことよ　これ　あんぢよう　つけん、むすこい　ちゝの　おこをふ　ところの　わうるい　そぐうと　あるごとそも　おこをふ　こと　あさそぎ。ちゝて　おこをふ。20ちゝい　むすこを　あのーて　そぐうと　ところの　すべての　ことそ　これよ　もめす、めう　あんぢよげ　あやーむ　わどよ　この　ことよりも　おそひ　ある　ひぎそ　これよ　もめさん。21そい、ちゝの　おこをふ　ところの　ものを　いう　す　あり。22ちゝい　これそも　ごとく　むすこも　その　わうする　ところの　ものを　いう　す　あり。23これ　すべての　ひとをーて　さぎらぎ、すべての　さをきを　なをこと　うやまふげ　ごとく　むをこを　うやまそせん　さめ　あり。むをこを　うやまそ　ちゝを　うやまふげ　ごとく　むをこを　うやまそぎる　ものい　これをつうそをー　ちゝを　うやまそぎる　あり。24これ　まことよ　まことよ　あんぢよよつけん、ひげ　ことをを　きゝて　これをつうそをー　ものを　ちんぎる　ものい　めぎり　あきいのちを　うけてつそよ　さぎめとれぎ、さぐ　ちより　いのちよ

うつれり。25おことよ　まことよ　あんぢよつけん、そをー　ものの　かその　むすこの　こゝを　きく　ときげ　きゝる、いま　その　ときよ　あれり。その　こゝを　きく　ものら　いきん。26ちゝい　そぐうといのちを　さをきるごとく　むをこるものそぐうといのちを　さをこさせり。27めう　めれい　まんけんの　むをこ　あるよ　よつて　これよ　さをきを　おこをふ　べき　けんをを　さまんへり。28あんぢよ　これを　あやーむ　あうれ。そうよ　そる　ものの　そをふ　その　こゝを　きゝていうる　ときげ　きうとんと　今。29よつて　ことを　おこをひーものい　いのちを　うるよ　よそぐへり、あーき　ことを　おこをひーものい　いのちを　うるよ　よそぐへり、あーき　ことを　つを　せとうるよ　よそぐへる　べー。30それい　そぐうと　あるをも　おこをふ　ことを　あさそぎ。それい　きく　ところよ　をさをきん　そぐうと　あれば　それい　おのれの　むねを　むねを　もとめれば　あり。31それ　ゆーおのれの　ことよつけて　そぐうと　をようこを　さそをふべ　それげ　をうようこい　おこをふ　ことよ　つけて　をようこを　さうる　ものの　わうよ　あり、それ　その　それげ　ことよつけて　あうーする　ところの　をようこい　おこと　ありと　をる。33あんぢよ　ひとを　よはねよ　つうそをーよ　めれ　おことの　さめよ　をようこを　さそり。34それ　ひとの　をようこを　うけぎ、されど　この　ことを

aruiwa, nanjira seikyouwo çirabu

aruiwn, htorino Kami

Cimon Peterono

Filiponi

Galilaino

Tiberiano

Andere
あんでき ゐ今よ いひ けるん、 9 こゝよ さてよんべ あり、おゐむぎの むえん いりくと
ちひさき さうる ふさうを ゆう、されど めくおゐくの ひとびとよ いうよ せんや。
10 ゐ今 いひ けるん、ひとびとを すそとよせよ。その ところい くさ おゐく ありーグ
おようそ でせん まん わど すそれり。 11 ゐ今 むんを とり ちやーてこれを すそれる
ものとゆよ さけ あさふ、まさ さうるゆ ひとびとの このむざけ これを さけ あさ
くり。 12 こを おきさる のち ゐ今 でーくちよ いひ けるん、すてーゆ すくとぐさる
やう そのの こりさる くらを ひろひ あらめよ。 13 つりよ そのいりくの おゐむぎの
ちんの くらす るそち ゐるくせー ひとびとの くひの こをー ゆのを ひろひ あらめて
おうるの ざるを そさせり。 14 ひとびと ゐ今 いまさ おこるひー そのふーぎの ちるーを
そて、これ まことよ よよ きさるべきの よけんーや ありといくり。 15 ゐ今 めれとグ
ちひて おのれを さうと あさんと するを ちりて これを さけ ひとりみて まさ
やまよ ゆけり。
16 ひの くるく ころ でーくち そまべよ くさりて 17 ふねよ のりかたるあうひよ
むらひて うちを さくとんと せり。すてよ くとくあり、 18 まさ ゐ今 いまさ めれ
とよ いくとぐりーゲ おゐうせ ふきて うを あれぐちくり。 19 まとうぐ ちやう

Romano 30 teowa Nipponno itoi ri han bakari

あるひん さんとうちやう そうりも こぎ いぐせー とき でーくち ゐ今の うちを
あゆを ふねよ ちうぐくを そて おそれさり。 20 ゐ今 めれとよ いひ けるん、これ
あり、おそるく あられ。 21 こゝよ おりて めれとよ よろこびて ゐ今を ふねよ うけ
けれど ふね さぐちよ そのの ゆうんと するる ところの ちよ つけり。
22 そぐうその むうふのきーよ をりー おゐせりの ゆのとも 〔でーくちの のりー〕
いうそうの ふねの ゐうふん ふね あく、まさ ゐ今ん でーくちと ともよ ふねよ
のとぶ、でー のを ゆきー ことを ある。 23 されど てべりや より ちひさき ふね
すそうさるり、さその ゐやーてひとびとよ もんを くとそせー ところの ちうくよ
つけり。 24 さて あるる ひ おゐせりの ものとも ゐ今の こくよ おとや でーゆ まる
あとぎるをそて めれとゆその ふねよのりを さぐぬるさめよ かたるあうひよ
いるれり。 25 めれと うそを ひさりて ゐをよ あひめれよ いひ けるん、らひ、いう
こくよ さくり さまひーや。 26 ゐ今 こるくて いひ けるん、これ まことよ まことよ
あんぢとよ つけん、あんぢとの これを さぐを そー ゆゐよ
あとぎ、はんを くとふて あく ことを えー ゆゐ あり。 27 あんぢと くちる めその
さめよ そるとう ぎーて のぎり あき いのちよ いさる まそ さやう ところの めて

ゝ　ゝ　ゝ　

わが身をば 思ひ捨てつる 物ゆゑに 物思ふ時の 物は忘れず[1]
[2]
[3]
[4]
[5]
[6]
[7]
[8]
[9]
[10]
[11]
[12]
[13]
[14]
[15]
[16]
[17]
[18]
[19]
[20]
[21]
[22]
[23]
[24]
[25]
[26]
[27]
[28]
[29]
[30]
[31]
[32]
[33]
[34]
[35]
[36]
[37]
[38]
[39]
[40]
[41]
[42]
[43]
[44]
[45]
[46]
[47]
[48]
[49]
[50]
[51]
[52]
[53]
[54]
[55]
[56]
[57]
[58]
[59]

7', 8, 9, nanjirano senzotatciga manawo kurai

ゆうんや。あるさい めぎり あるいのちの ことぞを ゆち さまーよ。[69] あるさらい かそのきこゑき ものの あるを どれト ぞんトて そーうよ ちる。[70] 為今 のさまひ けるん、どれあんぢト おうゑうんの ゆのを えとびーよ あトぞや・ちうるよ あんぢトの うちのひとりん あくま あり。[71] その ことぞん いすかりよての ぢもんの むすこ ゆざとさーて いんくる あり。そい、めれい おうよ でーの ひとりまーて 為今を どうさんとすら ゆの あれば あり。

さい 七 ちやう

このの のち 為すい ゆざやびとが めれをころさんと そうる ゆ為よ ゆざやの うちをめぐる ことを わつせぞーて おりふいの うちを めぐり さまくり。[2] さて ゆざやびとの まくもりの まつりちうびき ければ、[3] その きやうざのうち 為すよ いひけるん、あんちの でーよ あんぢげ 為すところの どぎを そせーめん さめよ こうを さりてゆざやよ ゆくべー。[4] そい、おのれを あトそさんと わつーて ひそうよ ことを 為すゆのあトぞ。あんぢ もーこれトの ことを あさばそびうトをよよ あトそをよ。[5] これ、その きやうざのゆ めれを ちんせさりー あり。[6] こうよ おりて 為すめれトよ いひ けるい、どげ ときいいなじ あんぢトの ときい つねよ

1, 2, 4, 5, 7, Kamino kiyoki Mono; 8, 9, ikeru Kamino Musko Kristo

そあむれり。[7] よい あんぢトをまくむ ことを あさそを、さら どれを まくむ、こい、どれそのおとるふ ところい あーうと あらーー すれば あり。[8] あんぢト このまつりよ のがれ、どげ ときい いまざ いうとざるよ ようて どれい〔いま〕[2, 7, 8, 10, i, ima; 1, 5, 9, ii, nosezu] このまつりよ のがトぞ。[9] 為今 これトの ことをいひて きやうざのとゆの まつりよ のがりー のがれり。

[11] まつりの ときよ ゆざやびと 為今を さらねてうひけるん、めのひとういうくよ あるや。[12] さて おわぜいの うちよ めれよつうて おそくつぶやく ことあり。あるゆのい、めれい よき ひと ありと いひ、ちうトぞ、めれい さそを まどそ今と いふ。[13] さりをげト、ゆざやびとと おそれて ひとりも めれの ことを あトそよ いふ ゆの あうりき。

[14] まつり すぞよ あうそよ おゑびー とき 為今 そやよ のがりて をーくくり。[15] ゆざやびとこれを あやーそて いひ けるん、このひとい まあぜざるよ あるよようて ふそを ちるう。[16] 為今 めれよよ ころくん けるん、どげ そーゆる ところいこれの そーくよ あトぞ、どれを つうそ

そのむねよ　ちくさもべ　このをーくん　かさより　いくる　あるうを　ちるべー。18おのれよりいくるものの　おのれの　ありまれをもとむ。おのれをつろそをーものー　わまれをもとむるものの　まこと　あり、そのうちよ　ふぎあー。19もうせ　あんぢとよ　おきてそをさらけーよ　あとぎや。ちうるよあんぢとの　うちよ　そのおきてそをまゆるものの　あー。あんぢとよ　ゆゑよ　これをころさんと　もうるや。20ひとびと　こさん　けらん、ものの　あり。これう　あんぢを　ころさんとも　うるや。21あす　こさんてめれくよ　いひけるん、これのうて　ひとうの　ひさを　あをーうめり。22もうせあんぢとよ　ゆうれのをさらけーん　そのもうせよりあるゆゑよ　あとぎ、せんぞより　あるゆゑあり。ちうーて　あんぢとい　やすそびよ　ひとよをめうれのをおこるー。23ひともうせの　おきてよ　そむうぬ　やうよ　やすそびよ　ひとをまうくるをあんぢとい　ひけ　やすそびよ　ひとをまうくるを　ちるうろ。24あんぢとよ　うそべよ　ようて　さざむる　あうれ、こうーよ　あんぢとよ　ゆうれのをさらけーん　そのもうせよりあるゆゑよ　あとぎ、せんぞより　あるゆゑあり。ちうーて　あんぢとい　やすそびよ　ひとをまうくるをあんぢとい　ひけ　やすそびよ　ひとをまうくるを　ちるうろ。25このとき　ちるされひのある　ひとりひけるん、あんぢとよ　ゆうれのをさらけーん　そのもうせよりあるゆゑよ　あとぎ、せんぞより　あるゆゑあり。ちうーて　あんぢとい　やすそびよ　ひとをまうくるをあんぢとい　ひけ　やすそびよ　ひとをまうくるを　ちるうろ。ところの　ゆのよ　あとぎや。26そよ、めれ　そこうとぎーて　いうよ　これをとうむる　ものの　あー。つうさとうん　かれのきりそと　あるを　ちるうろ。27ちうーをーゆる　そのひとのいづくよりきうるを　ちる、きりそとのきうるときれもーゆるときよぎくりいひけるん、あんぢとよ　ゆうれのをさらけーん　そのもうせよりあるゆゑよ　あとぎ、せんぞより　あるゆゑあり。ちうーて　あんぢとい　やすそびよ　ひとをまうくるをあんぢとい　ひけ　やすそびよ　ひとをまうくるを　ちるうろ。

とうむる　ものの　あー。つうさとうん　かれのきりそと　あるを　ちるうろ。27ちうーをーゆる　そのひとのいづくよりきうるを　ちる、きりそとのきうるときれもーゆるときよぎくりいひけるん、あんぢとよ　ゆうれのをさらけーん　そのもうせよりあるゆゑよ　あとぎ、せんぞより　あるゆゑあり。ちうーて　あんぢとい　やすそびよ　ひとをまうくるをあんぢとい　ひけ　やすそびよ　ひとをまうくるを　ちるうろ。28このゆゑよ　あすみやうそきうりーよ　あとぎ、これをつうそをーものあれんぢとよ　これをちる、いうとおうそ　ひとびとをとうくんとそうれとも　そのとき　いまうよ　ようて　てぐーする　ものの　あー。31たそのうちよ　おうくうのひとのれをあすよ　つのて　つぶやくをきくーけ　だのさいひとのれをとうくんとそ　ちるやくをつうそをり。33ここよおうて　ちをとうくのあひる　あんぢとよとゆよ　ありて　これをつうそをーものよめうとん。34あんぢとよ　これをさらゆる　あとん、さればとあそを、これをる　ところよ　あんぢとよ

きるる　こと　あらそぞるべー。35ゆざやびとと　あらそげひよいひ　けるん、このひとん
ひれとーケ　あそぎる　やうよ　いひくん　ゆうんや。きりきやの（Grikiano）うちよ　ちりくる　ものよ
ゆきて　きりきやびとよ　そーくんと　するろ。36めれケ　めくりて、あんぢと　ひれを
うらぬるあふん、されど　あそぎ、ひケ　そる
ぞる　べーと　いひーん　あるごとぞや。
37まつりの　そもりの　おそひある　ひよ　あすよ　うちて　よをうり　いひ　けるん、これう
ゆー　めそうび　ひれよ　きうりて　のむべー。38ひれを　そんなる　ものん　せのきやうよ
ちうされくる　ごとく　その　そと　より　いけるよ　そうめその　ごとくよ　あくれ　いぞん。
39このことぞん　めれを　そんなる　ものー　うけんと　する　みくまを　さーて　いひー
あり、そん　あすいまざ　あげめを　うけざるよ　よりて　きるる　みくまいまざくざと
ざれば　あり。40おそせうの　うちの　ある　ひと　これふの　ことぞを　きうて、これ
まことよ　のの　よけんーや　ありと　いひ。41あるひとん、これ　きりそと　ありと　いふ。
されど　ある　ひと　いひ　けるよ、きりそと　より　いけるう。42せのきやう
よ、きりそといふびでの　すそうて　ふびでの　をりー　さと　べてを（く）む　より　いくると
ちうされーよ　あとふや。43めくて　おそせうの　うちよ　めれよ　つうて　あうくひ

あり。44めれを　ととくんと　ちうせー　するものの　あうりる。
45ちうやくとも　ちうさうーさと　ちりさいひと　めれと　ちうやくよ　いひ　けるん、いまふ　このひとの　ごとく　いひー　ひと　あとふを。46ちうやくとも　こくん
けるん、いまふ　このひとの　ごとく　いひー　ひと　あとふを。47ちりさいひと　めれと
いひけるん、あんぢとも　まとそされーう。48つうさ　あるひん　ちりさいひとの　うち
よ　これを　ちんぎる　ものの　あるや。49おきて
うくべる　あり。50そのうちの　ひとりるて　ちうぶる　このくそん　てんをうを
みこでも　めれよ　いひ　けるん、51これとの　おきて　ううくんとる　ひとよ　きうりー
まる　そのあすところを　ちうさる　さうぶるう。52めれと
こるんてそ　いひ　けるん、あんぢも　かりふいの　そのつそを　さうぶるう。53めれと
より　よけんーや　いうる　ことあー。（1,2,5,4,7,8,10,ii, kono 53 setsu yori hasounno 12 setsu madewo nosezu.5, 7, 9, 1, noseri）
いくよ　めくり、あすれ　かんふんさんよ　ゆけり。

○よはね　さい　八ちやう

ああけよ　あすまる　みやよ　いりーよ　2くそ　そる　その　ゆとよ　きうり　ければ
さーて　めれとよ　そーく　うちまくり。3ちうやくとも　たりさいひと　ひとりの　めんらん

して とゝとそれくるを そんをのれよつれきくり、
せんぜのよ、この そんをん めんのんを おこをひ そる ときよ とゝへとれくり。
[5]もうせ おきてそよ おのて めくの ごとき ものんを いーまて うちこゝろ今 べーと とれ
とよ めのせり。[6]のれとゞ これを いひーん あすを
うつくふ べき ことを そらざくん くめよ のれを こゝろ そー あり。 ちうるよ
あすん そを めゞめ ゆびまて つちよ ゆき をれり。[7]のれと ちきりよ とひーらび
あす おきて のれとよ むうひ、 あんぢとの うちつを あき ものの いーを のれよ
あぐ べーと いひ、[8]まく そを めとめて つちよ のけり。[9]のれと これを きく
その あんーんよ せめとれて とーふりを そとふ ひとりびとり
いつを ゆけり。 そゞ あす ひとり のこり をるよ そんをん あうよ くそり。[10]あす
おきて そんをの あうよ ひと あきを そそ のれよ いひ けるん、 そんをよ、 あんぢを
うつくふんー ものん いづくよ そるや。 それ
[11]そんを いひ けるん、 きそよ、 それも さゞめ
あんぢを つそよ さゞめぎ。 ゆけ、 ふくらび
[12]あす まく ひとびとよ めくりて いひ けるん、 これも
よの ひふり あり。 これよ

そくゞふ ものん やその あうを あゆをす いのちの ひふりを うく べー。
[13]こゝよ おのて ばりさいびと のれよ いひ けるん、 あんぢん そづふうと おのれよ
つのて そようこを あす。 あんぢの そようこと まこと あとぎ。[14]あす こくん
けるん、 これ そづふうと おのれよ つのて そようこを あすとも ひげ そようこん
まこと あり。 そん これ いづくん ゆくを それば あり。
あんぢとん ひげ いづくん より きくり、 いづくん ゆくを そとぎ。[15]あんぢとん
まくくのよ そくゞふて ひとの つそを さゞめぎ。 これん これの つそを も さゞめぎ。
[16]されど これ ゆー さゞめん まこと あり。 そん これん
ひとり あるよ あとぎ、 これを つくそー ちくと とゆよ あれば あり。[17]あんぢ
とのの おきての うちふる、 まくんの そようこんを まこと ありと そくされくり。[18]これん
そづふうと おのれよ つのて そようこを あす ものの あり、 これを つくそー ちくも
これよ [19]これよ よつて ひとびとの いひ けるん、
あんぢの ちくん いづくよ あるや。 あす こくんへ けるん、 あんぢとん これを そとぎ、
まく ひげ ちくを も そとぎ。 あんぢとよ ゆー これを そりー あとん ひげ ちくを も
そりー あとん。[20]これとの ことを ん あす そ そーゆる ときの のねくとよて

いひ さまんくり。ちうるよ めれの よき ものの あるりき。

21あす まさ ひとびとよ いひ けるん、べー、されど おのれの つその うちよ いさること あるそや。22ここよ おのて ゆざやびと いひけるん、ひケ ゆく ところ うん あんぢよ いさること あるそや。23あす めれよ いひ けるん、あるろ。23あす めれよ いひ けるん、ちくより あり。あんぢよん このよより あり、ひれ あんぢよん おのれの つその うちよ ちあんと いんくり。そん あんぢよ ゆー ひれの めれ あるを ちんせ全ろん おのれの つその うちよ ちあす べけれん あり。25めれよ いひ けるん、あんぢん されぞや。あす いひ けるん、そよめ よりあんぢよ つけー でとく ひれん その ものの あり。26ひれ あんぢよ つのて めさる べき ことく つそを さそむ べき ことと おそく あり。ひれを つろそせー ものん まこと あり。ひれ めれ よりきくー ことん これを よよつぐ。27ひとびと あすケ ちくを さーて いひーを さとよさりき。28さて あす めれよ いひ けるん、あん

ちよ まんけんの むすこを あけー のちよ ひれの めれ あること〳〵 ひれ そらくよ あよ でとそも あさぞ、さく ちくの ひれよ そーくー ところよ をさらふて これよ のことをつけーを そるべー。29ひれを つろそせー ものの ひれと ともよ あり。めれ ひれつねよ そのよろこぶ ところの ことを ありき。

30あす これよの ことをを めさりーよ おのて めれ おのれを ちんせーゆざやびとよ いひ けるん、あんぢよ ゆー ひケ をーくよ ところまよんで まことよ ひケで ありー。31ことよ まことん あんぢよ おゆうを ええさせんと いひ けるん、ひれ よん あふそひの すえるーて いまふ ひとよつあげれる ちやべと ありー ことあー、ちうるよ ひれよ おゆうを ええさせんと あんぢの いひーん あよ ことぞや。34あす こくん けるん、ひれ まことよ まことよ あんぢよつけん、すべて つそを おろす ものん つその ちやべ あり。35そやべん いつまでも いくよ ところる ものよ あよぞ、むすこん いつまでも とどまる あり。36この ゆえよ むすこゆー あんぢよ おゆうの ものと あよん。37ひれ あん

ちよくに　おふさむひの　ふるを　ふる。ふろれとも　あんぢよ　ひれを　ころさんと
ふろる、これ　ひケ　ことば　あんぢよの　うちよ　いよざれば　あり。[38]ひれに　ひケ
ちよの　ゆとうて　そこ　ことを　いふ、あんぢよに　あんぢよの　ゆとうて　そこ
ことを　おこなふ。[39]のれよ　こころて　いひ　けるに、ひれよの　ちよに　おふさむひ
あり。あす　いひ　けるに、あんぢよ　ゆーおこなふ　ところを　あす　べき　あり。[40]さ
まことを　つくる　ものの　ある　ひれを　ころさんと　ふろる。これ　おふさむひの　おこなふ
ところよ　あよぐ。あんぢよに　あんぢよの　ちよの　おこなふ　ところを　ゆせる　あり。
[41]のれよ　いひ　けるに、ひれよに　のんのんよ　よりて　むまれー　ものよ　あよぐ・ひれ
よるに　ひとりの　ちよ　すゆもち　かこ　あり。[42]あす　いひ　けるに、かこ　ゆー　あんぢ
よの　ちよ　あよべ　あんぢよに　のゆよぐ　ひれを　ありせん。ひれに　かこ　より　いでて
きられば　あり。ひれに　そむうよ　きくる　あよぐも、かこ　ひれを　つうもせー　あり。
[43]あんぢよ　ひケ　ことを　さとよぐるに　あんぢよ　あるそや。これ、ひケ　ことを　きく　こと
あるそぐるよ　よりて　あり。[44]あんぢよに　あんぢよの　ちよ　ざんき　より　あり・あんぢ
よの　ちよの　よくを　おこなふ　ことを　このむを・のれに　そよめ　より　ひとごろよーるーて

1, 4, 5, 7, 8, 9, 10, nanjirano; 2, 4, 7, nosaru

1, 5, 7, 8, 9, wosa; 2, 4, 7, 10, nosaru

まことの　うちよ　さざれ、まことの　のれの　うちよ　あよざれば　あり。のれに　そむ
いふ　ときに　おのれの　こころ　より　いふ・そに、のれに　いりそりを
いりそる　ものー　ちよ　あれば　あり。[45]ひれに　まことを　いふよ　よりて　あんぢよ
ひれを　ころんせざる。[46]あんぢよの　うちよ　ふくさを　えんや。ひれ
ゆー　まことを　いそば　あんぢよ　あんぞ　ひれを　ころんせざるろ。[47]かこ　より　ある
ものの　かこの　ことぞを　きく、あんぢよに　かこ　よりよ　あよざる　ゆえよ　これを
きろぐ。[48]ゆざやびと　こころて　いひ　けるに、あんぢよに　さまりやびとよーて　あく
まよ　つうれさりと　ひれよケ　いくるに　うんぐ　あよぐ。ひれ　あくまよ　つうれさるよ
あよぐ・ひケ　ちよを　さふとむよ　あんぢよ　ひれを　ゆろんぢる　あり。[50]ひれに　おのれの　ゆまれを
さざむる　ものの　あり。[51]ひれ　まことよ　まことよ　あんぢよに　つげん、されろ　ゆー
ひケ　ことぞを　まゆよば　その　ひとに　いのちの　ゆれよ　いひけるに、いま　ひれよ　あんぢよケ
すでよ　ちよ、よけんーやも　ちぜり、ちよ　ゆー　ひケ　あくまよ　つうれさるよを　そる。おふさむひ
ことぞを　まゆよば　その　ひとに　いのちの　ゆれよ　ちろるよ　あんぢに、されろ　ゆー　ひケ
ことぞを　まゆよば　その　ひとに　いのちの　ゆれよ　いひ　けるに　ひれよの　[53]あんぢに　ひれよの

死ぬる

せんぞ あぶらむし よりも おそひ あるもの あるら。 めれん ちそら り、よけんーや そちも ちせり。 あんぢん そぐらふを さそと すると。 54 あす こそん けると、これ ゆー そぐらふを あげめあべ むえき あり。これを あげむる ものの これ ちく すあそち あんぢふげ これふの 55 あんぢふ めれを そふぜ、これい めれを そふぜと いそべ これん あんぢふの ごとき いつそる ものの あふんの かそと とあふる ところの ものの あり。 その ことをを まゆる。 56 あんぢふの せんぞ あぶらむし ひと そん ことを おそひよ そりー めつ これを そて よろこべり。 57 ゆざやひと めれよ いひ けると、 あんぢん とー いまど ごとうるゆ あふらむひと そーろ。 58 あす いひ けると、 まことよ まことよ あんぢふよ つけん、これん あぶらむひの あふぜる さま より あるものの あり。 59 ことよ おりて めれよ あけ めけんと せり。 されど あすん めくれて そや より

1, 2, 5, yukeri; 3, 8, 9, hitobitomo nakuwo toorite sareri

さの 九 ちやう

あす こそを さりて むまれつきの めくふの けると、 ちび、 この ひとの むまれ あげふ めくと あるら。 これの つそよ あるら。

おのれの つそ あるら、 あるひん その ふる あやの つそ あるら。 3 あす こそん その ふる あやの つそよ よふを、 そぐ めれよ おりて、かその ひざの あとそれん るめ あり。 4 これん これを つらそを ものー ひざを ひるの うちよ あす べき あり、 それも そふふく ことと あるそざる ところの よるが きそふと す。 5 これん ふ 6 めくいひて ちよ つもきー、つもきを つくり これを めくふの めよぬりて めれよいひけると、 7 おろあむの いけよ ゆきて あとん。 おろあむと とけば つらそさるとの いそ あり。 めれつひ ゆきて あとひ けれん そる ことを えそ めんれり。 8 とありひと およひ めらて そのとも いひけると、これ すそりて ものをこひー ひとよ あとやや。 9 ある ひとん、こん めれ ありと いひ、 ある ひとん めれよ まるる ものの ありと いふ。 めれ そぐらふ、 これん そのの ありと いひ けると、あふぢの こそん おりて めれと いひ けると、あふぢの めん いらるーて ひとられーや。 11 めれ これを とそを つくり これを これを めよ ぬりて これん ふ、これ ゆきて あとひ けれん そる ことを えそり。 12 めれと いひ けると、

Shiosumano 1, 2, 5, 7, 10, Qiiosumuni; 3, 8, 9, Qiiosumuno ikeni

1, 2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, kojiki

1, 2, 5, 7, 10, 8, 9, 4, warewa; 1, 2, 5, 7, warewa

そのひとん　いづくよ　あるや。こころんて、そよ申と　いくり。
13ひとびと　さきよ　めくよ　ありー　ものを　たりさいびとの　もとよ　つれ　ゆけり。
14あ今の　ところをつくりて　そのめをひじきー　ときんや　すそび　ありき。15たりさいびとも　その　いろるーて　そる　ことを　えーうと　のれよ　さづねーよ　こころんて　いひけるん、のれ　ひげ　めよ　ところをつけーよ　ひれ　それを　あよくみて　そることを　えくり。
16こころよ　おのて　たりさいびとの　うちの　あるもの　いひけるん、のれんや　すそびをまものよぐさるげ　ゆあよ　かこ　よりの　ひとよ　あよ申と。あるもの、つこ　ある　ひとえんやと　いくり。これよ　よりて　そのいうを　のくる　ふーぎの　おーを　あー　そのうちよ　あうくげひ　あり。17のれよ　まく　めくよ　いひけるん、のれ　あんぢのめをひよきーよ　よりあんぢのれの　ことを　あると　いふや。こころんけるん、のれんよけんーや　あり。18ゆざやびとい　そる　ことを　えー　もの～ふくあやをよぶ　まぢんのれげ　めくよるーて　そゆるやうよ　ありー　ことを　ちんせぎりき。19のれよ　そのふくあやよ　さらねいひけるん、あんぢよげむまれつきの　めくよ　ありと　いくるあんぢよの　むすこんこれ　あるろ。されば　いま　いうるーて　そる　ことを　うるろ。
20そのふくあや　こころんて　いひけるん、これ　これよの　むすこるーて　むまれつき

めくよ　ありーを　そる、されどいまいうるーて　そることを　うるろ、これをそよぐ。まく　そのめを　ひよきー　ものを　そよぐ。
をとる　あり、のれよ　さづねよ、のれんのふくあやのめくいひーんゆざやびとと　おそれて　あり、そん　さきよ　ゆざやびとそ　そりて、ひと　ゆー　あすを　きりをとありと　いひ　あよくそさび　そのものんくとのとう　よりいづすべーと　さるめられんをとる　あり、のれよ　さづねると　いくり。
24のれよ　まく　さきよ　めくよ　ありー　ものんつそびとかそよ　きんをよ。これよ　ものんつそびとのれんつそびと　あるや　いあや、これんそよぐさきよ　めくよ　ありーうとも　いま　そゆるやうよ　ありー　ことを　そる。26これよよりて　のれよ　いひけるん、のれんあうをあんぢよ　あんぢよ　あをーや。いうるーてあんぢのめを　ひよきーや。27こころんけるん、これすぐよ　あんぢよ　つけーうとも　あんぢよ　きうぐ。あよゆあよ　まく　きうんとあよくんと　ありをるや。あんぢよも　そのでーよ　あんぢんそのひとのでーあり。29かそのもうせと　のれよ　これを　のうーりて　いひけるん、もうせのでーあり。

㊀ ㊁ ㊂

ユダヤ人の中の七人の祭司長スケワの息子たちが、同じことをしようとして、悪霊に取りつかれた人に向かって、主イエスの名を唱えた。[13] 悪霊に言った。「パウロの宣べ伝えるイエスは知っているし、エスのことも知っているが、おまえたちは、いったい何者だ。」[14] 悪霊に取りつかれた人が、彼らに飛びかかり、彼らを取り押さえて、ひどく痛めつけたので、彼らは裸にされ、傷を負って、その家から逃げ出した。[15] このことがエペソに住むユダヤ人やギリシア人のすべてに知れ渡ったので、彼らはみな恐れを抱き、主イエスの名があがめられるようになった。[16] 信じた者たちの多くが来て、自分たちのしてきたことを告白し、言い広めた。[17] 魔術を行っていた者たちも、かなりの者が、その書物を持ち寄って、みなの前で焼き捨てた。その値段を見積もると、銀貨五万枚にもなった。[18] こうして、主のみことばは、ますます盛んに広まり、勢力を増していった。[19] これらのことが終わったとき、パウロは、マケドニヤとアカヤを通ってエルサレムに行こうと決心して、「わたしはそこに行った後、ローマも見なければならない。」と言った。[20] そこで、自分に仕えている者のうち、テモテとエラストの二人をマケドニヤに送り出し、自分はしばらくアジヤにとどまっていた。[21] ちょうどそのころ、この道のことについて、ただならぬ騒ぎが起こった。[22] デメテオという銀細工人が、アルテミスの銀の神殿を造って、職人たちに少なからぬもうけをもたらしていたが、[23] この人が職人たちや同業者たちを集めて言った。「皆さんもご存じのように、この仕事のおかげで私たちは豊かになっています。[24] ところが、ご覧になり、また聞いてのとおり、パウロという人が、手で造った神々は神ではないと言って、エペソばかりでなく、ほとんどアジヤ全体にわたって、多くの人を説き伏せ、引き離してしまいました。[25] 私たちの仕事が悪く言われて、評判が落ちるだけでなく、大女神アルテミスの宮も軽んじられ、アジヤとすべての人が拝むこの偉大な女神の威光も失われてしまうおそれがあります。」[26] これを聞いて、彼らは激しく怒り、叫んで言った。「エペソ人のアルテミスは偉大だ。」[27] 町は大混乱に陥り、人々はパウロの同行者であるマケドニヤ人ガイオとアリスタルコとを捕らえて、一団となって劇場になだれ込んだ。[28] パウロは民会に出て行こうとしたが、弟子たちがそうさせなかった。[29] アジヤの高官たちの中にも、パウロの友人たちが何人かいて、劇場に入らないようにと、使いを送って頼んだ。[30] 民会の中では、ある者はこのことを叫び、ある者はあのことを叫んでいた。集会は混乱しており、大多数の者は、何のために集まったのかも知らなかった。[31] ユダヤ人たちが、アレクサンドロを前に押し出したので、群衆の中から何人かが、アレクサンドロに説明するように勧めた。[32] アレクサンドロは、手を振って民衆に弁明しようとしたが、群衆は騒ぎ立てるばかりであった。[33] 彼がユダヤ人であることが分かると、群衆は皆、二時間ほど、「エペソ人のアルテミスは偉大だ。」と叫び続けた。[34] 書記官が群衆をなだめて言った。「エペソの人たち。エペソの町が大女神アルテミスの神殿と天から降ったご神体の守護者であることを知らない人がいるでしょうか。[35] これは否定できないことですから、あなたがたは静かにしていて、軽はずみなことは何もしてはいけません。[36] あなたがたが連れてきたこの人たちは、神殿の略奪者でも、私たちの女神を冒瀆する者でもありません。[37] デメテオと職人たちに訴えがあるなら、裁判の日は決まっており、総督もいますから、互いに訴え合えばよいのです。[38] それ以外のことについて何か要求があるなら、正式な集会で決着をつけるべきです。[39] 今日のことについては、騒動の罪に問われる恐れがありますから、弁明のしようがありません。」[40] こう言って、彼は集会を解散させた。

㊀ ㊁ ㊂

ぬすびと あり、とうぞく あり。ひろよ これを きうぎりき。9 ひれん ぬん あり。
ひれ より いる ものん すくそれん、まく でのりーて まきぞを うべー。10 ぬすびとの きるるん ぬすミ、ころー、わろ ありさんと するの わろ あー。ひげ きるりーん
ひろよをーて いのちを えをーめ のつ これを ゆるろよ うけーめん さあ あり。
11 ひれん よき ひろよう ひ あり。よき ひろよう ひ ひろよう ひろよの さめよ いのちをも
すろ。12 ひろよう ひよ あらーて やとそれー ものん ひろよ おのれの ものよ
あらぎるよ よりて おわろその きるるをそべ ひろよをのこーて まぐ。おわろそん
ひろよを うぞみて むれを ちらぎ あり。18 その あくるん めれ やとそれー ものよ
ーて ひろよを いとをぎるよ よりて おの
れの ひろよを ゐる、ひげ ひろよも ひれを ゐり ひれ ちるを
ゐるげ ごとー。ひれ ひろよの さめよ いのちを すろ。16 ひれん このおりよ あらぎるわろの ひろよをゆそり。ひれ これそも ひき きるるべー。めれらん ひげ こあを
きうん。その とき ひとりの むれ、ひとりの ひろよう ひと あるべー。17 ひれ
ふさび いのちを えをんとて ひげ いのちを すろる ゆあよ ちらー ひれを あらず。
18 それも その いのちを ひれ より とらぎ すろる あり。

ひれ これを すろるの けん あり、まく これを とるの けん あり。このめん ひげ
ちらー より うけー あり。19 ゆざやびと おわろの うちよ まく これらの ことぞよ よりて
あろさげび あり けるげ 20 その うちお おわくの ものん いひ けるん、めれん あくまよ
つろれて くるくる あり。あんぢら あんぢら ものらー ことぞよ あとぎ。あくまよ つろれー
これ あくまよ つろれー ものらー ことぞよ あとぎ。あくまん めくふの めを ひとく
ことを えをんや。

22 ふゆの ころ ゐるさを ひよ みや おさめの まつり ありーげ 23 あす みやの そろも
んの けんくをんを あるき をりーよ 24 ゆざやびと めれを とりくそて いひ けるん、
あんぢん いつまで ひれらを うるげそを ゐるろう。あんぢ ゆー きりそと あとぎ あきと
うよ ひれとよ つけよ。25 あす こくん けるん、ひれ あんぢとよ つけーよ あんぢと
ちんせぎ。ひれ ひげ ちらの あよ よりて あす ところの ひぐん これ ひれよ つのて
ちらもうこ するもの あり。26 されど あんぢとよ ちんせぎ、そん あんぢとよ ひげ
ひろよよ あとぎれば あり。27 ひげ ひろよ こあを きく。ひれ めれとを ゐる。
めれとん ひれよ ちらげふ。28 ひれ めぎり あき いのちを これよ あくふ。めれとん いろ
まぞも わろびぎ、まく ひげ て より これを うぞひ とる ものあー。29 めれとを

1, 2, 7, Teitcino ; 3, 5, 8, 9, waga Teitcino

ありません。私たちの教会は大きくありません。私たちの教会は大きくありません。私たちの教会は大きく

○ ゑすさ ゐくと | ゑすさ

ど゛ーゐゐゐ くの ゐゐゐの ちゐゐ゛ ゐだゐ ゐゐゐ ゐゐ゛ ゐゐゐ゛ゐゐゐ゛ゐゐゐ゛

さめて　とゐよ　いくよ　そりー　ゆざやびと　そのりそぎ　さち　いづるを　そて、　めれい
あけく　さめよ　もろよ　ゆくと　おゐふて　これよ　ろさづくり。 32 さて　まりや　ゐすの
そる　ところよ　いさりめれを　そて　そのあーゆとよ　ひれふー　いひ　けるん、　きそよ、
あゐさけ　ゆー　こさよ　いませー　あーび　ひげ　さやうざのん　ろせさりー　ものを。
33 ゐす　まりやの　あけヨ　まさ　めれと　とゐよ　きさりー　ゆざやびとの　あくを　そて
こころを　いさまーめ 34 うれひて　いひ　けるん、　さそよ、　さくりて　そのくちよ　いーを
こさんて　いひ　けるん、　きそよ、　さくりて　そのくちよ　いーを　とり　のぞけ。 35 ゐす　あさざを　あグー　さまくり。
36 こさよ　おゐて　ゆざやびと　いひ　けるん、　きそよ、　いりるも　めれを　いつくーむ　ものめる。 37 その　うちの　ある　ひと　いひ　けるん、　めれん　めくとの　めを　ひとき　ものあるよ　この　ひとをーて　ちゐざとーもる　ことあるを　そざりーろ。 38 ゐす　まさ　こくろを　いさまーめて　もろよ　いされり。　そろん　わと　あゐまーて　その　くちよ　いーを　おろれさり。 39 ゐす　いひ　けるん、　いーを　とり　のぞけ。　ちせー　ものく　きやうざの　まるさ　いひ　けるん、　きそよ、　めれい　ゆそやびと　いつくーむ　ものよりうよ　あれり。 40 ゐす　めれよ　いひ　さまひ　けるん、　あんぢゆー　ちんせんかそのいうを　そるべーと　これ　あんぢよ　いひーよ　あくゐや。 41 これよ　よりて　めれと

いーを　とり　のぞけ　ければ　ゐす　めを　あけて　いひ　けるん、　ちくよ、　あゐさげ
これを　さく〜　さまひーを　ちやす。 42 これ　ゐすの　ものをーて　あゐろる、　されど　これ　めく　いひーい　めさとよ　さてる　おゐせさの　ものをーて　あゐさげ　これを　つうそせー　ことを　ちんせーめん　さめ　あり。 43 めく　いひて　おゐどゐよよをもり、　ちざろよ、　いでよと　いひ　さまひ　けれど 44 ちせー　ものいでり。　てあーい　ぬのうて　まうれ、　めれい　てぬぐひうて　つくなれ　るさり。　ゐす　めれよいひ　けるん、　これを　ときて　ゆうーめよ。 45 まりやよ　きさりー　ゆざやびと　ゐすのあせー　ことを　そて　おゐく　めれを　ちんせりーと　ゐすの　あるものたりさいびとよ　ゆきて　ゐすの　あせー　ことを　つけり。
47 こさよ　おゐて　さきさのーと　たりさいびと　ひようぎやくを　あつめて　いひけるん、　これと　いうよ　せんや。　この　ひとん　おゐくの　ふーぎ　ある　さるーを　おこなふ。
48 ゆー　これを　すてあうば　すべての　ものの　めれを　ちんせん。　ろまびとも　きさりて　これどの　さると　さことを　うでもん。 49 その　うちの　ひとり　かやふと　いくる　この　とーの　さのーの　そさ　めれよ　いひ　けるん、　あんぢよん　あるをも　ちよぎ、 50 あく　くるぢう　わろびざる　さめよ　ひとり　さそよ　ゐすの　そりて　ちすると　これとの　えヨ　ある

ことを おもてぶ。 51 めくいひーんおのれ よりよ あとぜ、そのとーの さらーの そさ あるよ よりて あすげ さその さめよ ちぜん ことを よびん せー あり。 52 めろ さじーよこの さその さめ のそ あよぶ、ちりさる かその ことをよを ひとろよ あろ めんげ さめ あり。 53 そのひより めれよ あすを ころさんとて あひ そろれり。 54 ゆざよ あすい まーあしそよ ゆざやびとの うちを あるろぶ、そこを さりてのよ ちろき ところ ある えふらいむ Efraimuto とういくる あちよ ゆきてでーと とるよ とじまれり。 55 ゆざやびとの すぎこーの まろり ちろじき けれど おろこの もの そじろとを きこめんげ さめよ まろりの まんよ いあろより あるさきひよのおれり。 56 めれと あすを さじねて みやよ さてる とき あひ そげひよいひ けるん、あると おもみや。 めれい まろりよ きさとぶと おもろ。 57 さらさらーと たりさいびとめのをいざて、それら もー その をる ところを ちとんべ これを つぐ べーと いくり。そん めれを ととくん さめ あり。

さん十二ちやう

すぎこーの まろりの むのろ まんよ あすを ちるろる らざろと よそげんとをさる ところあるべさよやよいされり。 2 めーさ そて ひとびとの めれの さめよ ふるまひを

まうけてまるさきうとを あんり。らさろ ひとり あり。 3 まりやい あるひ さろきるとの まろひ あぶとの ゆざ するをち あをを ひろさんと するものいひけるん、 5 あよ ゆあよこのあろひ あぶとをぎん さんびやくよ うりて まづーき ものよ わとこさるろ。 6 めれば めくいひーんまづーき ものを おもみよあとぜ、めれんぬをびとるーて めねふく ろを もち これよ いるー ものを とり いひ けるん、 めれ ひより うむりのそあんへのひまを これを ささそふることよつのそんあんぢとこれよ めーさる あられ。 8 まづーき ゆざやびとの おろせい あをを ありてきられり。これ さじ あをの さめのさ あとぜ、その ろより よさげんとをるる らさろとも そん さめ あり。 10 こーよ おりて さらさらーんらさろとも そろれり。 11 そん、おろくの ゆざやびとの めれの さめよ ゆきて あをを そんぬれば あり。

12 あくる ひ おわせの まつりよ きくり〜
るを き〜 ければ 13 おゆろの そを とり ゐれを むろくん さめよ いで〜 よそそり
いひ けるに、わざ多よ、きくの あよ おりてきくる いそよえるの ひとうん さらそひ
ありと。14 あ今 ろをの こを えて これよ のりて きくる いそよえるの ひとうん さらそひ
めよ、おそる〜 あられ。そよ、あんぢの ひとうん ろをの こよ のりて きくると ろう
されるケ ごとー。16 でーくちら そよめ この ことを さとよぐりーうとも あをの
さうえを うけー ときよ この ことん ゐれよ つりて ちるされ、まく ひとびと これ
よの ことを ゐれよ おくあひーを おもひ いざ
17 あをの ちざろと そろ よりよびて これを ちよりよ よそぐくよせー ときよ
ありー おわせの ものとも この ことの をよ ちよりよ よりて
おわくの ひとびと あをの ふーぎ あるーを おこをひー ことを きくて
ゐれを むろくんとて いでくり。19 こくよ おりて たりさいひと さぐひよ いひ
けるに、あんぢよの そろる ところの むえる あるを ちよぐさるろ。そよ、よん そる
ゐれよ ちくげんり。

20 おぐくの さめよ まつりよ のぐりー ゆの〜 うちよ すまんの ぎりきやびとあり、

21 ゐれと ぐりふらの Galileino ぺてさいさの Botesidino ひと ある びりがよ いくり ゐれよ ゐくて いひ
けるに、きそよ、これと あ今よ まそくんこと を わりて。22 びりが きくりて あん
できよ つぐ。あんできびりがとともよ きくりて あ今よ つけり。23 あ今 ゐれよ
こくくて いひ けるに、まんぢんの むきこの あがめくるの ときに すぐよ いる
れり。24 これ まことよ まことよ あんぢよつけん、ゆー ひとつぶの むぎちよ
おちて ちあをんび さぐ ひとつよて のくる。ゆー ちあび おそくの そを むすぶ
あり。25 おのれの いのちを あいする ものに これを うしあもん。この よに おりて
おのれの いのちを おーまぎる ものに ゐぎり これを
さもさん。26 ひと ゆー これよ つくんと せ
つくふる ものに ひケ をる ところよ をとん。
これを さりとぞん。

27 いま ひケ こころ うれひ いくより。これ ゐるをろ いそん。ちくよ、これを
すくひて この ときより まねうとを さまんと
ときよ いくるに この ことの さめ あり。28 ちくよ、そをを あがめさを さまん。
その ときに てん より こえ あり、いそく、これ すぐよ これを あがめさをり、まる

これを あがめさせん。29 めさそよ さそる おわせのの ひとびと これを きゝて、
かそあり あれりと いふ。 ある ひとの いふ、てんの つうひ めれよ めさりー ありと
いへり。30 あす こゝへて いひ けるん、こゝの こあん ひゲ さめよ あよぎ、あんぢ
よの さめ あり。31 いま この よの ぬーん
いま おひ いさる べー。32 これ ちよ
ひきよんせん。33 めれゲ めく いひーん そのの いうあるん さまうて ちあるんと すうを
ちめせー あり。34 こゝよ おりて ひとびと めれよ いひ けるん、これと おきて
うてきりそといめぎり あく そるもの あ
こん あけよる べーと あるこのの いひーん
とん これそや。35 あす めれよ いひ
あんぢよのの うちよ あり、あんぢよ ひうり
あんぢよ おひうりん。36 あんぢ
ぢよ ひうりあるうちよ ひうりの ことを
これよの ことを いひ をそり めれよを
まんてて めく おわくの あーぎある をあるーを

せぎりる。38 これよりて よけんーや あ
きそよ、これう これよの つくる ところを ちんせーや。きその てん これよ あよ
それーや。39 あさや まく、めれよゲ めうて そ、ところて さとり、あよくめて
これよ いやさる〜 ことを そぎる さめよ 40 めれ その めを くよくー その こく
ろを めさくあよ せりと いひー ごとく めれよ ちんまる こと あくそぎ。41 あさやい
めりて あすの さうえを そーよ よりて
42 そうれとも つうさの うちよ おわく
どう よりも おひ いさられん ことを おそれて たりさいひとの さめよ これを いひ
あよそさぎ。43 そん、めれよん かそのの わまれ よりも ひとの わまれを このむ ゆえ
あり。

44 あす よをそり いひけるん、これを ちんまるもの これを ちんまるよ あよぎ、
これをつうそせー ものを ちん命る あり。45 これを そるもの これをつうそせー
ものを そる あり。46 これん すべて これを ちんまる もの〜 くよくきよ そよぐる
さめよ ひうりとーて よよ さられり。47 ひとゲ ゆー ひゲ ことをを きくて これを
まめよぐさるとも これを さそう ぎ。そん ひゲ きうりーん よを さそく さめよ

○ よはね さん 十三 ちやう

あとぎ、よを すくそん さめ あれば ありり。[48]それを すて ひと ことをを うけざる ものの これを さをく ものの あり、すなもちの ひよのれを さをうん。[49]そん、ひとれの おのれ よりいふ あとぎ、ひとれを つうそをー ちーいふ べき ことを ひとうべき ことを めうと さまんくる ありり。[50]ひとれ その めりの めぎり あき りのちの ある ことを ちる。この ゆあよ ひと いふ ところの ことん ちうの ひとれよ つけ さをひー ごととくよ りんくる ありり。

さい十三ちやう

すぎさーの まうりの まんくよ あす この よを さりて ちうよ めんくる べき ときの りこれるを ちりーけ、よよ そる ととうを ちる、そをりよ りうる まそ ありー さまんくり。[2]ごせんの ときに すぎよ あすを ひとうさん とのの おもひを いそうりよての ふもんの むすこ ゆざの こころよ りりーげ[3]あすの ちうの そんもうを おのれの てよ まうせー ことー おのれの かを より りぐー ものうーて まる かそよ めんくうと すする こととうを ちり、[4]ごせうの せき より さちて うそぎを ぬきて ぬぐひを とりてこれを こーよ まとんくり。[5]のちよ そうを そとひよ りれて でーうちの あーを あとひ その まとひー ところの てぬぐひうて

これを ふき そとより。[6]ふもん べてろよ おとひー ときそよ、あるうん ひと あーを あとひ ひと あす ところの ことを あんち りまんよ のちよ これを ちる べー。[8]べてろ りひけるん、お多うん けりーて ひ けるん、けるん、ひれ ゆー あんちを あとふそをうん ひれよ ぞうう ものよ あとぎ。[9]ふもん べてろ りひけるん、きそよ、ひと てと のうべを あとひ さまん。[10]あす めれよ りひ けるん、すぐよ のとうさを あとひー ものの あーの ろう あとふよ おとをぎ、めとうさを あとひー ものの さればと そる りうさぎうきうん あとぎ。[11]あすん おのれを ひとうさんと する ものを ちる ゆあよ、あんちじん そる りうさぎを とりまる せんよつきて めれ [12]あす めれよの あーを あとひて のち うそぎを とりまる せんよつきて めれ よよ りひ けるん、ひと あんちよ ことを ちるう。[13]あんちよん これを せんぜー ことを ちるう。[14]ひれん きそ まる きそと よぶ。めくりんくるん よー、これ これ あれば あり。[15]ひれ あんちよの あーを あとひ これば あんちじも あひ さうけひよ あーを あとふ べき あり。

よも　ロケ　あめー　ごとくよ　あさん　さめ　あり。16まことよ　まことよ　あんぢよ
つけん、そゆべん　その　そゆよん　より　おそひ　あよ衣。そーやん　これを　つろそす
もの　より　おそひ　あよ衣。17あんぢよ　ゆーこれよの　ことを　そりて　これを　おく
あそべ　さのそひ　あり。18これん　あんぢよ　すべその　ものよつのて　いふよ　あよ衣。
ロれん　ロケ　えよそーとところの　ものを　そる。されど　せのきやうよ、ロれと　そゆよ
むんを　くよ　ゆの　ロれよ　そむきて　その　きひすを　あけりと　そるさられー　ことん
ものあよ衣とぐべき　あり。19その　ことの　いふる　あよぐる　さきよ　いま　あんぢよ
つぐ、ことの　ありてのちよ　あんぢよそーて　ロれの　ものの　ある　ことを　そんぜ
しめん　さめ　あり。20まことよ　まことよ　ロれ　あんぢよつけん、ロケ　つろそす
ところの　ものを　うくるん　ロれを　うくる　あり。ロれを　つろそせー
ものを　うくる　あり。

21あす　この　ことを　いひて　こころよ　うれひ、あらーそ　いひ　けるん、まことよ
まことよ　ロれ　あんぢよよつけん、あんぢよ　ひとり　ロれを　ロささんと
する　ものの　あり。22こころよ　おりてでーこちら　あひさげひよ　めを　そあそせて　それの
ことを　いひ　さまひーろと　うくりくり。23さて　あすの　いつくーめる　ひとりの

でー　あすの　ふところよ　より　ねさりーげ　24去もんべてろ　めれよ　うあげきて、
めれん　それの　ことを　いひ　さまひーろと　ととそーめり。25あすの　ふところよ
よれる　ものの　さらねて、きそよ、それあるろと　いくり。26あすの　こさん　けるん、
ロケ　ひとらまその　くひものを　ひさーて　これを　あさんん　ところの　ひとん　それ
あり。つらよひとらまその　ものを　ひさーて　これを　いすりよての去もんの　むすこ
ゆざよ　あさんり。27ゆざ　ひとらまその　ものを　うけて　のち　さこん　めれよいれり。
こーよ　おりて　あすの　れよいひけるん、あんぢケ　あさんと　する　ところの　ことん
すそやろよ　あせ。28せんよつる　そりー　ゆの　さめよ　めく
いひーろを　そる　ものの　ありりる。29あるの　さめよ　めく
あすの　めれよ　まりよつのいりようの　ひとゆざい　めねれを　ゆそる　ゆあよ
わとこーを　あせと　いひー　こと〜　おゆんり　ものよ　めん、あるひん　まんーきものよ
さらちよいそ　ゆけり。その　ときん　よる　あんぢケ　いそ　ゆきー　のち　あす　いひけるん、
31めれ　いそ　うく、かそん　めれよ　よりて　あけめを　うくる　あり。32（めを　ゆー　めれよ　よりて
あけめを　うけるん）　めそも　まる　おのれよ　よりて　めれよ　あけめを　うけさせん、

さとちよ　うけさもん。[33]ことも よ、どれ　あやあんちよ　どれを　さらねん。どれ　のりて　ゆざやびとよ　どゲ　ゆく　ところもん　あんちよ　いくる　こと　あさそや　いひー　でとく　いま　あんちよるもつぐ。[34]あんちよ　あひさゲひよ　あの今　べーとの　あさよーヨ　おきそを　どれ　あんちよよ　さらく、どゲ　あんちよを　あの今る　でとく　あんちよも　あひさゲひよ　あの今　べー。[35]あんちよ　もー　あひさゲひよ　あのーあばこれよ　よりて　ひとびと　そる　あんちよん　どゲ　でー　あることを　ちよん。

[36]主もん　べてろ　のれよいひ　けるん、きそよ、いらくん　ゆきさまふろ。あ今　こさん　けるん、どゲ　ゆく　ところよい　あんち　いま　あさそや、されど　のち　どれよ　あさゲふ　こと　あさそや、きそよ、あよ　ゆあよ　どれ　いま　あるさの　さよ　あさゲふ　こと　あさそやさるろ。どれ　あるさの　さめよい　いのちをも　すそん。[38]あ今　こさん　けるん、あんち　どゲ　さめよ　いのちを　すそんや。まことよ　まことよ　どれ　あんちよ　つぐ、あそとり　あらざるさきよ　あんち　そるびどゲ　ことを　いるまん。

さの十四をやう

あんちよ　ところよ　うれくる　こと　あられ。かそを　ちんとまる　どれを　ちよん　べー。

[2]どゲ　ちくの　いくよ　おわくの　すまる　あり、そ　つけー　あよん。どれ　あんちよの　さめよ　ところを　そるん　さめ　あり。[4]あんちよ　どゲ　どゲ　そる　ところよ　あんちよも　そる　こと　ゆく　ところの　そちを　ちよん。[5]とま　のれよ　いひ　ゆき　さまふ　ところを　ちよを、いうを　その　そ　けるん、どれに　そち　あり、まこと　あり、いのち　あり。ひとくーて　どれよ　よよを　ちくよ　きくる　ものあー。[7]あんちよ　もー　どれを　ちよん　どゲ　ちくよも　そる　べー。いま　より　あんちよ　のれを　そる、すでよ　のれよ　いひ　けるん、きそよ、どれよ　ちくを　あどそー　さまん、さよん　どれよ　おのて　さよざる　ところ　あー。[9]あ今　のれよ　いひ　けるん、ひりやよ、どれ　あんちよと　ともよ　そる　こと　のくの　でとく　ひさーきよ　いまる　どれを　ちよざるろ。どれを　そー　ものいちよを　そー　なり　なんを　どれくよ　ちくよ　ちくよ　をり、ちくい　どれよ　をる　ことを　ちんせざるろ。[10]どれん　ことをいおのれ　より　いくるよ　あよを、どれよ　をる　ところの　ち〜[1,2,3,5,6,7,8,9,10 KOSO; 4 その]　どゲを

ルステラとデルベとリカオニアの町々とその周囲の地方とに逃れて行き、
7 そこでも福音を宣べ伝えた。
8 ルステラに、足の不自由な人がいた。生れつき足が悪くて、一度も歩いたことがない人であった。
9 この人がパウロの話すのを聞いていた。パウロは彼を見つめ、いやされるだけの信仰があるのを見てとって、
10 大声で「自分の足でまっすぐに立ちなさい」と言った。すると、その人は躍り上がって歩きだした。
11 群衆はパウロのしたことを見て、声をあげてリカオニアの言葉で言った、「神々が人間の姿をとって、我々のところに降りてこられた」。
12 そしてバルナバをゼウスと呼び、パウロは言葉の主だったので、ヘルメスと呼んだ。
13 ゼウスの神殿は町の入口にあったが、その祭司は、群衆と共に、いけにえをささげようとして、雄牛と花環とを門の前に持ってきた。
14 しかし、使徒バルナバとパウロとは、これを聞いて、自分たちの衣を裂き、群衆の中に駆け込んで叫び、
15 言った、「皆さん、なぜこんなことをするのか。わたしたちも、あなたがたと同じ人間であって、同じ性質をもっている。あなたがたがこれらの空しいものから離れて、天と地と海と、その中のすべてのものを造られた生ける神に立ち返るようにと、福音を宣べ伝えているのである。
16 神は過ぎ去った時代には、すべての異邦人が自分の道を歩むままにされた。
17 しかし、神は御自身のことを証しされないでおられたわけではない。恵みをもって、天から雨を降らせ、実りの季節を与え、食物と喜びとで、あなたがたの心を満たしておられたのである」。
18 こう言って、やっとのことで群衆をおしとどめ、自分たちにいけにえをささげることをやめさせた。
19 ところが、アンテオケとイコニオムとから来たユダヤ人たちがやって来て、群衆を説きつけ、パウロに石を投げつけ、死んだものと思って、町の外へ引きずり出した。
20 しかし、弟子たちが彼を取り囲んでいると、彼は立ち上がって町に入った。そして翌日、バルナバと共にデルベへ行った。

ことあうれ。28これめうてあんぢよはめうさりて、これいゆうんまくあんぢよきうさるといひーことをあんぢよきけり。ゆーあんぢよこれをあのーあんぺこれのちうよめくるをよろこぶべー。そいへ、ちくんこれよりおそひあれんぺあり。29いまことのあとざるさきよこれあんぢよつぐ、ことのありそのちあんぢよげあんせんさめあり。30これゆそやあんぢよとおそくめうてよ、そいこのよのきさきうさんとすればあり。めれいこれよ、これをあすんこれのちうをあのーまくちうのこれよめのせーところよをうさうげみそおこなふことをよよをうとーめんせんげさめあり。そそよ、これとこくよりゆくべー。

その十五ちゃう

これいまことのぶとうづるあり、これちうくいそうけつくりあり。2すべてこれよあるところのえさをむすぶをぜんばめれこれをきりとる。すべてそをむすぶえさいおそくそをむすぶをぜんげさめよこれをめりこそてきふむ。3あんぢよんこれよめうりー　ことをよよりてすぐよきうめとれうり。4あんぢよこれよとうまれ、これゆあんぢよとうまうよつとうまとんん。えそよぶとうづるよつとうまとんぜれんげそうつとそをむすぶことあうさるえさのぐとくすてとれてあるー　あり。5これいぶとうづるあり。ひとつのぐとー。これよとうまりまくこれめれよとうまとざれんばこれおそくのそをむすぶものあるごとをもあーえさればあり。6ひとつのぐとーこれよとうまとざれんばそのものいそうれうるえさのぐとくすてとれてあるー　あり。ひとびとそのめれうるえさをひろひこれをひよありけいれてもやす。7あんぢよゆーこれよとうまりまくことばあんぢよとうまとんんあうくそもあんぢよげわりするところをねうふときいめうよあうんとれんん。8あんぢよおそくそをむすぶこれよりてこげちくいあげのそうく、めうこれをあのすうげぐーとあとんん。9ちくのこれもあんぢよとをあのす、あんぢよこげあのよとうまれ。10あんぢよゆーこげおきてをまもりてそのあのよとうまとんん。これこげちくのおきてをまもりてそのあのよとうまとんん。11これこれくのことをあんぢよもこげおきてをまもりてそのあのよとうまとんん。12これあんぢよのよろこびをそそーめんさめあり。

ごとく あんぢよも あひさげひよ あの牛 べー、これ ひげ おきて あり。[13]ひとの そのこと より おわひある あらん あー。これ より おわひある あらん あー。
[14]あんぢよ もー すべて ひげ めのせー ところのことを おこあそび ひげ とも あり。
[15]いま より のち これ あんぢよを ちやべと とあんへん。ちやべい その ちやよんの おこあふ ところを ちよん。これ あんぢよを とと きよー ことい そあ あんぢよも ちやしーされば あよ、これ あんぢよを えとひー あり。[16]あんぢよ これを えとひーよ あり。めつ あんぢよをー て ゆきて そを むをひ そのそを さやさーめん さめよ あんぢよを さめ さやしーそ あるこそも ひげ あよりて ちこよねげふ ところい めれ これを あんぢよを あさへん さめあり。
[17]あんぢよげ あひさげひよ あのせんげ さめよ これ これよの ことを めのせり。
[18]よ もー あんぢよを まくあば あんぢよ より もの さきよ これを まくむと これ。
[19]あんぢよ もー よの もの あよば よい あんぢよを おのれの もの とーて あの牛べー。されど あんぢよい よの もの よ あよ、これ あんぢよを よ より えとひー ゆあよ よい あんぢよを まくむ。[20]これ あんぢよ ちやべん その ちやよん より おわひ あしやと いひー ことを こーろよ とめよ。ひとびと もー これを せめあん。もー ひげ こと を まやりあば あんぢよの ことを ものの さめよ これよの ことを そあ あんぢよ あさへん、そい これを つろせー もの を ちよさやしば あり。[21]これを まやむと あんぢよの ことを ものを。いま その きさりて めれよ めさよさやりー あよば めれよい つこ あるの いひひけ あー。[23]これを まくむ もの ひげ ちこそも まくむ あり。[24]これ もー ひとの あさこる ひさを めれよの うちよ あさこりー あよば めれよい つこ あるものを。いまい すべよ これと ひげ ちこと を ててこれを まくめり。[25]これ めれよの おきそのうちよ、ゆあ あーよ これを まくめりと あるされー ことをを とゆん さめあり。[26]これ ちこ より いづる ところの まことの みさま きさる ときめれ これよ つのて あろーを あさん。[27]あんぢよも そよめ より これと ともよ そりー ゆあよ あろーを そそん。

よい 十六 ちやう

これ これよの ことを あんぢよよ めさりーい あり。[2]ひとびと あんぢよを くさのとう より そりぞけん、まく すべて あんぢ

㊀㊁㊂

○ 十六から始まる

[12]なれば、我が行くところに、汝ら来ること能わず、ユダヤ人ら言うならん、『我が行くところに、汝ら来ること能わず』と、今我汝らに言う。[13]ユダヤ人また言いけるは、『彼自ら殺さんとするか、彼『我が行くところに、汝ら来ること能わず』と言うによりてか。[14]イエス答えて言いたまいけるは、『我もし自ら我がために証せば、我が証は真ならず。[15]汝らは肉によりて審く、我は誰をも審かず。[16]我もし審かば、我が審きは真なり、我ひとりにあらず、我と我を遣わしたまいし父とともにあるなり。[17]汝らの律法にも、二人の証は真なりと録されたり。[18]我は我がために証する者なり、我を遣わしたまいし父も我がために証したまうなり』。[19]ここにおいて彼ら言いけるは、『汝の父はいずこにいますや』。イエス答えたまいけるは、『汝らは我をも我が父をも知らず、もし我を知らば、我が父をも知るべし』。[20]この言は宝庫にて教えたまいし時、イエスの言いたまいけるは、『我が時いまだ来たらざるによりて、誰も我を捕えざりき。

○ 十六から始まる

㊀㊁㊂

3, 8, 9, kore, ware Tçitcini yuku nari; 1, 2, 5, 7, nosezu

○ よはね さん 十六 そやう

こひと なる べー。[21] そん ありん さんを する とき その ときの いくるま よりて うれひ あり、されど ことを うまび ひとの よろこびよ よりて まく ゆとの くるーそを おもそ。[22] めく あんぢ ひとの よろこびよ いまう れふ・されど これ まく なんぢ よを そん、ちらーて あんぢとの こころ よろこび べー・その よろこびを うそふ ものの まー。[23] その とき あんぢと これよ まことよ あんぢとよ つけん、あるくん。[24] いまま なんぢとら これ あよ よりて これを あんぢとよ あくん ねがひー こと まー・ねがくよ、さとび うけん、ちらーて あんぢとの よろこびー。

[25] これ さとくを ゆりて これとの ことを あきとら ちらの ことを あんぢとよ めくれり、されど ことくを もちひ ずーて めくり ちらの ことを あきとら ちらよ あんぢとよ ねがそん。[26] その とき あんぢとよ これ あよ よりて ねがそん・これ あんぢとの ことを あくん ちらよ いのとくと いそず・[27] そん あんぢとよ これを あのー まく これん かを より さくりー ことを ちんぜーよ よりて ちく ちらの ちまんぐ あり。[28] これん ちく よりいぐく よよ きくれり・これ まく よを もゆれてちらよ めくとん。

[29] でーくちら めれよ いひ けくん、あゆくん いまく さとくを もちひずーて あきとらよ いひ さまよ。[30] これとら いま あゆくん そらぬるを まつよ おとをざる ことを さとる・これよ よりて これとら あゆくん かを より きくりー ことを ちんぜ。[31] あすの ちんぜるら。[32] そよ、あんぢとら ちく ちとくされて おの ゆの そのぐく すること ところよ めくり これを ひとり のこす ときが いくるとん、いまいくれり。されど これ ひとり をるるん あとを、ちく これと とゆよ そりて これよ おりて やすくとゆんが さめよ これとの ことを めくれり。よよ おのそん あんぢとよ あゆそを うけん、されど おそる く あくれ、これん よよ めちくり。

さん 十七 そやう

あす この ことを いひ そそりて めを あげて てんを あおぎて いひ けるん、ちくよ、ときん いくれり、あゆくの むすこが あゆくの さくうえを あとよさえん さめよむ すこの さくうえを あとよそー ところの ものの まん これ めぎり あき いのちを あくんぐ さめよ すべての ものを おさむる けんるを これよ さなひくれば あり。[3] さく ひとりの まことの めを ある あゆくと その

○ よはね さん 十七 そやう

つうそー さまひさる おそきりそと おうさん これ すあそち のぎり あきいのち あり。
4 これ よよ おりて あるくの さうえを あとそせり。これよ おこあそんとて ゆさね
さまひー ところの そざん これ これを あさきー そそれり。 5 ちくよ、よの そとめの
さきよ これ あるくと とゆよ ゆちー ところの さうえを ゆりて いま これをー て
あるくと とゆよ さうえを うけさを さまひー ことをを これれよ さまくん。 6 これん あるくの
これよ さまひー ところの ひとひとよ あるくの あを あとそせり。 のれとん あるくの ことをを
くの ゆのまーて あるくん これを これよ さまくり。 のれとん あるくの ことをを
まゆれり。 7 いま のれとん あるくの これれとん あるくの ゆの そる あるく
よりあるを ちる。 8 そん あるくの これよ さまひー ことをを これれとよ さらけ
さればあり。 のれと これをうけて これん のろあるくケ これを つうそをー ことをを
ちんせり。 9 これ のれとの さめよ いのる。 これケ いのくん よの さめよ あとそ、
さく あるくの これよ さまひー ところの ものまーく あるくの ことをを
ゆの、さめ あり。そん、のれとん あるくの これれの ゆのん そる あるくの
ゆの、あるくの ゆの ものん これれの ゆのん そる ものの あり。 10 これの ゆのん そる
うく。 11 これ いま より、よよ そとを、のれとの さめよ いのる。

さくよの ちくよ、あるくの あるよ よりて のれとを これよ さまひこれん のれとを これれ
よの ごとく ひとつよ あるやうよ そのあるくの あよ おりて これを まゆりさまん。 12 これ
のれとと とゆよ *ぞれる あひざん あるくの ものとゆを これ まゆりしーケ そのうちよ わろひー ゆの あうりき、
さく わろびの この のを わろびり、こうこれよ よりて せのきやうを とけり。 13 いま
これ あるくよ ゆうんと今。よよ おりて これよの ことをを のさりーん のれとの こう
ろよ これケ よろこびを そさーあん さめ あり。 14 これ あるくの ことをを のれとよ
さらけり。よん のれとを まくめり、そん これ よの ゆのよ あとざるケ ごとく
のれとも よの ゆのよ あとざれば あり。 15 これ あるくよ、のれとをよ より とり
さまくと いのよぎ、さく のれとを あーき より まぬうとを さまくと いのる。
16 これ よの ゆのよ あとざるケ ごとく のれとも よの ゆのよ あとぎ。 17 まことを
ゆりて のれとを きよめ さまん。まことん すあそち あるくの ことを あり。 18 あるくの これを よよ つうそをー ごとく これも のれとを よよ つうそをり。 19 これ のれ
とのさめよ そざうとを きよめ のれとも まことを ゆりてきよめとれん さめあり。
20 これん さく のれとの さめよ のを いのよぎ。のれとの ことをを よりて これを

1, 2, 3, 4, 7, 8, nani yorite kaerawo wareni tamaitareba

ゆだやゆら ゆゆゆ ゆゆゆゆゆ ゆゆゆゆゆ

ことをを　とけん　さめ　あり。10とき　よ　ぬき　さのーの　おさの　ちやんぐを　うちて　そのこぎの　そこを　そぎさり。ちやんぐの　あい、まれ(Mallee)こと　いふ。11あす　べてろよ　いひ　けるん、あんぢ　めさまを　さやよ　おさめよ、ひケ　ちくの　ひれよ　さまふ　ところの　ちくふくん　ひれ　これを　のさとふんや。

12さて　へりそうの　くそと　せうーやう　おふさ　あるかや(Kayafano)ぜの　ちうと　あれば　あり。14ひとり　ささよ　めそりて　ちやするん　えき　とふん　これを　ちやりて　18まげ　あんま(Amani)よつれ　ゆけり。めれら　そのとーの　さのーめ　ありと　ものざやひとと　すらめーものんこのかやぜ　あり。15出もんべてろと　あうの　ひとりの　でーら　さのーの　おさの　ちる　ところの　ものあるケ　あすと　ともよ　さのーの　おさの　けんこをふよ　いる。16されど　べてろい　ものんの　そとよ　さち　それり。さのーの　おさの　ちる　ところの　でー　いでー　ものんを　まもる　ちものよ　めそりて　べてろと　ともふ　おのて　ものを　いれり。17こふよ　おのて　ものんを　まもる　ちものめ　べてろよ　いひ　けるん、あんぢも　このひとのでーの　ひとりよ　あとを　さやく　ちとも　さちて　あふふまり　それり。べてろもと　ともよ　さちて　あふふまり　それり。

19さのーの　おさ　あすよ　その　でーと　そしーふの　ことよ　つのて　とひーよ　20あす　こふん　けるん、ひれ　あとそよ　よよ　めそれり。ひれん　つねよ　ものざやひとの　そる　あうまる　ところの　くそのとう　おふひ　みやよ　そしーふり。ひそうよ　めそりー　ことあー。21あよ　ゆえ　ひれよ　ふひゆふや。ひケ　めそりー　ところを　きふー　ものとものよ　ふひぬでー。めれよん　ひひー　ところの　ことを　ちる。22めく　いひー　ときめそよふ　そそる　ひとりの　ちやふふんてを　ものて　あすを　うちて　いひけるん、あんぢ　さのーの　おさよ　めく　ここゆふろ。23あす　こふふ　けるん、ゆー　ひケ　いひー　ところ　あーふよ　そのあーをふろべー。されど　よろよんぞ　あんぞ　ひれを　うつや。24(ごふよ　おのて)(Gehenna)わんる　あすを　ちやりー　まふ　さのーの　おさ　ある　かや(Kayafani)ぜよ　おふさ　あり。

25そのとき　出もんべてろ　さちて　あふふまり　そりーケ　ひとびとの　れよ、いひけるん、あんぢも　その　でーの　ひとりよ　あとふや。25これを　いふそて、ちうと　や　といふり。26さのーの　おさの　ちやんぐの　いひ　けるん、あんぢケ　ひとりよ　すふそちべてろよ　そふそケれー　ものー　ちふふの　いひ　けるん、ひれと　ともよ　そのよ　そるを　ふーよ　あふや。27べてろ　まふ　いふちふれば　ふそとり　さちまち　あけり。

38 ひとびと あすを ひきて かやば よりぶぎやうの やーきよ ゆけり。ときんよあけ あり。めれとん すぎこーの そふくとをおそれて やーきよ いとぐり。39 びらといぐ〜 めれとよ いひ けるん、ことを あんぢよ あるの ことを もりて このひとをうつさふるや。80 めれと こさんていひけるん、ゆー めれ あくを あす ものよ あとぐされば どれと これを あるさよ どさきよ。31 びらと めれとよ いひ けるん、あんぢよの おきてよそふぐめて これを さぞく べー。ゆざやびとの おこるの おこるふ ことを えず。32 これ、おのれの そのふんと する そのさまをさーて あすの いひー ことよ めるくり。

33 びらと まく やーきよ いり あすをよびて いひ けるん、あんぢよ つけー あるう。34 あす こさん けるん、あんぢぐ あるひん そうの ものの どれの ことを あんぢぐいひ けるん、どれん ゆざやびとの あとんや。あんぢの さことだらのさーとも あんぢを どれよ どさぜり。あんぢ あるを あんぢくるん よの くるく あとず。ゆー どぐ くよ よの くよ あとば どれ ゆざやびとよ

どさされぞる やう どぐ そゆびとも さくうふ あとん。されど どぐ くるん よよぞくする くるく あとず。37 びらと めれよ いひ けるん、あんぢのいくるぐ あるう。あす こさん けるん、そうよん あんぢん どうまれて よよ きさりーん、まことよ つのて あうーを さてん さめ あり。すべてまことよりの ものん どぐ こあをきく。38 びらと いひ けるん、まことふん あるぞや。めくいひー のちまく いぐ〜 ゆざやびとよ いひ けるん、どれ めれよ つこ あるをそず。39 どれ すぎこーよ ひとりの めーうとそ ゆるす ものの あとそー あんぢよ あり。これよ よりて どれゆざやびとの どうを ゆるさん ことをねぐふや。40 ひとびと まくよぞくりて、このひとよ あとず、ばらばと いくり。めの ばらばん ぬすびとあり。

Barabbas

さの十九そやう

こさよ おのて びらと あすを とりて めれを むちうてり。2 へいそら いぞよの めんむりを あさて その めうぐよ めぶを まく むとふさの ころるを これよ きをり。3 めれよ ちろふりて ゆざやびとの どう、やすうてり。4 びらと まく いぐ〜 めれよ いひ けるん、そよ、どれ めれよ つこ あるを そぞる ことを あんぢよ そよ〜めんとて めれを あんぢよ ひき いぐす。

5 さて あす いそとの のみ取りを のぶり、ひよ
びらと のれよ いひける、そよ、このひと
とも これを そそ、そりつけよ せよ、そりつけ
のれよ いひ ける、あんちよ そらうよ こ
のれよ つま あるを そま。 7 ゆざやひと こう
その おきてよ よれば のれん あす べき ものの あ
ことを きくされば あり。 8 ひらとこの ことを
きよ いりて あす よ いひ ける、あんちら いひ
ざりき。 10 ひらと いひける、あんちを これよ
すの けん あり、まく あんちを そりつけよ
11 あす こうん ける、うん より あんちよ
むろひて けん ある ことを あー。 ゆあよ これを
さよ おそひ あり。 12 これ より びらと あす
ひと よをそりて いひける、あんち ゆー この ひとを ゆるさん らいさるのちう
しんよ あしぎ。すべて そらうとを こうと あす ものん らいさるよ そ
ける あり。

18 ひよとこの ことを きくー とき あす
へふる ことをうて がぜさと あらくる ところの
すぎこーの そあんひるーて おそを ろくーと ありき。 15 のれと
すそよ、そりつけよ せうと いくり。 ひよと
こうを そりつけよ せんや。 そのさのーとも
とよ こう あー。 16 こうよ おのて あすを
ければ のれよ これを とりて ひき されり。
17 あす そらうと おうとうを おりて さ
ことをうて ごるごさと あらくる ところよ ゆけり。 18 のれよ その ところよて あすを
おうとうよ つけうり。 まく のれと ともよ あ
ひとりん ひざりよ そりつけて あすを あうよ おけり。 19 ひよと ひようさうを のくそ
て これを おうとうの うくよ つけり。これ
ありと そるーうり。 20 あすの おうとうよ ちうければ
おそくの ものやひと その ひようさうを よ
よりき。

ことをうけて ちるされくり。21もざやびとの すのそらーとも びふとよ いひ けるん、
もざやびとの ひこと そる今 あうれ、これいもざやびとの ひこう ありと そづろよ
いくりと そる今 べー。22びふと こるへ けるん、ひこげ そる今 ところん すでよ
これを そるをり。

23へのそうよ 為今を もりつけー のちその きものを とり これを よろよ ひこう
ちてへのそら おの為の いちぶんを うけ、まくうん よりまりさく おりさる ものを ありければ 24さげひよ いひ けるん、
めまくうん よりまりさく おりさる ものを ありければ 24さげひよ いひ けるん、
これを さく あうれ、これの ものよ あよんら これを くよよ すべーと。これ
せのきやうよ、のれよん 25げ きものを のれよの うちよ ひこうち、ひこげ ところもよ
つのてくよをひくといそれー ことをとけん こあり。のこのごとく へのそうよ
この ことを あをり。

25ときる 為今の そこと そこの そんな きやうそのと くろたの つま まりや
おふび まぐざふのまりや その おうよ
そこと いつくーある ところの でーとの のこそよ そてそこる いひ
けるん、そんな そよ、これ あんぢの むすこ あり。27まこ でーよ いひ けるん、

そよ、これ あんぢの そこ あり。この ことの すべてよ をそれるを ちりて せのきやうを とそる
つれ ゆけり。

28このの ちち為今 すべての ことの すべてよ をそれるを ちりて せのきやうを とそる
やうよ、ひれ のそこと いひ さまくり。29のーこよ すの そちこる うつん ありーげ
のれよ すを ふくそこる うそをこそを そえそぶの えさよ つけて これを そのくちよ
あるくり。30為今 すを うけー のち、
さまを そまち さまくり。

31このひん まつりの そあんべび さり、まこ このや今そびい おちひある ひあるよ
よりて もざやびとや今そびよ ちうをねを おうとうよ のこーおくことを ちりせず、
びふとよ のれよの すねを おりて これを とり のぞうん ことを ねうんり。32さて
へのそうよ きさりて 為今と ともよ そりつけよれー ものーよの いちよの ものの
ーすねを おれり。33為今よ いさ そのすべよ そをそーを そされば その
すねを おとさりき。34そうーあケよ ひとりの へのそら やりよて その あをよを
つきければ さよちよ ちと そら いひ そーものあうーを 為今。
その あうーん まことあり。のれ そうろうよ いふ ところの まことあるを ちる。

これよ よりて あんぢよ ろん ぜる ことを えん。 36 この ことを あるよ よりて せの
きやうよ、 われの わねん ひとりも おれ ぜと ろうされー ことを とけうり。 37 まうと
せのきやうよ、 われとん その つきー ところの ものを そんと ろうされー ことを
とけり。

Arimatayano Yosefu
38 この のち ありまさやの よせふ すぎそを ぜと ろうよ あすの
でー ある ものの びふとよ ゆきて あすの ろうをねを とりん ことを ねげひーろん
びふと これを ゆるせり。 われ つひよ きうりー ものの ろうをねを とれり。 39 まうと
Nikodemoto
よ こでもと いんくる ものて よる あすよ きうりー ものの ものやくところのを まぜて
これを ひやくきん ぜうり ゆちうされり。 40 この ふうり あすの ろうをねを とりて
ものやびとの わうもりの あとそーよ ものを もりて ろうをねを
ぬのよ つつそうり。 41 あすの ぜりつけとん ところよ その あり、 その〜 うちよ
いまさ ひとを わうもりー ことを あるとー ろうあり。 42 この ひん ものやびとの
まうりの そまんびうり、 まうと その ぜうよ ちうけれん あすを そうよ おけり。

さの二十ちやう

ひとまぜうりの ぜとめの ひよ あさ そやくに いまさ ぐとふ うちよ まぐだらの Magdalano Maria まりや

ぜうよ いうりーよ そうり。 2 つひよ ぢもん ぺてろ Çimon Petero
おふび あすの あのせー ところの わうの
きそを ぜうより とりいさせー ものの あり。 3 ゆあよ ぺてろと ものの ひとりの
とき そのひとりの でーん ぺてろ より
ぬのー おうれうるを そうり、 7 まう ものうぐを
つうそー てぬぐひの ぬのと とゆよ おうれ
おうれーを そうり。 8 こうよ おのて さきよ
いうり これを そて ろんせり。 9 われとん せのきやうよ われの ろより よそげんる
べき ことを ろうされーを いまよ いうる まで さとうざりー あり。 10 つひよ ふう
りの でーん おの あの その いんよ ものくり
11 まりやい そうの そとよ ぜちて あゆき
うちを そーよ あうりの てんの つうひげ
おきー ところの ものうぐの ものよひとり、あーの ものよひとり ざー そうを そうり。

13そのつうひいひけるん、そんなよ、あんちあよゆあよあけくや。こうくていひけるん、ひとびとヨケきそをとりさりてこれをいうくへおきーやこれちよぐるよりてあり。14のれめくいひてのちふりうくりてあすのさそるをそうり、されどそのあすあるをちよぐりき。15あすのれるいひけるん、そんなよ、あよゆあよあけくや。あんちこれをさびねるう。まりやこのひとんそのをまもるもの ありとおもひてこれるいひけるん、きそよ、あんちゆーのれをもそびいうさやーあよべいびくうおきーやこれをとよん。16あすのれるまりやよといふ。まりやこれよむうひこれをとけべ、せんをいあり。17あすのれるいひけるん、これよさそるあうれ、これいまざヨケちくのゆとうの分よされべあんつけよ、これあんちよのかそあるヨケかそうのぎよんと。18まぐふのまりやきそをそーことおよびさそのめくおのれるのうりーことをゆきてでーうちうつけり。

19そのひいひとまをりのそよめのひうーそくるーころよでーうちのあうまりーところのとんゆざやひととおそるーうよよりてとぢーげあすきうりのれよの

うちうくちていひけるん、あんぢよやすうれ。20めくいひてそのてとあをよのれよようそけれべでーうちきそをそてけるん、あんぢよやすうれ・ちくのこれをつうそさん。22このことをいひーのちめれるいきをふきていひけるん、あんぢよきうまをうけよ。23あんぢよゆるさる・あんぢよされのつそをさうむうとそのつそをさうぐる・あんぢよされのつそをゆるすとそのつそをさうめよう。24ぞうよでーのひとりあるでぜもと(Didumoto)あんぐくるとまん(Tomawa)あすのさうりーとれるれよとそうよそよりき。25ゆあうわうりのでーうちのれういひけるん、これーそのてうくぎのあとあるをそ、めうこヨケゆびをくぎのあとうさーこヨケてをそのあをようさうぐんべこれんちせず。

26やううすぎてでーうちまるうちよあうすぜうとぢうるうよあすきうりのれよのあうよちて、あんぢよやすうれとあいひ、27つひうとまよむうひていひけるん、あんちのゆびをのべてこヨケてをそよ・あんちのてをのべてこヨケあをよさそ、ちんぜざるものとあよぎーて

ちんせよ。28とま こうくて、ひげ ひそよ、ひいひ けるい、あんぢい それを そーよ よりて ちんせり。そゆーて ちんやる ゆのいさのそひ あり。

30あす でーこちの まんよ おりて この ふそよ ちるさとる わうの あーぎの ちるしそ おわく おこるくり。31さど これとの あす かその むすこ きりすと ある ことを ちんせーめ、のう のれを ちんとそのよ よりて いのちを えそーめん さめ あり。

さん二十一ちゃう

このの のち あす まるてべりやの そびうその Kanano Natanaelu そのあとそれーこと さのでとー。2ちもんべてろ、でどもと Didumoto あびくる とま、ゲリらいの うあの Galilaiuo おさおえる、せべさいの ことも まる わうの あさりの でー とゆよ あり。3ちもんべてろ のれとよ いひ けるい、ひれうそ とりよ ゆうん。のれとよ いひけるい、それとも あんぢと とゆよ ゆうんと。つのよ いでー ふねよ のりーゲ そのよん あるの えものも あうりき。4よあけよ おりて あす うそべよ さちーゲでーとゆらいその あす あうそ そとさりき。5あす のれとよ いひけるい、ことゆよ、あんぢ

とよ ちさくゆう あるや。こうくて、あーと いくり。6まる のれとよ いひ けるい、あそそふねの そぎさよ うて、さとび えものの あとよん。さて のれと あそを うちされば うその おわさゲ ゆあよ これを ひき あぐる ことを えぎりき。7こうび おのて あすの あのせー ところの でー べてろよ いひ けるい、こん きそ あり。8ちもんべてろ きそ ありと きさうされば そさう ありーゲ うそぎを おとひて うそよ とびいりさり。9のれと おうより とわうとぶ、でーこちの けん Gempomwa, kiiiiaku nihyaku yaku ぞうり けるゲ わうの でーこん こふねうて うその いりさる あそを ひき さされり。10のれと おうよ のあ りて すそび おふび そのよ おうれさる さうあ あり まさむん あるを そさり。10あす のれとよ いひ けるい、あんぢとゲ いちを すこー ゆちきされ。11ちもんべてろ ふねよ ゆきて おわひあるひやく ごとう さんうて そちさる あそを おうよ ひき あけり。さうあのく おわーと いくとも あそん さけぎりき。12あす のれとよ いひ けるい、きさりて ちよくむよ。でーこちの うち ひとりも、あんぢん されぞやとあくて とふ ものの あー、その きそ あるを ちるよ よりてあり。13さて あす きさりむんを とりて のれとよ あさふ、さう多も まさあさくり。14あす ちより よそゲくりて のち でーこちよ あとそれーん これ そさびめ あり。

15 のれよ ちよくーして のち あす ㄓもん
ㄓもんよ、あんちら これよの ゆの よ あさりて これを あらする。 こさへ けるい、
ちうり きそよ、これ あるくを あらをる ことを あるくん ちり さまふ。 あす いひ
さまひ けるい、 16 まく ふくうび のれよ いひ さまひ
けるい、よあるの むをこ ㄓもんよ、あんちら これを あらをる。 こさへて いそく、
ちうり きそよ、これ あるくを あらをる ことを あるくん ちり さまふ。 まくのれよ、
ひけ ひうとを のんと いひ さまへり。 17 あす そくび のれよ いひ けるい、よあるの
むをこ ㄓもんよ、あんち これを あらをるう。 ぺてろ その そくび、あんち これを
あらをると いそれー ゆあよ うれひて いひ けるい、きそよ、あるくん すべての
ことを ちり さまふ。ひけ あるくを あらをる さなふ。 あす のれよ いひ
けるい、ひけ ひうとを やーあへ。 18 これ まことよ まことよ あんちよ つけん、
あんち ひうき ときい そくうと おひを つうねて こちろよ まうせて あるけり。
されど おゆるよ おとひて あんち これを あらをる ちて あんちの
わりせさる ところよ ひき ゆうん。 19 のくを いひ さまひーん ぺてろ いうあるちて
かそを あけめんとするうを さをるあり。これを のくりてのち、これよ ちくへと

1, 2, 4, 6, 7, Yoanno; 3, 8, 9, 10, Yonano

いひ さまへり。 20 ぺてろ ふりむきて あすの いうくーむ でー すあそち でせんの
ときよ そのの あところよりて、きそよ、あるくを ところす ものんされぞやと いひー
ものをそくり。 21 ぺてろ のれを そーときき あす のれよ いひ けるい、これ ゆー のれが あくよんへて ひれの きくるを まら
ことを わりーあび あんちら ひれよ ちさげんへ。 22 あす のれよ いひ けるい、これの きくるを まら
23 この ゆあよ その でーん ちあすの うちよ ひろまりさり。
ちられとも あすい、のれを あすといふ ことを きやうすの うちよ ひろまりさり。
ひれの きくるを まら ことを わりーあび あんちよ あるの のくそり あとんやと
いひ さまへり。
24 これよの ことよ つのて あうーを あるーまく これを そるせー ものん そのでー
あり。ひれよ その あうーん まこと あり。 25 あすの あせー ことん この
わうよ あまく あり。ゆー いち いち これを
ふそん よよ いるくも あまり あとん。
Amen: 1, 2, 3, 4, 5, nonnen



1 初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、
よく見たもの、手で触れたものを、
あなたがたに伝えます。
命の言について。
2 この命は現れました。
わたしたちはそれを見て、
証しをし、
御父と共にあったこの命を、
あなたがたに伝えます。
3 わたしたちが見聞きしたことを、
あなたがたにも伝えます。
それは、あなたがたもわたしたちと交わりを持つようになるためです。
わたしたちの交わりは、
御父と御子イエス・キリストとの交わりです。
4 わたしたちがこれを書くのは、
わたしたちの喜びが満たされるためです。

5 わたしたちが御子から聞いて、
あなたがたに告げる知らせは、
神は光であり、
神には闇が全くないということです。
6 神と交わりを持つと言いながら、
闇の中を歩むなら、
わたしたちは偽りを言っており、
真理を行っていません。
7 しかし、
神が光の中におられるように、
わたしたちも光の中を歩むなら、
わたしたちは互いに交わりを持ち、
御子イエスの血がすべての罪からわたしたちを清めます。
8 わたしたちに罪がないと言うなら、
自分を欺いており、
真理はわたしたちの内にありません。
9 わたしたちが自分の罪を告白するなら、
神は真実で正しい方ですから、
罪を赦し、
わたしたちをすべての不義から清めてくださいます。
10 わたしたちが罪を犯したことはないと言うなら、
神を偽り者とすることになり、
神の言はわたしたちの内にありません。

Yohanewa 1 hajimekara atta mono, watashitachiga kiita mono, watashitachiga me de mita mono, yoku mita mono, te de fureta mono o, anatagatani tsutaemasu. Inochi no kotoba ni tsuite. 2 Kono inochi wa arawaremashita. Watashitachiga sore o mite, shōshi o shi, gotō to tomoni atta kono inochi o, anatagatani tsutaemasu. 3 Watashitachiga mikiki shita koto o, anatagatanimo tsutaemasu. Sore wa, anatagatamo watashitachito kōwa o motsu yō ni naru tame desu. Watashitachi no kōwa wa, gotō to Goshi Iesu Kirisuto to no kōwa desu. 4 Watashitachiga kore o kaku no wa, watashitachi no yorokobi ga mitasareru tame desu.

5 Watashitachiga Goshi kara kiite, anatagatani tsugeru shirase wa, Kami wa hikari de ari, Kami ni wa yami ga mattaku nai to iu koto desu. 6 Kami to kōwa o motsu to iinagara, yami no naka o ayumu nara, watashitachi wa itsuwari o itte ori, shinri o okonatte imasen. 7 Shikashi, Kami ga hikari no naka ni oraremasu yō ni, watashitachimo hikari no naka o ayumu nara, watashitachi wa tagai ni kōwa o mochi, Goshi Iesu no chi ga subete no tsumi kara watashitachi o kiyomemasu. 8 Watashitachi ni tsumi ga nai to iu nara, jibun o azamuite ori, shinri wa watashitachi no uchi ni arimasen. 9 Watashitachiga jibun no tsumi o kokuhaku suru nara, Kami wa shinjitsu de tadashii kata desu kara, tsumi o yurushi, watashitachi o subete no fugi kara kiyomete kudasaimasu. 10 Watashitachiga tsumi o okashita koto wa nai to iu nara, Kami o itsuwari mono to suru koto ni nari, Kami no kotoba wa watashitachi no uchi ni arimasen.

うけて あるされむ、ゆでやぢう、さまりや、おひと〳〵 あるべー。 この ことを いひ をそりて かれとげ そる うちよ あす うんよ あけとれ まこと くも これを うけて そんぢとーめくり。 10その のぐる とき かれとてんを あふぎ そそりーよ そよ、 ちろき ころもを きこる ふくりの ひとかくもとよ さちて いひけるん、 11がりぢらの ひとびとよ、 あよ ゆあよ てんを あふぎて さてうや。 あんぢとを そなれて てんよ あけとれーこの あをに あんぢとけ かれの てんよ のぐるを そーこと まこと その さまよ おらて きさとん。

12つひよ ちーやうち かんとんぢんと いくる やま より あくされむよ かんれり。 このやまん あるされむよ ゆで うる そちのり あり。 13かれとーいくりて、 ぺてろ、 よはね、 やこぶ、 あんでれ、 ひりぽ、 とま、 ばるとろまい、 まつこら、 あるぢらの むをと やこぶ、 せろてと いふ ちゆん、 まこ やこぶの よだの きやうぢの ある ゆでの すむ ところの あくの よの ぐれり。 14かれとそを あをに つとめて いのりを つとめくり。

15そのころ あつまれる ものぐ かやん おをそひやく あとう あん ありーけ ぺてろ あをに つとめて いはく、 16きやうぢの ともよ、 あをを ととーくるる ものぐ あんあらとよやと ありー ゆでを さーくて おをそ やまを そびよ ゆで うる そちのり あり。 17そのよう あとうとよめ いひー ところの せのーものの ことをら かあとぢ おうを べくりーあり。 18そのひとん ふぎの あるひを ゆくて ちーよを かそをそくり、 まこ さくさまよ おちそと さけて そのそとをぐ ことごとく あげれ いのぐるくり。 19そのことを あるされむよ すめる すべての ものよ ちれーくべ そのちーとを すあのそち ちの ちーよと あげけとれくり。 20そんあれそて さんをよ、 これを すあをする ひとよ うけさせよと あるされくり。 21このゆあよ あるうれと、 まこ めれの つとめーくる あひふ すあをち よをねの ちごめより そよめ あすの されとよの うちよ ゆきちあけとれー ひよ いくる まを 22つねよ されとと そあれて ひとり されとと ともよ その よちぐくりー ことの あくーひとー あるべし あり。 23こーよ おりて ゆすとー あらけ まこをちさをと いくる よをふ おをひ まつてやの ふるりを あけて いのり いのけるん、 24すべての ゆめも こころを ちり さまの

ಅವನು ಪ್ರವಾದಿಯಾಗಿದ್ದು ದೇವರು ಅವನಿಗೆ ಆಣೆಯಿಟ್ಟು ಹೇಳಿದ್ದನ್ನು ತಿಳಿದುಕೊಂಡಿದ್ದನು. 31 ಆದುದರಿಂದ ಮುಂದೆ ನಡೆಯಲಿರುವ ಸಂಗತಿಯನ್ನು ಮುಂಗಂಡು ಕ್ರಿಸ್ತನ ಪುನರುತ್ಥಾನವನ್ನು ಕುರಿತು ಹೀಗೆ ಹೇಳಿದನು: ಆತನು ಪಾತಾಳಲೋಕದಲ್ಲಿ ಬಿಡಲ್ಪಡಲಿಲ್ಲ, ಆತನ ಶರೀರವು ಕೊಳೆಯಲಿಲ್ಲ. 32 ಈ ಯೇಸುವನ್ನು ದೇವರು ಪುನರುತ್ಥಾನಗೊಳಿಸಿದನು; ಇದಕ್ಕೆ ನಾವೆಲ್ಲರೂ ಸಾಕ್ಷಿಗಳಾಗಿದ್ದೇವೆ. 33 ಆತನು ದೇವರ ಬಲಗಡೆಯಲ್ಲಿ ಉನ್ನತಕ್ಕೇರಿಸಲ್ಪಟ್ಟು, ತಂದೆಯಿಂದ ಪವಿತ್ರಾತ್ಮನನ್ನು ಹೊಂದಿ ಆ ಆತ್ಮನನ್ನು ನಮಗೆ ಕೊಟ್ಟಿದ್ದಾನೆ. ಇದನ್ನೇ ನೀವು ಈಗ ನೋಡುತ್ತಿದ್ದೀರಿ, ಕೇಳುತ್ತಿದ್ದೀರಿ. 34 ದಾವೀದನಂತೂ ಪರಲೋಕಕ್ಕೆ ಏರಿಹೋಗಲಿಲ್ಲ. ಅವನು ಸ್ವತಃ ಹೇಳಿದ್ದೇನೆಂದರೆ,
ಕರ್ತನು ನನ್ನ ಕರ್ತನಿಗೆ ಹೇಳಿದನು:
ನಾನು ನಿನ್ನ ಶತ್ರುಗಳನ್ನು
ನಿನ್ನ ಪಾದಪೀಠವಾಗಿ ಮಾಡುವವರೆಗೆ
35 ನೀನು ನನ್ನ ಬಲಗಡೆಯಲ್ಲಿ ಕುಳಿತುಕೊಂಡಿರು.
ಎಂದು ಅವನೇ ಹೇಳಿದ್ದಾನೆ. 36 ಆದುದರಿಂದ ಇಸ್ರಾಯೇಲ್ ಜನಾಂಗದವರೆಲ್ಲರೂ ಖಂಡಿತವಾಗಿ ತಿಳಿದುಕೊಳ್ಳಲಿ: ನೀವು ಶಿಲುಬೆಗೆ ಹಾಕಿದ ಈ ಯೇಸುವನ್ನೇ ದೇವರು ಕರ್ತನನ್ನಾಗಿಯೂ ಕ್ರಿಸ್ತನನ್ನಾಗಿಯೂ ಮಾಡಿದ್ದಾನೆ.

37 ಇದನ್ನು ಕೇಳಿ ಅವರು ಹೃದಯದಲ್ಲಿ ಚುಚ್ಚಲ್ಪಟ್ಟವರಾಗಿ ಪೇತ್ರ ಮತ್ತು ಉಳಿದ ಅಪೊಸ್ತಲರಿಗೆ, "ಸಹೋದರರೇ, ನಾವು ಏನು ಮಾಡಬೇಕು?" ಎಂದು ಕೇಳಿದರು. 38 ಪೇತ್ರನು ಅವರಿಗೆ, "ನೀವು ಪಶ್ಚಾತ್ತಾಪಪಟ್ಟು ಪಾಪಕ್ಷಮೆಗಾಗಿ ಯೇಸು ಕ್ರಿಸ್ತನ ಹೆಸರಿನಲ್ಲಿ ದೀಕ್ಷಾಸ್ನಾನ ಹೊಂದಿರಿ. ಆಗ ನೀವು ಪವಿತ್ರಾತ್ಮನ ವರವನ್ನು ಪಡೆಯುವಿರಿ. 39 ಈ ವಾಗ್ದಾನವು ನಿಮಗೂ ನಿಮ್ಮ ಮಕ್ಕಳಿಗೂ ದೂರದಲ್ಲಿರುವ ಎಲ್ಲರಿಗೂ ಅಂದರೆ ನಮ್ಮ ದೇವರಾದ ಕರ್ತನು ಕರೆಯುವ ಎಲ್ಲರಿಗೂ ಸೇರಿದ್ದಾಗಿದೆ" ಎಂದು ಹೇಳಿದನು. 40 ಪೇತ್ರನು ಇನ್ನೂ ಅನೇಕ ಮಾತುಗಳಿಂದ ಸಾಕ್ಷಿಹೇಳಿ, "ಈ ಕೆಟ್ಟ ಜನಾಂಗದಿಂದ ನಿಮ್ಮನ್ನು ರಕ್ಷಿಸಿಕೊಳ್ಳಿರಿ" ಎಂದು ಅವರಿಗೆ ಬುದ್ಧಿಹೇಳಿದನು. 41 ಅವನ ಮಾತನ್ನು ಸ್ವೀಕರಿಸಿದವರು ದೀಕ್ಷಾಸ್ನಾನ ಹೊಂದಿದರು. ಆ ದಿನ ಸುಮಾರು ಮೂರು ಸಾವಿರ ಜನರು ಅವರೊಂದಿಗೆ ಸೇರಿಕೊಂಡರು.

42 ಅವರು ಅಪೊಸ್ತಲರಿಂದ ಉಪದೇಶವನ್ನು ಕೇಳಿ ಅನುಸರಿಸುತ್ತಾ, ಒಬ್ಬರಿಗೊಬ್ಬರು ಸಹವಾಸ ಮಾಡುತ್ತಾ, ರೊಟ್ಟಿಮುರಿಯುವುದರಲ್ಲಿಯೂ ಪ್ರಾರ್ಥನೆಮಾಡುವುದರಲ್ಲಿಯೂ ಪರಿಶ್ರದ್ಧೆಯಿಂದಿದ್ದರು. 43 ಅಪೊಸ್ತಲರಿಂದ ಅನೇಕ ಅದ್ಭುತಗಳೂ ಸೂಚಕಕಾರ್ಯಗಳೂ ನಡೆಯುತ್ತಿದ್ದವು. ಆದುದರಿಂದ ಎಲ್ಲರಿಗೂ ಭಯವುಂಟಾಯಿತು. 44 ವಿಶ್ವಾಸಿಗಳೆಲ್ಲರೂ ಒಂದೇ ಕಡೆ ಕೂಡಿಬರುತ್ತಿದ್ದರು. ಅವರಿಗೆ ಎಲ್ಲವೂ ಸಾಮಾನ್ಯವಾಗಿತ್ತು. 45 ಅವರು ತಮ್ಮ ಆಸ್ತಿಪಾಸ್ತಿಗಳನ್ನು ಮಾರಿ ಬಂದ ಹಣವನ್ನು ಎಲ್ಲರಿಗೂ ಅವರವರ ಅಗತ್ಯಕ್ಕೆ ತಕ್ಕಂತೆ ಹಂಚಿಕೊಡುತ್ತಿದ್ದರು. 46 ಅವರು ಪ್ರತಿದಿನ ಒಂದೇ ಮನಸ್ಸಿನಿಂದ ದೇವಾಲಯದಲ್ಲಿ ಕೂಡಿಬರುತ್ತಿದ್ದರು. ಮನೆಗಳಲ್ಲಿ ರೊಟ್ಟಿಮುರಿದು ಸಂತೋಷದಿಂದಲೂ ಸರಳಹೃದಯದಿಂದಲೂ ಊಟಮಾಡುತ್ತಿದ್ದರು. 47 ದೇವರನ್ನು ಸ್ತುತಿಸುತ್ತಾ ಎಲ್ಲಾ ಜನರ ಪ್ರೀತಿಗೆ ಪಾತ್ರರಾಗಿದ್ದರು. ಕರ್ತನು ರಕ್ಷಣೆಹೊಂದುವವರನ್ನು ಪ್ರತಿದಿನ ಅವರೊಂದಿಗೆ ಸೇರಿಸುತ್ತಿದ್ದನು.

ಅಂಗವಿಕಲನಿಗೆ ಸ್ವಸ್ಥತೆ

3 ಒಂದು ದಿನ ಮಧ್ಯಾಹ್ನ ಮೂರು ಗಂಟೆಗೆ ಪೇತ್ರ ಯೋಹಾನರು ದೇವಾಲಯಕ್ಕೆ ಪ್ರಾರ್ಥನೆಗಾಗಿ ಹೋಗುತ್ತಿದ್ದರು. 2 ಆಗ ಹುಟ್ಟಿನಿಂದಲೇ ಕುಂಟನಾಗಿದ್ದ ಒಬ್ಬ ಮನುಷ್ಯನನ್ನು ಜನರು ಹೊತ್ತುಕೊಂಡು ಬಂದರು. ಅವನನ್ನು ದೇವಾಲಯದ ಸುಂದರ ಬಾಗಿಲಿನ ಬಳಿಯಲ್ಲಿ ಪ್ರತಿದಿನ ಕೂರಿಸುತ್ತಿದ್ದರು. ಅಲ್ಲಿ ಅವನು ದೇವಾಲಯಕ್ಕೆ ಹೋಗುವವರಿಂದ ಭಿಕ್ಷೆ ಬೇಡುತ್ತಿದ್ದನು. 3 ಪೇತ್ರ ಯೋಹಾನರು ದೇವಾಲಯದೊಳಕ್ಕೆ ಹೋಗುವುದನ್ನು ಕಂಡು ಅವರಿಂದ ಭಿಕ್ಷೆ ಬೇಡಿದನು. 4 ಪೇತ್ರ ಯೋಹಾನರು ಅವನನ್ನು ದೃಷ್ಟಿಸಿ ನೋಡಿ, "ನಮ್ಮನ್ನು ನೋಡು" ಎಂದರು. 5 ಅವನು ಅವರಿಂದ ಏನಾದರೂ ಸಿಕ್ಕೀತೆಂದು ಅವರನ್ನೇ ನೋಡಿದನು. 6 ಪೇತ್ರನು, "ನನ್ನಲ್ಲಿ ಬೆಳ್ಳಿಬಂಗಾರ ಇಲ್ಲ. ಆದರೆ ನನಗಿರುವುದನ್ನು ನಿನಗೆ ಕೊಡುತ್ತೇನೆ. ನಜರೇತಿನ ಯೇಸು ಕ್ರಿಸ್ತನ ಹೆಸರಿನಲ್ಲಿ ಎದ್ದು ನಡೆ" ಎಂದನು. 7 ಪೇತ್ರನು ಅವನ ಬಲಗೈಯನ್ನು ಹಿಡಿದು ಮೇಲಕ್ಕೆತ್ತಿದನು. ಕೂಡಲೆ ಅವನ ಪಾದಗಳಲ್ಲಿಯೂ ಕಣಕಾಲುಗಳಲ್ಲಿಯೂ ಬಲಬಂದಿತು. 8 ಅವನು ಜಿಗಿದು ನಿಂತು ನಡೆದಾಡಿದನು. ಅವನು ನಡೆಯುತ್ತಾ, ಕುಣಿಯುತ್ತಾ, ದೇವರನ್ನು ಸ್ತುತಿಸುತ್ತಾ ಅವರೊಂದಿಗೆ ದೇವಾಲಯದೊಳಕ್ಕೆ ಹೋದನು. 9 ಜನರೆಲ್ಲರೂ ಅವನು ನಡೆಯುತ್ತಾ ದೇವರನ್ನು ಸ್ತುತಿಸುತ್ತಿರುವುದನ್ನು ಕಂಡರು. 10 ಅವನು ಭಿಕ್ಷೆ ಬೇಡುತ್ತಾ ದೇವಾಲಯದ ಸುಂದರ ಬಾಗಿಲಿನ ಬಳಿಯಲ್ಲಿ ಕೂರುತ್ತಿದ್ದವನೆಂದು ಅವರಿಗೆ ತಿಳಿದಿತ್ತು. ಅವನಿಗೆ ಸಂಭವಿಸಿದ್ದನ್ನು ಕಂಡು ಅವರು ಆಶ್ಚರ್ಯಚಕಿತರಾಗಿ ಬೆರಗಾದರು.

ಪೇತ್ರನ ಎರಡನೆಯ ಭಾಷಣ

11 ಅವನು ಪೇತ್ರ ಯೋಹಾನರನ್ನು ಬಿಡದೆ ಹಿಡಿದುಕೊಂಡಿದ್ದನು. ಆಗ ಜನರೆಲ್ಲರೂ ಸೊಲೊಮೋನನ ಮಂಟಪವೆಂಬ ಹೆಸರಿನ ಅವರ ಬಳಿಗೆ ಓಡಿಬಂದರು. ಅವರು ಬೆರಗಾಗಿದ್ದರು. 12 ಪೇತ್ರನು ಅವರನ್ನು ನೋಡಿ, "ಇಸ್ರಾಯೇಲ್ ಜನರೇ, ಇದಕ್ಕೆ ನೀವು ಆಶ್ಚರ್ಯಪಡುವುದೇಕೆ? ನಾವು ನಮ್ಮ ಸ್ವಂತ ಶಕ್ತಿಯಿಂದಾಗಲಿ ಭಕ್ತಿಯಿಂದಾಗಲಿ ಇವನನ್ನು ನಡೆಯುವಂತೆ ಮಾಡಿದೆವೆಂದು ನೀವು ನಮ್ಮನ್ನೇ ಏಕೆ ದೃಷ್ಟಿಸಿ ನೋಡುತ್ತೀರಿ? 13 ಅಬ್ರಹಾಮ, ಇಸಾಕ, ಯಾಕೋಬರ ದೇವರು, ನಮ್ಮ ಪಿತೃಗಳ ದೇವರು ತಮ್ಮ ಸೇವಕನಾದ ಯೇಸುವನ್ನು ಮಹಿಮೆಪಡಿಸಿದ್ದಾನೆ. ಆತನನ್ನು ನೀವು ಒಪ್ಪಿಸಿಕೊಟ್ಟಿರಿ. ಪಿಲಾತನು ಆತನನ್ನು ಬಿಡುಗಡೆಮಾಡಲು ನಿರ್ಧರಿಸಿದ್ದರೂ ನೀವು ಆತನನ್ನು ತಿರಸ್ಕರಿಸಿದಿರಿ. 14 ನೀವು ಪರಿಶುದ್ಧನೂ ನೀತಿವಂತನೂ ಆದಾತನನ್ನು ತಿರಸ್ಕರಿಸಿ ಕೊಲೆಗಾರನನ್ನು ಬಿಡುಗಡೆಮಾಡಬೇಕೆಂದು ಕೇಳಿಕೊಂಡಿರಿ. 15 ಜೀವದಾತನನ್ನು ನೀವು ಕೊಂದುಹಾಕಿದಿರಿ. ಆದರೆ ದೇವರು ಆತನನ್ನು ಮರಣದಿಂದ ಎಬ್ಬಿಸಿದನು. ನಾವು ಇದಕ್ಕೆ ಸಾಕ್ಷಿಗಳಾಗಿದ್ದೇವೆ. 16 ಆತನ ಹೆಸರಿನಲ್ಲಿ ನಂಬಿಕೆಯಿಟ್ಟ ಕಾರಣ ಆತನ ಹೆಸರೇ ಈ ಮನುಷ್ಯನನ್ನು ಬಲಪಡಿಸಿದೆ. ಆತನ ಹೆಸರಿನಲ್ಲಿರುವ ನಂಬಿಕೆಯೇ ನೀವೆಲ್ಲರೂ ನೋಡಿರುವಂತೆ ಇವನನ್ನು ಪೂರ್ಣಸ್ವಸ್ಥನಾಗಿ ಮಾಡಿದೆ.

17 "ಸಹೋದರರೇ, ನೀವು ಮತ್ತು ನಿಮ್ಮ ನಾಯಕರು ಅಜ್ಞಾನದಿಂದಲೇ ಇದನ್ನು ಮಾಡಿದಿರೆಂದು ನಾನು ಬಲ್ಲೆನು. 18 ಆದರೆ ಕ್ರಿಸ್ತನು ಬಾಧೆಪಡಬೇಕೆಂಬುದನ್ನು ದೇವರು ಪ್ರವಾದಿಗಳ ಮೂಲಕ ಮೊದಲೇ ತಿಳಿಸಿದ್ದನ್ನು ಹೀಗೆ ನೆರವೇರಿಸಿದನು. 19 ಆದುದರಿಂದ ನೀವು ಪಶ್ಚಾತ್ತಾಪಪಟ್ಟು ದೇವರ ಕಡೆಗೆ ತಿರುಗಿಕೊಳ್ಳಿರಿ. ಆಗ ನಿಮ್ಮ ಪಾಪಗಳು ಅಳಿಸಿಹೋಗುವವು. ಕರ್ತನ ಸನ್ನಿಧಿಯಿಂದ ನಿಮಗೆ ಉಲ್ಲಾಸದ ಕಾಲಗಳು ಬರುವವು. 20 ಆತನು ನಿಮಗಾಗಿ ಮೊದಲೇ ನೇಮಿಸಿರುವ ಯೇಸು ಕ್ರಿಸ್ತನನ್ನು ಕಳುಹಿಸಿಕೊಡುವನು. 21 ಆತನು ಪರಲೋಕದಲ್ಲಿ ಇರಬೇಕಾಗಿದೆ. ಏಕೆಂದರೆ ದೇವರು ಪ್ರವಾದಿಗಳ ಮೂಲಕ ಪುರಾತನ ಕಾಲದಿಂದಲೂ ಹೇಳಿದ್ದಂತೆ ಸಕಲವನ್ನೂ ಪುನಃಸ್ಥಾಪಿಸುವ ಸಮಯ ಬರುವವರೆಗೆ ಆತನು ಪರಲೋಕದಲ್ಲಿ ಇರಬೇಕಾಗಿದೆ. 22 ಮೋಶೆಯು ಹೇಳಿದ್ದೇನೆಂದರೆ,
ನಿಮ್ಮ ದೇವರಾದ ಕರ್ತನು ನಿಮ್ಮ ಸಹೋದರರಲ್ಲಿ
ನನ್ನಂಥ ಒಬ್ಬ ಪ್ರವಾದಿಯನ್ನು ನಿಮಗಾಗಿ ಎಬ್ಬಿಸುವನು.
ಆತನು ನಿಮಗೆ ಹೇಳುವ ಎಲ್ಲವನ್ನು ನೀವು ಕೇಳಬೇಕು.
23 ಆ ಪ್ರವಾದಿಯ ಮಾತನ್ನು ಕೇಳದವನು
ಜನರಲ್ಲಿ ಇರದಂತೆ ನಾಶವಾಗುವನು.
ಎಂದು ಹೇಳಿದ್ದಾನೆ. 24 ಸಮುವೇಲನಿಂದ ಮೊದಲುಗೊಂಡು ಅವನ ನಂತರ ಬಂದ ಪ್ರವಾದಿಗಳೆಲ್ಲರೂ ಈ ಕಾಲವನ್ನು ಕುರಿತು ಹೇಳಿದ್ದಾರೆ. 25 ನೀವು ಪ್ರವಾದಿಗಳ ಸಂತತಿಯವರು. ದೇವರು ನಮ್ಮ ಪಿತೃಗಳೊಂದಿಗೆ ಮಾಡಿಕೊಂಡ ಒಡಂಬಡಿಕೆಯಲ್ಲಿ ನೀವು ಪಾಲುಗಾರರು. ಆತನು ಅಬ್ರಹಾಮನಿಗೆ,
ನಿನ್ನ ಸಂತತಿಯವರಿಂದ
ಭೂಮಿಯ ಎಲ್ಲಾ ಜನಾಂಗಗಳು ಆಶೀರ್ವಾದ ಹೊಂದುವವು.
ಎಂದು ಹೇಳಿದನು. 26 ದೇವರು ತಮ್ಮ ಸೇವಕನನ್ನು ಎಬ್ಬಿಸಿ ನಿಮ್ಮ ಬಳಿಗೆ ಮೊದಲು ಕಳುಹಿಸಿದ್ದು ನಿಮ್ಮಲ್ಲಿ ಪ್ರತಿಯೊಬ್ಬನನ್ನು ಅವನವನ ಕೆಟ್ಟತನದಿಂದ ತಿರುಗಿಸಿ ಆಶೀರ್ವದಿಸಲಿಕ್ಕಾಗಿಯೇ."

よけん牛 べー、あんぢよの ひとうき ゆのいまおがろーを そ、おりさる ものいゆめを
そん。18 それ そのとき ひげ けあん けぢよの うんよ そさまを あげさん、めれよも
よけん牛べー。19 それ うんの てんよ ふーぎ、ちさの ちよ ちるー、すあそち 血 tchi ちど、
火 hito ひと、けむりの くもとを あとそさん。20 きさの おそひあるる いちとるーヨ 日 hino ひの きさる
とーざる さきよ ひい 日 hiya めそりて くとく あとん、すくそれんと。
21 すべてきさの あを よび そのむ ゆのい あんぢよの ちる
Imeluno
22 いまとえるの ひとびとよ、このことをきけ、あざれの Nazareno あすい あんぢよの ちる
ごとく かえ めれよ よりて あんぢよの ひざと あーぎと
ちるーを ゆりて あんぢよ あうーうる ところの ひとあり、23 めれい かえの
さざめさる ひねと あとうとめ ちり さきまへ ところよ めあみて ところされんば
あんぢよい むそうの ゆの～てよ よりてこれを 5,6, korewo toraye もりつけるーてころせり。24 されど
かえその ちの くるーそを ときてこれを よそぐんとせさまんくり、めれが ちよつあ
ケれ そうい あさそざりー ことあれば あんぢよの Debide ひざを あ今の ことよ つりて
Cf 16:8—11
いんり、それ かえのつねよ ひげ まんよ いあ今
ゆあよ それ ふるそれざる べー。26 これ よりて ひげ こころい よろこび、ひげ

ちるい よろこびをもつせり。めり ひげ ゆくさのいのぞそよや今なん。27 あるさん
ひげ さまーひを よそよ すて ありや、あるさの きさる ものを くちざとーむるよ
よりてあり。28 あるさい いのちの そちを
されを よろこびよ そるーめんと。
29 きやうぢのよ、それ そうとぢ せんぞ ざびぞよ つりて あんぢとよ めりさる べき
あり。めれい ちーて そうむとれさり、その そうい こんるちよ いさる まそ それ
とのうちよ あり。30 めれい よけんーやう Cf 89:3,4 かえ めれと ちうひを そて～ その
こーの ちそんの うちの ひとりを その くとるよ つうーめんと ちうひ さまんくるを
ちり、31 めり あとうとめ この ことを さとり きりをとの よそぐんくりよ つりて、
めれい よそよ すて ありれぎ、その ふくそ 6, ii, sono tamaçiiwa yomini
あすを よそぐんとせ さまんくり、それとうの そ ちる その ちようこるん あり。33 これよ
よりて めれい かえの そぎよ あけとれ、めり ちうの やくそく ーさまひさる きふヨ
そさまを うけて いま あんぢとげ そきて～ する ところの ものを あげせり。34 さび
ぞい てんよ のがりー こと あー、されど Cf 110:1 きそ ひげ きそよ いひ
けるん、35 それ あんぢの てきを あんぢの あーざのと あす まそ ひげ そぎよ ざん

ーンの男たちは、かれらの主人の食べのこしを、[43]ほしがっている。[44]主人たちは、ごちそうをたべ、ワインをのんでいる。[45]ルカ伝第十六章二十一節。[46]ラザロは、金持の門前に、できものだらけになって、ねていた。[47]犬までが、かれをなめに来る始末だった。

1, 2, 3, 4, karerani kuwaye; 5, 6, kyoukwaini kuwaye

第三場　二人ぜんの男たち

Genponni, dai kokonots doki

[1]（原本には、第何の場だか、書いてない。）[2]ひとつの食卓をかこんで、ふたりの男が、むかいあって、すわっている。

Peteroto Yohaneno

[3]ペテロとヨハネである。[4]ふたりとも、ひどく、酔っぱらっている。[5]ペテロは、ワインのびんを、ヨハネは、ビールのびんを、それぞれ、手にもっている。[6]ふたりとも、ろれつが、まわらない。

1, 2, 5, yorite ayume

[7]よろよろと、よろめきながら、歩いている。[8]ふたりとも、ひどく、酔っぱらっている。

5, 6, tomoni miyani

[9]ともに、みやこを、見物している。

ヘロデ、ピリポの兄弟ヘロデがイトラヤ、トラコニテ地方の領主、ルサニヤがアビレネの領主、
2 アンナスとカヤパが大祭司であったとき、神の言が荒野でザカリヤの子ヨハネに臨んだ。
3 そこで彼はヨルダン川の全地方に行って、罪の赦しを得させる悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。
4 預言者イザヤの書のことばに、
「荒野で呼ばわる者の声がする。
『主の道を備えよ。
主の通られる道をまっすぐにせよ。
5 すべての谷は埋められ、
すべての山と丘は低くされ、
曲がったところはまっすぐになり、
でこぼこ道は平らになり、
6 すべての人は神の救いを見る。』
7 ヨハネは、自分からバプテスマを受けに来た群衆に言った。「まむしの子孫たち。だれが、来たるべき御怒りをのがれるように教えたのか。
8 悔い改めにふさわしい実を結べ。自分たちの父はアブラハムだなどと思っても、心の中で言い始めるな。あなたがたに言うが、神はこの石ころからでもアブラハムの子を起こすことができる。
9 斧はすでに木の根元に置かれている。だから、良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ入れられるのだ。」
10 群衆は彼に尋ねて、「それでは、私たちはどうすればよいのですか。」と言った。
11 彼は答えて言った。「下着を二枚持っている者は、持たない者に分けてやれ。食物を持っている者も同じようにせよ。」
12 取税人たちもバプテスマを受けに来て、彼に言った。「先生。私たちはどうすればよいのですか。」
13 彼は言った。「規定以上のものは取り立てるな。」
14 兵隊たちも彼に尋ねて、「私たちはどうすればよいのですか。」と言った。彼は言った。「だれからも力ずくで金を奪い取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ。」
15 民衆は期待に胸をふくらませ、ヨハネについて、もしかすると彼がキリストなのではないかと、皆が心の中で論じ合っていた。
16 ヨハネは皆に答えて言った。「私はあなたがたにバプテスマを授けますが、私よりも力のある方が来られます。私はその方のくつのひもを解く値うちもありません。その方は聖霊と火であなたがたにバプテスマを授けます。
17 その方はみ手に箕を持って、ご自分の打ち場を隅々まできよめ、麦を倉に集めますが、もみがらは消えない火で焼き尽くされます。」
18 ヨハネはこのほかにも多くのことばで勧めをし、民衆に福音を宣べ伝えた。
19 しかし、領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロデヤのことで、また彼が行ったすべての悪事のことで、ヨハネからとがめられたので、
20 ヨハネを獄に閉じ込めた。ヘロデはこれにさらに悪事を加えた。
21 さて、民衆がみなバプテスマを受けたとき、イエスもバプテスマを受けられた。そして祈っておられると、天が開け、
22 聖霊が目に見える形で、鳩のように彼の上に下られた。すると、天から声があった。「あなたは、わたしの愛する子、わたしの喜ぶ者である。」

さーて よけん せり。 25 あんぢとん よけるーやさちの ちそん ありめつ かさ これよの せんぞさちと さうる ところの やくそくす あそち ぜんこくの ひとびとん あんちの すえよ よりて さんそひを えんと あぶよとむよ いひさまひー やくそくを うけつぐ もの あり。 26 かそん その こをあげ、 あんぢと おのあのを あく よりひきめんーて さんそひを えんやーめん さあよ まげ めれを あんぢとよ つうそせり。

さん 四 ーやう

めれとげ ひとびとよ めさられる とき めんぬーとも、 そやゆりぐうさ おようひ さちうのひとの めれとよ きうり、 2 そのささを そーんへめうあすの ことよつけて ちよりの よそぐんりを のぶる ことを うれひ、 てを つけて これを とーゆ、 3 とき すぐよ これければ あくる ひまで ろうやよ いれおけり。 4 ちうるよ おおくの ひとびとの めぜん〔おようそ〕ごぜんまん あり。 5 あくる ひよ ありて つうさうさち、 とーふり、 ちよやく、 6 おようび めんぬーの おさ Anna, Kayafa, Yohane, Aleksanderuto あんま、 まさめやむ、 よそね、 あれきさんぢると めんぬーの おさの すべての ちんるの あうさられむよ おのて あつまり、 7 あうさりの ちーやを あうよ さて〜 とひけるん、 あんぢと あうの けん、 あうの あよ よりて これを おくるひーう。 8 その

Petero ぺてろ めーあり そーさられて めれとよ いひけるん、 1,2,3, toqiyori ; 5, 6, Israelnuno toqiyori さささ おようび とーふりとやよ、 gg これと ゆー ひようるんよ おくるひくる よの ことよつき この ひとん いうるーて いやさられーうと こんるもち ささられあび 10 あんぢとと いすとえ うの ーさ そるこれを そるべー、 あんぢとげ もりつけるーて かそのの よそげんとせ さまひうる あぎれの あす きり すと、 その あよ ようて この ひとん いやさられて こーよ あんぢとの まんよ さてり。 11 これ すべて よれーところの いーいんの すさの おやのーと ありる ものあり。 12 このあうよ すくひ あること あー、 そん、 てんの ちる、 さのそて すーそる べき あうの あを さまそぎれば あり。

13 めれとべてろと よそねの さんさん あるを そ、 そのむうく あそのひと あるを ちりて これを あやーあり、 まー その めつて ことを さとれり。 14 めつ いやさられる ひとの めれとと そて これを いひけす べき ことを えぎりる。 15 こーよ おのて めつの ひやうぢやうしよ 評定所 hyoujouzo めれとよ めのとて ひやうぢやうしよ より いでーめ、 あひ そうりて いひけるん、 16 めれとげ いちとるーる あーぎの ひさを おこるひー ことん すべて ちるされむよ すめる もの

よあきとうよ ちれくり、ひれと これを いひけすこと あるそや。17 ちうれとも この
ことの ゆそや さその うちよ ひろげよぎる やうの れよを おびやらーて この のち
5,6, kibiçku; 1,2, 3, 5, noszu
その あよ おりて ひとよ めさる こと をーゆる ことを あす あうれと いま
あすの あよ つりてん すこーも めさる こと をーめくり。19 べそろ よそね こころくて いひ
きくん かその まくよ おりて そぐーきうと さぐりよ。20 ひれと いまだ
そー ところ、きくー ところの ことん いそぎるを えず。21 ひとびと その ありー
ことの さめよ かそを ゆめされん つうさとも そそを おそれて のれとをたつすると
よー あく、あや これを おびやうーて ゆるせり。22 この あーぎ ある ひぎよ よりて
いやされる ひとん ちとうさの あまり ありき。
23 のれと ゆるされーうん その ともの ゆとよ ゆきて おゆき めんゆーと とーふり
ともの いひー ことを ことごとく つけさらん、上帝 Jouthyo 24 のれと これを きうて こころを あも
せ のそよ むうひ こあを あけて いひけるん、ぎやうていよ、 あるうん てんとも ちと
うそと そのうちの ぞんもうとを つくりうる ものの あり。25 めうて あるうの ちゆぐ
さびぜの くちよ よりて いひさまくり、あよ ゆあよ いとんん さそぎ うち、うそん
Gi 2:1,2

むまーg ことを そうるう。26 ちの どうさとゆん めと おふび
そのの きり今とよ さうとふて あつまれりと。27 そうーて へうそ、やんぞよ ぴとと、
いとんん おふび いまとそるの うそん おこるそるーやうよ 28 あるうの てと そごころの
あとうとめ さうめ さものー ことを あさうん さめよ あるうの あぶとを そうぎうる
きうるg こあすよ さうとふて このの そやこと
おびやうーを そ さまん、めの あるうの
ちゆぐともよ ぶらうんを ゆうて そこと
をを のふる ことを えさを、30 まう いやす さめよ おんてを のそー あるうの
きうるg こあすの あよ よりて そうーと ふーぎを おこるそを さまん。
31 いのり をそりーとg そのの あつまれる ところ ふうるそれ、そるきうるg そうまよ
そうされ まう さのうんを ゆうて めうの ことそを のぐうり。32 おゆせりの ちん
とやん こころれ ひとつうー、おゆひを ひとつうーて ひとりゆその ゆそる ものを
おのが ものと いそを、そる すべての ものを とゆよ せり。33 ちーやうち おそひ
ゆる ちうとを ゆうて きそ あすの よそぐくりの ちようこを そて めうれとの そる
おそひゆる めぐそを めふむれり。34 めれとの うちよ まぐーg ものの あー、いろん
と あれん でんち あるひん いく ある ものん これを うりて その うりうる ゆの〜

○ ちーやの ころぎ さん 四 ちやう

さらうを もちきうりて 35 ちーやうちの あーゆとよ おきーぐ おのあの〳〵 いりこう
Kuproni
ずけこれを ころけ あさふれびあり。 36 くぷろうよ むまれうる れびの ぞうの よめふと
Lobiino 1, 2, 3, 5, Yosefuto; 6, Yoseto
いふ ものあり、 ちーやうち これを だうまぐび すあそち とけび あぐさその ちやく
Barnuba
ーとあびく、そのひとでんぢありけるび これそうり その ゆねを もちきうりて
ちーやうちの あーゆとよ おけり。

さん 五 ーやう

Ananisto
そうるよ ひとり あまよやと いくる ものの けんよ ぞくすのを
Safirato
うり、 2 つまも どうのーて そのさうりの いくぶんうをゆち
きうりて ちーやうちの あーゆとよ おきうり。 3 べそろ いひけるん、あまやよ、
Satanni
あよ ゆあよ あんぢの こころ さうんよ そうさまよ いうをりひ、
ぢめんの さうりの いくぶんを めうす ことを せーや。 4 いまぶ うとぐる ときん
あんぢの ものよ あよぎや。 うりてのち そのぢうん あんぢの けんよ ぞくすると
あよぎや。 あんぢ あんぞ この ことを こうろよ くそぶてーや。 あんぢん ひとを
いうそるのと あよぎ、おそを いうそる ありり。 5 あまうやや これとの ことをを きく〳〵
そふれて いうこそうり。 おそひまる おそれ すべて これを きく ゆの〳〵 こころよ

ちやうぎ。 6 つうよ ころうる ゆのとも そうて これをつくと、かる いづーて わうもり
うり。 7 さんとうんわどすぎーころ そのつまありーことを ちとぶーてうりさる
もり。 8 べそろ これよ そふて いひけるん、あんぢとが でんぢを うりー あうひん
これ わど あるう、これよ つけよ。 9 ゆれ いひけるん、ちうり、これ わど あり。
べそろ いひけるん、あんぢよ とゆよ そうりてきその そうまをところうそうるん あん
ぞや。 そよ、あんぢの をうことを わうもりうる ゆの〳〵 あーん すぐよ ゆんよ ちう
らけり、まう あんぢうる ゆの いぐす べーー。 10 そんる こうちよ そのあーゆとよ
そふれて いる そそうり。 ころうる ものとも いりて そのすぐよ ちーうるをそこれを
ゆる いづーて をうことの ゆうそよ わうもりうる おそれ きやうこうを
いの ひとびと おゆび すべて これを さく ゆの〳〵 こころよ ちやうぎ。
12 ちーやうちの てよ よりて ちうる ひぎ おそく こその うちよ おこ
あそれうり。 ゆれよりそる こころを ひとうる ーて そうゆんの けんこうる んよ あり。
13 わうの ゆのん あんて これよ つうぎりる、 ころん ゆれうを うやあくり。
14 あんうるとも そんぎる ゆの きその ゆうよ こそんとれうり。
15 ゆうて ひとびと びようるんを とうりよ こうさく きうりてこれをねどこ ふとんの

○ ちーやの ころぎ さん 五 ちやう

ヒンドゥの中の ゆゃゃ ゃゃゃ ロぜゃ ゃゃ ゃ、ゆらゃゃ ゃゃゃ
ゃゃ ゃゃゃ ゃゃ ゃゃ ゃゃ ゃゃ。[23] ゃゃゃ ゃゃゃ
ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ。[23] ゃゃゃゃゃ ゃゃゃ
ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ
ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ。[31] ゃゃゃ ゃゃゃ
ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ。
ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ
ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ。[17] ゃゃゃ
ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ ゃゃゃ

33 かたは ハロは ルー ハハルは ルールかたは ルーかハハは ハハルはは ルー
ルは。 34 ハハハ かは ルは ルかたはかたハは ルハルは ルハルは ルー
ルは。 Gamalieluto
ルー かはハハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルー かは ルー
ルは ハハルは ルー ルハルは。 35 ルは かはハハ ルハルは ルハルは ルー
ルは ハハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルー ルハルは。
36 ルハ ルハルは ルハルは ルハルは Tiuda ルハルは ルハルは ルハルは ルー
ルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは。
37 ルは ルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは ルハルは
ルハ

Timon, Parmena, Antiokiano Nikolawo
ニコラオ、ペルメナ、およびアンテオケのユダヤ教改宗者ニコラオを選んだ。
1, 2, 3, 5, Stefano megumito
6 彼らを使徒たちの前に立たせると、使徒たちは祈って、彼らの上に手を置いた。
Libertinto
Kureneto Aleksandriano Kilikiabito, Açiabitono
9 そこで、いわゆるリベルテンの会堂の人々、クレネ人、アレクサンドリア人、キリキア人、アシア人の中から、ステファノと議論する者が立ったが、
10 彼は知恵と彼を語る御霊とに対して、立ちはだかることができなかった。
11 そこで、彼らは人をそそのかして、「我々はこの男がモーセと神とを汚す言葉を語るのを聞いた」と言わせた。
12 こうして民衆と長老たちと律法学者たちとを扇動し、襲いかかって彼を捕らえ、議会に引き出し、
13 偽証人たちを立てて言わせた、「この人は絶えず聖なる場所と律法とを冒瀆する言葉を語っています。
14 我々は、この人がナザレのイエスはこの場所を壊し、モーセが我々に伝えた慣わしを変えるだろう、と言うのを聞いています。」
15 すると、議会で席についていた人々は皆、彼の顔が御使いの顔のように見えるのを見つめた。

ステファノの説教

7 そこで大祭司が、「それは事実か」と言った。
Abrahamu Karanni Mesopotamiani
2 彼は言った、「兄弟たち、父たちよ、聞いてください。我々の父アブラハムがハランに住む前、メソポタミアにいたとき、栄光の神が彼に現れ、
Souseiki 12 : 1
3 『あなたの国と親族とを離れ、わたしが示す地に行きなさい』と言われました。
Abrahamu Kaldaino
4 そこで彼はカルデア人の地を出てハランに住みました。そこから、父が死んだ後、神は彼をこの地に移住させました。
5 しかし神は、ここでは彼に相続地の一歩をも与えず、まだ子もいない彼にこの地を与えて所有させると約束されました。
Souseiki, 16 : 13, 14
6 神はまた、こう言われました、『彼の子孫は他の国で寄留者となり、四百年の間奴隷にされ、虐げられる。
7 しかし、彼らが仕えることになる国民を、わたしは裁く、と神は言われた。その後、彼らは出て来て、この場所でわたしに仕えるようになる。』

○ ちーやの ひぎ すら 七ちやう

ところの くるびとを さそろん、のちよ めれよ
つろぶべーと。 8 まく あぶとも もよ められの
Isakuwo
てらさくを うまー とぎ やうろ めよ これよ
ぶを うま、やそぶ おうろの せんぞを うめり
Eijiptoni
これを えじぷとよ うれり。 10 かを めれと とぎ
そのうちより せくひ いづー、めろ えじぷとの
あくんて めぐそを うけさちをられば ひろ これを
ちうを つろさとー めるり。 11 さて さくん えじぷと、めるんの すべその ちよ
ひろぐりて おそひある くるーそ あり、ひれとの せんぞも ちよろくめろを えぎ
りー。 12 やそぶ えじぷとよ こくめろ ある ことを さくて まづ ひれとの せんぞを
つろそをり。 13 おとめよ おふびてよめえふんさやうぶちよろくめろを えぎ
ちんぞく そろよ そられる。 14 つろよ よめえふ いひろうそーて その ちくの やこ
ふと すべその ちんろら ちちとう ごるんを よべり。 15 めくて やそぶ えじぷとよ
くぶり、めれも ひれとの せんぞそらも めーこ ちよ おろて ちをり、16 のち ちけむよ
おくとれ、あぶとも もげ めねを もろて ちけむよ そるへゆるの ことも より めひー

Sou 17 : 10

Sou 37 : 38

Yosefuwo

Farono

Eijipto, Kananno

Sou 41 : 54

Sou 45 : 9

Sonseiki 23 : 17, 18; 38 : 18; sunawaki Abrahamuga kanewo motte (kaiqi tokorono hoka, mata Yakobuga) Çikemuni oru

Çikemuni

とくろの そろよ ろうもとれる。
17 かそのの あぶとも もよ つぶ さまひー ところの やくそくの とぎ ちろうよ ければ
Cutsu, 1 : 8
18 よめえふを さとざる えじぷとの ろうの ひろ おそ
おそく あれり。 19 そのの ひろ ろうやちを ゆろて
ろちを むどく せり、そん めれとよ その おさ
すてさせんぐ さめ あり。 20 ときよ ゆうを むまれて いとう そーく ありけるが
そろきの あひる ちくの りくよ そさそとれる ひぎとよ
むすめ これを ひろひ あび おのれの ことーて やーるんり。
22 ゆうを ことぐとく えじぷとびとの がくゆうを そーくとれて ことぐとよ
おりてまされり。 23 とー さとうよ おふびー とぎ その さやうぐらの あるいすとえるの
ろそろんを めくりそろの ころろ おこれり。 24 さて ゆうを めれとの うちの ひとりが
Mouseuwa
りを さるろを そてこれを まもりめろ むりを うくる ものよ めそり あぐを むく
ひて えとーぶとびとを うちころせり。 25 ゆうを
Cutsu, 2 : 11—14
すくひ さまもえん ことを その さやうぐらの ものを さとる あとーんと おゆんり、されど
めれと さととさりて。 26 つぎの ひ ふろりの ゆ

○ ちーやの ひぎ すら 七ちやう

それて やもよげ いひけるん、ひとびとよ、あんぞ
さうひよ ふぎを おこあくや。27その とゆよ
いひけるん、それろ あんちを さて〜 されとの つうさ さをきるんと あせーろ。
38あんち きのふ えとぷとびとを ころせー ぐとく されをも ころさんと すさろ。
29ゆうを この ことぢを さ〜 のかれて、そぐやんの ちよ さびとと〜 あり、めー
ことよ おりて ふさりの むすこをうめり。30すぐ
ちありのぎんの のよ おりて 小木 ぜうがくの ゆゆる ひの わのその うちよて ゆうをよ
あとそれさり。31ゆうを そて そのそー ところの ことを あやーを これを そと
めんとちうより ければ かその こを あり、いもう
かを、すあもち あぶ〜もを、いさく、やこぶの かをりと。こうよ おりて ゆうを
おのうぎ あんて そとめぎりき。33かを めれよ いひけるん、あんぢの あーの ざう
りを ぬけ、あんぢの ざう ところん さよき ちまれば あり。34されん えとぷとよ
ある ひげ さその あんぎを そとめ めう その あけきを きて これを すこひ いざ
さん さめよ さされり。いぎ きされ、されも あんぢを えとぷとよ つうをさんと。
35それ、めれとげ こをそて されう あんぢを さて〜 つうさ さをきるんと あせー

やと いひー ところの この ゆうをを かそん
つうひの てよ より つうさ すこひとうて あとそれさる
えとぷと、紅海 あうみを まく ちとう ねんの あひよ
ーをを おこあり て さそを ひきる いざせり。
87いすとえるの ちそんよ つけて、かそん あんぢとの さめよ
ことき ひとりの よけんーやを あんぢとの さめよ おこー さをんとう いひー ものの
この ゆうを あり。38めれんの〜 あうまりよ や
めこりさる てんの つうひ おるび されとの せんぞ
あるさん さめよ いのちの そことをを うけー もの
めれよ ちさげふことを このまず、めんて こ
とよ めんとうとわうー て 40あろんよ いひけるん、これを ちりぞけ そのこころん えとぷ
されとの さめよつくれよ、それ、されとを そ
のの ゆうやん いうよ ありーう されと ちとぐされば あり。41そのころ かれとの こうーの
ぞうを つくり これよ いけるんを さてげて おのれの てのひとぎを よろこべり。
42これよ よりて かそん そすて〜 めれとげ てんの ぐんせうを まつるよ まうを さま

くり。これ よけんーやの ふそよ ちらさられぐらが でとー、いそく、いすとそらの
いんくよ、あんぢとん ちどうねんの あひざ のよ おりて わふりさる まんと そあん
ものを ひれよ さそけーや。43 あんぢとん Molokuno ゆうくの まくやと あんぢとの かを
れんちんの Remfamno わー すあそち あんぢとげ まつる くあよ つくりさる ぞうを あけり、
この ゆあよ ひれ あんぢとを Babilonni そびろんの むりみよ うつさんと。
44 かそ の ゆうせよ めさりて、あんぢげ そー ところの ひあげさよ ちさげて
まくやを つくる べーと めの せー ごとく つくる Yoma, 2:14 をようこの まくや の よ おりて
ひれとの せんぞそちよ ありー。45 めれとん このまくやを うけられば よーうあと
ともよ これを さげさんくて いとんの さあ~ いれり。めそん ざびぞの ときよ いさる
まそ その いとんとを ひれとの せんぞそちの まん より おひりざー ~まんくり。
46 さびそ かそ の まんよ めぐそを えそて やくふの かそ の さあよ すまるを まうけん
ことを もとめり。47 つひよ そろ~ゆん かそ の さあよ いんくを さてさり。48 ちうー
Yoma, 6:1
さあげと ゆうとも さうゆ ものん てうて つくられる いんくよ すき さまそぞ。49 よけん
Ye. 66:1
ーやの いんくタげ ごとー、すあそち かそ いひさまそく、てんん ひげ ざするくとる
あり、ちん ひげ あーざん あり。あんぢとん ひげ さめよ いろあるる いんくを さてんや。

ひげ やすむ ごと ところろん いらくと あるや。50 すべて これとの ものん ひげ てのつくる
ところろよ あとぶや。
51 つゆゆ さびあり かつ ここととと さささとと めつれのをうけざる ゆのよ、あんぢ
とん つねよ さゆゆ さささよ さろとふ、あんぢとの せんぞさちの あせー ごとく
あんぢとも めく あす あり。52 あんぢとの いんくを ちらさる ことよ つのて よけんせー ゆめ~
せめざりー。めれとん さとー ゆの~ さささる ことよ つのて よけんせー ゆめ
とをを ころせり。あんぢとん いま その さびをうとぎり めろ ころーさる
ものと あれり。53 あんぢとん てんの つろひさちの とりあろひよ よりて おきてを
うけされども これを まもとざりき。
54 めれとん このことをきゝて ここととを さー とあさられ、すてをのよ むろひて そげを
せり。55 ちろさよ めれん さゆゆ さささよ そさるよ そさるとを
えのろうと あすげ かそ の さぎよ そてるとを そて いひけるん、56 そよ、ひれ てん
ひとけて かそ の そぎよ まんひんの むすこの さそるをそる。57 こさよ おりて めれと
おそごあよ よをそり さとを ふさぎ ここととを あそをせて めれの ゆとよ めけより、
58 これを まち より おひりざー いーを あびて これを うてり。ちろうこるんとる

おのれの うそぎを さうろと いくる ひとうき ゆの〳〵 あーゆとよ あづけ おけり。
59 めれとげ いーを あげて すてなのを うてる とき めれ いのりて、きこ 為今よ、
ひとげ さちーひをう けさまんと いくり。 60 めろ ひざまづきて おわごあよ よをそり
いひけるん、ささよ、この つそを めれとよ おもーむる あうれ。 めく いひ をそ
りて ねむりよ つけり。 さうろ めれの ころされーことを よーしと せり。

すの 八 ーやう

この とき あらされむよ ある さやうくをのを おこりて ちーや
Yudayato Samariano
ころの わうん そる ゆざやと さまりやの ちよ ちよされうり。 2 ちんとん ある ひと
Stefanowo
ひと すてをのを めき いざー そうよ おうめて めれげ うあよ おわひある めーそを
あをり。 3 さうろん きやうくをのを おとー いんくんくよ いり そとこ そんあを ひき
いざーて これを らうやよ ころをり。 4 さて ちよされうる ゆのとゆん ちそふよ
Filipo Samariani
ゆきて そことをのぐり。 5 ひりか さまりやの まちよくぐりて きり すとの ことを
のべーうべ 6 おわせのの ひとびと ひりかの おこあひー ところの ちるーをそきう
して こころを おるとふーつくーそて その いんくる ことをきけり。 7 そん ふけうの
あくま おわごあよ さけびて その とりうられる おわうの ひとより いで、まる

ちうきをやむ ゆの、ちんび おわく いやされん あり。 8 こころよ おりて その
まちよ おわひある よろこび ありき。

Yimonto
9 その まちよ ひとり ちゆんとう いくる ゆの あり、めれん ゆと まそふをおこあひ
さまりやの さそを おとろうーめて そびうとをおわひある ものと せり。 10 ひとびと
せう よりず ざのよ いさる まで、これ めその おわひある ちらくーと とあんくとうく
ひとと ありと いひて そる つくーんで これをきけり。 11 めれとん ひさーくその まそ
ふよようて おとろうされー ゆあよ めくつくーんで これをきーー あり。 12 ちうれ
とも びりかげ かその まうりごとの さのそひの おとびられと 為今きり今との まを
のべー とき ひとびと これを ちんとて そとうる をんあも ちびめを うけさり。
13 めつ ちゆんも ちんとて ちびめをうけつねよ びりかと とゆよ ありそのおこあふ
ところの ちるーと おわひある ふーぎを そて おとろきさり。

14 あらされむよ そる ちーやさち さまりやひとん かその ことをを うけさりと
きうて そてろと よそねを めーさよ つうそをり。 15 この ふさり くぐりて めれとげ
きうる そるまを うけん ことを いのれり。 16 そん、めれとん きこ 為今の あよ
おりて ちびめとれー のそうて きうる そのうちの ひとりも

ひとりの人が、ヨハネのところに来て、永遠の命を得るには、
どんな善いことをしたらよいでしょうかと言った。[17] イエスは
彼に言われた、なぜ善いことについて、わたしに尋ねるのか。
善い者はひとりだけである。[18] もしいのちに入りたいと思うなら、
戒めを守りなさい。[19] 彼が、どの戒めですかと言うと、イエスは
言われた、殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、[20] 父と
母とを敬え、また、自分を愛するように隣人を愛せよ。[21] 青年は
言った、それらのことはみな、守ってきました。まだ何が欠けて
いますかと言った。[22] イエスは彼に言われた、もしあなたが
全きものになりたいと思うなら、行って持ち物を売り払い、貧
しい人たちに施しなさい。そうすれば、天に宝を持つであろう。
また来て、わたしに従いなさい。[23] 青年はこの言葉を聞いて、
悲しみながら去って行った。多くの財産を持っていたからで
ある。[24] イエスは弟子たちに言われた、まことに、あなたがた
に告げる。富んでいる者が天の国にはいることは、むずかしい
ものである。[25] 重ねて言う、富んでいる者が神の国にはいるよ
りは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。[26] 弟子た
ちはこれを聞いて、ますます驚いて言った、それでは、だれが
救われることができようか。[27] イエスは彼らを見つめて言わ
れた、人にはそれはできないことだが、神にはできる。神には
どんなことでもできるのである。[28] ペテロがイエスに言い出
した、ごらんのとおり、わたしどもは自分のものを捨ててあ
なたに従ってきました。[29] イエスは言われた、まことに、あ
なたがたに告げる。わたしのため、また福音のために、家、兄
弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者は、[30] 今の時代において、
迫害と共に、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を百倍にも受け、
また後の世では永遠の命を受けないものはない。[31] しかし、
先にいる多くの者があとになり、あとにいる者が先になるで
あろう。[32] 一行がエルサレムへ上って行く途中であった。イエ
スは先に立って行かれ、弟子たちは驚き、また従う者たちは
恐れた。そこでイエスは再び十二弟子を呼び寄せて、自分の
身に起ころうとしていることを話し始められた。[33] すなわち、
わたしたちがエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長た
ちや律法学者たちに引き渡され、彼らは人の子に死刑を宣告
し、[34] 異邦人に引き渡すであろう。異邦人は彼をあざけり、

Etiopiano Kandakeno Gasani

ののしり、つばきをかけ、むちで打ち、殺すであろう。しかし、
三日目によみがえるであろう。[35] ゼベダイの子ヤコブとヨハネ
とがイエスに近づいて来て言った、先生、わたしどもがお願
いすることは、なんでもかなえてくださいますようにと言っ
た。[36] イエスは言われた、あなたがたのために、何をしてほし
いのか。[37] 彼らは言った、栄光をお受けになるとき、わたしど
もの一人をあなたの右に、一人を左に座らせてください。[38] イ
エスは言われた、あなたがたは、自分が何を求めているのか
わかっていない。わたしが飲もうとしている杯を飲むことが
できるか、わたしがバプテスマを受けようとしているバプテ
スマを受けることができるか。[39] 彼らは言った、できます。
イエスは言われた、わたしが飲もうとしている杯を飲み、わ
たしが受けようとしているバプテスマを受けるであろう。[40]
しかし、わたしの右と左とに座することは、わたしの許すこ
とではない。それは備えられた人々のためである。[41] 十人の
者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネとのことを憤りはじめた。
[42] そこでイエスは彼らを呼び寄せて言われた、異邦人の支配
者たちは彼らを治め、偉い人たちは彼らの上に権力をふるう
ことを、あなたがたは知っている。[43] しかし、あなたがたの間
では、そうであってはならない。あなたがたの間で偉くなろ
うと思う者は、[44] あなたがたに仕える者になりなさい。あなた
がたの間で人の上に立ちたいと思う者は、[45] すべての人に仕
える者になりなさい。人の子が来たのも、仕えられるためで
はなく、仕えるためであり、また、多くの人のあがないとし
て、自分の命を与えるためである。[46] 一行はエリコに着いた。
イエスが弟子たちや大ぜいの群衆と共にエリコを出て行かれ
たとき、テマイの子バルテマイという盲人の物乞いが、道ば
たにすわっていた。[47] ナザレのイエスだと聞くと、大声で叫
び出して言った、ダビデの子イエスよ、わたしをあわれんで
ください。[48] 多くの人がだまれと言ってたしなめたが、ます
ます大きな声で、ダビデの子よ、わたしをあわれんでくださ
いと叫び続けた。[49] イエスは立ち止まって、彼を呼ぶように
言われた。そこで人々は盲人を呼んで言った、安心しなさい、
立ちなさい、イエスがお呼びになっている。[50] 彼は上着を投
げ捨てて、立ち上がり、イエスのところに来た。[51] イエスは彼
に言われた、何をしてほしいのか。盲人は言った、先生、見
えるようになりたいのです。[52] イエスは言われた、行きなさ
い、あなたの信仰があなたを救ったのだ。すると、彼はすぐ
に見えるようになり、道を進むイエスに従った。

ハナニヤ、ソノ家ニ入リ、彼ノ上ニ手ヲ置イテ言ッタ、「兄弟サウロ、
主ガ、オマエガ来タ道ニ現ワレテ下サッタイエスガ、オマエガ再ビ見エ
ルヨウニ、又聖霊ニ満タサレルヨウニ、ト私ヲ遣ワシテ下サッタノデス。」
18 スルト直ニサウロノ目カラ鱗ノヨウナモノガ落チテ、再ビ見エルヨウニ
ナッタ。ソコデ彼ハ立チ上ッテバプテスマヲ受ケ、19 食事ヲシテ元気ヲ
回復シタ。

サウロ、ダマスコデ宣教スル

サウロハ数日ノ間ダマスコノ弟子タチト一緒ニイタ。20 ソシテスグニ
諸会堂デイエスヲ宣ベ伝エ、イエスハ神ノ子デアルト言ッテイタ。21 ソ
ノ話ヲ聞イタ人ハミナ驚イテ言ッタ、「コノ人ハ、エルサレムデコノ名
ヲ呼ブ者ヲ滅ボシ、ソレヲ目的トシテココヘ来タノデハナカッタカ。ソ
シテ彼ラヲ縛ッテ祭司長タチノ所ヘ連レテ行クタメニ来タノデハナカッ
タカ。」22 ダガサウロハ益々力ヲ得テ、イエスガ救イ主デアルコトヲ証
明シテ、ダマスコニ住ムユダヤ人タチヲ困ラセタ。

23 カナリ日数ガ経ッテカラ、ユダヤ人タチハ相談ノ上、サウロヲ殺ソ
ウトシタ。24 ダガ彼ラノ計画ハサウロニ知ラレテシマッタ。ユダヤ人タ
チハ、サウロヲ殺スタメニ、昼モ夜モ町ノ門ヲ見張ッテイタノデアル。
25 ソコデ弟子タチハ夜ノ間ニ彼ヲ連レ出シ、籠ニ入レテ城壁ノ窓カラ吊
リ下ロシタ。

サウロ、エルサレムデ宣教スル

26 サウロハエルサレムニ着イテ、弟子タチノ仲間ニ入ロウトシタガ、ミ
ナハ彼ヲ恐レテ、彼ガ弟子デアルトハ信ジナカッタ。27 ソコデバルナバ
ガ彼ヲ連レテ使徒タチノ所ヘ行キ、サウロガ途中デ主ニ会ッタ次第ヤ、
主ガ彼ニ語ラレタ次第ヤ、サウロガダマスコデ大胆ニイエスノ名ヲ宣ベ
伝エタ次第ヲ話シタ。28 ソレカラサウロハ使徒タチト一緒ニエルサレム
ヲ出入リシ、主ノ名ニヨッテ大胆ニ宣教シタ。29 ソシテギリシア語ヲ話
ス人タチト論ジ合ッタリシタガ、彼ラハサウロヲ殺ソウトシタ。30 ソレ
ヲ知ッタ兄弟タチハ、サウロヲカイザリアニ連レテ下リ、ソコカラタル
ソヘ送リ出シタ。

31 ソノ頃ハ、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤ全土ニ教会ガ建テラレテ、
平和ヲ保チ、主ヲ恐レ敬イツツ、聖霊ノ慰メヲ受ケテ、ソノ数ヲ増シ加
エテイッタ。

ペテロ、アイネヤヲ癒ス

32 ペテロハ各地ヲ巡回シテイルウチニ、リダニ住ム聖徒タチノ所ヘモ行
ッタ。33 ソコデ彼ハ、アイネヤトイウ名ノ、中風ノ病ニ罹ッテ八年間モ
寝タキリノ人ニ会ッタ。34 ペテロハ彼ニ言ッタ、「アイネヤ、イエス・キ
リストガオマエヲ癒シテ下サル。起キ上ガリ、自分ノ寝床ヲ片付ケヨ。」
スルト彼ハスグニ起キ上ガッタ。35 リダ及ビシャロンニ住ム人タチハミ
ナ彼ヲ見テ、主ニ立チ返ッタ。

ペテロ、タビタヲ生キ返ラセル

36 ヨッパニ、タビタ（訳スレバ、ドルカス）トイウ女ノ弟子ガイタ。彼
女ハ善イ行イヲシ、貧シイ人ニ施シヲシテイタ。37 ソノ頃彼女ハ病ニ罹
ッテ死ンダ。ソコデ人々ハ彼女ヲ洗ッテ、二階ノ間ニ寝カセタ。38 ヨッパ
ハリダニ近カッタノデ、弟子タチハペテロガリダニイルト聞イテ、二人
ノ人ヲ遣ワシ、「スグニ来テ下サイ。」ト頼ンダ。39 ペテロハ立チ上ガッ
テ、彼ラト一緒ニ出カケタ。ペテロガ着クト、人々ハ彼ヲ二階ノ間ニ連
レテ行ッタ。ソコニハ寡婦タチガ皆ペテロノ周リニ来テ立チ、ドルカス
ガ生キテイタ頃ニ作ッテクレタ上着ヤ衣服ヲ見セタ。40 ペテロハ皆ヲ外
ニ出シテ、ヒザマズイテ祈リ、ソノ体ノ方ヲ向イテ言ッタ、「タビタ、起
キヨ。」スルト彼女ハ目ヲ開キ、ペテロヲ見テ起キ上ガッタ。41 ペテロハ
彼女ニ手ヲ貸シテ立タセ、聖徒タチト寡婦タチヲ呼ンデ、彼女ガ生キテ
イルノヲ見セタ。42 コノ事ガヨッパ中ニ知レ渡ッタノデ、多クノ人ガ主
ヲ信ジタ。43 ペテロハソノ後、ヨッパニ滞在シテ、皮ナメシ職人シモン
ノ家ニ泊マッテイタ。

ちょうど一つの町があった。ある人々は彼の言うことを信じて、彼に従ってきた。
その中にはアレオパゴスの議員ディオニシオという人、ダマリスという女、また
その他の人々もいた。[35] それから、パウロはアテネを去ってコリントに行った。
[36] そこでアキラという名のユダヤ人に会った。彼はポントの生まれで、妻のプリ
スキラと共に、イタリアから来たばかりであった。クラウディオがすべてのユダ
ヤ人にローマを立ち去るように命じたからである。パウロは彼らのところに行き、
[37] 同じ仕事をしていたので、彼らと一緒に住んで働いた。仕事はテント作りであ
った。[38] パウロは毎週安息日には会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人を説得しよ
うとした。[39] シラスとテモテがマケドニアから来ると、パウロは御言葉を教える
ことに専念し、イエスがメシアであることをユダヤ人に力強く証しした。[40] ユダ
ヤ人たちが反抗し、口汚くののしったので、パウロは衣のちりを振り払って、
「あなたがたの血はあなたがた自身の頭にふりかかれ。わたしには責任がない。
これからは異邦人のところに行く。」と言った。[41] そして会堂を出て、テティウ
ス・ユストという人の家に入った。この人は神を敬う人で、家は会堂のすぐ隣に
あった。[42] 会堂管理者クリスポは、家族全員と共に主を信じた。また、多くのコ
リント人もパウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。[43] ある夜、主は幻の中で
パウロに言われた。「恐れるな、語り続けよ、黙っていてはならない。[44] わたし
があなたと共にいる。だれもあなたを襲って危害を加えることはない。この町に
は、わたしの民が大勢いるからである。」[45] パウロは一年六か月ここにとどまり、
人々に神の言葉を教えた。[46] ガリオがアカイアの総督であったとき、ユダヤ人た
ちは一斉にパウロに反抗して、彼を裁判の座に連れ出し、[47] 「この人は、律法に
違反するやり方で神を礼拝するようにと人々を説得している。」と訴えた。[48] パ
ウロが口を開こうとすると、ガリオはユダヤ人に言った。「ユダヤ人諸君、これ
が不正な行為とか悪質な犯罪とかであるなら、訴えを聞くのは当然だろう。[49] し
かし、これが言葉や名称や諸君の律法に関する問題であるなら、諸君で解決する
がよい。わたしはそのような事件の裁判官になるつもりはない。」[50] そして、彼
らを法廷から追い出した。[51] すると、一同はギリシア人ソステネを捕まえて、法
廷の前で殴りつけた。しかし、ガリオはこれらのことを全く意に介さなかった。
[52] パウロはなおしばらくとどまっていたが、兄弟たちに別れを告げ、誓願を立て
ていたので、ケンクレアで髪を剃ってもらった。[53] それから、エフェソに渡り、
パウロだけを会堂に入らせ、[54] 更に長く滞在するようにと頼まれたが、聞き入れ
ず、[55] 別れを告げて船出し、「神がお望みになるなら、また戻ってくる。」と言
った。[56] エフェソから船出して、カイサリアに上陸し、エルサレムに行って教会
に挨拶してから、アンティオキアに下った。[57] パウロはそこに一定期間滞在し
てから、ガラテヤ地方とフリギア地方を次々に巡回して、すべての弟子を力づけ
た。[58] アレクサンドリア生まれのユダヤ人で、雄弁家、聖書に通じた人アポロ
がエフェソに来た。[59] この人は、主の道の教えを受けており、霊に燃えて、イ
エスについて正確に語り、また教えていた。ただ、ヨハネの洗礼しか知らなかっ
た。[60] この人が会堂で大胆に話し始めたので、プリスキラとアキラは彼を自分
たちの家に迎えて、神の道をもっと正確に説明した。[61] アポロがアカイアに渡
ろうとしたとき、兄弟たちは励まして、弟子たちに歓迎するようにと手紙を書い
た。アポロは、着くと、恵みによって信じた人々に大いに役立った。[62] 聖書に基
づいて、ユダヤ人たちを公の場で激しく論破し、イエスがメシアであることを証
しし続けたからである。

Yudayato Galilaito Samariani

ならない。18 あなたがたの中のだれかが、この外国人のほかは、神に栄光を帰するために帰って来た者はいないのか。」19 それからイエスはその人に言われた。「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ。」

Ludani

20 神の国はいつ来るのかと、パリサイ人たちに問われたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、人の目で認められるようには来ない。21 また、『ここにある』とか、『あそこにある』とかも言えない。神の国は実に、あなたがたのただ中にあるのだ。」

Aineato

22 イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたが人の子の日を一日でも見たいと願う時が来る。しかし見ることはできない。23 人々があなたがたに、『ここにある』とか、『あそこにある』とか言っても、行ってはならない。追いかけてはならない。24 ちょうど稲妻が、天の一方から閃いて、天の他の方を照らすように、人の子もその日には現われるからである。25 しかし、彼はまず多くの苦しみを受け、この時代の人たちに捨てられなければならない。

Ludato Çaronni

26 ノアの時代に起こったことと同じことが、人の子の日にも起こるであろう。27 ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は食べたり飲んだりめとったり嫁いだりしていた。そして洪水が来て、すべての者を滅ぼしてしまった。

Tabitato Dorkas

28 ロトの時代にも同じことが起こった。人々は食べたり飲んだり、買ったり売ったり、植えたり建てたりしていた。29 しかしロトがソドムから出て行ったその日に、火と硫黄が天から降って来て、すべての者を滅ぼしてしまった。30 人の子が現われる日には、ちょうどそのようになるであろう。31 その日には、屋上にいる者は、家の中に持ち物があっても、それを取り出そうとして下に降りてはならない。同じように、畑にいる者も帰ってはならない。32 ロトの妻のことを思い出しなさい。33 自分のいのちを得ようとする者はそれを失い、それを失う者はそれを保つのである。34 あなたがたに言うが、その夜、一つの寝床に二人の者がいるであろう。一人は取られ、一人は残されるであろう。35 二人の女が一緒に臼をひいているであろう。一人は取られ、一人は残されるであろう。」

Ludato Çaronni

36 ［欠節］

37 弟子たちはイエスに答えて言った。「主よ、それはどこでですか。」イエスは言われた。「死体のあるところには、はげたかも集まるものだ。」

Kaisariani Italia táito Kornelioto

1 この後、主はほかに七十人を選び出し、ご自分が行こうとしておられるすべての町や場所へ、二人ずつ先に遣わされた。2 そのとき彼らに言われた。「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫のために働き人を送ってくださるように、収穫の主に祈りなさい。3 行きなさい。見よ、わたしはあなたがたを、狼の中に小羊を送り出すようにして遣わす。4 財布も袋もくつも持って行くな。途中で、だれにあいさつもするな。5 どの家に入っても、まず『この家に平安があるように』と言いなさい。6 そこに平安の子がいれば、あなたがたの平安はその人の上にとどまる。もしいなければ、あなたがたのところに帰って来る。7 その家にとどまって、出されるものを食べたり飲んだりしていなさい。働く者が報酬を得るのは当然だからである。家から家へと渡り歩くな。8 どの町に入っても、人々があなたがたを受け入れるなら、出されるものを食べなさい。9 そこの病人をいやして、『神の国があなたがたに近づいた』と言いなさい。10 どの町に入っても、人々があなたがたを受け入れないなら、広場に出てこう言いなさい。11 『あなたがたの町から足についたちりまでも、あなたがたに対してぬぐい去る。しかし、神の国が近づいたことは知っておきなさい。』12 あなたがたに言うが、その日には、ソドムの町のほうがまだその町よりも耐えやすいのである。

Yofani

13 わざわいだ、コラジン。わざわいだ、ベツサイダ。あなたがたのうちでなされた力あるわざが、もしツロとシドンでなされたなら、彼らはとうの昔に、荒布をまとい灰をかぶって悔い改めたであろう。14 しかし、さばきの時には、ツロとシドンのほうがまだあなたがたよりも耐えやすいのである。15 カペナウム、あなたは天にまで上げられるとでも思っているのか。よみにまで下るのだ。

Yofanite Çimonto

16 あなたがたの言うことを聞く者は、わたしの言うことを聞くのであり、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのである。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒むのである。」

ぺそろと いくる ちゆんを よび、6 めれい
やとれり。その いくい うそべよ ありと。
Kare nanjini nasu beki kotowo tsugen, 1, 2, 3, 4, 5, 6, nasezu
さりーろべ めれ そのいくの ちゆべ ふさりと そをべうひの ちんとん ある ひと
りの へのそうを よび 8 めれいよ この
ことを くそーく つけて これを よぞよ
つうそやり。

9 めれと ゆきて つぎの ひ まちよ ちうべきー とき おようそ ひる おうみと ありー
Gempouni, dai rokudoki
ぐ その とき ぺそろ いのる さめよ いくの うんよ のがれり。10 めれ そをぞ
うあて ちふくゆんを ちうこすする うちよ めれ
きを うーあひ まがろーよ おのて 11 てんひとけ めろ おそひある ちきものく
ととき うつその めれの まんよ くべるを そうり、その うつそん よすそを むす
びて ちよ つり おろさる、12 うちよ ちの さまざまの よつあーの けもの、そふ
ものおよび そとのとりあり。13 めろ こを ありて めれよ いひけるん、ぺそろよ、
おきてこれをころー ちよくんよ。14 ぺそろ いひけるん、きそよ、ちうよず、ひれん
いまべ めろて きろうべざる ふけうの ものを ちよくんよー こと あー。15 こを
ふさくびめれよ いひけるん、かそのきろめ さまふ ところの ものん あんぢ これを

きろうとべと するあうれ。16 めくの ことと ひる ことを そうひ ありて さうちよ うつん
てんよ あゆとれさり。

17 ぺそろ そのそー ところの まがろーん あるもの ところ あとんと うさべひ
そりー とき そよ、こるねりよ より つうそさられさる ものちゆんの いくを さべね
いべーて ゆんの まんよ さち、18 よびて、ぺそろと いくる ちゆん ころよ やとる
うと とひ ねさり。19 ぺそろ ちきりよ まがろーの ことを おゆひ をりーよ そるま
めれよ いひけるん、そよ、さんちんの ゆけ、ものを さべぬ、20 おきて さべり
うさべをべーて かれとと ともよ ゆけ、これをつうそーされば あり。21 ぺそろ
くべりて その ひとよ いひけるん、そよ、ところの ものん
これ あり。あんぢと あんの ゆえ ありて きさるや。22 かれと ころへ けるん、
ひやくちんの かーと こるねりよ すあそちべ うそやひ、まる
ゆべやの くるぢうて よき きこへ ある ものの あんぢを その いくよ まねきて
あんちより ことをを きけとの かその めくを きさる 23 つうひよ ようて うけさり。
さて ぺそろ かれとを よび いれて これを やとーめり。あるる ひ ぺそろ かれ
と ともよ ゆく、よその あるきやうべの ちの これと ともよ ゆけり。24 つぎの

ゐるの。 28 ソレカラ ソノ ヒトビトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、カヤノ ゐルトコロヘ ツレテ ユキマシタ。 29 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。 30 スルト ソノ ヒトビトハ、ソノ ヒトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、ソノ ヒトノ ゐルトコロヘ ユキマシタ。 31 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。 32 スルト ソノ ヒトビトハ、ソノ ヒトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、ソノ ヒトノ ゐルトコロヘ ユキマシタ。 33 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。

4, 5, 6, 7, kare kitarite nanjini kataru beç; 1, 2, 3, nosezu

ソレカラ ソノ ヒトビトハ、ソノ ヒトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、ソノ ヒトノ ゐルトコロヘ ユキマシタ。 34 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。 35 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。 36 スルト ソノ ヒトビトハ、ソノ ヒトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、ソノ ヒトノ ゐルトコロヘ ユキマシタ。 37 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。 38 スルト ソノ ヒトビトハ、ソノ ヒトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、ソノ ヒトノ ゐルトコロヘ ユキマシタ。 39 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。

5, 6, 7, 9, danjikiçte; 1, 2, 3, 4, nosezu

Gemponni, dai kudokino

ソレカラ ソノ ヒトビトハ、ソノ ヒトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、ソノ ヒトノ ゐルトコロヘ ユキマシタ。 40 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。 41 スルト ソノ ヒトビトハ、ソノ ヒトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、ソノ ヒトノ ゐルトコロヘ ユキマシタ。 42 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。 43 スルト ソノ ヒトビトハ、ソノ ヒトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、ソノ ヒトノ ゐルトコロヘ ユキマシタ。 44 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。 45 スルト ソノ ヒトビトハ、ソノ ヒトガ ヒトリノ ヒトヲ ツレテ、ソノ ヒトノ ゐルトコロヘ ユキマシタ。 46 ソノ ヒトハ ソノ ヒトビトニ ムカッテ、ワタシハ ソノ ヒトノ ゐルトコロヲ シラナイ ト ハッキリ イヒマシタ。

1, 2, 3, 4, Kimino;
5, 6, 7, 9, Kamino

ヤ ホヘ ホホホ ホホ。
ホラホホ ヤホホヘ ホホホ ホホ。 ヘヘヘ ホホ ホホ ホホヤ ホヘホ ヘヘホ
ホラホホ ヤホホヘ ホホホ。 48 ヘヘヘ ホホ ホホホホホホ ホホ ホホ
ホホヤ ホホホ ホホホホ ヘヘホホホホ ホホホ ヤホホ ヘヘホ ホホホ
ホホ。 48 ホホ、 ホホヤ ヘヘホホ ヘヘホホホ ヘヘホホホ ホホ ホホ
ホホホホ ホホホホホ ホホ。 47 ホホ ヘヘホ ヘホホホ ホホホ、 ヘヘ ホホホホ
ホホ。 46 ホホ、 ホホヤ ヘヘホホ ヘヘホホホ ヘヘホホホ ホホ ホホ
ホホホホ ホホホホホ ホホ。 45 ヘヘホホ ヘヘホホ ホホホホ ホホホホ
ホホホ ホホホホ。 44 ヘヘホホ ヘヘホホ ホホホホ ヘヘホホホ ヘヘホホホ
ホホ ホホホホ ホホホホホ ホホホホ。 43 ホホホホ ホホホホ ホホホホ
ホホホホ ホホホホホ ホホホホ ホホホホ。 42 ホホホホ ホホホホ ホホホホ
ホホホホ ホホホホホ ホホホホ ホホホホ。 41 ホホホホ ホホホホ ホホホホ
ホホホホ ホホホホホ ホホホホ ホホホホ。

ホホホホ ホホホホホ ホホホホ。
ホホホホ ホホホホホ ホホホホ ホホホホ。 ホホホホ ホホホホホ ホホホホ

Kaisaria

ここの弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住む兄弟たちに援助を送ることに決めた。
30 そこで、彼らはそのとおりにして、バルナバとサウロの手を通して長老たちに送った。

Yofaye

12 1 そのころ、ヘロデ王は教会の中のある人たちを苦しめようと手を伸ばした。
2 そして、ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。
3 彼はそれがユダヤ人たちの気に入ったのを見て、さらにペテロをも捕えようとした。
それは除酵祭の時であった。
4 彼はペテロを捕えて牢に入れ、四人ずつの兵士四組に引き渡して番をさせた。
過越の祭の後で、民衆の前に引き出すつもりであった。
5 こうしてペテロは牢に入れられていたが、教会は彼のために熱心な祈りを神にささげていた。
6 ヘロデが引き出そうとしていたその前夜、ペテロは二本の鎖につながれて二人の兵士の間に寝ており、また戸口の前には番人たちが牢を守っていた。
7 すると、見よ、主の使が現れ、光が牢の中を照した。
使はペテロのわきを打って彼を起し、「急いで立ちなさい」と言った。
すると、鎖が彼の手から落ちた。
8 使は言った、「帯をしめ、くつをはきなさい」。
ペテロはそのとおりにした。
また使は言った、「上着をまとい、わたしについてきなさい」。
9 ペテロは出てついて行ったが、使のしていることが現実のこととは思えなかった。
幻を見ているのだと思っていた。
10 彼らは第一の衛所、第二の衛所を過ぎて、町に通じる鉄の門のところに来た。
門は彼らのために自然に開いた。
彼らは出て行って、ある通りを進んで行くと、突然使は彼を離れ去った。
11 ペテロは我に返って言った、「今こそ本当のことだとわかった。
主が使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ人たちのあらゆる待ち設けていたことから、わたしを救い出してくださったのだ」。
12 そこで、ペテロはこのことに思い当ると、マルコと呼ばれるヨハネの母マリアの家に行った。
そこには多くの人が集まって祈っていた。
13 ペテロが門の戸をたたくと、ロダという女の子が取次ぎに出てきた。
14 ペテロの声だとわかると、うれしさのあまり門を開けもしないで、駆け込んで告げた、「ペテロが門の前に立っています」。
15 彼らは言った、「あなたは気が狂っているのだ」。
しかし、彼女は自分の言うことを固く主張した。
すると彼らは言った、「それは彼の御使いなのだろう」。
16 ペテロはなおも戸をたたき続けていた。
そこで彼らは戸を開けて、ペテロを見て驚いた。
17 ペテロは手で制して、主が牢から連れ出してくださったいきさつを彼らに説明し、「ヤコブとほかの兄弟たちにこのことを伝えてください」と言った。
それから出て行って、ほかの場所へ行った。
18 夜が明けると、兵士たちの間では、ペテロはどうなったのかと大騒ぎになった。
19 ヘロデは彼を捜したが見つからなかったので、番人たちを取調べて死刑に処するように命じた。
それからヘロデはユダヤを去ってカイザリヤに下り、そこに滞在した。

Kaisaria

20 ヘロデはツロとシドンの人たちに対して激しい怒りを抱いていた。
彼らは一致して王のもとに来たので、王の寝室係ブラストを説き伏せて味方にし、和を求めた。
彼らの地方は王の地方から食糧を得ていたからである。
21 定められた日に、ヘロデは王服をまとい、王座に着いて、彼らに向かって演説をした。
22 民衆は叫んだ、「これは神の声だ、人の声ではない」。
23 すると、主の使がすぐに彼を打ったので、彼は神に栄光を帰さなかったために、虫に食われて息が絶えた。
24 神の言は栄えて広まった。
25 バルナバとサウロとは、エルサレムでの務めを果してから、マルコと呼ばれるヨハネを連れて帰った。

Barnaba Saulowo Tarsoni Antiokiani

13 1 さて、アンテオケの教会には、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデと幼なじみのマナエン、それにサウロなどの預言者や教師たちがいた。
2 彼らが主を礼拝して断食していると、聖霊が言われた、「バルナバとサウロとを、わたしのために聖別しておきなさい。
わたしが彼らに授けた仕事のために」。
3 そこで、彼らは断食と祈とをして、ふたりの上に手を置いてから送り出した。

Kristianto

27 そのころ あるよげんーやくちゃ おらるされむ より あんてふきやよ くびりーグ
28 そのうちの ひとり あグぼと Agabo いくる ゆのくけるい
くらゐちうよ おそひゐる きくうん あとうんと。 そのことを そさーして くろうびふよの ときに
よ おこりくり。 29 これよ よりて でーしちに おのおの そのちからふよ そなグふあて
ゆづやよ そる きやうづのよ こすけを おくとうんこと さづめ、 30 つのよ これを
おこなひて ばらゐものと さうろうの てよ こーして これを とーよりとゆよ おくれり。

そら 十二 ちやう

Herode
その ころ へろで ひとう きやうくをらの うちの ある ものを くるーめん さめよ
てを いさー 2 めうまを もりて よそねの きやうづの やくぶを ころせり。 3 めれ
ゆづやひとの これを よろこびーを そて まる ぺてろを とりくんと せり。 その
ときに こうーるのに なんを ちよくやうするの ひ ありき。 4 すぐよ これを とりくんて
らうやよられ、すぎこーの まりの のちに そのまんよ ひるに いづさんと おもひ、
よるまん ひとくそのの よくそのの けらごよ ひるまーして これを まもりーめくり。 5 めく
ぺてろい らうやよ まもられーグ きやうくをの めれの さめよ ひとすよ かそよ
いのれり。

6 へろで めれを ひるに いさんと する まんの よ ぺてろに ふくりの へらそうの
あひだよ ねむり、ふくうの くさりをもりて つながれ、めりたるもの とのまんよ
ありて らうやを まもり ねくり。 7 そのとき そよ、かそのの つくひ めくそによ
さらて ひくり らうやを てとーを、めれ ぺてろの ひきを さこるに これを さまーして、
すそやうよ おきふと いひければ くさりよ そけ。 8 つくひめれよ
いひけるい、おびを ちめ ざうりを そけ。 ぺてろ これを せーろべ つくひまる、
うそぎを そよ まくふて ひれよ ちくグくと いんり。 9 ぺてろ いでーめれよ そくと
グひ ゆきーグ つくひの あをー ところに ゆ まことと あるを そよぶ、さど まがろーを
そーと おめくり。 10 めれよ さの いち ざの ものの ぞんーふを すぎて まちよ いる
ところの てつの ゆんよ いくりーよ そのの ゆん おのづくよ めれよの さめよ
ひらきーろべ ふくりいでーひとつの とおりを すぎーとる てんのつくひ さらちよ
ぺそろを もるれくり。 11 ぺそろ さとりを ええて いひけるい、きそ そのつくひを
つくもーて へろでの てと ゆづやの さそのの すべての のぞを よりひれを すくひ
いづをー ことを ひれ いま まことよ おろのの Yohanneo Marko そねの そーある まりやの いんよ ゆきくり、

Tsuroto Sidonno

ために、ふたりを遣わされた。彼らはセレキヤに下って行き、そこから船でキプロスに渡った。5サラミスに着いたとき、ユダヤ人の諸会堂で神のことばを宣べ伝えた。ヨハネも助手として彼らといっしょにいた。6全島を通って、パポスまで行ったとき、バルイエスという、ユダヤ人の偽預言者で魔術師に出会った。7この者は、地方総督セルギオ・パウロに仕えていた。この総督は賢明な人であった。総督はバルナバとサウロとを招いて、神のことばを聞こうとした。8しかし、魔術師エルマ（この名は、訳すと、魔術師という意味である）は、ふたりに反対して、総督を信仰から遠ざけようとした。9そのとき、サウロ、またの名はパウロは、聖霊に満たされ、彼をじっと見つめて、10言った。「ああ、あらゆる偽りと悪巧みに満ち、悪魔の子で、すべて義なるものの敵であるお前、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。11今、見よ、主の御手がお前の上にある。お前は盲目になって、しばらくの間、日の光を見ることができなくなる。」すると、たちまち霧と暗やみが彼を襲い、彼は手引きする者を捜し回った。12総督は、この出来事を見て、主の教えに驚嘆し、信仰に入った。

Rodato

13パウロとその一行は、パポスから船出して、パンフリヤのペルガに来た。ヨハネは彼らから離れてエルサレムに帰った。14彼らは、ペルガから進んでピシデヤのアンテオケに行き、安息日に会堂にはいって席についた。15律法と預言者の朗読があった後、会堂司たちが人をやって言わせた。「兄弟たち、何か人々を励ますことばがあったら、どうぞ話してください。」16そこでパウロが立ち上がり、手を振って言った。「イスラエルの人たち、それに神を恐れる方々、聞いてください。17この民イスラエルの神は、私たちの先祖を選び、エジプトの地に滞在中、民を大いなる者とし、御腕を高く上げて、そこから彼らを導き出し、18荒野で四十年ほどの間、彼らを耐え忍び、19カナンの地で七つの国民を滅ぼし、その地を彼らの相続地として与えられました。20これらのことが四百五十年ほどの間のことです。その後、預言者サムエルの時代まで、さばき人たちを与えられました。21それから彼らは王を求めましたので、神はベニヤミン族の人でキシュの子サウルを四十年間、彼らに与えられました。22神はサウルを退けた後、彼らのために、ダビデを王として起こされました。神はこのダビデについて、『エッサイの子ダビデは、わたしの心にかなう者だ。彼はわたしのすべてのことを行なう。』と証言されました。23この人の子孫から、神はイスラエルに約束されたとおりに、救い主イエスを送られました。24イエスが来られる前に、ヨハネがイスラエルの全民衆に悔い改めのバプテスマを宣べ伝えました。25ヨハネは自分の働きを成し遂げようとしていたとき、『あなたがたは、私を何者だと思うのか。私はその者ではない。しかし、その者が私のあとから来られる。私はその方のくつのひもを解く値うちもない。』と言っていました。

Barnabato Saulowa

26兄弟たち、アブラハムの子孫の方々、それに神を恐れる方々、この救いのことばは、私たちに送られました。27エルサレムの住民と彼らの指導者たちは、イエスを認めず、また、毎安息日に読まれる預言者たちのことばを理解しなかったので、イエスを罪に定めることによって、預言者たちのことばを成就しました。28彼らは死に当たる罪状を何も見つけることができませんでしたが、ピラトに願って、イエスを殺してしまいました。29こうして、イエスについて書かれていることがすべて成就したので、彼らはイエスを木から取り降ろして、墓に葬りました。30しかし、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださいました。31イエスは、ガリラヤからエルサレムまでいっしょに上った人たちに、幾日にもわたって現われました。この人たちは、今、民に対してイエスの証人となっています。32私たちもあなたがたに、神が先祖たちに与えられた約束について、福音を宣べ伝えています。33すなわち、神はイエスをよみがえらせて、私たち、その子らのために、その約束を果たしてくださいました。詩篇第二篇にも、

Markoto

『あなたは私の子。
きょう、わたしはあなたを生んだ。』

と書いてあります。34また、神はイエスを死者の中からよみがえらせて、もはや朽ち果てることのないようにされたことについては、

『わたしはダビデに約束した
聖なる確かなものを
あなたに与える。』

と言われました。35ですから、ほかのところにも、

『あなたは、あなたの聖者を
朽ち果てるままにしておかれない。』

と言っています。36ダビデは、神のみこころにかなって仕えた後、眠りについて、先祖たちに加えられ、朽ち果てました。37しかし、神がよみがえらせた方は、朽ち果てることがありませんでした。38ですから、兄弟たち、あなたがたに知っていただきたいのです。この方によって罪の赦しが宣べ伝えられ、39また、モーセの律法によっては義とされることのできなかったすべてのことから、信じる者はみな、この方によって義とされるのです。40ですから、預言者たちのことばが、あなたがたの身に起こらないように、気をつけなさい。

41『あざける者たちよ、
見て、驚け、滅びうせよ。
わたしがあなたがたの時代に
一つのことをする。
それは、あなたがたが
だれかに詳しく話して聞かせても
決して信じないことだ。』

42パウロとバルナバが会堂から出て行くとき、人々は次の安息日にも同じことばを聞かせてくれるようにと願った。43会堂の集まりが解散した後、多くのユダヤ人と、ユダヤ教に改宗した敬虔な人たちが、パウロとバルナバについて来た。ふたりは彼らに語りかけ、神の恵みにとどまるように勧めた。

44次の安息日には、ほとんど町中の人が、神のことばを聞こうとして集まって来た。45ユダヤ人たちはこの群衆を見てねたみに満たされ、パウロが語ることに反対して、ののしった。46パウロとバルナバは大胆に語った。「神のことばは、まずあなたがたに語られるべきでした。しかし、あなたがたはそれを拒み、自分自身を永遠のいのちにふさわしくしないことに決めましたから、私たちは異邦人のほうに向かいます。47主が私たちにこう命じておられるからです。

『わたしはあなたを異邦人の光とし、
あなたが地の果てにまで
救いをもたらすようにする。』」

48異邦人たちはこれを聞いて喜び、主のことばをほめたたえた。そして、永遠のいのちを得るように定められていた人たちはみな信じた。49こうして、主のことばはその地方全体に広まった。50ところが、ユダヤ人たちは、神を恐れる貴婦人たちや町の有力者たちを扇動して、パウロとバルナバに対する迫害を引き起こさせ、ふたりをその地方から追い出した。51ふたりは、彼らに対して足のちりを払い落としてから、イコニオムに行った。52弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。

Nigeruto iu Çimion, Kureneno Lukio

Manaen

1アンテオケの教会には、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、それにサウロなどの預言者や教師たちがいた。2彼らが主を礼拝して断食していたとき、聖霊が、「さあ、バルナバとサウロを、わたしのために聖別しなさい。わたしが彼らを召した仕事のために。」と言われた。3そこで、彼らは断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。

1, 2, 3, 5, i, utcini; 6, 7, 9, ii, utcini aru

Kuproni
Selukiani
Salâmisuni
Paſoni
Baruyesuto
Sergio Pauloto
Elıuma
Sauloto
iyeru Paulo

ハンナ ピシデヤの アンテオケに 行き、安息日に 会堂に はいって 席に ついた。15 律法と 預言者との 朗読の あとで、会堂の 司たちが 人を つかわして 言うには、「兄弟たち、民を 励ますべき 言葉が あったら、話して ください。」16 パウロが 立って、手で 制しながら 言った、「イスラエルの 人たち、および 神を 恐れる 人たち、聞いて ください。17 この イスラエルの 民の 神は、われわれの 先祖を 選び、エジプトの 地に 寄留して いた 時に 民を 大きく し、その 腕を 高く 上げて、彼らを そこから 導き 出され、18 また 四十 年ほどの 間、荒野で 彼らの 行いを 耐え 忍び、19 カナンの 地で 七つの 国民を 滅ぼして、その 地を 彼らに 相続させ、20 およそ 四百五十 年の 後に 至るまで、彼らに 士師を 与えて おられた。その 後 彼らが 王を 求めたので、神は ベニヤミン 族の 人で キシの 子 サウロを 四十 年間 彼らに 与えられた。21 それから 彼が 王を 退けて、ダビデを 彼らの 王と 定められたが、この 人に ついて 神は 証して 言われた、『エッサイの 子 ダビデは、わたしの 心に かなう 人で あって、わたしの 望む ことを すべて 行うであろう。』22 神は この 人の 子孫から、約束に 従って、イエスを イスラエルの 救い主と して 送られた。23 イエスの 来られる 前に、ヨハネが 全イスラエルの 民に 悔い改めの バプテスマを 宣べ伝えた。24 ヨハネが その 生涯の 業を 成し遂げる 時に、『あなたがたは わたしを 何者と 思うか。わたしは その 人では ない。しかし 見よ、その 人が あとから 来られる。わたしは その 足の くつを 脱がせる 値うちも ない。』と 言って いた。25 兄弟たち、アブラハムの 子孫の 方々、および あなたがたの 中で 神を 恐れる 人たち、この 救いの 言葉は、わたしたちに 送られて きたのである。26 エルサレムに 住む 人々と その 指導者たちは、イエスを 認めず、また 安息日ごとに 読まれる 預言者の 言葉を 理解しなかったので、イエスを 罪に 定めて、預言者の 言葉を 成就したのである。27 彼らは 死に 当たる 罪状を 何も 見いだせなかったが、ピラトに 願って イエスを 殺させ、28 また、イエスに 関して 書かれて いる ことを すべて 成就した 後に、十字架から 取りおろして、墓に 葬った。29 しかし 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、30 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。31 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、32 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。33 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、34 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。35 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、36 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。37 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、38 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。39 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、40 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。41 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、42 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。43 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、44 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。45 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、46 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。47 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、48 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。49 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、50 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。51 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、52 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。53 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、54 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。55 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、56 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。57 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、58 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。59 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、60 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。61 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、62 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。63 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、64 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。65 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、66 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。67 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、68 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。69 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、70 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。71 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、72 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。73 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、74 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。75 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、76 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。77 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、78 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。79 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、80 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。81 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、82 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。83 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、84 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。85 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、86 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。87 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、88 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。89 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、90 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。91 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、92 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。93 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、94 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。95 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、96 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。97 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、98 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。99 神は 死人の 中から イエスを よみがえらせ、100 また、イエスと ともに ガリラヤから エルサレムに 上って 来た 人々に、幾日も 現われて 見えた。この 人々は、今 民に 対して イエスの 証人と なって いる。

Pafo
Pamfuliano Perugani
Pisidiano Antiokiani
Samueluno

aruiwa karerano okonaiwo çinobi tamayeri.

1, 2, 3, 4, i, ii, sudeni oyoso çihyaku gojiu nen hete notci; 6, 7, 9, sono notci çihyaku gojiu nenno aida

Beniyaminno

21 ベニヤミンの 人々 は 出て 来て ギベアの ベニヤミン人 ケバルの 子 ヨナタン と
Kiçino musko Saulowo
サウル の 娘 ミカル を 打ち殺した 者 ラマの ベレモテの 子 エリエル と
Dabidewo
ダビデ の 所 に 行って 彼 に 告げた。 22 ダビデ は 人 を 遣わして
Yesaino
エッサイ の 子 を 呼び寄せた。 23 エッサイ は 子供 を 連れて ダビデ の 所 に
来た。 ロバ に パン と ぶどう酒 の 皮袋 と 子やぎ 一 匹 を 積んで 来た。
24 エッサイ は 息子 ダビデ を 遣わした。 ダビデ は 荒野 を 通って
ゲバ に 来た。 25 ペリシテ人 は 集まって 来て ゲバ に 陣を 敷いた。
ダビデ は 荒野 に 逃げた。 26 ペリシテ人 は 上って 来て ゲバ に 陣を 敷いた。
ダビデ は 荒野 に 逃げた。 27

ちやうざらよ、つその ゆるーを あんぢとよ のぶるい このひとよ よるを あんぢと
それ。 39 めら あんぢら ゆうやの おきてを そのそて さとーきと せとる〜 ことを
えんざる つま いくむく あるも すべて ちんぎる ものん めれよ よりて ゆるされ
さじーきと せとる〜 あり。 40 されば あんぢとら よげん
ーやの いひー こと〔あんぢらよ〕 1,3,5 nosezu のぞまん、いそく、 41 あるとる ものよ、あん
ぢと そて、おどろき めら わろび べー、いろんと あれば ひと あんぢとよ つく
うと いくとも あんぢとげ ちんと えざる わどもの どぎを されあんぢとの ときよ
おこるべん あり。

42 ひとびと いづる とぎ つぎの やすそびよ まく このそーくを のべん ことを
めれとよ ねがくり。 43 あらまり すべよ ちりて ゆずやうよ
いりさる ちんとんーや おわく むうろと ぞるまぞよ そさげくり。 このふさり
めれとよ めさりて おその めぐその ちさまよ とさまとん すさめさり。
44 つぎの やすそびよ わとんど まちぢうの ものさその ことぞを きろんとて
あらまり きされり。 45 されど ゆずやびとん そのおわせのを そて こころよ ねさ
そを そさー むうろの いふ ところの ことよ さろとふして これを そーれり。 46 その

ことぎ むうろと ぞるまべ そぞろと ぞーて いひけるん、わその ことぞん まび あん
ぢとよ のべとる べき あり、ちろるよ あんぢとん これを すて〜 さびうと めぎり
ある いのちを うるよ さとぎと せり、ゆあよ、さよ、これとん なきを いどんよ
めんん。 47 そん、さを めく されとよ めの ト さまんくり、いそく、これ あんぢを
さて〜 いとんの ひろりと あぜり、あんぢ ちの そてよ まぞ すさひと あどん さめ
あり。 48 いどんと これを きて よろこび めら きその ことぞを あびむ、まさ
めぎり ある いのちよ さびめとれる ものん そさ
きその ことぞ あまねく その わとりよ ひろまる さりさりり。
50 されど ゆずやびとん ちんとんん ある さみとる ものよ、あん
ぢちる ものとやを すさめ むうろと ぞるまぞを せやる ことを おこーて これを
その さうび よりおび いびせり。 51 さて ふさる
うち そとーみて いくとるよ いされり。 52 めくて
まよ そさされさり。

さん 十四 ちやう

その ふさり いさるよ そる とき ゆずやびとの くるのどうよりり そーくを

のべて ゆずやびと ぎりきやびとの おわるの ものを ちんせーめるり。 2 ちんせ
ぎる ゆずやびとに いとんを すらめて その こころろよ きやうづのとゆを うとまー
めり。 3 めるて ふるりん ひさーく めーてよ とどまり、さそよ よりて そちりとぶ
そーんを のぶ。 さそに めれとの てよ よろて そらるーと ふーぎの ひさを おてるゆそ
ーめて その めぐその ことぞよ あろーを あぜり。 4 まちの ひとびとよ ふるろよ
ころれて ある ものん ゆずやびとよ ちてげひ、ある ものん そーやこちよ ちる
るうをるやの まちるすてとと でるべ おるびよ そのまそりの とちよ のがれ、 7 めー
てよ おりて ふるろんを のべるり。
8 るすてとよ ひとりの あーるん あり、めれん そろの さらるら より ちんぜる
ーていまる めりて あゆそー こと あさ ゆの ありり。 9 この ひと をうろの めるるを
き〜 おるりーげ をうろ これよ めを とめ、その すてそる べき ちろうう あるを
そて、 10 あんぢの あーるて まりすぐよ いひーろべ かにさそると おりごるよ
おとり あげりて あゆめり。 11 おりせりの ひとびとの あせー ことを そけ

れべるろをるやの こととをるて こるをあけて、おそこちるんけろの めるそをゆろて
これとよ のぞめりと いんり。 12 めれと をうろの ぜうすを とるん、そうろん
ゆろをと めるる ひと あるよ よろてこれを へるめと ともあんくるり。 13 こるよ おりて
まちの まんてよ ある ぜうすの めんゆー もちろうぎりを ゆちうーを ゆんよ ひき
さるりて ひとびとと〜 ともよ いけるんを さるげんと わろせーよ 14 そるー や そる
るぜと むうろ これを きるて おのれの こそ ころもを さる ひとびとの うちよ めけ
こそ よをもりて いひけるん、 15 ひとびとよ、あんぞ このことを あすや。 これとも
ひとるーて あんぢとと おるとの おやうの ものん あり、これとん あんぢとげ この
むるーる ものを すて〜 てんとち ちと うそと そのうちの そんものとを つくりさる
いける かそよ さする やうよ ふるろんを あるそれ かそるぐるの るそよ そろうと その
16 すぎー よよ おの
17 されども あんぢとを めぐそて てん より ちゃうを あるそ
ん、ちるるものと よろことびを ゆりて あんぢとーめて そろ
うと そのの あろーを せぎりー こと あー。 18 ふるりの ちゃー や これとの ことをるて
やうやく るその のれとよ いけるんと するを とどめるり。

19 ときよ ゆだやびと あんてよきやと いこるよ
Antiokiato Ikonio
すくめ いーを もうて なうろを うくを、めれす
まちの そとよ ひる いうぜり。20 でーとも めれの
おきて まちよ いり、あくる ひ でるをもと ともに
まちよ ふくりんを のぐて おやろの ものを でー
Derbeni
いこるよ、Ikonio, あんてるきやよ かくりて、22 でーと
Antiokiani
つねよ もろうくよ ととまーとん ことを すくめ、
よりて かその そくるー いる べーと そーくろの
ごとよ とーよりを うて、いのりと さんどきを あーて これを その もんぎる とろ
ろの むそよ ゆうねくり。
Pisidiawo
24 めれと びせでやを とやりて なんふりやよ
Pamfuliani
Attaliani
のぐて あつくりやよ くづれり。26 そこ より
ところの あんそるきやよ むりひて
つとめを かその めぐそよ まうせとれくる とも
ゆうくをのを あつめて かこの おのれ
よそ うすけて おくるひー ところの すべその こと あとびよ もんろうの もん を

Pergani
25 まく べるげよ をーへを
Derbeni
Lustra,
Ikonio,
Antiokiani
Pamfuliani
Attaliani
Pisidiawo
Paulo Barnaba
Foinikcio Samuriwo

いとくよ ひーゆ うまひー ことをつけくり。28 めくて でーろと ともよ ひさーく
とまれり。

ぐら 十五 ちやう

ある ひとびと ゆだや より きくり きやうづの とも
もの あとをーよ ちくぐーて めつれらを うくる
いくり。2 これよ よりて なうろ なるをだ めれと
トければ きやうづらと この ことよ つりて
うちの するんを あるされもよ をる ちーや と
さづめくり。3 めれと きやうくるの より おくと
とある とも いとんの めりーるーる ことをつけて すべその きやうづのを おろ
ひよ よろこをーめり。4 めれと あるされもよ いくり
さち、とーよりくちよ むらんとれ、かその おのれ
ろの すべその ことを つけくり。5 なりくらしーう
さちて いのけると、めれとよ めつれらを うけさを
ことを めらぎ べる あり。6 ちーや おるび とーよりとも この ことを そうる

○ ちーやの ひぎ ぐら 十五 ちやう

さめよ あつまりて 7ぎろん おそうりー とヨ べそろ さそて めれよ いひけるい、
ひとびと、きやうづのよ、かこ ひさーヨ さきよ あんぢよの うちより ひれを
えよび いよんをーて ひげ くちよ より あくりんを きー ちんぢーめ さまひー
ことを あんぢと ちる、8めら ひとの こくそろを さまひー ひれよの さめよ あう
ーを あせり。9まく ちんううよ よつて そのこころを さよめくり、めら ひれよ
めれよの あひざよ ひうちを あさうりヨ。10いま あんぞ かそを こころそて せんぞ
さちも ひれよも おふ ことを えぎるの くびよ おくう。
11ひれよげ すくそる～ ことに きこ あ今の めぐ
よも これよ よりて すくそる～ あり。

12こころよ おのて ひとびと そる さおりて ぜる多ぞと ぜうろが めその おのれ
よよ よつて いどんの うちよ いう多る ちる一と ふーぎの ひざを おこまひーうを
めるるを きけり。13いひ そそりて のち やくそ めるり いひけるい、さやうづの
さちよ、ひれを きけ、14かを そよめて いどんの うち より おのれの あを あげ
ぬる こころを えんが さめよ これを めくりを さまひー ことい ちもん すぐよ

Barnabato Paulogu

Cimon

のべり。15よゆんーやの ことぜ これと あくりを、すぬる さふれくる まくやを あさうびを
いそく、16このの ち ひれめくり、さひぜの すぐよ さふれくる まくやを あさうびを
おこさん、その こびれくる ものを おこーて これを さうーく さてん、17そい
のこりの ひと すあそち ひげ あを もつて とる多くよる～ すべその くよの さそよ
きこを さびねさぜんが さめ ありと、18よの ゆあよ 〔おのれの ひざを〕 ちりて
これよの ことを おこる ふ ところの かを こまく。19この ゆあよ
ひげ さぢめんと する ところん これ あり、ひれよ いよんの うち より かそよ
きする ものを こまよ ぐうよぜ、20さく めれよ おくりて、ぐうぎうの
けげれくる もの、そうーう、ちめころーくる ものの、おふび ち(血)を さうーむ べー。
21そん、むうー より くそのとうよ おのて やすを そびぐとよ ゆうぜの あそを よそて
これを のぶる ものの まちまちよ あれば あり。
22こうよ おのて ちーや おふび とーより くそのぎうと とゆよ その
うち より ひとを えよび これを もうろと とゆよ あんてふきやふよ
つりそす ことを よーとーて、きやうづのの うちの おゆヨ ゆの あるる そるちをと
いうくるゆえと ちよをつうそー、23めれよ さくーて ふそを おくれり、いそく、

○ ちーやの ひさ ずら 十五 ちやう

ちーや、とーまり おぁびきやうぢら あんそよぶ。 24 これとぅが めらせざる ところの
ところの おやすぢらうよ やすきを いそ
すゐん これとの うち より いぢ〳〵 ことぢを もらて あるぢとを ひびら〳〵ちー あん
ぢとの ところを そぢやりと むら〳〵られば 25 これとの ささ あす きり ぜとの
びて 26 これとの ささ あす きり ぜとの
ある これとの あらする ぢる あぢと ぜうぢとよ つうそすを
よーと せーよ よりて 27 ゆぢと ぢとの
これとの ことを あんぢとよ つげん。 28 さの めんぅう ある こと すゐもち ぢう
ぜうよ さらけーゐの、ち、まる ちめところ ゐの おとび そうこうを そらべゐ
ことの わうん あるをも あんぢとよ おもぢぢを さこまと これとよーと
せり。 29 あんぢとゐー これとの ゐのを
そらん、あんぢとや すうられよ。
30 われとつうそされてあんてよきやよ
ければ 31 われとこれを よこそ その あ
よけんーや あれば おそらの ことむを
きを ちくされて、これを つうそせー
ぢる あぢん あんてよきやよ とじまり、
ゐうの さその ことむを せうきやうんり。
36 わど へて のち ぜうろ ぢる あぢよ
さきよ せうきやうせー ところの まち
めんりそんと。 37 さて ぢる あぢん
おゐんり。 38 されど ぜうろん
とーまよ ゆうぢりー ゐのを とゐるひ ゆうぢ
ーゐ あこそひ おとり ぐひよ ぢうれて
むろうて ちゆうぢん せり。 40 ぜうろんも
めぐこよ ゆうねこれて うぢうち 41 すり
こうとうを ゐりまやと ぢうりて ちうさやう

Antiokia, Suria mata Kilikiani

4,6,7, midaçte kanarazu katsureiwo uke kutsu okitewo mimoru beşto liçiwo kikitaraba; 1,2,3,5, nosezu

Yudasto Silano

Barnabawa Markoto

Paulowa Pamfulia

Yohanewo

4,5, saredo Sila kaçkoni todomaruwo yoşto omoyeri; 1,2,3,6,7, nosezu

1,2,3,5, Kimino; 4,6,7,9, Kamino

Suriato Kilikiawo

Derbeto Lustrani

Timoteto

○ ちーやの ひさ ずら 十六 ちやう

くる ひとりの でー あり、めれい ゆすやの ちんぎる Lustrato Ikoniono そんぎる そのちらん ぎりきやの ひと あり。[2]その てもていろ いくるるの さやうずの くちの うちよ よき きくへ あるもの ありーケ とわらーて めーくよ そる ゆるやびとの くめよ めれよ められらを おくるくり、けずー めれよ くる その ちらん ぎりきやびと まちまちを とわり あるされむよ そる ちーや おおび とーふりくらの さうめくる めのれのを でーどもよ まもよせんとて これを きやうくるい ちんろうの そちよ めくるせとれ、めら その めずも ひとよ まやり。[6]めれよ あるぎやと Frugiato Galaciano がよてやの ちを とわる とず あーやよ そーくを Musiani のぶる ことを きよう Troanni そくるまよ きんぜよれて [7]むーやよ Musiani いくりーグ まく びてるやよ Bitiniani ゆろんと せーよ あすの そくは これを ゆるくろ [8]まがろーよ おりて ひとりの まけすぎて とろあすよ くさされり。[9]むうろ よる Makedoniani とうやびと おのれよ ねぐるて、まけどうやよ とくり されよを くすけるとる いへる を そくり。[10]むうろ この まがろーを そー のち さらそひの おとられを めれよ のぶる さめよ かを されよをめー さまひーことを されよ さとりて そくちよ

まけどうやよ ゆうんと せり。[11]これよ ふるぜーて Samotrakeni まろすぐる もーりて さやてふけよ いくり、つぎの Neapolini ひねやりよ ゆす、[12]そこより まけどうやの いち ふぐんの おゆある まち Filipini びりびよ いくされり。めーとい 植民地 colominitei をよくさんち あり。これよ ひさーくその まちよ、とふされり。[13]やすそびよ これよ まちの ゆん より いぐく めその そとり ある Ludiato るぐやと あらくる あらまりくる をふるくそちよ そことをを めくされり。[14]こくよ Tiatirano てやそよの まちの ひとりの そんま あり、めれん むふさきの ぬのを あきまふ あきうどうて かこを うやまふ ゆの あるぐ いまさく ねくりーよ さこ めれが [15]めれ めぞくと ともよ ちづめを うけての ちこれる ことよ さる そのこころを ひとつの くまくり。これを さこの ちんとやと おゆそば これ いくよ ちひて これよを いとーめくり。

[16]のち これよ いのり する ところよ ゆける うとるひの さまよ よこれ、うふるひよ よりて その あるとともよ おそくの りを まうけさをる ひとりの ちゆめ これよを あんり。[17]めれ もうろ おとび これよ ちさひ さけびて いひ

けるん、このひとびとん ゆうとも さうぢ かその ちゆべるーて すくひの そちを
1,2,5 manjimani; 3,6,7,9, warorani
あんぢよ のぶる ものあり。18 われ ちよつ めくの ごとく せーよ むうの
らべくそーく おもひ さまよ むうみて いひけるん、これ あす きり すとの あよ
よりて あんぢよ めりず、われ よりいぐよ。さま さちところろよ いぐるり。19 ちゆ
めの あるよどもの のぞむ ところの まうけの すぐよ うやそるを そて むうろと
ちーを ととく これを いちをよ そる やくうるみの まくよ ひきりすをり。20 すぐよ
これを つうさどゆよ つれ ゆきて いひけるい、このひとびとん ゆすやびとるーて
おそひよ われとの ろまびとの うく べうとず おこ
あん べうとぎる あとむーを つさふる あり。22 おそせりの ものども こぐりて
われとよ さうとひ さら、つうさどゆん そのきものを そぎ めりとて これを むち
うさーめり。23 おそくむち うちての のちこれを らうやよ いれて らうやよ めくく
まゆれとめりず。24 らうぢんん めくめりを おくの らうやよ いれ
めりあーげむうて そのあーを めくく ちめるらり。25 よあら むうろと ちといのりを
あー めり うさみて かそを さんびむーよ めーうどと そそを そぢて~ き~
ねさりーげ26 さちまち おそひあるぢーん ありて らうやの どぢの ふるそれ さと

ちよ とことごとく ひとけて すべての ものの~ くさり とけさり。27 らうむえん め
さめて らうやの とのひとけさるを そされば めーうどと すぐよ まけー あとんと
おもひ めさあを ぬきて おさら せんと せーよ28 むうろ おそごあよ よむさりて
いひけるん、あんぢ そづうとを そさあふ あられ、これとん そある こさよ あり。
29 らうむえん あさりを よび ゆとめて むーり いりて むうろと ちとの まくよ おの
さぎ ふー30 めれとを そとへつれ いぐーて それんるん あうを あす べきさ。31 めれと
さとーば あんぢ および あんぢの めぞくも すさそ ことむを めれと すべて その いんよ そる
ときらうむえん ふさりの ものを つれ ゆき めれの および その めぞく さある
めれしの うちき ぎを おとひ さとさよ そうけさり。34 つりよ めれとを いんよ
さづさん いり その まんよ ちあくゆうを そあん めあのぢうと とゆよ かそを
ちんとて よろこべり。

35 よあけよ ありて つうさとも ちさやくを つうむーて いひけるん、その ひと
びとを ゆる すず べー。36 らうむえん この ことを むうろよつけて いひけるん、つうさ

○

ピリピ Filipi
Filipi

ピリピ Filipi
Filipi

ピリピ Filipi
Filipi

ゐたりしが、27 神を尋ねもとめ、あるひは探りて遇ふことあらんかと願ひたまへり。
實に神は我らおのおのを離れたまはざるなり。28 我らは神にありて生き、動き、
かつ存ふればなり。なんぢらの詩人のうちにも、『我らは神の裔なり』と言ひし
ものあるごとし。29 されば我らは神の裔なるに、神を人の技巧と思案とをもて
作りたる金・銀・石のごとしと想ふべからず。30 神は斯かる無知の時を見のが
したまひしが、今は何處にても凡ての人に悔改めを命じたまふ。31 これは神が
義をもて世を審かんとて、日を定めたまひ、その日に審かんために、ひとりの人
を選びたまひ、その人を死人のうちより甦らせて、凡ての人にこれを信ずる證
を與へたまへばなり。32 彼らは死人の甦ることを聞きて、あるひは嘲り、あるひ
は「この事につきては、なほ後に聞かん」と言ひしが、33 パウロは斯くて彼らの
中より出でたり。34 されど彼に從ひて信じたる者もあり。その中にはアレオパゴ
スの議員ディオニシオと、ダマリスといふ女と、また他の數人とありき。

十八章

1 この後パウロはアテネを去りてコリントに往き、2 ポントの產にしてアクラ
といふユダヤ人と、その妻プリスキラとに遇へり。クラウデオ、ユダヤ人をこと
ごとくローマを去らしめたる命令を下したるによりて、近ごろイタリアより來
りたるなり。パウロ彼らに往きて、3 その業も同じければ、彼らと共に住みて働
けり。業は天幕を造ることなりき。4 パウロ安息日ごとに會堂にて論じ、ユダヤ
人とギリシヤ人とを勸めたり。

5 シラスとテモテオとマケドニヤより下りし時、パウロ御言を傳ふることに
迫られ、イエスは基督なりと、ユダヤ人に證せり。6 彼ら逆らひ、かつ罵りたれ
ば、パウロ衣の塵を振ひ落して言ひけるは、「なんぢらの血はなんぢらの頭に歸
せよ、我は潔し。今より後われは異邦人に往かん」と。7 斯くて彼處を去りて、
神を敬ふテテオ・ユストといふ人の家に入りたり。その家は會堂に隣れり。8 會
堂の司クリスポ、その一家と共に主を信じ、またコリントの多くの人々も聽きて
信じ、かつバプテスマを受けたり。9 夜、主ビジョンをもてパウロに言ひたまひ
けるは、「懼るな、語りて默すな。10 我なんぢと共にをり、なんぢを害ふ者なし。
この町には我に屬する民多ければなり」と。11 斯くてパウロ一年六箇月ここに
居て、神の言を彼らに教へたり。

12 ガリオ、アカヤの方伯たりしとき、ユダヤ人ら一致してパウロに逆ひ、彼を
裁判の座に曳きゆきて、13 言ひけるは、「この人は人を勸めて律法に背きて神を
敬はしむ」と。14 パウロ口を開かんとせしとき、ガリオ、ユダヤ人に言ひけるは、
「ユダヤ人よ、もし不義または惡しき犯罪のことならば、なんぢらの訴へを聽く
こと理なきにあらず。15 されど言葉と名と、なんぢらの律法とのことならば、
なんぢら自ら處置せよ。我は斷じて審かじ」と。16 斯くて法廷より逐ひ出だせ
り。17 ここにおいて人々みな會堂の司ソステネを捕へて、法廷の前にて打ちたり。
されどガリオは何事をも意に介せざりき。

18 パウロ猶しばしば兄弟たちに別れて後、シリヤに船出せんとし、ケンクレ
アにて髮を剃れり。これ誓願ありたればなり。19 エペソに着きて彼らをそこに
殘し、自ら會堂に入りてユダヤ人と論じたり。20 彼ら更に久しくとどまらんこ
とを請ひしが、21 聽かずして別れを告げ、「神の御意ならば、我また歸りなん」
と言ひて、エペソより船出し、22 カイザリヤに着きて上りて教會に安否を問ひ、
それよりアンテオケに下れり。23 しばらくして後、また出でてガラテヤの地方
およびフルギヤを次第に巡りて、すべての弟子たちを勵ませり。

24 アレキサンドリヤ生まれのユダヤ人アポロといふ雄辯の人エペソに來れり。
聖書に通じたり。25 この人は主の道を教へられ、心熱して、イエスのことを正
しく語り教へたれども、ヨハネのバプテスマのみを知りたるなり。26 彼また會
堂にて大胆に語りはじめたれば、プリスキラとアクラとこれを聞きて、家に迎へ
入れ、神の道をいよいよ正しく説き明かせり。27 アポロ、アカヤに往かんと思ひ
たちしとき、兄弟たち勵まして、弟子たちに書を送りて彼を迎へしめたり。彼
往きしとき、恩寵によりて信じたる者に大いに益せり。28 すなはち聖書をもて
ユダヤ人を公に論破し、イエスは基督なりと證せり。

十九章

1 アポロ、コリントにゐたりしとき、パウロ上の國を經めぐりてエペソに來り、
數人の弟子に遇へり。2 言ひけるは、「なんぢら信じたるとき聖霊を受けたるか」
と。彼ら言ひけるは、「聖霊ありとも聞かず」と。3 言ひけるは、「なんぢらは何
のバプテスマを受けたるか」と。言ひけるは、「ヨハネのバプテスマなり」と。
4 パウロ言ひけるは、「ヨハネは悔改めのバプテスマを施して、人々に、自分の
後に來たるべき者、すなはちイエスを信ずべきことを勸めたり」と。5 彼ら聞き
て、主イエスの名によりてバプテスマを受けたり。6 パウロ彼らに手を置きたる
とき、聖霊彼らに降りたまひ、彼ら異言を語り、また預言したり。7 その人は合
せて十二人ばかりなりき。

8 パウロ會堂に入りて、三箇月のあひだ大胆に語り、神の國のことを論じて勸
めたり。9 ある者どもは心を頑なにして信ぜず、會衆の前にて此の道を謗りたれ
ば、パウロ彼らを離れ、弟子たちを別にして、ツラノの講堂にて日々論じたり。
10 これ二年のあひだ續けられたれば、アジヤに住めるユダヤ人もギリシヤ人も
ことごとく主の言を聞けり。11 神パウロの手をもて非凡の奇蹟を行ひたまひ、
12 彼の身より手巾または前掛を取りて病人に當つれば、病は去り、惡しき霊は出
でたり。13 ここに諸國を巡りて惡しき霊に憑かれたる者に主イエスの名を唱へ
て、「パウロの宣ぶるイエスによりて汝らに命ず、出でよ」と言ひ試みる者ども
ありき。14 ユダヤの祭司長スケワといふ者の七人の子らかくせしなり。15 惡しき
霊答へて言ひけるは、「イエスは我の知るところ、パウロも我の知るところなり。
されど汝らは何者ぞ」と。16 惡しき霊の憑きたる人、彼らに飛びかかりて、ひと
りに勝ち、ふたりに勝ちて、彼らを裸にし、傷を負はせて、その家を逃げ出でた
り。17 エペソに住めるユダヤ人もギリシヤ人もことごとくこれを聞きて懼れ、主
イエスの名は大いに崇められたり。18 信じたる者の多くも來りて、その行ひを
告白し、19 また魔術を行ひたる者の多くも、その書を持ち來りて、みなの前に焚
きたり。その價を數へたれば、銀五萬枚なりき。20 斯くのごとく主の言は大いに
ひろまり、勢ひを加へたり。

21 これらの事ありし後、パウロ心に定めけるは、マケドニヤとアカヤとを經
めぐりてエルサレムに往き、「我そこに往きし後、ローマをも見ざるべからず」
と。22 ここにおいて己に仕ふる者のうち、テモテオとエラストとの二人をマケド
ニヤに遣はし、自らはなほしばらくアジヤに留まれり。23 その頃この道のことに
つきて、容易ならぬ騒動起れり。24 デメテオといふ銀細工人ありて、アルテミス
の銀の神殿を造りて、職人たちに少からぬ利益を與へたり。25 彼これらの者と、
その仕事に從ふ者とを集めて言ひけるは、「皆の者よ、なんぢらの知るごとく、
我らの富はこの業より得るなり。26 なんぢらまた見聞きするごとく、パウロはエ
ペソのみならず、ほとんどアジヤ全體にわたりて、多くの人を説き伏せ、手にて
造りたるものは神にあらずと言ひて、勸めたり。27 されば我らの業の信用を失ふ
のみならず、大女神アルテミスの宮も顧みられなくなり、アジヤおよび全世界の
拜むところの者の尊嚴も地に墜ちんとす」と。28 人々これを聞きて憤り、叫びて
言ひけるは、「エペソ人のアルテミスは大いなるかな」と。29 町は擾亂に滿ちて、
パウロの同行マケドニヤ人ガイオとアリスタルコとを捕へ、一同心を合せて劇場
に雪崩れ入りたり。30 パウロ民の中に入らんとせしが、弟子たち許さざりき。
31 アジヤの諸州の長官たちも、パウロの友なりしが、人を遣はして、劇場に入ら
ざるやう勸めたり。32 集會は混亂に陷りて、ある者どもは一事を叫び、ある者ど
もは他事を叫びたり。實に集まりし者の多くは、何のために集まりしかをも知ら
ざりき。33 ユダヤ人アレキサンダルを群衆の中より引き出だしたれば、アレキサ
ンダル手を振りて、民に辯明せんとせしが、34 彼がユダヤ人なることを知りて、
みな一聲に、二時間ばかり、「アルテミスは大いなるかな」と叫びたり。35 町の
書記、群衆を鎭めて言ひけるは、「エペソ人よ、エペソの町がアルテミス大女神
と、天より降りし像との守護者なることを知らざる人あらんや。36 されば此の事
は爭ふべからざることなれば、なんぢら靜かにして、何事をも輕率に行ふべか
らず。37 なんぢらは此の人々を連れ來りたれども、宮を荒す者にもあらず、また
我らの女神を瀆す者にもあらず。38 もしデメテオおよび彼と共にをる職人たちに
對して訴へごとあらば、裁判の日あり、また總督もをり、互に訴へ合ふべし。
39 なほ他のことにつきて尋ぬることあらば、正當の集會にて決すべし。40 今日の
ことにつきては、我らは騒動の廉をもて咎めらるる恐れあり、この騒ぎに對して
申し開きをなすべき理由なければなり」と。41 斯く言ひて集會を解散せり。

二十章

1 騒ぎ止みたる後、パウロ弟子たちを呼び寄せ、勵まして別れを告げ、マケド
ニヤに往かんとて出でたり。2 その地方を經めぐりて、多くの言をもて勵ませ、
ギリシヤに來りて、3 三箇月をそこに過せり。パウロ、シリヤに船出せんとせし
とき、ユダヤ人彼に對して陰謀をめぐらしたれば、マケドニヤを經て歸らんと決
心したり。4 ベレヤのピロの子ソパテロ、テサロニケ人アリスタルコとセクンド
と、デルベのガイオ、テモテオ、またアジヤのテキコとトロピモとは、パウロに
從ひて行きたり。5 彼らは先だちて往きてトロアスにて我らを待てり。6 我らは
除酵祭の後、ピリピより船出して、五日にて彼らのもとに至り、七日そこに滯在
せり。

7 週の初の日、我らパンを擘くために集まりしとき、パウロ翌日出でんとて、
人々に語りつづけ、夜半に及べり。8 我らの集まりたる樓上には燈火多かりき。
9 ユテコといふ青年、窓に坐しゐたりしが、深き眠りに陷りて、パウロの語りつ
づけしとき、眠りに勝ちて三階より下に落ち、死人となりて取り上げられたり。
10 パウロ下りゆきて、その上に身を投げかけ、抱きて言ひけるは、「騒ぐな、その
生命は彼のうちにあり」と。11 パウロまた上りゆきてパンを擘きて食し、なほ久
しく語りつづけて、夜明けに及びて出でたり。12 人々その生きかへりたる青年を
連れ歸りて、大いに慰められたり。

13 我らは先だちて船に乗りてアソスに往き、そこよりパウロを乗せんとせり。
パウロ徒歩にて往かんとて、かく定めおきたればなり。14 アソスにて我らに合
ひ、パウロを乗せてミテレネに至り、15 そこより船出して翌日キオの沖に着き、
その翌日サモスに寄港し、またその翌日ミレトに着けり。16 パウロはエペソに寄
港せざりき。アジヤにて時を費すことなからんために、五旬節にはエルサレムに
ゐたきと急ぎたればなり。

17 パウロ、ミレトよりエペソに人を遣はして、教會の長老たちを呼び寄せたり。
18 彼ら來りしとき、パウロ言ひけるは、「なんぢらは我がアジヤに來りし第一日
より、終始なんぢらの間にいかにして過せしかを知る。19 すなはち謙遜と、涙と、
ユダヤ人の陰謀によりて我に臨みし試煉とに遭ひながら、主に事へて、20 益にな
ることは一つも隱さず、公にも人の家にても、なんぢらに教へ、21 ユダヤ人にも
ギリシヤ人にも、神に對する悔改めと、我らの主イエスに對する信仰とを證せ
り。22 今われ霊に迫られてエルサレムに往くが、そこにて我に臨むことは何ぞや
知らず。23 ただ聖霊が諸の町にて我に證して、鎖と患難とが我を待つと告げたま
ふのみ。24 されど我は己が走るべき行程を終へ、また主イエスより受けたる務、
すなはち神の恩寵の福音を證する務を果すことを得ば、この生命を何ら貴きもの
とせず、また自ら惜まず。25 我なんぢらの間を往きめぐりて、神の國を宣べ傳へ
たれど、なんぢら皆われに再び顏を見ざるべしと、今われ知る。26 されば今日な
んぢらに證す、我はすべての人の血に對して潔し。27 我は神のすべての御旨を
殘りなくなんぢらに傳へたればなり。28 なんぢら己と全き群とに心を留めよ。聖
霊なんぢらを監督に立てて、神の教會を牧せしめたまふ。神はその御子の血をも
て教會を買ひたまへり。29 我が去りし後、狼なんぢらの中に入りきたりて、群を
惜まざるべしと、我知る。30 なんぢら自身の中からも、弟子たちを己に引きつけ
んとて、曲れることを語る者起るべし。31 されば目を覺ましをれ、我三年のあひ
だ夜も晝も涙をもて、なんぢら各自を訓戒せざることなかりしを憶へ。32 今なん
ぢらを神とその恩寵の言とに委ぬ。この言はなんぢらを建て上げ、聖別せられた
る者すべてのうちに嗣業を與へ得るなり。33 我は人の金・銀・衣服を貪りたる
ことなし。34 我が必要のためにも、我と共にをる者のためにも、この手の働きて
得たることは、なんぢら自ら知るところなり。35 我は凡ての事において、斯く働
きて弱き者を助くべきこと、また主イエスの自ら言ひたまひし『受くるよりは與
ふるは幸福なり』との言を記憶すべきことを、なんぢらに示したり」と。36 斯く
言ひて後、ひざまづきて一同と共に祈りたり。37 人々みな聲を放ちて泣き、パウ
ロの首を抱きて、接吻したり。38 その言ひたまひし、「なんぢら再び我が顏を見
ざるべし」との言に、殊に悲しみたればなり。斯くて彼を船まで送りたり。

二十一章

1 我らは彼らと別れて船出し、まつすぐにコスに來り、翌日ロドスに、また
そこよりパタラに着けり。2 ここにてフェニキヤに往く船を見つけて乗り、船出
せり。3 キプロスを見て、その南を過ぎ、シリヤに向ひて進み、ツロにて船荷を
おろすことになりたればなり。4 我らは弟子たちを尋ねて、そこに七日とどまり
たり。彼ら聖霊によりてパウロに言ひけるは、エルサレムに上るなかれと。5 我
らはその日數を終へて後、出でて旅を續けたり。彼ら皆その妻子と共に町の外ま
で我らを送りたり。我らは浜に跪きて祈りたる後、6 互に別れを告げ、我らは船
に乗り、彼らは家に歸りたり。

7 我らツロより航海を終へてプトレマイスに着き、兄弟たちに安否を問ひ、一
日彼らと共にをりたり。8 翌日出でてカイザリヤに着き、傳道者ピリポの家に入
りて、その家に留まれり。ピリポは七人の一人なりき。9 彼には預言する處女の
娘四人ありき。10 我らそこに數日とどまりたるとき、アガボといふ預言者ユダヤ
より下りきたれり。11 我らに來りてパウロの帶を取り、己の手足を縛りて言ひけ
るは、「聖霊の言ひたまふは、エルサレムにてユダヤ人この帶の持主をかく縛り、
異邦人の手に渡すべしと」と。12 我らこれを聞きて、その地の人々と共に、エル
サレムに上らざるやうパウロに勸めたり。13 パウロ答へけるは、「なんぢらは何
ゆゑ泣きて我が心を碎くか。我はエルサレムにて縛られんのみならず、主イエス
の名のために死ぬることをも辭せざるなり」と。14 パウロ勸めに從はざれば、我
らは「主の御旨の成らんことを」と言ひて默したり。15 斯くて數日の後、我らは
旅の用意をととのへて、エルサレムに上れり。16 カイザリヤの弟子たちも數人我
らと共に來りて、キプロス人ムナソンといふ古き弟子の家に我らを連れゆきて宿
らせたり。我らはこの人のもとに泊まるはずなりき。

17 我らエルサレムに着きしとき、兄弟たち喜びて我らを迎へたり。18 翌日パウ
ロ我らと共にヤコブのもとに往きたり。長老たちみな集まりゐたり。19 パウロ彼
らに安否を問ひ、神がその奉仕によりて異邦人のうちに成したまひしことを、一
つ一つ詳しく語りたり。20 彼ら聞きて神を崇めたり。また言ひけるは、「兄弟よ、
なんぢの見るごとく、ユダヤ人のうち信じたる者幾萬人ありや知れず、皆律法に
熱心なる者なり。21 彼らはなんぢが異邦人のうちにをるユダヤ人に、モーセに背
くことを教へ、子らに割禮を施すな、慣習に從ふなと言ふと聞きたり。22 されば
如何にすべきか。なんぢの來りしことは必ず聞くべし。23 我らの言ふところを行
へ。誓願ある者四人我らのもとにをり。24 彼らを連れゆきて、共に身を潔めよ。
彼らが頭を剃ることを得んために、その費用を出してやれ。さすれば皆なんぢに
ついて聞きしことは虚偽にして、なんぢ自ら律法を守りて正しく歩む者なること
を知るべし。25 信じたる異邦人については、我らは偶像に供へたる物と、血と、
絞殺したる物と、淫行とを避けよと、既に書を送りて決定したり」と。26 ここに
おいてパウロ彼らを連れて、翌日その人々と共に身を潔めて宮に入り、潔めの期
の滿つる日、すなはち各人のために供物を献ぐる日を告げたり。

27 七日の期まさに滿ちんとするとき、アジヤのユダヤ人パウロを宮に見かけ、
群衆を煽動して彼を捕へ、28 叫びけるは、「イスラエル人よ、助けよ。この人は
民と律法とこの場所とに逆ひて、到るところにて人に教ふる者なり。その上ギリ
シヤ人を宮に連れ入りて、この聖き場所を汚したり」と。29 これは彼らが前にエ
フェソ人トロピモを町にて彼と共に見かけ、パウロが彼を宮に連れ入りたりと思
ひたればなり。30 町は擾亂に陷りて、民は一時に集まり、パウロを捕へて宮より
引き出だしたれば、門は直ちに閉ぢられたり。31 彼らパウロを殺さんとせしが、
全エルサレムの騒ぎ立つことを千卒長に告げ知らせたり。32 千卒長ただちに兵卒
と百卒長とを率ゐて、彼らのもとに駆けくだりたれば、人々千卒長と兵卒とを見
て、パウロを打つことを止めたり。33 千卒長近づきて彼を捕へ、二つの鎖にて縛
ることを命じ、何者なるか、また何を行ひたるかを尋ねたり。34 群衆の中には、
ある者はこのことを叫び、ある者は他のことを叫びたれば、千卒長騒ぎのために
眞相を知ること能はず、パウロを營舍に連れゆくことを命じたり。35 パウロ階段
に至りしとき、群衆の暴力のために兵卒に擔がれたり。36 民の群れ來りて、「彼
を殺せ」と叫びつづけたればなり。37 パウロ營舍に入らんとするとき、千卒長に
言ひけるは、「我なんぢに何か言ふことを得るか」と。千卒長言ひけるは、「なん
ぢギリシヤ語を知るか。38 されば汝はエジプト人にして、先に亂を起し、四千の
暗殺者を率ゐて荒野に出でたる者にあらざるか」と。39 パウロ言ひけるは、「我
はキリキヤのタルソの生まれたるユダヤ人にして、一つの町の市民たり。我なん
ぢに願ふ、民に語ることを許せ」と。40 千卒長許したれば、パウロ階段の上に立
ちて、民に手をもて合圖をなしたり。ここにおいて一同靜まりたれば、ヘブル語
をもて言ひけるは、

二十二章

1 「兄弟たち父たちよ、我が今なんぢらに辯明するところを聽け」と。2 彼ら
ヘブル語をもて言ふを聞きて、ますます靜まりたり。パウロまた言ひけるは、
3 「我はユダヤ人にして、キリキヤのタルソに生まれ、この町にて育ち、ガマリエ
ルの足もとにて先祖の律法の嚴格なる教を受けたり。今日なんぢらの皆熱心なる
ごとく、神に熱心なる者なりき。4 我この道を迫害して死に至らしめ、男も女も
縛りて獄に投げ入れたり。5 これは大祭司も長老たちの全會も證するところなり。
我また彼らより兄弟たちに宛てたる書を受けて、ダマスコに往きたり。そこにゐ
る者どもを縛りてエルサレムに連れ來り、罰せられしめんとてなり。6 ダマスコ
に近づきて途にありしとき、正午ごろ俄かに大いなる光天より我をめぐりて照せ
り。7 我地に倒れて、『サウロ、サウロ、なんぢ何ゆゑ我を迫害するか』と言ふ聲
を聞けり。8 我答へけるは、『主よ、汝は誰ぞ』と。彼我に言ひたまひけるは、『我
はなんぢが迫害するナザレのイエスなり』と。9 我と共にをる者どもは光を見た
れども、我に語りたまふ聲を聞かざりき。10 我言ひけるは、『主よ、我何をなす
べきか』と。主我に言ひたまひけるは、『起きて、ダマスコに入れ、なんぢのなす
べきことは皆そこにて告げらるべし』と。11 我その光の輝きのために見えざるに
至りたれば、我と共にをる者どもに手を引かれてダマスコに入りたり。12 アナニ
アといふ人ありて、律法に從ひて敬虔の聞えあり、そこに住めるユダヤ人みなに
善き人と證せられたる者なり。13 この人我に來りて、傍に立ちて言ひけるは、『兄
弟サウロ、見えよ』と。その時我見ることを得て、彼を仰ぎ見たり。14 彼言ひけ
るは、『我らの先祖の神なんぢを選びたまへり、これ御旨を知り、義なる者を見、
その口より御言を聞くべきためなり。15 なんぢは見聞きしたることを、すべての
人に對して彼の證人となるべければなり。16 今なんぢ何を待つか。起きてバプテ
スマを受け、その名を呼びて罪を洗ひ去れ』と。17 我エルサレムに歸りて宮にて
祈りゐたりしとき、我を忘我の狀態に陷れり。18 我主を見たてまつりて、『速や
かにエルサレムを出でよ、我に關するなんぢの證を人々が受けざればなり』と言
ひたまふを聞けり。19 我言ひけるは、『主よ、我なんぢを信ずる者を獄に投げ入
れ、また會堂ごとに打ちたりしことを、彼ら自ら知るなり。20 なんぢの證人ステ
パノの血の流されしとき、我もそこに立ちゐて同意し、その殺されたるを守りた
りしことをも知るなり』と。21 彼我に言ひたまひけるは、『往け、我なんぢを遠
く異邦人に遣はすべければなり』と。22 人々この言までは聞きゐたりしが、聲を
擧げて言ひけるは、「斯かる者は地上より除け、生かしおくべからず」と。23 彼
ら叫び、衣を投げ、塵を空に撒きたれば、24 千卒長パウロを營舍に連れゆくこと
を命じ、彼らがかく叫びて彼に向ひたる故を知らんとて、鞭にて拷問して取り調
べんことを言ひたり。25 パウロ革紐にて縛りたるとき、傍に立ちゐたる百卒長に
言ひけるは、「ローマ人を鞭打つことは、罪なき者にしてよきことか」と。26 百
卒長これを聞きて、千卒長のもとに往きて告げ、「汝なにをせんとするか、この
人はローマ人なり」と言ひたり。27 千卒長來りてパウロに言ひけるは、「我に言
へ、汝はローマ人なるか」と。言ひけるは、「然り」と。28 千卒長答へけるは、「我
は多くの金を出して、この國籍を得たり」と。パウロ言ひけるは、「我は生まれ
ながらにこれを有つ」と。29 ここにおいて彼を拷問せんとせし者ども直ちに離れ
去りたり。千卒長もまた、パウロをローマ人と知りて、かつ縛りたるによりて、
懼れたり。30 翌日千卒長、パウロがユダヤ人に訴へられたる事の眞相を知らんと
欲して、その縛めを解きて、祭司長たちと全會とを集まらしめ、パウロを引き出
だして彼らの前に立たしめたり。

二十三章

1 パウロ議會を見つめて言ひけるは、「兄弟たちよ、我は今日にいたるまで全
く良心に從ひて神の前に生活したり」と。2 大祭司アナニア、パウロの傍に立ち
ゐたる者どもに、彼の口を打つことを命じたり。3 ここにおいてパウロ彼に言ひ
けるは、「白く塗りたる壁よ、神なんぢを打ちたまはん。なんぢは律法に從ひて
我を審くべくして、律法に背きて我を打つことを命ずるか」と。4 傍に立ちゐた
る者ども言ひけるは、「なんぢは神の大祭司を罵るか」と。5 パウロ言ひけるは、
「兄弟たちよ、我は彼が大祭司なることを知らざりき。聖書に『なんぢは民の司
を惡しざまに言ふべからず』と記されたればなり」と。6 パウロ一部はサドカイ
人、一部はパリサイ人なるを知りて、議會の中にて叫びけるは、「兄弟たちよ、我
はパリサイ人にしてパリサイ人の子なり。我は死人の望みと甦りとのことにつき
て、裁かるるなり」と。7 彼斯く言ひたれば、パリサイ人とサドカイ人との間に
爭ひ起りて、會衆二分されたり。8 サドカイ人は甦りも、御使も、霊もなしと言
ひ、パリサイ人はこれらの皆あるを認むればなり。9 ここに大いなる騒ぎ起りて、
パリサイ人の一部の學者たち立ちて爭ひ、「我らはこの人に何の惡しきことをも
見出さず、もし霊あるひは御使なんぢに語りたりとも、我ら神に逆ふべからず」
と言ひたり。10 爭ひ甚しくなりたれば、千卒長パウロが彼らに引き裂かれんこと
を恐れ、兵卒に命じて下りゆきて、彼らの中より彼を奪ひ取りて營舍に連れゆか
しめたり。11 その夜主パウロの傍に立ちて言ひたまひけるは、「パウロよ、心を
強くせよ、なんぢエルサレムにて我が證をなせしごとく、ローマにても證をなす
べければなり」と。

12 朝になりて、ユダヤ人ら一致して陰謀をめぐらし、パウロを殺すまでは飲食
せざることを誓ひたり。13 この陰謀をめぐらしたる者四十人以上なりき。14 彼
ら祭司長たちと長老たちとのもとに往きて言ひけるは、「我らは堅く誓ひて、パ
ウロを殺すまでは何をも食はざることを約したり。15 されば今なんぢら議會と共
に千卒長に願ひ出でて、彼を汝らのもとに連れ下らしめよ、彼の事をなほ詳しく
調べんとするごとくに裝へ。我らは彼の近づくまでに殺すべし」と。16 パウロの
姉妹の子その陰謀を聞きて、營舍に入りてパウロに告げたれば、17 パウロ百卒長
の一人を呼び寄せて言ひけるは、「この青年を千卒長のもとに連れゆけ、告げ知
らすべきことあればなり」と。18 百卒長彼を連れて千卒長のもとに往きて言ひけ
るは、「囚人パウロ我を呼び寄せて、この青年を汝のもとに連れゆくことを願ひ
たり、告げ知らすべきことあればなり」と。19 千卒長その手を取りて、ひそかに
退きて、「我に告げ知らすべきことは何ぞ」と問ひたり。20 言ひけるは、「ユダヤ
人ら一致して、パウロを明日議會に連れ下らしめんことを願ひ出でんと約したり。
21 されど汝彼らに從ふなかれ、彼らのうち四十人以上の者、彼を殺すまでは飲食
せざることを誓ひ、すでに約したればなり。今彼ら汝の許諾を待ちゐたり」と。
22 千卒長、この青年を去らしめ、「汝が我に告げ知らせたることは、誰にも言ふ
なかれ」と命じたり。23 ここにおいて百卒長二人を呼び寄せて言ひけるは、「カ
イザリヤまで行くために、歩兵二百、騎兵七十、槍兵二百を今夜第三時に備へよ」
と。24 また乗馬をととのへて、パウロを乗せ、無事にユダヤの總督フェリクスの
もとに連れゆくべきことを命じたり。25 百卒長また次のごとき書を認めたり。
26 「クラウデオ・リシヤより、閣下フェリクス總督殿に謹んで申し上げます。27 こ
の人はユダヤ人に捕へられ、殺されんとしたるを、我が兵を率ゐて往きて救ひ出
だしたり、ローマ人なることを知りたればなり。28 我彼らが何の故をもて彼を訴
へたるかを知らんとて、彼を彼らの議會に連れ下りたるに、29 その律法の問題に
つきて訴へられたることは知りたれども、死あるひは縛めに當る何の罪をも認め
ざりき。30 この人を殺さんとする陰謀ありとの報告を受けたれば、直ちに閣下の
もとに送り、訴へ人らにも閣下の前にて彼に對する事を言ふべきことを命じおき
ます。ご機嫌よろしく」と。31 兵卒は命じられたるごとくパウロを取りて、夜の
うちにアンテパトリスまで連れゆき、32 翌日騎兵に彼を護らせて行かしめ、自ら
は營舍に歸りたり。33 騎兵はカイザリヤに入りて書を總督に渡し、パウロをも彼
の前に立たしめたり。34 總督書を讀みて、パウロがいづれの州の者なるかを問ひ、
キリキヤの者なることを知りて、35 言ひけるは、「なんぢを訴へたる者どもの來
りしとき、聽くべし」と。ヘロデの官邸にパウロを留置くことを命じたり。

二十四章

1 五日の後、大祭司アナニア、長老たちと、テルトロといふ辯護士とを連れ下
りたれば、彼ら總督に對してパウロを訴へたり。2 パウロ呼び出されたるとき、
テルトロ訴へ始めて言ひけるは、「閣下フェリクス殿、我らは閣下のお蔭をもて
大いに平安を得、また閣下の先見によりてこの國民のために多くの改革の行はる
ることを得たり。3 閣下、我らは何處にても何時にても、これを感謝して受く。
4 されど閣下のお煩はしを長くせざらんために、願ふ、我らの言ふところを暫く
聽きたまへ。5 我らはこの人の疫病のごとき者にして、世界の全ユダヤ人の間に
騒動を起す者、ナザレ人の異端の首領たることを見出だしたり。6 彼はまた宮を
汚さんとせしが、我ら捕へたり。7 千卒長ルシヤ來りて、大いなる力をもて彼を
我らの手より奪ひ取りて、8 訴へ人らを閣下のもとに來らしめたり。閣下ご自身
彼を調べたまはば、我らが彼を訴ふる事の眞相を知りたまふべし」と。9 ユダヤ人
ら一致して、斯くのごとくなりと言ひて、パウロを訴へたり。10 總督パウロに語
ることを許したれば、パウロ答へけるは、「閣下が多年この國民の裁判人たるこ
とを我は知りたれば、喜びて我が事を辯明す。11 閣下、我がエルサレムに禮拜の
ために上りしは、十二日にすぎざることを知りたまふべし。12 彼ら宮にても、會
堂にても、また町にても、我が人と論じ、あるひは群衆を煽動するを見ざりき。
13 また今なんぢらが我に對して訴へ出でたることは、何ら證據だてることを得ざ
るべし。14 されど我は此の事を認む、すなはち彼らが異端と稱する道に從ひて、
我らの先祖の神に事へ、律法に適ひたることと預言者の書に記されたることとを
皆信じ、15 また義人にも不義の人にも甦りのあるべきことを、神に對して望みを
懷くこと、彼らも自ら待ち望むところなり。16 されば我は神に對しても人に對し
ても、常に良心の咎なきことを勉めたり。17 我多くの年を經て後、施しと供物と
を携へて、我が國民に上りたるに、18 彼ら宮にて我が身を潔めたるを見たり。群
衆もなく騒動もなかりき。19 ただアジヤのユダヤ人数人ありき。彼らこそ閣下の
前に出でて訴へ出づべかりしに、もし我に對して何か訴ふべきことありとせば、
20 あるひは我が議會の前に立ちゐたりしとき、何の惡しきことを見出だしたるか、
彼ら自ら言ふべし。21 ただ我が彼らの中に立ちて、『死人の甦りのことにつきて、
我は今日なんぢらの前に裁かるるなり』と叫びたる一言のみ」と。22 フェリクス
この道のことを詳しく知りたれば、裁判を延ばして言ひけるは、「千卒長ルシヤ
の來るとき、汝らの事を決すべし」と。23 百卒長にパウロを留置くことを命じ、
なほ自由を與へ、その知人の誰にも、彼に仕へ、または訪ふことを禁ずるなかれ
と言ひたり。24 數日の後、フェリクス、ユダヤ人なる妻ドルシラと共に來りて、
パウロを呼び寄せ、キリスト・イエスを信ずる信仰のことを聞きたり。25 パウロ
義と節制と來らんとする審きとのことを論じたれば、フェリクス懼れて答へけ
るは、「今は去れ、我に時あらば、また呼び寄せん」と。26 彼また金をパウロよ
り得んことを望みて、しばしば彼を呼び寄せて語りたり。27 二年を經てポルキオ・
フェストその後任となりたれば、フェリクス、ユダヤ人に恩を賣らんとして、パ
ウロを縛めたるままに捨て置きたり。

二十五章

1 フェスト州に入りて三日の後、カイザリヤよりエルサレムに上りたれば、
2 祭司長たちとユダヤ人の重立ちたる者とパウロを訴へ出でたり。3 フェストに
願ひて、パウロをエルサレムに呼び寄せんことを求めたり。彼ら途にて彼を殺さ
んとて、陰謀をめぐらしたればなり。4 フェスト答へけるは、「パウロはカイザリ
ヤに留置かるべし、我も間もなくそこに往くべし。5 されば汝らのうち權ある者
ども我と共に下りゆきて、この人に何か惡しきことありとせば、訴へ出づべし」
と。6 フェスト彼らのもとに八日あるひは十日とどまりたる後、カイザリヤに下
りたり。翌日裁判の座に着きて、パウロを引き出だすことを命じたり。7 パウロ
出でたるとき、エルサレムより下りきたりたるユダヤ人ら周圍に立ちて、多くの
重き訴へをなしたれども、證據だてることを得ざりき。8 パウロ辯明して言ひけ
るは、「我はユダヤ人の律法にも、宮にも、カイザルにも、何の罪をも犯したる
ことなし」と。9 フェスト、ユダヤ人に恩を賣らんとして、パウロに答へけるは、
「汝エルサレムに上りて、そこにて我がこれらの事を裁くことを欲するか」と。
10 パウロ言ひけるは、「我はカイザルの裁判の座の前に立ちゐたり、ここにて裁
かるべきなり。我はユダヤ人に何の惡しきことをもなしたることなきは、閣下も
よく知りたまふところなり。11 我もし惡しきことをなしたり、あるひは死に當る
ことをなしたりとせば、死を辭せず。されど彼らが我を訴へたることに何の眞實
もなくば、誰も我を彼らに渡すことを得ず。我はカイザルに訴へ出づ」と。12 ここ
においてフェスト陪審官と協議したる後、答へけるは、「汝はカイザルに訴へ出
でたり、カイザルのもとに往くべし」と。

13 數日の後、アグリパ王とベルニケとカイザリヤに來りてフェストに敬意を表
したり。14 彼らそこに數日とどまりたれば、フェスト、パウロのことを王に告げ
て言ひけるは、「ここにフェリクスの囚人として捨て置かれたる人あり。15 我エ
ルサレムに往きたるとき、祭司長たちとユダヤ人の長老たちとその人のことを訴
へ出でて、有罪の判決を求めたり。16 我これに答へけるは、ローマ人の慣例とし
ては、訴へられたる者、訴へ人らの前に對決して、訴へに對する辯明の機會を得
ざるうちは、何人をも罪に定めて渡すことなし。17 されば彼ら我がここに來りし
とき、少しも遲滯せず、その翌日裁判の座に着きて、その人を引き出だすことを
命じたり。18 訴へ人ら立ちて、我が思ひゐたりしやうな惡しき事を一つも申し立
てざりき。19 ただ彼らと自己の宗教とのことにつきて、イエスといふ死にたる者
の事につきて爭ひたるのみ、パウロはその生きてゐることを主張したり。20 我こ
の事の調べ方に迷ひたれば、エルサレムに往きて、そこにてこれらの事につき裁
かるることを欲するかと問ひたるに、21 パウロ皇帝の判決を受けんために留置か
れんことを願ひ出でたれば、我カイザルのもとに送るまで留置くことを命じたり」
と。22 アグリパ、フェストに言ひけるは、「我も其の人の言ふことを聽かんと思
ふ」と。フェスト言ひけるは、「汝明日聽くべし」と。23 斯くて翌日アグリパとベ
ルニケとは大いなる威儀を備へて來りて、千卒長たちと町の重立ちたる人々とと
もに聽聞の間に入りたれば、フェストの命によりてパウロ引き出だされたり。
24 フェスト言ひけるは、「アグリパ王、ならびに我らと共にここにをる人々よ、
なんぢらの見るところの者を見よ、ユダヤの民全體、エルサレムにても此處にて
も、この者の生くべきにあらずと、我に訴へ出でたり。25 我は彼が死に當ること
を何もなしたりとは認めざりき。されど彼自ら皇帝に訴へ出でたれば、送ること
に決したり。26 彼のことにつきて主に書き送るべき確かなることを我は持たず。
されば彼を聽聞

かそを さぐりねて めれとげ あるひと これを さぐり えんげ こめ あり。そうりと
いんとも かそに これと おのあの より とわらとぉ。28 これとに めれよ よりて いま、
うごま まこ あげとゆる あり。あんちとの うちの ある うこぉそも、これとに
その すへ ありと いひーげ でとー。29 これとに かそに ひとの
おゆつと くふうを ゆつて きさこるる きんぎん いーの でとき ものと おもふ
べうとぉ。30 かそに ねろー めくの でとく をとさるの ときを そのグー こあんくり、
されど いまに いげこよ おりてる すべその ひとよ より こと一きを ゆるて
こまふ。31 そに、めれ すぜよ その こそー ところの ひとよ より こと一きを ゆるて
よと さぜく べま いちょちを さざめ、めつ この こと つりてに めれを ちょり
よそげんとぜて すべその ものよ あろん こまんべ あり。32 めれと
ちょんの よそげんりの ことを きこて ある ものい あざけり、ある ものい、
されと ふこうび この ことを あんちょ きろんと いんり。33 こーよ おりて ちうろ
めれこの あろより いぜ され り。34 ちられとも すぁん めれよ つきて・ちんぜり、
そのうちよ あれよざんの さりぜんちんで おふび さまり今と あげくる
をんあ あり、まこ わろの ひとも めれこと とゆよ あり き。

この のち むうろ あそんを さりて こりんとよ いくり、2 めーこるて ぷんとよ
むまれー あくにと あげくる ゆるやびとよ あんり。くにうでよ すべその ゆでや
びとよ ろまを こちのく ことを そことの のり せー ゆるよ めれい その つまびり今
さこと とゆよ ちうでろ いくりや より きさりー ものあるが ちうろ その ゆとよ
いくれり。3 むうろ めれこと めぎゃうを おるとく するよ より、これと とゆよ
とぉまりて そそにけり。その めぎゃうん てんまく つくり あり。4 むうろいやす
そび でとよ くるのとうよ おりて ろんど のろ ゆでやびと おふび ぎりまやびとよ
ちんぎる ことを すこめくり。5 そこと てゆて まけどるや より きさりー とゆ
むうろ そーくを つるゆる ことよ こそろ ゆでやびとよ ゐすい きり
をと ありと あうーぜり。6 されど ゆざんぜーよ けげんぜーよ さろこのて
より むうろ きものを ふるひて いひける tol, sunawatei teiwo nugnanno tsumiwa ちい あんぢこのの めうべよ
きす べー、この とげよ つりてい これ いくぎこー、この のち これ いくんよ
ゆうん。7 つりよ むうろ そこを さりて かそを おげむ ものうて ゆすとく あげくる
ひとの いくよ いれり、その いくん くをのどうの とありよ あり。8 さり すぎと

いくる くるらどうの つくさ そのの めあらぢうと
こりんとの おわくの ひとも そーくを きく ちんとて そびめを うけくり。 9 さて
よるさき まぢろーよ おのて もうろよいひけるら、おそる〜 あられ、ゆくせぢーて
めくれ。 10 これ あんぢと とゆよ あるよ よりて くされも あんぢを せめて がいする
ことを えぢ、この まちよ さぐ くさ おわけれべ あり。 11 こくよ おのて もうろ
いちねんと ろくろけりの あひぐ めれよの あろうよ とぐなりて かその ことをを
そーくり。

Galio Akayano
12 がりよ あらやの そらくさん くりー とゆ ゆざやびと こころを あそをて もう
ろよ さくとひ おこり めれを さらをんーよ ひゅ いくりて いひける、 13 この
ものい おきてよ そむく ちろくを ゆりて かそを おげも ことを ひとびとよ をーゆ。
14 もうろ くちを ひとろんと せー とゆ がりよ ゆざやびとよ いひける、ゆざや
びとよ、ゆー ふぎ あるひい よくーまの ことを あとべ これ あんぢとの おきてよ つりその
ことをり あり。 15 されど ことぜ、あ、あるひらの おきてよ つりその
ろん あとべ あんぢと そづうと これを おさむ べー。これい めくの ごとゆ ことの
さぜきよん くるよ あとぢ。 16 つりよ めれとを さらぜんーよ より おひらぢをり。

17 こくよ おりて ひとびと そあ くをらどうの つくさ そすてねを ととん さらぜん
ーふの まんくよ おりて これを むちうてり。 そろうれども がりふん これとの こと
すくーゐ めまそさりゆ。 18 もうろ ひさーく めーくよ とぐまりて のち さやうさの
とゆよ どうれを つげて ぷり すきとよ おふび あくふと すりやよ むろふて
ちゆつちんぜり。 めれ ぐをん ありーげ ゆふよ けんぐれやよ おりて そのの かその
けを さりくり。 19 めれとよ えぺそよ いくりー とさりを めーくよ とぐ
め そゆ そぐうとい くをらどうよ いりて ゆぢやびと〜 ろんぜーげ 20 ひとびと
めれよ ひさーく ととまとん ことを ねぐひーく どもを そふうちぜーて
めれとよ どうれをつげ いひけるん、 21 〔これん めのあとぢ さくとんと するまつりを
ゐるされむよ おりて まゆよざるを えぢ、されど めのあとぢ さくとんと するまつりを
されど まく あんぢとよ めくとんと。 つりよ えぺそ より ちゆつちんぜり。 22 めれ
めのさりやよ いくりて ゐるされむよ のがり さやうくをらのよ やすきを とおて のち
あんてふきやよ くられり。 23 もうろ めーくよ まく いぐさち がとてやの ちと ふるぎやを つぎ
どゆを めるふ せり。

○ もーやの こさ ずら 十八 そやう

Aleksandriani
24 おれきさんどりやよ むなれー ゆずやびとよて べんさら ありめら せらきや
Apoloto
うよ さらーさる あやろと あらくる ひと えべそよ いくれり。 25 めれい めらて
Efesoni
きその そちの そーくを うけめら こころを あつふー、 そら よそねの そらめを
1,2,3,5, Yesuno; 6,9, Kimino
そる のそうて あすの ことを つまびとうよ めくり そーくり。 26 めれ くるらどうよ
1,2,3, Priskileto Akula
おらて そぞうとず めくり そとめ ければ ぶりすきーと あくよ これを さーめれを
Apolo
むうくて おその そちを あやもつまびとうよ とまり ありめり。 27 その のち あやろ
Aleyani
あうやよ ゆうんと あらんせーうば きやうずらどや ふそを おくりて でーくちよ
めれを うけん ことを すとめり。 めれ すべよ いくりて めぐそよ より そんずる
ものどもを おやひよ さすけくり。 28 いうるる あうんと あれば めれ せらきやうを ひきて
あすんきりすと ある ことを おとそーひとびとの まんうて おやひよ ゆずやびとを
いひふせられば あり。

ずら 十九 そやう

Korintoni
あやろの こりんとよ そる とまり なうろ ひびくーの めその ちを へて えべそよ いくり
Efesoni
ある でーどもよ おふて 2 これよ とひける、 あんぢと そらんじて さうまを そそまを
うけーや。 めれと いひける、 これと きこえ ざる ある ことをや さうぢらまり。

3 なうろ いひける、 さとば あんぢと うけーら あるう。 こるう
けるん、 よそねの そらめよ よる。 4 なうろ まる いひける、 よそねん くひ
あとうめの そらめを そとそー そそよ むうふて、 さぐ あとよ さうとんと する
1,2,3, Yesuwo; 6,7,9, Yesu Kristowo
ものす あるもち あすを ちんせよと いくり。 5 めれと これを さく さそ あすの あよ
おのて そらめを うけり。 6 なうろ てを そ そのうんよ おきければ さうまり そそま
これよ くさる。 こそよ おのて めれと くるぐるの ことをおて めくり めら よびん
せり。 7 そのひとびとん あそそて おようを おうよ ふん ありき。
8 なうろ くるのどうよ いりそらぶをーて めくり かその まつりごとの ことを
ろんと めら すうめて そうきを へくり。 9 そのうちの ある ものの めくるまーて
ちんせを、 おやせりの まんよ おのて そのそちを そーりければ なうろ めれとを
Tiranolo
そうれまる でーそのとうくるひとの めうどうよ おのて
ろんせり。 10 めくの ととく する こと ふねん ありーらば あーやよ をる ゆのら
ゆさやびと まる きりきやびとも そまを さそ そのの ことをを さけり。 11 かを なうろの
てよ よつて さどまんぬ ふーぎを おとまひ さまくり、 12 すまそち なうろの めとふ
よりて ぬぐひ ある ひら まんされを とりて びやうふんよ つけられば やまひ そまれて

あいまもるように祈りました。
13 いよいよ船出となりましたので、わたしたちは船に乗り込んでアソスへ向かいました。パウロがそこから陸路を行くことにしていたからです。14 アソスでパウロと合流して船に乗せ、一緒にミティレネに着きました。15 そこから船出して、翌日キオスの沖合いを通り、その翌日サモスに寄港し、さらに翌日ミレトスに着きました。16 パウロは、アジア州で時間を費やさないようにと、エフェソを素通りすることに決めていたのです。ペンテコステの日までにはエルサレムに着いていたかったからです。
17 ミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せました。18 彼らが集まって来たとき、パウロは言いました。
「皆さんもご存じのとおり、わたしはアジア州に来た最初の日から、ずっと皆さんと一緒に過ごしてきました。19 謙遜の限りを尽くし、涙を流し、ユダヤ人の陰謀によってこの身にふりかかってきた試練に耐えながら、主に仕えてきました。20 皆さんのためになることは、一つ残らず伝えてきましたし、公の場でも、また家々を訪ねても教えてきました。21 神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスを信じる信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力を込めて証ししてきました。22 そして今、わたしは“霊”に促されてエルサレムに行きます。そこでわたしの身に何が起こるか、分かりません。23 ただ、投獄と苦難とがわたしを待っていることは、聖霊が至る所でわたしに告げておられます。24 しかし、自分の決められた道を走り終えて、主イエスから授けていただいた務め、すなわち神の恵みの福音を力強く証しするという務めを果たすことができれば、この命すら決して惜しいとは思いません。
25 今、わたしには分かっています。皆さんは、わたしが神の国を宣べ伝えて回ったのに、わたしの顔を二度と見ることがありません。26 ですから、今日はっきり言います。だれが滅びようとも、わたしの責任ではありません。27 神の御心をすべて、余すところなく伝えてきたからです。28 どうか、自分自身と群れ全体とに気を配ってください。“霊”は、この群れのために、あなたがたを監督者に任命されました。神は、御自分の血によって御自分のものとなさった教会を牧するようにと、あなたがたに託されたのです。29 わたしが去った後、残忍な狼があなたがたの中に入り込んで来て、群れを荒らすことが、わたしには分かっています。30 あなたがたの中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。31 だから、目を覚ましていなさい。わたしが三年間、夜も昼も涙ながらに教えてきたことを思い出してください。
32 今、あなたがたを神と、その恵みの言葉とにゆだねます。この言葉には、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされた人たち皆と共に、恵みを受け継がせる力があります。33 わたしは、だれの金銀や衣服をも欲しがったことはありません。34 わたしの必要のためにも、共にいた人たちのためにも、この手で働いてきたことは、あなたがた自身がよく知っています。35 わたしは、この点からも、弱い人たちを助けるように努めなければならないこと、また、主イエス御自身が、『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、あなたがたに教えてきました。」
36 パウロは、こう言ってから、一緒にいた人たち皆と共にひざまずいて祈りました。37 皆は激しく泣きながら、パウロの首を抱いて接吻し、38 もう二度と顔を見ることがないと言われたので、悲しみに沈みました。そして、パウロを船まで見送りました。

21 パウロは、彼らと別れて船出し、まっすぐコスに航行して、翌日ロドスに着き、そこから

ねうう も わろびん。 28 めれト これを き〜 おそひよ いうりて さけび いひけるん、
おそひある めま えんそびとの あるてそよ。 29 まちの ひとびと こぞうて さそ
ぎさち むうろの そちびれ ある まけどうやびとの がうと ありすこることを とよへ
こうろを あそせて ちそるぞよ もーり いれり。 30 そうろ ひとびとの うちよ
いりよんと わうせーよ でーども これを ゆるさざりき。 31 まうと あーやの まうりを
ちそも まる つうさ すまうん むうろの わうゆう ありーげ めれよ ひとを つうそ
ーて、そびうト ちそるぞよ いる ありれと すこめうり。 32 その とも ある ひとん
この ことを いひ、ある ひとん めの ことを いひ さけぶ、それ あうまり そびれて
おそうの ものん あんの さめよ あうまりーうを そよざれば あり。 33 こうよ おのて
ゆびやびと あれきさんびるを さきよ すこめ うちの ある ひと
これを つれきさりーよ あれきさんびる てまねをーて ひとびとの まんよ こうへを
あちうんと せーげ 34 めれト その ゆびやびとの あるを そりて おおを よびの あひる
そる どう ありんて、おそひある めま えんそびとの あるてそうと さけび あんり。
35 まちの 書記役 しょきやく ひとびとを そびうよ あーて いひけるん、えんそその ひとびと
とよ、あんびとう えんそその まちん おそひある あるてそ おおひ ぜう すより

おちー ところの すびうよ つうある ことを ちよざる。 36 ゆあよ これよの ことん
いひけー えざる ことと あれば あんびよ そびうりよ あらごとをも そやまり あす
べうトぜ。 37 この ひとびとん そやの ゆ 1, 2, 3, waterumo
ものを ぬすそーうも あよぜ、それよの Kamiwo; 6, nusjitsuno onnagamiwo
かそを けびせー ものうも あよぜ、そうるよ あんびよ ひおる さる
れり。 38 これよ よりて でめそりよ おおひ めれと ともよ ある さりうるんとも
ひとを うつうある こと あよん さりをんーよ あり めつ さりうるんも ある
よりて そびひよ うつうふ べー。 39 あんびよ ーりの ことよ つりて ゆとおる
ことと あよん おきそよ めるふ あつまりよ おりて これを さびむ べー。 40 それよ
けあの さそぎよ つりそん うつうくよれん ことを あやぶむ、そん、この くんよう
せー ことよ つりて いひ ひよく べき よー あければ あり。 41 めく めうりて その
あつまりを ちどをり。

さの 二十 ちやう

1, 2, 3, 5, susume katsu wakarewo tsugete

さそぎ やそて のち なうろ でーともを よび めれよを すこめ めつ さうれを
つげて まけどうやよ ゆうんとて いびうちうり。 2 めれ その わとりの ちを とおり
ひとびとよ おおくの すこめを あーて のちぎうりまやよ いうり、こうよ そうまの

Yutikoto

ありました。8 私たちが集まっていた屋上の間には、たくさんともしびがありました。
1, 2, 3, 5, warera; 6, 7, 9, deçidomo

Troasuni

9 エテコという青年が、窓に腰かけていましたが、ひどく眠くなり、パウロの話が
Filipi

Troasuni

長いので、とうとう眠りこんでしまい、三階から下に落ちました。抱き起こしてみ
1, 2, nosezu

1, 2, 3, 5, Purono musko naru ; 6, 7, 9, nosezu

Bereano Sopater

Tesalonikebitono Aristarkoto Sekundo, Derbeno Gayoto Timote, Açiano Tikikoto Trofimo

Troasuni

ると、もう死んでいました。10 パウロは下に降りて行って、彼の上にかがみこみ、
Filipi

彼を抱いて言いました。「騒ぐことはない。まだいのちがある。」11 それから、
Troasuni

また上に行って、パンを裂いて食べ、夜明けまでずっと話し続けて、それから出
1, 2, 3, 5, warera; 6, 7, 9, deçidomo

発しました。12 人々は生きている青年を連れて帰り、ひどく慰められました。

13 私たちは先に船に乗り込んで、アソスへ向かって船出しました。パウロをそこ
Asonite

で乗船させるためです。パウロがそう手はずしたのは、自分は陸路を行くつもり
だったからです。14 パウロがアソスで私たちと合流したので、私たちは彼を船に
Mitileneni

乗せてミテレネへ行きました。15 そこから船出して、翌日キオの沖合いに着き、
Kiono

その翌日サモスに寄港し、さらにその翌日ミレトに着きました。16 パウロは、エ
Samoni

Trogilioni

Miletoni

ペソスには寄らないことにしました。アジヤで時間を費やしたくなかったからで
Açiani

Efesowo

す。彼は、できることなら五旬節の日にはエルサレムにいたいと急いでいました。

17 ミレトから使いをエペソに送って、教会の長老たちを呼び寄せました。18 彼ら
が来ると、パウロは彼らに言いました。「私がアジヤに来た最初の日から、私が

ハハハホ ホホホ ホハハ ハハハ。[20] ホホハ ホホホ ホホ ハハハ ハホ ホホホホ
ハハハホホー ホホホホハ ホホ ホハ ハハハハホ ホホホホホ ホホホ ホホホ
ホホホホ ハハハ ホホホホ ホホホホホ ホホホホ ホホホホ ホホホホ ホホホホ
ホホホホ ホホホホ ホホホホ

37 ゐれよ そる おそひよ あの でうろの くびを いづる すびて、
38 あんぢよ このの のち ひげ ゐそを そぎる べーと その いひー ことをの さめよ
いくく うれひら〳〵 ゐれを ふね まを そあくれり。

さら 二十一 ちやう

さて ひれよ いやあぐとも ゐれよ ひうれて そ Kooni ちゆうすぐよ そーりて
こねよ いくる。つぎの ひろどよ ゆる、そこ よ Rodoni Pataraniより ぜくよ いくり、2ゐーとるて
ふらうけよ ひとをとよ する ふねよ あひーうべ ひれよ これよのりて そゆうをん寸。
3のち くぷろを Kuprown のぞを そて これを ひうりよ のくー、すりやよ Suriani むうひ そーりて
Tsuroni つろよ つけり、そん、ゐーとよ おらて ふねの つをるを おろさんと すれば あり。
4ひれよ おーとるて でーとゐを ぐづね いづでーて あぬうの あひざ とぐまれり。
ゐれよ ぞをあよ ゐんよてそうろよ あるされむへの がるあられといくり。5されど
あぬう すぐよ そち ければ ひれよ いぐぐちて そちよ つく、ゐれよ そるを そのの
つま ことゐと とゐよ まちの そと まを ひれよ そねられを そねられり。ここよ おのて
ひれよ うをべよ ひぐまらきて いめり、6あひうぐひよ いとまごひーて ひれよら
ふねよ のり、ゐれよ いくよ ゐくれり。

とゐよ やすゐを とめて いち まち とゐよ とるまる いくりて ふあぐらを そそり ゐーとの ゐやうづの
Tsuro つろ より Tolemaini とれまらよ 6,7,9, Paulotoの tomoni
aru warera; 1,2,3,4,5, nogezu ゐいぐらり。8まくつぎの ひ*いぐらちて
ゐいさりやよ いくり、（めらて そよぐれる）ちちるんの うちの ひとりよて ふく
りんを のぶる ひりひの いくよ いりて やどれり。9ゐれよ よるんの むすめ あり、
Agaboto
ゐれふ よけんする さむすめ あり。10ひれよ これよ あぐ分と あづくる よけんーや ゆづや より くづ
おひを どり おのれの あーとて ちをりて いひける、あるされむよ おのて
ゆづやひとの めくの ごとく このおひの ぬーを ちをりて いどんの てよ ひささんと
さよる そくるよ いひ そまくりと。12このことを きて ひれとそのところの ゆの
Paulooni Yerusalemuye どゆと ぞうろよ あるされむへの 分いぐる やうに ことゐ ゆとめり。13ぞうろ こくん
けるん、あんぢよ あけきて ひげ こくろを くづ ゐんぞや。ひれ きを あすの
あの そめるん そぐ ちをよる〳〵のを あいぎ、まくあるされむよ おのて ちするも
ひげ めくご する ところ あり。14めくの ごとく めれ すくめを うけぎり けれど
ひれよ やめて、ぞその むねの まくよ あれとと いくり。15すどうを へて のち
ひれよ ゐめうを ようのーて あるされむよ のゐれり。16ゐらさりやの でーゆ するん

○ ちーやの ひぎ さら 二十一 ちやう

みこころならば、なりゆきにまかせましょう。」
14 パウロがどうしても聞き入れようとしないので、
わたしたちは「主のみこころが行われますように。」
と言って、口をつぐんだ。
15 それから幾日かの後、
わたしたちは旅じたくをととのえて、
エルサレムへ上って行った。
16 カイサリヤの信者たちも幾人かついてきて、
ムナソンというキプロス人の家へわたしたちを連れて行った。
この人のところに泊まることになっていたからである。

17 エルサレムに着くと、
兄弟たちは喜んでわたしたちを迎えてくれた。
18 その翌日、
パウロはわたしたちを連れてヤコブのところへ行った。
長老たちもみな集まっていた。
19 パウロはあいさつをしてから、
神が異邦人の間で彼の奉仕によってなされたことを、
一つ一つ詳しく話した。
20 彼らはそれを聞いて、
神をほめたたえた。
そしてパウロに言った、
「兄弟よ、
ごらんのとおり、
ユダヤ人の中には幾万人もの信者ができていますが、
みな律法に熱心な人たちです。
21 ところが、
あなたが異邦人の間にいるユダヤ人たちに、
モーセを捨てよと教えている、
子供に割礼を施すな、
慣習に従うな、
と言っているという噂が、
彼らの耳に入っています。
22 いったいどうしたらよいでしょうか。
とにかく、
あなたが来られたことは、
彼らもきっと聞くでしょう。
23 そこで、
わたしたちの言うとおりにしてください。
ここに誓願を立てた者が四人おります。
24 この人たちを連れて行って、
一緒に清めの儀式を受け、
彼らのために費用を出してやってください。
そうすれば、
彼らは頭をそってもらうことになります。
そうすれば、
あなたについて聞いたことは根も葉もないことであって、
あなたが律法を守って正しく歩んでいることを、
すべての人が知るようになります。
25 異邦人の信者たちについては、
偶像にささげた肉と、
血と、
絞め殺した動物の肉とを食べることと、
不品行とを避けるようにと、
わたしたちが書き送ったことを、
彼らに守らせるようにしてあります。」
26 そこでパウロは、
その人たちを連れて行って、
翌日、
一緒に清めの儀式を受けて宮に入り、
清めの期間が終って、
一人一人のために供え物をささげる日を告げた。

27 七日の期間が終ろうとしていたとき、
アジヤから来たユダヤ人たちが宮の中でパウロを見かけ、
全群衆を騒がせて彼に手をかけ、
28 叫んだ、
「イスラエルの人たちよ、
助けてくれ。
この男は、
民と律法とこの場所とを、
あらゆる所で人々に教えて回っている者だ。
その上、
ギリシヤ人を宮の中に連れ込んで、
この聖なる場所を汚している。」
29 彼らは、
以前エペソの町でパウロと一緒にいるトロフィモを見かけていたので、
パウロが彼を宮の中に連れ込んだのだと思っていたのである。
30 そこで、
町中が騒ぎ立ち、
民衆が駆け集まってきて、
パウロをつかまえ、
宮の外へ引きずり出した。
すると、
すぐに門が閉められた。
31 彼らがパウロを殺そうとしていたとき、
ローマ軍の千人隊長に、
エルサレム全体が騒ぎ立っているとの報告が届いた。
32 千人隊長はすぐに兵隊と百人隊長たちとを率いて、
彼らのところへ駆けつけた。
群衆は千人隊長と兵隊とを見ると、
パウロを打つのをやめた。
33 千人隊長は近寄ってパウロを捕らえ、
二本の鎖につなぐように命じた。
そして、
彼は何者か、
何をしたのかと尋ねた。
34 群衆はてんでんばらばらに叫び立てるので、
千人隊長は騒ぎのために真相をつかむことができなかった。
そこで、
パウロを兵営に連れ込むように命じた。
35 パウロが階段のところまで来ると、
群衆の暴力のために兵隊にかつぎ上げられる始末であった。
36 民衆の群れが後からついてきて、
「殺してしまえ。」
と叫び立てていたからである。

37 パウロが兵営に連れ込まれようとしたとき、
千人隊長に言った、
「ちょっとお話ししてもよろしいでしょうか。」
千人隊長は言った、
「ギリシヤ語を知っているのか。
38 それでは、
あなたはエジプト人ではないのか。
あの前に暴動を起して四千人の暗殺団を荒野へ引き連れて行った者ではないのか。」
39 パウロは言った、
「わたしはユダヤ人で、
キリキヤのタルソの町の生まれです。
どうか、
民衆に話すことを許してください。」
40 千人隊長が許したので、
パウロは階段の上に立って、
民衆に向かって手で合図をした。
すると、
大きな静まりが起ったので、
ヘブル語で彼らに語りかけた、

ὁ ἐκ τοῦ ὄχλου εἶπεν αὐτῷ Διδάσκαλε, ἐπιτίμησον τοῖς μαθηταῖς σου. 39 καὶ ἀποκριθεὶς εἶπεν λέγω ὑμῖν ὅτι ἐὰν οὗτοι σιωπήσουσιν, οἱ λίθοι κεκράξουσιν. 40 καὶ ὡς ἤγγισεν ἤδη καταβαίνοντος αὐτοῦ πρὸς τὴν κατάβασιν τοῦ ὄρους τῶν ἐλαιῶν ἤρξαντο ἅπαν τὸ πλῆθος τῶν μαθητῶν χαίροντες αἰνεῖν τὸν θεὸν φωνῇ μεγάλῃ περὶ πασῶν ὧν εἶδον δυνάμεων, 38 λέγοντες Εὐλογημένος ὁ ἐρχόμενος βασιλεὺς ἐν ὀνόματι κυρίου· εἰρήνη ἐν οὐρανῷ καὶ δόξα ἐν ὑψίστοις. 39 καί τινες τῶν Φαρισαίων ἀπὸ τοῦ ὄχλου εἶπαν πρὸς αὐτόν Διδάσκαλε, ἐπιτίμησον τοῖς μαθηταῖς σου. 40 καὶ ἀποκριθεὶς εἶπεν λέγω ὑμῖν ὅτι ἐὰν οὗτοι σιωπήσουσιν, οἱ λίθοι κεκράξουσιν. 41 καὶ ὡς ἤγγισεν ἰδὼν τὴν πόλιν ἔκλαυσεν ἐπ' αὐτῇ 42 λέγων ὅτι Εἰ ἔγνως ἐν τῇ ἡμέρᾳ ταύτῃ καὶ σὺ τὰ πρὸς εἰρήνην σου· νῦν δὲ ἐκρύβη ἀπὸ ὀφθαλμῶν σου. 43 ὅτι ἥξουσιν ἡμέραι ἐπὶ σὲ καὶ παρεμβαλοῦσιν οἱ ἐχθροί σου χάρακά σοι καὶ περικυκλώσουσίν σε καὶ συνέξουσιν σε πάντοθεν 44 καὶ ἐδαφιοῦσίν σε καὶ τὰ τέκνα σου ἐν σοὶ καὶ οὐκ ἀφήσουσιν λίθον ἐπὶ λίθῳ ἐν σοί, ἀνθ' ὧν οὐκ ἔγνως τὸν καιρὸν τῆς ἐπισκοπῆς σου.

45 Καὶ εἰσελθὼν εἰς τὸ ἱερὸν ἤρξατο ἐκβάλλειν τοὺς πωλοῦντας ἐν αὐτῷ καὶ τοὺς ἀγοράζοντας, 46 λέγων αὐτοῖς Γέγραπται ὅτι Ὁ οἶκός μου οἶκος προσευχῆς ἐστιν· ὑμεῖς δὲ αὐτὸν ἐποιήσατε σπήλαιον λῃστῶν. 47 καὶ ἦν διδάσκων τὸ καθ' ἡμέραν ἐν τῷ ἱερῷ· οἱ δὲ ἀρχιερεῖς καὶ οἱ γραμματεῖς ἐζήτουν αὐτὸν ἀπολέσαι καὶ οἱ πρῶτοι τοῦ λαοῦ, 48 καὶ οὐχ εὕρισκον τὸ τί ποιήσωσιν· ὁ γὰρ λαὸς ἅπας ἐξεκρέμετο αὐτοῦ ἀκούων.

20 Καὶ ἐγένετο ἐν μιᾷ τῶν ἡμερῶν διδάσκοντος αὐτοῦ τὸν λαὸν ἐν τῷ ἱερῷ καὶ εὐαγγελιζομένου ἐπέστησαν οἱ ἀρχιερεῖς καὶ οἱ γραμματεῖς σὺν τοῖς πρεσβυτέροις 2 καὶ εἶπαν πρὸς αὐτὸν λέγοντες Εἰπὸν ἡμῖν ἐν ποίᾳ ἐξουσίᾳ ταῦτα ποιεῖς, ἢ τίς ἐστιν ὁ δοὺς σοι τὴν ἐξουσίαν ταύτην; 3 ἀποκριθεὶς δὲ εἶπεν πρὸς αὐτούς Ἐπερωτήσω κἀγὼ ὑμᾶς λόγον, καὶ εἴπατέ μοι· 4 τὸ βάπτισμα Ἰωάννου ἐξ οὐρανοῦ ἦν ἢ ἐξ ἀνθρώπων; 5 οἱ δὲ συνελογίσαντο πρὸς ἑαυτοὺς λέγοντες ὅτι Ἐὰν εἴπωμεν ἐξ οὐρανοῦ, ἐρεῖ Διὰ τί οὐκ ἐπιστεύσατε αὐτῷ; 6 ἐὰν δὲ εἴπωμεν ἐξ ἀνθρώπων, πᾶς ὁ λαὸς καταλιθάσει ἡμᾶς· πεπεισμένος γάρ ἐστιν Ἰωάννην προφήτην εἶναι. 7 καὶ ἀπεκρίθησαν μὴ εἰδέναι πόθεν. 8 καὶ ὁ Ἰησοῦς εἶπεν πρὸς αὐτούς Οὐδὲ ἐγὼ λέγω ὑμῖν ἐν ποίᾳ ἐξουσίᾳ ταῦτα ποιῶ.

9 Ἤρξατο δὲ πρὸς τὸν λαὸν λέγειν τὴν παραβολὴν ταύτην· Ἄνθρωπος ἐφύτευσεν ἀμπελῶνα καὶ ἐξέδετο αὐτὸν γεωργοῖς καὶ ἀπεδήμησεν χρόνους ἱκανούς. 10 καὶ τῷ καιρῷ ἀπέστειλεν πρὸς τοὺς γεωργοὺς δοῦλον, ἵνα ἀπὸ τοῦ καρποῦ τοῦ ἀμπελῶνος δώσουσιν αὐτῷ· οἱ δὲ γεωργοὶ ἐξαπέστειλαν αὐτὸν κενόν. 11 καὶ προσέθετο ἕτερον πέμψαι δοῦλον· οἱ δὲ κἀκεῖνον δείραντες καὶ ἀτιμάσαντες ἐξαπέστειλαν κενόν. 12 καὶ προσέθετο τρίτον πέμψαι· καὶ τοῦτον τραυματίσαντες ἐξέβαλον. 13 εἶπεν δὲ ὁ κύριος τοῦ ἀμπελῶνος Τί ποιήσω; πέμψω τὸν υἱόν μου τὸν ἀγαπητόν· ἴσως τοῦτον ἐντραπήσονται. 14 ἰδόντες δὲ αὐτὸν οἱ γεωργοὶ διελογίσαντο πρὸς ἑαυτοὺς λέγοντες Οὗτος ἐστιν ὁ κληρονόμος· ἀποκτείνωμεν αὐτόν, ἵνα ἡμῶν γένηται ἡ κληρονομία. 15 καὶ ἐκβαλόντες αὐτὸν ἔξω τοῦ ἀμπελῶνος ἀπέκτειναν. τί οὖν ποιήσει αὐτοῖς ὁ κύριος τοῦ ἀμπελῶνος; 16 ἐλεύσεται καὶ ἀπολέσει τοὺς γεωργοὺς τούτους καὶ δώσει τὸν ἀμπελῶνα ἄλλοις. ἀκούσαντες δὲ εἶπαν Μὴ γένοιτο. 17 ὁ δὲ ἐμβλέψας αὐτοῖς εἶπεν Τί οὖν ἐστιν τὸ γεγραμμένον τοῦτο· Λίθον ὃν ἀπεδοκίμασαν οἱ οἰκοδομοῦντες οὗτος ἐγενήθη εἰς κεφαλὴν γωνίας; 18 πᾶς ὁ πεσὼν ἐπ' ἐκεῖνον τὸν λίθον συνθλασθήσεται· ἐφ' ὃν δ' ἂν πέσῃ λικμήσει αὐτόν. 19 καὶ ἐζήτησαν οἱ γραμματεῖς καὶ οἱ ἀρχιερεῖς ἐπιβαλεῖν ἐπ' αὐτὸν τὰς χεῖρας ἐν αὐτῇ τῇ ὥρᾳ, καὶ ἐφοβήθησαν τὸν λαόν· ἔγνωσαν γὰρ ὅτι πρὸς αὐτοὺς τὴν παραβολὴν ταύτην εἶπεν.

20 Καὶ παρατηρήσαντες ἀπέστειλαν ἐγκαθέτους ὑποκρινομένους ἑαυτοὺς δικαίους εἶναι, ἵνα ἐπιλάβωνται αὐτοῦ λόγου, ὥστε παραδοῦναι αὐτὸν τῇ ἀρχῇ καὶ τῇ ἐξουσίᾳ τοῦ ἡγεμόνος. 21 καὶ ἐπηρώτησαν αὐτὸν λέγοντες Διδάσκαλε, οἴδαμεν ὅτι ὀρθῶς λέγεις καὶ διδάσκεις καὶ οὐ λαμβάνεις πρόσωπον, ἀλλ' ἐπ' ἀληθείας τὴν ὁδὸν τοῦ θεοῦ διδάσκεις· 22 ἔξεστιν ἡμᾶς Καίσαρι φόρους δοῦναι ἢ οὔ; 23 κατανοήσας δὲ αὐτῶν τὴν πανουργίαν εἶπεν πρὸς αὐτούς 24 Δείξατέ μοι δηνάριον· τίνος ἔχει εἰκόνα καὶ ἐπιγραφήν; οἱ δὲ εἶπαν Καίσαρος. 25 ὁ δὲ εἶπεν πρὸς αὐτούς Τοίνυν ἀπόδοτε τὰ Καίσαρος Καίσαρι καὶ τὰ τοῦ θεοῦ τῷ θεῷ. 26 καὶ οὐκ ἴσχυσαν ἐπιλάβεσθαι αὐτοῦ ῥήματος ἐνώπιον τοῦ λαοῦ καὶ θαυμάσαντες ἐπὶ τῇ ἀποκρίσει αὐτοῦ ἐσίγησαν.

27 Προσελθόντες δέ τινες τῶν Σαδδουκαίων, οἱ ἀντιλέγοντες ἀνάστασιν μὴ εἶναι, 28 ἐπηρώτησαν αὐτὸν λέγοντες Διδάσκαλε, Μωϋσῆς ἔγραψεν ἡμῖν ὅτι ἐάν τινος ἀδελφὸς ἀποθάνῃ ἔχων γυναῖκα καὶ οὗτος ἄτεκνος ἀποθάνῃ, ἵνα λάβῃ ὁ ἀδελφὸς αὐτοῦ τὴν γυναῖκα καὶ ἐξαναστήσῃ σπέρμα τῷ ἀδελφῷ αὐτοῦ. 29 ἑπτὰ οὖν ἀδελφοὶ ἦσαν· καὶ ὁ πρῶτος λαβὼν γυναῖκα ἀπέθανεν ἄτεκνος· 30 καὶ ὁ δεύτερος 31 καὶ ὁ τρίτος ἔλαβεν αὐτήν, ὡσαύτως δὲ καὶ οἱ ἑπτὰ οὐκ ἀφῆκαν τέκνα καὶ ἀπέθανον· 32 ὕστερον δὲ πάντων καὶ ἡ γυνὴ ἀπέθανεν. 33 ἐν τῇ οὖν ἀναστάσει τίνος αὐτῶν γίνεται γυνή; οἱ γὰρ ἑπτὰ ἔσχον αὐτὴν γυναῖκα. 34 καὶ ἀποκριθεὶς ὁ Ἰησοῦς εἶπεν αὐτοῖς Οἱ υἱοὶ τοῦ αἰῶνος τούτου γαμοῦσιν καὶ γαμίσκονται· 35 οἱ δὲ καταξιωθέντες τοῦ αἰῶνος ἐκείνου τυχεῖν καὶ τῆς ἀναστάσεως τῆς ἐκ νεκρῶν οὔτε γαμοῦσιν οὔτε γαμίσκονται· 36 οὐδὲ γὰρ ἀποθανεῖν ἔτι δύνανται, ἰσάγγελοι γάρ εἰσιν καὶ υἱοί εἰσιν τοῦ θεοῦ τῆς ἀναστάσεως υἱοὶ ὄντες. 37 ὅτι δὲ ἐγείρονται οἱ νεκροί, καὶ Μωϋσῆς ἐμήνυσεν ἐπὶ τῆς βάτου, ὡς λέγει κύριον τὸν θεὸν Ἀβραὰμ καὶ θεὸν Ἰσαὰκ καὶ θεὸν Ἰακώβ· 38 θεὸς δὲ οὐκ ἔστιν νεκρῶν ἀλλὰ ζώντων· πάντες γὰρ αὐτῷ ζῶσιν. 39 ἀποκριθέντες δέ τινες τῶν γραμματέων εἶπαν Διδάσκαλε, καλῶς εἶπας· 40 οὐκέτι γὰρ ἐτόλμων αὐτὸν οὐδὲν ἐπερωτῆσαι.

41 Καὶ λέγει αὐτοῖς Πῶς λέγουσιν τὸν χριστὸν εἶναι υἱὸν Δαυίδ; 42 καὶ αὐτὸς Δαυὶδ λέγει ἐν βίβλῳ ψαλμῶν Εἶπεν κύριος τῷ κυρίῳ μου Κάθου ἐκ δεξιῶν μου 43 ἕως ἂν θῶ τοὺς ἐχθρούς σου ὑποπόδιον τῶν ποδῶν σου. 44 Δαυὶδ οὖν κύριον αὐτὸν καλεῖ, καὶ πῶς υἱὸς αὐτοῦ ἐστιν;

45 Ἀκούοντος δὲ παντὸς τοῦ λαοῦ εἶπεν τοῖς μαθηταῖς αὐτοῦ 46 Προσέχετε ἀπὸ τῶν γραμματέων τῶν θελόντων περιπατεῖν ἐν στολαῖς καὶ φιλοῦντων ἀσπασμοὺς ἐν ταῖς ἀγοραῖς καὶ πρωτοκαθεδρίας ἐν ταῖς συναγωγαῖς καὶ πρωτοκλισίας ἐν τοῖς δείπνοις, 47 οἱ κατεσθίοντες τὰς οἰκίας τῶν χηρῶν καὶ προφάσει μακρὰ προσευχόμενοι· οὗτοι λήμψονται περισσότερον κρίμα.

21 Ἀναβλέψας δὲ εἶδεν τοὺς βάλλοντας εἰς τὸ γαζοφυλάκιον τὰ δῶρα αὐτῶν πλουσίους· 2 εἶδεν δέ τινα χήραν πενιχρὰν βάλλουσαν ἐκεῖ λεπτὰ δύο, 3 καὶ εἶπεν Ἀληθῶς λέγω ὑμῖν ὅτι ἡ χήρα αὕτη ἡ πτωχὴ πλεῖον πάντων ἔβαλεν· 4 πάντες γὰρ οὗτοι ἐκ τοῦ περισσεύοντος αὐτοῖς ἔβαλον εἰς τὰ δῶρα, αὕτη δὲ ἐκ τοῦ ὑστερήματος αὐτῆς πάντα τὸν βίον ὃν εἶχεν ἔβαλεν.

5 Καί τινων λεγόντων περὶ τοῦ ἱεροῦ ὅτι λίθοις καλοῖς καὶ ἀναθήμασιν κεκόσμηται εἶπεν 6 Ταῦτα ἃ θεωρεῖτε, ἐλεύσονται ἡμέραι ἐν αἷς οὐκ ἀφεθήσεται λίθος ἐπὶ λίθῳ ὃς οὐ καταλυθήσεται. 7 ἐπηρώτησαν δὲ αὐτὸν λέγοντες Διδάσκαλε, πότε οὖν ταῦτα ἔσται, καὶ τί τὸ σημεῖον ὅταν μέλλῃ ταῦτα γίνεσθαι; 8 ὁ δὲ εἶπεν Βλέπετε μὴ πλανηθῆτε· πολλοὶ γὰρ ἐλεύσονται ἐπὶ τῷ ὀνόματί μου λέγοντες ὅτι Ἐγώ εἰμι, καὶ Ὁ καιρὸς ἤγγικεν· μὴ πορευθῆτε ὀπίσω αὐτῶν. 9 ὅταν δὲ ἀκούσητε πολέμους καὶ ἀκαταστασίας, μὴ πτοηθῆτε· δεῖ γὰρ ταῦτα γενέσθαι πρῶτον, ἀλλ' οὐκ εὐθέως τὸ τέλος. 10 τότε ἔλεγεν αὐτοῖς Ἐγερθήσεται ἔθνος ἐπὶ ἔθνος καὶ βασιλεία ἐπὶ βασιλείαν, 11 σεισμοί τε μεγάλοι κατὰ τόπους καὶ λιμοὶ καὶ λοιμοὶ ἔσονται, φόβητρά τε καὶ σημεῖα ἀπ' οὐρανοῦ μεγάλα ἔσται. 12 πρὸ δὲ τούτων πάντων ἐπιβαλοῦσιν ἐφ' ὑμᾶς τὰς χεῖρας αὐτῶν καὶ διώξουσιν παραδιδόντες εἰς τὰς συναγωγὰς καὶ φυλακάς, ἀπαγομένους ἐπὶ βασιλεῖς καὶ ἡγεμόνας ἕνεκεν τοῦ ὀνόματός μου· 13 ἀποβήσεται δὲ ὑμῖν εἰς μαρτύριον. 14 θέτε οὖν ἐν ταῖς καρδίαις ὑμῶν μὴ προμελετᾶν ἀπολογηθῆναι· 15 ἐγὼ γὰρ δώσω ὑμῖν στόμα καὶ σοφίαν ἣ οὐ δυνήσονται ἀντειπεῖν οὐδὲ ἀντιστῆναι πάντες οἱ ἀντικείμενοι ὑμῖν. 16 παραδοθήσεσθε δὲ καὶ ὑπὸ γονέων καὶ ἀδελφῶν καὶ συγγενῶν καὶ φίλων, καὶ θανατώσουσιν ἐξ ὑμῶν, 17 καὶ ἔσεσθε μισούμενοι ὑπὸ πάντων διὰ τὸ ὄνομά μου· 18 καὶ θρὶξ ἐκ τῆς κεφαλῆς ὑμῶν οὐ μὴ ἀπόληται. 19 ἐν τῇ ὑπομονῇ ὑμῶν κτήσασθε τὰς ψυχὰς ὑμῶν.

20 Ὅταν δὲ ἴδητε κυκλουμένην ὑπὸ στρατοπέδων Ἰερουσαλήμ, τότε γνῶτε ὅτι ἤγγικεν ἡ ἐρήμωσις αὐτῆς. 21 τότε οἱ ἐν τῇ Ἰουδαίᾳ φευγέτωσαν εἰς τὰ ὄρη, καὶ οἱ ἐν μέσῃ αὐτῆς ἐκχωρείτωσαν, καὶ οἱ ἐν ταῖς χώραις μὴ εἰσερχέσθωσαν εἰς αὐτήν· 22 ὅτι ἡμέραι ἐκδικήσεως αὗταί εἰσιν τοῦ πλησθῆναι πάντα τὰ γεγραμμένα. 23 οὐαὶ δὲ ταῖς ἐν γαστρὶ ἐχούσαις καὶ ταῖς θηλαζούσαις ἐν ἐκείναις ταῖς ἡμέραις· ἔσται γὰρ ἀνάγκη μεγάλη ἐπὶ τῆς γῆς καὶ ὀργὴ τῷ λαῷ τούτῳ· 24 καὶ πεσοῦνται στόματι μαχαίρης καὶ αἰχμαλωτισθήσονται εἰς τὰ ἔθνη πάντα, καὶ Ἰερουσαλὴμ ἔσται πατουμένη ὑπὸ ἐθνῶν, ἄχρι οὗ πληρωθῶσιν καιροὶ ἐθνῶν.

25 Καὶ ἔσονται σημεῖα ἐν ἡλίῳ καὶ σελήνῃ καὶ ἄστροις, καὶ ἐπὶ τῆς γῆς συνοχὴ ἐθνῶν ἐν ἀπορίᾳ ἠχοῦς θαλάσσης καὶ σάλου, 26 ἀποψυχόντων ἀνθρώπων ἀπὸ φόβου καὶ προσδοκίας τῶν ἐπερχομένων τῇ οἰκουμένῃ· αἱ γὰρ δυνάμεις τῶν οὐρανῶν σαλευθήσονται. 27 καὶ τότε ὄψονται τὸν υἱὸν τοῦ ἀνθρώπου ἐρχόμενον ἐν νεφέλῃ μετὰ δυνάμεως καὶ δόξης πολλῆς. 28 ἀρχομένων δὲ τούτων γίνεσθαι ἀνακύψατε καὶ ἐπάρατε τὰς κεφαλὰς ὑμῶν, διότι ἐγγίζει ἡ ἀπολύτρωσις ὑμῶν.

29 Καὶ εἶπεν παραβολὴν αὐτοῖς Ἴδετε τὴν συκῆν καὶ πάντα τὰ δένδρα· 30 ὅταν προβάλωσιν ἤδη, βλέποντες ἀφ' ἑαυτῶν γινώσκετε ὅτι ἤδη ἐγγὺς τὸ θέρος ἐστίν· 31 οὕτως καὶ ὑμεῖς, ὅταν ἴδητε ταῦτα γινόμενα, γινώσκετε ὅτι ἐγγύς ἐστιν ἡ βασιλεία τοῦ θεοῦ. 32 ἀμὴν λέγω ὑμῖν ὅτι οὐ μὴ παρέλθῃ ἡ γενεὰ αὕτη ἕως ἂν πάντα γένηται. 33 ὁ οὐρανὸς καὶ ἡ γῆ παρελεύσονται, οἱ δὲ λόγοι μου οὐ μὴ παρελεύσονται.

34 Προσέχετε δὲ ἑαυτοῖς μήποτε βαρηθῶσιν ὑμῶν αἱ καρδίαι ἐν κραιπάλῃ καὶ μέθῃ καὶ μερίμναις βιωτικαῖς, καὶ ἐπιστῇ ἐφ' ὑμᾶς ἐξαίφνης ἡ ἡμέρα ἐκείνη· 35 ὡς παγὶς γὰρ ἐπεισελεύσεται ἐπὶ πάντας τοὺς καθημένους ἐπὶ πρόσωπον πάσης τῆς γῆς. 36 ἀγρυπνεῖτε οὖν ἐν παντὶ καιρῷ δεόμενοι ἵνα κατισχύσητε ἐκφυγεῖν ταῦτα πάντα τὰ μέλλοντα γίνεσθαι καὶ σταθῆναι ἔμπροσθεν τοῦ υἱοῦ τοῦ ἀνθρώπου.

37 Ἦν δὲ τὰς ἡμέρας διδάσκων ἐν τῷ ἱερῷ, τὰς δὲ νύκτας ἐξερχόμενος ηὐλίζετο εἰς τὸ ὄρος τὸ καλούμενον Ἐλαιῶν· 38 καὶ πᾶς ὁ λαὸς ὤρθριζεν πρὸς αὐτὸν ἐν τῷ ἱερῷ ἀκούειν αὐτοῦ.

22 Ἤγγιζεν δὲ ἡ ἑορτὴ τῶν ἀζύμων ἡ λεγομένη πάσχα. 2 καὶ ἐζήτουν οἱ ἀρχιερεῖς καὶ οἱ γραμματεῖς πῶς ἀνέλωσιν αὐτόν, ἐφοβοῦντο γὰρ τὸν λαόν.

3 Εἰσῆλθεν δὲ Σατανᾶς εἰς Ἰούδαν τὸν καλούμενον Ἰσκαριώτην, ὄντα ἐκ τοῦ ἀριθμοῦ τῶν δώδεκα· 4 καὶ ἀπελθὼν συνελάλησεν τοῖς ἀρχιερεῦσιν καὶ στρατηγοῖς τὸ πῶς αὐτοῖς παραδῷ αὐτόν. 5 καὶ ἐχάρησαν καὶ συνέθεντο αὐτῷ ἀργύριον δοῦναι. 6 καὶ ἐξωμολόγησεν καὶ ἐζήτει εὐκαιρίαν τοῦ παραδοῦναι αὐτὸν ἄτερ ὄχλου.

7 Ἦλθεν δὲ ἡ ἡμέρα τῶν ἀζύμων ἐν ᾗ ἔδει θύεσθαι τὸ πάσχα· 8 καὶ ἀπέστειλεν Πέτρον καὶ Ἰωάννην εἰπών Πορευθέντες ἑτοιμάσατε ἡμῖν τὸ πάσχα ἵνα φάγωμεν. 9 οἱ δὲ εἶπαν αὐτῷ Ποῦ θέλεις ἑτοιμάσωμεν; 10 ὁ δὲ εἶπεν αὐτοῖς Ἰδοὺ εἰσελθόντων ὑμῶν εἰς τὴν πόλιν συναντήσει ὑμῖν ἄνθρωπος κεράμιον ὕδατος βαστάζων· ἀκολουθήσατε αὐτῷ εἰς τὴν οἰκίαν εἰς ἣν εἰσπορεύεται 11 καὶ ἐρεῖτε τῷ οἰκοδεσπότῃ τῆς οἰκίας Λέγει σοι ὁ διδάσκαλος Ποῦ ἐστιν τὸ κατάλυμα ὅπου τὸ πάσχα μετὰ τῶν μαθητῶν μου φάγω; 12 κἀκεῖνος ὑμῖν δείξει ἀνάγαιον μέγα ἐστρωμένον· ἐκεῖ ἑτοιμάσατε. 13 ἀπελθόντες δὲ εὗρον καθὼς εἰρήκει αὐτοῖς, καὶ ἡτοίμασαν τὸ πάσχα.

14 Καὶ ὅτε ἐγένετο ἡ ὥρα, ἀνέπεσεν καὶ οἱ δώδεκα ἀπόστολοι σὺν αὐτῷ· 15 καὶ εἶπεν πρὸς αὐτούς Ἐπιθυμίᾳ ἐπεθύμησα τοῦτο τὸ πάσχα φαγεῖν μεθ' ὑμῶν πρὸ τοῦ με παθεῖν· 16 λέγω γὰρ ὑμῖν ὅτι οὐκέτι οὐ μὴ φάγω αὐτὸ ἕως ὅτου πληρωθῇ ἐν τῇ βασιλείᾳ τοῦ θεοῦ. 17 καὶ δεξάμενος ποτήριον εὐχαριστήσας εἶπεν Λάβετε τοῦτο καὶ διαμερίσατε εἰς ἑαυτούς· 18 λέγω γὰρ ὑμῖν ὅτι οὐ μὴ πίω ἀπὸ τοῦ νῦν ἀπὸ τοῦ γενήματος τῆς ἀμπέλου ἕως οὗ ἡ βασιλεία τοῦ θεοῦ ἔλθῃ.

19 Καὶ λαβὼν ἄρτον εὐχαριστήσας ἔκλασεν καὶ ἔδωκεν αὐτοῖς λέγων Τοῦτό ἐστιν τὸ σῶμά μου τὸ ὑπὲρ ὑμῶν διδόμενον· τοῦτο ποιεῖτε εἰς τὴν ἐμὴν ἀνάμνησιν. 20 καὶ τὸ ποτήριον ὡσαύτως μετὰ τὸ δειπνῆσαι λέγων Τοῦτο τὸ ποτήριον ἡ καινὴ διαθήκη ἐν τῷ αἵματί μου, τὸ ὑπὲρ ὑμῶν ἐκχυνόμενον. 21 πλὴν ἰδοὺ ἡ χεὶρ τοῦ παραδιδόντος με μετ' ἐμοῦ ἐπὶ τῆς τραπέζης· 22 καὶ ὁ μὲν υἱὸς τοῦ ἀνθρώπου κατὰ τὸ ὡρισμένον πορεύεται, πλὴν οὐαὶ τῷ ἀνθρώπῳ ἐκείνῳ δι' οὗ παραδίδοται. 23 καὶ αὐτοὶ ἤρξαντο συζητεῖν πρὸς ἑαυτοὺς τὸ τίς ἄρα εἴη ἐξ αὐτῶν ὁ τοῦτο μέλλων πράσσειν.

24 Ἐγένετο δὲ καὶ φιλονεικία ἐν αὐτοῖς, τὸ τίς αὐτῶν δοκεῖ εἶναι μείζων· 25 ὁ δὲ εἶπεν αὐτοῖς Οἱ βασιλεῖς τῶν ἐθνῶν κυριεύουσιν αὐτῶν καὶ οἱ ἐξουσιάζοντες αὐτῶν εὐεργέται καλοῦνται· 26 ὑμεῖς δὲ οὐχ οὕτως, ἀλλ' ὁ μείζων ἐν ὑμῖν γινέσθω ὡς ὁ νεώτερος καὶ ὁ ἡγούμενος ὡς ὁ διακονῶν. 27 τίς γὰρ μείζων, ὁ ἀνακείμενος ἢ ὁ διακονῶν; οὐχὶ ὁ ἀνακείμενος; ἐγὼ δὲ ἐν μέσῳ ὑμῶν εἰμι ὡς ὁ διακονῶν. 28 ὑμεῖς δέ ἐστε οἱ διαμεμενηκότες μετ' ἐμοῦ ἐν τοῖς πειρασμοῖς μου· 29 κἀγὼ διατίθεμαι ὑμῖν καθὼς διέθετό μοι ὁ πατήρ μου βασιλείαν, 30 ἵνα ἔσθητε καὶ πίνητε ἐπὶ τῆς τραπέζης μου ἐν τῇ βασιλείᾳ μου καὶ καθίσεσθε ἐπὶ θρόνων τὰς δώδεκα φυλὰς κρίνοντες τοῦ Ἰσραήλ.

31 Εἶπεν δὲ ὁ κύριος Σίμωνι Σίμων Σίμων, ἰδοὺ ὁ Σατανᾶς ἐξῃτήσατο ὑμᾶς τοῦ σινιάσαι ὡς τὸν σῖτον· 32 ἐγὼ δὲ ἐδεήθην περὶ σοῦ ἵνα μὴ ἐκλίπῃ ἡ πίστις σου· καὶ σύ ποτε ἐπιστρέψας στήρισον τοὺς ἀδελφούς σου. 33 ὁ δὲ εἶπεν αὐτῷ Κύριε, μετὰ σοῦ ἕτοιμός εἰμι καὶ εἰς φυλακὴν καὶ εἰς θάνατον πορεύεσθαι. 34 ὁ δὲ εἶπεν Λέγω σοι, Πέτρε, οὐ φωνήσει σήμερον ἀλέκτωρ ἕως τρίς με ἀπαρνήσῃ εἰδέναι.

35 Καὶ εἶπεν αὐτοῖς Ὅτε ἀπέστειλα ὑμᾶς χωρὶς βαλλαντίου καὶ πήρας καὶ ὑποδημάτων, μή τινος ὑστερήσατε; οἱ δὲ εἶπαν Οὐδενός. 36 εἶπεν οὖν αὐτοῖς Ἀλλὰ νῦν ὁ ἔχων βαλλάντιον ἀράτω, ὁμοίως καὶ πήραν, καὶ ὁ μὴ ἔχων πωλησάτω τὸ ἱμάτιον αὐτοῦ καὶ ἀγορασάτω μάχαιραν. 37 λέγω γὰρ ὑμῖν ὅτι ἔτι τοῦτο τὸ γεγραμμένον δεῖ τελεσθῆναι ἐν ἐμοί, Καὶ μετὰ ἀνόμων ἐλογίσθη· καὶ γὰρ τὸ περὶ ἐμοῦ τέλος ἔχει. 38 οἱ δὲ εἶπαν Κύριε, ἰδοὺ μάχαιραι ὧδε δύο. ὁ δὲ εἶπεν αὐτοῖς Ἱκανόν ἐστιν.

39 Καὶ ἐξελθὼν ἐπορεύθη κατὰ τὸ ἔθος εἰς τὸ ὄρος τῶν ἐλαιῶν· ἠκολούθησαν δὲ αὐτῷ καὶ οἱ μαθηταί. 40 γενόμενος δὲ ἐπὶ τοῦ τόπου εἶπεν αὐτοῖς Προσεύχεσθε μὴ εἰσελθεῖν εἰς πειρασμόν. 41 καὶ αὐτὸς ἀπεσπάσθη ἀπ' αὐτῶν ὡσεὶ λιθοβολὴν καὶ θεὶς τὰ γόνατα προσηύχετο 42 λέγων Πάτερ, εἰ βούλει παρένεγκε τὸ ποτήριον τοῦτο ἀπ' ἐμοῦ· πλὴν μὴ τὸ θέλημά μου ἀλλὰ τὸ σὸν γινέσθω. 43 ὤφθη δὲ αὐτῷ ἄγγελος ἀπ' οὐρανοῦ ἐνισχύων αὐτόν· 44 καὶ γενόμενος ἐν ἀγωνίᾳ ἐκτενέστερον προσηύχετο· ἐγένετο δὲ ὁ ἱδρὼς αὐτοῦ ὡσεὶ θρόμβοι αἵματος καταβαίνοντος ἐπὶ τὴν γῆν. 45 καὶ ἀναστὰς ἀπὸ τῆς προσευχῆς ἐλθὼν πρὸς τοὺς μαθητὰς εὗρεν αὐτοὺς κοιμωμένους ἀπὸ τῆς λύπης 46 καὶ εἶπεν αὐτοῖς Τί καθεύδετε; ἀναστάντες προσεύχεσθε μὴ εἰσελθεῖν εἰς πειρασμόν.

47 Ἔτι αὐτοῦ λαλοῦντος ἰδοὺ ὄχλος, καὶ ὁ λεγόμενος Ἰούδας εἷς τῶν δώδεκα προήρχετο αὐτούς, καὶ ἤγγισεν τῷ Ἰησοῦ φιλῆσαι αὐτόν· 48 Ἰησοῦς δὲ εἶπεν αὐτῷ Ἰούδα, φιλήματι τὸν υἱὸν τοῦ ἀνθρώπου παραδίδως; 49 ἰδόντες δὲ οἱ περὶ αὐτὸν τὸ ἐσόμενον εἶπαν Κύριε, εἰ πατάξομεν ἐν μαχαίρῃ; 50 καὶ ἐπάταξεν εἷς τις τοῦ ἀρχιερέως τὸν δοῦλον καὶ ἀφεῖλεν αὐτοῦ τὸ οὖς τὸ δεξιόν. 51 ἀποκριθεὶς δὲ ὁ Ἰησοῦς εἶπεν Ἐᾶτε ἕως τούτου· καὶ ἁψάμενος τοῦ ὠτίου αὐτοῦ ἰάσατο αὐτόν. 52 εἶπεν δὲ ὁ Ἰησοῦς πρὸς τοὺς παραγενομένους ἐπ' αὐτὸν ἀρχιερεῖς καὶ στρατηγοὺς τοῦ ἱεροῦ καὶ πρεσβυτέρους Ὡς ἐπὶ λῃστὴν ἐξήλθατε μετὰ μαχαιρῶν καὶ ξύλων συλλαβεῖν με; 53 καθ' ἡμέραν ὄντος μου μεθ' ὑμῶν ἐν τῷ ἱερῷ οὐκ ἐξετείνατε τὰς χεῖρας ἐπ' ἐμέ· ἀλλ' αὕτη ὑμῶν ἐστὶν ἡ ὥρα καὶ ἡ ἐξουσία τοῦ σκότους.

54 Συλλαβόντες δὲ αὐτὸν ἤγαγον καὶ εἰσήγαγον εἰς τὴν οἰκίαν τοῦ ἀρχιερέως· ὁ δὲ Πέτρος ἠκολούθει μακρόθεν. 55 περιαψάντων δὲ πῦρ ἐν μέσῳ τῆς αὐλῆς καὶ συγκαθισάντων ἐκάθητο ὁ Πέτρος μέσος αὐτῶν. 56 ἰδοῦσα δὲ αὐτὸν παιδίσκη τις καθήμενον πρὸς τὸ φῶς καὶ ἀτενίσασα αὐτῷ εἶπεν Καὶ οὗτος σὺν αὐτῷ ἦν. 57 ὁ δὲ ἠρνήσατο αὐτὸν λέγων Οὐκ οἶδα αὐτόν, γύναι. 58 καὶ μετὰ βραχὺ ἕτερος ἰδὼν αὐτὸν ἔφη Καὶ σὺ ἐξ αὐτῶν εἶ. ὁ δὲ Πέτρος ἔφη Ἄνθρωπε, οὐκ εἰμί. 59 καὶ διαστάσης ὡσεὶ ὥρας μιᾶς ἄλλος τις διϊσχυρίζετο λέγων Ἐπ' ἀληθείας καὶ οὗτος μετ' αὐτοῦ ἦν· καὶ γὰρ Γαλιλαῖός ἐστιν. 60 εἶπεν δὲ ὁ Πέτρος Ἄνθρωπε, οὐκ οἶδα ὃ λέγεις. καὶ παραχρῆμα ἔτι λαλοῦντος αὐτοῦ ἐφώνησεν ἀλέκτωρ· 61 καὶ στραφεὶς ὁ κύριος ἐνέβλεψεν τῷ Πέτρῳ, καὶ ὑπεμνήσθη ὁ Πέτρος τοῦ ῥήματος τοῦ κυρίου ὡς εἶπεν αὐτῷ ὅτι Πρὶν ἀλέκτορα φωνῆσαι σήμερον ἀπαρνήσῃ με τρίς. 62 καὶ ἐξελθὼν ἔξω ὁ Πέτρος ἔκλαυσεν πικρῶς.

63 Καὶ οἱ ἄνδρες οἱ συνέχοντες αὐτὸν ἐνέπαιζον αὐτῷ δέροντες· 64 καὶ περικαλύψαντες αὐτὸν ἐπηρώτων λέγοντες Προφήτευσον, τίς ἐστιν ὁ παίσας σε; 65 καὶ ἕτερα πολλὰ βλασφημοῦντες ἔλεγον εἰς αὐτόν.

66 Καὶ ὡς ἐγένετο ἡμέρα, συνήχθη τὸ πρεσβυτέριον τοῦ λαοῦ, ἀρχιερεῖς τε καὶ γραμματεῖς, καὶ ἀπήγαγον αὐτὸν εἰς τὸ συνέδριον αὐτῶν λέγοντες 67 Εἰ σὺ εἶ ὁ χριστός, εἰπὸν ἡμῖν. εἶπεν δὲ αὐτοῖς Ἐὰν ὑμῖν εἴπω, οὐ μὴ πιστεύσητε· 68 ἐὰν δὲ καὶ ἐρωτήσ

さめよ あるされ物よ ひき きくとんとて のーくよ ゆけり、[6]これ ゆきて さまよ すことよ ちらびける ときに およそを ひる でろ まそろうよ てん よりおわひまる ひらりありて これをめぐり てとやり。[7]これ ちよ さふれて、さうろ、さそよ、あんぞこれをせむるやとこれよ いくる こををきけり。[8]これ こくんて、さそよ、あまるらいされぞやと いくり。めれ これよ いひ けるん、これら あんちの せむる ところの
1, 2, 3, 9, mitaredomo; 5, 6, 7, mite
あきれの あす あり。[9]これと ともよ あり一 ものとも ひらりをそうされとも これよ
osoretari, asredo
めうら ものー こをを きうぎりき。[10]これ いくり、きそよ、これ あるを あすべきう。きそ これよ いくる ひと これよ きくり ものそーよ ゆけ、あんぢげ あすこよ おらて あんぢよ をめうる べー。
Damaskoni
Ananiuto
さうぎめとれうる ことに ことごとく めーこよ おらて あんぢよ をめうる べー。[11]これ そのひうりの めぐやきの さめよ そうる ことをえぎり ければ これと ともよ ありー ものども これてをひきてさあすことよ いくさめられり。[12]めーこよ すめる すべての ゆづやびとの うちよ よきに きそへ ありて おきてそよをうぐふ ところの ちんどんーや ある あるやと いくる ひと これよ きくり ものそーよ。[13]きやうぐふ さうろよ、あんぢ そる ことを えよと いひーよ これ その ときめれをあわぎ そうり。[14]めれ まこ いひ けるん、これとの せんぞうちの かそ あんぢよ その

ひねを そとーめ、かの そとーきものそ そうをきうーむる そのくちの こをを さめよ あんぢ そーところ きこーところの ことよ つりてめれの さめよ すべてのひとよ あるべければ あり。[16]いまあよ ゆあよ とうまるら、そうてそのあを よびいのり、そうめをうけて あんぢのつそを あとひ さる べーと。[17]これ あるされむよめくりそやまて いのるとき まがろーよ おのてきそケこれよ めうるをそうり、いそく、[18]いそげ、すそやうよ あるされむを いぞよ、そん めれとあんぢが これの さめよ さうるところの ありーを うけざれば あり。[19]これ いくり、きそよ、これ もと あるこそをちんきるものとうよ おのて これを むちうちくる こと [20]まこ あをこの あうーびと すべてそのこ ちを あげられー ときいこれも めこそよ さち これを よーとーて めれを ころせー ものこ きものそまめりー ことに ひとびと よく これををる。[21]きそ これよ いくり、ゆけ、これあんぢを とわく いとるよ つうそさん。

[22]ひとびと そうろが このことをを いふよ いくるまでを きこーあるさりーげ こををあけて いひけるん、めこの でとき ものに よ のぞけ、めれに いうー おくより

べヨ ものよ あとぎ。[23]われと さけびて おのれの きものを ぬぎ ものつ ちりを くうちうよ あび ければ [24]せうーやうめの ごとく さけぶに あより ひとびと われよ つのて めくの ごとく さめよ むちうちて これを ぎんを すべヨ ことを いひつけり。[25]われと めその むちを あてんとて なうろを ちぢりー とヨ われめくそぶよ そてる ひやくるんの めーとよ いひ けるん、ろまびと さる ものー いまる つそよ さごめーれぎるよ あんぢと これを むちうちて よきろ。[26]ひやくるんの めーと これを ぎ~ ゆきて せうーやうよ つび いひけるん、あんぢら あるを あさんと するろ、この ものの ろまびと あり。[27]せうーやう ゆきて むうろよ いひ けるん、あんぢら ろまびと あるろ、これよ つびよ。われ こるく けるん、これらの きんを ゆうて この せきを えるり。[28]せうーやう いひ けるん、あゲト ちうる ものの あり。[29]こるよ おのて ぎんを もちれるり、せうーやうも その ろまびとの うつるく ところの さーろるる ことを ちろーて なうろを とヨ からー おゆる かんぬーと すべての ひやうぎやくの あらまとん ことを めのト なうろを さびさんて めれとの まくよ さーめり。

さの 二十三 ちやう

なうろ めを とめ ひやうぎやくを ええて いひ けるん、ひとびと きやうさのよ、これら こんこちよ いさる まそ すべての ことよ つヨ わんーんを ゆうて かそよ つりへり。[2]かんぬーの そさ あるや めの ろまびとの さそぶよ そてる ものよ その くちを うつことを めのどるり。[3]なうろ われよ いひ けるん、あんぢを うさえ、あんぢら さやるい かを あんぢを うさえ、ろさびひ これを さやうん さめ あるよ おきてよ さゲふて これを うつ ことを めの ぎるろ。[4]めさそとよ そてる ものとも、あんぢいかその めんぬーの そさを のうーるろといふ。[5]なうろ いひ けるん、きやうさのよ、これら その かんぬーの そさ あるを おじぎりー、いうんと あれば あんぢの さその つうさや そーろ ありれと ろるさればこれ Fari-aibito あり。[6]なうろ その あるを めのい さとりの びとよー て ある ものの ありさのびとを ひやうぎの ありよ おのて よをそり いひけるん、ひとびと きやうさのよ、これら なりさのびとの をそん ある なりさのびとの あり、ろるんの よそうくりを

みくまのの　ひがしのうみに　かんとりの
あそぶをみれば　あまつとり　つるのむれたち
あしべをさして　たづがなき　なくこえきけば
わかのうらに　しほみちくれば　かたをなみ
あしべをさして　たづがなき　なくこえきけば
こころもしのに　いにしへおもほゆ　18

○ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり

○ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり

○ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり

○ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり

○ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり

○ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
うつせみの　よのひとごとも　しげければ
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり
ふるさとの　ながらのやまは　あれにけり

あせり。21 さいど のれとよ ときつけとれ さまふ ありれ、それ、のれとよの うち
ちとうるん あまりの ものを もうろと まちぶせーて のれを ころす あそれ くひのを
せずと ちりひと さて、いまようのと あーて おあさの おわせを まちそれば あり。
22 こうよ おのて せうーやう ときき この ことと これよ
つけーと されよの ちとする ありれと いひつけて これを かんとをさり。23 つのよ
ひやくるんの のーとの あさりを よびて いひけるい、こんや くトより かのさり
やよ ゆく さめよ へのそら まひやくるん、わこそ ゆら ものの
まひやくるんを ようい せよ。24 のら もうろそ のせて つくが多く これを ぶぎやう
Felitsuni
ぺりくよ ときす やうよ けものと そをゆ ぺーや。25 せうーやう さの ごとき ふそを
Kisaido Lusia
のき おくれり、いそく、26 くとうぞ物 るしーや ゆうとも さふとき ぶぎやう
ぺりくよ やすきを いそふ。27 この ひとい ゆざやひとよ とどそれて まさよ
ころされんと せー ゆの あり。その とき これ へのさのそゆらて のれとの ゆとよ
いくりて これを すくくり、その ろまひと あるを きくされば あり。28 これ のれ
ふけ うつさめる ゆをを もとんと わつー のれを その ひやうぎよ つれ ゆきーよ、
29 のれが うつさんとれーい さら のれとの おきその ぎろんよ よれる のそえて

ちよ あさり おるひい つあがる べきの つきあ そぎる あり。30 さて のれを
がのをんとの そうりごと これよ あとそれーよ より すさやりよ これを あんぢよ
おくる、まさ うつさゆる ものよも その うつさゆる ところを あんぢよ つけふと
1,5,6,7,8,i, maji hoian nareyo; 2,3,ii, nozen.
めのせり。 あんぢ へのあん あれよ。

31 こくよ おのて へのそうい めのせとれー
Antifa'rini
あんてをとりよ まそ いくり、32 あくる ひ
ゆうーめ そのあうい そる ちんやよ のくれり
とき ふそを ぶぎやうよ さくけて そうろと
ふそを よそて のち、のれい いられの くよの
ひとあるを ちりて、35 あんぢをうつさゆる
きうんと いくり。つのよ めのとて これを へ
ーめり。

ちやう

さら 二十四 ちやう

いうりをへて のんぬーのそさあまよやいとーよりとも およひてうるところと あらくる
ひとりの ぺんーやと とゆよ くさりて そうろと ぶぎやうよ うつさくんと せり。

2 むうろ めされて てるところ Teruno
のれを うらくさん もとめて いひ けるん、 8 ゆうとも
そうとき べりくよ、 どれト おきさよ よりて そのくのを え、 めら この くるい
おきさの 先見 sakiken よ よりて よき めのうくを おこきそれされば つねよ まく
いらこうても ありく めんーやーて これをそ うけり。 4 いは どれ あげく おきくを
どげトそさず、 そび おきさの あそれそを されて どげ すこーの ことをを きく
さまそん ことを ねげふ。 5 どれト この ひとい がの よ あら ゆのよーて てんかの
ゆさやびとの うちよて らんを おこー。 6 めら おされ ちうの めートうて そやそも
けげさんと せーを そて 7 これを とトんくり、(まく どれトの おきてよ ちさげみて
これを さそうんと おゆひーよ せうーやうるーや さくり てあじくーて これを
どれトの てより うをひ とりて これを うつさゆる ものよ めのよて おきさの
ゆとよ さそトーめさり」。 8 おきさげ めれを もトべおば どれトげ うつさくー
ところの ことを ことごとく ちり さまふべー。 9 ゆさやびとも とゆよ うつさんて、
これトの ことい おことよ めさの でとーと らんり。
10 ぶぎやう むうろよ うきげきーて めれ こさん
けるい、 どに おきさい とー ひさーく こさの くるの さそきよん さるを ちる ゆきよ

よろこびて そげトト おめれの ことよ つのて いひ ひトきを あさん。 11 どげ
おげさの さめよ ちるされ和よ の ぎりーら どげら おうよ まちよ すぎざるを ちり
さまふ べー。 12 めれトい どげ そやよ おのて ひとー ろんト まく くさのとう
あるひいまちよ おのて さその さそぎを おこーさるを そぶ。 13 めら いま どれを
うつさゆる ところの ことよ つのそい おれト ありーを さつる こと あさそぶ。
14 さく この ことを どれ おきさよ いひ おれトげ
おやーうと いくる そちよ ちさげひ どれトの せんぞさちの かそよ つつくて
おきてとよけんーやの ふそよ ちるされる ところの ことを ことごとく ちんト、
15 めら さげーき ものと さとーうとざる ものー よそげんくトんことを かそよりて
のぞむ、 めれトも まく これを のぞむ。 16 これよ よつて どれい つねよ そげうト
それきて かそとひとうよ さのーて とげきの こさぞを そゆさん ことを つとむる
あり。 17 どれ すねんや へて のち どげ さそ
ものを もち めくれり。 18 さて ひとびと
とき そこるい おそせのの あつまり あく まく さそざも あつりき、 さげ あーや
よりきされる ある ゆさやびと これを あをり。 19 めれト ゆー どれを つきする

こと あとが こうよ おきなの まんよ きさり
20 あるひい こうよ そるゆのそーて さが ひやうぎの まんよ そりー とき、ちるんの
よそゲんりの ことよ つのて されい こんよもち あんぢとよ さどさる〜 ありと、
21 めれとの ありよ さちて よをそりさる この ひとことをの Feiku ありよ さが あるの
あーき ことを そーら これをいそをよ。 22 こうよ みのて ぺりく つまびとうよ この
Lusiano
そちの ことや そり ければ めれとを まさーめて、せうーやうるーやの くさる とき
されく くもーく あんぢとの ことを さとさんと いんり。 23 つのよ ひやくるんの めれよ
めーとよ、そうろを まもりて これを ゆるやりるー めら その ともだちの めれよ
つりふるを きんをる あり れと めいせり。
Drusila's
24 すとつと へて ぺりく ゆずやの そんな ある その つま でるーとと ともよ
Feiku
きさり そうろを よびて めれが きりをとい ちんうの そちを のさるを きけり。
25 そうろ さとーき こと、ひらんめの こと おょびて きさとんと する さをきの ことを
ろんをる とき ぺりく おのこぎて、いま ちをとく ありぞけ、されよき おりを
えー とき あんぢを よをんと いんり。 26 めれい そうろが めねを あさんん ことを
のをれが ゆあよ ちをーば これを よびて ねんどろよ めされり。 27 おねんを へて

のち そうきれ Porkio Festo ぺすと ぺりくよ めをりて そのよ ことを うけられば ぺりくら
ゆさやびとを よろこをーめん ことを ろうーて そうろを つまびる まー のこー
おけり。

さら 二十五 ちやう

ぺすとら そのよ くるー いさりて そうろの のち めらさりや より ちるされむよ
のがりーが 2 おゆる めんぬーとゆと ゆさやの おゆさちくる ゆの めれよ そうろの
ことをうくる。 3 めら とちうよ まちぶをーて これを こころさんと おもひ ぺすとよ
そうろを ちるされむよ きさーめふとの めぐさを こひ ゆとめり。 4 ぺすと
こさん けるん、そうろに めらさりやよ とぐめ おうるー あり、これも すさやうよ
めーこよ めんてとん。 5 この ゆをよ めれよ あーき ことあんぢとの うちの
ゆる うる ゆの これと ともよ くさりて そのひとを うくさふ べー。
6 ぺすとら めれとの うちよ やうう あるひら とをうる ともまる こと ひらうよ
うーて めらさりやよ くさり あくる ひ さををきの ざよ ざーて そうろを ひる
きさとん ことを めらやり。 7 そうろ きさり ーとる ちるされむ より くさりくる
ゆさやびとら めてこ さらて ゆろゆうの めれよ おををされとも

その ちょうことを さうる ことを えんぐ。 8 その とき むこうろ いひ ひとき けるん、
ひれい いまぶ ゆぐやひとの おきて あうひん そや あるひん そやきて
つきを おうむー こと あー。 9 べすと ゆぐやびとを よろこぶーめんと わうーて
むこうよ こさん けるん、あんぢん あるされむよ のがりめーこよ おりて これぶの
ことよ つき ひぐ まんよ さむうれん ことを このむろ。 10 むこうろ いひ けるん、
ひれい さむうる べき ところ すあもち めのさるの そよ さら、あんぢの
よく ある ごとく ひれい あるもの あぎを あー こと あー。 11 ゆー
あぎを あーて あるよ あさるの つきを おうんぬー ことを おとんび ひれい ちする ことを
いとむぐ。 されど ゆー ひれを うつさあるる ところ むあーき あとんび ひれを めれ
よよ ひさー うる もの あー。 ひれい めのさるよ おやうこさんぬん。 12 こさよ おりて
べすと いさく ひんと ともよ もうりて こさん けるん、あんぢん めのさるよ おやうこさ
むんと いんり、めのさるよ ゆく べー。 13 すどうの のち あぐりうむ ひうと べるん さめよ
めのさりやよ さされり。 14 めれと ひさー ひれを うつさあるる ところ むあーき
ことを ひうよ つけて いひ けるん、こさよ べりさの つぎ おきる ひとりの

ものー あり。 15 ひれ あるされむよ そりー ひうと ゆさやの とーうり
ともこれを うつさくて つきよ さざめん ことを ねげんり。 16 ひれ これよ こさり、
うつさんてれー ものの うつさんるんと さらめんーて そのの うつさある ところの
ことよ つりて そぐうと こさんを あす べき おりを えぎる まんよ これを ひさ
す。 17 ゆるよ めれと こさよ きさりー ひうと べるん さめよ ひれ ひを のむさむー
ひき きさとーめり。 18 うつさんるんともの ざよ ぎー めのとて そのの ひとを
ところの あーき ことよ つりて うつさんるんを あさぶ、 19 さぶ めれとの あうーの
ことー すぐよ ちさる ひとりの あす ところの ものとよ つりその ぎろん ありー のき。 20 ひれ これとの ぎろんよ
とうむさーされば むうろよ あるされむん うさる ことを わうすると さらねり。
Augustono 21 ちうるよ むうろん おやうこさーて あうぐすとの ちとべの さめよ まもしれん
わのさるよ おさる まを これを まもとん ことを ねげひー ゆるよ ひれ めれを
いひ けるん、ひれも そぐうと そのの ひとを きろうんと わうす。 べすと いひ けるん、

○ ゐーゐの ロゐ ゐゐ ゐ二十六 ゐゐゐ

ひの ひゐゐの ゐゐ ゐ二 ゐゐ、ロゐゐゐ。 ゐゐゐ ゐゐゐゐ ゐゐゐ ゐゐゐゐ ゐゐゐ ゐゐゐゐ

びとよ うらうえんとれうり。 8 あんぢと あんぞ かそのの そあんを よそうんとよ
さまふ ことを ちんと がうーと おもふら。 9 それも のりて あざれの ありよ
さうとふて そうもろの ことを あもん よーと そびうと おもひ、 10 ありされもよ
おりて そさーて これを あせり、 すあそもち おもき のんぬーとも より けんねを
うけて おそうこの きうき ものをらうやよ いれ、 まう めれとを そうさりよ おこあふ
ときん それも これを ころす べーとの ことぞを そんへうり。 11 のら そうよくをの
とうよ おりて そぞーび めれとををろーー、そひて これよ けげす ことを いそーめ、
まう めれとのことよ つのそん そあそすーくくるひ これを せめて さくるの まちよ
あそ いうれり。 12 のくて それ おもき のんぬーより けんねと いうんを うけて
Danuskoni
ざますことよ ゆきー とき、 13 それうよ、まひうる とちうえて ひ よりも からやきうる
ひうり てん より それ おうび とあよ ゆくあうをきくえ へぶるの ことぞうて それよ
14 それとよ そあちよ さみれーげ それ こえ
Saulo, Saulo,
のうり いひ けるん、さうろ、あんぢ とげある
むちを けるん めるー。 15 それ いくり、きそこ こるん
けるん、それん あんぢケ せむる ところの ありす あり。 16 あんぢ おきて あーるて

うて、そん それ あんぢよ あとそるらん このうめ あり、すあそもち あんぢを このうこ おうび いとんの てより すくひ、あー、のら あんぢケ すべよ そー ところ おうび それて ちめさんと する ところの ことを あうー する ものと あさうん さめ あり。 17 あんぢ めれとのめを ひとく さめ、まう めれとげ くとき より ひうりよ きー さうんの そそのの そる より かそよ さする やう、 18 まう それを ちんゑうよ よりて つその ゆるー おうび きふく せとれくるもの〜うちのめとくをうるやうよ それあんぢを めれとよ つうそうん と。 19 あざりうを そうよ、それん この てん よりの ちめーよ そもうず、 20 まう さなすことよ をるもの、のちよ あるされむ、ゆざやぢうの ひとびと おうび いとんよ をーんて めれとげ くひ あとうめ、のら かそよ きーて くひあとうめよのあひうる おこあひを あすべる ことをのべうり。 21 この ゆあよ ゆざやびと それを そやうて とんへ のら それを こうさんと せり。 22 そうれとも それん かそのの うすけを のうもり こんまちよ いくる まを あげとゆる ことを えて せうある ものと さのある ものとよ あうーを さてり。 23 されど ゆー きりすとん くるーそを うく べき ものまーて そうんの よそげんりの そとめと あり まう

ひくりを このと ささと いとんとよ あとそな べすも もの あとび どれい よゆんーや
おふび ゆうせの あとんと いひー ことの わらうも いそぎりも。
Festo
24 ぱうろ めく いひ ひときを あせー とも べすと おろごふるて いひ けるん、
Paulo, Festo
ぱうろよ、あんぢんそーてきやうき あとーめり。
Festoyo,
25 ぱうろ いひ けるん、もうとも さみとも べすとよ、どれい きちげひよ あとぎ、
ひげ いふ ところん まことるーて さーくるふる ことも あり。
26 どうん これとの ことを よく ちり さまふ、ゆふうる ことを
おりてめくる。これとのことの ひとつも どうよ めくれざるん どげ ちんずる ところ
あり、そん、これ めくすそふて おこるもれざりしーよ よりて あり。 27 あぐりつも
Agrippa Agrigua
どうよ、あるこれよけんーやを ちんとー さまふろ。どれ あるこげ ちんずる ことを
Agrippa Paulooni
ちる。 28 あぐりつも ぱうろよ いひ けるん、あんぢ どれを すこめて きこーく
Kristianni
きりすちやんよ あさんと せり。 29 ぱうろ いひ けるん、どれい さご あるこのを
あとぎ、こんふもち どれを きく ゆのも そふ このの あそめ あこーて きこーく まふ
まつくく どれの ごとき ものと あとん ことを かそよ ねげふ あり。 30 こくよ
おりて どうと ぶぎやう おふび べくるるけ あとび これと とゆよ ざせー ものとも

こちて 31 ちりぞき あひ めくりて いひ けるん、このひとん ちよ あこり あるひい
あとめよ めくる べきの ことを あさぎ。 32 あぐりつも ぱうろよ いひけるん、この
ひといまふ おりさるよ おやうくく せざりー あとび これを ゆる今 べき ものを。

ぢら 二十七 ちやう

Italiani
どれとげ ふねるて いくりやよ ゆく ことよ さごまり けれど めれと あうぐ今との
Yuliotoo Augustono
くこの ひやくるんの めーと ゆりふと あげくる ものよ どうろと わらの めーうど
らを どくせり。 2 どれと あーやよ そふて ゆうんと する あぜとも むそも どれふと
Makedoniano Tesalonikehito Aristarko Adramutiono
のりて ちゆうちんせり。まけとるもの てさろうよひとけびと ありすくるここも どれふと
Sidoni Yulio Paulowo
ともよ ありヨ。 3 つぎの ひ ちどんよ つり けれど ゆりよ どうろを ねんどろよ
あーとひ めろ とゆびちよ ゆきて そのの もそるーを うくる ことを ゆるせり。
4 どれと こく より ちゆうちんーて めぜ ちうふ Kilikiyato Pamfuliani
めくを もーり、 5 すぢよ さりきやと ぜんふり ちんずる ところ ゆふよ くふろの めぎーもの
Lukiano
るきやの うちの むとと いふ まちよ いくれり。
Italiani
めーと いくりやよ ゆうんと する あれもちんぜるの ふねよ あひーうび めれ
Aleksanderuno
どれとを これよ のせるり。 7 おろくの ひの あひぶ ふね ゆく こと おそくーて

やうやく けるどの むうろよ いくり、めせよ Kenidono Saimonewo さまるけとれて さるもねを すぎ
くれての めざーもの めくを そーり、[8] やうやく これよ そめて らさやの まちよ Kreteno Yokiminakoto Yakuwatsuri
ちうき よきそめと～ とあゆる ところよ いくれり。[9]ときを つのや す ことひさ
しーく まろりの すんどきも すぞよ すぎさりーよ ふあが あやうりーよ ゆあよ
むうろ めれとを いさめて いひ けるん、[10]ひとびとよ、これ おゆめよ いまの ふあ
ぢん さのあんと おわくの そんと あとん、そび あゆうと ふねのこ あとぶ これとの
いのちるも めくそとん。[11]そうるよ ひやくるんの かーとん むうろの いひー こと
よりも せんーやうと ふあゆーとの ことぞを ちんせり。[12]めう この そあとん
ふゆを すごすよ ふぐん あるよ よりて おわくの ひとも あるひん ふのうけよ Fonikeni
いくり めーくめて ふゆを すごす ことを えんと おゆひ その ところを いぞん
ことを すくめり。ふうるけん くれての こあと ーそるこ おうび まー
きうよ むうふ。[13]その とあこ めぜ そびうよ ふあ さうりけれび こところざーを
えさりと おゆめて いうりをあけ くれてよ ちうくそのて そーれり。[14]いくわども
あきよ のくころんと いくる さのふう おくり Iwakurukon, sunawatteiitsuraikaze
さふひ けれび ふね めぜよ むうふ ことを えぎうるん ゆあよ これと めぜよ あうぜて

そうよひうり。[16]さて くとうぞと いくる ひとつの ことあの めざーゆを もーる Kiandato
とあ やうやくうーて こふねを おさめて [17]これを あけー のち おやうふよ まる
ものを ゆうて おわぶねの どうを そをり めう すよ うち あけとれん ことを おそれ
わを おろーて あげされうり。[18]おうぜの あるく ことを そけーうり けれび つぎの
ひめれよ まゆうを あげ すて、[19]そうう めうふ てびうと ふねの どうぐを あけ
いぶをり。[20]めくて おわくの ひの あひよ ひゆ
しーく せより けれび いまい すくのを うるの のぞそゆ そそうり。
[21]ひとびと ひさーく そうぉくぜうり ーとあ ぜうろ めれとの あうよ さちて いひ
けるん、ひとびとよ、あんぢとん さきよ ひケ ことぞを きくて くれてを いぞきる Kretewo
べきあり、さとび この さのあんと そんとを うけぎりー あり。[22]そうー あげと
これ いま あんぢとよ すくぜ、ここう やすうれ ひとりも
いのちを うーあふ ゆの あー、そび ふねを うーあふ のぞ。[23]いうんと あれば、
ひび そくする ところ つうふる ところの かぞ、その つうひ さくや ひケ めるそとよ
さそて、[24]ぜうろよ、おそる～ あうれ、あんぢん めのきうの まくよ さう
べー、めう あんぢと とゆよ ふねよ あるゆの、ぞよ、かをそるこれを あんぢよ

さまーみと いんべ あり。25 この ゆあよ、ひとびとよ、こころ やすうれ、これよ
つげ さまひー ごとく めあしゃ あしゃんと これ かそを ちんぎれば あり。26 ちうれ
とも これよん ひとうの あまよ うちあけよる べー。
Adriano
27 おう よろう めの よよ いさりて ふね あしゃ おもひ 28 そうを そうりーよ まよう
よあろう ごろ めことも ちうさよ ちうふれりと おもひ ひろを ええ、さこーく すこそて まさ そうりーよ おうご ひろを ええり。29 こここよ
おのて いそよ のり めけん ことを おそれ とも より よつの いうりを おろーて
よの あくるを いのり まてり。30 めこと ふねよ のがれんと ちつー そそよー
すべその ものよ ちよくせん ことを すうめて いひ けるん、あんぢとが まちめう
よりいうりを おろす さまを あーて こぶねを うそよ さげければ 31 もうろ ひやく
ちんの めーと へつそうとよ いひ けるん、この ものとも ふねよ とこまるよ
あとぶろんべ あんぢとん すこもるー ことを そそまる。32 つつよ へつそうとも こぶねの
つまを きりて その あがるこよ まうせり。33 よまさよ あけんと する とき もうろ
すべその ものよ ちよくせん ことを すうめて いひ けるん、あんぢとが まちめう
ちよくせぎりー こと けめん すべよ おう よろうめ あり。34 ゆあよ これ あんぢ
とが ちよくとを あさん ことを すうむ、これ あんぢとの すこひの さめよ めんそう

あれべ あり。あんぢとの うちよ ひとりとーて かそのけ ひとすぢよ うーまふ
ものあー。35 もうろ めく いひ をそり ちんを とりすべての ものー まんよ おのて
かそよ ちやー これを さきて くとひ そどめ ければ 36 めれとも そまや ちんとて
ちよくとを あせり。37 これと ふねよ そる ものん あそをて まひやく ちうよう
ろくるん あり。38 すべよ あく まを ちよくーうれば ここもうを うそよ あけ
すてー ふねを めろく せり。
39 よ あけーよ その ちうさを ちとぞ、さど そまべ ある ひとつの いりえを そて
ある あとべ ふねを めーそよ いれんと もうり、40 いうりの つまを きり いうりを
うそよ すてー めぢの つまを ゆるめ、めつ ちうを あげ めせよ まうせて そまべよ
むろひ すこめり。41 めくて ふそうの うその あふ ところよ いさり ふねを すよ
のりうけーげ その そふーん ねうきて うごうぞ、ともん あとまそよ よつて やふれ
さり。42 へつそうとも めーうとーげ おふぎて のがれん ことを おそれて これを
ころさんと もうれり。43 されど ひやくちんの めーとよ そうろを すこそんと わつ
ーて その そうる ところを とらめ めつ おふぎうる ものん まづ そびよ とびこそ、
44 のこりの ものん あるひん いさ あるひん ふねの そばけよ よりて きーよ のがる

べーと めりせり。めろの でとろーて そる きーよ のぶり すろひを えろり。

さら 二十八 ちやう

Melita

[1]これと すでよ すろひを ええて そのの あまの あい めりろ あるを おれり。[2]おびすと これと よ あろけを めけー こと すろあうと も、あめと さもさとの さめよ もを さきて これと すべての ものをうけり。[3]むろろ さの えるひとろくをあらめて これを もの うんよ おき けれど まむー あらさうよ より いで〜 その てよ つけり。[4]おびすと どろむーの その てよ めろるを えて あひ さひよ いひ けるん、この ひとん めるよを ひとごろー あとん、うえより のろ〜 ことを うると いんとも てんむろ その いきるを もの あろよ ふるひ おとむーよ すろーの がのをも うけざり。[5]されど むろろ ふるひ さちまち さふれ ちする こと あとろらと おもひ ひさーく まちて のち そのがのを うけざるを えされば こころを めんて、めれい かと ありと いんり。

Publioto

[7]その ところの わとりよ ちまの めーと ぶぶりふと あづくる ゆの〜 でんち あり、めれ これごを むろんて そろうの あひよ ねんごろよ ゆてるむり。[8]この ときよ あさりて ふぶりふの ちく ねうとり りびやうを ひびとめて ふー ねさりーす

むろろ そのの ゆとよ ゆきて いのりを あー てを そのの うんよ おきて めれを いやせり。[9]これ よりーて ちまよ そる ろうの やめる ゆめの ゆえさり。[10]めれとも れいを あろくーて これとを ちゆうちん すこーの がのをも うけざりき。[11]さんげうを へて のち これと この ちまるて ふゆの せうを すごせー

Zeusuno Futago

Alekxandriano

あれきさんどりやの ふねよ のりて いでり、その ふねの ちるるーん せう せの ふるご

Suzakusani

あり。[12]これと すとろさよ つきて その ところ そろろ そうろ とどまり、[13]そこ より

Beglioni

おもりて れぎろよ いでれり。[14]その ところて さやうの

Putteolini

ひ ぶてふりよ いでる、[15]ろまの さやうのとも これとの ことを さうて

Romani

よよ ととまーん ことを ゆとめー ゆるよ あめうと むろあて

Appiotoro

ゆけり。[16]これと ろまよ いでりー とも *[6,7: ii. hyakuninno kaçira meçitudorawo jiyuno kaçirani wataseri, saredo ; 1, 2, 3, 4, 5, nosezu] そうろ すぎて ちさ

あろびふおろ おふび さんけん そそぐやよ あて

かそよ ちやー めら こころの いさそを えそり。

Appiotoro

あろびふおろ おふび さんけん そそぐやよ あて

かそよ ちやー めら こころの いさそを えそり。

[16]これと ろまよ いでりー とも *[6,7: ii. hyakuninno kaçira meçitudorawo jiyuno kaçirani wataseri, saredo ; 1, 2, 3, 4, 5, nosezu] そうろ すぎて ちさ

そる ことを ゆるされでり。[17]そうろ すぎて ちさ

ものとも よび あつめて、その あつまりー とも これよ いひ けるん、ひとびと きやうづのよ、・これん いまじ この ここ あるひん せんぞさちの あとそーよ そむきて あるごとをも あらず、ちうるよ あさうされむ より めーうとー ありて ろまびとの てよ とこさされさり。18 めれと ぎんを ゆゑよ これを ゆるさんと わつをり。19 さじ ゆゑやむ ことを えぎーて めいさらよ おやうこくんせり、ちうー あげと ひげ さそを うつさふる さめるん あとも。20 この ゆゑよ ひれ あんぢとと あひ、とゆよ めさよーん ことを わつーて あんぢとを よび あつめて ものー さめ あれば あり。21 めれと いちを さざめて おわくの ひと そのを やどよ さくり けれど もうろ あさ より ひぐれよ いくる まを ゆうやの おきてと よけんーやの ことも を あすの ことを めさりて めれとを すさめり。22 されど ひきて かその まつりごとの ことを ちんぜ ぎんぜ ぢうーん いすぐえるの のぞむ ところの ゆえ いひ けるん、これとん いまじ あんぢの ことよ つつて ゆざや より ふそを うけず、まる ここよ さられる さやうざうん ひとりも あんぢの あーまを これを つび あるひん めさりー ものー。23 めれと いちを さざめて おわくの ひと そのを やどよ さくり けれど もうろ あさ より ひぐれよ いくる まを ゆうやの おきてと よけんーやの ことも を あすの ことを めさりて めれとを すさめり。24 その いひー ことをを ちんぜる ものー あり、まる まんぜざる ものも ありき。25 めくて めれと さげひよ こころ あを ぜーて いとまごひす、その いぢんと する とき むうろ この ひととともを いひ けるん、よの もの、さよりき そくまを よけんーや あさやよ よりて あんぢとの せんぞさちよ いくり、いそく、26 ゆきて この ことん きけども さとしぜ、そる ことん それどもを こころに まぶくあり、そくん ぎくる とあー、この そその めれと その めさて そ、そうよて ぎー こころを いやさる ものをと。27 それ、この ここを いぢんと ぎんぜ ぢうとさられば ぎとりて あとくもて これよ いぢんと おくとる、めれとん これを きろん。

6, 7, kono kotowo ii owariçi toki Yudayabito idete tagaini ooinaru gironwo naseri: 1, 2, 3, ぞ, i, ii; naseru.

Yes. 6:9

Yessyuni

Mousesno

Yogençano

29 ぎうろに まうくさく よねんの あひぢ おのれの めりくる いくよ そりーぢ 30 めれよ きくる ものい ことぢとく これを むらくて 31 そぢうとぜ まく さまるさけくる ことも あくーて かその まつりごとを のぐめらん ぎよ あすの ことを そーくり。



ぞうの はなは、なんの ために あるのでしょう。

ぞうの はなは、とても ながくて、ものを つかむ ことも できます。みずを すいこんで、それを くちに いれて のむ ことも できます。また、はなを ふって、みずを まきちらす ことも できます。

ぞうの はなは、ほかの どうぶつの はなや くちと ちがって、とても べんりな ものに なって います。

ぞうの はなは、なんの ために あるのでしょう。

あんぢよ すべての ものゝ さめよ あすき りそとよ よりて ひげ かそよ めんーやす。
9 これ そのむすこの ふくのんよ おのて ひげ こころの かそい これ さんぐ あんぢよを おもふ ことを あろー する もの あり。 10 つねよ ひげ いのりよ おのて これ あるひい かその むねよ よりつひまんやすしろ ある そちをゝて あんぢよ いさよん ことを ねげふ。 11 これ あんぢよを そん ことを わりすまん あんぢよげ めさふ せよる〜 やうよ さまよ ぞくする さまものを あんぢよ ありて あさんん さめ 12 すあもち あんぢよの うけん さめ あり。 13 きやうざつよ、 さのひの ちんろうよ よりて ともよ あぐさをを さわろの くまびとの うちよ あるげ ごとく これ あんぢよの うちよを むすをせん さめよ そをーげ こころぐーを さて〜 あんぢよ いさよと せーろとも いまよ いさる まを さまさげよる、 これ あんぢよげ これを そよぎる ことを わりせず。 14 これん きりきやびと ことさるびと まさ めーさる ひと おろろ ある ひとよ おふ ところ あり。 15 ゆあよ これ ちろよを つさーて あんぢよ ろまよ をる ものもの さのそひの おとびれを つさんん ことを わりす。 16 これん ふくのんを そぢと せず、 これ ゆざやびとと そよめ きりきやびとと まさ すべて ちんをる ものを すさそん

とのかそのちろよ あれび あり。 17 かそ よりのさよー ことん ちんろうよ ゆと びきて ちんろうの さめよ この ふくのんよ あよそれさり。 これ、さびー ひとん ちんろうよ よりて いきんと そるさられさるげ ごとー。
18 それ、かその いろりん ふぎを ゆりて まことを おさゆる ひとびとの すべての ふーんよんと ふぎよ むろひて てん よりあよそれさり。 19 ひとの かそよ つのて ある べき ことん めれよ あよそれり。 かそ、すべよ これを あよそー さまんび あり。 20 それ、かその そる べろよぐる ゆの すあそち その めぎり あき ちろよと かそ ある ことよん よの そよめ よりこの めさる つくよれー ものよ よりさとりて そる ことを うる あり。 ゆあよ ひとびとの いひの ひとびとの ものの ぐる べき やう あー。 21 めれよん かそを それとも これを かそとー あげあぐ まさ そやきる ことを せず、 さび おもひを そそーて その おろろ ある ことろ くよろと よく あれり。 22 そろろよ めーさーと とあんて おろろ ある ゆのと あり、 23 くちもそぐる かその えのろうを めんて これを くちそろべきの ひとおよび とり、よろ ぞうと あせり。 24 この ゆあよ かそん そのことろの よさる よさげひて さげひよ そのそを そびろーむる やうよ けげす ことよ ひさー さまんり。 25 めれよん かその

まことを のんで いうそうと あー、まこと ゆめの ものを おぼえて これよ つうくり。かえ こそ めぎり あく わむ べヨ ものの あめん。

[26]これよ よりて かそん めれとげ そうべヨ よくを あせよ まうせり。そのそんなとめん ちやんの ようを のんて ちやんよ そもさるる ようと あせり。[27]めくの ごとく そととも をんなの ちやんの ようを すて〜 さうひよ よくーんを ゆやー をととと をととと そうる ことを おこなふて そのよくーまよ あさる むくひを そうよ うけり。[28]まこ めれよ かそを こくろくろよ よりて かそも めれとげ よろーうとぬ こくろを いうきて すまとーヨ ことを するる まうせ さまくり。[29]めれとい すべての あーヨ こと、あくーん、むさがり、うとそを そさー、まこ ねこと、ひとごろー、あとそひ、いうそり、ひるげーこきを そさせ ものまーて [30]めけごとを いひ、ざんけんを あー、かそを うとを、まこ あふんい、そうぶり、わこり、ひるげこと、やく [1,6,7, fayagon; 1,2,3,5, nosen] [1,6,7,8, mitsou; 1,2,3,4, nosen] おもひ あヨ ものの あり。[32]めくの ごとヨ そもうる べヨ ありと かその さがめを もりて

あや そうりと おこなふ ものを よろこぶ。

このゆえよ すべて ひとを さむく こころの ものよ、あんぢい いひのぐるべヨ やうあー。あんぢ ひとを さむく ことよ おのれを つそよ さざむ、そい あんぢ さむく こころの ものを つそ する かその さむきに めるくりと どれよ そる。[3]めくの ごとヨ ことを おこなふ ものよ、あんぢ かその さむきを のがれんと おこなふ あんぢを くひあとうめよ そちびく ことを そとぎーて あんぢ その ゆえう ある めくそと めんるんと さんくーのひとを めろんぎるう。[5]あんぢい めさくヨ さむきの くひざるのこころよ そうりの ひ するもち かその さとーヨ さむきの あとそる〜ひ まを おのれの さめよ みのうりを さくそゆる あり。[6]かそい おの 和の〜 おこなふ こころよ あさりめて これよ むくひ さまそん。[7]さんくーのひて せんを おこなひ、さりえと わまれと くちざること を ゆとむる ゆのうい めぎり あヨ いのちを さまそん。[8]あとそひを あー まことよ そうげそぎーて ふぎよ

ちさグふ ゆのるい いろりと いきとろりを ゆ
ゆのるい ゆざやびとと そとめ ぎりきやびと
むくひん。10 されど すべて せんを おこるふ ゆのるい ゆざやびとと そとめぎり
きやびとよも さろえと わるれと やすきとを ゆりて むくひ さまをん。11 これ、
かそよ おのそれ めさるる ところ あければ あり。12 おきて あーよ つそを おろんせー
ひとびとれ まく おきて ありて つそを おろんせー・おきて あーよ わろぶ べくー
ひとびとれ おきてよ よりて さむきを うく。13 かそのの まんよ おのて さざーヨ
ゆのれ おきてを きく ゆのよ あとぶ。さとーきと せとるるれ おきてを おこるふ
ゆの あり。14 おきて あヨ ことくるびとも むなれ あグト おきてよ ある ことを
おこるをび おきて あーとれくとも そびろト おのれの おきて さるあり。15 めれとれ
おのれの ことろよ そるるれるる おきそのの めるることを あとをー、そのわんーん
これゲ あろーを あーて そのの おもひ さグひよ とグめ あるひれいひとけ するあり。
16 それ、さむきれ コグ ふくのんよ いくる ごとく かそ ゑすきりをとよ よりて
ひとの めくれくる ことを さむく ひよ めくれ ある べくー。
17 あんち ゆざやびとー とあんくトれ、おきてを さのをとー、かそよつのてわこり、
2nd miyo: 1, 2, 3, 5, 9, noezu

18 その むねを さり めろ おきてよ あとひて ことを ときまん、そびろト
めくーとの てびヨ、19 くとよきよ そる ゆの〜 ひろり、おろろ ある ゆの〜 そちひヨ、
20 おさ ゆごの せんをいさりと おもひ、おきてよ おのてちーきと まことのの りを
えさりとせび 21 あんち ひとよ そーんて おのれよ をーんぐるろ。あんち、ぬすむ
あろれと ひとよ そーんて そびろト ぬすを すくそて そびろト
れと ひとよ いひて そびろト めんのん するあろ。あんち ぐうぞうを みくそて そびろ
ろト きこヨ ゆのを おろすろ。23 あんち おきてよつのて わこり そびろト おきてを
おろーて かそを めろんぶるろ。24 これ、せの ゆのきやうよ そるるれー ととく、かその
あん あんちよ よりて ことくるひとの うちよ けグされるり。
25 あんち ゆー おきてを まもよんで めろれのん えき あり、されと おきてを おろさび
あんちの めろれのん めろれの あヨ あり。26 ゆるよ めろれの あヨ ゆの ゆー おき
その そびーヨ ことを おこるそび その めろれ あヨ めろれの ありと せざる
べけんや。27 めろ むまれろきの まく めろれの ありと せざる
さる のりと めろれのとを ゆりて おきてを まもよんで そるー
よんや。28 あとも よ ゆざやびと さるゆ まことの ゆざやびとよ あとぶ、あとそよ

そよ のられい あるも まことの のられいよ あとぢ・ 29 されど こころの うちうて
ゆざやびとの ごとくなる ものに まことの ゆざやびとあり、まこと ちるーくるの のりよ あとぢ、
さまよ おいて こころよ うくる のられい まことの のられい あり. その わまれい
ひとよ あとぢ かそよ ある あり。

さん 三 ちゃう

ちうとんで ものざやびとの すぐる〜 ところに あるぞや。のられいの えき する ところに
あるぞや。 2 すべての ことよ おいて えき おわーん・さい いちよ のれとん かその
ことをも ゆざねとれるり。 3 ゆー ちんせざる ものの あとんで いうぢ。その ふーんりう
かその ちんぢ べき ことを その子 べけんや。 4 そうとぢ・すべての ひとを いつ
そりと する ものを まこと〜 せよ。これ、あるくらん おのれの ことをよ おいて
さとーきと せとれ まこ あるくの さをきよ おいて のちを えんと あるされーケ
ことと。 5 ゆー これとの ふぎ かその さぐーきを あ〜こすと せば これと あるを
いそんや。これ ひとの ごとくるーていそんよ、けいのをうを わとこす かそい さとー
うとざる ものの あるう。 6 ちうとんぢ・ゆー ちうとんぢ かそいいうを よをを さをうんや。
7 かその まことと ゆー これうに よりて そのの さうえを まうんで これん あよ

ゆあよ あわつそびとく これとの すぐる〜 ところ あるう。さとよ あー。これと すべよ
いくる やうよ あくを あす べーと いそざとんや。 8 めくの ごとく あとぢ これとを そーりて
これと これを いくと いひ あとす。めくを ゆるす ものの あとぢ その つそをとるんの
うん あり。

9 ちうとんで いうぢ・これと すぐる〜 ところ あるう。さとよ あー。これと すべよ
ゆざやびとも きりきやびとも そある つその ちうとんぢ ごとく
きやうよ ちうるくるんぢ ごとく、いそく、そぐーき 11 さとる ものの あく、かそを ゆとする ものの あーん。 12 そある まうふて ことごとく
よくーまよ あれり. せんを おこるふ ものの あとぢ、ひとりも あー。 13 のれとの のとん
ひとーきくる そうり. その ちうとん いうそりを いつふ. その くちびるふん まむーの
どく あり. 14 その くちん のうひと まげきとうて そち、 15 その あーん ひとの
ちを あげす ことよ そやー. 16 その ゆく そちうんで ちうびと ひざそひ のこれり.
17 のれとん おそやう ある そちを そとざる ありり。 18 その めの まんよ かそを
おそるうの おそれ あー。 19 これと これを ちる、すべて おきその いふ ところん
おきその ちうよ あるもの のよいくる あり. これよ ありて すべての くちん ふうげりて

せうのぢう かそのまんてよ おりて つこ あるゆのと
おきその おてをひよ よりてん ひとり ぢよ おそ
せとるる〜ゆの あー・おきてよ よりてん つこを
おきてよ よとゐーて かそのさまふ ところの さぢーきん
ちんゐるよ よりて うくる ところの かそのさぢーきん
あう〜 せとれて すぐてよ すぐての ちんとゃよ
へさて あー・ひと そをつこを おうゐー ゆをよ
さとよ。[24]さぢ ちすきりすとの あげをひよ よりかそん
ゐー あーよ さぢーきと せとるる〜 あり。[25]かそ
かその ちのび さまふ ときよ おう〜くる つこを ゆるゃうよ ちくれとも そのの
こぢーきを あとそさん さめ[26]まく いまの よりかそん
さとーきと するとゆ あや おのれの さぢーきを
あとそさん さめる ちすを さて〜 その ちを ちんゐる ゆの〜 あすをの そをへ
ものと あー さまんり。[27]ちうとび わくる ところ いぢくるよ あるゃ。それ のぞ
うれくり。あをの そをを ゆりて のぞうるくゃ。おこをひの もふう。いを。ちん

うをの そをを ゆりて のぞうれくり。[28]それ、ひとの さぢーきと せとるるこん おすそのおこをひよ よとゐ、ちんうをよ よる、これを まことく せり。[29]かそれさぢ ゆゃひと のその かを あるう。まる ことくるびとの かそよ あとゐゃ。ちうり、まく ことくるびとの かを あり。[30]のそん さぢ ひとり あれば めうれの ある ゆのをも ちんうをよ よりて さぢーきと あーー、めうれの あき ゆのをも ちんうをを ゆりて さぢーきと せん。[31]ちうとび ひとの すうるゃ。ちうとゐ、めくりて おきてを のそうふ する あり。

さん 四 ちゃう

ちうとび これとの せんそ あふとひい まくるよ つりて あるを えーと これとりそんや。[2]ゆー あふとひ おこをひよ よりてん さぢーきと せとれー あとび わとる べき ところ あとん。されど のその まんてよ おりてん ちんとて その[3]これよ つりて せのきゃうよ あると りくるう。ちんうをとぢーきと せとれうりと。[4]そとうの ゆのつこびとを さとりそゐ、これ うくべきの ゆのあり。[5]されど そくーきと する かそを ちんせび その ちんうをさぢーきと せとる〜あり。[6]さびでも

ひとの そろとき あ〜〜て かそよ そら〜〜きと せふる〜 さらそひよ つうて めくの
でとく いんり、 7 いそく、 ふぎを (Gal 22 : 1, 2) ゆるされ、つうを おやそる〜 ゆのん さらそひ
あり。 8 かそよ つこ あ〜〜と せよる〜 ひとん さらそひん めつれらの あるき ゆのよのこ おやふう。 これと
あふうとひい ちんろうよ よりて そら〜〜きと せよれ〜う。 10 いろる〜〜て
そと〜〜きと せよれ〜う。 めつれらを うけ〜〜 のち あるう、 めつれらを うけざる
さきあるう。 めつれらを うけ〜〜 のちよ あとぶ、 11 あふうとひいすべてのつれらを うけ〜〜て そら〜〜
よゆ そら〜〜きと せよれん こめ、 まこ めつれらを うくる ゆの〜 ちくる〜〜て こぶ
めつれらを うけ〜〜 ゆの〜 ちくるる のこ あとぶ ふむ ゆの〜
いまふ めつれらを うけざる さきよ そゆちうる ちんろうよ よりて
ちくと あとん こめよ その いまふ めつれらを うけざる さきよ よりて
そら〜〜きと せよれうる いんぎやう すあそちの めつれらの そる〜〜を うけさり。 13 あふ
うとひ おふびその そうそんよ せうらの よつぎそうる ことを えさせんとの かその やく
そうん おきてよ よるよ あとぶ、 ちんろうよつうの そら〜〜きよ よる あり。 14 そん、

ゆ〜 おきてよ よる ゆの よつぎと あとぶ ちんろうも むる〜〜く、 やくそくも すうる
べ〜。 15 それ おきてん みうりを さうとする ゆの あり。 おきて あくんぶ おきてを
おろす ことも あ〜。 16 この ゆあよ よつぎの ちそん すあそち おきてを ゆてる ゆの のこ あとぶ
りと そうされ〜 ごとく、 あふうとひい その ちんせ〜 ゆの を いろ〜、 あとぎる ゆの を あるげ ごとくこよ とあゆる かその まんよ
おりて これと すべての ゆの〜 ち〜 あり。 18 めれん のぞむ べくる あとぬ ときよ
あれ のぞそて、 あんぢの ちそん めくの ごとく あとんと めうり さまひ〜
ことをよ そうぐめて おやくの くうびとの ちくと あとん こめよ おやくの
そうろう よそとぶ、 とー おうそ ひやく さりよ おやくの その すべよ
おとろくる こと〜 さふの そうありの ちんせ〜ーげ ごとく あり〜 ことを おぢゆれ
とも 20 かその やくそくる ことん よく これを とけ さまふと さ〜ろうよ そり
されば 21 あ〜ろうよ よりて その やくそくを うるぐそぶ、 めくりて そんろうを

あらふーて わされを かそよ きんり。 22このさどーきと せとれくり。 23そのさどーきと せとれーことを ちるんせーんさど のれのさめのそ あとぶ、まく どれとの さめ あり。 24どれとの きそ おすをちより よそぐんてとんせー かそを ちんせべ おおとく さとーきと せとるー ことをうる あり。 25そのきそん どれとの つそのさめよ どろされ のう どれとの さどーきと せとれん さめよ よそぐんてとされくり。

さの 五 ちやう

ゆおよ どれと ちんろうを ゆりて さどーきと せとれられば どれとの きそ おすきりすとよ よりて かそと やそとぐ ことを えそろりくり。 2まく のれよより ちんろうをゆりて いなさろ ところの このめぐそよ いる ことを え、のう かその さろえをのぞそて よろこぶ あり。 3ちろのそ まとぶ、おやその ときるも まく よろこぶあり。 4どれと これを ちる、おやそん さんくーのびん おとーを ちやうと、おとーんのぞそを ちやうと、 5のぞそん そぢをきるとんせぶ。そん、どれとーよ さまをりさる きよgg そさまよ よりて かそのあの どれとの こさろよ あふるれべ あり。 6どれと おやちろと あらりーよ きりすとい さざおりくる ときよ

さのまんの さめよ ちく さまんくり。 7さどーgg ひとの さめよ ちする ものんそをそさまれ あり。おそとろんよgg ひとの さめよ ちすることをいとをぞる ものもおとん。 8されど かそん どれとーげ おやつそびとの さめよ ちんせー ことよ よりて そのあのを どれとの いまそのちよ(tōri)よりて さどーきと せとれられべ まーて これよりてみのりりより すこびいさる〜 ことをえん。 10どれと ゆー おやよりて かそと やそとぐ ことを えべまーて いまやそとぎー のちん そのいけるよりて すこそれぞとんや。 11そうのを あとぶ、まく どれとよ いまやそとぐことをえさを さまひー どれとの きそ おすきりすとよ よりて かそを よろこぶ あり。

12それ つそん ひとり よよ いり、そん つそを ちんせー ゆおよ そんをそんよ おろんぶ あり。 13おきてを さとれーつそん よよ あり、 Adamu yori Mousei されと おきて おくらんべ つそを おろす ことー せぜ。 14そうりと いくとも そん あざひ より もうせよ いる まで あざひの つそと ひとーうとぐる つそを おろす ものをも そはいの せり。そのあざひ のちよ きる ことを さまもる ことん つそのことの

ごときよ あとぶ。そん、ひとりの つそよ よりて おやこの ものの ちせー あとべ
まーて おやそのめぐこすまもちひとり ゐすきりすとよ よれる めぐこその こまものの
おやこの ひとよ あふる〜 あり。16まく〜こまものの ひとりの つこ よりちやうまる
ものー ごときよ あとぶ。そん こまものの ひとりの つこ よりつそせとれ、めぐこその
こまものの おやこのつこ よりこまーきと せとる〜 あり。17ゆー ひとりの つこを
おうせーよ よりちその ひとりよ よりてちはのせべ まーて ゆこうまる めぐこと
こまーきと せとる〜こまものを うこる ゆものの ひとり すまそち ゐすきりそとよ
より いのちよ おのて ちはの せん。18このゆまよ ひとりの つそよ よりつそ
せとる〜 ことの ぜんそんよ おうびー ごとく ひとりの こまーきよ よりて いの
ちを うる こめよ こまーきと せとる〜 ことも ぜんそんよ おうべり。19ひとりの
そのきー ことよ よりて おやこの ひとつそびとく せとれー ごとく まる ひとりの
ちこまーきと せとるべー。20ゆうおきその ひとこまーきと せとる〜 ことよ よりて おやこの ひと こまちーん つそを まこん こめ あり、されど つその ます ところよん めぐこその
いのゆまぜり。21これつその ちをゆりて ちはのせー ごとく めぐこそもまる これとの
きこ ゐすきりそとよ より ゆぎり まき いのちを えこちぜんとて こまーきを ゆりて

ちそのせん こめ あり。

ろま さい 六 ちやう

ちこまん これと あるを いそこんや。めぐこその まこん こめよ あれ つぐのて つそを
おうこさんや。2ちこまん、これとん つそよ ちせー ものの あれば
いうぞ あや その うちよ いきこんや。3これとん すべて ゐすきりすとよ おのて
ちぐめをうけー ものん その ちよ おのて ちぐめとれーをあこちと ちよぐさるう。
4これと その ちよ おのて ちぐめよ よりおりて ちはのせー ものの あれば
ちこの えのうこうを ゆりて ちより よこぐくこれとも あるべーき
いのちよ おのて あゆまん こめ あり。5これと ゆー ゆれの ちの さまよ おのて
うあとれー あとん まこ その よこぐくりまる ひとこまーきと せとる べー。6これとの ふるき
ひと ゆれと とゆよ そりつけとるこん つそのそ すこりて いまより つそよ つう
それぐる こめ あるを これとん ちせー ものん つそより とうるれば
あり。7そのゆー きりすとー とゆよ いきん ことを ちあんぶ まる ゆれと とゆよ ちあんぶ。8これと これを ちる、きりすとい ちより よこぐくりて あこちひ ちせぶ。
ちる まる ゆれを ちその する こと あー。10これ その ちせー ん つそよ めこそりて

ひとつびと ちせー あり。その いけるん かそよ めつそりて いける あり。[11]めくの
でとくく あんぢよも これとの きこ おすきりすとよ よりて おのれを つそよ つのそれ
ちせー ものと おもひ、かそよ つのてん いける ものと おもふ べし。[12]ゆゑよ
あんぢとの ちす べき のごふを つそよ ちそりくふ あられ。
[13]まゝ あんぢとの でとくを ふぎの どうぐとして つそよ まつ 千 あられ、さび ちそ
より いきりくりる ゆの〜 でとく おのれを かそよ まつも、めつ あんぢとの
でくのを さゞーきの どうぐとして かそよ まつも ゆの あれば つそ あんぢとを ちその す べつとも。
[15]ちつとん いつぐ。これとん おきその ちくそよ をとゝぶ、めくその ちくそよ をる
ゆゑよ つこを おつきんや。[16]ちつる べつとふ ちよ いくる ところの
つこつ あるひん さゞーきよ いくる ところの おきてよ ちくりふ ことう いづれよ
ちくりふとも おのれを ちゆべとして まつもせゆべ その ちくりふ ところの ゆの〜
ちゆべくる ことを あんぢとの ちとぎるつ。[17]かそよ めんーやもよ、あんぢとん
ゆと つその ちゆべくりーくど いまん さびけられる をーんの のりよ こゝろ
より ちくりび [18]つこ より とうれて さゞーきの ちゆべと あれり。[19]これ よの

きまを ゆりて いひーん まくくるのよ をる あんぢとの さとり よそきよ よりてあり。
あんぢとん ゆと おのれの でくのを まつもせ けゲれと ざいあくことの ちゆべと あーて
あくを おくまひー でとくいまん きよくせとれん さめよ あんぢとの でくのを まつ
もて さゞーきの ちゆべと せよ。[20]あんぢとん つこつの ちゆべ さりー ときん さゞー
きよ つゆゲれぎりー。[21]されば あんぢとゲ いまん そびる ところの ことよ おのて
あるの えきを えーや。その をそりん さゞ その ちゆべとを あり。[22]されどいまん つこ より
とうれて かそつの ちゆべと ありくられば きよくせとるこの そをえさり、そのを そりん
ゆぎり あり。[23]つこの むくひん ちあり、されど かそつの さまものん
これとの きこ おすきりすとよ よりて さまそる ところの ゆぎり あき いのちあり。

さい 七 ちやう

きやうぎとよ、これ おきその ひとを つうさとるん、おきその ひとを ちる ゆのよ いそ
さゞ そのを いける とき のを あるを あんぢとん ちとぎるう。[2]それを りとある をんあん
そりとの いける うちん おきてよ よりて ゆれよ つゆゲる・そりとん ちあべ そのを おきて
より とうる〜 あり。[3]これよ よりて そりとん ひとよ ひとよ
ゆうべ いんぶと とあくとる べー。ゆー そりとん ちあべ おきて より とうる〜 ゆゑよ

ろうの ひとよ ゆくとる いんふよ あとぎ。
あんぢとも ろうの もの すあもち ちより
さめよ そを むすぢんとて きりすとの めとぎよ
もの あり。[5]されど まくるらよ つろんて そ
つその よく されとの ぐろのの うちよ もろ
。されど されとん すぢよ ちろて されとん
ゆるされれば ちるーるる ふるヨ のりよ
おりて つろふ べヨ あり。

[7]ちろとば されと あるを いそんや。おきて
よとぎれば されい つその あるもの ちるを
あろれと いそぎんば されむさやりの つそ
おりよ のり いまーめよ よりて さまぎまの
おきて あくんば つそん ちぜる もの あり。
されど いまーめ いくり ければ つそ いきろんくりて されん ちせり。[10]ちろーて
ひとを いろさん さめの いまーめん めんりて されを ちあーむる ものと あれり。

[11]いろんと あれば つそん おりよ のり いまーめよ よりて されを あぎむき めら
これを ゆりて されを ころせり。[12]この ゆあよ おきてん きよー、いまーめも
きふく、さじーく めつ よー。[13]ちろんば よき もの されを ちあーむる ものと
あるろ。ちろとぎ、ちあーむる ものん つそ ちあーむれば その つそろる ことを あとそる〜 あり。[14]それ おきてん さまよ ぞくする ものと
されと ちる、されど されん まくよ ぞくする ものの そろよ うとれくり。
[15]そん ひげ おこあふ ところろん されの ことを ちあーむる ものもぎ、ひげ わりする ところん
されを これを おこあもぎ、まくむ ところん これを あす。[16]ゆー わりもぎる ところの
ことを あさば されを おきてを よーと あとぎ、ひま より これを
おこあふ ものん されよ あとぎ、されよ をる ところの つそ あり。[18]されを あの
よき ことも ひげ うち すあもち ひげ まくるらの うちよ をとぎるを ちる。わりする
ところろん されよ あれとも よきを おこあふ ことん されよ あー。[19]めくの ごとく
されを わりする ところの よヨ ことを おこあふ。[20]されを ゆー わりもぎる ところを おこあもぎ これを

あなたがたは、いったい、何を見に出て行ったのか。預言者か。そうだ。わたしは言う。預言者よりもすぐれた者である。[27] 『見よ、わたしは、あなたの前に、わたしの使いを遣わす。彼があなたの前に、あなたの道を備えるであろう。』と書かれているのは、この人のことである。[28] 女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネより大きい者はいない。しかし、神の国で小さい者でも、彼よりは大きい。[29] 民衆はみな、取税人たちも、ヨハネのバプテスマを受けて、神の義を認めた。[30] しかし、パリサイ人や律法の専門家たちは、ヨハネからバプテスマを受けないで、自分たちに対する神のみこころを拒んだ。[31] 主はまた言われた。「それでは、この時代の人々を何にたとえようか。何に似ているか。[32] 広場にすわって、互いに呼びかけ、こう言っている子どもたちのようなものだ。『私たちが笛を吹いたのに、あなたがたは踊ってくれなかった。弔いの歌を歌ったのに、あなたがたは泣いてくれなかった。』[33] バプテスマのヨハネが来て、パンも食べず、ぶどう酒も飲まないでいると、あなたがたは、『あれは悪霊につかれている。』と言い、[34] 人の子が来て、食べたり飲んだりしていると、『見よ、食いしんぼうの大酒飲みだ。取税人や罪人の仲間だ。』と言う。[35] しかし、知恵は、その行いによって義とされる。」

[36] パリサイ人の一人が、イエスに食事をともにしてくれるようにと願ったので、イエスはその人の家に入って食卓についた。[37] すると、この町に一人の罪の女がいた。イエスがパリサイ人の家で食卓についていることを知って、香油の入った石膏の壺を持って来て、[38] 泣きながら、後ろからイエスの足もとにひれ伏し、涙でイエスの足をぬらし始めた。そして、自分の髪の毛でそれをふき、イエスの足に口づけして、香油を塗った。[39] イエスを招いたパリサイ人はこれを見て、心の中で言った。「この人がもし預言者なら、自分にさわっている女が誰で、どんな女であるかを知るはずだ。罪の女なのだから。」[40] イエスは彼に答えて言われた。「シモン、あなたに言いたいことがある。」シモンは言った。「先生、おっしゃってください。」[41] 「ある金貸しから二人の人が借りがあった。一人は五百デナリ、もう一人は五十デナリ借りていた。[42] 二人とも返すことができなかったので、金貸しは両方の借りを帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが彼をより愛するようになるだろうか。」[43] シモンは答えて言った。「帳消しにしてもらった額の大きいほうだと思います。」イエスは彼に言われた。「あなたの判断は正しい。」[44] そして、女のほうを向いてシモンに言われた。「この女を見ないか。わたしがあなたの家に入ったとき、あなたはわたしの足に水をかけてくれなかったが、この女は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でそれをふいてくれた。[45] あなたはわたしに口づけしてくれなかったが、この女はわたしが入って来てから、わたしの足に口づけしてやまなかった。[46] あなたはわたしの頭に油を塗ってくれなかったが、この女は香油をわたしの足に塗ってくれた。[47] だから、あなたに言うが、この女の多くの罪は赦されている。それは彼女がよく愛したことでわかる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」[48] そして、女に言われた。「あなたの罪は赦されている。」[49] すると、いっしょに食卓についていた人たちは心の中で、「この人は何者だろう。罪を赦したりするとは。」と言い始めた。[50] イエスは女に言われた。「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

ヘブル人への手紙 8

ヘブル人への手紙 8

31 ろうとん これとの ことよ つのて あるを いそんや・かえ ゆー これとの
そうく あとん されう これとよ てき せんや。 32 おのれの むすこを おーまぢーて
これと すべその ゆの〜 うめよ これを ひろさー ゆのが いうぢう これと ともよ
ぜんゆうを これとよ さおそぢとんや。 33 たれう かその えとそそろる ゆのを うりろ
くんや。これを ろうーきと する ゆのん かえ あり・これう これを つえぜんや。
34 すぢよ ろくて まく よそケんり かその みぎよ ありて これとの うめよ とり多ー
する ゆのんきりすとあり。 35 これう きりすとの あやえ あるう、くるーそう、せめう、うあろう、そぢうく、あやうきう、あるひん
やのを あるう。 36 これ、これとん をうとう あるくの うめよ ろうさ これとを
とれえんと する ひうとの でとく せとれうりとを いつくーめる ゆのよ より ゆちを
これとん このすべその ことよ おのて これとの あのより これとを ちゆとぜんや。
えて あまり あり。 38 これ あうく これを ろうさ ちんぢ、ろ あるひん いのち、てんの
つうひ あるひん つうさ、いすの ゆの、ちうと ある ゆの、
39 ろうゆ あるひん ふうゆ、あるひん わうの つくとれー ゆのも これとの きえ ろす
きりすとよ ある ところの かえの あの より これとを ちゆとする こと あうそぢ。

これ きりすとよ よりて まことを いふ、いうの ゆうーえも
きうゆ みうある めんとて これよ おうひ ある うれひ ある ことく ここうよ さんぐる
いうこと ある ことを あうーす。 3 それ、ゆー ぢゃうう ある まくうの
ちんぞく いすふえる ひとの うめ あとん そんぐうと きりすとより のうそうる こと
これ いとそぞる ところ多り。 4 やうー うる こと、さうえ、けのやく、おきてを
さぐけとれー こと、まうり おうび やくそくん そる めれとよぞくす。 5 せんぞうちん
めれとの せんぞ あり・まくうの よ つのそん
うまんくり・めれん すべその ゆの〜 うんゆーて よ〜 わむ べきの かえ あり・あめん。
6 いま いくる ところに かその ことぞの すべ
いすふえる Israelu より いぐる ゆのん ことぞとく いすふえる
あぶらとひの Abrahamuno すあ あれば とて そる その こと
ともに うるる ゆのん あんちの すあ とて そる その こと と多くとよ
より いぐる ゆのん あんちの すあと とて そる その こと と多くとよる べーと そうさるうり。 8 すあそち
まくくうの よりて ことともうる ゆのん かその ことともよ あとぞ、やくそくよ よりて
ことも くる ゆのん すあと せとる〜 あり。 9 やくそくの ことぞい これ あり、

いそく、この Son 18:10 ときよ いくれば されも めくとん、さら Sara むすこを うむ べーと。10 そう
のこ あとぶ、りべっも Eliezamo ひとりの をりと されとの せんぞ いさく Isakuni よりて そとそー
とき 11 その ことものの いまざ うまれず まく よー あーも あさとる さきよ おその
えとそ さまひー くそざその めそる こと おく おとそあひよ よとを めー さまふ
ものよ よれるを あとそさん さめよ、12 あよ Son 25:23 おとうとよ つろくんとりべっよいそれ
さり。18 これ、されに Mal. 1:2,3 やこぶと Yakobuwo ありー えそ Esauwo そうと まくめりと ちるされーグ ごとー。
14 さとば あるを いそんや。かそよ さざー Idzu 33:19 ろとざる ことあるろ。ある ことあー。
15 そに かそも もうせよ いひ さまくり、されも めぐまん、
の せうのちうよ いひ ひろめとれん、 ものを めぐまん、
されも あそれまんと おもふ ものを あそれまんと
ものも よとず、まく いそぐ ものも あとず、さら めぐさ さまふ ところの
かそよ よるる あり。17 せのきやうよ ある ごとく Farmi たろよ めく Idzu 9:18 そめされより、されも
あんぢを さうるに ことよ あんぢよ よりて ひグ ちうとを あとそー、めろ ひグ
あの せうのちうよ いひ ひろめとれん、 ものを めぐまん、
めそに あそれまんと おもふ ものを あそれを、めくさまふ せうと おもふ ものを
めうさまふよ ーさまふ。19 されば あんぢ ろされよ いそん、あよ ゆあよ めれに あや

ひとを とぐむるや。されう そのむねよ さうとふや。20 あく ひとよ、あんぢら されも
あれば かそよ いひ さうとふや。つくりー ものん これを つくりー ものよ
むろひて、あんぢ あよ ゆあよ されを めくの でとくよ つくりーと いふ ことを
えんや。21 すあものーん おのト つちくれを うつそを そそとく、ひと
らのうつそを いやーくつくるの けん あるよ あとぶや。22 かそ ゆー そのいりを
あとそー、そのちうとを そめさんと わのひ、23 まく さうとふや。つくりー ものよ
うくべきの うつそを あグく さくーのひ、 さうえの さめよ あとうとめ
そあん さまひー めくさの うつそよ そのさんと
ありせば されとも あるものの いふべき ことあるや。24 めぐさの うつそとんめーを のうむ
りる されとも あるの ゆくうえの ことを そめさんと
うちより めされる ものあり。25 かそを やせやの ふそよ おりて、されに ひグ さそ Hoseyano Hos 2:25
よ あとさる ものを ひグ さそと とあん、ありせとれざる ものを あらする ものと
とあんへんと、26 まく、あんぢらん ひグ さそと Hos 1:10 ところよ あとぶと いそれー ところよ おりて、
めれらん いける かその ことものと とあんへる べーと いひ さまひーケ ごとー。
27 のう おさや Yesaya いすふえるの Ismelmno ことよ つくの そ

ちそんの めぢに うえの すあの ごとく あれとも すべて
あり。[28]そん、おそん さざめ さまひー ことを
1, 2, 3, toini oite okonai ; 5, 6, 7, 8, 9, toini tadaçkiwo motte okonai
をそる べけれど あり。[29]おさや さきよ めぐの ごとく しんり、ゐー そんぞんの
Bodonuno Gomorani
きこ されよ さねを のこさらりー あとび されよ そどむの ごとく あり、ごも
ふよ おあとうじふと。[30]ちうとび されと あうを しそんや。ことうひとん さざー
きを おひゐとめぢーて さざーぢ すあそち ちんうよ ある ところの さとーさを
5, 6, 7, 8, okiteno okonaini
1, 2, 3, 5, okiteni ; 7, 8, tadaçkino okiteni
おひゐとめて つまづく しーよ つまづく しんり おひそを おひゐとむれとも おさそよ
Sionni
1, 2, 3, 5, 6, okonaini ;
そよ、され つまづく しー、さまさざる しそを ちんぢる ゐのいそうーめとれ ぢと ちうさられうるケ ごとー。
[31]されど いすふえるい さざーさの おひうさりぢ。[32]こん あよ ゐあぞ。そのために

さら 十 ちやう

きやうさのよ、され いすふえるの さめよ こころろよ ねげふ ところ かそよ しのるる
ところん めれとの すさそれん こと あり。[2]され めれとケ かそよ ねりーん ある
ことを あうーす、されど その ねりーんん ちーきよ あうよ あとぢ。[3]そん かその

さとーさを そとふぢ、おのれの さとーさを ゐとめて かその さとーきを
きよ ちうさげそぎる あり。[4]それ、きりすとの すべて ちんぢる ゐの〜 さとーさと
せとれん さめよ おきその そをりと あれり。[5]もうせい おきそよ よれる さざー
きの ことよ つのて、これを おこあふ ひとん これよ よりて しくべーと ちうをり。
[6]されど ちうううよ よれる さとーきん めくの ごとく そーゆ、あんち こころよ、
Ritsu 30 : 12
されう てんよ のぢとんやと しふ あうれ、すあそち きりすとと くべーとせん さめ
あり。[7]あうひん、されう よそよ くぎとんやと しふ あうれ、すあそち ちより
Ritsu 30 : 14
きりすとと あけん さめ あり。[8]ちうとび あんぢよ ちうく あんぢの くちうゐも あんぢの ことぞ
つふくー ところの ちうううの ことぞ あり。[9]その ことぞん、あんち ゐー くちを
ゆりて きこ ゐすと いひ あとそー めら こころを ゆりて ちより めれを よそぐふ
よやそる かそを ちんせび すこひを うべーと あり。[10]そん、こころよ ちんよて
さざーきと せとれ、くちよ いひ あとそーて すこそる〜 あり。[11]せらきやうよ、
Yea 23 : 16
すべて めれを ちんぢる ゆのん そうーめとれ ぢと しんり。[12]ゆだやひと〜
Grikiabitotown
きりさや ひと〜 いへうて あー、すべての ゆの〜 さそん さざ ひとりまーて すべて

これを よび もとめる ものの ゆくうえ めぐみ
もとめる ものに そなす すくもる べし。
14 されど いまだ ちんせざる ものの いうそ
ぎる ものの いうそを ちんせんや。せりきやう
ことを えんや。 15 つうそうるうえ あとやせう
えんや。 せりきやうえ めぐの ごとく ちるさ
のぶる もの〻」より ことの おとづれを
めあと。 16 ちうれとも めれと ことごとく さうぜ
そに ちさや いひー ことあり、きそよ、それ
ーやと。 17 めぐの ごとく あれば、ちんうに
ことぞえ よる あり。 18 されど とれ とそん、
こちに あまねく せうのえ ひろまり、その こ
19 とれ まづ ともん、いすふえるに ちとやりー
そそえ あとぎる ものえ よりて あんぢとの ねう
よりて あんぢを いうとぜんと。 20 ちさや
やも そぞうる ことあく いひ けるん、

Yoel 2 : 32
13 そに さその あを よび

Yes 53 : 1
Yes 52 : 7
1, 2, 3, 4, moseu

Yesaya

Qi 19 : 3, 4

19

Ritsu 32 : 21

5, 6, 7, 8, 9, odaiyakano otodzurewo noburu mono ;

1, 2, 4, 5, Kristono ; 3, 6, 7, 9, Kamino

Yes 65 : 2

Yes 53 : 1

Benyaminno

1 On 19 : 18
Baaluni

2, 7, moçi okonaini yorabe megumini arazu, chirazareba okonaiwa okonaini arazu ; 1, 3, 4, 5, 6, 8, moseu

えとまれー ゆの これを えざり、その わうの ゆのん めさく ありよ あれり。 8 これ
せりきやうよ、かそ こんなちよ いくる まで ねねるの こころ、そぎるのめ、
きうぎるの そらを めれとよ あるくりと ぎるされーげ でとー。 9 さびでも
ぎるーて、めれとの ぎるく する せんん Ci 69:29 Ritm 29:4; Kos 29:10
つまぐらする ゆの まくむくひと あれ。 10 その めん そんぎる やうよ くとく あれ、
その せまうん つねよ めぐまれと いんり。
11 されば これ いもん、めれとげ つまぐきーん さめ あるる。 そうとぶ、
ひとの ぎーや あれば ひげ つとめを おゆんぬ、 14 これ あるひん ひげ けつまくの
めんりて めれとを きそそせて その あやまちよ よりて すくひん ことくる
ものを きそそせて その うち より いくる ことを えん。 15 ゆー
めれとの すてとるとん よの やそとぎと あとん その うけ ゆとさるとん ぎより
いくるよ おまとうとやや。 16 ゆー もうやの むん きょうとん その こねくる むんも

そる きそー。ね きょうとん えざも おとれて
の〜 めんとん ある あんぢ その うちよ つげれ めととんの ねと うるやひとを
ともよ ところ ものと あとん 18 おとれて わくる ありれ。
あんぢ やくるとも あんぢ ねを のするよ あとぶ ね あんぢを のする あり。
19 こくよ おりて あんぢ いもん、えざの ねとれーん ひげ つげれん さめ ありと、
20 よい めま、めれとん ふーんううの ゆを ゆりて おとれくり、あんぢん さび
ぎうううを ゆりてさう。あんぢ こころ ぎうぶる ありれ、めんりて おそれよ。
21 そん、かそ ゆー もとの えざを おーまんぢを おーまんぢ
ぎとん。 22 これよ よりて かその いつくーそと きびーきとを そよ。 さみれー
ものよ むうひてん きびーく、されと あんぢ ゆー かその いつくーそよ ととまん
とん あんぢよ むうひて その いつくーを あり。ゆー ととまとぎんぶ あんぢも
まく きり そまさる べー。 23 めれとの ゆー その ふーんううよ ととまとぎれば
まく つげる べー。そん、かそん まく これを つき うれば あり。 24 あんぢ ゆー
むまれつきよ のく めんとん より きとれ、その むまれつきよ ことありて よる
めんとんよ つげれー あとん まーて ゆとの えざん まく その めんとんよ

つくれぎとらんや。25きやうさいのよ、これ あんぢとげ おのれを めーこーと せざる そめよ この おろぎを もとぎさるを わりせぎ、すあもち いくぢくの いすふえるの まふきん ことくるびとの めずの そろるよ いさとん とおる Ysa 58:26 のちよ すべてのこと Immaiuwa いすふえるn すくもる べー。せらきやうよ、すくひぬー 出よん Sion より いぜく ふーんとんを やこぶ より のぞろん。27めつ、これ その つそを ゆるす ときよ めれとと そろる ところの けらやくん これ ありと そろされーげ ごとこー。28あくらんよ つらて いんべ、めれとん あんぢとの えきの さめよ てきと あれ。えこそよ つらてん せんぞろちの ゆあよ よりて あらせとるくゆの あり。 あそれあんと わりーて せんそんを そもきの うちよ おほ さまへり。33あく かその とそと ちあと ちーきん ふろの めあ。そのこと ちらん くゆる ところあー。30あんぢとん そのの さまめん もろり がさく、その そちん もとの さまものと めー さまふ ことよ よりて あそれそを えくり。31めつの ごとく めれとの いまそもけるん あんぢとの あそれそを うくる よりて めれとも まく あそれそを うけん さめ あり。32かそん せんそんを そろされ ちあ。そのこと ちーきん ふろの めあ。そのこと ちらね げさの めあ。34それら かその そのところを ちるや。めれと とゆよ そろる

ものん それぞや。35それら まづ めれよ あさくて むくひを うるろ。36そんゆんの めれよ ゆとらき、めれよ より、めれよ きす べほ あり。あめん。

さい 十二 ちやう

このゆあよ きやうさいのよ、これ かその ふろほ いつくーそよ よりて あんぢとよ すとむ、あんぢとの そを さそけて かそのよ ところを さそる〜 ところの さこほ いける そのんくゆのと せよ。これ あんぢとげ あす べきの つとめ あり。2あんぢとよ このよ あとふ あられ、さぐ かその むねよ めあふ こと すあもち よほ こと、よろこぶ べほ こと、まりさほ ことを そとーん さめよ こころを めんて あとくさよ すべー。3これ めつもる ところの めぐそよ よりて あんぢとよ おのあのよ いそん、そぐろよ こころを さろぶりて おゆふ べほ ところ より こゆる こと あこのれ、さぐ かその おのあのよ さあもりさる そんろうの もろりよ ちさぐろて さのとろうよ おゆふ べー。4これとん ひとろ ごとく これとゆ おそけれとゆ そのの えぶ そるる つとめを おあとふ せず。5めつの ごとく これとゆ おそけれとゆ きりすとよ おのて いりさん あり、まさる あむ さぐひよ えさる さり。6ゆあよ

ひれとよ さまそりくる めぐそよ おさうくみ
うけられば、あるひん よけん する こと あと
よけん すべし。7つと むる こと あとば つと
あー、8すらむる ものん すらめを あー
わとこー、つらさとる ものん ゆさん あく つらさとり、あそれむ ものん よろこ
ひて あそれむ べし。9あらする こととよ おの
せんを おさふ べし。10きやうさのの あらー、れのぎを
ものりて あひ ゆづり、11つとめよ おこさとぶ、こころを あらくしてきそよ つらふ
べし。12のぞさるん よろこび、あやさるん ものの～ とおしきを ねんごろよ ゆてあす べし、14あるん
ちとを せむる ものを おゆくして のとふ こと あられ。
15よろこぶ ものと とゆよ よろこび、めあー むる べし。
16あひ さけひよ おもひを おきとふし、さうき おもひを あさぎして ひくさよ
つけ、まさ おのれを さとしと する あられ。17あくを ゆりて あくよ むくゆる
あられ、すべての ひとの まくよ おのて よしと せとる こととを こころよ とめて

これを あす べし。18あるべくば ちうとを つくして すべての ひと～ やそとぐ
ことを せよ。19あのする とゆよ、あんぢら そぐろと あさを むくゆる あられ、
ちりぞきて そらうりよ まう す べし。そんせのきやうよ、きさ いひ さまひ けるん、
つさを むくゆるん これよ あり、これを むくひんと そるられ さり。20この
ゆあよ あんぢの あぶ もし うんあべ これよ くとさを、ゆし めそうべ これよ
のませよ。めく あさべ これ すそびを その めうべよ つめる あり。21あくよ
めりる～ こと あられ、せんを ものて あくよ めつべし。

さら 十三 そやう

ひとひと そる そのの うんよ さそる ところの けんる ある ものよ ふくす べし。
そん、かさ よりの いぞざる けんる あし。すべて ある ところの けんるん かその
さすめ さまふ ところ あり。2ゆあよ けんるよ さうとふ ものん かその
さすめよ さうとくる あり。さうとふ つさの さすめを うく
べし。3つうさん よきを おこるふ ものを おそれしむる。あしきを
おこるふ ものを おそれしむる ことを ありするう。
よきを おこるん、さとべ これよ よりて あまれを うけん。4のれん あんぢの

えきを あす ところの かそのの ちゐん あり。おそれよ。めれん いそがしこよ やりをと ととぎす、かそのの ちゐん あれば あーきを おとるふ ものよ いろりの もちを むくゐる ものの あり。[5]この ゆゑよ けんるよ ふくす べき あり。さら いろりの さめ のこ あとぎ、まる わんーんの さめ あり。[6]これよ よりて まる そうぎを おさむ。べき あり、めれとん かそのの そゐんるーて つねよ この ことを つうさとる。[7]あんぐとも すべて うく べき ものるん これよ あらん。そうぎを うく べき ものるん これを おそれ、ものるん これよ うんとやうを おさめ、おそる べき ものん これを おそれ、[8]あんぐとも さぐひよ ありすするの わうん うこととむ べき ものん これを さふとめよ。[9]そん、めんりん する ありれ、ひとをありする ものん おきてを つくす ものの あり。[10]ありん とおりの ひとを そこゐそぎ、ゆゑよ ありん おきてを つくす ものの あり。[11]これとも これを おる、いまん ねむり より さむ べきの とき あり、そん これとの

すこひん そとめ ちんぜー とき よりて あり。[12]よん さとよ ちうきよ よりて あり。さとよ ふけて ひ ちうげり。このゆゑよ これとも すぐよ ふけて ひ ちうげり。このゆゑよ これとも すぐよ ふけて ひ ちうげり。このゆゑよ これとも すぐ

そる おきトと おもふ。おの海の そらうと こころうよ おりて これとの ことを
さゞむ べー。[6]ひを まもる ものん きその うめよ まゆる。そとよ ものに おそよ
ちやするよ よりて きその うめよ くとふ。 [7, ii, hiwo mamorazaru monomo Kimino tameni mamorazu ; 1, 2, 3, 4, 5, 8, nosezu]
くとも ぎ。 これも まく かそよ ちやす。[7]これと いけるも
れの うめよ あとぎ、まく そするも おのれの
きその うめよ いき、ちするも きその うめよ
これとん きその ものの あり。[8]これと いけるも
すものも そせー ものと いける ものとの きそと あとん うめ あり。[10]あんぢ
あんぞ きやうぢうを つこ すると。あんぞ きやうぢうを めろんぎるや。これとん
そる かその [1, 2, 3, 4, 5, 8, Kamino ; 6, 7, ii, Kristono] ぎものの まくよ うう べる ものの あり。[11]そん、せらきやうよ、
きこ いひ さまひ けるん、これ おのれの いのち [Vss 45 : 23] ものを さーて ちうふ、すべその ひざん
これよ めとこ、すべその そうん かそを わ [1, 5, 4, 5, Kamini ; 2, 8, Kimini] ぎものの ちを さーて ちうふ、すべその ひざん
これとん おのの あの おのれの ことを かそよ うりうとふ べる あり。
[13]この ゆあよ これと まく あひうぢひよ つこを さうむる こと あく、むーろ
きやうぢうを うとー あるひん つまづうする ものを その そちよ おろぎる ようよ

ちうむ べー。[14]これ これを そりまく ちんぎ、ものと
ーて ゆと より ふけう ある ものの あー・うぢ これを ふけうと おゆふ ものの
ふけう あり。[15]あんぢ ゆー そよくゆうよ これを あんぢん あひうぢひよ
これ あんぢん あひうよ そうぐふて あゆまざる あり。あんぢ そよくゆうよ より
きりすとの そうて あぐあひー ものを おろぎ今 ことん あうれ。[16]あんぢとの よる
ことん ひとをーて そーとーむる あうれ。[17]かその まつりごとん くひ のそよ
あとぎ、うぢ うとーむると ひぐうと ちうむ そうまよ よる ところの よろこびとよ
あり。[18]めうの ごとくーて きりすとよ つうふ
ひとよ よーと せとる~ あり。[19]これよ よりて これとん おひうぢ
ひよ ところを うふるの ことを おひ ゆとむ
かその あす ところを こぐうう あうれ、すべその ものん いうぎふけれとも これを
くとふて ひとを つまづうする ゆのよん あーきと あとん。[21]まくを くとそぎ、
おどうーゆを のまぎ、おひび あまうそも あんぢの きやうぢうを うふー あるひん
つまづうを あるひん よそうとーむる ゆのを のそくひ せぎるん よー。[22]あんぢよ
ある ところの ちうふん そづうとよ これを ゆのその まんよ いうぐく べー。そづうとよ

さをそく ところを ゆりて おのれを つくよ さてめぐる ものに さらそひ あり。
23 くんぐうを あす ゆの ゆー くとそん ちんやる ことよ そむく ゆあよ つくよ さす
めとる。すべて ちんうよ よとやる おくあひに つこ あれん あり。

さの 十五 ちやう

1 これと つくゆき ものに おのれを よろこをす ことを そうとやーて つまうとやる
ゆの〜 よそきを ちのふ べき あり。 2 おの ゆの とありびとの えきの くめ す あ
そち そのに ところを くそん くめよ これを よろこをす べー。 3 そん、きりすとも
おのれを よろこをす ことを そうとやーて、あるくうを そーしる ゆの〜 せのきやうよ
そーりに これよ おとべりと をうくされーケ ことと ところに そあ
これとを をーゆる くめ すあそち これとケ せのきやうの くんーのびと あくさ
そとよ よりて のぞうを えん くめよ ちうせる あり。 5 ねケそくん、くんーのびと
あくうくを くまくの かこ あんぢとケ こころを ひとろうー くうを ひとろうーて
これとの きこ おすきりすとの ちく あるかこうを あケめん くめよ。 6 おすきりすとよ
より あんぢとをーて あひうケひよ こころを おあとく せーめ くまそん ことを。
7 この ゆあよ きりすと かこの さうその 1, 5, 4, 7, 8, nanjitawo; 2, 6, wareware
あんぢとを うくうるケ ごとく

あんぢとも おひうケひよ うく べー。
8 これ いそん、きりすとい かこの まことの 1, 2, 3, 4, Kristowa; 5, 8, Yesu Kristowa
これ せんぞうちよ やくそく ちうまひうる
ひとも あそれこよ よりて かうを あケめん
ごとく ちうるうれうり、いそく、この ゆあよ Cf. 18 : 40
あるうを さんびせん、ゆう あるうの あを うくそんと。 Ritsu 32 : 45
びとよ、その こことと ともよ よろこべと。 11 Cf. 117 : 1
さんびす べー、せんこんよ、ゆれを あケむ べー と。 12 あく ねさや いひ けるん、
Ps. 11 : 10
ねさいの ねめぐー、こととうひとを おさむる もの おこーんと す。 ことくうびと
ゆれよ よりて のぞまんと。 13 ねケそくん、のぞうを こまくの かこ あんぢとケ
きよまう ちうまの ちのとよ よりて ゆくう あるうを
をーて ちんうう より おとる すべての よろこをびと や すきを えんケ こめよ こまそん
ことを。
14 ひげ きやうこのよ、これ そびうとよ そち すべての
ちーきよ そちて こケひよ すくめ うる ことを あくく 1, 2, 3, 4, Kamino; 5, 6, 7, 8, kyoudaiyo, Kamino
ちんぎ。 15 かこの これよ

さまひー めくそ すあそち さくぐる ところの ことくるびとの さくるま そくぐる
よりきよめくられて よろこぶる〜 やうよ 16 これ わそのの ふくりみの まつりを おこ
あひ こととくるびとの さめよ おすきりすとの そもの ちからを あらはして
あんぢよそーて おがんへーめんが さめよ ある ところに さくよ そくぐーて
これを あんぢよ めきおくる。17 ゆあよ これ わそのの ことよ つま おすきりすとよ
よりて わところ ところ あり。18 いうんと あれば きりすと これを いそぎ、
こととくるびとを おくげそんん さめよ あぜー こと ゆりてー めら ちるーと ふーぎの
されど これを ゆちひて こととと おこあひを いふ あり、19 すあ
ちうと おふびわそのの そくまの ちうとを ゆりて
もち これ おるさをひ より あまねく いるりこ
のんを まりくく のん つくんくり。20 そに、これ
そてぎる やうよ きりすとの あの いあぐ とあ
つくふるの ねりーん あり。21 これ せいきやうよ、いまぐ めれよ つりて ちめーを
めう ねよぐる ゆの そる こととを えん、いまぐ さ
ちるされくうぐ ごとー。

22 このゆあよ これ おそひよ さまくけよれて あんぢよは いくる ことをえぎりま。
23 されど これ いあい この ところ あく、まく とーぐろ
あんぢよは ゆうんと ふうく ねがひ それば 24 これ いすぜよやよ おもむく とま
そうける ことを えそて のち あんぢよの
をひの さくるま ゆのどもよ つうんんとて めーくそ
おゃやびと おるさをひの さくるま ゆの〜 うち
あす ことを よろこびと せり。27 めれよの よろこーを
これよ おふ ところ ある ゆの あり。そに、これ
する ゆのをうけー あよび まくくりよ ぞくく
あり。28 これ この ことを をそり めれよ
あんぢよの ゆとよ よりて いすぜよやよ ゆくべー。29 これ あんぢよ ゆくとまい
きりすとの ゆくろ ある めくそを ゆりて いくんん ことを そる。
30 きやうそりよ、これとの さこ おすきりすとよ より まく そくまの ありよ
よりて これ あんぢよは すくむ、31 これ ゆぐるやよ そる ふーんとやの うち より

Ch. 15 (Kamino Mitamano; 1, 6, 7, 9, 4, 8, Kiyoki Mitamano)
Yerusalemu (Ierusalem)
Yes 52 : 15
Isupania (Ispania)
Makedoniato (Macedonia)
Akuyabito (Akayabito)
Isupaniani (Ispaniani)
7; manjirani itaru beş ; 1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, nosezu

まゐりる〳〵 ことをそゑ、めつ ひケ おるさを ひよ おりて つくりる つとめの さくもの ものとものの こころよ めあひ、[33] まこ ひれ[1, 5, 8, Yesu Kristono; 2, Kimi Yesuno; 3, 4, 7, Kamino] おすきりすとの むねよ そくらひ よろ ひれと ともよ やすむ ことを うる やう ひれと ともよ ひこすよ ひケ こめよ かそよ いのる こと を せよ。[33] ねがもくん、やすきを さまゐの かそ あんぢよ すべての ものと ともよ あよん ことを。あめん。

さの 十六 そやう

ひれ けんくふいよ ある きやうくらの[Kenkreini] そんなき きやうよ ふいべと[Foibero] あんぢよ すこむ。[2] あんぢよ きそよ よりて これを うけ めつ その ゆと ともよ ひと まこ ひれを そすけー ゆの あり。[1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, Priskelo Akuilani] [3] おすきりすとよ つとめて ひれと ともよ つとめる ゆの あるひりすとわくふよ ようしく ゆうすべー。[4] めれくん ひケ いのちの こめよ その くびを おけり。 さび ひれ のそ あよや まこ ことくらびと すべての きやうくらの めれとよ ちやをり。[5] まこ その りくよ あるきやうくらよ よろしくゆうすべー。きりすとよきをー わーやの[1, 2, 5, 6, 8, Ardano; 3, 7, Akeyano] そんなる ひケ あの すする えをいねとよ よろしくゆうすべー。

[6] まんぢよの こめよ おそくくとうしるる まりやよ よろしくゆうすべー。[7] そーや そんの うちよ きくく ありめつ ひれ より さこよ きりすとよ きをー ゆの すあそち ひれと ともよ めーうとく ありー ひケ そんなるらの[Andronikoto Yuniani] あんでろよことよ ゆよやよ よろしくゆうをよ。[8] きくよ おのて ひケ あの すする ところの[Ampliani] あんぶりやよ よろしくゆうすべー。[9] きりすとの こめよ ひれと ともよ つとめる ゆの あるうるぜんと ひケ あの すする ところの すさくとよ[Stakutoni] よろしくゆうすべー。[Apelemi] それくる あべきよ よろしくゆうせ、ありすとふろの[Aristobulono] いくの ものよ よろしくゆうすべー。[11] ひケ そんなるの[Herodionni] いくの ゆの〳〵 うち きくよ ぞくする ゆのよ よろしくゆうすべー。[Narkisono] ねるきその こくようせー[Persini] そんな ある ところ ゆうすべー。[12] きその こめよ よろしくゆうすべー。[Trofaina Trufosani] ねるがきよ よろしくゆうを。めつ あの そんな ありの。[13] きくよ えとくそれくる るやと その ものよ よろしくゆうを、めれん ひれも そ〳〵 くり。[14] あすんきりと、[Asunkrito, Filegon, Herme, Patroba, Herma,] びをごん、〈るめ、ごところ べ、〈るま、および ともよ そる ところの きやうくらの ともよ よろしくゆうすべー。[15] ひろ〳〵ごと、[Filologoto, Olimpa] ゆりや、ねをやと[Yulia, Nereato] その そんな きやうくらの ま〳〵 および めれとと ともよ

そる すべの さよあき ものよ よろーく ゆう今 べー。 16 あんぢよ きこあき くちうけを
ゆりて あひごひよや さをとん・きりすとの すべその さやうくその あんぢよ
よろーく いひ つろそをり。
17 きやうごのよ、これ あんぢよ すち私、あんぢよげ まるひー をーんよ そも
きて あようそをを まご つまぐう今る ものとも そとめて これを さけよ。 18 この
ともぐよん これとの きこ きりすとよ つろんぎ、さご おのれの そよ つろふる
もの あり。 われよん ことをを さくそるー こひ へろーふて ちうかく ある ものー
ころろを あざむく あり。 19 あんぢよの そうぐんる こと すべその ひとよ きこんぐ
れば これ あんぢよの さめよ よろこび さご あんぢよげ よき ことよ めーこくーて
あーる ことよ おろうまーん ことを わりす。 20 やすきを さまふの かこ すそ
やうよ さんと あんぢよの あーの そうよ おのて くぐる さまそん。 ねがそくん、
これよの きこ ゐす きりすとの めくこ あんぢよと ともよ あとん ことを。
21 これと ともよ つとむる もの ある てもて おふび ひげ ちんるうの るさよ、
やそん、そーたてる あんぢよよ よろーく いひ つろそをり。 22 この ふこをを めける
もの これ てるてよ きこそよ よりて あんぢよと よろーく いひ つろそす。 23 これと

そやうごうちうを ゆそあすこころの ダよ あんぢよと よろーく いひ つろそをり。
24 あちの くとうくび ふすと～ そやうごのの くあると あんぢよよ よろーく
いひ つろそをり。
25 よの そよめ より めくれーうど いは あとそれ、めつ めぎり ある かそのの
められのよ そうぐひ よけんーやの ふこをを ものて そんこくの さこを そんよ そうぐ
そをんげ さめよ そよーめくる おうぎの そうめー 26 するもち ひげ のべー ふくのん
および ひげ とく ところの ゐす きりすとの をーんよ そうぐふて 27 あんぢよを
めこふーうる ものの ある ひとり めーこる あそよ ゐす きりすとよ よりて よく
そんぐの えのうう あれよ。あめん。

たうろ こりんとびとよ おくれる だの いちの ふみ

だの 一ちゃう



そのむねよりめーをめうけりて ゐすきりそとの ちーやと あれる Paulo たうろ おょび Bostene そそてね[2] Korintoni こりんとよ ある かそのきゃうかいとの そとの すべそちゐすきりそとよおのてきょめとれめーをうけてきょきゃ ものとありさる ものとる おょび すべてのところよ おのて だれとのきゝ すべてのきりすとの あを よび ゆとむる すべてのものよ ふそを おくる。[3]ねがそくん、だれとのちーある めそときゝ ゐすきりすとよりあんぢとよめぐそとやをき あれよ。

[4]ゐすきりすとよよりてあんぢとよさまそりーめそのめぐそよつのて だれつねよあんぢとのさめよだげかそよちゃをやす。[5]そん、あんぢよめれよよりてすべてのことすべをちゃゆろもろのちーきよとむことをえされべり。[6]めくのでとくきりすとのあろーあんぢとのうちよめくふせとれーゆゐよ[7]あんぢとん さまそる ととろのめぐそよめくる ことあく だれとのきゝ ゐすきりすとのあとそれん ことをまろ。[8]めれんをそりよいくる まそ

あんぢとをめくふー、まくだれとのきゝ ゐすきりすとのひよおのてあんぢとよとげあとーめん。[9]おのれのむすこだれとのきゝ ゐすきりすとのまとそりよいとそんとてあんぢとよめーさまくる かそん まことあり。

[10]きゃうさのよ、だれとのきゝ ゐすきりすとのあよ よりて だれあんぢとよすくむ、あんぢとよそゐいふことをおゐとふせよ。あんぢとのあとーもる あろれ、さくこころをおゐとふーてひとつよあふべー。[11]だげきゃうさのよ、くろえ Kuleono そひ ありと だれよつけり。[12]だげいふ、だれん たうろよ Paulomi そくすとのふ。[13]きりすとれ だろう ところ あとんゐや。たうろのあよ よりてそらめをうけーや。おうとろよつけとれーや。あんぢとん Kristpoto Gayono たうろのあよ だれん きりすがよのろうろんあんぢとのうちのそれもそらめをおとこさりー。[14]だれかそよ そゐや、だれん きりすがよのろうろんあんぢとのうちのそれもそらめをおとこさりー。[15]ゆゐよだれよ Stefanano おのれのあよ よりてそらめをおとこさりとされもいふことあるそを。[16]だれまくすてばゐのいくのものよそらめをおとこさり、このろだれひとをそらめーことをおゐくを。[17]きりす

とのたれをつうそをーんちびめをわとこさんせん さめよ あとも、ふくのんをつくへ
ーめん さめ あり。まる たれよ こともの ちあを ゆちひーめ さまそも、これ きりす
との おうとうの むあーきよ きやぎくん さめ あり。18それ おうとうの そーんへん
わろびる ものるん おろろ あり。されど たれと すくひを うる ゆめるん かその
ちうと さり。19せのきやうよ、たれ ちーやん いびくよ あるや、
ゆーこきを むあーふ せんと さるされくるびごとー。20ちーやん いびくよ あるや、
ちうやくん いびくよ あるや、このよの ろんーやん いびくよ あるや。21これ かその ちあ あり。すあそもちよ
ちあをーて おろろあとくむるよ あとやや。22ゆざやびとい ときかそん せつきやうの おろろ あるを
おのれの ちあよ よりて かそを そくぎる ものとをすくふ ことを よーと さるまんり。
ゆりて ろんぎる ものとをすくふ ことを よーと さるまんり。23さび たれくん おうとうよつけ
さるーをねげひ、きりきやひとい ちあを ゆとむ、23さび たれくん おうとうよつけ
とれくるきりすとの のべくくふ、すあそもちよ ゆざやびとい つまびくゆの、
Luke 2:3, 5, 6, 7, 8, kotokumibitowa ことくるひとるん おろろ あるゆの あり。24されど めされくるゆのるん ゆざやびと
よも きりきやひとよもきりすとい かその ちあるる あり。25それ
かその おろろん ひとよりゆーくく、かその ちあ かその ちあるる あり。25それ
かその おろろん ひとよりゆーくく、かその よそきん ひとよりもつよー。26きやう

さりよ、あんぢとの めーを ゆうむりくるをそよ、まくくさりよ よるところの ちあ
あるゆの おろろとをそ、ちうと あるゆの おろろとをそ、さのとき ゆの おろろとぎる
あり。27かそん ちあ あるゆのをそびくうーめんとて よの おろろ あるゆのを
えとべり。かそん つきる ゆのをそびくうーめんとて よの おろろ あるゆのを
28まく かそん あるところの ゆのをそびくうーめんとて よの いやーき ゆの、めろろをと
うく ゆの、あとぎる ゆのをえとび さまんり。29これ、ひとくーて かその まんよ
あんぢとん めれよ よりて ろす きりすとよ おろる ことを あろとん さめ あり。30あ
ぞくする ゆの あり。めれん かそよ さてとれて たれとの ちあ、たとーき、きふき
おとび あびあひと あれり。31これ、わくるされくるびごとく あとん さめ あり
ろるされくるびごとく あとん さめ あり。

さの 二 ちやう

きやうさりよ、これ さきよ かその あろーを あんぢとよ のべんとて あんぢとよ
いくりーときん ゆきんぐる ことをとちあを ゆりて いくとさりき。2そん、これ
ろす きりすと おとび めれび おとてとの わろん あるごとをそる
あんぢとの うちよ そとやすまとと こころを さそめられび あり。3これ あんぢとと

ᓄᓕᒫᓂᖅ ||| ᓄᓕᒫᓂᖅ

10 ᓄᓇᕗᑦ ᓄᓕᒫᓂᖅ ᐱᓕᕆᔨᒃᑯᑦ ᐃᓄᐃᑦ ᐊᑐᖅᑐᑦ ᐃᓄᐃᑦ ᐊᑐᖅᑐᑦ ᐱᓕᕆᔨᒃᑯ

1, 2, 3, 4, 5, 8, ii, yono htoni ; 6, 7, nikutaini zoksuru mononi

7, Paulowa tarezoya, Apolowa tarezoya

5, 7, 8, nakatagai ; 1, 2, 3, 4, 6, noseru

hiwa

hiwa hiwo motte

Yob 5 : 13

Ci 94 : 11

おもひの いさぐらよ あるそ ありさまみと そそ
ありて わこる あうれ・そんぶうに あんぢよの もの あり、[21] ゆあよ されも ひとを
あるひに あかろ、あるひに けさ、あるひに いのち あるひに ち、
あるひに いまの もの あるひに そよりの もの、これ そま あんぢよの もの あり。
[23]あんぢよに きりすとの もの あり、きりすとの かその もの あり。

さの四 そやう

されば ひとに これよを きりすとの つうくびと まく かその おくぎを あぐうり
そる いんぐうさ ありと おもふ べし。[2]それ あんぢよぱ いんぐうさよ もとむる
ところに その ちうぎを そえん ことと あり。[3] これ あんぢよよ さをうれ あるひに
ひとの さをく ときよ さをうる〜 ことに これよ おのて もりとも ちひさき ことに
あり・これも そぐうよを さをうぎ。[4]これ そぐうよを めんりそるよ あやまち あるを
おぢんべぎ、そうれとも これよ よりて 〜ときと せとれぎ・これを さをく
ものに きこ あり。[5]ゆあよ きその きさとんん ときの いるとぎる うちに あるごと
そる さをく あうれ・めれ くときの めくれそうに ことを てとー ころろの そうり
ごとを あとそそん。その ときよ おの あの うちく べきの かあれを かを よりうべー。

[1,8,4,5,6,8, majiraga:2,7, nosen]

[6]さやうさよの、これ あんぢよの さめよ ことを これとの ことを これと あかろよ あぞ
よんべーに あんぢよそして そうされー ところより こゆ べうとぎる ことに まく おの
あの このひとの さめよ めの ひとよ さうとめて あるる べうとぎる ことを これとよ
よりて まあぞーめん さめ あり。[7]あんぢよを これと ひとよ ことを あとーもる ものに
これぞや。あんぢの もてる ものく うちよ ものに あるぞや。もー
これをもとひー あとに あよ ゆあよ もとそぎる ことくるや。[8]あんぢよに
すぐよ あり、あんぢよ すぐよ とあり、あんぢよに すぐて ことくるよ ちはのせり。あんぢよに
これとも あんぢよと ともよ あとび これ ねぐふ ところ あり。
よ ちーやを そぎのよ さざめとれー ものく ぐとく すべの ものとーて あとそー
さまんべり。そん、これとに うちうの ものに すあそち てんの つうひと ひとびとよ
そものと せとれうり。[10]これとに きりすとの さめよ おろろ あり、あんぢよに
きりすとよ おりて ちーや うり。これとに よそ
うりとく、これとに いやーめとる。[11]いまの とき よ いくる まを これとに うん、
めそま、そうう、もちうされ まく さざりくる すまる あく、[12]わねそりて てら

うと そこときを あー、のこしとるく ときに そのべ、
13そしてうく ときに すくめを あー、いまよ いくる まそ よの あるくる そんぶつの
あろの ごとくよ あれり。
14已れ これとの ことを ゆきーん あんぢとを そらうーねる くめよ あとぎ、そら
あんぢらを 已ゲ あのする ことゆの ごとくよ いくる ねる。15あんぢと きり
すとよ おのて いちやんの ちーやうありと いくとも おるくの ちく あらぎ。そん、
已れ ふくのんよ より ゑすきりすとよ おのて 16これよ あんぢらを うめん あり。
よりて 已れ あんぢとげ 已れよ あらそん ことを すくね。17ゆあよ きそよ おのて
ちうぎ ある已ゲ あのする こ、てもてと あんぢらよ つろそせり。のれ あんぢとを
して 已ゲ ゑすきりすとよ おのて あのね ところ すあそもち あなねく すべての
きやうくをのよ をーゆる のりを おがくーめん。18あんぢらの うちよ、已れん
あんぢとよ いくとぎと おゆふて ねくる ゆの あり。19そろーん あげと きそのみごく
ろよ のあそく 已れ すそやうよ あんぢとよ いくとん、そろーて ねくる もの〜その
ことび あとを そのちくとを そとん。20それ、かそのまつりごとに ことそよ あとぎ
ちくとよ あり。21已れ むちを もりて あんぢとよ いくとんや、あるひん ありと

ふうとの こころを ゆりて いくとんや。あんぢとよ いづれを わりするろ。

さの五ちやう

あんぢとの うちよ ゆんゆん あり、すあそもち いくとんの うちよも あとぎる ところの
ゆんゆんよそ ちくの つまを ゆの ゆの あり。2そろるよ
あんぢとよ ねくるろ。ゆくる ことを おこあひーゆの〜あんぢとの うち より そり
ぞけとれん ことを ねがくふて あけうぎるろ。3已ゲ そん あんぢとの うちよ そとぎと
いんとも さあん とゆよ あり、已れ あんぢとを ごとき ことを おこあひーゆの つりて すぐよ めく さざめくり、4すあそもち
あんぢと 已れとの きそ ゑすきりすとの あなよ ありて あろまとん ときに 已ゲ さまも
とゆよ ありて 已れとの きそ ゑすきりすとの ちくとよ より 5めくの ごとき
ゆの〜 ねくるの を ねろがーて きまをーて きそ ゑすの ひよ おのて すくひを えせ
ーめん さめよ これを さざんよ 已ゲさざんと さざめり。
6あんぢとの ねくるん よりとぎ すこーの うちと ありさき めくまり
そ ふくとす ことを ねとぎるろ。7あんぢとよ うちと ゆき ものを あれば あくとーき
めるまりと あとん さめよ ふるき うちとを その ねくべーの。そん、それとの すぎこーの

わたしたちの信仰は、世に勝った勝利の力です。
5 イエスを神の子と信じる者でなければ、だれが世に勝つことができるでしょうか。

水と霊と血

6 この方は、水と血とを通って来られた方、イエス・キリストである。水によってだけではなく、水と血とによって来られたのである。また、御霊はこのことについて証しをされる方である。御霊は真理だからである。7 証しをするものは三つある。8 御霊と水と血とである。そして、この三つのものは一致している。9 わたしたちが人の証しを受け入れるのであれば、神の証しはそれにまさっている。神の証しとは、神がご自分の御子について証しされたことである。10 神の子を信じる者は、その証しを自分のうちに持っている。神を信じない者は、神が御子について証しされたことを信じないので、神を偽り者にしている。11 その証しとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたこと、そして、このいのちが御子のうちにあるということである。12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の子を持たない者はいのちを持っていない。

結び

13 神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを知るようにするためです。14 神に対してわたしたちが抱いている確信はこれです。神のみこころにしたがって何かを求めるなら、神は聞いてくださるということです。15 わたしたちの求めることを聞いてくださるとわかれば、神に求めたものはすでにかなえられていることもわかります。

16 もしだれかが、兄弟が死に至らない罪を犯しているのを見たなら、その兄弟のために祈りなさい。そうすれば、神はその兄弟にいのちを与えてくださいます。死に至らない罪を犯している人のためにです。死に至る罪があります。この罪については、祈れとは言いません。17 不義はみな罪です。しかし、死に至らない罪があります。

18 神から生まれた者はみな、罪を犯さないことを知っています。神から生まれた者は、自分を守っており、悪い者はその者に触れることができません。19 私たちは神から生まれた者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。20 また、神の子が来て、真の神を知るようにわたしたちに知性を与えてくださったことを知っています。わたしたちは真の神のうちにあり、その御子イエス・キリストのうちにあります。この方こそ、真の神、永遠のいのちです。21 子どもたちよ、偶像から自分を守りなさい。

6, 7, warerano tameni

するもの、いんよんをこのむもの、あんーふくをおとるもの、
むさぼるもの、さけよ よふもの、のろーるもの、うそふもの、
そくるをつぐことをえず。[11]あんぢよのうちよりもとめくのでとるものありき、
されど いまんきそ あすきりすとのあよ
あよひ のつきよめとれまるそとーきと せとれてり。
[12]されすべてのものをゆちゆるよきんぎるところあー、されどそれ
あるよあよぎ。されすべてのものをゆちゆるよきんぎるところあーとりんども
されそのあよものーをはりのそくそうるもふくせとれまと。[13]そふくもりんそよの
そめ、そよん そふるくもりの そめありき。されども かそん これもめれも わろぎさん。
そんそりそうの そめよあよ今、きそん そのそめありき。[14]かそ
ん きそをよそぐんよりて、まるそのちうよりよ よりて されよをも よそぐんよりて今
べーー。[15]あんぢよのそん きりすとのでるくをそよぎるう。これきりすとの
でるくのをとりこれをーて あそびめの でるくのをと あよーめんや。そうる べうよぎ。
[16]あそびめよ つく ものん めれと ひとりのの めよさと あるをそよぎるう。そん、
ふくりの ものん りりそうのと あるべーと りんくる ことあり。[17]そぢ きそよ つく

ものん めれと ともよ ひとりの そまと あるる あり。[18]あんぢよ そりそうをさけよ
すべて ひとの おう今 ところの つそんそのの そとよ あり、されど そりそうを おそ
ふよ ものん おのれの そを おう今 あり。[19]あんぢよの そん あんぢよの うちよ
あるきそる みそまする もちあんぢよけ かをよりうけーところの ものーそやる
ーて あんぢよん おのれの ものよ あよぎ ことを そよぎるう。[20]あんぢよん
あそひをゆりてめそれそる ものあり、このゆあよあんぢよの そをゆりて かそのの
さうえを あよそ今べーー。

6, 7, 9, Kamino mono naru nanjirano mito tamachitowo motte

その七 ちゃう

あんぢよけ のき おそうりーところの ことよ つりそん そととこ をん多よ ちうぐうさ
うをよーとそ今。[2]されとそりそうをさそうるそめよひとおのあのおのれのつまを
ゆう べーー、そん多も おのあの おのれの をりとよ そのふんをつまよ あ今べーー、つまの をりとん そぐ
うとそのそをつうさとることをえず、そのそりとこれをつうさとる。めそのごとく
そりとる そぐうとそのそをつうさとることをえず、つよこれをつうさとる
あり。[5]とゆよ あよそる ことを そうひよ こぞむ あうれ。そうりとりんくとも

7, 9, danjikito ; 1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, noseru

18 ゆ ゆ ユ ゆ ゆ ゆ

えんむーろ これを うけよ。[22]そゝめんてゝーて きそよ めさる〜 ものん きその おゆうの ひと さり。めくの ごとく おゆうの ひとを ちゆんべ さり。[23]あんちよん あさひを ものり。そゝりうとを ひとの ちゆんべとーて まうすべうとぎ。[24]きやうさ とき おりー ところの ぶんよ かそよ よりて とじまる べー。

[25]きむすめの ことよ つりそん これ りやうざ きその あそれそを うけて ちうぎと せとれうる ものゝ ごとく ひびを のべん。[26]これ おゆうよ りやの ときの あやその そめよ これを よーとす、すあもち ひとり をるん ひとよ よー。[27]あんち つまよ つまよ つまげれざる ものを あじんて つまを もとむる あうれ。あんち つまよ つまげれざる ものの あじんて つまを もとむる あうれ。[28]されど あんぢ めとるも つそを おうすよ あじぎ。きむすめの よめりり するも つそを おうすよ あじぎ。さじ めくの ごとき ものん そよ あやそを うけん。そうりと りんとも これ あんぢとを ひびとそす おとぎ。

[29]きやうさのよ、これ これを りそん、のこりの ときん ちとまれり。りま より のち つまを もとる ものん ゆうざるげ ごとく、[30]あく ものん あうざるげ ごとく、

よろこぶ ものん よろこをざるげ ごとく、めふ[1,2,5,6,8,yono;6,7,9,kuno yono]ものを もちゆる ものん とを こんて これを もちひざるげ ごとく すべー。[31]よの そん このよの おりさよん すぎ されど あり。ぎとーん ことを おゆんをうり、[32]これ あんぢとげ おゆひ ひびとそ きその ことを おゆんをうり、[33]めとりー ものん いうるーて そのつまを よろこをーめんやと よの ことを おゆんをうりて ことを ゆちひざるげ ごとく、[1,2,3,6,11,otto maki;7,8,9,nosaru]をりと ある。[34]ふところよ ある。[35]これ りんくるん あんぢとの えさの さめ あり。あんぢとの うんよ ひとも ーてさうとうよ あー いりーるよ きそよ つふ ところを よろーうとよ ありと おこるふ そのきむすめよ さのーて そべうと おこるふ めろ きむすめの とき すぎうり、まさ やむを えざる こと あとば そのおゆふ ところを あす べー、つそよ あとぎ。ふうりを こんりん さす べー。[37]されど めれ こころを めさーー、やむを えざる ことも あくまさ おのれの ありする ところを

ひろん おのれの こころよ おりて そのき秒すめを とじめ おろんと さざめきあり
ろう すろん ようる べー。[1, 2, 5, 6, ii, yokaru bee ; 5, 7, 8, 9, yoi] [88]されば おのれの きゃくを とりすすめを とりかける ものの ようを
ある今、とりかけをする ものん さしよ ようを ある今 ちゃくを [5, 7, 8, okitoni ; 1, 2, 5, 6, ii, nosasu] おきて ある。
[89]つまん そのを りのとの りける あひだ つぎぐち ありぐち ありぐち あり

ごさい 九 そゆう

1, 2, 3, 6, ii, cigani

1, 2, 3, 6, ii, jiyuu naru mononi ; 5, 7, 8, 9, cigani

これん おゆう ある ものよ あしゑや。これん これら
きそ ゑすと そーよ あしゑや。 2 これ そうの ひとりん そーや あしゑや。 3 これを
ぢとけ きそよ あるん とげ そーや そる つとめ
あとる ものよ とけ こそゆる ところん これ
あきろ。 5 これと そうの そーやそち おそびきそ
そなの ある つまを そぐそゆるの けん あき
そそしく ことを やむるの けん あきろ。 7 これ
ゆうんや。 これら ぶそう なそけを うゑて そ
ひうと あとを めて そのの むれの ちうを の
いりん ひとの おもふ ところよ のそ よるる
9 もうせの おきてよ、 Ritsu 25 : 4 あんぢこそゆうを ふまする ところの うーよ ころぐそを かくる
あうれと そるされそり。 かその おもんを
10 あるひん ゆりをと これとの そめよ いひ そまんくるら。 こん これとの そめよ ちる

されそる あり。 そん そぐくを ゆの〜 のぞそを ゆりて そぐくー こそゆうを こゑを
ゆの〜 これを うくるの のぞそを ゆりて こゑすん うん あれば あり。 11 これと
ゆー あんぢとの そめよ そそする ものを まきそとん あんぢとの まくる
りよ ぞくする ものを ゆりとるん すぎそる こと あじんや。 12 そうの ひとゆー
あんぢとの うくよ この けんを ゆるん まーて これとん これを
けんを もちひず、 そと きりすとの ふくの ちうを あさうる やうよ すべ
その ことを そのぶ あり。 13 きそゆ ことを つとめる ものん みやの ものを そとひ、
まく さのさんよ そぐる ゆのん さのさんよ おのて ぶんを うる ことを あんぢと
そとぶそる。 14 めくの ごとく きその ふくのんを つそふる ものん ふくのんよ よりて
くとーを そそん ことを さすめ そまんくり。 15 さそ これとの ことを
ゆちひず、 まく めく これよ せとれんけ そめよ これとの ことを のぐ おくるよ
あしず。 これを ゆとゆる よりん むーろ そすする ことを
ロケ そくる ところを むまーく する ことを 1, 2, 3, ii, taremo ; 4, 6, 7, 8, hito
るとゆる そるゆ そくる べき ところ あー、 やむを そぎるよ よれん あり。 これ ゆー
ふくのんを のぐ つそふけん これん ロさそひ ある ものゆる。 17 これ おのれの

ません。24 競技場で走る者は皆走りますが、賞を得るのは一人だけであることを、あなたがたは知っています。ですから、あなたがたも賞を得るように走りなさい。25 競技する者は皆、すべてのことに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を得るためにそうするのです。26 ですから、私は目標のない走り方はしません。空を打つようなボクシングもしません。27 むしろ、私は自分の体を打ちたたいて従わせます。それは、他の人に宣教しておきながら、自分が失格者になってしまわないためです。

10

1 兄弟たち。私は、あなたがたが次のことを知らないことを望みません。私たちの先祖はみな雲の下にいて、みな海を通って行き、2 みな雲と海の中でモーセにつくバプテスマを受け、3 みな同じ霊的な食べ物を食べ、4 みな同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らについて来た霊の岩から飲んだのです。その岩はキリストでした。5 しかし、彼らのうちの多くの者は神のみこころにかなわなかったので、荒野で滅ぼされてしまいました。

6 これらのことは、私たちへの戒めとなっています。それは、彼らが悪を慕い求めたように、私たちが悪を慕い求めることのないようにするためです。7 また、彼らのうちのある者のように、偶像礼拝者になってはいけません。聖書に、「民は座して食べ飲み、立って遊び戯れた」と書いてあるとおりです。8 また、彼らのうちのある者のように、みだらなことをしてはいけません。みだらなことをして、一日に二万三千人が倒れて死にました。9 また、彼らのうちのある者のように、キリストを試みてはいけません。キリストを試みて、蛇に滅ぼされてしまいました。10 また、彼らのうちのある者のように、つぶやいてはいけません。つぶやいて、滅ぼす者に滅ぼされてしまいました。

かそよ よーと せとれぞる ゆあよ のよ おりてわろがされくり。[6] これとの ことれとをーて のれとの むさがりー ごととく あーき ことを むさがとぎとーむる
[Isai 33:6]
これとの のとを あり。[7] のれとの うちよ ふうぞうを おげむ ものと あるげ ごととく あんぢとよ ふうぞうを おげむ ものと あるる あんぢ
[Mic 2:1]
ぎーて のを くひー うちて まひ おとると そるるされくり。[8] まく のれとの うちよ そりくうを おこるふ ものと ありて いち まちよ みまん さんぜんもん そうくり、
[Mic 21:6]
これよ あとひて これとの そりくうを おこるふ べうとぎ。[9] のれとの うちよ きそを こころそる ものと ありて へひよ ころされくり。これよ あとひて これとの きそを
[Mic 21:6]
こころむ べうとを。[10] まく のれとの うちよ つぶやく ものよ ありて わろがす ものよ ころされくり、これよ あとひて あんぢとよ つぶやく あられ。[11] のれとげ あんるこの
すべての ことれ のとそと ありて すあの よよ ものと あるる これとを いまー むる そのよ ちるされくる あり。[12] この ゆあよ そらうとく うとと おもふ ものん
くふれぎる やう つくーむ べー。[13] あんぢとげ うくる ところの こころそん よの つねの ものよ あとぎるれ あー。[14] のそん まことと あるる ものと あれば あんぢとげ うえ
うる ところよ すぎて こくろそとくをゆるーうまそぎ、くぢ こころその ときよ あんぢとげ これを ものひうる やうよ のげるくうを おげむ ことを さけよ。
[15] これ のーくる ものよ いんくるげ ととく いふ、ところを さとむ べー。[16] これとげ ちくする ところの めくそのの ちよ あらうるよ あとぎや。これとげ さく ところの ものん きりすとの のとぎよ あらるよ あとぎや。[17] ものん ひとつ あり、これとも おわけれとも ひとつの のとぎり。そん、そる ひとつの ものを これとげ よりて あり。[18] まくくらよ ぞく ところの いすふえるの ひとを そる。そるん ものを くとふ ものん さらぎんよ
[1, 2, 4, 5, 6. gunsouni sonayed monowa:]
あらうるよ あとぎや。[19] されば これ いんくる ことを ものん あるうぞ あり、ふうぞうも あるうぞ あるとも いんくるう。[20] そうとぎ、くぢ いとんの そるゆる ところん かそよ そるゆる あるよ あとぎ、あくまよ そるゆる ありと いふ。これ あんぢとげ あくまと おとそるをありそぎ。[21] あんぢとげ きそを のむ ことと あくまの ちふくと あくまの ちふくとを のむ ことと あるそぎ。きそを うる ことと あるそぎ。[22] これとん のれよりも つまる ものを あるう。[23] すべての ものを もちゆるよ きん

あんぢとげ これを ものひうる やうよ のげるくうの そちを まうけ くまそん。
[14] ゆあよ ひげ おの ふうぞうを おげむ ことを さけよ。
[15] これ のーくる ものよ いんくるげ ととく いふ、あんぢとげ ところの ちふくん きりすとの ちよ あらうるよ あとぎや。[16] これとげ さく ところの ものん きりすとの のとぎよ あらうるよ あとぎや。[17] ものん ひとつ あり、これとも おわけれとも ひとつの のとぎり。そん、そる ひとつの ものを これとげ よりて あり。[18] まくくらよ ぞく ところの いすふえるの ひとを そる。そるん ものを くとふ ものん さらぎんよ あらうるよ あとぎや。[19] されば これ いんくる ことを ものん あるうぞ あり、ふうぞうも あるうぞ あるとも いんくるう。[20] そうとぎ、くぢ いとんの そるゆる ところん かそよ そるゆる あるよ あとぎ、あくまよ そるゆる ありと いふ。これ あんぢとげ あくまと おとそるをありそぎ。[21] あんぢとげ きそを のむ ことと あくまの ちふくと あくまの ちふくとを のむ ことと あるそぎ。きそを うる ことと あるそぎ。[22] これとん のれよりも つまる ものを あるう。[23] すべての ものを もちゆるよ きん

ところ あー、されど そる えき あるよ あとぎ・すべての ものを ゆちゆるよ きん
ぎる ところ あーと いんとも そる ところを そる えきを ゆとめ ひとの えきを ゆとむ べー。
25 すべて いちをよ うる ものん わんーんの さめよ とふ ことを せやーて これを
くとふ べー。 26 そん、ちと これよ そうる とふ ことを せやーて
あれど あり。 27 あんちよ ゆー あーんとやよ まねうれて ゆうんと わりせば すべて
あんちよの あんくよ おく ところの ものん わんーんの さめよ とふ ことを せやーて
これを くとふ べー。 28 されど されら ゆー、これん みやの そるへ ものん ありと
いそば つけー ものく さめ わんーんの さめよ これを くとふ。 29 ひげ
いふ ところの わんーんとん あんちの わんーんよ あとぎ、ひとの わんーん あり。
ひれの おのう あんぞ ひとの わんーんの さめよ つそんどる〜 ことを せんや。
30 ひれ ゆー わんーやーて そうそく する ことを あさん あんぞ その わんーやする
ところの ものよ よりて のそーどる〜 ことを せんや。 31 ゆあよ あんちよ あるひん
くとひ あるひん のこ あるひん あることうそとうそ かその さうえの さめよ
これを あす べー。 32 あんちよ ゆどやひとよも きりきやひとよも かその きやう

1, 2, 6?, miyano nonayonono
7, 9, pahonni 26 setsuwo futatabi kokoni noseri

くとひの ものよ よりて のそーどる〜 ことを せんや。 33 ひれ すべての
ひとびとを よろこをを、おのれの えきを ゆとめ ておのその ゆめ〜
すくひを うる やうよ めれよの えきを ゆとめる あり。

さの十一 そやう

1, 2, 3, 6, 7, 8, 9, kyoudaiyo i
5, 7, 8, 9, kyoudaiyo
ひれ きりすとよ あとぎ ごとく あんちよも ひれよ あとぎ べー。 2 あんちよ
すべての ことよ おのて ひれを おがん、まく ひげ あんちよ つそんべー ごとく
をーんを まゆるよ よりて ひれ あんちよを わむ。 3 すべての をとこの のーとん
きりすと、そんの のーとん かそ あるを ひれ あんちよ ゆとめ ておのその
ちとよん ことを わり ず。 4 すべて をとこ あるひん よゆんをび その のーとを そうう〜むる あり。 5 すべて そんあん のーとを
おあそず〜て いのり あるひん よゆんをび そのの のーとを そうう〜むる あり、こん
てのはうと ひとー〜〜て ことある ことを あけれん あり。 6 そんな ゆー ものを ゆむ
よぎんび まるうその けを きる べー。されど そうそこん ものを ゆむる べー。 7 そところ ゆそ
ことも ゆー そんあの そうえ あとぎ べんよ ゆそ ものを ゆむる べー。されど そんあん そを
すくる かその さうえ あれん その のーとを おあそ べんよ ぎ・されど そんあん をと

このさろえさり。 8そととこん そんなの よりよ あとぎ、そんなの そととこの さめよ あとぎ、そんなの そととこの さめよ つくとれーよ、 9まさ そととこん そんなの さめよ つくとれーよ、そはのの つくとれー あり。 10これよ よりて そんなの つくひさちの さめよ めーとよ そはのの ちるー ある べき あり。 11ちうれども きそよ あとぎるん ありてん そんなの そととこよ よとぎるん あく、そととこも そんなの よとぎるん あー。 12そんなの そととこよ よりて あるげ ごとく そととこも そんなの よとぎるん あー。 13あんぢとよ そひうとよ かそ よりて あり。 さればとて そんぶひうん かそ これそ ひきまふ べー、そんなの ものを めむとよ あとぎ、これ そひ べきの ことよ あるろ。 14そととこよ あげき うそのの けよ あとぎ、これ あんぢとよ ちせんよ ちとぎるろ。 15されども そんなの そととこよ そのの さろえさり、そのの けんの めむる ものとーて これよ さまそりさる あり。 16そうれども そのの きやうくそのの ありとも これとうさる ものの ありとも そととこよ するる ものの きやうくそのの ある めくの ごとときの あとよそー あー。

17ひれ めく あんぢとよ いまーめて あんぢとの あうりん えきそ うくるよ あとぎ めんりて そんなの うくるさめ あるよ よりて あり。 18まげ ひれ あんぢとの きやうくそのの あうまりよ おのて あんぢとの うちよ あとぎ、そんなの そととこん そんなの さめよ つくとれーよ、そはのの つくとれー あり。 10これよ よりて そんなの つくひさちの さめよ めーとよ そはのの ちるー ある べき あり。 11ちうれども きそよ あとぎるん ありてん そんなの そととこよ よとぎるん あく、そととこも そんなの よとぎるん あー。 12そんなの そととこよ よりて あるげ ごとく そととこも そんなの よとぎるん あー。 13あんぢとよ そひうとよ かそ よりて あり。 さればとて そんぶひうん かそ これそ ひきまふ べー、そんなの ものを めむとよ あとぎ、これ そひ べきの ことよ あるろ。 14そととこよ あげき うそのの けよ あとぎ、これ あんぢとよ ちせんよ ちとぎるろ。 15されども そんなの そととこよ そのの さろえさり、そのの けんの めむる ものとーて これよ さまそりさる あり。 16そうれども そのの きやうくそのの ありとも これとうさる ものの ありとも そととこよ するる ものの きやうくそのの ある めくの ごとときの あとよそー あー。

あとよそひ ひとうる〜 ことありときけり、ひれ わうこれをちんぎ。 19そん、そこ〜ーさ ものの〜 あんぢとの うちよ あとよそる〜 やうよ あうまうさけひ あんぢとの うちよ おとぎるとよ ええぎ。 20あんぢとよ ひとところよ あうまるん きその ごせんを くとふよ あとぎ。 21そん、くとふ とさ おのの あの まげ おのれの ごせんを とりて あるひん うゆる ものの あり、あるひん よふ ものの あり。 22あんぢとよ くひのと すべさ ひんを ものさぎるろ。かその きやうくそのの めろんとよ まる〜 とぎーさ ものを そひうーも るろ。ひれ あるそう いそん、これよ よりて あんぢとを わめぎ。

23ひげ あんぢとよ さびけー ところの ものん ひれ これを さこ よりうけり、すあ そちきこ あすん ひとされー そのの よをんを とりて 24そくーやー これを さきて、 これん あんぢとの さめ ある ひげ めとぶ あり。 あんぢとよ めく おとるくて ひれを とりて いひ けるん、このちとくん ひげ ちを ものて そうる ところの あとよーさ やくそく あり。あんぢとよ めく おとるふその のむ ごとよ ひれを おがくると。 26あんぢとよ このをんを くとひ このちとく より のむ ごとよ きその きそる まを その

ちゃー　ことを　あとそす　あり。[27]ゆあよ　されうても　そごーきよ　あそすー　きその　ちんを　くとひ　きその　ちとくを　ちとを　おろす　あり。[28]ひと　そごろと　めくりそて　そろうる　のちよ　そのちんを　くとひ　そのちとく　より　の也　べー。[29]そん、くひのそ　するもの　ゆー　きその　めとそを　ひき　まんやろん　これ　くひのそよ　よりて　そごろと　おのれを　つそよ　さそもる　あり。[30]これよ　よりて　あんちよの　うちよ　おろく　よそき　もの　やある　もの　あり、まる　ねむりー　ものも　おまく　あり。[31]これと　ゆー　そごろと　おのれを　さそろんん　これとん　さそきを　うくる　ことあとん。[32]されど　いまこれとげ　さそろうるくん　よとともよ　つそよ　さそめとれざる　やう　きその　ことーめをうくる　あり。[33]ゆあよ　ひげ　きやう　さのよ、あんちよ　あつまりて　くとふ　ときん　おのそケひよ　まつ　べー。[34]ゆーうゆる　もの　あとび　あんちよの　あつまり　つそうよ　さそめとれざる　やう　いくよ　おのて　くとふ　べー。その　わりの　ことん　ひげ　いるる　ときよ　これを　さるめん。

その十二ちゃう

ことよ　つのてん　これ　あんちとケ　そとざきやう　ぞくする　もの～　ことよ　ちんを　わりそぎ。[2]あんちとん　もと　こととくる　ひと　そりー　とき　さそそるるくよ　まつ　そをて　もの　いそざる　ぐうぞうよ　そそケひー　ことを　あんちと　そる。[3]いま　これ　あんちとよ　そめそん、かその　みくまよ　めんとて　そいふ　もの　ん　ありそぎ、まる　きとき　みくまよ　めん　ゆる　あとざれば　ありすと　のとふ　べき　もの　あり。[4]そまもの　さまざまは　あれとも　ひとり　あり。[5]つとめの　ことん　さまざまん　あれとも　きそん　ひとり　あり。[6]そそとき　さそざま　あれとも　すべてのことを　すべての　ひとの　うちよ　そそとく　かそん　ひとり　あり。[7]みくまの　あとよもーを　おの　もの　よ　さそそりーん　えきを　えもーめん　さめ　あり。[8]ある　ひとまん　みくまよ　よりて　ちえの　ことを　さまそり、ある　ひとまん　その　みくまよ　よりて　ちんろうを　さまそり、[9]ある　ひとまん　その　みくまよ　よりて　やまひを　いやすの　ちとを　さまそり、[10]まる　ある　ひとまん　ふーぎの　ひきを　おこるひ、ある　ひとまん　よひんー、ある　ひとまん　さまざまの　さまざまの　くることを　いひ、ある　ひとまん　そそこの　ことを　やくする　ちとを　さまそれり。[11]すべて　これとの　ことを　おこるふ　ものん　ひとりの　おのと　みくま　あり、おのれ　その　わりする　ところよ　そそケひて　おのもの　ひとの　おのよ　ひけ　あるふる　あり。

12 のようさに ひとつもーて おやくの えさん おわけれとも そる ひとつの のようさり、きりすとも まく のくの ごとし。13 そん、これと ゆさや ひとまりきゃひと、そもべ おゆうの ゆの〜 ころうち あく そる ひとつの のようさと あとん さめよ ひとつの みさまよ おのて そらひめを うけ、そる ひとつの みさまを のまをとれさり。14 のようさに ひとつの えさよ あとぎ、おやくの えさ あり。15 あー ゆー、これに てよ あとぎるげ ゆあよ のようさよ ぞくもぎるろ。16 そ〜 ゆー、これに めよ あとぎるげ ゆあよ のようさよ ぞくもぎるろ。17 ゆー のようさうの あとん きく ところに いぐくよ おとんや。18 されど かそに みごころの えさ おの ものを くよ おとんや。18 されど かそに みごころの えさ おの ものを のようさよ おきくん さめくり。19 ゆー ことごとく ひとつの えさ あれば のようさに いびくよ あとんや。20 いま えさに おやく あれとも てよ むりひて、これに あんぢよ よう あーと いふ ことを えぎ。22 まーて のようさの むりひて、これに あんぢよ よう あーと いふ ことを えぎ。22 まーて のようさの うちうて ゆりとも よそーと そゆる えさに のくりて あうる べうぢぎる ゆの

り。23 のう のようさの うちうて いやーき ゆの おゆふ ところうに これと ゆのを まとひて ことよ さりときを くさふ、これよ ところうに ことよ うるそーきを くさゆる ゆりより。24 これとの うるそーきを くさんて のぶ さを ところへ さまくり。25 これ、のようさの おひさケひよ のくりそる ことを せん さめ あくーまん すべその えさ とゆよ くるーと、ひとつの えさ その えさ とゆよ よろこぶ べし。

27 のくの ごとく あんぢよに きりすとの のぶ 28 かそに さの いちよ そーや、さいる〜 よゆんーや、さいる さんよ そーよう、つぎよ あーぎの ひぎ、やまひを いやすの ちうと、わとこー する ゆの、おさむる ゆの、たくの ことを いふ ゆのを さて さまんり。29 そる そーや あるろ。そる よゆんーや あるろ。そる ふーぎを おくふ ゆの あるろ。30 そる やまひを いやすの ちうと あるろ。そる ことを いふろ。そる ことを やくするろ。31 あんぢよ あさむる 〜 ゆー のろ これ

あんぢよ あや すぐれる こちを ちめさん。

さの 十三 ちゃう

さとひ これ ひとびと おほび てんの つうひの ことを いふとも あの あくんげ
これら ある のねや ひとく ねうはちの でとー。[2] これ よけん する の ちうと あり、
まる すべての おくぎと すべての ちーきを さとり、まく やまを うつす わとよ
すべての ちうう ありと いくとも あの あくんげ のぞふるよ さとぎる ものの あり。
[3] これ まぐーの ものを ふぎそす さめよ、 ものを ことごとく わとこー、
のう ひげ みを すて~ やうるこよ いくとも あの あくんげ これよ えき する
ところ あー。

[4] あのん さくーのび のう あさけ あり。 あのん ねくまぢ、 あのん わくとぢ、
さうぶとぢ、[5] さこーうとぎる ことを おそそぢ、ひとよ あーきを おそそぢ、まくこと
めるげるーく いうとぢ、ひとよ あーきを おそそぢ、まくこと
を よろこび、[7] すべての ことを のんうんー、すべての ことを のぞを、すべての ことを ものぶ あり。[8] あのん いつまぐも おうる ことを
あー。 よけんの ちうとん する り、 くるぐるの ことを いく ちうとも やこ、

ちーきも まる すくとん。[9] これとの ちーき いまく まりくうとぢ、よけんも
いまぶ まりくうとぢ。[10] まりくるも ものの きくる ときん まりくうとぢる ものの する
べー。[11] これ おくるぐと ぐり ー ときん おくるぐの でとくよ めーり、 おくるぐの
でとくよ おもひ、おくるぐと ぐり ー ときん おくるぐの でとくよ そうるよ おふび
そん おくるぐの ことを すそくり。[12] いま これとの ちーきを ふぎそす、
あとぢ、 これと ものの ときん ものを あそそて あひくひよ そる べー。 これ
いま する こと まりくうとぢ、これも まりくく そうるくげ
ことく これも まりくく そる べー。[13] そんうう、のぞを、あの、この そうの ものん
つねよ ある り. その うちて ものとも おもる ものん あの あり。

さの 十四 ちゃう

あんぢよ あの をひ もとめ、ものみくまの そうものを そうくん、ことよ よけんする
ことを そるふ べー。[2] そこくの ことを ものる ものん ひとよ ものるよ あとぢ、
かそよ ものる り. そん、 これ みくまよ よりて おくぎを ものると いくとも
さとる ものの あけれん り。[3] これと よけんする ものん ひとびとよ ものりて その
とくを さて、すくめを あー ものう あぐさめを あくふる あり。[4] そこくの ことを

めくる ものに おのれの ところを さろ、されど よけんする ものに きゃうくさの ことを めるとん ことを ところを さろる あり。[5]これ あんぢとげ よけんぜん ことを ねげふ。そこの ことを わりすれとも ことよ あんぢとげ よけんぜん ことを めくる ものに きゃうくさの ところを さろる さめよ いそを ところよ あとぎんべ よけんする ものに これより まさる あり。[6]きゃうさの ことを いくさりて さくぜん あるひに ちーき あるひに よけん あるひに ぜーんよ あとぎんべ めくとぎ さぐ さくさの ことを のそを めくとべ あんぢとよ あるもの えき あとんや。[7]それ、いのちを まくーて ねを そりする もの あるひに ふえ あるひに ことを ゆー ねよ ひて めくる あとん。[8]らりを さくさの ところ ひく ところの ものを いうを さりえんや。[9]めくの ごとく あんぢとも ちくを ゆりて あきとろ あとぎる ことを あさんや。これ あんぢとよ くうよ むろ いそべ いうを いふ ところの ことを さり えんや。[10]せろりの くるることぢに そのこと ゆー ねよ ひとろとーて いを あとぎるん あー。[11]これ ゆー その ことをの いそを そとぎんべ されん めくる ものもえびす さとん。

[12]あんぢとん すべよ さまよ ぞくする さなものよ きゃうくさの ところを さろる さめよ その ものを さまものく ゆさろ あとん ことを えん さめよ いのる べー。[13]この ゆるよ さくさの ことをを めくる ものに これをやくする ことを ゆりて いのとべ これを さまん いのる あれど これ ところに ひとよ えき する ところ あー。[14]これ ゆー さくさの いうじ。これに さまを ゆりて いのりまく ところを ゆりて さんびーまく ところを ゆりて さんびぜん。[15]ちうとべ ゆりて さんびーやする ときよ むぐくの ものに あんぢの めくる ところを さとぐぜんべ いうるーて あんぢの めんーやするん よー、されど ろうの ひとの ところを さろる ところ あー。[16]ちうじぐれんべ あんぢ [17]あんぢの [18]されん あんぢとよ すべての ものに より おろく さろる めんーやす。[19]されど これ きゃうくさの ことをを めくるとん よりに むーろ ひをを をーくさの いうくの ことをを めくとん さめよ これ ところを ゆりて ねさるど さる ことに あられ、さべ あんぢとよ ちあよ おのてん ねさるど さる ことに あられ、さべ

あくま おのれ おさるご され、ちゃう おのれ おとま さる べー。21おきその うちよ さるーて、きさ いひ さまひ けすぎる くちびるを もりて この ささよ めさん、ろうれとも のれとん これを きろ 年と あり。22このゆゑよ ことある さること ぢん ちんぜざる ものー さめ あり、されど よけんん ちんぜざる あしぎ、ちんぜざる ものー さめの さるーよ ものー さめよ あしぎ、ちんぜる ものー さめ あり。23ゆー きゃうくを のぢう ひとさころよ あつまりて さる ことある さるこよ ちんぜざる ものと いそぎ ものの あるひん あーんとや いり きさしぐ ふーんとや あるひん むげく ある ものの いり よんや。24されど さる よけん する とき ふーんとや あるひん むげく ある ものの いり きさしぐ すべての ものよ よりて こころ そぐうとを せめ、すべての ものよ よりて さそきを うく。25めこの ごとく その ことと あしぎれて ひれふー かさを おりて、かさん まことよ うちよ いまする いそん。26ろうしぐ いろじ、きゃうぢのよ、あるまんぢとや あつまる ときん おの ものよ うる あり、そーん あり、さくぜん あり、さこの ことを あり、ことを やくする こと あれば、ことごとく さるを さろる さめよ これを あす べー。27されう ゆー さこ

さの ことを いう ものの あしぎ ふさり あるひん おろうことも さんろんよ すぎぢ おのれよ よりて めさり ひとり これを やく す べー。28ゆー やくする ものの あくま ーやも まさんろん めさりて その めさりて ぎする ものの さくぜんを うけ ものの ものん これを ときまふ べー。29よけん あくまちと そる いちのち よけんする ことを そて ひとびと そる まあび めさる ものの ものん ぎまる べー。30ゆー 31そん あんぢと そる いちのち よけんする ことを そて ひとびと そる まあび めさる ものの ものん ぎまる べー。32よけんーやの さまる 33かそん そされを さする の かそよ あしぎ ものー すべての きゃうことの よ おのて めさの ごとー。

34そんあさちん きゃうことの よ おのて ぎまる べー、めれとん めさる ことを ゆるされぢ、おきてよ いくる でとく めれとん そうぢと ものの あり。35ゆー あるをんと する こと あしぎ いくよ おのの をのとよ とふ べー。そん、 そをんる きゃうことの よ おのて めさるん そぢ あり。

36かその ことをん あんぢと よりも いぐーろ。まさん あんぢと のごよ きさりーろ。 あるひん みさまよ めん今る ものと おの

37されう ゆー そんぐと よけんーや さり

そば ひげ あんぢよ めの おくる ところ
きそのめい ある ことを そやうちや
1, 3, 8, 11, mozi mitomezuru mono arabe soto monomo mitomerarezu
べー。 38 ゆー きとぢざる ゆの あとげ その きやうさのよ、よげんの こころの ことを めくる
きゃうさのよ、よげんの こまゆのを あるくん
あられ。 40 ぐげ すべての ことん さうさうよ まご きぢの
を あーて おこなふ べー。

きら 十五 きやう

きやうさのよ、さきよ ひげ あんぢよ つくんくー ところの ふくろの
あんぢよ そめさん、すゆもち あんぢよげ うけー ところ、あんぢよげ ところ
ろ、2 まご あんぢよ いくびよ きんぢよげ ところの ゆの あり。 3 これ あんぢよ
めくく こゆうげ あんぢよげ すくもる ところの ことを
つくんくー ひげ うけー ところの ことを
Yoe 55 : 5, 9,
めるめて これよの つその こめよ きよ
Ci 16 : 10.
めるふて そりう めよ よそげくりーげ 5 けたよ あとそれ、のちようよ でーよ
あとそれ こまくる ことあり。 6 その のちまご いちとよ ごひやくまん あまりの
きやうさのよ あとそれ こまくり。そのうちねむりくる ゆの あれとも おそうくん
いまよ いくる まを あや いける あり。 7 つぎよ やこぶよ あとそれ、のちすべての

きーやくさうる あとそれ、 8 をそりまん つま さとぎーて うまれー ゆの〜 ごとき
これよ あとそれ こまくり。 9 これん さきよ かその うちまて ゆりとる ちひさき ゆの
きーやとと とるんくとるるよ さとぎ、きーやくさうの ゆるよ
あり。 10 されど これ いま めく ある ことを えーん かその めぐそよ よる あり。
めつ これよ こまそりくる そのめぐそん むえきよ あとぎ、これん めれと すべての
ゆの よりすぎて おそく つとめくり。そうれとも これ これよ あとぎ、これと とも
ある かその めぐこと あり。 11 ゆるよ、これ これ あるも めれと あるも これよん めくの
ごとく せりきやう す、あんぢよも まご ゆの ごとく ちんせり。

12 きりすとい きより よそげくり こまんくりと せりきやう するよ いうそ あんぢ
よの うちよ、きぜー ゆの よそげくる ことを あーと いふ ゆの あとんや。 13 ゆー
きぜー ゆの よそげくる ことを あくんべ きりすとも よそげくとぎりー あとん。
14 ゆー きりすと よそげくとぎりー あとん これよの せりきやうん むゆー、あんぢ
よの ちんろうも まご むゆーろとん。 15 めつ これとん、かそ きりすととよそげ
くとぜ こまんくりと あろーすると ゆりて かその こめよ いつそりの あろーびと
こよそげくる ことを あくんべ かそん めれを

よそグんとーむる こと あらう べー。16 おそらく ゆの ゆー よそグんとぐりー
きりすとも まる よそグんとぐりー あり。17 ゆー きりすと よそグんとぐりー
あらん あんぢよの ちからう むあーく、あんぢよの うちよ あり、
18 めう きりすとよ ありて ねむりうる ゆの わろひー あらん。19 されど うそ
この よのそうて きりすとよ よりの のぞうを うけて
うちうて ゆりとも あそれむ べき ゆの あり。
20 されど きりすとい すぐよ ちより よそグんとりて ねむりうる ゆのとゆの
グんりの そうをと あれり。21 そん ひとよ よりて ちゆる こと いぐうれば まる
ひとよ よりて ちより よそグんとぐる こととも いぐうる あり。22 わざむよ よりて すぐ
その ゆの ちをー ごとく まる きりすとよ よりて すぐその ゆの いうさる べー。
23 されど おの ゆの その ちさのよ ある。 そうの ちきりすとよ
ぞうさる ゆの その のぞうをう ときよ よそグんとぐる あり。24 ちうる のちきりすと
すぐその ちはい、すぐその けんる、ちうよをわろ ぐー まうりごとをち〜 ある
おそよ めんす ときよ をそり いうとん。25 そん、めれ すぐその てきをその あーの
ちうよ おく とき まぐん ひうる べき あり。26 をもりの てき すゆそち ちも

まる わろぐさる べー。そん かを すぐその ゆの ゆを きりすとの あーの ちうよ
ふくさーむれば あり。27 すぐその ゆのを ふくさーむると いんば すぐその ゆの
ちーて めれよ ふくさーむる ゆの〜 その うちうよ あとぐる ことん あさどう あり。
28 すぐその ゆの めれよ ふくさーむる ゆのよ ふくす べー、これ かを すぐその ゆの〜 うんよ
ひとりの ささと あとん ちあり。
29 ゆー ちをー ゆの ちんて よそグんとる ことも あらん ぞぐ ちをー ともグんとの ちめよ
ちぐめを うくる ゆのん いうど せんや。あよ ゆあよ その ともグんとの ちめよ
ちぐめを うくるや。30 めう これとん あんぞ とき ごとよ あやうきを おう すう。
31 きやうすのよ、これとの きそ おすきりすとよ おのて あんぢとよ つき これげ
わとる ところを さーて これん まのうち ちぬうると あうーす。32 これ ひとの さまよ
ちぐげ えべそよ Efesoni おのて あとき けゆのと さうぐんとも ゆー ちをー ゆの
よそグんとる ことも あんんば これよ あゆの えき あとんや。ひとびと いふ、これと
のそうひ すべー、あーる ちあん。33 あんぢとよ あざむうる〜 ことも あられ。あーき
まぢそうん よき あとそーそ そうあふ あり。34 あんぢとよ めを さまーて さとーきを

おこをん、つそを おこをふ ことを あられ。ある ものの かそを そ〳〵ぎ、これ これを いつくるん あんちよを そびうーむる あり。

35 ひと あるひに いそん、そーくる ものの のとさるて きくとんやと。36 おろう あるもの ちをやんぐ いきる ことを えぎ。37 のう あんぐ まくよ あとぎ、さじ むぎ あるひに わうの こくもうの つぶ のを あり。38 そうーて かそに さね ことよ その おのおの〳〵 のとふ すをもち みごころよ のをひさる のとさを これよ あるへ さまふ。39 すべて まくん おをと のくよ あごぎ。ひとうに ひとの まく、ひとうに けもの〳〵 まく、ひとうに うその まく あり。40 てんよ ぞくする のとぶ あり、まく ちよ ぞくする のとぶ あり。てんよ ぞくする もの〳〵 さうえと ちよ ぞくする もの〳〵 さうえと、ひとうに ひの さうえ、ひとうに つきの さうえ、ひとうに ひの さうえ、ひとうに わーの さうえ あり。このの わーと のの わーとに まる さうえ おのの おの ことをれり。42 そ〳〵ぐる もの〳〵 よそぐんりも まく のくの ごとー。くちぐる ものよ よそぐんり。43 いやーき ものよて まられ、さりとき ものよ よそぐんり。よそき ものよ

まて まられ、ちうと ある ものよ よそぐんり。44 けうるくの のとぶうて まられ、さをの のとぶ よそぐんる あり。けうるくの のとぶ あれば まく さうえの のとぶ あり。45 のくの ごとく そるされさり、いそく、そとめの ひと あざむい いける ものよ あれりと。のちの あざむい いのちを あるさまと ある あり。46 たまよ そ〳〵する ものの そとめよ あとぎ、けうるくの ものの そとめよ ありて さまよ ぞくする ものの のちよ あり。47 さの いちの ひとうに つち よりいぐ〳〵 ちよ ぞくす、さの あの ひとうに てん よりも あり。48 すべて ちよ ぞくする ものよ まる ものの てん よりの ものよ ある あり。49 これとん ちよ ぞくする もの〳〵 のくる ぞくする もの〳〵 のくるとと あとん ことを ねぐふ。

50 きやうぶらよ、これ かその みくるを つぐ ことを あるそぎ。51 そよ、これ あんちよよ くちる ものも くちぐる ものを つぐ ことを あるそぎ。おくぎを ちあさん、これとん ことごとく ねむる〔ふん あとぐる〕べー。52 されと これ そをりの ちりちの あをるきの まよ くるさ べー。そん、ちりを ひとるき ちーくる ものの くちぐるよ よそぐんり、これとん くるさ

べけれど あり。53このくろ べこ ゆのい めのよぢ くろ べうとぢる ゆのをき、
まる この ちす べこ ゆのい ちす べうとぢる あとん。54このくろ
べこ ゆの くろ べうとぢる ゆの ちす べこ ゆの ちす べうとぢる ゆの
をきん とこ せのきやうよ ちるうられうる こと
Mat 25:1-13; Heb 13:14
ちに めちよ のまれうり。ちよ、あんぢの めちに
1, 2, 4, 10, 11, katoiwa; 5, 6, 7, 8, 9, kariwa
1, 2, 4, 5, 6, ciyo; 8, 7, 9, 10, yomiyo
いづくよ あるや。ちよ、あんぢの
えりに いづくよ あるや。56ちの ちりに つこ あり、つこの ちうとに おきて あり。
57されど かこよ めろーや す、めれに だれとの きこ ちすきりすとよ よりて だれ
よよ めちを えやーめ こまふ。58この ゆゑに
ぢと めうくーて うでく こと あく つねよ きこの つとめよ とむ べー、あんぢとに
きこよ おりて そこと〳〵 ところの こと むえきよ あとぢうを ちれば あり。

さの 十六 ちやう

Galatians

きよまる ゆの〳〵 こめよ めねを つむ こそよ つりてに だれが よてやの ちうきやう
くるりよ めりやーー ごとく あんぢとも おこ
ひごとよ おの あの そのまうくる ところよ ちうりよ ちうりて そこうとに これを こくそふ
べー、されば だぢ いくる とまる めねを つむよ おうぢや。3だれ いくる とま

あんぢとぢ えとぶ ところの ゆのをーて ふこそ そんて あんぢとの めぐこ ゆのを
ちるされむよ さぐさへ ゆうーめん。4ゆー だれも ゆくを よーと せば めれと
だれととゆよ ゆく べー。5だれ まけとよ
よやを ところる とま あんぢとよ いくりて
ふのを すごさん。ちうーて あんぢとの あるひに だぢ ゆうんとする ところよ だれを
おくる べー。7だれ いま ともうよ おのて
ゆー だれよ ゆるさば あんぢとと ともよ
8されど だれ ごとう まちめの まつり
ひろくーて そこときを とぐるの ゆん だれ
ゆの あれば あり。
Timote
10ゆー てもて いくとぢ あんぢとの つくーそて めれをーて おそる〳〵 ところ あく
あんぢとの うちよ あとーめよ、めれに だれの ごとく きこの ことを つとむる
ゆの あり。11ゆゑよ されるゆ めれを めろーまーむる こと あられ、さぐ やすと
ろよ めれを おくりて だぢ ゆとよ さるとーめよ。これ めれが きやうるの こちと
とゆよ きこるをまそば あり。12きやうの
Apolono
あやろの ことよ つりてに めれ きやう

さのうちと とゆよ あんぢとの ゆとよ いうとん ことを ひれ おわひよ すくめう
れとも いま さとよ ゆく ことを わけせず、さ
13 あんぢと めを さまー、そんううよ めくく
つようれ。14 すべその ことん あのよ おこるふ べー。15 さやうぶらよ、
Stefanano Akayano
すてるの いくん わうやの そうわーて ゆのよ つうふる
ことん あんぢとの ある ところ あり。16 あんぢと
これと とゆよ そこよさ ふくよう する すべその
Stefana, Fortunato oyobi Akaikuno
あんぢとよ すくむ。17 これ すてる、やると おぎるんべ
よろこぶ。のれと あんぢとの めくる ところを
こころと あんぢとの こころを あやさめうり。
これを そとめよ。
Aciano
19 あーやの そうきやうくさの あんぢとよ よろーく ゆう
Priska
びりすう おとよ その いくよ ある きやうくさの
よろーく ゆうー つうそす。20 すべその きやうふうの
あんぢと さうさ くちうけを ゆりて あひうけ
Akuiato
ひよ よろーく ゆう す べー。21 これ

そうろ てびうと ちうーて あんぢとよ よろーく ゆう
1, 2, 3, 4, 10, Kimiwo; 5, 6, 7, 8, Kimi Yesu Kristowo
す。22 これう ゆー さそを あひうぜ あんぢ その ゆ
1, 2, ii, Yesuno
ねげそうん、さそ おすきりすとの めぐそ
23 おい おすきりすとよ そうる ところの あんぢと
1, 3, 4, 5, 6, 7, 9, amen; 2, 8, 10, nozoku
あめん。

なうろ こりんとひとよ おこれる さい まの あそ

さい 一 そやう

か

そのむねよりて ゑすきりすとの そーや あるPaulo たうろ おとびきうやAkayani
さいの てもてこりんとよ あるかそのきやうくとの あまねく わゃ
やよ あるすべてのきよきゆのよ ふそをおくる。[2]ねがそくに、あんぢよ 己れよの
ちく あるかそと きそ ゑすきりすとより めぐそと やすきを うけん ことを。
[3]己れよの きそ ゑすきりすとの ちく ある かそ、すあそち あそれその ちく、
すべその あぐさそを さまふの かそに わむ べき める。[4]われら 己れよを すべその
あやその うちよ おりて あぐさめ さまふ。これ 己れよそーて かそ より うくる
ところの あぐさめを ゆりて ゆろゆろの あやその うちよ ある ものを あぐさむる
ことを えをーめん さめ より。[5]そに、きりすとの さめよ うくる くるーそ 己れ
よよ おわく あるが ごとく 己れよの あぐさそも まく きりすとよ よりて おわく
あり。[6]己れよ あるひに あやそを うくるもの あんぢよの あぐさそと すべひの さめ
あり。この あぐさそに あんぢよそーて 己れよ うくる ところの くるーその
ごとき くるーそを あものをーゆる あり。あるひに 己れよ あくさそを うくるもの まく

[1, 3, 4, 6, 10, negrassmeno ; 2, 5, 7, 8, 9, negrassmeto akrino
[2] Timote Korintoni

あんぢよの あぐさそに さめ あり。[7]己れよ あんぢよ すべよ くるーそよ
めぐそー、そに あんぢよ すべよ くるーそよ あらうりされば まく あぐさそもあらう
うとん ことを ゆれば あり。[8]きやうさいよ おりて うけー ところの あやそを おとぐさる ことを わりぜぬ、すあそち おわひよ あり
ぜとれ、己れよの ちうとよ あまりて いのそ ゆるーそ ものを さまふの のぞを おきよ いくされり。
[9]めくて 己れよ そうとう ところの うちよ しーをきそむ、この ゆあよ 己れよ おのれを
さのちぎーて さぐ ちぜーゆるーそ かそを さのめり。[10]かそに 己れ
よを めくの ごときの しより すくひ いさまく 己れよを すくひ さまふ、
めつ いまより のちも すくひ さまそん ことを のぞむ。[11]あんぢよも 己れよの
さまもりする めぐそを おわくの ひとよ よりて 己れよ
さまもりする めぐそを おわくの ひとよ 己れよの さめよ めんーやするよ いくとん。
[12]己れよの わくる ところに これ あり、すあそち おのれの わんーん 己れよ
かそよ めあくる きよきと まことを ゆりて おこあひを あー、めつ まくさの
ちあよ よとぜ、さぐ かそに めぐそよ よりて よの あわ、ことよ あんぢよも むう
ひて おこあひを あすを あうー する ことを あり。[13]己れよ あんぢよ めま

おくる ところへ あんぢよの よね ところの わうよ あしざる
あり。これ あんぢよ をそりよ いさる まで これを をやうち せん ことを のぞむ。
14そん、あんぢよ すぐよ わど これよん あんぢよの わこる ところと ある ことを
をやうちをり。あんぢよも まこと きこと をすの ひよ おのて これよの わこる ところと
あしん。

15これ これを あんぢよ よりて ふこうびを えをせーめん さめよ
まけ あんぢよよ いさり、16あんぢよを すぎて まけとよやよ ゆき、まけとよや
より あんぢよよ めくり、まこ あんぢよと せり。
17これ これを さこむる よ めをりやすき ことと ところを ゆりて せーや。あるひん ひゲ
さこむる ところの ことん まこの よ をこくめて さこめ、これよ おのて をうり
をうり、いま いまと いふ ことと あしんや。18かをん まこと あれば これよゲ
あんぢよよ めくる ことをの うちよん をうりと いひて まこ いまと いふ こと
あー。19そん、これと すをもち これと 出るわの およびてもてが あんぢよの
うちよ つくんー ところの かをの むすこ ふすきりすとい をうりと いひ まこ
いまと いふ ことと あー、これよ おのそん さこ をうりと いくる ことと ある のを。

Biisuno oyobi Timoteos

20かをの やこをこん いうよ おをく あることも めれよ おのそん をうりと いくる
こと あり、この ゆをよ さうえ これよよ、21きりすとよ おのて これよを あんぢ
おのそん まこ おめんと いくる ことあり。
よと ともよ めこふーて あぶよを つけー ものん めを あり。22めれ まこ これよよ
いんを おー めう みこまを こまふて これよの こころよ をちと あーこまくり。
23これ いまこ こりんとよ いこよぎる あんぢよを ゆるやうよ あーよそんげ
こめ あるを かを ひげ こまーひの こめよ あり、あーを こと を これ めれよ
ねげふ。24これよん あんぢよの をんうをを つうこととん するまん あしよ、
こと あんぢよの よろこびを こすこる のこと。そん あんぢよ をんうをよ よりて
こそん あり、あんぢよの こそる ちんうをよ よる あり。

さの二 ちゃう

これ ふこうびを ものて あんぢよよ いくるまよと そうよ さこあり。
2これ あー あんぢよを ーて うれひーめる ところの ものー
わう これうれひを ーて よろこをーめんや。3これ さきよ この ことを あんぢよよ
めま おくりーん ひげ いくる とき これを ーむ べる ところの ゆの

ひとよ どうぞ べき ものあるや。 [8]あんぢよん これよの こころよ ちるされうる
あそるーて すべその ひとよ ちよれ よまるー ものあり。 [9]あんぢよん あきよ
うよ これよの つとめよ よりて のける きりすとの ふこあり。これ すこを ゆりて
するよ あよや、いける かその みうまを ゆりて ちるせる あり、せき ゆよ おのて
するよ あよや、こころの まくもよ ちるせる ありて [4]これよん きりすとよ より
かそよ むらひて めくの こときの ちんらうう あり。 [5]されど これよ そらうよ おの
れよ よりて あるごとそも おゆひ うるよ あよや、これよの おゆひ うるん かそよ
よる あり。 [6]のれん これよをーて あうよーき やくそくの つろんびとー あるよ
さよーむ、ちるーうる のりの つろんびと うるよ あよや、うまの つろんびとー うる
あり。そん ちるーうる のりん ーきーめ、うまん いうせば あり。 [7]きーきよを
いーよ ありうる ーの のり さうえ ありて いすらえるの ちそん もうせの のれの
するよんと する さうえの うめよ その のれを そとゆる こと あうそぎりー わと
あれば [8]まーて うまの のりん その さうえ さよーき おちよや。 [9]きー つそよ
さうむるの のり さうえ あよや まーて うぐーきと するの のりん さうえ ゆうう
あり。 [10]この ことよ つりて さきの さうえと せよれーものうそも この ちされる

さうえの うめよ さうえ ちきげ ごとー。 [11]きー すうよんと する ものさうえ
ありー あよや あげよゆる ものん まーて さうえ あるべき あり。 [12]これよ のくの
ごときの のぞそ ある ゆうよ そうよんと する ものふ あり。 [13]もうせが いすらえるの
ちそんよ すうよんと する ものを そりを そもぎる うめよ のれ ゆれひまて その
のれを おゆひー ごときよ あよや。 [14]ちうれとよ のくの こころ のうぐうよ
あり、こんまちよ いうる まそ きうやくを よむとき その のれ ゆれひ あや する
よ令ーて のうる。その すうるん きりすとよ より て ちされば あり。 [15]こんまち
まそも もうせの ふこを よむ とき その おれひ のれよの こころを おれんとも
[16]その こころ きそよ きする とき その おれひ のぞうる べー。 [17]きそん みうまの
あり。 [18]これよ のれ ゆれひ あくの ことろよ ところん おゆう あり、
のとそよ よりて きその さうえを そうよ そる くるーて おうよ のうちと あり、
みうまの ある きそよ ようや ごとく さうえ より さうむ あり。

さら 四 ちやう

これよ あそれそを のうりて つとめを うけられば あんてて おくせや。 [2]のくれうる
ちび べきの ことを すて、これうるうそを ゆりて あゆや、まう かその ことを

1 イエスはある所で祈っておられたが、祈りが終わると、弟子の一人がイエスに言った、「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈を教えてください。」2 そこでイエスは言われた、「祈るときには、こう言いなさい、

父よ、御名があがめられますように、
御国がきますように、
3 わたしたちの日ごとの糧を、
毎日与えてください。
4 わたしたちの罪をゆるしてください、
わたしたちも、
自分に負い目のある者を、
ひとりひとりゆるしますから。
わたしたちを試みに会わせないでください。」

5 また言われた、「あなたがたのうちに、ある人に友だちがあるとして、夜中にその人のところへ行って、『友よ、パンを三つ貸してください。6 友だちが旅の途中わたしのところへ来たのだが、出してやるものがないのです』と言ったとしよう。7 すると、その人は家の中から答えて、『めんどうをかけないでください。戸はもう閉めてあるし、子供たちもわたしも寝ているのです。起きてあなたに何かをやることはできません』と言うであろう。8 あなたがたに言っておくが、たとい友だちだからといって起きて与えることはしないにしても、その人の執拗さのゆえに、起きて必要なものを与えるであろう。9 そこで、わたしはあなたがたに言う、求めなさい、そうすれば与えられるであろう。探しなさい、そうすれば見いだすであろう。たたきなさい、そうすれば開かれるであろう。10 すべて求める者は得、探す者は見いだし、たたく者は開かれるであろう。11 あなたがたのうち、父であるかたに、魚を求めるのに、魚の代りにヘビを与えるような者があるであろうか。12 また、たまごを求めるのに、さそりを与えるような者があるであろうか。13 このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には良い物を与えることを知っているのだから、ましてあなたがたの天の父は、求める者に聖霊を与えてくださることは、なおさらではないか。」

14 イエスは口のきけない悪霊を追い出しておられたが、悪霊が出てしまうと、口のきけない人がものを言いだした。群衆はそれを見て驚いた。15 しかし、その中のある者たちは言った、「悪霊どもの頭ベルゼブルの力によって、悪霊どもを追い出しているのだ。」16 また他の者たちは、イエスを試みようとして、天からのしるしを求めた。17 しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた、「どんな国でも、内輪もめをすれば荒れすたれ、家は次々に倒れる。18 サタンも内輪もめをすれば、どうしてその国が立ち行こうか。あなたがたは、わたしがベルゼブルの力によって悪霊どもを追い出していると言うのだ。

しくなったイモムシ―ハチの幼虫のように、ぶよぶよした白い体をしていた。

ロボットが、ぼくの体を調べ終えると、ぼくの体は元どおりになった。

「ロボットは、ぼくの体を調べ終えると、ぼくの体は元どおりになった。

17これよ ありて ひと ゆー きりすとよ あとに めれん あとうよ つくしよれうる ゆの
あり。ふうる ものん すぎうりうり、そよ、あうとーる ものと あれり。18すべての
ものん かそ より あり。めれん きりすとを ーて おのれと やそ
とゲーめ めら やそとゲーむうの つとめを これよ おそせ
かそ きりすとよ ありて よを おのれと やそとゲーめ そのつそを これよ おそせ
ーて やそとゲーむうの ことをを これとよ ゆさね さまふり。20これよ ありて
これとん きりすとの つうひ うり、あや かそ これとよ よりて あんぢとを すべむ
るケ ことー。これとん きりすとよ めそりて 21かそつそを そとうさる ものを これとの めそ
ーて めれよ ありて かその そとーる ものと ある ことを えせーめん さめ あり。

さの 六 ちやう

これと めれと ともよ そうとくゆの あんぢとよ すべむ、かそのの めぐそを いうそう
とよ うくる ことを あうれ。2そん、めれ いひ さまそく、うく べきの ときよ これ
あんぢを さー、すくひの ひよ これ あんぢを さすけりと。そよ、いまん うけとる
べき ときを あり。いまん すくひの ひを あり。8これと この つとめを そーとる

ことを あうとん さめよ あうことよ おのそゆ ひとを つまうくうせず。4さび すべての
ことよ おのれ かそのの つうんひと あること ことをあうーす、すあそち おあくの
ようやよ いる こと、ねむとぎる こと、そよくを さう ことよ
あふて。5かち うくる~ こと、
あゆの あり、7まことある ことを、かそのの ちうと、さゆう せんごよ あるところの
さぐーきの おぐを ゆち、8あまれ まる きくんよ よりて あうー する あり。9これとん あぐむく ものよ まうれとも
まこと、ひとよ そしれざるよ まうれとも ひとよ ちとれ、ーぬるよ まうれとも
あや いき、ことうるるよ まうれとも ころされず、10うれふるよ まうれとも つねよ
よろこび、あうーきよ まうれとも おあくの ひとを とまーめ、ゆそる ものを あきよ
まうれとも すべての ものを ゆう あり。

11こりんとの ひとよ、これと あんぢとよ むうひて くちを ひとき、こころを
ひろく せり。12あんぢとん これとよ せそめとるよ あとず、あんぢとの こころろよ
せそめとるる~ あり。18これ ことゆよ めうる ととく いそん、あんぢとも

そらうよ こころを ひろくして だれよ むくひを めくる あらし。
14 あんちよ ふーんとや とも よ つりあそぬ くひきを めくる あらし。そらーきと
さよーうよさると ことあとんや。ひろりと くよきとん
あるの あひ あちそる ことあとんや。Hallelujah あるの ちそーこ
あるの あい くこ する ことあとんや。15 きりすと べりある とい あるの ちそーこ
あとんや。ちんよやと ふーんよやとん あふ ところ あとんや。だれよん いける かこの
16 かそのの みやん ぐうぞうと あるの あふ とも Isa 55:15
みや あり。かこ めりて だれ めれよの うちよ すこ、そのうちを あゆまん。だれ
こそと あとんよと いひ こまんくるげ ごとー。
めれよの かそと あり、めれよら だれの こまんくるげ ごとー。
17 まーこ かこ いひ こまひ けるん、あんちよを Isa 52:11 Rev 18:4
もあれよ、けげれこう ものよ こそる ことを
うけん。18 まーこ、だれん あんちよの ちーこと あり、あんちよら だげ むすこ むすめと
あとんよと いふ、これ つうりき ある かこの ことを あり。

さの 七 ちやう

あのする ものよ、すぐよ このやくそくあれん だれよ まくこうの こまとの すべ
その けげれ よりそうよを きよめ かこを おそれて きよき ことを おやうよゆ

すべー。2 あんちよ だれよを うけよ。だれよら これるも ふぎを あさぐ、これそる
そこあそぐ、これそる めすめー ことあー。3 だれ これを いふん あんちよを
つそよ さよそむるよ あとぐ。だれ さきよ いひー ごとく あんちよら だれよの こー
ろよ ありて ーするも いける これを ともよ すれん あり。4 だげ あんちよは
むうひて ちんやる ところん おやひ あり、これおやひよ あんちよの さめよ わくる。
だれ あぐさそよ そこさされ、だれよの ゆうもろの あやこの うちよ おりても よろ
こび あるり あり。

5 だれよ まけどよやよ いくされる とき みくこうの やすこを えぐ、さまざまの
あやそよ あひ そとうん あとそひ あり、うれふる ものを あぐさめ さまふの かこを
さめ さまんくり。7 こと そのきこるよ よりて のこ あとぐ、あんちよの ちこふ
ところ、うれふる ところ、おふひ だれよ むうひて あんちよの こころの あうきを
だれよよ つくる とき めれげ そうよと そこる その あぐさそを ゆりて だれよを
あぐさめ さまんくり。ゆあよ だれ ま今 今 よろこべり。8 だれ めりて ふそを
ゆりて あんちよを うれひーめ、さきふん これを くひーうとも いふん くひぐ。だれ

そのあそのあんぢよそーてうれひーむゐい さど ちぜとくのこあるを ちれば
あり。9いまこゲよろこぶい あふぢとげ さど うれふるよよとゃ、うれひて
くひあとさむることをするよよるあり。そい あんぢとこれとより そこあそる
ところあるき やう かそよ むうひて うれくみれば あり。10それかそよ むうひそのの
うれひい すくひを えぜーむる くひあきの くひあとさめよ いくとーむ、されと
よの うれひい ーよ いさとーむるあり。11あふぢとの いきいうあるもけこ、いひひとき、いき
うれひを そよ、それい あんぢとの うちよ おきとろよ あとよそ
つこを せむる ことを ちゃうぜーや。
とろり、おそれ、ちさふ こと、ねりーん、つ
あんぢとの いさきよるき ことを あとよそ
ぜり。12これ さきよ ふこを あんぢとよ おのて ことごとく あ
あとゃ、まく ふぎを うくる ものく さめるも あとゃ、さど あんぢとげ これとの
さめよ そけむ ことの かそのまんくよ おのて あんぢとの うちよ おきとろよ あとよそ
れん ことを ありーて あり。13この ゆあよ これと あふくさそを えーとき てとの よろこびよ よりて さとよ よろこべり。そん、のれの
こころ あんぢとよ すべその ものよ よりて さのーこを えされば あり。14これ

あんぢとよ つのて のれよ ひとりー ところ あるとも これを そぢぎ。これ
トケ あんぢとよ のとりー ことの こる まく
ひとる ところの ことく いうるも おそれ おのくぎ
ちさけひー こと〜 まく まこと あり。15のれん あんぢと すべその ゆの〜
いざーて まさまさ その こころよ あんぢとよ おのれを むうんー ことを おもひ
おのて あんぢとよ うさけふ ところ あー、ゆあよ よろこび あり。
さの八 ちゃう
きゃうさのよ、これと まけどよやの ちよきとうさるる かそのの
めぐそを あんぢとよ ちめさん、2すあそち おそひある あやこの うちよ こころ
そとれー ときよ よろこびよ あふれ、のれと きよきき
あとこさ こころの ところを あとよそむり。3これ これを あうーさ、のれと きよきき
ものく さめよ あとこーを ともよ せん ことを ひさすと これとよ ゆとめ、4そど
うと ねけふて その ちうとよ すぎて あとこさ ことを
あせり。5のれと これとの のぞむ ところを あせー のこ あとゃ、かそのむねよ
ちさけひて まづ おのれを きそよ さとけひ、つぎよ これとよ さとけり。6この

ゆるよ てと さきよ あんぢよをーて このめぐそをーむる ことを そよめ
されば いま これを おやうよゆ せん ことを、ちーき、すぐその えけそ おとび
ゆろもろの こと すあそち そんろう、ことを、ちーき、すぐその えけそ おとび
あんぢよの これを あらするの あらよ とめる ごとく まこ この めぐそをる とむ
べー。8これ これを いんくる、あんぢよの あらよ とめる ごとく まこ この めぐそをる とむ
ひとの そけむよ よりて あんぢよの まことを そころそん さめ あり。
あんぢよん これよの きそ おすきりすと そる。のれん ゆと とそそー
うど あんぢよの さめよ ちぐーき ものと あれり。これ その まぐーきよ よりて
あんぢよを とまーめん さめ あり。10これ のの ことよ つりて これ おもふ ところを
のよ、これ あんぢよの えき あり。そん、あんぢよん ひとよ さきよちて いちねん
まんよ これを おこなひ そよめーの そ あよ、えやく より これを おこなそん
ことを ねぐんり。11されば いま これを あーとけよ、あんぢよ さきよ わりぜー
ごとく ある ところの ものよ そさぐふて これを とぐ べー。12ひとゆーわりする
ところ あよ その あき ところよ よりて うけとる ところよ よりそ よ、
18これ わろの ひとを やすまーめて あんぢよ おもきを おそーめんと する よ

あよ や、さそ ひとーうとーめんと する あんぢよ
もりて のれよの さよぐる ところを おぎなふ ところを
もりて あんぢよの さよぐる ところを おぎなふ べー、おもふ
Matt 15:18
きやうよ、おろく あらむる ものん めぐる
ところ あーと、そろされーげ ごとー。
16あんぢよの さめよ この ねりーんを てとの こころる さまひー かそよ めん
ーやす べー。17のれん ひげ すくめを うけ のろ ねりーん そなそさー ければ
そらうと ねぐふて あんぢよ ゆく。18これよ のれと ともよ ひとりの きやう
さのをつうそす。このひとん ふくりんを すべての きやうくさのの うちよ
ありまれを えそる ものの あり。19そうのそ あよ、これよ きその さうえと これよの
ねりーんを あよそさうととて これよげ つろさとる ところの この めぐそを さら
さんて これよと ともよ ゆうん さめよ ちよきやうくをのよ えじそれる ものの
あり。20のれを おくるん これよげ つろさとる ところの この おろひる おくり
ものよ つりて ひとよ そーとふ~ ことを まぬろれん さめ あり。21これよげ めく
するん さらきその まんるの そ あよ、ひとの まんるる そよーうじん ことを そろる

あり。 22 ひれよ まろ おそろの ことよ おのて そやーん ねりーんを こころそろる
ひとりの きやうさのを めれよと ともよ つろそ今。めれん あんぢよを あろく そろん
やるよ よりて いよ ことよ ねりーんよ あれりあり。 23 てとの ことを いんべ めれん
ひケ とも あり、あんぢよの さめろん ともよ つとも る もの あり。ふろりの きやう
さのの ことを いんべ めれよん そろきやうくをの つろひまて きりすとの さろえ
あり。 24 ゆろよ あんぢよ おりて あんぢよの あいおろびひれよケ あんぢよを わとる ところの そろ
きこきき ゆのともよ わとこそ ことよ つのそんひれ あんぢよ めき おろるよ
おろをぞ。 2 そん、ひれ あんぢよの ねりーんを それべ あり。ひれ めりて まけと
よやひとよ あんぢよの ことを わこりて あゃやい すべよ きろねん よりそろんを
あやりと いんり。これよ よりて あんぢよの ねりーん おわくの ひとを そけまー
おろをぞ。 3 されど ひれよケ この わとこーよ つのて あんぢよを わこりー ことの
こり。 8 かそん すべその めぐそを あろくべーむるん あ今 べきの ことー おゆんり
むえきよ あよん ことを おそれ、ひケ いひーめんと すれべ あり。 6 それ すくあく
まくゆのん まろ すくあくものん まろ おわく まりいる べー。
"さび おの あの その こころの わりする よりて あ今 べー。
うれひよ よりて あるひん やむを えぎるよ よりて あ今 あうれ。そん、かそん よろ
こひて わとこーする ものを ありーさろんべ あり。 8 かそん すべその めぐそを
あんぢよよ ゆこうろよーめ、あんぢよをーとこぎる ことて あく、
あ今ま今 すべての よき ひぎを おころもーめうる あり。 。めこの でとく せの
きやうよ そろるされこり、いそく、めれ あまろーきあんぢよの ものよ あるんこり、その こころーきん めぎり あく さゆろんと。 10 まく ゆのよ
さねを あろん、くひゆの〜 さめよ むんを あろふる ものん あんぢよの まきろる

よやひと ひれと ともよ いこりて あんぢよの いまぐ そろんべぐろるを そべ あんぢ
よん いんよ おろをぞ ひれよ まべも うこぐそ今ーして こと よ つき
そぢそうくべー。 5 この ゆろよ ひれ きやうざのこちを すこめて まび あんぢよよ
ゆうーめ あんぢよケ さきよ やこそくせー ところの めぐそ ものを あとうよめ
そろんべーむるん あ今 べきの こと〜 おゆんり。そん、この めぐそ ものん おーむ
こと よよケ、めくむ こと よりて あさーめんと すれべ あり。 6 それ すくあく
まくゆのん まろ すくあく ものん まろ おわく まりいる べー。
"さび おの あの その こころの わりする ところよ そこぐめて わとこ今 べー。
うれひよ よりて あるひん やむを えぎるよ よりて あ今 あうれ。そん、かそん よろ
こひて わとこーする ものを ありーさろんべ あり。 8 かそん すべその めぐそを
あんぢよよ ゆこうろよーめ、あんぢよをーとこぎる ことて あく、
あ今ま今 すべての よき ひぎを おころもーめうる あり。 。めこの でとく せの
きやうよ そろるされこり、いそく、めれ あまろーきあんぢよの ものよ あるんこり、その こころーきん めぎり あく さゆろんと。 10 まく ゆのよ
さねを あろん、くひゆの〜 さめよ むんを あろふる ものん あんぢよの まきろる

そねを あやー あんちよの そちーきの そを まーさまそん。11あんちよ ことでとよ
とそそられば おーそ あく かとそこーを あーうる あり。これ ひとをこーて されとよ
よりて かそよ めんーやせーむ。12そん、この かとそこーの ことん きうき ものと
もの とおーきを おぎあふ のそ あとよ、まくお一むろめて あまくの ひとをこーて
かそよ めんーやせーむるよ いされば あり。13ひとひと この かとそこー する ことの
ちうそう すあそち あんちよりが きりすとの ふくのんを いひ あとをーて これよ
ちくくふ ことく おーそ あく めれと おふひ すべての ものよ かとそこーを あす
ことを ちり、14まく かそん おそひあるよ めぐそを あんちよを そまひーよ より
あんちよを そくそひ あんちよの そめよ いのりて さうえを かそよ きそん。15かそん
この いひ つくー がくき そまものよ よりて めれよ めんーやす べー。

さい 十 ちゃう

これ たうろ すあそち あんちよの うちよ ありそん すべく いやーく、あんちよを
そあれそん あんちよを むろのて いさまーきの ものの、いまきりすとの まうとと けん
そんを ものて あんちよを すくそ。2これ これをーを まくくふよ そくそくふて あゆむと
おもふ ものの あり、これ これを あーとふよ おんちよ いさまーくそんと おもんり、されと

これ あんちよを あふ ときん めく いさまーく すふよ おとをざる ことを
8これとん まくくふよ おりて あゆめとも まくくふよ そくすする ものよ あとを、かそよ
4それ これとの さくふのの ふくん まくくふよ そくすする ものよ あとを、かそよ
よりて とりをを こがら ところの ちうとも さうとふて さそくふる すべての さうき ものとを くらー、
かそのの ちーきよ さうとふて さそくふる すべての おゆめを とりこふーて きりすとよ そふくふーむ。6まく あんちよ
のの すべての おゆめを とりこふーて きりすとよ そふくふーむ。6まく あんちよ
よの そふくふ ことの まりさうとん ときよ すべての そふくふざる ゆのを そりす
うの そまんを あす。

7あんちよん うそべを ゆりて ゆーおのれん きりすとよ
ぞくする ものと ちんせん まく めれが きりすとよ ぞくする ことく これとも きり
すとよ ぞくする ものの ありと そがうとの これとよ おゆふ べー。8きりすとの これとよ
そまひー ところの けんる すあそち あんちよを ろろがす さめよ あとを あんちよ
よを そうる さめの けんるよ つりて これ いふものよ わこるとも そちと せざとん。
9めく いんとも、これ ふそを ゆりて あんちよを おとろうーむる ことく そゆる
ことを ありせず。10そん めれの ふそいん おゆく めろ きびー、あふ ときん その

そん よそく、その ことぞん いやーと いんくる ゆの あり。11 ゆくの ごとき ひとん これを おもふべし、これと そなれ そるとき ふそのことなの さびーきゲ ごとく あふ ときよ おこるふ ところも まるゆくの ごとく あるべし。12 そゞうと おのれを わもる ものの あり、これと あんて これと あるこ ものの ゆれとん そゞうと あひ そうり、そゞうと あれば あり。13 されと これとん そうりを こんて わることゞ、そゞ かその これとよ そうちも あるふる ところの のりの そうり すきゆもち あんぢとよ まそ いくれる そうりを こんて わることゞ、そゞ かその これとよ そうちも あるふる ところの のりの そうり すきゆもち あんぢとよ いくる べうとぎる ゆの〜 りよ そるゲふて わくる あり。14 これとん そうの ひとの すぐる ゆの〜 ことく そゞうと そうりを こんて あんぢとよ おふべるよ あとゞ、そゞ きりすとの ふくのんを つるんて あんぢとよ まそ いくうりを こんて あとゞそ、そゞ あんぢとの うちよ さうん あとん ことを わうの ひとの そるとゞきを わることゞ、そゞ あんぢとの うちよ さうん あとん ことを これとも おのれの のりよ そるゲふて あんぢとよ そゆんくる そうりを わくる そめよ のぞむ。16 これ これとん そうの ひとの すぐる ゆの〜 あとゞを、あんぢとを こんて わうの ところよ ふくのんを つるんん そめ あり。17 わくる ゆのん きそよ よりて わくる べし。18 そん、そゞうと わむる ゆの よーと せとふるとよ あとゞを、よーと せとふる〜 ゆの あり。

これ あんぢとをーて これが すこーく おろうるを そのをーめんと わりす。そうり、
1, 2, 5, ii, waga akogku ; 7, 8, 9, akogku waga

あんぢとん そのぶ あり。2 これ かそよ つくて ひとりを きよるも むすめとーて ひとりの そりと ことを あうく おゆふ、そん これ あんぢとを あらけ そうれん あり。3 へびの あーも ある きりすとよ さこけん そめよ いひ あんぢとの こころも あるひん そこをそれて そこそよ（ゆの あとそそれー ごとく あんぢとの こころも あるひん そこをそれて
1, 2, 5, 8, ii, makototo kiyo-kiwo ; 6, 7, 9, 10, makotowo

そこそよ（ゆの あとそそれー ごとく あんぢとの こころも あるひん そこをそれて きりすとよ むうふ ところの まこと〜 さふるを そをれん ことを これ おそる〜 あり。4 ゆー あんぢとよ きそる ゆの これとも おそひる そうの そをを のべ、あるひん あんぢとよ いまざ うけざる わうの さまそうけ、あるひん いまざ うけざる わうの ふくのんを うけをび あんぢとん よく これを そのよ あとん。5 これ おゆふよ これん ことぞよ つくて ちーきよ おのそん そうとも そのとも おそひる そーやうちよ おとゞよ。6 これん ことぞよ つくるゆーと いんくる ちーきよ おのそん そうとも ちーきよ おのそん そうとも
6, 7, 8, kotoni tsuite shirakuni arawasaretari

これとん あんぢとの さめよ すべての ゆの〜 うちよ すべての ことを あまーろよ あとゞそせり。7 あんぢとゲ そうめとれん ゆの これ そゞうとを いやーも ゆのと あーも あんぢとよ つひえを めけゆーて かその ふくのんを あんぢとよ つくくーら

これ つそを おろせー あるろ。 8 ひれん あんぢよの さやうと とれり。 9 めら ひれ あんぢよの
ろの きやうくとの よりうそふて きうきんを
うちよ ありて とぶーろりー とき これをも ひ
よりきろりー きやうごの ひげ とぶーき ところを
おりて ひれそびろとまりて あんぢよを ひびろとそさとりき。 このの ちも そびろと
まもよん。 10 ひれよ あるきりすとの おことろよ そろけ このろこる ところ
ろん あゃやの ちふて とびめとれをと。 11 これ あよ ゆえぞや。 ひれ あんぢよを
ありせざる ゆえ あるろ。 おそ そりそまふ。 12 されど ひげ おこをふ ところん あや
これを おこをふて おりを さこん。 これ めれとをーて
その おこる ところ ひれとと おをとろとーめん さめ あり。 13 この ともげとん
いろそりの そーや まろ いろそりを おこをふ ゆのるーて そびろと きりすとの
そーやの めろちよ へんとろる あり。 14 これ めびとーき ことよ あとぞ。 さるんも
そびろとよ ひろりの つろひの めろちよ へんぞる あり。 15 ゆえよ その つろんびとげ
そびろとよ そびーきの つろんびとの ととくふ
あとぞ。 めれとの をそりん その おこをひよ めをふ べー。

16 ひれ まろいそん、これも ひれを おろろとと おもふ あろれ。 そろとぞんび ひれを
おろろある ものとーて うけよ。 こん ひれ すこーく わことん さめ あり。 17 ひげ
いよ いふ ところん きそよ そろけみて いふよ あとぞ、おろろある ものー ととく
そをろとぞ わろりて いふ あり。 18 おろろの ひとと まろろのよ そろけみて わこれば
ひれも まろ わことん。 19 あんぢよん めーきる ものを あれば よろこびて おろろある
ものを そのぶ あり。 20 ひとも ーあんぢよを ーあるひん あんぢよを
のそ、あるひん あんぢよを めすめ、あるひん あんぢよを ちよの めろを うろとも あんぢよん これを そのぶ
ちよの めろを うろとも あんぢよん これを そのぶ あり。
21 ひれ そびとーて これを いふ、ひれとん ところ ありき、されど
ひとの つよき ところるん ひれも まろ つよーく。 これを いふん おろろある ひげ
ことー。 22 めれとん (ぶるひとと あるろ。 ひれも そろり。 めれとん いすとえるひと
あるろ。 ひれも そろり。 めれとん あぶとえの すあ あるろ。 ひれも そろり。
23 めれとん きりすとの つろんびとと あるろ。 ひれん いるのよ そろり。 ひれ これを
いろん くるんる ものー ととー。 ひれん あねそりー こと めれとん より おろく、
むちうられー こと おびるとーく、らうやよ いれとれー こと おろく、その あや

うきよ あひー こと そそーび あり。[24]それ まろ いろびゆびゃびとより そとうよ
ひとろを けんとろる むちをうけ、[25]そろびひろびいーうて
うられ、そろび そをそんよ あひ、[26]そそーび そびぢを へ、めもの あやうきよ あひ、まろ ととろぞろの あやうき、ろび どうろろの
ものー あやうき、こととろひとの あやうき、のー うちの
あやうき、いろとりの きやうさの うちの あやうきよ あんり。[27]まろ つられと
あんぎよ あひ、そそーび ねむとぢ、うぶ めもそき、そち、まろ
こびへ そろろ ありー。[28]こころよ いそぎる わろの ことす ますもち すべての きやう
くろの おゆんをろり ありて ひら それこころを あろく せざとんや。[30]それ
よもとぢとんや。これろ つまびきて それ こころ
ゆー わことぢるを えぶんび ろび よそき ことを わとる べー。[31]ぢこ あすの ち~
ある めぎり あく わむ べきの かを ろび いろそとぢるを ちり ろまふ。

[32]ざますこよ おりて あきさ ろうよ つける まちろろさ それを とよくんとーて
けりこを ゆりて ざますこびとの まちを まろ
まど よりー ぐきよ そひ つり おろされて そのてを のがれり。[33]それど それ めごよ いり
まゆれり。

ろび そろる ことん よろーろとぢれとも わ
そーと ろくんぜんの ことを いそん。[2]それ き
このひとん おうよねん まんよ ろろろんとれ
めとぢを ゆりて ゆきーろ それ そとぜ、め
ろび かこれを ちり ろまふ。[3]ろび このそ
うちよ ありーろ めとろの そとよ ありーろ ろまふ
ところの ひと ろびさんとれて [4]らくあんろ
めろる べろとぢる ことをきけり。[5]それ わろる
おのれよ つのそん ろび よそき ところの わろ
ことを わりする とも おろろ ある ゆのよ あ
すれば あり。そろれとも ひとの それよ そる ところ それより きく ところの ことよ
すぎて それを そろとんことを おそるるよ よりて わろる ことを やめる あり。

[7]まろ それ おそくの ろくんぜんよ よりて そ
まくろりよ ろおそれり、これ ろび わことぢる やう ひとりの とびを ろび
そそーと ろくんぜんの ことを いそん。[2]それ きりすとよ ある ひとりの ものを そる。
このひとん おうよねん まんよ ろろろんとれて そのろんの てんよ まそ いろれり。
めとぢを ゆりて ゆきーろ それ そとぜ、めとろの
ろび かこれを ちり ろまふ。[3]ろび このそる ところの ひとよ すろそち めとろの
うちよ ありーろ めとろの そとよ ありーろ ろまふ
ところの ひと ろびさんとれて [4]らくあんろ いろり めら ひとの いふ まじき
めろる べろとぢる ことをきけり。[5]それ わろる
おのれよ つのそん ろび よそき ところの わろ
ことを わりする とも おろろ ある ゆのよ あ
すれば あり。そろれとも ひとの それよ そる ところ それより きく ところの ことよ
すぎて それを そろとんことを おそるるよ よりて わろる ことを やめる あり。

[7]まろ それ おそくの ろくんぜんよ よりて そ
まくろりよ ろおそれり、これ ろび わことぢる やう ひとりの とびを ろび
そそーと ろくんぜんの ことを いそん。[2]それ きりすとよ ある ひとりの ものを そる。
このひとん おうよねん まんよ ろろろんとれて そのろんの てんよ まそ いろれり。

[24] Luke 1,2,6,11; Kimi Yesumo ; 6, 7, 10, warerano Kimi Yesu Kristono

つらひ あり。[8]それ これが さめよ そらび きそよ いのりて これを それ より さよーめん ことを ねがへり。[9]きこ それよ いひ あんちよ されり。そん、ちらよん よそき ものよ この ゆあよ それ よろこびて むーろ おのれの よそきよ あとよん。これ きりす との ちらよ それよ やとよん さめ あり。[10]これよ よそきと そびらーめと とあーきと せめと あやそよ あふを さのーそとせり、そん それ よそき とさよ つまけれべ あり。

[11]それ おそろ あるも ものと あれり、あんちよ それを そひて めく あさーむる あり。それん あんちよ より やめよる べき ものの あり、そん、それら とるよ さよ さる ものの あれとも その ものとも おそひあるも そーやさちよ おとよされば あり。[12]それん おそひよ そのびて ちるー、ふーぎ、ちらよの それを ゆりて ちーやさ らの ちるーを あんちよの うちよ あせり。[13]それ あんちよを それら こと のとの そろよ あんちよ そろの さやうさのよ あるの おとれる こと あとよんや。ねがそさん、それ この あやまちを ゆるを。

[14]そよ、それ いま そさひめ あんちよよ いさとて そあくを あせり、まさ

あんちよを それよさそ すまと。そん、それ あんちよの ものを もとむるよ あとや、あとや、おやん こともの さめよ さくそふ べき ものの あり。[15]それ いまらよ あんちよを あらーて いさらよ あんぜとめ よろこびて あんちよの さまーひの さめよ ものを つひやー そを つくさん。

[16]そうりと いんとも それ あんちよを それよさそ、されど それん さくさ ある もの あれば いろそりを もりて あんちよを ひき それよ もの あとん。[17]それ あんちよよ つらそやー ゆのー うちの さられよ よりて あんぢよ よりて まう けをえーや。[18]それ てとを すーめて あんちよよ ひとりの きやうざのを つろそせり。てとあんちよ おあと こさろよ おりて おゆまざりーや。おあと あとを あゆまーよ あとやや。

[19]それよ そさうと あんちよよ いひ それ すると それん きりすとよ おりて かそのの まんよ いふ、あふ あんふとさろん そあ あんちよの とくを さてん さめ あり。[20]そん、それ いくりて あんぢよ あとや、めろ あんぢよも それよ

1, 2, 3, 5, hsaçku omoyeri ; 6, 8, 7, omoniks

あんぢょ そりする ごとく あょぎょん ことを おそれて あり。おそょくら あょそひ、ねこさ、いろり、ぢょうぶり、さそぎ
あょぢょ あょょん。[21]まこ ひげ ふこさひ いこょん ときょ ひれそーて あんぢょ
ょの うちょ そぢーめ、めつ さきょ つそを おりんそー おそくの ものく そのおう
そー ところの けげれ、そりこう、いろごのこ あとの ことを くひ あょこめぎるを
そて ひれょ めのーこ あょん ことを おそる。

さい 十三 ちゃう

ひれ いま そこひめ あんぢょ いこょん。ふこさり あるひん さんうんの あうー
ひとの こちょ よりて すべての ことを さぎめょる べー。[2]ひれ さきょ あんぢょ
つけこり、いま まこ そあれ をると いんとも ひれ ふこさひめ あんぢょ あひー
とき めこりー ととく つそを おうそー ものと そのの ひとびとょ あょうょめ
つぐ、ひれ まこ いこょび めのょ ゆるさょ。[3]これ あんぢょ きりすとの ひれょ
よりて めこるとの あうーを もとむるょ よりて あり。[4]めれ あんぢょ むうひて
よそうょぎ、あんぢょの うちょ つょき あり。[4]めれ よそきょ よりて おうょうょ
つけられこり、されど かその ちょうょ よりて いきこり。ひれょ めれょ ありて

よそき ものの あれど あんぢょょ むうく かその ちょうょ よりて めれと とるょ
いきん。

[5]あんぢょ ふんうょを そるや いあやそうょ こころむべー。あんぢょ ゆー すてょる~ ものょ あょぎるう。[6]ひれょ
あり、これを そうょ そょぎる~ ものょ あょぎるを あんぢょの そょん ことを ひれ のぞむ。[7]ひれょ
おこあそぎょん ことを かそょ ねがふ。これ ひれょん すてょる~ ものく ごとく そのるも あんぢょぢ せんを
そすょ あょぢ、ひれょん すてょる~ ものく ごとく そのるも あんぢょぢ せんを
おこあそん ことを ねがふ あり。[8]そん ひれょ よそこと あんぢょ つる
まことょ そこぐふて ちょ あれば あり。[9]ひれょ よそこと あんぢょ つる
けれど ひれょ よろこぶ。ひれょ ねがふ ところに あんぢょの まりさく あょん
こと あり。[10]この ゆあょ ひれ そあれ をる ときょ これを めき おこる。これ あんぢ
ょよ あそん ときの ひれょ さまひー けんるる すあそち そろ分す さめょ あょぢ
そうる さめょ さまひー ものょ そこぐふて きびーく あんぢょを あーょふ こと
あょょん さめ あり。

[illegible]
[illegible]
[illegible]

あん　その　ものに　さそよる　べー。 9 それと　すぐ
されら　もー　あんぢとげ　うけー　ところよ　そむき
うらへあん　その　ものに　さそよる　べー。 10 いま
かその　きけんを　とるや。　あるひに　ひとを
され　あや　ひとを　よろこせあん　それに　きり
11 きやうさのよ、　それ　あんぢとよ　つけん、
ひとよ　よるよ　あとや。 12 それ　これを　ひと
とれや、　さど　ゑすきりすとの　ちめーよ　よん
ゆさや　きやうよ　をる　とき　おこなひー　ことを
かその　きやうくさのを　せめて　これを　あとー、
せんぞさちの　いひつさへよ　いまのよ　ねりーん
とやげと　よりも　まられり。 15 されど　それ　もと
めつめぐそを　ゆりて　それを　めー　さまへる　かそ
いとんの　うちよ　のべうさへせん　ことを　みどころよ
あとそんやー　とき、　それ　けつるくの　ひとー

さきよ　さーやと　あり一　ものとを　そんとて
Arabiani
あらびやよ　ゆき　まへ　さますこよ　めくれり。
Damaskoni
まそんとて　えるさきひよの　ぎりめれとともに
Yerusalemnimo
えるさきひよも　のぎしや、　さど
1, 2, 3, Kekewo ; 5, 6, 7, 8, Petemowo
きやうさの　あるやこぶの　ちうへん　べうの　そ
Yakobuno
あんぢとよ　めき　おくる　ことん　かその　まへ
21 そのの　のちされ　すりやと　きりきやの　とち
Surisato Kirikiano
きりすとの　ちよきやうくさのの　ぎを　めやを
よを　せめさる　ものまーて　いま　その　あとー
23 さど　めれん　さきよ　おのれ
き一　24 ぎげ　さめよ　かそを　あげめさり。

さら　二　ちやう

Barnabato
ようよ　ねん　すぎて　それ　ぜるあをと　ともよ
Yerusalemuni
えるさきひよの　ぎり　てとをも
Titowomo
ともよ　つれ　ゆけり。 2 それん　かその　ものー
うちよ　おりて　のべー　ところの　ふくのんを
そち　ぎげ　そことく　ところ　あるひに　そことき
おそれて　これを　おゆぢさる　ひとよ　あひ

ハナニヤ、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、ピリポ、トマ、バルナバ、マタイ、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、シモン、カリオテのユダ。

11 イエスの兄弟ヤコブ。

12 イエスは山に登って祈られた。

13 夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選んで使徒と名づけられた。

14 シモン、アンデレ、ヤコブ、ヨハネ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマ、アルパヨの子ヤコブ、熱心党のシモン、

15 ヤコブの子ユダ、イスカリオテのユダ。

16 イエスは彼らと一緒に下って、平らな所に立たれた。

17 そこには、弟子たちの群れと、ユダヤ全土、エルサレム、ツロ、シドンの海辺から来た大勢の民がいた。

18 イエスの教えを聞くため、また病気を癒してもらうために来たのである。

19 汚れた霊に悩まされる者たちも、いやされた。

20 群衆はみな、イエスから力が出て、すべての人を癒すのを見て、イエスに触れようとした。

21 イエスは弟子たちに言われた。

22 「貧しい者は幸いである、神の国はあなたがたのものである。

23 今飢えている者は幸いである、あなたがたは満たされるであろう。

24 今泣いている者は幸いである、あなたがたは笑うであろう。

25 人々があなたがたを憎むとき、また人の子のために、あなたがたを仲間はずれにし、ののしり、悪人として退けるとき、あなたがたは幸いである。

26 その日には、喜びおどりなさい。天において、あなたがたの報いは大きいからである。

27 しかし、聞いている者たちに言う。敵を愛し、憎む者に善を行い、

28 呪う者を祝福し、侮る者のために祈りなさい。

29 あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪う者には、下着をも拒んではならない。

30 求める者には誰にでも与えなさい。あなたのものを奪う者から、取り返そうとしてはならない。

31 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

32 自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いがあるか。罪人でも、愛してくれる者を愛している。

33 自分によくしてくれる者によくしたからといって、何の報いがあるか。罪人でも同じことをしている。

34 返してもらうことを当てにして貸したからといって、何の報いがあるか。罪人でも、同じだけ返してもらおうと貸すのである。

35 しかし、敵を愛し、善を行い、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、報いは大きく、いと高き方の子となるであろう。

れんげ　さめよ　あや　きりすとと　せんろう　せり。いうんと　あれば　おきその　おそ
あひよ　よりて　さらーきと　せよる～　ものん　ひとりも　あければ　あり。17 これよ
もーきりすとよ　よりて　さらーきと　せよれんこと　もとめるよ　あや　つそびと～
せよれるん　きりすとい　つその　そもべ　あるろう。そろる　べしよや。18 ゆー　これ
こがちくる　ところの　ものを　いま　まく　さそきる　これ　そらしよと　つそびと　あるを
あよそす　あり。19 これん　かそよ　むろひて　いきてよ　よりて　おきてよ　せよれさり、これ　ゆそや　いけ
そやう　20 これん　きりすと～　とゆよ　そりつけよ　せよれさり。いまこがく　まくさらよ
るよ　あよや　さそ　きりすと　こがう　うちよ　ありて　いける　あり。いまこがく　まくさらよ
いける　これを　あのーて　こが　さめよ　おのれの　そを　そてさる　かその　むすこを
そんろう　するよ　よりて　いける　あり。21 これ　かその　めぐこを　すてや。ゆー　さら
ーきと　せよる～　こと　おきてよ　よりて　いさびよ　そやー　あり。

よの　三　そやう

おろろ　ある　めき、がふてやの　ひとよ、あや　きりすと　そりつけよ　せよれて
おきよろよ　あんぢよの　めの　まくよ　あよそ　あよそ　あんぢよと　よりきろんと　あり。
1, 2, 3, 5, 6, 11, nosezu
そやー　ろ。2 これ　さび　この　ことを　あんぢよと　よりきろんと　あり。

みさまを　うけーん　おきその　おこあひよ　よろ、まくん　きよて　ーんろう　するよ
よるろ。3 あんぢよん　めくまを　おろろ　あるろう。みさまよ　よりて　そよめーよ　いま
まくさらよ　よりて　まりさふやよるろう。4 あんぢよん　いさびよ　めく　おそくの
くるーそを　うけーろ、これ　そのいさびよ　ことを　おそれて　これを　いよ。
5 それ　あんぢよは　みさまを　さらけ　めら　ふーぎの　ひざを　おこあそーもる　ゆの～
これを　あすん　あんぢよが　おきてを　おこあふ　ちんろう　せーよ　よりて　あるろ。6 めくの　そ
その　ちんろうを　さらーきと　せよれさり。7 されば　ちんろうよ　あるゆんも　あぶふ
そひの　ことゆるる　ことを　あんぢよ　ちる　べしー。8 せのきやう　すべよ　かろん　ちん
ろうよ　よりて　いよとんを　さらーり、あとうよめ　さのそひの　ことを　ーり、あとうよめ　さのそひの
おとびれを　あぶよそひよ　つさんくて、せんそこ　あんぢよ　よりて　さのそひを
えんと　いんり。9 ゆあよ　ちんろうよ　よるゆの　ちんろう　ちるる　あぶふそひと
おあよく　さのそひを　うさる　あり。
10 すべて　おきその　おこあひよ　よる　ゆの　さらりの　ーさよ　そる・いうんと
あれば、それるても　おきその　ふそよのすると　ことを　さえや　おこ

5, 6, 9, 10 Kristoni

ハレルヤ。 6 わたしたちの一つの体の中に多くの肢体があり、肢体はみな同じ働きをするわけではありません。 17 同じようにわたしたちは、多くいますが、キリストにあって一つの体であり、また一人一人は互いに肢体なのです。 18 わたしたちは、与えられた恵みによって異なった賜物を持っています。預言の賜物であれば、信仰に応じて預言しなさい。 19 奉仕であれば奉仕に専念しなさい。教える人であれば教えることに、 20 勧める人であれば勧めることに専念しなさい。施す人は惜しまずに施しなさい。指導する人は熱心に指導しなさい。慈善を行う人は喜んで行いなさい。 21 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れないようにしなさい。 22 兄弟愛をもって互いに愛し合いなさい。尊敬することにおいては、互いに相手を優れた者と思いなさい。 23 怠らずに熱心に励みなさい。霊に燃えて主に仕えなさい。 24 希望を持って喜びなさい。苦難を耐え忍びなさい。絶えず祈りなさい。 25 聖徒たちの必要を満たすために協力しなさい。旅人をもてなすことに努めなさい。 26 あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福しなさい。呪ってはなりません。 27 喜ぶ人々と一緒に喜びなさい。泣く人々と一緒に泣きなさい。 28 互いに同じ思いを持ちなさい。高ぶった思いを持たないで、かえって低い者と交わりなさい。自分を賢い者だと思ってはなりません。 29 悪に悪を返さないように気をつけなさい。すべての人の前で善を行うように心がけなさい。 30 できることなら、あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。 31 愛する者たち、自分で復讐してはなりません。神の怒りに任せなさい。聖書に「復讐は私のもの、私が報いる」と主は言われます。 32 むしろ、「あなたの敵が飢えているなら食べさせ、渇いているなら飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになる」と書いてあります。 33 悪に負けてはなりません。かえって善をもって悪に勝ちなさい。

ゆそや ちーやうの ーくよ あとや・ [26]あんちよ
するよ よりて かそも ことゆと あり。 [27]そん あ
とれー さけの ものん きりすとと きくる ものを
きりきやひと、あるひん つきくれくる ものゝ とゆう
ひとうち あー・あんちよん そる ゑすきりすとよ
きりすとよ ぞくーきび わふうそひの すあうーて やくそくよ よりぎ
くる あり。

さの 四 ちやう

これ これを いそん、よつぎ くる ものん あんさの あると なれとる ひとべの
うちん そるべくよ ことゑとや、[2]さく ちくの さくめくる ときん うーろくと
いくうらうの ーくよ あり。[3]めくの ことく ひとべの うちん この よの
せうげくよ そちべ くり。[4]されど とき すぐよ おくそ おきその ーくよ
をる ものを あり多ひ、これとよ やうーくる ことと えせーめん さめよ [5]おのれの
むすくを つうそーて そんる より むまれうを ものう おきその ーくよ ふくさーめり。
[6]まく かそん あんちとゲ ことゆと ある ゆゑよ おのれの むすくの みくをを

これとの ことろよ おくりて あそ ちくと よそや
そるべくよ あとや、むすくよ あり。[8]むくー あんちと かそを そとぜ
くる あり。[9]すぐよ むすくよ むすくる ものよ つうくて そるべ くりる。[10]されと いまん かそを そる、すゑそち
あすとうよ いくべ かそよ そとれー ゆの あるよ まく よとれ ゑりすとを
めくりて そとゆの ごとく これゲ そるべくとうよ いうとそや。[11]あん
ちとよ つくーそて ひ、つき、せう おふび とーをを まもる。[12]これ あんちとよ つゆて
あやふむ、おそとくん ひとゲ あんちとの さめよ そくとき あとん。
[13]きやうよりよ、ねゲそくん、あんちと ごとく なれ。そん、これ
あんちとの ごとくよ ありそれべ あり。あんちと ごとくよ おのそる これを
そくるひー こと あー。[14]これ さうよ まくるの よとくを ありて あんちとを
そのそひの おとられを のべ つくんー ことを あんちと ちる。[15]その とき あんちとよ いひー とくる
かそその つうひの ごとく あんちとよ いひー とくる あすきりすとの ごとくこひの よろこびん
さり。

これ あんちよの さめよ あうし今、ある べくん あんちよと おのれの りそ ゆきて
これよ あるくし ありよん。 16 ちうさよ これ あんちよと つけしよ よりて
これ あんちよの てきと あるちう。 17 ひの ひとひと あんちよと ねりしん あり、
されとよき ことの さめよ あよ今・ あんちよと ねりしん あとしめん
さうよ あんちよと そなれしめん ことを わりする あり。 18 よき ことの さめよ
ねりしん あるれよ よし・ さり これ あんちよと あり今、つねよ
しう あるれよ よし。
19 これ ことをよ、きりすとの ひくち あんちよの こころよ あるべん これ まる
あんちよの さめよ こと うねの あやそを うくる あり。 20 これ いま あんちよと
とをよ ありて これ こあを ひくん ことを わりす、そん これ あんちよと うくるひ
あれば あり。 21 あんちよと おきその あるよ そとんと わりする をのよ、あんちよん
おきてを きうさるう、これよ つけよ。 22 せのきやうよ いそく、あがらひよ ふる
りの むすこ あり、ひとりん ちやめ よりも ひとりん とゆうの そんな より むまれ
さりと。 23 ちやめ よりも ある をのん ふくるのよ ちくけくて むまれ、とゆうの
そんな よりも ある をのん やくそくよ よりて むまれくる あり。 24 これ ことんの

ことをもーて そんなとめん ふさうの けのやくよ あぞとんくとれさり。ひとりん
Simiam
えないさん よりいぐ〜 ことをを うてて これを ちやんべと あとしめる をの すな
Hagara Arabiano Simul resurrexit
そちて そがる あり。 25 この そがるい あよ
さきひよ あるる、いうんと あれば おるさきひい おのれの ことをよと とをよ
ちやんべ されば あり。 26 されと うんよ あるさきひい とゆうをして これ ひれ
Ut ut non vacuus: i.e. ut vanus subeteno maneo
とのの そし あり。 27 そん ひく ちうされさり、いそく、あんち そとまぎる ところの
Ut ut:
うき今めよ、よろこべ。あんち さんの くるーを せぎる をのよ、こあを あけて
よをこれ。いうんと あれば ひとりその をりと あうる そんなの
Inclamo
ことをよと よりも おわければ ありと。 28 さやうさのよ、ひれとん いさくの ごとく
やくそくの ことをよと あり。 29 さり むうしーの よりて むまれくる をの
みくまよ よりて むまれーを のを せりくるる ことく いまも まる ちうり。 30 されと
Sonuit: 21:15
せのきやうん あるよと いうろ。 ちやめと その むすこを おひ いさせ。 ちやめの
むすこん とゆうの をんなの むすこと とをよ よりぎと あるよ べうとやと いうり。
31 きやうよりよ、これよ よりてそれば ひれとん ちやめの ことをもとよ あとやと、とゆ
うの そんなの ことをもとよ あり。きりすと ひれとをときて とゆうの ゆのと あをり。

7, 8, Kristono warerani tamau tokorono jiyuuni ; 1, 2, 3, 4, 6, ii, korewo ciçûno owarini noseri

おしまひまで耐忍ぶ者は救はるべし。

㎝ 使徒行傳 第十四

1, 2, 3, 4, 6, ii, mittau ; 5, 7, 8, mittaun, kaiin

㎝ 使徒行傳 第十四

○おしまひまで耐忍ぶ者は救はるべし。

おとうさまの主をあて。[13]なお、おとうさまは、主イエスの父なる神のことです。

[12]わたしの言葉を聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠の命を得ており、裁かれることなく、死から命へと移っています。[11]はっきり言っておきます。死んだ者が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。聞いた者は生きます。

[10]父が死者を起こして命をお与えになるように、子も、与えたい者に命を与えます。[9]父はだれをも裁かず、裁きはすべて子に委ねておられます。[8]人の子であるわたしに裁く権能をお与えになりました。[7]このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者が皆、神の子の声を聞いて出て来る時が来ます。[6]善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁かれるために出て来ます。[5]父は、だれをも裁かず、裁きはすべて子に委ねておられます。[4]人の子であるわたしに裁く権能をお与えになりました。[3]このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者が皆、神の子の声を聞いて出て来る時が来ます。[2]善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁かれるために出て来ます。[1]

とけ あんぢよ められのそうけさせんとそ
おのて わこる ことを あさん さめ あり。
ゐすきりすとの ようとうの わうよ わこうに べき ところ あー。その とうとうよ
よりて よん これよ むろひて そりつけとれ、これに よよ むろひて そりつけとれ
さり。15それ ゐすきりすとよ おのてん められの あるも められの あきも えき
あー、さら あとこうよ むまる〜 こと のこ えき あり。16この のりよ わさくみて
あのむ すべての ものと かその いすふえるの こころよ おさやうと めぐこと あれよ。
17しまよ りの ちされる これを とらふそす あられ。その、ひげ みよ きこと ゐす
きりすとの わるーを おひされば あり。18きやうさのよ、ねケそこん、これとの
きこ ゐすきりすとの めぐこそ あんぢとの こまと とゆよ あとん ことを。あめん。

Kriskono ; 3, 5, 7, Yesuno
1, 3, 4, 5, 8, Yesu Kristoni otowra ; 2, ii, nosesu

そうろ えんぐをひとよ おくれる ふこ

さら 一 そやう

か

そのむねよ よりて ゐすきりすとの わーや こる たうろ ゐすきりす
とよ ある（5, 6, 7, 8, 9, 11, Ekesuno ; 1, 3, nosesu えんぐその）ちんよや ある かそと きこ ゐすきりすと よりあん
ぢよ めぐこと おさやう あとん ことを。
3これこをーて かこその きんよ あらを ゆりて きよく まく きず あらとーめん
こめよ あの そとめの さき よりきりすとよ おのて えとそこる ことよ ーこげひ
4きりすとよ よりて こころよ ぞく ける すべてのめぐこその てんよ あるものを ゆりて
これこを めぐこ こまくる かこ すあそち これとの きこ ゐすきりすとのちこん
わむべき める。5めれそのあの ある むすこと おのて これとよ さらけ さまふとこ
ろの めぐこその わされを あとそさんげ さめよ あさけ ある そこころよ ーこげひ、
6ゐすきりすとよ よりて これとを おのれの やうーと あさん ことを あとらとめ
さるめ さまんり。7そのめぐこその ゆるろ あるよ よりて これとよ めれよ よりその
ちを ゆりて あケきひ すあそち つこの ゆるーを うくる あり。8かこ すべての

ちゑと さときを ゆりて このめぐそを ひれふしよ あふれーめるり。9 のれん そらうよ あふうよめ くそさてくる めぐそを ひれふしよ そのそごころの おくぎ、
10 すゑもち すゑの ときよ あしそれんと する つとめの そろるよ いるりて てんよ ある ものと ちよ ある ものを ことごとく きりすとよ おりて ひとろよ きせーむる ことを ひれふしよ ちふーめ さまくり。11 まく さきよ きりすとよ のぞそるる ひれふしをーて かその わまれを あふそさーめみて そのごとく 12 あふうふめ ひれふしを そのことを おくゑひ さまふ ものー くそごそて さざめ きりすとよ おりて のとろを うけーめり。18 あんぢふの のれよ おりて まことの をーん すゑもち あんぢふの ふくのんを きーて これを ゑろ せーうん やくそろの きよるる みさまを ゆりて いんぎやうを おされるり。14 それん かその わまれを あふそす さめよ のひあげよれる たその あげゑひを うる まそ ひれふの のとろの ゑち さるる あり。

15 この ゆゑよ ひれゆ あんぢふげ きそ ゑすと ゑん ゑる ことー すべての きよるる
1, 2, 5, 9, ii, momoi nasu ; 5, 7, 8, 9, momowo aisuru
ものよ ゑす ことろを きそろれん 16 いのる とを おもひ いそー あんぢふの
6, 7, 9, manjirawo omoi
さめよ ゑやする ことを やめずーて、17 そのうえの ち~ すゑもち ひれふの きそ

ゑすきりすとの かそ ちゑと その ゑめーの たまを あんぢふよ さづけて のれを
そふーめ、18 のう あんぢふの ころろの めゑきよろうよ ありて そのめーを のうむる
ものー のぞそん あるう、19 まく そのつうりきの いきゑひの そろふくみて ひれふ
ところん あるう、19 まく そのつうりきの いきゑひの そろふくみて ひれふ
ゑん ゑる ものよ むうひて その ちろふの いろを ゑんぢふよ
ゑふーめ さまそん ことを ねがふ。20 かそん この ちろふを きりすとよ おこゑひ
のれを しより よそぐくふそて 21 すべての そのおよびと このよよ おける のそ あふーず、そふの
ところの ゑある ものー うんよ おのれの そぎよ てんの ゑある ものー うんよ おのれの そぎよ
ざさーめ、22 まく すべての ものを その あーの ーるよ ふくさを のれを あふゆる
ものー つうさふーて さやうさの のーふと さざめ さまんり。23 この さやう
くさの その のふぶ あり、すゑもち あふゆる ものを ゆりて あふゆる ものよ
そそーむる ものー そうる ところ あり。

さの 二 ちやう

ゑんぢふよ もと おのれの ゑやまちと つそのうえの ちよ ちーるる ものよーて この

よの さまよ ちさひ。[2]まこ くうちうよ ある けんを とるの つくり すまそち
ちんト ちさケそぎる ものゝ うちよ あや そことく ところの さまよ ちさケして
あゆそさり。[3]これよも そる めりて その ととよケと ともよ これよの まくさらの
よさくよ おりてあゆと、まくさらのとこころの わりする ことを あーて わうの ものゝ
ごとく むまれつきよ みのうりの ことゆよと ありき。[4]されど かそん あそれそよ とめる
ものの あれば これよを あの すると ところの おそひまる あらを もりて [5]これよ つその
うちよ ちーうる ものを きりすとゝ ともよ いうゝー さまよ。あんぢよの すくそれ
ーん めぐそよ よる あり。[6]おのれよ かそん おすきりすとよ よりて これよを あけ めの
あよぶ、これ わとる ものの あうよゝーめん さめ あり。[10]これよん かそのの さく あり、
すまそち これよゝそーて よきお とをひを あらーめんとて かそのの あようよめ そまん
さまくる おとをひの さめよ ちすきりすとよ、おりて つくよれくる ものの あり。

[11]この ゆまよ あんぢよん めりて てそ ものの ものよ めうれの あきよ ものと とまくよ
ときよ [12]あんぢよん きりすと あく、いすらえるの Israelumo すよえるの さそ より そまれ、やくそくの
ちうひよ あうろうる ことを あく、のぞそ あーよ よよ ありー ことを
おまくよ。[13]されど いまん ちすきりすとよ ともよ あれん あんぢよ さきよ とまざうりー
ものも きりすとの ちよ よりて ちうひく ことを えるり。[14]のれん これよの やも
ふぎうーて へさうる ところの まげきを こまーて ふるうの ものを ひとうと あー
[15]めう そのまくさうを ゆりて うよその おそる ところ すまそち れのーきよ つの
その いまーめの のりそ そのをり。[16]これ おのれよ おりて ふるうの ものを ひと
うの あさよーきよ ものと あーて これ ふくを さん、めう よよよう よりて うよそを
わろまー ふるうの ものを ひとうの めよ ものとよ これ ふくの おとう
あり。[17]めれ きさりて あんぢよ とまよ ふるうの ものと ひとうの さまよ おりて
れを のべさり。[18]めれよ よりて これよ ちさケ ちうひく ことを うる あり。[19]こ
まく やとれる ものよ あよぶ、きよきよ ものと とうくるーて わそのの いくの もの

あり、[20]のち　ちーやうちと　よけんーやうちの　とぞのの　うんよ　そてとる。[21]おすきりすとと　そらうとと　その　すその　おやのーと　あり、いんぢう　のれよ　おりて　よくくそあひ　や～　まーて　きそのの　きうき　そやとと　あるあり。[22]その　うちよ　あんぢとも　とものよ　そてとれ　みさまよ　よりて　かそのの　すこ　さまふ　ところと　あら　あり。

その三　ちやう

この　ゆあよ　[1]これ　をうろ　あんぢと　ことくひとの　さめよ　おすきりすとのの　めーう　とく　あれり。[2]あんぢとの　さめよ　これよ　さまそりさる　かそのの　めぐそを　ひろむる　つとめ。[3]すあそち　これ　まんよ　すこーく　ちるんそる　ことく　かそのの　ちめーを　ゆりて　おくぎを　これよ　ちとーめさる　ことを　あんぢと　それを　よむ　ときよ　きりすとのの　おくぎよ　つりて　これ　おくぎ　すあそち　いとんも　おすきりすとよ　ありふくのんよ　よりて　とものよ　ひとつの　のとさと　あぎと　あり、まく　これと　とものよ　やくそくよ　あらうる　ものと　ある　ことん。[4]いまみさまそりさる　よりて　そのの　きうき　ちーや　おとび　よけんーやうちよ　あとそさらく　ことく　さきの　おさのよ　おりて　まんけんの　ちそんよ　ーめさられぎりき。[7]これ　かそのの　さまふもの　すあそち　そのの　ちうとの　そさと

きよ　ちさくみて　これよ　さらけ　さまふ　ところの　めくそよ　よりて　そのの　ふくのんの　つうんひと～　あれり。[8]これん　すべその　ものの　あるよ　きりすとの　きうき　ゆの～　うちよ　あるいとちひさき　んの　うちよ　のべつくん、[9]まく　ぜんぶんを　つくりさる　かそよ　よ～　めくれさる　おくぎの　つとめん　いうある　ことの　ものよ　そとするの　めくそを　これよ　さらけ　さまふり。[10]これ、てんの　ものよ　これとの　ところよ　ある　つうさと　けんるを　ゆそる　くそさてよ　ちさくひ　[11]いまきやうくさの　ゆそうある　ちあを　おとせんげ　さめ　あり。[12]これと　そのの　きそを　ちんと　めれよ　よりて　さのさんある　ことを　え、まく　うさくそーて　かそよ　ちうくの　[13]ゆあよ　これ　あんぢとよ　さめよ　うさる　おやその　ことよ　つのてきを　おと今　あられ、これ　あんぢとよの　わまれ　あれば　あり。[14]これよ　よりて　これ　てんと　ちよ　ある　いのちの　けんそくちうの　あらけとれさる　ちうよ　ひぎを　めりめて　[15]その　さうその　ところ　みさまよ　より　ちうとを　ゆりて　あんぢとの　うちの　ひとを　つよく　そうさまそん　こと、[16]まく　きりすととーて

[1] Kono yu no yo kore wo uro anji to kotoku hito no sume yo sasu Kirisuto no mei-u wo
[2] Anji to no sume yo kore sa-mai-sa-ri-ru kami no megumi wo hiromuru
[3] Tsutome. Suasochi kore mankuyo su-ku-chi-ru-ru kotoku kami no chimei-wo yurushite
[4] Okugi wo kore to-mei-ru koto wo anji to sore wo
[5] Yomu toki yo Kirisuto no okugi yo tsuite kore ni
[7] Okugi to ari, maku kore to to mo yo yaku soku yo
[8] Aguru mono to aru koto ni. [9] Imamisa-ma-so-ri-sa-ru yorite sono kiyoki chi-ya oyobi
[10] Yokenin-ya-chi yo atosasaku koto saki no okotsu yo oyobi mankenin no
[11] Chison yo ~meraregiri. [12] Kore kami no sa-mai-su mono sono chito no sumi yo
[13] Yu no yo kore anji to no ware yo uku ru mi no sono
[14] Koto yo tsu no teki wo oto ima arare, kore anji to no wamare areba ari. [15] Kore yo
[16] Yorite kore teito chi yo aru inochi no kenzoku chu no agekoto reru chi to yo
Ni. 9. wasuru Kimi Yesuno Kristono Tsitei
hizo wo meguimete sono sa-mai-su to to yori chito wo
yurite anji to no uchi no hito wo tsuyoku so-su-ma-so-n koto, [16] maku kirisuto to-te

ちがい，。ちがい　ちがい，ちがい　ちがい，。ちがい　ちがい，ちがい　ちがい，。ちがい　ちがい，ちがい　

ものして まことを おこなひ、そさちて すべての
あくそんけ さめあり。16 われを ゆとろー せをんー
1:2,5,6,9, hotoke
んー すべての ふーぶーの さすけよ
よりて くさあひ まく つまくれて その ぶじん おの物の〜 そうりよ ちくらして
そうとうくよ より めとふ そさちて そぐうとう あり
17 ゆあよ これ さそうよ より あんちよを いさめて これを いそん、
5, 7, 9, hokano kotokumibitomi
その こころの まとひよ まうんで あゆむ ごとく あんちよ これよ あゆむ
あうれ。18 われとん さとりよ くとくーて こうろ まふく まく われとう ちあ さぐ
ゆあよ かそ よりの いのちよ とわざうれり。19 まく くゆる こころ あり ものをーて
わりする まくよ ゆろゆろの けがれを おこなう そんよ おのれを わうくうよ
ごとく きりすとと まあんべるよ あとや。
20 されど あんちよん めくの ごとく きりすとと まあんべるよ あとや。
21 あんちよ われを さ〜 めつ ある まことよ ちくうんで その をーくを
うけー あとん 22 あんちよの まあふ ところん ゆとの おこなひよ つりその ふるあ
ひと すあもち まとひの よくよ ちくがみて くさうれくる ものを ぬき すて、23 めつ
かそよ めくとり まことの さとーさと さよきうそ
きて 24 こころの さーうを あとくよ せくる べき ことあり。

25 この ゆあよ あんちよ りうもりを すて〜 おの物の とありひとよ まことを いふ
べー、これよん さがひよ りのさの うちの ぶどん あれば あり。26 あんちよ
いうりて つくを おうや あうれ。ひの いるあ まそ いきとありを さあう べうよや、
27 まく さんきよ すきまを ゆるや あうれ。28 ぬや ぬや ものよ ものと うるや うよ てべうよや、
むーろ わねをりて まうーあ ものよ うるや うよ てべうよや、よあ
ひさを あや べー。29 けがれる ことを あうんちよの くち より いさや べうよや、
さくさく ものー とくを さうる さあよ よあ ことを いひて これよ りぐそを うけ
ーむ べー。30 まく あがあひの ひの さあよ あんちよや いんを おさんれくる かそのの
きくあ みさまを うれくー むる ことあうれ。31 ゆろゆろの まがあ こと、いきとあり、
いうり、さとぎ、そーり おふび すべての うちより すう
べー。32 めつ さがひよ さんせうるーて あそ あれ、まく かそのの きり
すとよ おりて あんちよを ゆるせー ごとく あんちよや さがひよ ゆるや べー。

さの 五 ちやう

ゆあよ あんちよ あのせよる〜 ことあの ごとく かそよ あじふ べー、2 まく きり
すとと されとの さあよ おのれを さうけて めうをーあ ひ あるや かそのの そあく

ものの いけるんと あーて あんぢよ(1,2,5,6 manitawo; 6, 7, 8, 9, wanawo)をの あらのぜー ごとき あらよ おらて あゆむ べー。
[3]そりうう まる すべての けがれ、むさぼりの ことよ あんぢよの うちよ めでる ことをも する あられ、めーる ことん きる(1,2,5,6 mani)ものの〜 いふ まよる こと あり。[4]まて そら べきの こと、ぜろとーる(1,2,5,6, hikarino; 7, Mitamano) そ多ー、そそのかし よろこびも むれごとを いふ あられ、これ よろこび よりて ちうとげそぎる ものよ あられ。[5]そん、すべて そりうう する ものの、けがれる ものの、うそぐそを おげむ ところの とんとく ある ひとん きりすとの みくに すべての ところを えぜる ことを あんぢよ ありさとれば あり。[6]あんぢよ これる ものを むさぼり ことを ものて あぜむ ことよ よりて ちうとげそぎる ものよ のぞむ あり。[7]この ゆあよ めれとよ くそそする あられ。[8]あんぢよん ものと くとーりー、されど いまん さそそよ おりて ひとりの ことものの ごととくよ あゆめ。[9]そん、ひとりの むすぶ ところの そんものろの よる ことく ちうとびうまふ ものを ひきまんて これを まことの うちよ あれば あり。[10]さその よろこびうる おこなひよ めでりあふ あられ、ものへりて これを とげむ べー。[12]めれとげ ひそうよ おこなふ ところの ことん

これを めうるも そら べき ことん あり。[13]すべて とげめとる〜 ことん ひとりよりて あとそる、そん すべてを あとそる ものん ひとり あれば あり。[14]めく いんる ことん あり、ねむれる ものよ、めを さまーて しより いきげんれ、きりすと あんぢを てとうさんと。(Ver. 28 : 19)

[15]ゆあよ あんぢとよ おろうある ものの〜 ごととく きそ つけて あゆむ ところを つくーと、[16]まる とき あーる ゆあよ おりを めひもとめよ。[17]これよ よりて おろうと あるうろ これを さとる べー。[18]おうとうを あられ、そら みさまよ そそうられて [19]そと めうり、まる ところよ ぎんとよ ふーを あそんびせよ。[20]すべての ことよ つのて つねよ とれとの きそ おすきりすとの あよ よりてち〜 ある かえを そやす べー。

[21]あんぢとよ きりすとと おそるるを ゆりて あひさげひよ ふくせよ。[22]つまん きそよ おけるげ ごとく をりとよ ふくす ものとの ものーとを すくひゆーるーて きやうくさの ものーとよ あるげ ごととく をりとん つまの ものーと

あれに あり。[24]きやうくさの きりすとよ ふくするごとく つまん すべての ことよおのて そりとよ ふくす べき あり。[25]そりとごくあらんせー ごとく あんちよも つまを あらせよ。[26]きりすとい きやうくさのを いさぎよく せんとて そらの あとひを もりて ことぞよ よりて これを きくめ、[27]めつそこ あく あそ あく あとひよ その ごとく きず あき そりとき きやうくさのとーて これを おのれの まんよ そてん ことを わりーて これをそめよ おのれの めとよの ごとくよ つまをあらす べき あり。つまを あらする ものん おのれを あらする あり。[29]いまぶおのれの そをさくむ ものの あとぶ、さぢ これをやーきやうくさのよ おける めくの ごとー。[30]そん、これぢん その めとよの ふとんあり、〔[その まこと わねよ ぞくする ものの あり〕。[31]この ゆあよ ひとん ちー そこをもあれ その つまよ そめて ふさりん いりさらよ あるべーと あり。[32]これ おそひあるる おくぎ あり、されど これん きりすとー きやうくさのとを さーて いんくるあり。[33]さり あんちよ おの あの おのれの つまを あらせよ。

つまも その をりとを うやまふべー。

1, 3, 6, 7, 9, 11, Kimini kanaute ; 2, 5, 8, nosesu
こともよ、あんちよ さそこよ めあふて ふさあやよ そふ
あり。[2]あんち ちー そこを うやまん、さぢ あんちの
いのち うくよ あがらふん、[3]これ やくそくする ことあられ、さぢ きそのをーへと
[4]ちーとよ、あんちよの ことをうけ そふべー。
いまーめを もりて これを そふべー。

[5]そもべども、あんちよ きりすとよ そふげふ ごとく おそれ おのこぎ、まこ
との こころを もりて まこころの そゆとんよ そ
ものー ごとく めの まんの つとめを もりて つふ かその
むねを おこあふて きりすとの そもべの ごとくう
ところの よき ことよ つふて そもべ あるも きそ より
むふのを うけん ことを あんちよ そるよ よりて [8]ひとよ つふふるが ごとく
あとぶ、きそよ おけるが ごとく こころまく つふふ
ちよも めくの ごとく そもべよ おこあふべー。[9]そゆとんとよ、あん
[9, 10, manifiesto]
そん めれよと あんちよとの そゆとん てんよ あり、めれん めさる ところ あーと

あんぢよ をれが あり。
10 そそりよ ゆそん、あんぢよ きそと そのいき
1, 2, 5, ii, owarini ; 3, 6, 7, 9, kyoudaiyo, owarini
うれ。11 まく あんぢよ ざみきの てさそよ ひ
まりくるま ぶぐを よろこべー。12 それ、これよ
1, 2, 3, 5, 9, ii, kurakino ; 6, 7, 8, 9, yono kurakino
ちはい まく けんる、この くしきの つろぶ おより
そそろふ あり。13 この ゆあよ あんぢよ あーまう やうよ かそのの まりさま ぶぐを
まく これを ことごとく とけて のち さち うら
とる べー。14 これよ よりて あんぢよ まことを おびと あーて こーよ むすび
そそーきを むあめそと あーて むねよ あて、15 めの おぢやうの ふくりんの そあ
くを あーよ そきて そう べー。16 まく これよ くそふるよ あーま ものく すべその
ひやを けー うべま ちふうの さそを とれ。17 まく すくひの めぶと おより
みさまの つるぎ をあそち かそのの ことをを とり、18 ゆろものの いのりと ねげひを
ゆりて つねよ みさまよ よりて いのり、まく めを さまーて ゆろものの ちん ぶうと
ねげひを ゆりて すべての きこま ゆめく さめよ いのる べー。19 まく ひげ さめ
ゆも いのりて これ そをうる ことを あく くちを ひらきて ふくりん すあそち これ

これげ さめよ くさりよ つあげれて つうひとと ありさる そのの ふくりんの おくぎを
ひとよ ちよを、20 ひげ そあす べま でとく そそーて そあー うる やうよ
ことをを ひれよ さまそよん ことを ねげん。
21 あんぢよ ひげ ありさま ひげ あす ところの
そのの きそよ ちうぎ ある ちゆん てきこ すべくその ことを あんぢよ つぐ べー。
Tikiko
22 これ ゆれを つうとす いい あんぢよそーて これ
よの こころを あぐさめーめん さめ あり。23 ねげそくん、きやうふのとも ちく
ある かそと きこ おす きりすとより おさやう おふび ちんうと とあるる あのを
ええん ことを。24 めそよぐる あのを ゆりて これよの きを おすきりすとと あの
5, 6, 7, Amen ; 1, 2, 3, 5, nosen
すべその ゆのよ めぐこ あよん。

せよ、まも あるも まこと あるも そのの のぶる ところへ きりすと あれば これを よろこぶ、のちも よろこをん。[19]そん、これ このことに あんぢよの いのりと ゐすきりすとの みさまを さらけよりて すくひの さめよ あらん ことを もれん あり。[20]これ これが あるごとよ おのても そづる ことも あく、さと つねの ごとく いまも さのさんもーて、いきるとも ーするとも きりすとと ーして これが そよ よりて あまれを うけーめんと これが ひさすよ ねがふ ところの のぞむ ところよ のあんる あり。

[21]これ いけるん きりすとの さめ あり、ーするん これが えう あり。[22]これ もー まくさらの よ おのて いきあん これの その さめ あり、いづれを えよぞんや これを もよ ぞ。[23]これん この あさらの あひさよ はさまれさり。これが あり する ところへ そさろうよ まさられること すあもち よを きりて きりすとと ともよ あとん ことの あり。[24]されど まくさらの よ おのて あげよの ゆるん あんぢよの さあよ ありとも のんの えう あり。[25]これ あらく これを もん ぞる ゆあよ これん あげよくて あんぢよの もんうの すさそと よろこびとを まさん さめよ あんぢよ すべての ものと ともよ とよまよん ことを もる。[26]まく これ ふさ

よりて あんぢよの よろこぶ ところ ゐすきりすとよ おのて おあひよ まさん。[27]これ さく あんぢよが これいさりて あんぢよの ことを すさむ。もうよく さまも あるひと あさん あんぢよの ことよ すあもち あんぢよが ひとつの さめよ ぐさうの さめよ ところを おあよー ちよよを おのても てきとも おひやうされぎる ことを きくーうべー、てきよ おひやうされぎるん のれよるん かを よりの すくひの もるー あり。[29]そん、きりすとと あん ぞる のを あよぞ のれの さめよ くるーさそ うくるも これ あんぢよよ さあもりくる めぐさを おのて きくーところの ことも あやを あんぢよよ つのて あるよ あり。

ちやう

ゆあよ ゆー きりすとよ おのて すさめる ことと あり、ゆー よりて あさんを あり、ゆー みさまよ あらうる ことと あり、ゆー あさけと あそれを あよび、[2]あんぢよ おもひを ひとつよー、あのを ひとーさ ーー、ところを あとを、おもふ ことを

おきよくして ヨケ よろこびを まりさふ せよ。 3 あとそひ あるひん こうまんを
ゆりて あることそも あす あうれ、さら おのの へりくさる こころを ゆりて
ひとを おのれ より まさられる ものと せよ。 4 まんぢト おのれの ことの のそを ゆく
りそや、ひとの ことそも ゆくりそよ。 5 あすき きりすとよ ありー ところの こころを
まんぢトるも あとーめよ。 6 ゆれハ かそのの ゆくさちて をりーとも かそと ひとー
うとん ことを むさぶり ものと せや、 7 さら おのれを むまーふー ひとの さまと
ありて そものの ゆくさちを とれり。 8 ゆくまんけんの さまよ おりて あとそれまる
そぐうト つりくよりてーよ いさるまそ すきものちとようのーを うくるまよ いさる
まそも おのれを まうせり。 9 この ゆきよ かさを ゆれを ゆりとも さうきよ あけて
すべての まよ まさる ところの まを さまんくり。 10 これ、てんよ ある もの、ちよ
ある ものの およびちの さくさよ ある もの〜 すべての ひざをーて あすの まよ おりて
ゆくまーめ、 11 ゆつ すべての さくさをーてちく ある かその わまれを まさんとて
あすきりすとと きそ ありと いひ あとそさーめん さめ あり。
12 されハ ヨケ あの する ものよ、まんぢト つねよ ちくケひー ごとく、ヨケ そる
とき のそ あとや、いま まーて ヨケ そとぐる ゆりて

まんぢトの すくひを まりさふ せよ。 13 そいハ、かを そぐうト おのれの まさけよ
りて まんぢトの わりする ことーまふ ことそを まんぢトの うちよ おとる ひと
さまんくや あり。
14 まんぢト すべての ことを おくまく ゆうろん する
こと まうれ。 15 これ まんぢト ひくさる よとーま ある トさのの うちよ おりて
とり多く おとまーまーて かその きみ多き ことも トとん さめ あり。 まんぢ
トハ いのちの ことを あとそーて せうりの よ
うちよ てる あり。 16 ゆく ヨれをーて ヨケ
ことの むえきと まとぐるを きりすとの ひよ おりて よろこをーめよ。 17 されど
さとひ まんぢトの ちんりうの そまくものと まうりとの うんよ ヨケ ちを まケさ
るうとも ヨれハ これを よろこひ、まんぢトよ すべての ものと ともよ よろこをん、
18 まんぢトも これを よろこひ ヨれと ともよ
19 これ ちうき うちよ てもて Timoteo と まんぢトよ つうそさん ことを きそ まさよ
よりて のぞむ。これ ヨれる まんぢトの ことを きーて こころを あぐさめん さめ
あり。 20 ゆれを つうそさん ゆれの やうよ ヨれと おまト こころを ゆりて まん

トつよ あんぢとの ことを おもんぢらる ものの あければ あり。 21 ひとびとい そを
えすきりすとの ことを もとめ ゆとむ。 22 されど てもての Timoteno
こころそとれー こと すべもち こともの ちーよ おけるが ごとく されと ともよ
あくのんよ つうへー ことい あんぢとの これを もれり。 23 ゆえよ これ おのれの
ことの いうとを そるや いまや ちさい あく おれを つうそさん ことを のぞむ。
24 めら これも そらりと ちりき うちよ あんぢとよ いさとん ことを きそよ よりて
ちんや。 25 おうれども あんぢとの つうひーて ひが とおーきを おぎまふ もの
すべもち ひが どうやく どうと ある きやうさい えたふろでと Epafroditoro あんぢとよ
つうそさねば あとゆと おもへり。 26 おれい ふうく あんぢとー すべての ものを
ちさひ、めら あんぢとが そのやめる ことを きとー ゆえよ もまそさ うれひ
をる。 27 おれい おうよ やまひよ めうりて ーする なうり ありき、されど かそ
これを あそれを さまへり。その あそれそい さら おれよ おける のそ あとず、
まう これよ おふぶ。こい これそして うれひの うへよ うれひを ものさねざとーめん
さめ あり。 28 この ゆえよ あんぢとが まう おれを そそ よろこび めら ひが うれひも
うすく あとん さめよ これ いそぎて おれを つうそり。 29 これよ よりて あんぢとが

きそよ より よろこひて おれを むうへよ、めら めうの ごときの ひとを うやまへ。
30 そい、おれい あんぢとが ひが よ つうふ べき その のけを おぎなそん さめよ
Ep. ii, Kimino; 2, 7, 9, Kistono
きその ことを つとめて ーする なうりよ おのれの いのちを あやうふせり。

さい 三 そやう

きやうさのよ、これ そうりよ いそん、あんぢとが きそよ よりて よろこべ。これ
おあト ことを あんぢとよ のき おくるい これよ ひらとそーき ことを あー、あんぢ
トの さめよ あんせん あり。 2 あんぢとが いぬを つうへーめ、あーきを おこあふ
ものを つうへーめ、まうの めうを おこるふ Phil. i, 1, 4, Kamino Kitamani yotte!
みさまよ よりて つとめを あー、えすきりすとよ おりて ありる ところの まことの
めうれのの ものの あり、まうさのを さの むの ものよ あとや。 4 なうりと いへとも
これい まうさのよ さのむ ことを うる あり。されども ーまうさのよ さの むの ところ
ありと おもそれ これい さらよ さの むの ところ あり。 5 これい（ぶるびと Hebrubito
へぶるびと まーて いすらえるの すち、すべんやみの Benyamino ぞく よりも ひまれて
やうろめよ めうれのを うけーものの あり。 6 おきそよ よりて いんぐ せりさいびと、
ねのーんよ よれば きやうさのを せむる もの、おきその さとーきよ よれば とが

ゑき ゆの あり。 7 されど ひれ さきよ ひケ きそと ありー ところの ことん いは きりすとの さめよ そん ありと おゆんり。 8 これ のそ あよや、ひケ きそ あすきりすとと ちるの さりとき ことの さめよ すべての ゆもの そん ありと おゆふ。 9 ひれ のれの さめよ すべての ゆの〜 そんを うけて これを くや とせり。こん、ひれきりすとと そん さめ、まく おきてよ よれうきりすとと ちん やるの ちんうう よ ゆとひきて かそ より さまそる さとーきを ゆてきりすとの うちよ あとそれ をとん さめ、 10 のうの れと そのちうとを ありそのーの さまよ ちさケんてのれの くるーそよ あらうり 11 とるるのくるも しより よさケんる ことを えんケ さめ ありの。 12 ひれん すべよ わりやる ところを えさりとも いくやよ あとや、さら あすきりすとの ひれよ むくひを えさやとて ひれを とどんくる そのむくひを とどんくん ことを わりーて これを おひ ゆとおる あや、すゑそちうーろの ゆもを のうえさりと せや、さと このひとうの ことを あすきりすとよ よりて りさやーて まんの ゆもよ むりひて することを、 14 かその あすきりすとよ よりて さうんる てん よりの めーの わうひを のぞそ めあてよ むうふそ もーる あり。

15 この ゆあよ ひれとの うちの まりさき ゆのん そる のくの ごとき おゆひを いさく べー。 あんちとよ ゆー あよごとよ、これを あんちとよ ちめー さまそん。 16 されど ひれ おのそん おゆとよ そちを あゆむ べー。

5, 7, 9, omuji norini ciaguute : 1, 2, 3, 11 nosesu

17 きやうさのよ、あんちとよ とゆとゆよ ひれとの てあんと ある ひれとよ ちさケんてあゆむ ゆもの そとき おゆひを ちもーん おゆくの あゆむ ゆのよ つのて あんちとよ ありて あケーて あんちとよ めくる、 18 そん ひれ よの をそりん わろひ あり、そのむそん おのれの そちを わされ とーまくよの ことよ のそ こころを とうむ。 20 されど ひれとの ぞく今る くるん てんよ あり、そこ より ひれとよ すくひ的ーすゑそちきを あすきりすとの きさるを のぞむ、 21 のれい そんぶろを おのれよ ふくさを うる ところの ちうとよ よりて ひれとの いやーゆ のとさを めんて そのさを のととーむ べー。

さの 四 ちやう

これよ よりて、ひケ あの今る ところを さふ ところの きやうさの、ひケ よろこび、

ヨケ ゆんぬり さる あらする ものよ、あんぢよ きそよ ゆそくさろ べー。 2ヨれ えとでやよ すうめ ゆう すんとけよ (Furutsukeni) すうむ、きそよ おのて こころを おきよふ せよ。 3まさ ヨケ まことの どうやさよ、ヨれ あんぢよも ねげふ、これと ともよ ふくらんの つとめと そさときさる その をん多さちを さすけよ。 ゆれよん くを めんと おふび (Klemen'o) いのちの ふそよ あを さるさんぢよ わろの ヨケ どうやさともと ともよ そさとけり。

4あんぢよ つねよ きそよ おのて よろこぶ べー。 5あんぢよの ゆんきんぶりき ことを すべての ひとよ ちよしめよ。きそい ちうきよ あり。 6あんぢよ あうごとをも おもひ ヨれよ おのて あんぢよの ゆとねる ところい いのりと ねげひと ゆんーやとを ゆりて さとりを こゆる ところの かさ よりの かさよ つぐ べー。 7されば すべての さんぢよ おさやう おすきりすとよ よりて あんぢよ ふそよ ゆんきんぶりき ことを すべての ひとよ ちよしめよ。きそい ちうきよ あり。 8きやうさのよ、これ をさりよ いさそん、すべて まこと ある こと、まべて さふとむ べき こと、すべて いさぎよき こと、すべて あの すべき こと、すべて よき きさん ある ことと、まさ いう多る ところもても いう多る わされるても あとば あんぢよ これよの ことを おもへ。 9ゆら あんぢよ ヨケ ヨれよ おのて まるひー ところ、うけー ところ、そー ところの ことを そさ これを おさるん・さとば おさやりを さまふの かさ あんぢよと ともよん。 10あんぢよケ ヨれを ゆへりそるの ころを ヨれ きそよ おのて おゆひよ よろこべり。 11ヨれ ゆとより ヨれを ゆへりそぎる よ あとや、されど おり あとぎりー ありこれを いふよ あとや・ヨれい いう多る これを されりと する ことの いうらを そる、まさ ゆさうも まる ひされば あり。 12ヨれ いやーきよ をうしーて そる ことの いうらを そる。いう多る さまよ そるも、あきあるひい う糸、ゆさう あるひい と糸ーきよ をる ことい ヨれを そる これを をーへとれさり。 13ヨれい ヨれを つふくする ところの ものよ よりて すべての ことを あーうる あり。 14やりれとも あんぢよ ヨケ ゆやさの ときよ ヨれよ さすけを おさへーい よる ことあり。 15びりぴ (Filipino) のひとびとよ、ヨケ そとめ ふくらんを つさんて (Make tonisuro) せけとよやと さる とる あんぢよの わうさいも いられの きやうさを いも とりやりを あーて ヨれと まとそとぎりー ことを あんぢよも ゆれり。 16あんぢよ ヨケ

1, 2, 3, 5, 11, Mononi; 6, 7, 8, 9, Kristoni

Tesalonikensi てさろよけよ そろときうそも これの とゆーき
さすけそ おくれり。17これ おくり ものを ゆ
えきと あるる その ゆさら あとん ことを ゆとひ
ものの そのそりて あまり あり。これ えを ふろで Epafroditto と より あんぢとの おくりさる
めうをーき まわひ すあもち かそのの よろこび とこころの うく べきの そあん ものを
うけされば ゆさうよ されり。19それ わが かみ
ケひ おすきりすとよ よりて すべて あんぢとの とがーき ところを おぎあひ
さまそん。20そのうへ よ〜 そんさの これとの ちく ある かそよ きする あり。
あめん。

21あんぢと おすきりすとの すべその きよめ
これと ともよ ある きやうさのとも あんぢとよ よろーく ゆう
きこよる ものの あ〜さけそかいさる Kaisarruno の けんぞくの ものの あんぢとよ よろーく ゆう
23ねがそくん、きそ おすきりすとの めぐそ あんぢとの
24, Amenwo nosseri ことそ。あめん。

Filippi さの 四 ちやう 五

もうろ ころさのひとよ おくれる ふそ

さの 一 ちやう

このひねよ よりて おすきりすとの ちーや さうろ Paulo おより きやう
さのてもて ころさい Kolossini よ あるき
きやうさのとも よそを おくる。2ねがそくん、
おすきりすと より あんぢとよ めぐそと おさやう あとん ことを。
3これと あんぢとケ おすきりすとと ちんを きよめ ものよ
あーさる いのくーその ことを きこされば 4あんぢとの さあよ てんよ さそくと
われさる もの。5すあもち あんぢとケ めりて あ
きくーところの のぞその ことよ つき これとの きを おすきりすとの ちく ある
かそよ ちやーて つねよ あんぢとの さめよ いの
おふびー ととく あんぢとよ おふびて あんぢとケ これを きく めりて まことよ
かそのの めぐそを ちり! これ これよりの あの する どそやくす あもち あんぢとの うちよも そを むすびて いやち
ちうぎの ちもん さる えぱふら Epafra より あんぢとの さめよ きりすとの
ものを ちり。8めれ

まく あんぢとげ さまよ めんとて あらを いさく ことを とれとよ つゆさり。
9 この ゆあよ とれとも これを きさー ひより あんぢとの さめよ いのる ことを
やめ申ーて あんぢとげ すべその ちあと さまの さとりよ おりて まりさく その
そこころを ーり、10 めら あんぢとの あゆむ とところへ きその さのーそよ のあひ、
すべその よさ ことよ おりて そを むき び、かそを ちる こと ま申あ申 ふらく、
11 まく よろこびを ゆりて すべその めんちんと あさんげ さめよ
その さうえの いきあひよ より まりさ ちうとを ゆりて めるふ せとれん ことを
ねげふ。12 とれとよ まく とれとよそーて ひうりよ をる きさる ものと とゆよ めとくを
うけーゆる さめよ とれとよを さうとうよ あーさる ちくよ ちやす。13 めれん とれ
とよ くとよきの けんの そく より すくひ いさーて その あらする むきこの まつりご
とよ うつをり。14 とれとよ Igiris selçuni, "sono tdwo moite" wo kuwayeri その むすことよ よりて あげ多ひ すあそち つその ゆるーを
えさり。15 めれん そる べうとぎる かその めるさ ちうとを ゆりて さきよ
むまれさる うひど あり。16 いうんと あれば なんあうん めれよ よりて つくとれ
さり、てんよ ある もの、ちよ ある もの、そのゆる もの、そんぎる もの、くとる
あるひん まつりごと、ちはの あるひん けん そる めれよ よりて めれの さめよ

つくとれさる あり。17 めれん そんあうん よりて さきよ あり、そんあうん めれよ
よりで さう。18 めれん めどその めーと すあそち きやうくそのの めーと あり。
めれん もと あり、まく あとゆる ことの そとめと あとん さめよ しより むまれ
さる うひごと あれり。19 かそん すべその ゆさうを めれよ とくまとーゆる ことく
20 その とうとうの ちを ゆりて やそとぎを あーー めれよ よりて すべその ゆの
すあそち ちよ ある もの、てんよ ある ものをーて おのれと とおく さすを ことを
よーと ちくまんり。
21 あんぢとん もと あーさ ことを おこあうさ とわざけとれ、めら こころよ
おりて てさ ありーうとる 22 いまん めれ その まくさの ーを ゆりて あんぢとよ
とおうさを さんさり。23 そん あんぢと もー そんあうさ とわざけとれ、めら
まく めくさーて あんぢとげ さくー ところ めの あまげ ちくの なんそんよ いの
らくんとれる ところの あくのんの のをと より うつとすんん あんぢとをーて
いうさきよく さすあく とげあーよ その まんよ さくーめん さめあり。これ たうろい
その あくのんの さめよ ちゆべと あれり。
21 これ いま あんぢとの さめよ くるーさを うとうを よろこびて きりすとの

めとぶ よ ゐそちきやうくさいの さめよ きりすとの のそーさる くるーそを ひケ
そよ おのて そさす あり。 [25]これ きやうくさいの ちゆべと ありーい あんちよの
さめよ かその これよ さきそりさる ところの つとめよ ありて [26]かその ことば
すゐとちよ〜 そんすの めくれて いまよ おとそられさる
おくぎを つさくんケ さめ あり。 [27]かそい ことくうひとの うちよ ある この おく
ぎの さりえの とき すゐそち あんちよ をる きりすとの あさふる さろえの
のそそい いり ゐる もの あるりと その きよる ゆのとゆよ ちよんん ことを ありり
もり。 [28]これよ きりすとと おとそーて すべての ひとを めれよ おのて まりさく
さろそんケ さめよ すべその ひとを いさめ まさ ちあと つくーて すべての ひとを
をーゆ。 [29]これ めれの さめよ そさよき めりら ちりよを ゆりて ひケ うちよ そさよく
ところの その そさよきよ よりて そけむ あり。

さる 二 ちやう

Laodikiani

これ あんちよと よとできやよ そる もの まさ すべて ひケ まくさの めあを
そぎる もの〜 さめよ これよ いり ゐる あやを おるりと あんちよケ ちよん ことを
わりす。 [2]こい、その ところ あさめよ おのて ひすひりき めり

めりよ ゆさの ち あよ ゆさりよ とそて ちー〜 あらかその おくぎ すゐそちきりすとの
おくぎを まりさく おる ことを えんケ さ
さめ あり。 [3]ちあと ちーきの さくそくん
[4]これ これを りくん されも いぎあー ことを
そを ゆりて あんちよとを なとそさられる こと
そ ゐれ そると いんとも さまよ おのて あんちよとと ゆよ そりて あんちよの よゆん
よふと きりすとと ちんうする のさ ことよろこそよろこひそる。 [5]これん まくさの よ おのて
あんちよと ちあ ゑすきりすとと うけされば [7]あんちよケ そーんよれー
でとく めれよ おのて ねを ふりくされ あんうう おのて めさふ
せられ めら いよの よ めんーや する ことを あーて めれよ おさケひ あゆむ べー。
[8]きりすとよ そさケそ やーて ひとの いひりくん まさ よの せうケくよ おさケひ
りケくと むるーき まよの ゆりて あんちよを うをひ とる ゆの よ うをそれぎる
やう あんちよ つ〜ーめよ。 [9]そい かその まりさる せらーう さりの めりちを
ゆりて きりすとよ やとれば あり。 [10]あんちよら すべての をはりと けんの めーと
ある その きそよ まりさふ せ〜る。 [11]あんちよ まる めれよ よりて めりれの
せとれさり、その めりれの てを ゆりて おとそふうん あとや、さら まくの

1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, nikuno karadawo ; 7, 9, nikuno tsumi aru karadawo

1, 2, 3, 5, miçi ; 4, 6, 7, misarici

6, 7, nanjirano

1, 4, 5, 6, 8, nanjirano

ちよ ぞくする ものとの ぶとん すきもち そりうう、けげれ、よくとよう、あーる
このと おおび うそげそを おげむ ところの とんふくを わろがせよ。 ○かそのよ きさる。 7 あんちとも めうて
いうりん これげ さめよ あんト おさげそぎる ゆのよ きさる。 7 tamoni kiiaru
その うちよ をりー とき これよ おゆめり。 8 されと いまん いりさの すきそち
いうり、いきとあり、うとき、まる くち より いりる そーりと けげす ことをを
すてよ。 ○まる おひさげひよ いうそりを うて あられ。そん、あんちとん すぐよ
あうき ひとー その ひぎとを すてー 10 おさとー ひと すきそち これを つくり
さまひー ゆのー めうちよ おさとーく せとれさる ゆの よりて あうとーく せとれさる
ひとを きされば あり。 11 これよ おのそん きりさやひと ゆぶやひと、めうれの
あるゆの めつれい あき ゆの、あうひい えひす すくてやの ひと、あるひい ちゆん
トゆうの ゆのー へさて あー、さぶ きりすとい すぐその ゆの あり まる すぐその
ゆのー うちよ あり。

13 この ゆあよ あんぢとい かそよ えとをれて きよう まる あのせとさー ゆの
あれば おそれを あらき こと、あんせら、へりくる こころ、まうを、さんーのひを
きゆのとーて きよ。 13 されろ ゆー うりさふ べきる ことを あとん さげひよ ちのひて

1, 4, 6, 7, 9, Kristono ; 2, 3, 5, 8, Kimino
トゆうよ ゆるせ。きりすとの あんぢとを トゆうよ ゆるせー ごとく あんぢとも
めくあすべー。 14 このすべてのことの あうよ まりあのこころをつうさとトーめよ。あんぢとの
15 きりすとの おさやうをーて あんぢとの こころを ゆうよ すまぜよ。 16 きりすとの
いりさうよ めされーん その さめ あり。まる おんをを めんや べー。 16 きりすとの
ことをを ゆうよ あんぢとの うちよ すまぜよ。 あとー うくと せいうを きんト
すべての ちゆを ゆりて さげひよ をーん、いさめ まる おんめさそよ ありて こう
ろよ かそを さんびぜよ。 17 あるふそも あんぢとも あすきんぢとの
あや ところの ことに ことごとく きそ おすきんぢとの
1, 2, 3, 4, Toitoi nara Kamini
めれよ よりて ちー あるかそよ ちやぜよ。

18 つまとゆよ、あんぢと そりとよ ちさけん、これ きそのひねよ めあんくる ことを
あり。 19 をりとらゆよ、あんぢと つまを あのぜよ、これをきびーく あーしふ ことを
あられ。 20 ことゆよ、あんぢと すべての ことよ おのて あさあやよ ちさけん、これ
きそのひねよ よろこぢるー ことを あり。 21 ちうとよ、あんぢとよ ことゆをを ちとよ
あられ、おそとうん めれよ きを おとさん。 22 ちゆべとゆよ、あんぢとよ すべての
ことよ おのて あんぢとの まさうの ちゆとんよ ちさけん、ひとを よろこをや

㉔ 彼はこの様な命令を受けたので、内の奥の牢に入れ、足かせを
はめておいた。㉕ 夜半頃、パウロとシラスは祈りながら神を讃美
する歌をうたっていた。他の囚人たちはそれを聞いていた。㉖ 突
然大地震が起って、牢の土台が揺れ動いた。すると直ぐ全ての戸
が開き、皆の者の鎖が解けてしまった。㉗ 看守は目を覚まして牢
の戸が開いているのを見ると、囚人が逃げたのだと思って剣を抜
いて自殺しようとした。㉘ しかしパウロは大声で叫んだ。「自分
を傷つけてはいけない。我々は皆ここにいる。」㉙ 看守は灯火を
求めて内に駆け込み、恐れおののいてパウロとシラスの前にひれ
伏した。㉚ 彼は二人を外に連れ出して言った。「先生方、救われ
るためには何をしなければなりませんか。」㉛ 二人は答えた。「主
イエスを信じなさい。そうすればあなたも家族の者も救われます。」
㉜ そして彼と家の者全員に主の言葉を語った。㉝ その夜遅く、看
守は二人を引き取って傷を洗ってやった。そして彼と家の者全員
はすぐに洗礼を受けた。㉞ 看守は二人を家に連れて行って食事を
出した。彼と家の者全員は神を信じたことを喜んだ。㉟ 夜が明け
ると、役人たちは警吏を送って「あの人たちを釈放しなさい」と
言わせた。㊱ 看守はパウロに「役人たちからあなたがたを釈放す
るようにと言ってきました。さあ、出て行って安心して行きなさ
い」と言った。㊲ しかしパウロは警吏たちに言った。「我々はロ
ーマ市民であるのに、裁判にもかけずに公衆の面前で鞭打ち、牢
に入れた。それなのに今ひそかに我々を追い出すのか。とんでも
ない。彼ら自身が来て我々を連れ出すべきだ。」㊳ 警吏たちはこ
の言葉を役人たちに報告した。役人たちは二人がローマ市民だと
聞いて驚き、㊴ 来て謝罪した。そして二人を連れ出して、町から
出て行ってくれるように頼んだ。㊵ 二人は牢を出てリディアの家
に行き、兄弟たちに会って励ました。そして町を出て行った。

使徒行伝 第十七章

① 彼らはアムピポリスとアポロニアを通って、テサロニケに来た。
そこにはユダヤ人の会堂があった。② パウロはいつものように会
堂に入って行き、三回の安息日に聖書に基づいて彼らと論じた。
③ 彼は聖書を説き明かし、キリストは苦しみを受けて死人の中か
ら復活しなければならなかったこと、そしてイエスこそキリスト
であることを証明した。「私があなたがたに伝えているこのイエ
スこそキリストです。」④ 彼らの中の何人かは説得されてパウロ
とシラスに加わった。神を敬う多くのギリシア人と、かなりの数
の有力な婦人たちも加わった。⑤ しかしユダヤ人たちは嫉妬に燃
えて、広場にたむろしていた悪党どもを集めて暴動を起こし、町
を騒がせた。彼らはヤソンの家を襲い、パウロとシラスを引き出
して民衆の前に連れて来ようとした。⑥ しかし二人が見つからな
かったので、ヤソンと兄弟たちを町の役人たちの前に引きずって
行って叫んだ。「世界中を騒がせてきた連中がここにも来ました。
ヤソンはその者たちを家に迎え入れました。⑦ 彼らはみなイエス
という別の王がいると言って、皇帝の命令に背いています。」⑧ 群
衆と町の役人たちはこれを聞いて騒ぎ立てた。⑨ 役人たちはヤソ
ンと他の人たちから保釈金を取って釈放した。⑩ 兄弟たちはその
夜のうちにパウロとシラスをベレアに送り出した。二人はベレア
に着くとユダヤ人の会堂に入って行った。⑪ ベレアの人たちはテ
サロニケの人たちよりも素直であった。彼らは非常に熱心に御言
葉を受け入れ、毎日聖書を調べて、パウロの言うことが本当かど
うかを確かめた。⑫ 彼らの多くは信じた。ギリシア人の婦人や男
たちも多くが信じた。⑬ しかしテサロニケのユダヤ人たちは、パ
ウロがベレアでも神の言葉を宣べ伝えていることを知ると、そこ
にも来て群衆を扇動し騒ぎを起こした。⑭ そこで兄弟たちはすぐ
にパウロを海岸へ送り出したが、シラスとテモテはベレアに残っ
た。⑮ パウロを送って行った人たちはアテネまで行き、シラスと
テモテにできるだけ早く来るようにとのパウロの伝言を持って帰
った。⑯ パウロはアテネで二人を待っている間、町に偶像が満ち
ているのを見て憤慨した。⑰ 彼は会堂でユダヤ人や神を敬う人た
ちと論じ、また広場で毎日そこに居合わせた人たちと論じた。⑱
エピクロス派やストア派の哲学者たちの何人かもパウロと論じた。
ある者は「このおしゃべりは何を言いたいのだろう」と言い、ま
た他の者は「彼は異国の神々を宣伝しているようだ」と言った。
パウロがイエスと復活について語ったからである。⑲ 彼らはパウ
ロをアレオパゴスに連れて行って言った。「あなたの言っている
この新しい教えについて我々も聞かせてもらいたい。⑳ あなたは
我々の耳に奇妙なことを聞かせるので、それがどういうことなの
か知りたいのだ。」㉑ アテネの人たちも滞在中の外国人たちもみ
な新しいことを話したり聞いたりすることに時を費やしていた。
㉒ パウロはアレオパゴスの真中に立って言った。「アテネの皆さ
ん、皆さんは何事においても大変信心深い方々だと私は見ました。
㉓ 私が歩きながら皆さんの礼拝の対象を見ていると、『知られざ
る神に』と刻まれた祭壇さえありました。皆さんが知らずに拝ん
でいるその神を私は皆さんに知らせましょう。㉔ この世界とその
中のすべてのものを造られた神は、天地の主であるのに、人の手
で造った神殿などにはお住まいになりません。㉕ また、何か不足
でもあるかのように人の手で仕えてもらう必要もありません。神
ご自身がすべての人に命と息と万物をお与えになったのです。
㉖ 神は一人の人からすべての国の人を造り出して地の全面に住ま
わせ、それぞれの時代と国境をお定めになりました。㉗ 神は人が
神を求めるようにと、また、手探りでも捜し当てるようにと望ん
でおられます。実際、神は私たち一人一人から遠くはおられませ
ん。㉘ 『神の中に我々は生き、動き、存在している』のです。皆
さんの詩人の中にも『我々は神の子孫である』と言っている人が
います。㉙ 神の子孫であるからには、神を人間の技術や想像力で
作った金や銀や石の像のようなものだと考えてはなりません。
㉚ 神は過去の無知な時代を見過ごしにされましたが、今はどこに
いる人でも悔い改めるようにと命じておられます。㉛ 神は一人の
人を選んで世界を正しく裁く日を定められました。その人を死者
の中からよみがえらせることによって、すべての人にそのことを
確かなものとされたのです。」㉜ 彼らは死者の復活と聞いて、ある
者はあざ笑い、ある者は「この問題については、また別の機会に
聞かせてもらいたい」と言った。㉝ こうしてパウロは彼らの前か
ら立ち去った。㉞ しかし彼に従って信じた人たちもいた。その中
にはアレオパゴスの議員ディオニシオと、ダマリスという女の人
と、その他の人たちがいた。

使徒行伝 第十八章

① その後パウロはアテネを去ってコリントに行った。② そこでポ
ントス生まれのアクラという名のユダヤ人と、その妻プリスキラ
に会った。彼らはイタリアからローマのユダヤ人全員が追放され
たので、最近コリントに来ていたのである。パウロは彼らを訪ね
た。③ 彼らは同業者であったので、パウロは彼らと一緒に住んで
働いた。彼らの職業はテント作りであった。④ パウロは毎安息日
に会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人を説得しようとした。⑤ シ
ラスとテモテがマケドニアから来ると、パウロは御言葉を伝える
ことに専念し、イエスがキリストであることをユダヤ人たちに証
明した。⑥ しかし彼らが反抗して悪口を言ったので、パウロは衣
のちりを振り払って言った。「あなたがたの血はあなたがた自身
の責任です。私には責任がありません。これからは異邦人の所へ
行きます。」⑦ パウロはそこを去って、神を敬うテティオ・ユス
トという人の家に入った。その家は会堂のすぐ隣にあった。⑧ 会
堂管理者クリスポは家族全員と共に主を信じた。多くのコリント
人もパウロの話を聞いて信じ、洗礼を受けた。⑨ ある夜、主は幻
の中でパウロに言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っていて
はならない。⑩ 私があなたと共にいる。だれもあなたを襲って危
害を加えることはない。この町には私の民が大勢いるからである。」
⑪ パウロは一年六か月そこにとどまり、神の言葉を彼らに教えた。
⑫ ガリオがアカイアの総督であった時、ユダヤ人たちは一致して
パウロに反抗し、彼を裁判の席に引き出して⑬ 言った。「この人
は人々に律法に反して神を礼拝するようにと説いています。」⑭ パ
ウロが口を開こうとすると、ガリオはユダヤ人たちに言った。「ユ
ダヤ人諸君、これが犯罪や悪質な不法行為であるならば、諸君の
訴えを聞くのが当然だろう。⑮ しかしこれは言葉や名称や諸君の
律法についての問題だから、諸君で解決したまえ。私はそのよう
な事の裁判官になるつもりはない。」⑯ そして彼らを法廷から追
い出した。⑰ すると群衆はみな会堂管理者ソステネを捕えて法廷
の前で殴りつけた。しかしガリオはそれを全く気にかけなかった。
⑱ パウロはなおしばらくの間そこにとどまっていたが、兄弟たち
に別れを告げてシリアへ船出した。プリスキラとアクラも一緒で
あった。パウロはケンクレアで誓願を立てていたので髪を切った。
⑲ 彼らはエペソに着くと、パウロはプリスキラとアクラをそこに
残して、自分は会堂に入って行き、ユダヤ人たちと論じた。⑳ 彼
らはもっと長くいてほしいと頼んだが、パウロは㉑ 別れを告げて
言った。「神のご意志であれば、また戻って来ます。」そしてエペ
ソから船出した。㉒ カイサリアに着くと、上って行って教会に挨
拶をし、それからアンティオキアへ下って行った。㉓ パウロはア
ンティオキアにしばらくとどまってから、ガラテヤ地方とフリギ
ア地方を次々に巡回して、すべての弟子たちを力づけた。㉔ アレ
クサンドリア生まれのアポロという雄弁なユダヤ人がエペソに来
た。聖書に精通していた人である。㉕ 彼は主の道について教えら
れていたので、熱心に霊を燃やしてイエスについて正確に語り教
えていた。しかしヨハネのバプテスマしか知らなかった。㉖ 彼は
会堂で大胆に語り始めた。プリスキラとアクラは彼の話を聞いて、
彼を自分たちの家に迎え入れ、神の道をもっと正確に説明した。
㉗ アポロがアカイアに渡ろうとすると、兄弟たちは彼を励まし、
弟子たちに歓迎するようにと手紙を書いた。アポロはアカイアに
着くと、恵みによって信じた人たちを大いに助けた。㉘ 彼は聖書
から証明して、イエスがキリストであることを公の場で力強くユ
ダヤ人たちを論破した。

あんぢよ よろづく ゆう今。 われん あんぢよの さめよ いのりて そけを
ありさく たちまさ ゆさろとん ことを つねよ あんぢよの さめよ いのりて そけを
をる。 18 われケ あんぢよ おとび ふを できやよ ある ものと
ものとを あんよ をる ことん これケ あろーを あさん。 14 あのそよふ
りーや るふ おとび でき あんぢよ よろづく ゆう今。 15 あんぢよ ふを できやよ
ある きやうさの おとび ねんと その りんの きやうくさりとよ よろづく ゆう
べー。 16 この ふそを あんぢよの うちよ よこ そをり ある これを ふを できや
ひとの きやうくさりよ よろんぞよ、 われ あんぢよ おくよれさる
ふそを よむ べー。 17 あんぢよ あるきばよ りひ つくんよ、 あんぢ きこ より うけー
ところの つとめを つくそて これを とけよと。
18 これ たろ てらろよ あんぢよ つきよ よろづく ゆう今。 あんぢよ よこ そをり ある
つきける くさりを おがんよ。 ねケそろん、 みめぐこ あんぢよ ととよ あよん
こと を。

そうろ てさろろけびとよ おくれる さい いちの ふそ

さい 一 ちやう

ろ、 Paulo, Silvano, Timote の、 てもて、 ち〜 ある かそとの
てさろよけびとの きやうくさりよ ふそを おくる。 ねケそろん、 あんぢ
とよ これよの ち〜 ある かそと きこ ゑすきりすとよ より めぐそと おさやう
あとん こと を。

2 これよ いのる とき あんぢよの ことを おもひ 3 われよの ち〜 ある かそとの
まんよ おのて あんぢよの ちろうの おくさりの ことを おもひ、 ありの そそとき、 これよの
きこ ゑすきりすとと のぞむよ ふりて さくーのぶ ことを さんぞ おがんそて つねよ
あんぢよ すべての もの〜 さめよ かそよ われ あのそよる〜
きやうさりよ、 あんぢよん そよまれくる もの ある ことを これよ ゐる。 5 そん
これよの ふくりんの あんぢよん そよまれくる いさりーん さと ことを よりて のこ あとぞ、
ちろよと きこ みさまと あろ ちろうとと よりて いされり。 これ これよ
あんぢよの うちよ ありて あんぢよの さめよ いうある さまと ありーろを あんぢ
ふの ちるケ ごとー。 6 まさ あんぢよ おのて きふき

みさま よりの よろこひを もりて そーへを うけ どれと おゐび きそよ あとぶ
ものと あれり。7これよ よりて あんぢとん おかやよ ある すべその
ちんとやの てやうと ありとり。8きその ことをの あんぢと より きこへーん
うど Matedonisio Akayasi おかやよ おける のそ あんとう
する ことん すべその ところよ ひろまれり。この ゆゑよ どれと あゐことをる
いふよ おとをぎ。9それ、われと そうぐうと すて
りうある さまうて あんぢとの うちよ りりーん むえきと あんぢ
ぢと そうぐうと ある。2あんぢとげ をる ごとく どれとん さきよ びりびよ おのて
くるーめとれ われ そうぐうーめとれーげ われ どれとの かそよ よりて おゐひ ある
あとそひの うちよ ある ときも かその ふくゐんを あんぢとよ のべうさゆる ことよ
ちやう

さの 二 ちやう

きやうさの よ、どれとげ あんぢとの うちよ りりーん むえきと あとぶ あん
ぢと そうぐうと ある。2あんぢとげ をる ごとく どれとん さきよ びりびよ おのて
くるーめとれ われ そうぐうーめとれーげ われ どれとの かそよ よりて おゐひ ある
あとそひの うちよ ある ときも かその ふくゐんを あんぢとよ のべうさゆる ことよ
ちやう

かそよ きーて いける まことの かそよ つうりん、10まこそのしより いきうんてとを
ある ところの むすこと すゐそち そとひの みのうり より どれとを すること いさす
ゐすの てん より くさるを まち をると いひ あとそをり。

さうぐうん ありる。3どれとの すべめん まとのよ よるよ あとぶ、けうれよ よるよ
あとぶ、まこ いうそりを もりて するよ あとぶ、4ふくゐんを ゆさねとるーを
かそよ よーと せとれー ごとく どれとん ありーあり。こん ひとを よろこをする
あとぶ、そぐ どれとの ところを そうゐんの かそを よろこをする ごとく どれとん いまぶ へうとふ ことを
むさりー ことを あー、かそ これげ あうーあり。6どれとん きりすとの をーや
をーて あんぢとよ おもゐを おそを うる もの あれとる ひと より すゐそち
あんぢとよ より あるひん やうの もの より すゐそち
うちよ おさるぐそり。ちこを のまする をんぢとの
8どれと あんぢとを こひーこふて かその ゆゑよ どれとの いのちそる あんぢと
あこふる ことを おーまぶ。9きやうさのよ、あんぢとよ どれとの そうぐうを
そりを おぎゆ、すゐそち あんぢとの うちの ひとりる おもるを おそぐる やう
よる ひる そこよきて かその ふくのんを あんぢとよ いひうこんくり。10どれとげ
あんぢとよ きこく、さとーく、とぐあく ありーうん

あんぢよと かそゲ あうーを あす ものあり。
さろうえとよ めー さまくの かそよ ものあくて あんぢよゲ あゆむ やうよ 12 ちくの
その ことをよ おける ごとく これよ いうよ あんぢよの おのあのを すくめ、あぐ
さめ、いさめーうん あんぢよの そる ところ あり。
13 この ゆあよ これよも かそよ むうひて あんぢよゲ これよ ひとの ことを せず、くど その まことよ かその
ことを うけー とき これを ひとの ことを ものくうちよ そくくく ところの かその
ことを あるゲ ごとく あんぢよ ちん ゆざやる ものよ、あんぢよら ゆざやの
14 きやうさのよ、
ことをとーて うけーを たんず めんーやす。
うちの ぢすきりをとよ あるかその きやうくろ ものと あれり。そら
めれよゲ ゆざやひとより くるーをうけーごとく あんぢよも おのれの くるの
15 ゆざやひとい きこ あるあすと よびん
ものより おあトくるーをうけり。
ーやうちとを ころせり。まく これよを おひ いさー、かそよ よろこをれず、めつ
すべての ものよ さろよくり。16 まく これよを おひ いとうよ すくひを えをんとて
これよ をーゆる ことを きんとて つねよ おのれの つえを そくす。これよ よりて
みのうりん をそる まで めれよ のぞむ あり。

17 きやうさのよ、これよら ころを ゆりて あんぢよ よりそをれず さぐ めあを
ゆりて ををとくの あひざ そをれ そるよ まさ ざすます をきりよ こひーうめて あんぢ
よの めあをそん ことを ありをり。18 この ゆあよ これよ ことよ これたうろひと
arukwa, ada
さびふさうびあんぢよ ゆうんとありーうれとも さざん これよをさあくけり。
19 これよの のぞむ ところ、まく わこる ところの めうむりん
Yamno ; 7, 8, Yesu Kristono
あるぞや。あんぢよも これよの きこ あるよ
あと 全や。20 あんぢよん これよの わまれ まく よろこび あり。

さの 三 ちやう

ゆあよ これよ ゆをや をのざ ことを えをぎりー ときよ これよ のを あてんよ
Atomi
のこるを よーと おゆひて、2 きりすとの ふくのふくの そあよ かその をゆべ ある
これよの きやうさの てまてを あんぢよーを つうををー あり。これ あんぢよの
1, 3, 6, Kamino dimobo nuru warerano ;
ちろうの ことよ つのて あんぢよを めるを みーよ うごうさる ことを、めつ すくめ まく ひとりも この
あやそよ うごうさる ことん あんぢよ そんうとーめん さめ あり。3 これよゲ あやそよ さざ
めとる ことん あんぢよ そんうとよ ありーとき これよ あんぢよと ゆよ あをんとよ つひさり、

4 預言者イザヤの書に書いてあるように、
「荒野で呼ばわる者の声がする、
『主の道を備えよ、
その小道をまっすぐにせよ。
5 すべての谷は埋められ、
すべての山と丘は低くされ、
曲がったところはまっすぐになり、
でこぼこ道は平らになり、
6 すべての人は神の救いを見る。』」

7, 8, 9, Yesu Kristo

7 そこでヨハネは、自分から洗礼を受けに来た群衆に言った。
「まむしの子らよ、だれが、来たるべき御怒りをのがれるように、
教えたのか。
8 悔い改めにふさわしい実を結べ。
自分たちの父はアブラハムだ、などと心の中で言い始めるな。
あなたがたに言っておくが、神はこの石ころからでも、
アブラハムの子たちを起こすことができるのだ。
9 斧はすでに木の根元に置かれている。
だから、良い実を結ばない木はみな、
切り倒されて火に投げ入れられる。」

悪霊の取りつかれた者たちが、
その悪霊から救われるのを見た。
10 また、ある町の人々と一緒に、
多くの病人や体の不自由な人たちがいやされるのを見た。
こうして、その地方の大勢の人々が信じるようになった。

1, 3, 5, amen ; 2, 6, 7, noseru

主の祈り

11 あなたがたの中に、父親から魚を求める子どもがいれば、
だれが石を与えるだろうか。
また、卵を求めるのに、さそりを与えるだろうか。
12 あるいは、パンを求めるのに、だれが蛇を与えるだろうか。
13 このように、あなたがたは悪い者であっても、
自分の子どもには良い物を与えることを知っている。
まして天の父は、求める者に聖霊を与えてくださるに決まっている。」

きやうさのを ゆすめ とぶさる こと あり。6 ひれとげ さきよ あんぢとよ つけて
あろーもー ととく すぐて これとの ゆの〜 むくひを あす ゆのん きこ あり。
7 それ かその ひれとを まねきさるん ひれとよ けゲれくる ことを おこあそもん
くりよ あとぎ、きこあき ことを おこあそもん さめ あり。8 ゆあよ ゆろんある
ゆのん ひとを ゆろんやるよ あとぎ、おのれの きこあき みこあを あんぢとよ
こあひー ところの かそを ゆろんやる あり。

9 きやうさのの あのよ つのそん ひれ あんぢとよ ゆき おくるよ おこあそぎ、そん
あんぢと こゲひよ あのする ことん そぐうとよ かこ より をーんとれくられば あり。
10 あんぢと おまねく まけとよやよ ある ゆろもろの きやうさのよ ゆろの でととく
おこあんくり。されど きやうさのよ、ひれとよ あんぢとの ますま今 これを つとめん
ことを ねげふ。11 まく ひれとげ あんぢとよ めのやーー ととく ぐうとうよ
つとめて おのれの ことを おこあひ、ゆろ 12 そん、あんぢと そとの ゆのよ むくんて さうとうよ あのこ ゆろ おのれよ ゆろる
ところ あとくんげ こあめ あり。

13 きやうさのよ、すぐよ ねりれる ゆのとゆよ つのそん ひれとよ あんぢとげ ぐとよ今

ーて ゆのの のぞこ あき ゆの〜 ゆあーむ ことを わりせ今。14 ひれとよ
ゆー あすの ーーて よそげくり ことを ぐんぢとよ ぐうとうよ あんぢとよ かそん あす よる ところの
ねりれる ゆのとゆよそーて ゆれと とゆよ きこあとよーめん ことそゆ ぐんぢとよ つけん、きこの
15 ひれとよ きこの ことを ゆりて あんぢとよ つけん、きこの くこる ゆのよ さきざこと。16 それ
まで ひれとの いき あげとゆる ゆのん ねりりくる ゆのよ さきざこと。16 それ
きこ そぐうとよ ときの こあと おこの ちりを ゆりて てん よりくこと ん、その とき きりすとよ ありて ーちくる ゆの まうん。17 ぞうる のち ひれとの いき のこあそんとて あそんとて ととれて ゆれと とゆよ こゆよ そとん。
ひれとよ いつまで きこと とゆよ ぐんぢとよ これとの ことを ゆりて あうこあのよ あこさめよ。

さの 五 ちゃう

されど、きやうさのよ、ときと おそうの ことん ひれ あんぢとよ ゆき おくるよ
おまそぎ、2 そん あんぢとよ そぐうとよ きこあの ひん まるの ぬすびとの でととく
きこる ことを つまひとうよ ゆれば あり。3 ひとびと そぐうとよ、おこやう あり
あんぜん ありと いつ ときに ちうひ さちそち いことん。そとよ そんあよ さうん

ᠠᠪᠤᠯᠠᠭᠰᠠᠨ ᠪᠤᠶᠠᠨ ᠤᠯᠤᠰ ᠤᠨ ᠬᠠᠨ ᠪᠤᠯᠤᠨ ᠲᠡᠭᠦᠨ ᠤ ᠬᠠᠭ

Paulo, Siluano, Timote
Tesaloníkebitono

1 パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神と主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。

恵みと平安があなたがたにありますように。

1, 3, 8, Yesu Kristono ; 2, 5, 6, 7, Yesuno

2 わたしたちは、祈りのたびごとに、あなたがたすべてのことを神に感謝し、
3 あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、
また、わたしたちの主イエス・キリストに対する望みの忍耐を、
わたしたちの父なる神の御前で絶えず思い起こしているからです。
4 神に愛されている兄弟たち、あなたがたが選ばれたことを、わたしたちは知っています。
5 わたしたちの福音があなたがたに伝えられたのは、
言葉だけによらず、力と聖霊と強い確信によったからです。
わたしたちがあなたがたのために、どのような人であったかは、
あなたがたがよく知っています。
6 あなたがたは大きな苦しみの中で、聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ、
わたしたちに倣う者となり、また主に倣う者となりました。
7 こうして、マケドニア州とアカイア州にいるすべての信者の模範となりました。
8 主の言葉があなたがたから出て、マケドニア州とアカイア州に響き渡っただけでなく、
神に対するあなたがたの信仰があらゆる所に伝わっているので、
わたしたちは何も言う必要がありません。
9 わたしたちがあなたがたのところへ行ったとき、
あなたがたがわたしたちをどのように迎え入れたか、
また、偶像から離れて神に立ち返り、
生ける真の神に仕えるようになったかを、
人々が言い広めているからです。
10 神は死者の中からイエスを復活させられましたが、
その御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを、
人々が言い広めているからです。

1, 2, 5, Yesuno ; 3, 6, Yesu Kristono

[11]なんじ ふたり ここに とどまり、わたし[12]の ひつじの ために、
[13]ちから を つくして、[14]わたし の ところ に つれて こよう。
[15]ヨセフ の むすこ イエス は、[16]ナザレ の 人 で、[17]その 父 と 母 と
を 知って いる。[18]この 人 が、[19]天 から 下って 来た パン で ある
と、[20]わたし は 言った。[21]すると、[22]ユダヤ人 たち は、[23]この
人 が どうして 自分 の 肉 を 食べる ように 私 たち に 与える ことが
できる か と、[24]互い に 論じ 合って 争った。[25]イエス は 言われた、
「まことに、まことに、あなた がた に 告げる。人 の 子 の 肉 を 食べ、
その 血 を 飲む の で なければ、あなた がた の 内 に いのち は ない。
[26]わたし の 肉 を 食べ、わたし の 血 を 飲む 者 は、永遠 の いのち を
持って いる。わたし は その 人 を 終わり の 日 に よみがえらせる。
[27]わたし の 肉 は まことの 食べ物 で あり、わたし の 血 は まことの
飲み物 で ある。[28]わたし の 肉 を 食べ、わたし の 血 を 飲む 者 は、
わたし の 内 に とどまり、わたし も その 人 の 内 に とどまる。
[29]生ける 父 が わたし を 遣わし、わたし が 父 に よって 生きる
ように、わたし を 食べる 者 も わたし に よって 生きる。[30]これ は、
先祖 たち が マナ を 食べ、そして 死んだ の と は 違う。この パン を
食べる 者 は、永遠 に 生きる。」[31]これ は、イエス が カペナウム の
会堂 で 教えて いる とき に 言われた こと で ある。[32]多く の 弟子 たち
は、これ を 聞いて、「これ は 厳しい 言葉 だ。だれ が これ を 聞き
入れる こと が できる か。」[33]と 言った。[34]イエス は、弟子 たち が
これ に つぶやいて いる の を 知って、「これ が あなた がた に つまずき
を 与える の か。[35]それ なら、人 の 子 が 以前 に いた 所 に 上る の を
見る と、どう なる の か。[36]霊 は 生かす もの で あり、肉 は 何 の 役
にも 立たない。わたし が あなた がた に 話した 言葉 は、霊 で あり、
いのち で ある。[37]しかし、あなた がた の 中 に は、信じ ない 者 が
いる。」[38]イエス は、初め から、信じ ない 者 が だれ で あり、また、
ご自分 を 裏切る 者 が だれ で ある か を 知って いた の で ある。
[39]また、「だから、父 から 特別 の 恵み が 与えられ ない 限り、
だれ も わたし に 来る こと が できない と、あなた がた に 言った
の で ある。」[40]この こと が あって から、弟子 たち の 多く は 離れ
去って、もはや イエス と 共に 歩む こと を しなかった。[41]そこで、
イエス は 十二人 の 弟子 たち に、「あなた がた も 去って 行こう と
する の か。」[42]と 言われた。[43]シモン・ペテロ は イエス に 答えた、
「主 よ、私 たち は だれ の ところ に 行き ましょう か。永遠 の いのち
の 言葉 は あなた が 持って おられ ます。[44]私 たち は、あなた が
神 の 聖者 で ある こと を 信じ、また 知って おり ます。」[45]イエス は
彼 たち に 答えられた、「わたし が あなた がた 十二人 を 選んだ の
で は ない か。しかし、あなた がた の 中 の 一人 は 悪魔 で ある。」
[46]イエス は、シモン の 子 で ある イスカリオテ の ユダ の こと を
言われた の で ある。ユダ は、十二人 の 一人 で ありながら、後 に
イエス を 裏切る 者 で あった。

よき　ひざと　よき　ことそよ　おりて　あんぢよを　かくみそん　ことそ。

さの　三　ちやう

をそりよ　いそん、きやうさのよ、あんぢよ　ひれよの　さのよ　いのりて　きその　ことなの　あんぢよの　うちよ　おけるケ　ごとく　そーりて　あまれを　うけん　ことー、[2]ひれよケ　むり　あくゆん　より　まぬうれん　こと　ちんかん　あくされば　あり。[3]されど　きそん　かくみー　まく　あんぢよを　まもりて　あーき　のち　よケ　めのそる　ことを　すぐよ　おこなひ　まくのちもも　おこなそん　ことん　ひれよケ　きそよ　ありて　あらく　ちん今る　ところ　あり。[5]ねケそくん　きそ　あんぢよの　こころを　かそのと　きりすとの　さんーのひよ　そちひき　さまそん　ことそ。

[6]きやうさのよ、ひれよ　きそ　あすきりすとの　あよ　よりて　あんぢよよ　めのぎ、ひれよより　うくるところの　いのちさんよ　おそなく　そそりよ　あのむ　きやうさのん　そる　これを　とおざけよ。[7]あんぢよ　そらうよ　ひれよ　あよ　べきやを　おる。ひれよん　あんぢよの　うちよ　おりて　そそりよ　あのと　[8]おくひん　のそ　ちー　ひとの　そんを　くよひー　こと　あー、さく　あんぢよの　うちの　ひとり

もも　おもうを　おそなざる　やう　ひざと　わねを　ものて　よる　ひる　もくふきくり。[9]これ　ひれよ　けん　あきケ　ゆおよ　おくぎ、さく　あんぢよを　ーめんとて　おのれを　あんぢよの　てわんと　あんぢよ　とよ　とゆよ　ありー　とき　これを　あんぢよの　ことを　わりせ　ぎんべ　そのものいくふべうふ　そざりよ　あゆえて　そくよく　ことを　せぎ　さく　むえきの　ことを　つとむる　ものありと　きけり。[12]ひれよ　きそ　おすきりすとよ　よりて　めくの　ごとき　ひとよ　めいト　めつ　すくむ、おのれの　めてを　そよふ　べー。

[13]きやうさのよ、あんぢよ　せんを　おこなふ　ことよ　うむ　あられ。[14]されど　ゆー　このふそよ　いくる　ひれよの　ことそよ　おそなざる　ものあよび　めれケ　そざる　やうよ　これを　そとめて　あひ　まよそる　ことあられ。[15]されど　めれそ　あざの　ごとくよ　する　あられ、さく　これを　きやうざのごとくよ　いさめよ。

[16]ねケそくん　おざやうの　きそ　すべての　ことよ　おのて　つねよ　あんぢよ　おさやうを　さまそん　ことを。まく　きそ　あんぢよ　すべての　ものと　とゆよ　あよん　ことをねがふ。

8, 5, 6, 7, amen



1, 7, 9, Kimi ; 5, 5, 6, 5, noseru

Paulo

Timotepi

Makedoniani

ーネ 15 あなたがアシヤにいる者はみな私から離れ去ったことを知っています。その中にはピ
ギロとヘルモゲネもいます。16 オネシポロの家族に主があわれみを与えてくださいますように。
彼はたびたび私を力づけてくれ、また私が鎖につながれていることを恥としませんでした。
17 それどころか、ローマにいたときに彼は熱心に私を捜し出してくれました。18 どうか主が
その日に彼があわれみを主から受けるようにしてください。彼がエペソで私にどんなに仕
えてくれたかは、あなたがよくご存じです。

2 1 わたしの子よ。あなたはキリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。
2 あなたが多くの証人の前で私から聞いたことを、ほかの人たちをも教える力のある忠実な
人たちにゆだねなさい。3 キリスト・イエスの良い兵士として、私と苦しみをともにしなさい。
4 兵士として召集した者を喜ばせようとする者は、だれも日常の仕事にかかわり合いません。
5 また競技者も、規定に従って競技をしなければ栄冠を得ることはできません。6 労苦する農
夫こそ、まず収穫の分け前にあずかるべきです。7 私の言うことをよく考えなさい。主はすべ
てのことについて、あなたに理解する力をお与えになります。8 イエス・キリストのことを
思い出しなさい。この方は死者の中からよみがえり、ダビデの子孫として生まれた方です。
これが私の福音です。9 この福音のために私は苦しみを受け、犯罪人のように鎖につながれ
ています。しかし、神のことばは決してつながれません。10 ですから私は、選ばれた人たち
のために、すべてを耐え忍びます。彼らもまたキリスト・イエスにある救いを、永遠の栄光
とともに得るようになるためです。11 次のことばは真実です。

もし私たちが主とともに死んだのなら、
また主とともに生きるようになる。
12 もし耐え忍んだなら、
また主とともに治めるようになる。
もし主を否むなら、
主もまた私たちを否まれる。
13 もし私たちが不真実であっても、
主は常に真実である。
主は自分を否むことができないからである。

14 これらのことを人々に思い起こさせなさい。神の御前で、ことばについて争わないように
と厳しく命じなさい。それは聞いている人たちを滅ぼすだけで、何の役にも立たないからで
す。15 あなたは、恥じる必要のない、真理のことばを正しく教える、神に認められた者とし
て、自分を神の御前に献げるように努めなさい。16 俗悪なむだ話を避けなさい。そのような
ことをする人たちは、ますます不敬虔に陥り、17 彼らのことばは悪性の腫れもののように広
がります。ヒメナイとピレトはその例です。18 彼らは真理から外れてしまい、すでに死者の
復活は起こったと言って、ある人たちの信仰をくつがえしています。19 しかし、神の堅い土
台は据えられており、それには次の二つの刻印があります。

「主は、ご自分のものをご存じである。」
「不義を離れよ。主の名を呼ぶ者はみな。」

20 大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。貴いことに用いる器もあ
れば、貴くないことに用いる器もあります。21 ですから、だれでもこれらのことから離れて
自分をきよめるなら、その人は貴いことに用いる器となり、聖められ、主人のお役に立つ
ふさわしいものとなり、どんな良いわざにも備えられた者となります。22 若いときの情欲を
避けなさい。きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めな
さい。23 愚かで無知な論争は避けなさい。それは争いを生むだけだということを知っていま
す。24 主の奴隷は争ってはいけません。すべての人に対して優しく、教える力があり、よく
忍耐し、25 反対する者を柔和な心で教えなければなりません。神が彼らに悔い改めを与えて
くださり、彼らが真理を悟るようになるかもしれません。26 そうすれば、彼らは悪魔の罠か
ら逃れて、悪魔に捕らえられて思いのままにされていたのから立ち返ることができます。

よき まくわめよるく ことあり。4 めれん すべてその ものく すこひそ ええて まことを
ちるよ いくとんん ことを わりー さまふ。5 そん
めそと まんけんとの あらさよ ひとりの あうさち すきそち まんけん ある えす
きりすと あり。6 めれん ときよ おふびて あうー すべき なんそんの あけ多ひと
あさんとて そらうとを さうけり。7 これ これケ うめよ せりきやうとや、ちーや、
すまそち ちんうとと まことを いとんよ をーゆる ところの ちーやうと さきめとれ
うり。これ（きりすとよりて）まことを いふ、いうそりを いそぎ。
8 ゆあよ これ ひとひとの いうり あく、すべての ところよ おりて
ことを わりす。11 をんきん ありうさく ふくーて ちうんよ まきぶ べー。12 これ そん
きよき てを あけて いのとん ことを わりす。9 めくの ごとく そんきの くそうる
け、きん、ちんとゆ、あるひん あうひ さうき かそのの つとめよ
さううのの きゆのを きて れんちとて てのそうを めぎとん
つける をんきよ めきふ ところの よき おこきふ ゆりて そううとを めぎとん
ことを わりす。11 をんきん ありうさく ふくーて ちうんよ まきぶ べー。12 これ そん
きの をーくを つくゆる ことく そところの うんてよ けんを とる こととを ゆるさぎ、
さぶ ちうんよ あとん ことを さきむ。そん

のちよ つくふれられん あり。13 めう おぎび まとをされーよ あとぎ、そんきの まと
そされて つそよ おとーりうさう あり。14 ちうりきふん ちんうとと きうき ことよ つうきふん
ちんうとと きうき ことよ つうきふん こと

そら 三 ちやう

それう ゆー めんとくの つとめを そうひふん そのひとん よき つとめを わりする
ありとん まことの ことを あり。2 それ、めんとくを
をりと、つくーを よく、ひうくめ あり、そゆちよ よく、ひとことを ねんどころー、
をーくよ さりー、3 ぶさうーゆをそーまふ、うつことを せき、さぶ まうさまーて
あとそひを さけ、めねを むさぶとき、4 めう おのれの いくを よく おさめ、れの
ぎを ゆりて ことゆとを そうさげそする ゆの ある べー。5 それう ゆー おのれの
いくを おさむる ことを そじふんで いうそのきやうくさのを おさむる ことを
えんや。6 まふ めんとくん あることーき でーよ あとぎる べー、おそどくん めれうて
りてざんきよ つける さをきよ おちいとん。7 まふ そとの ひとよ よき きとくん ある
ものの ある べー、そうとうされん めれ そうーめと ざんきの ごとく ちうとを めくを、ふぎの
8 めくの ごとく ちうとも あらめよ あり、くちを せき、ふぎの

ネるシ ネホ。ハ ネホ ネるシ ネホ。ハ ネホ ネるシ ネホ。ハ ネホ

よい これケ さゐよ そろとき ゐつ そーりを うく、そい ひれと なんそんの すくひ
ゐー、ゐりをと ちんとやの すくひゐー ある ゐける かそよ のをそ あれべ あり。
[11]あんち これとの ことを ゐりとぜーくよ。[12]あんちの とーの ひろきを ひとよ
ゐろーまする ことあられ、さじ ことをと おこ多ひと あひと ちんううと きききき
とよ おりて ちんとやとものてゐんとゐれ。[13]あんち ひケ いくる まそ よね こと、
すくむる こと、そーゆる ことよ きを つけよ。[14]あんちよ ある ところの さきもの
すゐそち よけんよ より まくとーふりの てを おく ことよ よりて ちんちよ さな
そりくる つとめを おこくる あられ。[15]あんち これとの ことを こころよ ゐけて
これよ みを まうんそよ、さじべ ちんちの すとき すべその ものよ あとそれん。
[16]あんち そろうとと をーくとよ きを つけよ、ゐつ これよ つくけ。ちんち ゐく
ちさべ そろうとと ちんちを きく ものとを すくふ ちよん。

すゐ 五 ちやう

ちやう

とーふりを いやーめ とケむる あられ、さじ これを すくめて ちろの ごとくよ
せよ。。ひろき ひとい きやうさのの たとくよ、おりくる そんちい もくの ごとくよ、
ひろき ふとんら ちよごとそも いさきふき おりて そんる きやうさのの

ごとくよ せよ。[3]。やものの まりさく やものの これをうやふ べー。
[4]ゐーやものよ ことも あるひら まど あとべ まらこれよ そのいくよ ちよ べきの
つとめと おやよ むくゐる ことふを ちとそを ちよ。これ かそのまんよ おりて ゐりと
ふるく ことあり。[5]ゐりさく やものーて ひとりのこれる ものら かそよ のをそて
ふる ひる ねケひと いのりを つねよ ち。[6]。されど さのーそ ゐーめ まそよ する
ものい いけると いくとも ふるさる あり。[7]。のれとの とケ ある ものと ある
やうよ これとの ことを いきーめよ。[8]。ひとの ちんるるの さめ、まーて
おの れい いくの さりよ てあてを する ことを おこさり多べ その ひとり ちん
うううを すろる ものーて ふーんとや よりも あや あーく。

[9]。ろく おりさい より ちうき やものの まんべろよ のち てふとや。
[10]のち べきの やものい ひとりの をりとの つま ありー ものそて よき おこ多ひの
きくん あるもの、ち多そちことをそを やとよを、さよき ものく
あーを およひ、ゐやその ひとを さすけ、ものろもろの よき おこ多ひよ ちさケひー
ものの あるべー。[11]ろうき やものを うくる あられ、いろんと あれべ のれとよ きう
すとよ そゐきて ちさとやうを ゐふあち とうけんことを ありすれべ あり。

12 めれふい そとめの ちんとんを おと午よ よりて つそよ さざめとれん、13 めら
いくらの くを めぐりて おとごる ことを まじ
まとき ことを めぐりて ことぢを おろく〜 まる
あとん。14 この ゆあよ どれ どうき やゆめい
おさめ、めら てきよ そーら べきの おりを あ
あれば すぐよ さんよ むきを めへて そろ
ちんぎる ところの そんあよ やゆめ おじば そ
くとのよ おゆうを おそ午 べうとぶ・きやうく
さすけんげ さめ あり。

17 よく おさむるの、とーふりとも まる どけて そこと をーへよ つりて そる
とく ゆのとゆい そのーて これを うやまふり
あれば せのきやうよ いくり、ちんち こくゆ
ごを そむる あられと・まる いくり、そろとく
うべ ありと。19 とーふりよ つのて うりさふる ことぢ あるとも まさんの ちろうく
ちんん ちくば これを うくる あられ。20 つそ
おろ午 ゆの あとば わうの ゆの〜

おそる〜 やうよ ひとびとの まんよ おのて
21 どれ かそと 6,7,9, Kimi Yeen Kristoto あすきりすと〜 えとなれ
あんぢよ めの午、あんぢ これとの ことを
めろふりて あるごとをも する あられ。22 すそ
ひとの つそよ あびうる あられ。そびうとを
そうりを のま午ーて あんぢの そとの さめ
さめよ ふざうーゆを すこーく ゆちゆ べーー。

24 ある ひとの つそら あきとうよ あとそれ さきざちて さをきよ ゆく、ある
ひとの つそら あとよ ちさケひ ゆく。25 めくの ごとく ゆる おこるひゆ あきとう
うよ あとそる〜 あり、そうとぶる おこるひゆ めくる〜 ことを えぎ。

さの 六 ちやう

すべてくひきの そさよ あるところの ちゆめいかその あとを そーへの けケされざる
やう おのれの ちゆとんを まりさくうやまふよ されるゆのと すべーー。2 ちんとうう
する ところの ちゆとんを ゆそる ちゆべともい その さやうさい ある ゆあを
ゆりて これを めろんぎる ことを あられ、えきを うくる ゆのい ちんとやよーて

あのやうる〜 ものある ゆゑよ まーて これよつう べー。
そーん すうめよ。

[3]それう ゆー わうの そちを そーんて それよの
ーき ことをと ちんとんよ つのその そーんとまん
さうぶりを ゆゐて あけよれ、あるでとをる ちよ
あじそひとよ おのて ととろさる。[5]これよ よゐ
あーき ことの すのりやう、おゑび こころ よこーきうーて まことを そあれ
さる ひと すあそち ちんとんん りえきの さめとと
あり。[6]ちうりと いくそる ちんとんい さる ことを ちるの ころろ あとん
おわひあう りえき あり。[7]これよい あるをる よよ ゆち さきとさりき、まる
あるをる ゆち さる ことあさを牛。[8]ちよくゆうと きゆの あとん これうて さる
ことを ちる べー。[9]それ、ともん ことを わ
まる ゆろゆろの ひりまーて そこあふ ところの よく すあそち ひとを わろひ
めうぶうよ おぶとす よくよ おちのる あり。[10]めねを ひさ分うの よくん すべ
その あくの ね あり。ある ひとい これを ちる

ゆろゆろの めあーそを ゆゐて そうりとを さー
[11]それど あんち わそのひとよ、これよの こと、ちん
とん、ちんうう、おい、さんべーのひまこころろの
ちんうりうの よき そそうひを そそうふて めぎり
めよ。あんちい これケ さめよ めーを めうむり
まんよ おのて よき あうーを あーさり。[12]あんち
ところの わそのひとよ、おゑび ばんてよ[Paulo Pilatoo]ひとと
きりすとの まんよ おのて あんちよ めの牛、[14]あんち これとの きを ゑすきりす
との おとそるさよ いさる まを そを あく、き牛 をく このおきてを まゐる べー。
[15]さのそひ あるひとりの ちはのする ゆの あるこ
れの ときよ おとびて そのあとそれを ゐめさん。[16]めぎり るき いのちを ゆてる
ものい れの のを、ちうりく ことを えぎるの ひとの
いまふ そぎる ところ めう そる こと あさそぎる ところの ゆの あり。あまれと
めぎり あきの ちうとん れれよ き牛る あり。あめりん。
[17]あんち この よの とめる ゆのとゐよ、さうふる ことを あく まる さーうるあとね

ませんが、ヤコブがヨセフに言ったように、神はあなたがたを顧みてくださいます。[25]ヨセフは、イスラエルの子らに堅く誓って言った。「神は必ずあなたがたを顧みてくださいます。そのとき、あなたがたはここからわたしの骨を携え上らなければなりません。」[26]ヨセフは百十歳で死んだ。人々は彼を防腐処置をほどこして、エジプトのひつぎに納めた。

1, 3, 6, 8, ii, nanjirato ; 5, 7, 9, nanjito

1, 3, 5, 8, ii, makoto nari ; 6, 7, 9, kagiri naku



出エジプト記

ヨセフの骨を携え上る

Yunikeni

Loi

ヨセフの骨を携え上る

兄弟たちは、私たちを喜んで迎えてくれました。14 私たちは、彼らのところに七日間滞在するようにと勧められました。こうして、私たちはローマに向かいました。15 そこの兄弟たちは、私たちのことを聞いて、アピイフォロとトレスタベルネまで出迎えてくれました。パウロはこの人たちに会って、神に感謝し、勇気づけられました。16 カイサリアの弟子たちも何人か同行し、古くからの弟子であるキプロス人ムナソンの家に泊まることになっていたので、その人たちを連れてきました。

エルサレムでパウロ逮捕

17 エルサレムに着くと、兄弟たちは喜んで私たちを迎えてくれました。18 翌日、パウロは私たちを連れてヤコブのところへ行きました。そこには長老たちがみな集まっていました。19 パウロはあいさつをしてから、神が異邦人の間でご自分の働きを通してなされたことを、一つ一つ詳しく話して聞かせました。20 彼らはそれを聞いて、神をほめたたえました。そして、パウロに言いました。「兄弟よ、ご覧のとおり、ユダヤ人の中には幾万人もの信者がいますが、みな律法に熱心な人たちです。21 ところが、あなたが異邦人の間にいるユダヤ人すべてに、モーセに背いて、子供に割礼を施すな、慣習に従うなと教えている、という話が伝わっています。22 いったいどうしたらよいでしょうか。あなたが来たことは、きっと彼らの耳に入るでしょう。23 そこで、私たちの言うとおりにしてください。誓願を立てた人が四人います。24 この人たちを連れて行って、一緒に清めの儀式を受けてください。そして、彼らが髪の毛を剃るための費用を負担してください。そうすれば、あなたのことについて聞いたことは事実無根であって、あなたが律法を守って正しく生活していることが、みなに分かるでしょう。25 異邦人の信者については、偶像にささげた肉と、血と、絞め殺した動物の肉を食べることと、不品行を避けるようにと、すでに手紙で知らせてあります。」

26 そこでパウロは、その人たちを連れて、翌日一緒に清めの儀式を受けました。そして、宮に入って、清めの期間が終わり、一人一人のためにささげ物をする日を告げました。

27 七日の期間がほとんど終わろうとしていたとき、アジアから来たユダヤ人たちが宮の中でパウロを見かけ、群衆を扇動して彼を捕らえました。28 そして、こう叫びました。「イスラエルの人たち、助けてください。この男は、どこへ行っても、民と律法とこの場所とを悪く言いふらしている者です。その上、ギリシア人を宮の中に連れ込んで、この聖なる場所を汚しました。」29 彼らは、以前エペソ人トロフィモが町でパウロと一緒にいるのを見かけていたので、パウロが彼を宮の中に連れ込んだと思ったのです。30 町中が騒ぎになり、人々は駆け寄ってきました。そして、パウロをつかまえて宮から引きずり出しました。すると、すぐに門が閉められました。31 人々がパウロを殺そうとしているとき、ローマ軍の千人隊長のところに、エルサレム中が騒ぎになっているという知らせが届きました。32 千人隊長はすぐに兵士と百人隊長たちを率いて、群衆のところへ駆けつけました。群衆は、千人隊長と兵士たちを見ると、パウロを殴るのをやめました。33 千人隊長は近づいてパウロを逮捕し、二本の鎖につなぐように命じました。そして、パウロが何者であり、何をしたのかを尋ねました。34 群衆の中の人々は、口々に勝手なことを叫んでいたので、千人隊長は騒ぎのために真相をつかむことができませんでした。そこで、パウロを兵営に連れて行くように命じました。35 パウロが階段のところまで来ると、群衆の暴力のために兵士たちに運ばれることになりました。36 民衆の群れが後からついてきて、「この男を殺せ！」と叫んでいたからです。

パウロの弁明

37 パウロが兵営に入ろうとするとき、千人隊長に言いました。「ちょっとお話ししてもよろしいでしょうか。」千人隊長は言いました。「ギリシア語が話せるのか。38 それでは、お前はエジプト人で、以前暴動を起こして四千人の暗殺者を荒野に連れ出したあの男ではないのか。」39 パウロは言いました。「私はユダヤ人で、キリキアのタルソの出身です。この町の市民です。どうか、民衆に話すことを許してください。」40 千人隊長が許したので、パウロは階段の上に立って、民衆に向かって手で合図をしました。すると、大きな静けさが訪れました。そこで、パウロはヘブル語で話し始めました。

をうそゲんて とよ㐂んば めんねりを えき。 6 わねをる ひゃくーやうん めあよ㐂
あげそを うべき あり。 7 あんち さげ いふ ところの ことを おゐん、きそ すべての
ことよ おゐて あんちよ さとりを さまをえん。 8 さげ ふくいんよ いんる でとく
Dabidero
よびでの すえゆーて ーより よそげんりー をすきりすとの ことを あんち こ~
ろよ とめよ。 9 さげ その あくいんの さめよ くるーそを うけて さげうんの
でとく つあげる~ まぐよ いされり。 されど わ 10 この ゆをよ さげ えとをれさる ゆの~ さめよ すべての ことを そのぶ、そん
めれこうゐ をすよ よりて すくひと めぎり あきの えのうそとを うけーめん さめ
あり。 11 この ことをい まこと あり、するをち さげ とゆよ をあんば
まる とゆよ いきん。 12 ゆー とゆよ さんーのひあんば とゆよ そはの する ゆのと
あとん。ゆー めれを いあそあんば めれも さげとを いあまん。 13 さげとん をんせざる
ゆの あるも めれん いうまぐも をんぢ べき ゆの あり、そん めれ おのれの こと
をを いひけす こと あさそぢ。
14 あんち これとの ことを ひとびとよ おゆをーめよ、めう きく ゆのを まとそ今
ところの むえきの ことをい つりて あとそひを せざる やう きその まんよ おのて

これを いまーむ べー。 15 あんち よく まこと みことをを さこのち そうこのごを
さんれん あるそち あきの そそとうきょんとーして かそよ さとくらる ことをつとめよ。
16 まる そさり ある むえきの ことをを さけよ。めれとん まそあ今 ふをんとんの
ことよ すとまん。 17 その ことをい さりそのの ごとうよ くとそん。その うちよ
Hinennai
ひめるい および びれと あり。 18 めれとん まこと つりて あやまり、よそげへ
りの ことん すぢよ すぎるりと いひて あるひとの をるーあり、いそく、きそん
印 ino
19 をうれとも かその めるる とそうのん さちて
Min 18:5,20
おのれよ ぞくする ゆのを をり さまあと。まる、すべて きその あを とあゆる
ゆのい あく より とそぢうる べー と。 20 それ さのけよ おりてん きんぎふの
うりそ のを あじぢ、まる きや めそとけの うりそもあり。さのとる ゆのもいや
ーき ゆのも あり。 21 ゆをよ ひとゆー これとを さけて そぐうとを
いさぎふく せび その ゆのん さりとる うりそとあり、きふく せとれ、をゆとんの
ゆちひと ありて すべての よる ことよ そるあ
よくを さけて きよる こころより きそを よび ゆとゐる ゆのと とゆよ さぐーるる べー。 22 あんち ようねんの
幼年 youdono
こと、をんうう、あん、おそゃうを おひ ゆをめ むげくの ぎろんん
をめよ。 23 おろうあるむげくの ぎろんん

ὑμᾶς ἀπὸ τοῦ φόβου τῶν Ἰουδαίων ἐπεὶ ἤδη ἐν αὐτῷ τῷ καιρῷ τῆς ἀναστάσεως ἐκείνου τοῦ Ἰησοῦ ἐν τῷ μνήματι ἐκείνῳ ἐν τῷ κήπῳ ἐν τῷ ἀγρῷ ἐν τῷ ὄρει ἐν τῷ ὁδῷ ἐν τῷ πλοίῳ ἐν τῷ θαλάσσῃ ἐν τῷ ἐρήμῳ ἐν τῷ πόλει ἐν τῷ οἴκῳ ἐν τῷ ὑπερῴῳ ἐν τῷ ἱερῷ ἐν τῷ συναγωγῇ ἐν τῷ ἀγορᾷ ἐν τῷ δικαστηρίῳ ἐν τῷ φυλακῇ ἐν τῷ ἀνάγκῃ ἐν τῷ θλίψει ἐν τῷ διωγμῷ ἐν τῷ πειρασμῷ ἐν τῷ ἀσθενείᾳ ἐν τῷ πτωχείᾳ ἐν τῷ πλούτῳ ἐν τῷ εὐφροσύνῃ ἐν τῷ λύπῃ ἐν τῷ ἀγάπῃ ἐν τῷ ἐλπίδι ἐν τῷ πίστει ἐν τῷ ἀληθείᾳ ἐν τῷ ζωῇ ἐν τῷ θανάτῳ ἐν τῷ ἀναστάσει ἐν τῷ κρίσει ἐν τῷ αἰῶνι τοῦ αἰῶνος ἀμήν.

ὑμᾶς ||| ἀφῆκε

Ἀφῆκε δὲ αὐτοῖς ἡ ἀπόκρισις ἣν ἀπεκρίθη ὁ Ἰησοῦς τῷ Πέτρῳ καὶ τοῖς ἄλλοις ἀποστόλοις ἐν τῷ ὄρει τῶν ἐλαιῶν ἐν τῷ ἡμέρᾳ ἐκείνῃ ἐν τῷ ὥρᾳ ἐκείνῃ ἐν τῷ καιρῷ ἐκείνῳ ἐν τῷ χρόνῳ ἐκείνῳ ἐν τῷ ἔτει ἐκείνῳ ἐν τῷ ἑορτῇ ἐκείνῃ ἐν τῷ σαββάτῳ ἐκείνῳ ἐν τῷ νυκτὶ ἐκείνῃ

せのきやうん すべて かその めんぜーもり ところの ものあれば をーん、いなーめ、さらす ことまるぎを まるぶ ことよ えるき あり。17これよりて かその ひとすべての よき ことを おこるぶ さらよ そるんくとれて まりさき ものと あーん。

さい 四 ちやう

いける ものと ちぜる ものとを さぜらうんと する ところの ゑす きりすとの あとそれと その まつりごとよ よりて かを おうび おうて まれ あんぢよ めりぎ、[2]みことぜを せりきやう せよ、おりある ときも おりあるとき これを つとめよ。もろもろの さんくーの ぴと をのぜぎ、めんりて ことなるとうめ、さらめよ。[3]ひとびと さざーるを をーんくるぎ ことを このむの さ〜 ありて おのれの わりする まーよ おるこの ゑーやうともを あうめ、[4]まさ その さ〜を まことより とわざけて むうーをるーよむきを めんんとぎげ きさ〜ん。[5]されど あんぢら すべての ことよ おりて めを さまー、くるーそを そのぴ、せりきやうよやの さ〜ときを あーそ あんぢの つとめを まりさふぜよ。[6]これら まさよ まつりよ せよれんとす、ひげ よを さるの ときい ちらきよあり。[7]これら よき さ〜らひを さ〜〜、ちんううを まるりさり。[8]さ〜ーるを さぜきやん あるを さその ものの ひよ おりて これよ さなそん ところの さざーきの めんもり いな よりて ひげ さめよ そるんくとる。これよ さまふ のを あとぜ、まさ すべて めれの あとそれを ちさふ ところのものうも さなそる あり。

[9]あんぢ すそやうよ ひれよ きさる ことを つとめよ。[10]でまn Demawe このを Tesalonikomi すてねきて てさろよけよ ゆけり。まさ Titova Dalmatinal くれすけんn Krsekenwa がよてやよ Galeštani i. t. Galiani ぬぎ、てといざるまて Markovo やよ ゆきさり、さらるのを ひれと Luke ともる。[11]あんぢ まることを つれて ともよ さされ、めれの つとめの さめよ ひれよ えるる あり。[12]ひれ てきこと えぺろよ つろそせり。[13]あんぢ きさる Tiksikovo Efesoni Trosimo ところあそよ ある かるや Karpono のうんよ ひげ のさー おきさる うそき、おうび ちよふめろ、とりさけ あめーげその わんを ゆちきされ。[14]あろくけねーの あれきさん Aleksandrewa でるn ひれよ ゆろゆろの あーる ことを あんせり。[15]そのを おこるひよ ちさくふて これよ むくひ さまもん。[16]ひれ ぢる これよ きを つけよ、めれの おるひよ ひれとの そーくよ さろふくり。[17]ちられとる えとめ うりさんよ ころゆる とるき されも ひけ そるさ ひれを すて ねげふ。

きこ とれと とゆよ さちて とれを つふめり。そい せりきやうの こと とれよ よりて
まりさく つさもり、めつ いとん そゐ きうんち さめ あり。ちうして とれん そうの
くち より すくひ いさされくり。[18]きそん まく すべその あくと より とれを
すくひ いさして その てんの そくるく いれを まゆり さまそん。
えらうん めれよ さして よく ちんさらよ いくとん・あめん。
[19]あんぢ びりもう、おくら おふび かねーやろの [Onaidorono] いんの ゆのとゆよ よろしく
ゆうを。[20]えらもとれ [milezoni] てりんとよ とうまる [Tridimowa] やめうを ゆりて
とれ これをれとよ [Yubio] のこをり。[21]あんぢ ふゆの まへよ とれよ さくる ことを
つとめよ。ゆぶろ あんぢよ よろしく ゆうを [Pudem, Lino, Klaudia] [1,9, nosesa] でや おふび ちよ
きやうさらの そゐ ちうり。[22]ねがもくん [5,6,7,9, "amen" wo kuwayeri] きそ（ゑすきりすと）あんぢの さまと
とゆよ あり、みめくを あんぢとと とゆよ あとん ことを。

もうろ てとよ おくれる ふを

さら 一 ちやう

[説教 sekyouni] よゆる よの まへよ いつさり あきの かを めさり あき いのちを やく
そくん、めつ ときよ おふびて その ことをを せりきやうよ おのて
あとをーられど [2]とれとの きくの ちゐんの [mini] かそのの めのよ よりて その せりきや
うの つとめを まうせられる ところの かそのの ちゐん、[3]すゐもち かそのの えとび
ととをーて その めぐり あき いのちを のそむ ことよ つのて ちんうを えゐしめ
めつ ちんとんよ ある ところの まことを ちーやと あれる とれを [Paulo] たうろ [4]とれとと
まことの こある [Tiioni] てとよ ふうを おくる。ねがもくん、ちく ある かそと とれとの
すくひの [5,7,9, megumi, awaremi, odayaka] ちよ めぐを おふやう [itaru] あとん ことを。
[5]とれ あんぢを [Kotomi] くれてよ とうめ おきーい あんぢをして めくる ところの ことを
さきめーめ めつ ひゲ めの ゆーー でとく まちまちよ おのて とーふりとゆを さて
ーめんゲ さめ あり。[6]とーふりん とゲ ゆを ことを あく、ひとりの つまの をりと

ふくいん、ふかいん、ふかい、ふかいこと、ふかいこと、ふかいこと

おのれの そそのかし、よきを おこなひ、めうん ことを すらめよ。[6]まこと どうき ひとん ひろんめ ある やうよ これを すら めて、[7]あんちも そのうと すべての ことよ おのて よき おこなひの てあんと あり、そーんよ おのての いさぎよき ことを あとそそよ。[8]そん、めうきの ものを えやーて そのうと べー。

[9]ちやべん その ちゆとうよ ふくーて すべての ことよ おのて これを よろこを しめ、いひけす ことと せず、そこここー せず、[10]そら まりこき ちうぎを あとそす やうよ これを すらめよ。そん、めれとの すべての ことよ おのて どれとの すくひ ぬーある おその をーんを めぐる ことを えん さめ あり。

[11]すべての ひとびとの すくひを うべき かその めくそん すぐよ あとそれて [12]どれとげ ふーんとんと せけんの よろこを すてー、そーきを よく、そらーく まこ ちうとんーて この よを どうり、[13]めうの のぞむ ところの さのそひと おわひある かを どれとの すくひぬーある おすきりすとの えのうの あとそれを まこん

ことを をーゆ。[14]めれん どれとを あげきふて ゆろゆろの つと より いさー、めうの ねりーんを ゆりて せんを おこなふ もの すきそち おのれよ ぞこする ささを きよめんげ さめよ おのれの そを さこりけり。[15]あんちも これとの ことを めうり すこめ、めうの すべての けんを ゆりて いさめよ。それるも あんちを めろーあする ことを をーゆ。

さら 一 ちやう 三 ちやう

あんちも ひとびとを すこめて、そはの まさけんある よ ふくー、つこさよ そこげひ、ゆろゆろの せんを おこなふ ことよ よろこを あー、[2]ひとを そーしき、あとそひきそそ、さら そのひて ひとびとよ すべての こうとを あとそさん ことを おげく よくと さのーそよ つこん、うとき ねこそを ゆりて よを どうり まくむ べき ものさんせよ。[3]ひろー どれとも おろう、そりき、まこひこる ものーて ゆろゆろの [4]されと どれとの すくひぬー ある かその めうの あのこそひよ まくあり。 めぐそと あんけんを あのする あいさる こよーきの おこなひよ よとそ、[5]めれ どれとげ あー おのれの あそれそよ おこなふて

ἐκ τοῦ ἀγροῦ ἐκείνου. 9 καὶ ἐγένετο ἐν τῇ ἡμέρᾳ ἐκείνῃ, καὶ ἐκάθισεν ὁ ἄρχων ἐπὶ τὸν τόπον αὐτοῦ τοῦ κρῖναι τὸν λαὸν αὐτοῦ, καὶ ἔστησαν πρὸ προσώπου αὐτοῦ πάντες οἱ ἐπιστάται καὶ οἱ γραμματεῖς αὐτοῦ. 10 καὶ ἐθεώρησεν ὁ ἄρχων τὸν λαὸν αὐτοῦ καὶ εὗρεν ἐν αὐτῷ ἄνδρα ἀγαθὸν καὶ δίκαιον καὶ ἐκάθισεν αὐτὸν ἐπὶ τὸν τόπον αὐτοῦ καὶ ἐκάλεσεν τὸ ὄνομα αὐτοῦ Νικόπολιν. 11 καὶ ἐκάλεσεν αὐτὸν ὁ ἄρχων καὶ εἶπεν αὐτῷ· Ἄπελθε καὶ κάθισον ἐν τῷ τόπῳ μου καὶ ἐγὼ πορεύσομαι ἐν τῷ ἀγρῷ σου. 12 καὶ ἐκάλεσεν τὸ ὄνομα τοῦ ἀγροῦ Ἄρτεμα καὶ ἐκάλεσεν τὸ ὄνομα τοῦ ἀγροῦ Τικικωβ καὶ ἐκάλεσεν τὸ ὄνομα τοῦ ἀγροῦ Νικόπολιν



そうろ ひれもんよ おくれる あと
Patoto

すきりすとの さめよ めーうとと きゃうさのの てもて
Timote

あのそとる〜 とうやく ひれもん きゃうさのの おりひや、
Hirmon 1, 2, 5, 6, 8 onna kyoudai Anpin

ひれとの とうと わるき おとうと ひれもん おとうと
Anbo

ふそを おとろ。 ねげそくん、 ひれとの ちく あるを おとうと
4

あんぢとよ めらを おさやう あとん ことを。

4 ひれ あんぢけ きそ おすよ むうふて ゆとる ところの あのと をんろうの
5

ことと すべての きふき ものよ これを おとそ きふられば あり。 ゆえよ
8

あんぢを おもひ いよー つねよ ひげ かそよ ちやーて。 あんぢけ とゆよ あひうろ
ところの をんろうん ひれとけ きりすとよ ありて ゆとる すべての よき ことを
ひとびとよ をとーめて えきする ものと あとん ことを ねげふ。

7 きやうさのよ、 ひれ あんぢの あのの さめよ おわひよ よろこび をさめり。
そん きふき ものく ところ あんぢよ よりて やすんせられば あり。 8 ゆえよ
ひれ きりすとよ おのて さのさんをーて よろーきよ めんる ことを あんぢよ
めのと うると いんとゆ。 あのの ゆえを ありて めんぢよ ねげふ。

10 ひれ らうとん をうろ いま おすきりすとの さめよ めーうとと あれる めくの
Onedimono

ことき ものの あそめの うちよ おのて うそーところの ひげ こ ねーもの さめよ
あんぢよ ねげふ。 11 めれん めつて あんぢよ うそーところの ひげ こ ねーもの さめよ
いまん あんぢと ひれとよ えき あり。 12 ひれ めれを
1, 3, 11, waga kandano gotokunnicte kayeu, waga

これを ひげ めとさの ごとくをーて うけふ。 13 ひげ ふくのんの さめよ うくる
ところの あそめの うちよ おのて めれ あんぢよ めそりて ひれよ つうゆる やう
ひれ これを とうめ おうんと あり をり。 14 されと あんぢの おやうち あるん ひれ
めくする ことを この まを。 それ あんぢの よき ことん やもを えをさるよ よとを、 そう
こころの あり をる あとんげ さめ あり。 15 それ めれげ おそとくん うけん さめ あり。
あんぢを えあれーん おそとくん あんぢよ ちやんべを こえて あらせとる〜 きやう
16 されと ゆそや おゆべの ごとく あとを、 ちやんべを こえて あらせとる〜 きやう
さん すをそち おくるのと きその ことよ つうて そをる ひれよ あらせとれ、 まー
て あんぢよ あらせとる〜 きやうさのの ごとく あるべー。 17 あんぢ ゆー ひれを
とゆと せて ひれを うくるげ ごとくよ
ふきを あをー こと あるひん おふ ところ あとん これを ひれよ きす べー。 19 ひれ

ヘブル人への手紙

1, 4, 6, 7, 9, amen.

25 恵みがあなたがた一同と共にあるように。アーメン。

Marko, Aristarko, Dema, Luka

23 兄弟テモテが釈放されたことを知っておきなさい。もし彼が早く来れば、私は彼と一緒にあなたがたに会うことができるでしょう。24 あなたがたの指導者たち全員と、すべての聖徒たちによろしく。イタリアから来ている人たちがあなたがたによろしくと言っています。

Epafra

25 恵みがあなたがた一同と共にあるように。アーメン。

5, 7, 10, onorewo motte ; 1, 2, 3, ii, noseru

神を礼拝しなさい。*

Çi 104 : 4

7 シオンについては、こう言われています。

「神は風を使者とし、
燃える火を仕え人とされる。」

Çi 2 : 7

8 しかし御子については、こう言われています。

「神よ、あなたの王座は永遠に続く。
あなたの王国は正義の王国である。
9 あなたは義を愛し、悪を憎んだ。
それゆえ神、あなたの神は
あなたの仲間の誰よりも
あなたに喜びの油を注いで
あなたを祝福された。」

2 Sam 7 : 14

10 また、

「主よ、あなたは初めに地の基を置かれました。
天もあなたの御手のわざです。
11 それらは滅びますが、あなたは存在し続けます。
それらはみな衣のように古くなります。
12 あなたはそれらを上着のように巻き取ります。
すると、それらは変えられます。
しかしあなたは変わることなく、
あなたの年は決して終わりません。」

13 神は御使いたちのだれに対して、

「わたしがあなたの敵を
あなたの足台とするまで、
わたしの右の座に着いていなさい。」

と言われたことがありますか。

14 御使いたちはみな、仕える霊であって、救いを受け継ぐ者たちのために遣わされているのではありませんか。

あー、そのつくゐるものとものを ものの わのをと あすと いくり。[8]されと むすこうん
のく いふ、かそよ、あんぢの くとゐるん よゝ
まろりごとの つえん さとーきの つえ あり。
あーきを まくめり、ゆあよ かそ すあもち あんぢの かそい あんぢの ともよ
あぶとを つくる よりも あさりて おろくびの あぶとを あんぢよ つけ さまくり。
10まく いくり、[Cf. 109, 25]きそよ、あんぢん そとめよ ちのは とさのを おけり、てんも あんぢの
ての ひぎ あり。[11]これとん わろびん、されど あんぢん つねよ あげとんへん。これ
とん そる きもの〜 ふるびる ごとく ふるびん、[12]あんぢ これを ころもの ごとくよ
つくもさる〜 ところの つくくる さまよ あとくぎや。

さい 二 ちやう

この ゆあよ ひれと きゝ〜 ところの こと よりて すべとぎる やう いふものよ あらく

これを つくーむ べき あり。[2]ゆー つくひさ よりて いひ さまひー ことを
めさく さち、まる そむく こと〜 ちるゲそ うけー ことごとく さとーき
むくひを うけー あとび[3]ひれと この おそりまーて
いふを のゲる〜 ことを えんや。 この すくひの のべ
さまひー ところまーて これを きゝ〜 ものとも ひれとよ あるー せり。[4]めつ
かそも おのれの みごころよ ちるゲひ ちるー、ふーき まく さまぎまの ちふとの
ひぎ おるび きるまを ひけ あるふる ことを ゆくて めれとと ともよ
あるーを うて さまくり。[5]ひれとゲ いふ ところの きるとんと する よん かそ
これを つくひ さちよ ふくさをぎりま。[6]ひとり ある へんよ おのて あるーを
さて〜 いくり、あんゆんを これを こころよ とむるや、
ひとの むすこを これとーて これを めんりそ あるふる。[7]あるさん これをーてつくひ
さち よりも すてーく おととーめ、これよ さちえと わなれの かんりを めふとを
めつ あるさの てのの つくりー ゆの〜 うんよ [1, 3, 4, 5, 10, ii, kotaru onotano tono takuriçi muzuno uyeni koreowo tatete; 2, 7, 9, nonoshi]
あーの さるよ ふくさを さまくりと。すでよ [Cf. 109, 25]
されば めまとや これよ あるふをーて のこる ものを あー。[8]されど ひれとん

あなたは 11 エッサイの 株から 芽が 出て、
その 根から 若枝が 育ち、
2 その 上に 主の 霊が とどまる。
知恵と 悟りの 霊、
思慮と 力の 霊、
主を 知り、 主を 恐れる 霊。
3 その 喜びは 主を 恐れることにある。
その 目は 見て 裁かず、
その 耳は 聞いて 判決を 下さない。
4 弱い 者を 公平に 裁き、
この 地の 貧しい 者を 正しく 判決する。
その 口の むちで 地を 打ち、
その 唇の 息で 悪者を 殺す。
5 正義を その 腰の 帯とし、
誠実を その 身の 帯とする。
6 狼は 小羊と 共に 宿り、
豹は 子やぎと 共に 伏す。
子牛と 若獅子と 肥えた 家畜が 共に いて、
小さな 子どもが それを 導く。
7 牛と 熊が 共に 草を はみ、
その 子らが 共に 伏し、
獅子も 牛も 同じように わらを 食べる。
8 乳飲み子が 毒蛇の 穴の 上で 戯れ、
幼子が まむしの 巣に 手を 入れる。
9 わたしの 聖なる 山の どこにおいても
これらの ことは 行われない。
海を 覆う 水のように
主を 知る 知識で この 地は 満たされる。
10 その 日が 来れば、
エッサイの 根は
すべての 民の 旗印として 立てられ、
国々は これを 求めて 集い、
その 置かれる ところは 栄光に 輝く。
11 その 日、 主は 再び 御手を 伸ばして、
御自分の 民の 残りの 者を
アッシリア、 エジプト、 パトロス、
クシュ、 エラム、 シンアル、
ハマト、 海の 島々から
買い戻される。
12 主は 国々の ために 旗を 掲げ、
イスラエルの 追われた 者を 集め、
ユダの 散らされた 者を
地の 四隅から 呼び 寄せられる。
13 エフライムの ねたみは 去り、
ユダを 敵とする 者は 断たれる。
エフライムは ユダを ねたまず、
ユダは エフライムを 敵としない。
14 彼らは 西の ペリシテの 肩に 襲いかかり、
共に 東の 人々を 略奪し、
エドムと モアブに 手を 伸ばし、
アンモンの 人々を 従わせる。
15 主は エジプトの 海の 入り江を
滅ぼし尽くされ、
大河の 上に 御手を 振り上げ、
熱風によって
七つの 流れに 打ち分けられる。
人は 皆 履き物を 濡らさずに
渡ることが できる。
16 エジプトから 出て 来る
御自分の 民の 残りの 者のために
アッシリアに 大路が 敷かれる。
イスラエルが エジプトから
上って 来た 日のように。

12 その 日、 あなたは 言う。
「主よ、 あなたに 感謝します。
あなたは 怒られましたが
その 怒りは 去り、
慰めてくださいました。
2 見よ、 神は わたしの 救い。
わたしは 信頼して 恐れない。
主なる 神は わたしの 力、
わたしの 歌。
神は わたしの 救いとなられた。」
3 あなたたちは 喜び 祝って
救いの 泉から 水を 汲む。
4 その 日、 あなたたちは 言う。
「主に 感謝せよ、
御名を 呼べ。
諸国の 民の 間に 御業を 知らせよ、
御名が 高められていると 告げよ。
5 主に ほめ 歌を 歌え、
主は 輝かしいことを なさった。
これを 全地に 知らせよ。
6 シオンに 住む 者よ、
喜び 叫べ。
イスラエルの 聖なる 方は
あなたたちの 中で 大いなる 者。」

諸国の民への託宣

13 アモツの 子 イザヤが
バビロンについて 受けた 幻。
2 禿げた 山の 上に 旗を 掲げ、
彼らに 呼びかけ、
手を 振って 合図せよ。
貴族の 門に 入れ。
3 わたしは 聖別した 者たちに 命じ、
勇士たちを 呼び寄せ、
わたしの 怒りを 実行させる。
わたしの 誇りとする 者たちを。
4 山々に 大勢の 民の
騒ぐような 音がする。
諸国の 王国の
集まる 音がする。
万軍の 主が
戦いに 備えて 軍勢を 召集される。
5 彼らは 遠い 国から
天の 果てから 来る。
主と その 憤りの 武器が
全地を 滅ぼすために 来る。
6 泣き叫べ、
主の 日が 近づいた。
全能者の 破壊として 来る。
7 それゆえ、 すべての 手は 力を 失い、
すべての 人の 心は 溶ける。
8 彼らは 恐れおののき、
苦しみと 悩みに 捕らえられ、
産婦のように もだえ、
互いに 驚いて 顔を 見合わせる。
その 顔は 燃えるようだ。
9 見よ、 主の 日が 来る。
残酷な 日が。
憤りと 燃える 怒りの 日が。
この 地を 荒れ果てさせ、
罪人を 滅ぼし尽くす 日が。
10 天の 星と 星座は
光を 放たず、
太陽は 昇っても 暗く、
月は その 光を 輝かさない。
11 わたしは 悪のゆえに 世を 罰し、
罪ゆえに 逆らう 者を 罰する。
傲慢な 者の 誇りを 打ち砕き、
横柄な 者の 高ぶりを 挫く。
12 わたしは 人を 純金より 稀にし、
人を オフィルの 金より 稀にする。
13 それゆえ、 わたしは 天を 揺り動かす。
万軍の 主の 憤りと
燃える 怒りの 日に、
大地は その 基から 揺り動かされる。
14 彼らは 追われる 獣のように
飼う 者の いない 羊のように
それぞれ 自分の 民の 方へ 向かい、
それぞれ 自分の 国へ 逃げる。
15 見つかる 者は 皆 突き刺され、
捕らえられる 者は 皆 剣に 倒れる。
16 彼らの 子らは 目の 前で
打ち砕かれ、
家は 略奪され、
妻は 辱められる。
17 見よ、 わたしは メディアの 者を
彼らに 向かって 奮い立たせる。
彼らは 銀を 顧みず、
金を 喜ばない。
18 弓は 若者を 撃ち殺し、
胎の 実を 憐れまず、
子らを 慈しみの 目で 見ない。
19 バビロンは 王国の 誉れ、
カルデア人の 誇りの 美しさ。
神が ソドムと ゴモラを
滅ぼされたように
20 そこは 決して 人が 住まず、
代々に わたって 人が 宿ることは ない。
アラブ人も そこに テントを 張らず、
羊飼いも 群れを 休ませない。
21 荒れ野の 獣が そこに 伏し、
山犬が 家に 満ち、
だちょうが そこに 住み、
毛深い 獣が 跳ね回り、
22 山犬が 城の 廃墟に
ジャッカルが 宮殿に 吠える。
バビロンの 時は 近づき、
その 日々は 長くは ない。

ありき。 どれよ ゆー そそりよ いくる まそ
のぞそ のぞその ちんうえと よろこひとを
7そん、きゝき みくま めくの でとく いんり
こあをときうん 8まんぢよの こころをめくこあ
とき すあそち のよ ありて こころそくる ひよ
9めーくよ おりて まんぢよの せんぢくちん
ちよう ねんの あひと どケ どきを そくり。
おさのの ひとを いうりて いんり、めれよん
ちよとさりき。 11こくよ おりて どれ いきとあ
いる ことを えきと ちうんり。 12きやうさの
うの あーき こころを いづきて いける かを
つくーむ べー。 13まく まんぢよの うち これも
あよ あよぢる やう ひづ けつとあゆる うち
ゆー そよめの ちんうえを そそりよ いくる
きりをとの くそあひの もの さり。 15けく

まんぢよの こころを めくこあるーて むうーい
ごとく する ありれと 16いくる ことをの そ
ふれーもの うちの その こあを きくて みりうりよ
すべての ものよ あよきや。 17まく ちよう わ
いうり くまひーや。 つくを おうーて そ
あよきや。 18まく めれよん どケ やすそよ い
ちうよ これよ むうひて ちうひ くまひーや
いる ことを えきりーん ふーんうよ よる
19これよ よりて それば めれよケ あり。

さら 四 ちやう

このゆあよ そのの やすそよ いるの やくそくん いあも あや のこれば まんぢよの
うち あるひん これよ おとをぎる もの あよん ことを どれよ おそる べー。 2さの
そひの おとづれん めれよのべよるーでとく どれよるものべよるー あり。 されど
めれよケ くくーー そこうの ことをいきくーー
ゆあよ めれよよ えきき ありき。 3どれよ
えん。 この やすそよ つのそん、めれ いひ さまくり、いそく、どれ いきとうりを

もりて ちうひー ことを、めれよん ひげ やすそよりの ひざ よりの やすを おく ところの ひざ よりの やすを あり。[4]ある するそち せうりの もとるを おく ところの ひざ よりの やすを あり。[4]ある へんよ あぬうめの ことよ つりて めくいんくり、かを あぬうめよ そのすべての いんくり。[5]まこと ことよ、めれよん ひげ やすそよ いる ことを ええと ひざ よりも やすめりと。[5]まこと ことよ、めれよん ひげ やすそよ いる ことを ええと いんくり。[6]されど めるよぶ これよ いる べき ものの あり。そうるよ まけ さらそひの おとられを のべうるくよれー ものとるん ふーんうの ゆあを もりて いる ことを えぎりき。[7]この ゆあよ ひさーく へそのちまく ひを さすめて けんと いひ、まんよ いんくる ことく、けふ あんぢと ゆーそのこあを きうんよ あんぢとの こころを めくるあよ する あられと さびでよ Dabideni よりて いひ こまんくり。[8]ゆー よーゆあ Yoqua めれとを やすまんやー あふべ のちよ わうのの ひを いそぎる べき あり。[9]されど やすそん かそのの こころよ いる ものん かそのの おのれの ひざ よりも やすそよ いる ことく めれるも その ひざ よりも やすむ あり。

[11]この ゆあよ ひれと これるも めの あーそんうの あとを ふそて さとく せぎる やう そのも やすそよ いる ことを そけむ べー。[12]それ かそのことをん いける めり つるき ものるーて ゆろその つるき よりも することく、まる いのちと さま、ふー ぶーと こうぎのを さーとそーて これを ひれ ひをそるくる ものあり。[13]まく ゆのとーて かそのの まんよ あとそれぎるん あー、すべての ものん ひれとげ うつさんを さをく ものー めの まんよ そぎうるて あとそる〜 あり。

[14]ひれとん すべよ てんの こうきよ のぶりくる こうとも さらさらのー すあそち めこその むすこ あれど ひれとげ いんりくる をーんを のるく べー。[15]そん、ひれとの さのさらのーん ひれとの よそるる ゆのよ あとぶ・めれん すべての ことよ おりて ひれとの ごとく ところ そとれくり、そぶ つこ あも のこ。[16]ゆあよ ひれと あそれそを うけ めり おりよも ときよ こすけの めそそを うる やうよ そぎの まんよ いくる べー。

さの五 そやう

ひとの あう よりえとまる〜 ところの すべての さらさらのーん ひとの さめよ かそよ つく ことを まんせとれて そをん ゆの いけまんを さーぐる ゆの あり。[2]めれも そんうと よそきよ まとそそよ よりておろう ある まよんくる

1 この メルキゼデクは サレムの 王で、
いと高き 神の 祭司でした。
アブラハムが 王たちを 打ち破って
帰って来たとき、彼を 迎えて
祝福しました。 Melkisedekuno
2 アブラハムは 彼に
すべての 物の 十分の一を 分けました。
メルキゼデクという 名前は、
まず、「義の 王」という 意味であり、
次に、「サレムの 王」という 意味であり、
「平和の 王」という 意味です。
3 この 人には、父も 母も
先祖の 系図も ありません。
その 生まれも 死にも
記されていません。
この 人は、神の 子に
似ている 者で、いつまでも
祭司で いるのです。
4 この 人が どれほど
偉大な 者であったかを
考えてみなさい。
族長の アブラハムでさえ、
戦いで 得た 最上の 物の
十分の一を 彼に 分けました。 Çi 11:4 Melkisedekuno
5 レビの 子孫で
祭司の 務めを 受ける 者は、
律法に 従って、
民から 十分の一を
取ることが 定められています。
彼らは 同じ 民族の
アブラハムの 子孫です。
6 しかし、この メルキゼデクは
レビの 子孫では ありません。
それでも、アブラハムから
十分の一を 受け取り、
神の 約束を 受けた
アブラハムを 祝福しました。 Aaronno
7 だれでも、
祝福する 者は
祝福される 者より
偉大であることは
明らかです。 Melkisedekuno
8 十分の一を 受ける
レビの 子孫は
死ぬべき 人間ですが、
メルキゼデクは
生きておられると
聖書に 記されています。
9 また、十分の一を
受ける レビ自身も、
アブラハムを 通して
十分の一を 分けたと
言うことが できます。
10 なぜなら、メルキゼデクが
アブラハムを 迎えたとき、
レビは まだ
アブラハムの 体の
中に いたからです。

あいさつ をおくりました。 18 メルキゼデクは パンと ぶどう酒を もって
きました。 メルキゼデクは いと高き 神の 祭司でした。 19 メルキゼデクは
アブラムを 祝福して 言いました。
「天と 地を 造られた いと高き 神が
アブラムを 祝福されますように。
20 敵を あなたの 手に わたされた
いと高き 神に 賛美が ありますように。」
アブラムは すべての ものの 十分の一を メルキゼデクに 与えました。
21 ソドムの 王は アブラムに 言いました。
「人を 私に 返してください。
しかし 財産は あなたが 取ってください。」
22 アブラムは ソドムの 王に 言いました。
「私は 天と 地を 造られた
主、いと高き 神、ヤハウェに
誓います。 23 糸一本でも
あなたの ものは 取りません。
あなたが 『アブラムを 富ませたのは 私だ』と
言うことの ないように。 24 ただ 若い 者たちが
食べた ものと、私と 一緒に 行った 人たちの
分け前は 別です。 アネル、エシュコル、
マムレの 分け前は 取ってください。」

9, sono aino kurouwo

神の 約束

15 これらの ことの 後、 幻の 中で
主の ことばが アブラムに 臨みました。
「アブラム、恐れるな。
わたしは あなたの 盾、
あなたの 受ける 報いは
非常に 大きい。」
2 アブラムは 言いました。
「神、主よ、
私に 何を 下さるのですか。
私は 子が ないまま 死んで行く
者です。
私の 家の 相続人は
ダマスコの エリエゼルです。」
3 アブラムは また 言いました。
「ご覧ください。
あなたは 私に 子孫を
下さいませんでした。
ですから 私の 家の 者が
私の 相続人に なります。」
4 すると、 見よ、
主の ことばが 彼に 臨みました。
「この 者が あなたの 相続人に
なるのでは ない。
あなたの 身から 出る 者が
あなたの 相続人に なる。」
5 主は アブラムを 外に 連れ出して
言われました。
「天を 仰いで、
数えられるなら 星を 数えて
みなさい。」
また 言われました。
「あなたの 子孫は
このように なる。」
6 アブラムは 主を 信じた。
主は それを 彼の 義と
認められた。
7 また 主は 彼に 言われました。
「わたしは この 地を
あなたに 与えて、
あなたに 所有させるために、
カルデヤ人の ウルから
あなたを 連れ出した
主である。」
8 アブラムは 言いました。
「神、主よ、
私が それを 所有する
ことを、
何に よって 知ることが
できましょうか。」
9 主は 彼に 言われました。
「わたしに 三才の 雌牛と、
三才の 雌やぎと、
三才の 雄羊と、
山鳩と、
鳩の ひなを
持って 来なさい。」
10 アブラムは これらの ものを
みな 持って 来て、
それを 真二つに 切り裂き、
その 半分を
互いに 向かい合わせに
置いた。
しかし 鳥は 切り裂かなかった。
11 猛禽が その 死体の 上に
降りて 来たが、
アブラムは 追い払った。
12 日が 沈もうと する ころ、
アブラムに 深い 眠りが
臨んだ。
見よ、
恐怖と 大いなる 暗やみが
彼に 臨んだ。
13 主は アブラムに 言われた。
「あなたは 確かに 知って
おきなさい。
あなたの 子孫は
自分たちの ものでは ない
国で 寄留者と なり、
彼らは その 国の 人々に
仕えるので、
その 人々は 四百年の 間、
彼らを 苦しめる。
14 しかし、
彼らが 仕える その 国を
わたしは さばく。
その 後、
彼らは 大きな 財産を
持って 出て来る。
15 あなたは 安らかに
あなたの 先祖たちの ところに
行き、
長寿を 全うして
葬られる。
16 四代目の 者たちが
ここに 戻って来る。
エモリ人の 咎が
まだ 満ちて いないからだ。」
17 日が 沈んで、
暗やみに なった とき、
見よ、
煙の 立つ かまどと、
燃える たいまつが
現われ、
それが 切り裂かれた
動物の 間を
通り過ぎた。
18 その 日、
主は アブラムと 契約を
結んで 言われた。
「わたしは この 地を、
エジプトの 川から
あの 大河、
ユーフラテス 川まで、
あなたの 子孫に
与える。
19 ケニ人、
ケニズ人、
カドモニ人、
20 ヘテ人、
ペリズ人、
レファイム人、
21 エモリ人、
カナン人、
ギルガシ人、
エブス人の 地を。」

Son 22:17

そのめうきやぐらの あをとけば まび さらーきの ごとう、つぎよ されねの ごとう、すなもち おさやうの ごとう あり。[3]のれん ちく あく、そく あく、けのび あく、まく そとめの ひ あく、いのちの をそり あくまよ めごとれて つねよ さらーさる ものの あり。[4]せんぞ あぶらとねの おうぶんの いちを あるくく ところの そのひとの ごとん いうぞうりあるうを おもふべし。

[5]Letino れびの おそんの うち さらーの つとめを うくる ものん おきてよ おうぶんの いちを とる ことよ つまこ より おうぶんの いちを とる ことよ つまこ そのこそん おのれの きやうぶさの ものと あぶらとねの こと ものと いんとる のれとよ より これを とる べき めのを うけり。[6]されどこの ちすぐよ あらざる ものの あぶらとねより おうぶんの いちを とりて やくそくを のうねりー その ひとを そくせり。[7]おとれる ものく まされる ものよ おくさる ことよ あり。[8]こくよ おのれん ろん あま べき ひととび おうぶんの いちを うく、のーこと おのそん のれけ いけるを あらー せとれさり。[9]まく おうぶんの いちを うけー ところの れびる あぶらとねより おうぶんの いちを おさめりと いうる のあり、[10]いうんと あれん めるきやぐらく あぶらとねより あひー そのせんぞの こーよ ありされん あり。[11]こくん れびの すぐあるる さらーの つとめよ より おきてを うけて ゆー このつとめよ よりて まくさる ことよ あらん ゆあよ あくろんの くとるとる あるわうの さらーの おくろん ごとく とあんとれやーてめるきやぐらの くとるを えうこうう あるさう。[12]すぐよ さらーの すぢ のそれば おきてもまく めそとざるを えんや。[13]これよの ことん さらざんよ つとめくる ものを さーて いんり。[14]それよの きそのものを さーて いんり。このぞくよ つのそん ゆうを さらーの ゆー めるきやぐらぐよ まくる わうの さらーすあそちまくくらの おきてその のりよ さくげんて そそとれやーて [15]まく、[16]そそり あるる ものの おくる ことん あとん おきてその のそる ものよ いうらよ あきとう あり。[17]そん、あんぢん めるきやぐらぐの くとるよ をあらー せとるれば あり。[18]のりん あるごとをめ そのよそきと むえる あるとよ よりて そのぞそ するもち それとげ かそよ ちうふる ところの のぞそを まうけとれくり。

ゐるの者、無花果の樹より譬を學べ、その枝既に柔かくなりて葉を生ずる時は、夏の近きを知る。
33 斯のごとく汝等も此の事を皆見ば、人の子の近づきて戸口に在るを知れ。
34 誠に汝等に告ぐ、此の事皆成るまでは、此の代滅びざるべし。
35 天地は過ぎ去らん、されど我が言は過ぎ去ることなし。
36 但その日その時は、天の使等も子も知らず、ただ父のみ知り給ふ。
37 ノアの日のごとく、人の子の來るも然るべし。
38 洪水の前の日には、ノアの箱舟に入る日まで、人々飲み食ひ、娶り嫁ぎなどしゐたりしが、
39 洪水の來りて皆を滅ぼすまでは知らざりしごとく、人の子の來るも然るべし。
40 その時二人畑に在らば、一人は取られ一人は遺されん。
41 二人の婦人臼を挽かば、一人は取られ一人は遺されん。
42 されば目を覺ましゐよ、汝等の主の何の日に來るか知らざればなり。
43 家主は盜人の夜の何の時に來るかを知らば、目を覺ましゐて、その家を穿たせざるべきを知れ。
44 されば汝等も備へをなせ、思はぬ時に人の子は來るなり。
45 誰か忠實にして賢き僕にして、主人その家の僕どもを治めさせ、時に及びて食物を與へしめんとて、
46 立てたるや。主人の來りて、その如くなすを見る僕は幸ひなり。
47 誠に汝等に告ぐ、主人その僕を立てて、その凡ての物を治めさせん。
48 されど惡しき僕にして、心に思はく、主人の來ること遲しとて、
49 その同僕どもを打ち、酒飲みどもと食ひ飲みなどせば、
50 その僕の思はぬ日と知らぬ時とに、主人來りて、
51 嚴しく罰し、その分を僞善者どもと同じくせん。彼處にて哭き齒を切ることあらん。

25 その時天國は十人の童貞女の、その燈火を取りて、新郎を迎へに出でたるに似たり。
2 その中五人は愚かにして、五人は賢かりき。
3 愚かなる者は燈火を取りしが、油を携へざりき。
4 賢き者は燈火と共に器に油を入れて携へたり。
5 新郎の遲かりしかば、皆まどろみて寢ねたり。
6 夜半に及びて呼ばはる者あり、曰く、新郎來れり、出でて迎へよ。
7 ここに童貞女皆起きて、その燈火を整へたるに、
8 愚かなる者は賢き者に曰ひけるは、我等の燈火消えんとす、油を我等に與へよ。
9 賢き者答へて曰ひけるは、我等と汝等とに足らざらん事を恐る、寧ろ賣る者の許に往きて、己が爲に買へ。
10 彼等の買ひに往きたる間に、新郎來りたれば、備へありし者は、共に婚禮の筵に入りたり、而して門は閉ぢたり。
11 その後他の童貞女も來りて、主よ主よ、我等のために開き給へと言ひしかど、
12 答へて曰ひけるは、誠に汝等に告ぐ、我汝等を知らずと。
13 されば目を覺ましゐよ、汝等その日その時を知らざればなり。
14 また譬ふるに、天國は人の旅に出でんとするに、その僕どもを呼びて、その財産を預けたるに似たり。
15 即ち各人の才能に隨ひて、一人には五タラント、一人には二タラント、一人には一タラントを與へて旅に出でたり。
16 五タラントを受けたる者は、往きて之を用ゐて、他の五タラントを儲けたり。
17 二タラントを受けたる者も、同じく他の二タラントを儲けたり。
18 一タラントを受けたる者は、往きて地を掘り、その主人の金を隱しおきたり。
19 久しくして僕どもの主人來りて、彼等と計算をなしたるに、
20 五タラントを受けたる者は、他の五タラントを携へ來りて曰ひけるは、主よ、我に五タラントを預け給ひしが、見給へ、他の五タラントを儲けたりと。
21 主人その僕に曰ひけるは、善き哉忠實なる僕よ、汝は少しの事に忠實なりしかば、我多くの事を汝に委ねん、汝の主人の喜びに入れ。
22 二タラントを受けたる者も來りて曰ひけるは、主よ、我に二タラントを預け給ひしが、見給へ、他の二タラントを儲けたりと。
23 主人その僕に曰ひけるは、善き哉忠實なる僕よ、汝は少しの事に忠實なりしかば、我多くの事を汝に委ねん、汝の主人の喜びに入れ。
24 一タラントを受けたる者も來りて曰ひけるは、主よ、我は汝の嚴しき人にして、播かざる處より刈り、散らさざる處より集むるを知りたれば、
25 懼れて往きて、汝の金を地に隱しおきたり、見給へ、汝の物を返すなりと。
26 主人その僕に答へて曰ひけるは、惡しき怠惰なる僕よ、我の播かざる處より刈り、散らさざる處より集むるを知りたるか、
27 然らば我が金を兩替人に預けおくべかりしなり、さすれば我歸りて、我が物を利息と共に受けたるならん。
28 されば彼より一タラントを取りて、十タラントを有つ者に與へよ。
29 凡て有つ者は與へられて愈豐かになるべし、されど有たざる者は有つ所をも取らるべし。
30 この無用の僕を外の暗きに逐ひ出せ、彼處にて哭き齒を切ることあらん。
31 人の子その榮光を以て、凡ての御使等を率ゐて來る時は、その榮光の座に就き、
32 萬國の民その前に集まらん、而して羊飼の羊を山羊と分つごとく、彼等を分ち、
33 羊を右に、山羊を左に置くべし。
34 ここに王その右に在る者どもに曰はん、我父に祝せられし者どもよ、來りて世の創より汝等のために備へられたる國を受けよ。
35 我飢ゑたりしに汝等食物を與へ、渇きたりしに飲ませ、旅人なりしに宿らせ、
36 裸なりしに着せ、病みたりしに訪ひ、獄に在りしに來りたればなり。
37 ここに義人答へて曰はん、主よ、我等いつ汝の飢ゑたるを見て食物を與へ、渇きたるを見て飲ませしや、
38 いつ汝の旅人なるを見て宿らせ、裸なるを見て着せしや、
39 いつ汝の病みたり、または獄に在るを見て訪ひしや。
40 王答へて曰はん、誠に汝等に告ぐ、我が兄弟なるこの最も小き者の一人になしたるは、即ち我になしたるなり。
41 ここに王その左に在る者どもに曰はん、呪はれし者どもよ、我を離れて惡魔とその使等のために備へられたる永遠の火に入れ。
42 我飢ゑたりしに汝等食物を與へず、渇きたりしに飲ませず、
43 旅人なりしに宿らせず、裸なりしに着せず、病みたり、また獄に在りしに訪はざればなり。
44 ここに彼等も答へて曰はん、主よ、我等いつ汝の飢ゑ、または渇き、または旅人なり、または裸なり、または病み、または獄に在るを見て、仕へざりしや。
45 王答へて曰はん、誠に汝等に告ぐ、この最も小き者の一人になさざりしは、即ち我になさざりしなり。
46 斯て彼等は永遠の刑罰に入り、義人は永遠の生命に入るべし。

26 イエス此の凡ての言を終へ給ひし時、弟子たちに言ひ給ひけるは、
2 汝等二日の後には過越の祭あるを知る、その時人の子は十字架に釘けられんために付されん。
3 ここに祭司長たち、民の長老たち、カヤパと稱ふる大祭司の庭に集まり、
4 詭計を以てイエスを捕へ殺さんと謀りしが、
5 曰ひけるは、祭の間はいけず、恐らくは民の騷ぎ起らん。
6 イエスベタニヤにてツァラアトの者シモンの家に在し給ふ時、
7 一人の婦人雪花石膏の壺に貴き香油を入れ持ち來りて、食事の席に着き給へる時、その頭に注ぎかけたり。
8 弟子たち之を見て憤りて曰ひけるは、何ぞ斯く無益に費すや、
9 此の香油は高價にて賣りて、貧しき者どもに施すべかりしなり。
10 イエス之を知りて彼等に曰ひ給ひけるは、何ぞこの婦人を困らすや、我に善き事をなしたり。
11 貧しき者どもは常に汝等と共に在り、されど我は常に汝等と共に在らず。
12 この婦人我が體に此の香油を注ぎかけたるは、我が葬の爲にせしなり。
13 誠に汝等に告ぐ、全世界何處にても此の福音の宣傳へらるる所には、この婦人のなしたる事も記念として語らるべし。
14 ここに十二人の一人なるイスカリオテと稱ふるユダ、祭司長たちの許に往きて、
15 曰ひけるは、我彼を汝等に渡さば、何程與へんとするや、彼等銀三十を量りて與へたり。
16 ユダ此の時より機を窺ひてイエスを渡さんとせり。
17 除酵祭の第一日に弟子たちイエスの許に來りて、曰ひけるは、過越の食事を爲さんために、何處に備へんことを欲し給ふや。
18 イエス曰ひ給ひけるは、都に往きて某人に逢ひ、師曰ひ給ふ、我が時近づけり、我弟子たちと共に汝の家にて過越を守らんと、
19 弟子たちイエスの命じ給ひしごとくなして、過越の食事を備へたり。
20 夕になりて十二人と共に食事の席に着き給へる時、
21 曰ひ給ひけるは、誠に汝等に告ぐ、汝等の一人我を賣らんとす。
22 彼等甚く憂へて、各々我ならんかと言ひ出でたり。
23 イエス答へて曰ひ給ひけるは、我と共に手を鉢に入れて浸す者、これ我を賣らん者なり。
24 人の子は己に就きて記されたるごとく去りゆくなり、されど人の子を賣る者は禍ひなるかな、その人は生れざりしを善かりしものを。
25 ユダ即ち彼を賣りし者答へて曰ひけるは、ラビ我ならんかと言ひ出でたり。イエス曰ひ給ひけるは、汝言へるなり。
26 彼等食事をなしゐる時、イエスパンを取りて祝し、裂きて弟子たちに與へ、曰ひ給ひけるは、取りて食へ、これ我が體なり。
27 また杯を取りて感謝し、彼等に與へて曰ひ給ひけるは、汝等皆この杯より飲め、
28 これ我が契約の血にして、多くの人のために罪の赦しを得させんとて流すものなり。
29 誠に汝等に告ぐ、我父の國にて汝等と共に新しきものを飲むまでは、今より後この葡萄の實より成りたるものを飲まざるべし。
30 斯て讃美の歌を唱へて、オリブ山に出でたり。
31 ここにイエス彼等に曰ひ給ひけるは、汝等今夜皆我に就きて躓くべし、そは記されたればなり、曰く、我牧者を擊たん、而して羊の群散らされん。
32 されど我甦りし後、汝等に先だちてガリラヤに往かん。
33 ペテロ答へて曰ひけるは、縱ひ皆汝に就きて躓くとも、我は決して躓かじ。
34 イエス曰ひ給ひけるは、誠に汝に告ぐ、今夜鷄の鳴く前に、汝三度我を知らずと言ふべし。
35 ペテロ曰ひけるは、縱ひ汝と共に死ぬべくとも、我決して汝を知らずと言はじ。弟子たち皆同じく言ひたり。
36 ここにイエス彼等と共にゲツセマネと稱ふる處に往き給ひ、弟子たちに曰ひ給ひけるは、我彼處に往きて祈る間、汝等ここに坐せ。
37 而してペテロとゼベダイの二子とを伴ひ給ひしが、憂へ且悲しみ始め給ひ、
38 曰ひ給ひけるは、我が心甚く憂へて死ぬばかりなり、汝等ここに留まりて我と共に目を覺ましゐよ。
39 少し進みて俯伏し、祈りて曰ひ給ひけるは、我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
40 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見て、ペテロに曰ひ給ひけるは、汝等我と共に一時間も目を覺ましゐる能はざりしか、
41 誘惑に陷らざらんために目を覺ましゐて祈れ、心は實に願へども肉體は弱し。
42 また二度目に往きて祈りて曰ひ給ひけるは、我父よ、若し我飲まずしては此の杯我を離れ去ること能はずば、汝の意の儘に爲し給へ。
43 また來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
44 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
45 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
46 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
47 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
48 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
49 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
50 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
51 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
52 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
53 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
54 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
55 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
56 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
57 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
58 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
59 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
60 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
61 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
62 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
63 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
64 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
65 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
66 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
67 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
68 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
69 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
70 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
71 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
72 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
73 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
74 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
75 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
76 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
77 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
78 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
79 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
80 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
81 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
82 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
83 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
84 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
85 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
86 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
87 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
88 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
89 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
90 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
91 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
92 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
93 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
94 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
95 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
96 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
97 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。
98 斯て彼等を離れ、また往きて三度目に同じ言を祈りて曰ひ給ひけるは、
99 我父よ、若し得べくば此の杯我を離れ去らしめ給へ、されど我が意の儘にではなく、汝の意の儘に爲し給へ。
100 斯て弟子たちの許に來り給へば、彼等の眠りゐたるを見たり、その目重かりしなり。

さまひ けるん、そよ、これ いすとえるの いんとよ あるとーる
けのやくをもとるるの ひきるるべー。。これ この けのやくん これ その せんぞとものの
てを とりて これを えとふとの ちより さらさん いできんと せー ひよ そてー
ところの ごときよ あとぎ。それ めれと ロゲ けのやくを まもりつとうぎーて これ
これを めんりそぐるよ よりて ありと、これ かその ことを あり。10かを まる
いひ さまひ けるん、この ころの のち これ いすとえるの いんよ さてんと する
ところの けのやくん これ あり、するをち ロゲ おきてを めれとの おもひよ
おき めりこれを その こころよ もるさん。これん めれとの かそと あり、めれとん
ことを まる こころよ とめと。18めれん あるとーる けのやくと いひ さまりて
そとめの ものを ふるーと せり。それ ふるひ めりとんと きん うせんと する あり。

もとめの けのやくるん まつりの せいれいと 聖禮 eiritio とよ つける きょう そや あり。2そん、
まんの まくやを もうけるりーげ うちよ とうさんとつくえ おょび そるんの むえん
あり。その ところん きょう ところと とるんとる。3まる さりるの まくや
ろよ ゆりとも きょう ところと とるんとる。4ことよ きんの めう
ろと きんを あまねく きせさる けのやくの そこ あり。その うちよ まるを さくそ
んくるきんの つぎと おところんの めぎせーつえ おょび けのやくの ひ 碑E ふるら あり。
"まる その うんよ あのぐるの けるびん kenibin, erulwe ténan ténin ありて あさめとよを おるんり。いま
これとの ことよ つのそん つまひとうよ いりて おょもぎ。。これとの ものの めくの
ごとく ところあひ それん さのーるちん つねよ まんの まくやよ いりて まりりの
ことを おこるふ。おくるる まくやの うちちん さりーの そさ のを とーごとよ
ひとさび いる。"されど いる ときれ ちを
さその あやなちの さめよ さくぐる あり。
そとめの まくや あや さそる あひさん ゆりて
ゆりとも きょう ところよ いるの そちん
いまる あとそれぎる ことを ちめせり。。この まくやん そのありー ときの ゆの〜

Gemponni, keiyakuto yuiçowa onaji kotoba nari

ハシラ カラ ナガサキ ○

ナガサキ ニ オケル ヒトビト ノ ヨロコビ ハ ナニ ニ タトエル コト ガ デキル デアロウ カ。ソレ ハ ヒトビト ガ ヨロコビ ノ ウチ ニ ウタイ ナガラ ヤッテ クル ノ ヲ ミル ヨリ ホカ ニ ナイ デアロウ。ソノ ヒトビト ハ ミナ ソノ ムカシ ノ ヒ ニ ハ ヨロコビ ノ ウチ ニ ウタイ ナガラ ヤッテ キタ ノ デアル。ソノ ヒ ニ ハ ヨロコビ ノ ウチ ニ ウタイ ナガラ ヤッテ クル ノ デアル

めり。15 さてもまた そうまもの まこと これよう あろうことを
Mat 21:21 けるん、このところのちに これのれとと そそんと する ところの けものやうに これ
あり、すべてもに これ ひげ おきてを のれとの
おもひよ そらるさんと、17 のちの のちよ、これ そのつそと あーき ことを まこと こころ
ろよ とめとと いひ さまんくり。18 それ、これとの ゆるー あとべ まこと つそ
さこぐる こと あろう べー。

19 この ゆえよ、きやうそうよ、これと おすの ちよ よりて その これとの さめよ
ひとさこる いのちの あることーの そもち より20 まく すべてもに その のとごを とおり
そぞろとぎーて ゆうとも きまの ところよ いうる ことを ええ、21 のう かその いんを
おさむる さのさのー あれば、22 これと まこと ことの こころと うそぐひ あき ちん
うを そもち、こころに そそぐれて あーき おもひ よりきよまり のう のとごに
きこそうある そぐよ あとそれて かそよ ちうふる べー。23 まこ いひ あとそ
ところの のぞを うごうさぎーて これを のこく さもう べー。そに、やくそこ
せー ものん まこと あれば あり。24 これと あひそぐひよ のくりて あいする
こと〜 よき おこなひを あす ことを そけまん べー。25 ある ひとの あとそーの

ごとく あうまる ことを やめぎーて そぐひよ すこめ、そのひの いまうよ ちう
ようを そて まもます すこむ べー。

26 これと もー まことを さとさんれー のちに あや わーひまこよ つそを おうさば
まこ つそを あげまふの いけうん あー、27 そご おそれて さをきを まう ことー
あぐびとを やき つくさんと する そけーき みのうりのを のこる あり。28 ゆうをの
おきてを すうる ものん まさんうんの をふうんこん あとべ あそれを あーよ ころ
さる〜 あり。29 まーて かその むすことを ふそうけるー そぐうとう きふめとれくる
ところの けのやくの ものと あー、のう めぐそを わとこす
みくまを あまどる ものく うくべき そうの
おもみや。30 あそを むくゆるん これよ あり、
その そそを さぐうんと いくる ものん それ
かその てよ おちのるん おそる べき ことー あり。
32 あんぢとげ さきよ ひうりをのうむりーのち あやひまる そこうひを
そのびうる ときを おもひ いすす べー、33 あるひん そーりと くるーそを うけて
ひとよ そものく ごとく せとれ、あるひん のく あーとそれくる ものよ くそをする

1, 7, 9, warewo; 8, 5, ii, monowo

ハハる ゐる。 34 ゐゐ、ゐゐゐゐゐ ゐゐゐゐ ゐゐゐ ゐゐゐ

ゐる ものと 考へた。 11 ところが 彼らは 彼の 帰つて 来る のを 見ると、 彼を 殺さう と 相談した。 12 そこで 彼は 再び 逃げて 行き、 1, 3, 5, ii, yetari ; 7, 9, uke kōwo umeri
ハラン の 地に 来た。 13 そして 彼は 一人の 人を 遣はして、 ラバン の 娘 レア と ラケル とを 呼び寄せ、 彼らに 自分の 羊の 群れの 事を 話した。 14 すると ラバン は 言つた、 「お前は 確かに 私の 骨肉の 者だ。」 彼は 一箇月 彼の 許に 留まつて 居た。 15 ラバン は ヤコブ に 言つた、 「お前は 私の 親類だからと いつて、 ただで 私に 仕へる 事は ない。 お前の 賃銀は 何が よいか 言つて 呉れ。」 16 ラバン には 二人の 娘が あつた。 姉の 名は レア、 妹の 名は ラケル であつた。 17 レア は 眼が 弱かつたが、 ラケル は 容姿も 美しく 顔だちも 美しかつた。 18 ヤコブ は ラケル を 愛して 居たので、 「私は 七年 間 あなたの 妹 ラケル の ために 働きませう。」 と 言つた。 19 ラバン は 言つた、 「他の 人に 与へる より は お前に 与へる 方が よい。 私の 許に 居なさい。」 20 ヤコブ は ラケル の ために 七年 間 働いた。 しかし 彼は ラケル を 愛して 居たので、 それが 僅かの 年月の やうに 思はれた。 21 ヤコブ は ラバン に 言つた、 「約束の 年限が 来ましたから、 私の 妻を 呉れ。 私は 彼女と 一緒に なりたい。」 22 ラバン は 土地の 人々を 皆 集めて 祝宴を 開いた。 23 ところが 夕方に なつて、 ラバン は 娘 レア を 連れて 来て、 ヤコブ の 許に 入らせた。 ヤコブ は 彼女と 一緒に なつた。 24 ラバン は 婢女 ジルパ を 娘 レア に 与へて、 婢女と した。 25 ヤコブ は 朝に なつて 見ると、 それは レア で あつた。 ヤコブ は ラバン に 言つた、 「あなたは 私に 何を なさつたのです。 私は ラケル の ために あなたに 仕へたのでは ありませんか。 何故 私を 欺いたのです。」 26 ラバン は 言つた、 「兄より 先に 妹を 嫁がせる 事は 我が 土地の 習慣では ない。 この 女の 七日の 祝ひを 済ませ なさい。 そうすれば 他の 女も 与へよう。 その 代り 更に 七年 間 私に 仕へる が よい。」 27 ヤコブ は そう した。 そして 七日の 祝ひを 済ませると、 ラバン は 娘 ラケル を 彼の 妻と した。 28 ラケル も ヤコブ の 許に 入つた。 ヤコブ は ラケル を レア より も 愛して、 更に 七年 間 働いた。 29 ラバン は 婢女 ビルハ を 娘 ラケル に 与へて、 婢女と した。 30 ヤコブ は ラケル とも 一緒に なつた。 ヤコブ は レア より も ラケル を 愛して 居た。 更に 七年 間 働いた。 31 エホバ は レア が 疎んぜられて 居るのを 見て、 彼女の 胎を 開いた。 ラケル は 子が 無かつた。 32 レア は 身ごもつて 男の 子を 産んだ。 そして 「エホバ は 私の 悩みを 顧みて 下さつた。 今は 夫も 私を 愛して 呉れるで あらう。」 と 言つて、 その 子の 名を ルベン と 名づけた。 33 彼女は また 身ごもつて 男の 子を 産んだ。 そして 「エホバ は 私が 疎んぜられて 居るのを 聞いて、 この 子も 与へて 下さつた。」 と 言つて、 その 子の 名を シメオン と 名づけた。 34 彼女は また 身ごもつて 男の 子を 産んだ。 そして 「今度こそ 夫は 私に 結びついて 呉れるで あらう。 私は 彼に 三人の 子を 産んだから。」 と 言つて、 その 子の 名を レビ と 名づけた。 35 彼女は また 身ごもつて 男の 子を 産んだ。 そして 「今度は エホバ を 讃美しよう。」 と 言つて、 その 子の 名を ユダ と 名づけた。 そして 彼女は 子を 産むのを やめた。

17 神は ノア と 共に 居られた 子供 達 と 共に 居られた。 そして 彼は 栄えた。 彼は 荒野に 住んで、 弓を 射る 者と なつた。 18 彼の 母は 彼の ために エジプト の 国から 妻を 迎へた。 彼女の 名は パテシバ と いつた。 彼は 父 アブラハム の 家を 継いだ。 19 アブラハム の 子 イサク の 系図は 次の 通りである。 アブラハム は イサク を 産んだ。 20 イサク は 四十 tcūçiwo 歳の 時に、 パダンアラム から ベトエル の 娘で アラム人 ラバン の 妹 リベカ を 妻と した。 21 イサク は エホバ に 祈つた。 妻が 子を 産まない ので あつた。 エホバ は 彼の 祈を 聞き 入れられた。 そして 妻 リベカ は 身ごもつた。 22 ところが 胎の 中で 子供 達が 互に 押し合つた。 そこで 彼女は 「これ では 私は どう なるで あらう。」 と 言つて、 エホバ に 尋ねに 行つた。 23 エホバ は 彼女に 言はれた、 「二つの 国民が 汝の 胎に 居る。 二つの 民族が 汝の 腹から 分れ 出る。 一つの 民族は 他の 民族より も 強く、 兄が 弟に 仕へる。」 24 彼女の 産む 時が 来ると、 胎の 中に 双子が 居た。 25 最初に 出て 来た 者は 赤く、 全身 毛衣の ようで あつた。 そこで 彼の 名を エサウ と 名づけた。 26 その 後に 弟が 出て 来た。 その 手は エサウ の 踵を 掴んで 居た。 そこで 彼の 名を ヤコブ と 名づけた。 イサク は 彼らを 産んだ 時に、 六十 歳で あつた。 27 子供 達は 成長した。 エサウ は 巧みな 猟師で、 野の 人と なつたが、 ヤコブ は 穏やかな 人で、 天幕に 住んで 居た。 28 イサク は エサウ を 愛して 居た。 彼が 猟の 肉を 好んだ からで ある。 しかし リベカ は ヤコブ を 愛して 居た。 29 ヤコブ が 煮物を して 居る 時に、 エサウ が 野から 帰つて 来た。 彼は 疲れて 居た。 30 そして エサウ は ヤコブ に 言つた、 「その 赤い 物を 呉れ。 その 赤い 物を。 私は 疲れて 居るから。」 それで 彼の 名は エドム と 呼ばれた。 31 ヤコブ は 言つた、 「今日 あなたの 長子の 権利を 私に 売つて 呉れ。」 32 エサウ は 言つた、 「私は 死ぬ ばかりに なつて 居る。 長子の 権利が 何に なる。」 33 ヤコブ は 言つた、 「今日 私に 誓つて 呉れ。」 そこで 彼は ヤコブ に 誓つた。 そして 長子の 権利を ヤコブ に 売つた。 34 ヤコブ は パン と 豆の 煮物を エサウ に 与へた。 彼は 食べ 且つ 飲んで、 立つて 行つた。 こうして エサウ は 長子の 権利を 軽んじた。

Idzu 14: 22

ませる ハズ ナリ。 29 ソノ ヨウニ ナッテ ノチ ニ ハ、 ワタシ ノ ナ ヲ
Akaumi
アカス ヒト ハ、 ミナ、 エジプト ビト ノ ヨウ ニ ナル デアロウ。 サテ ワタシ ハ
Ejiptobitowa
Yerikono, Yoçua, 6: 20
ソノ ヒト ヲ、 ヨシュア ノ トキ ノ エリコ ノ ヨウ ニ、 ヨミガエラセル ノ デアル。
Rahabuwa, Yoçua 2; 1; 6: 17
30 ソノ ヒト ハ、 ラハブ ト イウ オンナ ト ソノ イエ ノ モノ ヲ、 スクイ ダス ノ デアル。
31 ソノ ヒト ハ、 ヨシュア ノ トキ ニ、 ヨリ ヨク ヒカリ ヲ ハナツ ヨウ ニ、
ヨミガエラセル ノ デアル。
Gideon, Barak, Samson, Yefuta,
32 ソレ ニ ツイテ ハ、 ギデオン ト、 バラク ト、 サムソン ト、 エフタ ト、
Dabide, Samuel
ダビデ ト、 サムエル ト、 ソノ ホカ ノ ヒト ビト ノ コト ヲ ノベル ニ ハ、
ヒマ ガ ナイ デアロウ。 33 コレラ ノ ヒト ビト ハ、 シンコウ ニ ヨッテ、 クニ ヲ
セメ トリ、 タダシサ ヲ オコナイ、 ヤクソク ノ モノ ヲ エ、 シシ ノ クチ ヲ
フサギ、 34 ホノオ ノ イキオイ ヲ ケシ、 ツルギ ノ ワザワイ ヲ ノガレ、
1 Ou 17: 17, 23
ヨワサ ノ ナカ カラ チカラ ヲ エ、 タタカイ ニ ツヨク ナリ、 ヨソノ クニ ノ
ムレ ヲ オイ ウチ ニ シタ。 35 オンナ ビト ハ、 シンダ モノ ヲ ヨミガエラセ
テ モラッタ。 ホカ ノ ヒト ビト ハ、 ヨリ ヨイ ヨミガエリ ヲ エル タメ ニ、
ワザワイ ヲ ウケ テ モ、 ノガレ ヨウ ト モ シナカッタ。 36 マタ ホカ ノ ヒト ビト
ハ、 アザケリ ト ムチ ト ヲ ウケ、 サラ ニ クサリ ト ロウヤ ト ノ ナヤミ ヲ
ウケ タ。 37 イシ デ ウチ コロサレ、 ノコギリ デ ヒキ ワカレ、 ホコ デ
1, 7, ii, kokoromirare, nokogirinite hikare
ツラヌカレ、 マヅシサ ノ ウチ ニ、 ヒツジ ノ カワ ヤ、 ヤギ ノ カワ ヲ
マトイ、 トボシク、 ナヤミ、 クルシメ ラレ テ、 ホッキョク ヤ ホラアナ ヤ

おそれ おのゝくといへり。22されど あんぢらが いける かぎの そやこ、てんの あるじなれば、よろづの つくりものゝ ことごとくに、すべての ものを さだめ、まつろふ せしめらるゝ ひとの こゝろを しるべし。24あるひは Hebeluno ta ちよ おりて ちめせーものを いのるそうる ものゝよそむくことを えざりしー あとが まーて 25あんぢらよ つぐる ところの ものを いのるまぎる ものとも まぬでとゝよ すべてふるそれぞる ものゝ のこりこもらん ことを あらそす あり。26このゆゑよ 27それ、これらの かぎに やきらくす ゐ あり。

ちらびく ところに そるんの やま、23てんよ

めぐ とめよれー ちやうーとゝものを さだめ さまつ

ひとの こゝろ

Hebeluno ta

ものとも まぬ

ものゝ のこりこもらん ことを あらそす あり。

あんぢよ こゝひよ ちやうこのの あらを こゝもめて。2こびとことを ゆてあす ことを

Son 18:2; 19:1

ひすゐ あるれ。あるひとに これを あー そしと

3あそめよ そる ものに あんぢよも とゝよ あそめよ くるーめとゐ ものを おゝひ やる

やり、めら あんぢよも そよ そるか ゆゑよ くるーめとゐ ものを おゝひ やる

べー。4すべての ものの こゝろうを そふとき けゞさびる

やうよ すべー。そらゝう する ものに かこ これを さだき

さまもん。5あんぢよの おこなひを そーて むさぼり あうよしめよ。ある ところの

ものを もつて されりと せよ。そに、ひれよ あんぢよを そるれず、めるよ あんぢよを

すてよと のゝまひされば あり。6されば こゝろ

Eitem 31:8

かそに ひれを こすゐる ものを あり、ひれ おそる

ひれよ あさんや。

7あんぢよ かその ことを そーくて そちびく ものを おゝく、めれよの

おこなひの できを ゝて その ゐんうよ あよふべー。8あず きりすとに

きのふも けふも いつまでも めそること あー。9あんぢよ さまざま ある そーく、

ことある そーへよ そよそさる〜 あうれ。 そうこ
こころを めうふ せとうるこん よー。 ちょうくゆの
えきを えそさんさりき。 10 どれとよ さのさん あり、まくやよつうみる ゆのん これ
より くとふ ことを えそ。 11 けゆの〜 ちん つそんよ さのーのそさよ
よりて きこゆき ところよ さびさん いれとれて そ
うる〜 あり。 12 めくの ごとく ちすん おのれの ちを
ゆんの そととうて くるーそを うけり。 13 ゆあよ どれとよ その もぢを ちのびめこひの
そととよ いび〜 めれよ ゆくべー。 14 どれとよ こそ
そやこ あー、そび そとのの そやこを ゆとむる
よりて かそよ さんびの まへ すあそち その みあを
そを つねよ さこぐ べー。 16 せんを おこあふ ことを
どすうる〜 あうれ。 かそん めくの ごとき まへを
17 あんちとよ そちびく ゆのよ そうびめうふ つねよ をる ところの
かこの まへよ うつこふ べき ゆのまーて あんちとの さまーひの さめよ まゆる
ことを つとれんび あり。 めれとを あけうんを、よろこびて まゆる ことを ちう

しむ べー。 そうとよんび あんちとよ えき あー。 18 あんちとよ どれとの さめよ
いのれ。 どれとん まごころ あり、すべての ことよ おのて よきを おこあもんと
わりする ことを さーうよ ちん ちれば あり。 19 まく どれ すそやうよ あんちとよ
めくる やうよ あんちとけ いのとん ことを ひる ちとよ ゆとむ。
20 めぎり あき けのやくの ちよ よりて ひうとの おそのある めひゆー すあ
そち どれとの きを ある あすを ち よりて 死 よろこんくとよー どれくの おそ、あす
きりもとよ よりて その よろこぶ ところを おこあひ、 21 めつ
あんちとよ その ひねを おこあそんん さりて おのて
あんちとよ まりさふんん ことを ねけふ。
きんん。 えのうん よく なんぢの めれよ
22 きゃうさのよ、ねけそん、いま どけ おくる
ところの すこめの ことを ちのん。 23 どれとの きゃうぢの てもてい よそよ
つうそされーを あんちとよ ある べー。 めれ ゆー すそやうよ めくとん どれ
めれと ともよ あんちとを そまもん。 24 すべて あんちとを そちびく ゆの おとび



Yesu Kristono 祭 sikuno

ame ame ake ameyamenge akoge ta n ge ginare ame ame ame

㊀㊁㊂㊃㊄㊅㊆㊇㊈㊉

ホホホ ホホホ ホホホ

Kimi Yesu Kristowo

ヤハウェ ||| ほめたたえよ ○

ヤハウェ ||| ほめたたえよ ○

ヤハウェ ||| ほめたたえよ ○

うえの さくひん そを ひとの さくひよ よりけとる、まるこん あらけとれさり。
[8]されど そさこん されも これを あらくる ことと あさえず、それに そず べき どくよ
そさされてや すさえ あき あーき ものの あり。[9]これと これを もりて きえ [illegible] ある ちくを
さんびず、まさ これを もりて かえの すけくさよ めことりて つくしれくる ひとを
のろふ あり。[10]さんび する ことと のろふ ひとろの くちより
いで。ヨケ きやうさのよ、めくの ごとき ことに ある まとき ことと あり。[11]いらえに
ひとろの ある よりまえらと まけき さんびろ。[12]ヨケ きやうさのよ、
あんぢとの こころよ まけき ねさえと あとえそひを いさろに わとる ことと あられ、
まことよ そむきて いつそる あられ。[15]これに うん よりくさる ところの ちあよ
あと今、すあそちより、おようふく よりより、あくま よりきくる ものの あり。[16]そに

ねさえ あじそひ ある ところろん そぶりて
あれに あり。[17]されど うんへ よりの ちあに
まうを、やすく すくむる こと、あそれそと よき そのそちくる こと、へさつる
こころ あき まく ぎせん [實] あき ものの あり。[18]おさやうを おこあふ ものの
ゆりて さらーきの そを まく あり。

さの 四 ちやう

あんぢとの うちの さえろひに あるく よりて きさくる。あとをのに あるく よるろ。
それに あんぢとの のとさの ふとんの うちちよ さえろふ ところの よくよ よるよ
あと今や。[3]あんぢと あり今れとる えや、ころーのろ ねさめとる うることある
そや・あんぢとに さえろひ いくさ する ものの あり。[8]あんぢと ねけそぎくる
よりて えや・ねけんとる えや・そん これを あんぢとの よくよ つひやさんとて
あーき おものひを ゆりて ねけんに あり。
[4]のんりん をる をそんきとるよ、[nimitrakamuro] あんぢと
あるを ちと今や。この ゆあよ されうてる よの そをと あじんと あり今する ゆのに

かそのてきと　ある　あり。[5]せのきやうよりくること　いさぐと　あんちと　おもふや。これとのうちよ　すむ　みさまら　これじをねさそよ　すくねそよ　よりて　せのきやうよりくること　さと　おわひある　めさそを　さまふ　あり。これよ　あり、かそん　わくる　ものを　こをそそて　へりくだる　ものよ　めさそを　あさふと。[7]このゆきよ　あんちと　かそよ　ふくすべー。あくきを　まけん。[8]かそよ　ちらけ、さよび　あんちよ　ちらけ　さまそん。つそひとよ、あんちとの　てを　きよめよ。ふさそろ　ある　ものよ、あんちとの　こころを　いさぎ　よくせよ。[9]あんちと　くるーと、のきーを　かつ　あけく、あんちよの　ことひん　うれひよ　めそよせよ。[10]あんちよ　かそよ　まくよ　おりて　へりくだれ、さよび　あんちよを　あげ　さまそん。

[11]きやうさのよ、あひさくひよ　そーる　こと　あらん。きやうさのを　さそく　ものん　これ　おきてを　そーり、おきてを　さそく　あり。あんちよー　おきてを　さそろん　あんちん　おきてよ　ふさそく　ものよ　あくや　あり。[12]おきてを　さくけ　のう　さそく　ものひとり　あり、すきそち　すくふ　ことも　あろうが　ことを　ふとも　あーうる　ところの　ものあり。[13]それくーの　まちよ　ゆきて　そこよ　いちねん　とうりひとを　さそくや。

[14]それと　けふ　あるひん　あーる　それくーの　まちよ　ゆきて　そこよ　いちねん　とうりひとを　さそくや。

[15]それと　けふ　あるひん　あーる　それくーの　まちよ　ゆきて　そこよ　いちねん　とうりひとを　さそくや。

[16]いま　あんちよん　わくる　ことを　ゆりて　これや　のれを　をさろんと　いふ　ざまそる　あーをう　あり。[17]そん　よきを　あす　ことを　そらず　つこ　あり。

さの五　ちゃう

あくー　とめる　ものよ　きけ、あんちよの　うくよ　きこと　する　あんぎの　さめよ　あんちよ　あをう　のあーを　べー。[2]あんちよの　うくよ　こうと　くされり、あんちよの　きものん　そこ　くひと　あれり。[3]あんちよの　きん　ぎんん　さひ　つきり、その

さび あんぢよ さろよみて ちやうことと ありやま つくさん。 あんぢよん ちやの ときの さめよ さろよ あんぢよの そを のりのれさる やとひごとよ きうきんケ さけび いさす、 めら のりのれさる ものゝ さけび なんさんの きそのそ〳〵よ いりさり。 5 あんぢよん よよ ありやてふ〳〵 ひの そあよ あんぢよの こころを やーあんり。 あんぢよん さろよ ちろきよ よりて あんぢよの こころを のこさる。 ○ きやう ぢのよ、 あひさケひよ ちろきよ よりて あんぢよの こころを のこさる。 ○ きやう ぢのよ、 あひさケひよ つふやく ことあられ。 おそよ、 さちきちんん ゆんの きそのそ〳〵よ ちのそ〳〵よ、 きそのそ〳〵よ ちのそ〳〵よ、 きそのそ〳〵よ ちのそ〳〵よ、

ホテルに戻る | 夜8時

Petero ペテロ

Kappadokia, Asia, Bitenianiカパドキア、アジア、ビテニア

Ponto, Galatia,ポント、ガラテヤ、

ちんうの ところの わろぶ べき きん よりも
あや さりとくして ありすきりすとの あとそれの ときよ わまれと さうえと さりと
きそうる さめ あること あとそる べし。8あんぢよ そのきそを そーこと あけれ
とも めれを あらせり、いまも そをといんとも あんぢよ おんとて いひかさま まる
さうえの そちるる よろこびを ゆりて そのしーむ、。9めら あんぢよの ちんうの
をそり すあそち さまーゆの すくひを うべーし。10あんぢよの めうむる ところの
めぐそを よけんーるる よけんーやさちい このの すくひの ことを をとべ さらねり。
11まさりすとの みさま めれとの うちよ ありて きりすとの うくる くるーそと
のちよ うる ところの さうえを あとうとめ おうーせーい いうまる ものを さー
まる いられの ときを さーるうを さらねさる あり。12よけんーやさちい おの
れの ことよ つりて つとめて、あんぢよの ことよ つりて その ことをを
ちるをりと めれとよ あとそされさり。これ てん より おくじれさる きよま みう
なを うけて さのそひの おとられを つるへー ものー あんぢよ つけー ところの
こと あり。これとの ことん てんの つうひさちも さらぬる ことを あり今。
13この ゆあよ あんぢよ こーろの こーよ おびを ちめて つるーめ、めら おすきり

すとの あとそれの ときも あんぢよる くさー ーさふ ところの めぐそを まりさく
のぞめよ。14あんぢよ めうーうの ことものの ごとく あれ、むうー あんぢよ ちよ
ぎる ときよ ちさひのさる よくよ あとふ ことも あられ。15さら あんぢよを よぶ
ものの きよまさが ごとく あんぢよも さようる べーと せのきやうよ ちるられり。16そい、
これ きよければ あんぢよも さようる べーと せのきやうよ ちるられり。17あん
ぢよ ゆー ひとを つさうる こと おく おこあひよ やとれる ときを おそれよ おのて
さむく ものを ちると よびあば あんぢよが よ おくる べー。18あんぢよが せんぞ より つさうりさる いさひの おこあひの
うちより あけあひを えーい きんきんの ごとき ちよ あとぞ、
19さぞ あま ちよ こひうとの さりとき ちよ よると あんぢよ
ちる。20めれん せうりの そとめの さきよ さめとれて めれを ーより よさけく
とも 21めら さうえを さまふさる かそを めれよ よりて ちん あるる ものの あんぢ
とのの さめよ この をそりの ときよ あとそされさり。22あんぢよの ちんうと
のぞそん かそよ よる あり。23あんぢよ、わろびる ことを
あまの さね まあとも かそのの うきて あげとゆる ところの ことぞよ よりて あとの

7, 9, "Mitamani yotte"wo kuwayōri

28 姉妹のところに戻って、ひそかに呼んで言った。「先生がおいでになって、あなたを呼んでおられます。」

1, 4, 7, 9, kiyoki ; 2, 3, nosezu

29 マリヤはこれを聞くと、すぐ立って、イエスのところに行った。

Yesaya 40 : 5-7

30 イエスはまだ村に入らないで、マルタがイエスを迎えた場所におられた。

1, 4, 7, 9, kiyoki ; 2, 3, nosezu

31 家の中でマリヤといっしょにいて慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立って出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだろうと思い、あとについて行った。

7, 9, "Mitamani yotte"wo kuwayōri

32 マリヤはイエスのおられる所に来て、お目にかかるとすぐ、その足もとにひれ伏して言った。「先生。もしここにいてくださったなら、兄弟は死なずにすんだでしょうに。」

ヨハネ 11 章

Bionni

Yes. 25 : 8

1, 2, 3, 4, saicino tamēni ; 7, 9, saicino

33 イエスは、彼女が泣き、また、彼女といっしょに来たユダヤ人たちが泣いているのを見て、心の中で憤りを覚え、ひどく心を騒がせ、

1, 2, 3, 4, 9, akuiwo uruni ; 7, nosezu

34 「彼をどこに置きましたか。」と言われた。彼らはイエスに言った。「主よ、来てご覧ください。」

35 イエスは涙を流された。

36 そこでユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。なんと彼を愛しておられたことか。」

37 しかし、彼らのうちのある人たちは言った。「この人は盲人の目を開けたのだから、この人も死なずにすむようにできなかったのか。」

Ol 116 : 32 ; Yes. 8 : 14

38 イエスは、心の中でまた憤りを覚えながら、墓に来られた。それは洞穴であって、石がその上に置かれてあった。

上 kāmiel

13 あんぢト すべて ひとの さそさる けんる すあもち こうそよ さちさる ひう、
14 わらひい あーきを あす ものを ちゆー まさよあきを あゆー めんとて
ひう より つらそさればさる つらさとあよ きその うちと よきを おとあふて ちあ あき ひとの おろらある ことをや めさを、 15 そい あんあんぢト おゆうを うるといんとあ その おゆうを おわひと あさ ーて かその ちあんの そとさろ あれば あり。 16 まさ 17 あんぢト すべての ひとそ うやまひ、きやうさのを いつさーを、 おそを おそれ、らうそ さりとめ。

18 ちあんぐとあよ、あんぢト おそれを ゆりて あるとよ ふく今 べー・さら よあ めつ おとあーき ものよ おけるの のそ あト今、きびーき あると まる ちろり。 19 ひと あー わんーんよ よりて かそよ ちさぐふ さめよ ふぎの くるーそを うけて めあーそを さんーのび あれ これい わむ べき ことあり。 20 あんぢト あやまちの わあれ あとんや。 されと よきを さめよ うさる〜 とき これを そのぶとあ あんの ことあ とき さんちのびあべ これ かそよ おこさふて それが さめよ くるーそを うさる とあ わめとる〜 ことあり。 21 あんぢトが めされーい この さめ あり。そい きりすとあ

あんぢトの さめよ くるーそを うけて あんぢトが そのあーあとよ ちさふ やうよひあげさを のこせり。 22 めれい つそを おりさ今、いつそりゅ そのくちよ そんや、 23 まさ そーとる〜 ときい そーりを めんさ今、くるーそを うさる ときい おびやうすことを いそ今ーて さらーきを ゆりて さそくゆあよ これをまろせり。 24 めれい これとげ つそよ ちーて さらーきよ いける やうきの うんよ めりりて これとの つそを おめれの そよ おんり。 25 めれの き今よ よりて あんぢトふ ひの めひゆーある めんとくよ めくれり。

さら 三 ちやう

めくの ごとく、つまとあよ、ゆー そことそよ ちさる さけそぎる そりと あとんや。 2 めれ あんぢトの おそれとてらやら あるおとあひとそて ことを あーよ つまの おとあふ ところよ よりて えとる〜 やう おめれの をりとよ ふく今 べー。 3 あんぢトの めざりい めその けをこそ、きんを めけ、まさきゆを きる ごとよ そとよ ある ゆのを めざりとあさ今ーて 4 わろひる ことあき こころの めくれさる ひとす あるそちおうそるーて おそやら あるせらーうを めざりと せよ。これ かその まんよ

ユダヤ人の優れた点は何か。割礼には何の益があるのか。
2 あらゆる点で大いにある。まず第一に、神の言葉がゆだねられたことである。
3 いったい、彼らのうちに不真実な者があったとしても、それによって神の真実が無に帰するであろうか。
4 決してそうではない。人はみな偽り者であっても、神は真実な方であるとすべきである。
Ci 55 : 13-16
聖書に、「あなたは、あなたの言葉の中で正しくされ、さばかれるときに勝利を得るであろう」
1, 7, ii, wareranо ; 2, 9, nosesu
と書いてあるとおりである。
5 しかし、わたしたちの不義が神の義を明らかにするとしたら、何と言うべきであろうか。
Nohano
怒りを下す神は不義なのか。（人間の立場から言えば）
6 決してそうではない。
1, 2, 3, 4, Kristowo ; 7, 9, Kamiwo
もしそうだとすれば、神はどうして世をさばくことができようか。
7 わたしの偽りによって神の真実がますます明らかにされ、神の栄光となるのであれば、
なぜ、わたしはなおも罪人として、さばかれるのであろうか。
8 また、善をきたらすために悪をなそうではないか。
わたしたちがこのように言うのだと、ある人々はわたしたちをそしっている。
9 それでは、どうなのか。わたしたちは何かまさっているのか。
決してそうではない。
ユダヤ人もギリシア人も、すべての人が罪の下にあることを、
10 わたしたちは前に告発したのである。
聖書に、「義人はいない、一人もいない。
11 悟る者はいない、神を求める者はいない。
12 すべての人は迷い出て、ともに無益な者となった。
善を行う者はいない、ひとりもいない。
13 彼らののどは開いた墓であり、
彼らはその舌で人をあざむき、
彼らのくちびるの下にはまむしの毒がある。
14 彼らの口は呪いと苦さで満ちている。
15 彼らの足は血を流すのに速く、
16 彼らの通った跡には破壊と悲惨とがある。
17 また平和の道を知らない。
18 彼らの目の前には神に対する恐れがない」
と書いてあるとおりである。

ページ 第四十四回 一〇

第四十四回

1, 2, 3, nanjirawo; 4, 7, 9, warerawo

あなたがたを、わたしは、どうしようか。[21] わたしは、あなたがたを、ぶどうの木の実のように、
喜ぶであろう。[22] わたしは、あなたがたを、荒れ地のように、
また、あなたがたを、荒れ地のように、
あなたがたを、荒れ地のように、
あなたがたを、荒れ地のように、

ときは あんぢよ よろこび おどる ことを えん。14 あんぢよ ゆー きりすとの あの
1;3; 15, yakusoku teitara; 2; 1, 9, yeikou
きりよ そーしよれあん さのそひ あり、いろんと あれば えのうう〔とちうと〕ある
かその みさま あんぢよ とじまれば あり。15 あんぢよの うち それも ひとごろー、
時をひと、あーきを おこあふ もの、あるひん さきんの ことを めくりそる もの〜
Kristianotocto
ごとくよ くるーそを うくる あられ。16 さされど きり今ちやんとーて くるーそを
1;3,8; nano; 7,9; nosaru
うけあん もひる ことを あられ、めくりて この あの さめよ かそを わめよ。17 それ
さをき かその いん よりもとまるの ときん すをよ いされり。ゆー さをき ひれと
よりもとまる あよん かその さのそひの おとひれよ そるなをざる もの〜 をを
りん いろじ あよんや。18 ゆー さじーき もの あの やうやくよ さ今けよう〜 あよん
ちんとん あき ものと ざのあこの ものん いらくよ あとそれんや。19 この ゆあよ
かその むねよ そさなひて くるーそを うくる ものん よきを おこをふて おのれの
さまーひを ちんき べきの ざうぶりちやよ まうんをよ。

さの 五 ちやう

きりすとの くるーその ちようこうん めら あとそれんと する さりえよ あひうる
ものの ある これ とーふり あんぢよの うちの とーふりともよ すふめん。2 あんぢ

よの うちよ ある かその ひつよの むれを めんとく せよ。よきあく
1;3; 11, Kamini ctegni; 2, 7, 9, nosen
せをーて かその ちさなひ よろこびを ゆりて せよ。まふ いやーき ちよ よよや
このんを これを せる。3 めら きその さうぞふ ひつよの むれを めんとく
さふ むれの てほんと あれ。4 さよば ひつよの めんむりを うけん
ちよ おとろんざる さうえの めんむりを うけん。
5 さうき ものよ、あんぢよも とーふりよ ゆられ、めら あんぢよ そるあひさ
ケひよ ゆうりて けんそんを きものとーて きよ。いろんと あれば かその わこる
ものを こをそて へりくさる ものよ めざそんを さまんべ あり。。この ゆあよ かそ
ときよ おふひて あんぢよを あけ さまふ やうよ その つうりき ある ての あさよ
へりくされ。7 すべて あんぢよの きうひを むれよ まうんをよ。それ むれ あんぢ
よを めんりき さまんべ あり。8 あんぢよ Hint
そん あんぢよの てき ある ざんき わんる あ
して おもりを あるく あり。。あんぢよ あ
よよ をる あんぢよの きやうさの ひとーく
1;3;7; manitawo; 9, wacuwe
あんぢよを おのれの めぎり あき さう

1, 7, 9, sakayeto ; 2, 3, nosezu

11 また私は見た。御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いの声を聞いた。その数は幾万幾千であって、

Silnanoni

12 大声でこう言っていた。「ほふられた小羊こそは、力と富と知恵と勢いと尊きと栄えと賛美とを受けるにふさわしい。」

Babilonno

13 また私は、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもの、海にあるもの、およびそれらの中にあるすべての造られたものが、こう言うのを聞いた。「御座にすわる者と小羊とに、賛美と尊きと栄えと力とが、世々限りなくあるように。」

Marko

14 四つの生き物はアーメンと言い、長老たちはひれ伏して礼拝した。

1, kyoukwai ; 2, 3, 6, 7, onna, aruiwa moto

1, 7, 9, amen ; 2, 3, nosezu

1, 7, 9, Yesu Kristoni ; 2, 3, Kristoni

1, 3, 4, onareno ; 2, 7, 9, nosezu

cinriki 権力

1, Kimi

Cimon Peter

これとの　もの　あんちとの　うちよ　ありて　ゆそう　あとべ　ひれとの　きそ　ゑす　きりす
とと　あり　さく　ちる　ことよ　つひて　あんちとけ　おとそり　めつそのとぐる　ものと
あるを　さくんん。　されど　これとを　ゆそう　きよめを
ひすれて　とわく　そる　ことを　えぎる　めくとく　あり。[10]この　ゆあよ　きやうそのよ、
あんちとけ　めされくると　えとおれくうとを　めつふする　やうよ［よつて］　おとそひを
（ごだいにんしやうのゆりて）　そけむ　べー。　あんちと　ゆー　これとの
ぐくととろ　あー、[11]そと　ひれとの　きそ　あるき　みくる～　いる　ことを　おゆうよ　ゆるされん。
[12]この　ゆあよ　あんちと　これとの　ことを　ちり　めつ　すぐよ　うけくる　ところの
まことよ　さきめとることと　いくとも　ひれ　あんちとをーて　つねよ　これを　おがへーー
めん　ことを　わりす。[13]ひれ　この　あくやを　すくもる　ことん　よろこぶ。[14]そん　ひれどの　きそ
やうよ　あんちとを　すくもる　ことん　おもふ。　ゑす　きりすとの　ことく　ひれ　まくやを　ぬぐ　ことん　ちうきよ
あるを　ゑれば　あり。[15]めつ　ひれよを　さりて　のちよ　あんちとをーて　つねよ　これ
との　ことを　おがへーめん　さあよ　いまも　つとむる　あり。[16]ひれと　あんちとよ

ひれとの　きそ　ゑす　きりすとの　ちうよ　その　あとをる～　ことを　つけーん
ところをーこく　まうけさる　ものをりよ　ちうよをくひーよ　あとを、めつて　そのおそひ
あるを　えのうをまのあさりそーよ　よるあり。[17]めれち～あるかと　よりわれとの
さうえを　うくると　ゆくの　でとゆ　こゑあり、そのとき　えのうより　めれよのぞ
んそ、これ　ひげ　あのする　むすこ、ひげ　ところの　もの　ありと　いくり。
[18]これ　てん　よりの　こあをーて　ひれとも　めれとともよ　きよゆ　やうよ　ありて　これを
きけり。[19]このちう　ひれとよ　よけんの　こころよ　てるまそ　まく　そやうとやう　あんちとの　こころ
とをーびの　でとゆ　そのよけんを　めくりて　ところよ　ちるべー。[20]あげ　すべて　せの
きやうの　よけんん　ひとの　こころを　もの　ありて　ところよ　おとをぐる　ことを　ちる　べー。
[21]いうんと　あれば　よけんん　けりーて　ひとの　こころより　いでゆ、そぐ　かその　きよゆ
ひとを　きゆる　みくまよ　めんとて　いくる　あり。

さの二一ちやう

されど　むうー　そその　うちよ　いうそりの　よけんーや　ありー、　めく　あんちとの
うちゆる　いうそりの　ちーやう　おとん。　めれとん　おのれを　あげるふくる　きそをも

ソドムトゴモラノ
Sodomuto Gomorano

ノハノ
Nohano

1, 3, ôtaki

yamini ; 2, 4, kurakino anani

1, 3, kurucimete ; 2, 7, 9, nosesu

1, 2, 3, 4, mayıdwo motte ; 2, 3/, çtedimino furumaini

Impuwo

Bosoruno

Balamuno

Lotowo

ものを。

おきつ なみ ‖ みち かんの ‖ ○ 3

㊀ ㊁ ㊂ ㊃ ㊄

さくらこの はるの やまべは ちりすぎて ただ ふもとに ゆきぞ ふりける。

はるの やまべは ちりすぎて ただ ふもとに ゆきぞ ふりける。

1, 2, 3, 4, sakerite

さけるとも みえぬ ゆきの ふかさを かきわけて こそ、「ああ ここに ゆきぞ ふりける。」と ばかり、ゆきの ふかさを ことばに いいだして、はじめて ゆきの ふかさを しる ことに なる。

ゆきの ふかさを ことばに いいだして、はじめて ゆきの ふかさを しる ことに なる。

2, 3, youyakumi nogaretaru

おもいを おもいだして、いまの ゆきの ふかさを かんじて いる。

おもいを おもいだして、いまの ゆきの ふかさを かんじて いる。

8, 4, 7, yorodzu yo mademo ; 1, 2, nozezu

[よろづ よ までも] ゆきぞ ふりける。

[よろづ よ までも] ゆきぞ ふりける。

?, kūmo

ゆき。

ゆき。

hakitaru

ゆきの ふかさを ことばに いいだして、はじめて ゆきの ふかさを しる ことに なる。

ゆきの ふかさを ことばに いいだして、はじめて ゆきの ふかさを しる ことに なる。

荒 arawaretaru

あらわれた ゆきの ふかさを ことばに いいだして、はじめて ゆきの ふかさを しる ことに なる。

あらわれた ゆきの ふかさを ことばに いいだして、はじめて ゆきの ふかさを しる ことに なる。

せんねんに いち まちの ごとき を あんぢよ
そこを とくるよ おそーと おもふ ものの あれとも
ちろひる こと あく、まぐその ものく くひ
あんぢよを そのひ さまくる あり。10 ちうれとも
くよ きそとん。その とき てんに そけーき ひと
ゆゆる あうさを ゆりて とけ、ちと そのうち
11 めうの ごとく これよの ゆの そる やぶる
すあそち てんに ゆんて やぶれ ゆとの ゆのに
12 めう ひさをよ ちそひ きそうき おこるひとを
よに いうるる ゆの あるべきや。13 めく ゆ
ちそケんて そとーきの すむ ところ あるとーき
のぞむ あり。14 この ゆあよ、いうくーむ とゆる、
そそれに ちそ あく きそ あく おさやうゆーて やうよ
つとめよ、めう これとの きそくーのひに すくひの さめと おゆん。15 これとの
いうくーむ きやうるる たうろも めれよ さそりそる ちあよ よりて あんぢよ

めうの ごとき ことを めき おくれり。16 まく その すべその ふそうも これとの
ことを ちるせり。その ふその うちうに けー がくる ことと ありて むがく ある めう
うとぎる ひとに わうの せうきやうを ことうくーむ ちるく その いそを ことうけて
おのれを わろひよ いそとーむ。
17 この ゆあよ、いうくーめる。とゆよ、あんぢよに あとうとめ これを ちりされて
おきてよ そそくそぎる ゆの〜 まうひよ ひうれて あんぢよの めうき
より おちぎる やうよつーそて 18 これとの きを ある すくひゆーおすきりすとの
りそそと めれを ちる ことよ ますちす すくめ。えのうに めれよ きーそて いま

ヤハネ来テ、ソノ前ニ、エリヤノ霊ト力トヲ以テ、イデ立ツベシ。彼ハ父ノ心ヲ子ニ、逆ラフ者ヲ義人ノ慮ニ立チ返ラセ、備ヘタル民ヲ主ニ用意サセンガタメナリ。」

1, 2, 4, 6, Yesuno; Yesu Kristono

ソノ時ニ、ゼカリヤ、天使ニ言ヒケルハ、「我ハ何ニテ此ヲ知ラン。我ハ老人ニシテ、妻モ年ヲ経タリ。」

1, 2, 7, warerano; 3, 4, 6, 9, nanjirano

天使答ヘテ言ヒケルハ、「我ハ神ノ前ニ立ツガブリエルナリ。我ハ遣ハサレテ、汝ニ語リ、此ノ喜ビヲ伝フ。

ソノ言ヒシ事ノ、時ニ至リテ成ルベキヲ、汝信ゼザルニ因リテ、見ヨ、汝ハ物言フ能ハズ、黙ス者トナリテ、此ノ事ノ成ル日マデ、ソノ言ヒシ事ノ、時ニ至リテ成ルベキヲ、汝信ゼザルニ因リテ、見ヨ、汝ハ物言フ能ハズ、黙ス者トナリテ、此ノ事ノ成ル日マデ、

ルカ伝福音書 第一章

1 テオピロ殿、我ラノ中ニ成リ遂ゲタル事ヲ、

1, 2, 7, warerano; 3, 4, 6, 9, nanjirano

2 我ラニ伝ヘシ人々ノ、初メヨリ目撃者ニシテ、且ツ御言ノ役者ナリシ者ノ、伝ヘシ如ク、

3 我モ凡テノ事ヲ、初メヨリ詳ニ尋ネ究メタレバ、ソレヲ順序ヲ以テ汝ニ書キ贈ルハ、善カラント思フ。

4 汝ノ教ヘラレシ事ノ、確実ナルヲ知ラシメンガタメナリ。

5 ユダヤノ王ヘロデノ時ニ、アビヤノ組ノ祭司ニ、ゼカリヤト云フ者アリ。ソノ妻ハアロンノ族ノ女ニシテ、エリサベトト云フ。

6 二人トモ神ノ前ニ義シクシテ、主ノ凡テノ誡命ト定メトヲ、責メ所ナク行ヒケリ。

7 エリサベト石女ニシテ、二人トモ年ヲ経タレバ、子ナカリキ。

8 ゼカリヤ、ソノ組ノ順ニ当リテ、神ノ前ニ祭司ノ職ヲ勤メシ時、

9 祭司ノ慣例ニ従ヒ、籤ニ当リテ、主ノ宮ニ入リ、香ヲ焚カンコトヲ得タリ。

10 香ヲ焚ク時ニハ、民ノ凡テノ群ハ、外ニ祈リ居タリ。

かそと あらするの あい まことよ そのうちよ ありさく あれり。これよ よりて
これとい めれよ ある ことを そらうと ゐる。 6 これ めれよ そると いふ ものい
めれが あゆそ〜 ととく そらうとも あゆむ べき ある。
7 いつ〜〜めら ともよ、これ あんぢとよ めき おくるら おさてよ
あとや、 7,9, tsuiime yori'wo kuwyeri 十多ちち そとめ より あんぢとよ ある ふるき おきてい
おきてい あんぢとが さ〜〜 ところの ことを あり。 8 されど これ あんぢとよ
めき おくる ところい まさ あさとーき おきて あんぢとよ おいても まこと あり。 そい くとき や〜 すきて いま まことの ひろり
めりやけば あり。 9 これい ひろりよ をると いひ あんとき やうさのを いつ〜む ものい ひろりよ
ものい いは あや くとき よ をる あり。 10 さやうさのを いつ〜む ものい ひろりよ
とある、 そのうちよ つまらする ものあー。 11 されど きやうさのを まく む
ものい くとき よ そり くとき よ あゆそて いづくん ゆくを ぢとや、 くとき その
めを めくとよ おされば あり。
12 ぢ〜き ことも よ、これ あんぢとよ ふそを めき おくるい あんぢとの つそ
めれの み多よ よりて ゆるされれば あり。 13 ちとともよ、これ あんぢとよ ふそを

おくるい あんぢとが そとめ より あり〜 ものを ちるよ よりて あり。 これ
ともよ、これ あんぢとよ ふそを おくるい あんぢとが あ〜き ものよ めちさるよ
よりて あり。 14 ことも よ、これ あんぢとよ めき おくるい あんぢとが ちとげそを
ちるよ よりて あり。 15 ちとともよ、これ あんぢとよ めき おくりーら あんぢとが
そとめ より あり〜 ものを ちるよ よりて あり。 これ あんぢとの うちよ
よよ めき おくりーい あんぢとよ つよく めら かそを あんぢとの ことを あんぢとの うちよ
やとりて あんぢとよ あーき ものよ めちさるよ よりて あり。
世 yomo
15 この よも よの あらよ ある ものを あり すあそち 世
あり ちとを あり すあ その うちよ あとや、よ
Kamiwo 梁華 yōgwa
おくるの よく、めの よく、くとーの えりぐさい そあ ち〜 よりよ あとや、
より あり。 17 よと そのよ よくとい すぎさる ものの
あふ ものい めぎり あく ありとん。 18 ことも よ、 いあい すあの とき あり、
きりすとよ さらとふ ものを きさとふんと あんぢとが さとげ きさ〜 ととく いまきりすとよ
さらとふ ものおやく おこれり。これよ よりて これとよ いまん すあの とき ありと
ある。 19 めれと これとの うちより いそさり。 さされど これとよ ぞく すると ものよ

ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[27] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[28] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[25] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[24] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。

ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[23] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[22] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[21] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[20] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。

1, 2, 6, mina
korewo ciru ; 3, 4, 7, 9, subeteno kotowo ciru

ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[8] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[7] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[6] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[5] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。

ゆく ‖ ゆきゃ

ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[4] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[3] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[2] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。[1] ゆきゃは ゆきゃ ゆく ひくは ゆきゃ ゆきゃは ゆきゃ。

1, 2, 3, 4, 6, kakuno gotoci
2, 3, wnrerawo ;
1, 6, 7, 9, nanjirawo

ある ものい めれの きよきゲ ごとく おのれを きよくす。[4] それゆえも つそを おう今 ものい おきてよ そむく ものあり、つそとい おきてよ そむく ことあり。[5] これらの つそとの のぞく さめよ きそのあとよそれー ことを あんぢよ ちる。めれまい つそ あー。[6] それよえもの めれよ とよまる ものい つそを おう今。つそを おう今 ものい いまる めれと そぜ まく めれを そよざる あり。

[7] おさーき ことゆよ、ひとよ あぜむうるく あうれ。さらーき ことを おこあふ ものい さらーき ひと あり、きその さらーきゲ ごとー。[8] つそを おう今 ものい ざんき よりあり。ぜんきゲいもトめ よりつそを おう今。めその むすこの あとそれ ーい ざんきの ひぜを わろがさん さめ あり。[9] それえもの かそ よりむまれさる ものい つそを おうさぜ、かその それそのうちよ とぐまれば あり。まく かそ よりむまれーよ よりて つそを おう今 こと あさとい こどゆとい これよ よりて あさとう あり。[10] かその ことゆよと ざんきの そぜ まく きやうさのをいうくーまざる ものい そを かを よりよ あじぜ。[11] いうんと あれば あんちとゲ もトめ よりきくーところの おわせい されと あひさゲひよ あの今 べーとの こと あれば あり。[12] あくまよ ぞくする ものあーて その きやう

さのを こうーさる からん Kahmi よふ こと あうられ。めれを ころせーん あよ のぶぜや。おのれの おこあひ あーくーて きやうさのをいうくーまざる ものの おこあひ さとーきよ よる あり。[13] きやうさのよ、よ あんぢとを おくむとゆ あやーむ こと あられ。

[14] それとらうさのをいうくーまざる ものいーよ とぐまる。[15] さればてもきやう さのを おくむ ものら ひとを ころす ものの あり。すべて ひとを ころす ものい めぎり あま いのちの うちよ とぐまる こと あーと あんぢと ある。[16] きそい されと これよ よりて あのといふ ことを されとの さめよ いのちを すて さまくり、さらに ちりぬ。それとも きやうさのの さめよ いのちを すら べき あり。[17] されもて も あの ぶんさのを ゆそる ものの きやうさのの あらそのうちよ いうそ かそを あらすの あらそのうちよ とちる んや。[18] おくーき ことゆよ、とぐまる あとふんや。

古 ciawo moto

されと ことを あるひ おこあひと まこと とそ ものて いうくーむ のを あとす おこあひと まこと よりの ものの ある ことを ちる、めい それとの こころを かその まんよ やすんす べー。[20] そい それとの こころ ゆー それとを うゆそる あとふ かそい されとの こころ より おわひ

あり、から すべての ことを もり さあふ。[21] いつくしめる ともよ、ゆー こころ
これよを うりさんぐ ゆえ これよに かその まんなよ おそるる ところ あー。[22] まる
あるるても これよげ ゆと ゆる ところの ものに かれ よりうく。こん、これと その
おきてを まもりて その まんなよ よろこぶる ことを おこなふよ よりてあり。
[23] かれの おきてに これ あり すあそち これと
ちんと まる かれの これよ さげけ さまひー おきての ごとく あひさげひよ
あらす べき ことあり。[24] かその おきてを まもる ものに かれよ とどまる、かれも
その ものよ とどまる、これと かれげ これと
これよの うちよ とどまる ことを もるる
あるり。

ちの 四 ちやう

いつくしめる ともよ、さまを ことごとく ちんぎる あるれ、さと その さまに
かそ より あるる いあやを こころむ べー。いろんと あれば おそるの あを よけん
ーや よよ いでられば あり。[2] ちすきりすとと [1,7,8,ff. nikutaini oite kitaru monoto; 2,3, nosesu] まくるの よ おのて きさる ものと
いひ おとを すまん かそ より あり。これよ よりて あんぢと かその みさまを
ある べー。[3] すべて [2,5,ff. Yesuwo; 7,8, Yeni Kristowo] ちすと おのて きさる ものとよ おりて きさる ものとの あとそさぐる

さまん かそ よりよ あとを、これい きりそとよ さろとふ ものに きさとんと あんぢ
とげ きさー ところの さまを あり、いますぐよ よよ そる。

[4] ちさー ことあよ、あんぢとん かそ より あり、まさ あれとよ めてり。そい
あんぢとの うちよ そる ものに よりを ものに よを おそひ あれば あり。[5] めれとい
より あり、かそを ちる ものに これとを きく、よに あれとを きく。[6] これとい かそ より
きう を [7] いつくしむ これよ よりて これと まことの [Gr. Pneuma] さまと まうひの さまを ちる べー。
あり、すべて あひさげひよ あひを ちる べー。そい あのに かそ より
あり。[8] あらぜる ものに かそを ちとを ちれる
[9] かそ そのを うそ さまんる ひとりごを よふ つろもー これとそーて あれよ よりて
いのちを えぜーむ。こころよ おのて かその あの これとよ あとそれとり。[10] これと
かそを あらぜーよ あとも、かそ これとを つろもーて
これとの つその さめよ あそめの そあんぢ ものと あをー あり。これ すあそち あの

11 いうくーむとまよ、かそ めくの ととく されとも
あひさゆひよ あの今 べき あり。 12 いまぶ めの
まー あひさゆひよ あのーまん かそ されとの
あの今るの あのを されとの うちよ とどまる ふ する あり。 13 めれ されよ そのの
みさまを さまひー ゆあよ されとの めれよ とどまり、めれの されよ とどまる
ことを されとん ちれり。 14 ち〜むすことを つらそーて よの すこひゆーと あをり、
されと これとそて いまその あらーを あ今 あり。 15 されるそも あ今を かそのの
むすこ ありと いひ あとそ今 ものん かそよ めれよ とどまる、めれも かそよ とど
まる。 16 されとの さめよ かそのの もち さまんくる あのん されと これを ちりて
ちん生り。かそん あの あり。あのよ とどまる、かそる
その ものよ ととまる。 17 めくの でとく あの されとの うちよ まりさきを えそて
さをきの ひよ されとそーて おそれ あらーむ。そん されとん めれゲ ある でとく
この よよ あれて あり。 18 あのるん おそれ あ
そん おそれるん うれひ あり、おそる〜 も
ものん あのよ まりさらとず。 19 されと
あらーされば あり。 20 されら ゆー

されとても あ今を きりすと ありと そん今る ものん かそ よりも むまれくる あり。
すべて うむ ものを あの今る ものん めれ よりも むまれくる ものをも あの今る
あり。 2 されと ゆー かそを あのーて そのの おきてを まもよば これよりて
されと かそのの ことをもよを あの今る ことを まもよば これよりても
るん これ かそを あの今る あり。そのの おきてん めくらとず。 4 そん すべて かそ
よりも むまれくる ものん よよ めそて あり。よよ めの ものん これ されとの ちんらう
あり。 5 よよ めの ひとん あ今を かそのの むすこと ちん今る ものよ あとず今ーて
されをや。 6 ゑすきりすとい そらと ちと 血 kesui
くぶ そらの のを あとず、そらと ちとよ みさまん よりて さくされる ものの あり。
ものん みさまの あり。そん みさまん まことと あれば あり。 7 あらーを くらる ゆの

Igirisuno seikyouniwa kokoni hikano kotobawo kuwayeri

そら、すあもち みさまと そらと ち あり。[8] このそらの ものい ひとつよ さす。[9] これよ ゆー ひとの あうーを うくる あうーい かその あーして かその あうーい これより おわひ あり。その あうーい かそケ おのれの むすこよ つひて これを あせりと そらうよ あうーー ちさまんる こと あり。[10] かそのの むすこを ちんぜざる ゆのい そのうちよ この あうーー あり、かそを ちんぜざる ゆのい かそを いつそり ゆのとする あり。そん かその そのの むすこよ つひて あうーー ことを ちんぜられん あり。[11] かそい これよ めぎり あるの ひのちを さらけ さまふ、この ひのちい そのの むすこよ あり、これ そのの あうーー あり。[12] その むすこを うくる ゆのまい ひのち あり、かその むすこを うけざる ゆのまい ひのち あーー。[13] これよの ことを あんちよ めき おくるい かその むすこの あを ちんぜる ところの あんぜよ めぎり あるの ひのちある ことを ちよーーめん さめ あり。[14] すべて これを きく さまふ、これ これよげ めれよ むうひて あうく ちんぜる ところ あり。[15] これよ ゆー さまふ ことを ちよび これよケ めれよ ねケひー ゆのを うる ことを ちる。[16] これら ゆー その きやうその ーよ ひとうぎる つそを おう すを そん めれの

さめよ ひのりて ーよ ひとうぎる つそを おうさる すを ゆのよ ひのちを えちす べー。ーよ ひとる つまり、これ この つその さめよ ひのよ ひのちを おうさる ことん そる つそ あり。そうーー あケよ ひとうぎる ことを これよん ある あり。[17] そうーー すべて かそ より むまれくる ゆのい そうよを ちゆうかそ ゆのい ひまれくる ゆのい そうよを おうさる、まく ひのい あーき ゆの ひれよ ふくー ことを せず。[18] これよん かそよ つき よん そる あーき ゆのよ ふくする ことを これよん そる。[19] めう かその むすこ きさりて これよげ まことの ゆのを そる やうよ これよん さとりを ちまひーー ことを ゆのよ そる。これよん まことの ゆのよ あり、す ちそち その むすこ ちす すりすとよ ちまひ ひのぎり ある ひのち あり。[20] そうーき ことゆよ、ちんぜられ そうぎうよ ちゆうぎられ。

8, 7, 9, amari; 1, 2, 5, 11, nimaru



ヨハネの使いたちが帰ったあと、イエスは群衆にヨハネのことを話し始められた。「あなたがたは何を見に荒野へ出て行ったのか。風に揺れる葦か。

1, 6, 7, 9, Kimi; 2, 8, noseru

1, 2, 6, 7, warerato; 9, nanjirato

8 それとも、しなやかな衣をまとった人か。そのような人なら王宮にいるはずだ。

9 あなたがたは何を見に行ったのか。預言者か。そのとおりだ。しかも預言者以上の人だ。

10 『見よ、わたしはあなたの前に使いを送り、あなたの道を整えさせる』と書かれているのは、この人のことだ。

11 まことに、女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネより偉大な者は出ていない。しかし、天の御国で最も小さい者でも、彼より偉大である。

12 バプテスマのヨハネの時から今に至るまで、天の御国は激しく攻められており、暴力を振るう者がそれを奪い取ろうとしている。

1, 6, 7, 9, warerano; 2, 8, ii, nanjirano

13 すべての預言者と律法とは、ヨハネの時まで預言をしていたのである。

14 あなたがたがそれを受け入れる気があるなら、ヨハネこそ来るはずのエリヤである。

7, 9, amen; 1, 2, 3, 6, ii, nosezu

15 聞く耳のある者は聞きなさい。



ーロは あう ゆる、なるほう ちょっと ちょっと ちょっと ちょっと Gaio

tàmano

。ンレハーは ハゆゆ、ロは ゆえばら ハゆゆ ゆゆう ゆえば ゆえばら ナビ

。ンレハーは ハゆゆ、ゆーまは ゆえば ハゆ ゆえば、ゆまは ゆえばら ナビ

1, 2, 3, 4, kyoudai naru tabibitoni; 6, 7, 9, kyôudaito tabibitoni

toiuoinno

。ンレハーは ハゆゆ、ゆまは ゆえばら ハゆゆ ゆゆう ゆえば ゆえばら ナビ

nàno

。ンレハーは ハゆゆ、ゆーまは ゆえば ハゆ ゆえば、ゆまは ゆえばら ナビ

Demetrino

。ンレハーは ハゆゆ、ゆーまは ゆえば ハゆ ゆえば、ゆまは ゆえばら ナビ

Diotrefe

。ンレハーは ハゆゆ、ゆーまは ゆえば ハゆ ゆえば、ゆまは ゆえばら ナビ

○ 詩篇 第一百二十二篇



ヤコブの 都

Yakobuno kyoudai Yuda

1, 2, 3, itakudamare; 6, 7, 9, kiyomerare

主を 讃美する 者が 多く 起こされ、主の 聖なる 者が 祝福を 受けた 時、主は 彼らの 中に 住まわれた。

1, 3, 3, 4, warerano; 6, 7, 9, noseru

主は 彼らを 導き、彼らを 主の 聖なる 者と 呼ばれた。

3, ii, iii, kyoudaidomo

15 主よ、あなたの 兄弟、彼らの 為に 祈る 者を 顧みて 下さい。

名 nawo yobite

○ 詩篇 第一百二十二篇

ざる　ものを　わろがせー　こと、。6 わら　おのれの　りやうぶんを　まもらせー　その
寸松　ところを　そなれざる　つうひさちを　きそ　そより　ある　こさりを　もりて　おわひ
多る　ひの　さをき　おを　これを　やその　おさよ　まもり　さまんくる　こと　あり。7 めくの
ごとく　そをひと　Sodomuto 身 mito　ごもら　おふび　その　まもりの　まちも　おふとく　いろとんを　おさ
多び　めら　こと多る　そと　まとそりを　あをーよ　よりて　めぎり　ある　ひの　Hino 火 hi ひのそらを
うくる　めどそよ　あとそされり。8 この　ゆめる　めくの　ごとく　そを
けケー、　おはいを　めろんト、　けんあを　そーる　あり。9 それ　つうひさちの　をさ
Mikeiuwa Zaukito
そうえるい　ざんきと　あとそこて　もうせの　Mouseno
あくて　そーりを　ゆりて　めれを　つそ　せき、　さど　きそ　あんちを　せめ　さおそんと
いくり。10 されど　この　ひとびとい　おのれの　そよぐる　ところの　ことを　そーり、
ちえ　ある　けゆめ〜　ごとく　ひまれつける　まー　そる　ところの　ことい　それとの
ことよ　おのて　そうろうとを　けケすあり。

11 その　ひとびとい　Kainno どぎそひ　ある　めを、　めれとん　かいんの　そちを　ある、　りの
Balamino Koranno
さめよ　ぜよひの　まうひよ　そーり　まる　こよ　ひはんよ　おのて　わろぶ。12 めれ

よい　あんちよの　いろくーその　ふるまひの　いそ　あり、　そろうる　こと　あく　あんち
とと　とゆよ　せんよ　つきて　そうろうとを　やーる。まる　めせよ　おそる〜　ところの
あめ　ある　くも、　その　ある　ありの　Akino 秋 aki ま、　ふさ　わー　あり。
18 おのれの　そちを　そく　ところの　うその　そけーる　あと、　さまふ　わー　あり。
これら　さめよ　くとーる　やと　めぎり　ある　よ　いくる　まを　さくそんとる。
14 Adamu
あざひ　より　そちずの　Hanokamo そんん　そのくも　この　とゆケとの　ことを　よけんーて
いくり、　そる、　さを　すべての　ゆめよ　さをき　おこあふ　さめ、15 めら　すべて
ふーんとん　ある　ゆの〜　おらーるる　よくーる　つそひ　ふーんとん　ある　つそひ
との　めれを　そーりるる　すべての　そけーる　ことその　おうーを　ある　さめよ　その
まんまんの　さるる　ゆのと　とゆよ　くさり　さをき　ゆの、　そる　ことを　そとぎる　ゆのるーて　おのれの　よくよ　そるケくて　あゆむ。その
くちに　おとる　ことをを　いふ、　りの　そあるに　ひとよ　へんとふ。
17 いらくーむ　とゆよ、　あんぎと　これよの　きを　おす　きりすとの　そーやくちの
めらて　いのー　ことば、　すあもち　をそりの　とゆよ　あざける　ゆの　おこりて　18 おの

ヨハネ一の書 五章

五 誰が世に勝つ者であるか。それはイエスを神の子と信じる者ではないか。

六 この人はイエス・キリストであって、水と血とをとおってきた方である。水によるだけではなく、水と血とによってきたのである。御霊はまことを証しする方であって、御霊は真理だからである。

七 証しする者は三あって、

八 御霊と水と血とであり、この三は一に帰する。

九 もし人の証しを受けるならば、神の証しはそれにまさっている。神の証しとは、神がみ子について証しされたことである。

一〇 神の子を信じる者は、自分のうちにこの証しがある。神を信じない者は、神を偽り者とするのである。神がみ子について証しされたことを、信じないからである。

一一 その証しとは、神が永遠の命を我らに与えられたこと、そしてこの命は御子のうちにあるということである。

一二 御子を持つ者は命を持っており、神の子を持たない者は命を持っていない。

一三 神の子の名を信じているあなたがたに、これを書いたのは、あなたがたが永遠の命を持っていることを、知るようにするためである。

一四 また、神に対してわたしたちが抱いている確信は、こうである。すなわち、神のみこころにかなう事を求めるならば、神はわたしたちの願いを聞きいれてくださるということである。

一五 また、わたしたちの願いを聞きいれてくださることがわかれば、求めたものはすべてかなえられることも、わかっているのである。

一六 もし兄弟が死に至らない罪を犯すのを見たならば、祈りなさい。そうすれば、神は彼に命を与えてくださるであろう。死に至らない罪を犯す者のためにである。死に至る罪がある。この罪のためには、祈れとは言わない。

一七 すべて不義は罪である。しかし死に至らない罪もある。

一八 わたしたちは知っている、神から生まれた者はだれも罪を犯さないことを。神から生まれた者は自分を守っており、悪しき者はその者に触れることができない。

一九 わたしたちは知っている、わたしたちは神から出た者であり、全世界は悪しき者の支配下にあることを。

二〇 また、わたしたちは知っている、神の子が来て、真実なかたを知るようにわたしたちに知恵を与えてくださったことを。わたしたちは真実なかたのうちにおり、その御子イエス・キリストのうちにおる。この方こそ、まことの神、永遠の命である。

二一 子たちよ、偶像を避けなさい。

ゆるゆ ゆる ゆるゆ ゆるゆ ゆるゆ

○ ネアンデルタール人とクロマニヨン人 ||

ネアンデルタール人の化石は、ドイツのネアンデルタールで発見されたのでこの名がある。ネアンデルタール人は、身長は一五五センチメートルくらいで、がっしりした体格をしていた。脳の容量は大きかったが、顔は前に突き出ており、額は低く、眉の上の骨が発達していた。

ネアンデルタール人は、洞穴に住み、石器を使い、死者を埋葬する風習があった。

クロマニヨン人の化石は、フランスのクロマニヨンで発見されたのでこの名がある。クロマニヨン人は、身長は一七〇センチメートルくらいで、現代人とほぼ同じ体格をしていた。脳の容量も大きく、顔は平らで、額は高かった。

クロマニヨン人は、洞穴に住み、石器や骨角器を使い、洞穴の壁に動物の絵を描いた。

○ ネアンデルタール人とクロマニヨン人 ||

ネアンデルタール人の化石は、ドイツのネアンデルタールで発見されたのでこの名がある。ネアンデルタール人は、身長は一五五センチメートルくらいで、がっしりした体格をしていた。脳の容量は大きかったが、顔は前に突き出ており、額は低く、眉の上の骨が発達していた。

ネアンデルタール人は、洞穴に住み、石器を使い、死者を埋葬する風習があった。

クロマニヨン人の化石は、フランスのクロマニヨンで発見されたのでこの名がある。クロマニヨン人は、身長は一七〇センチメートルくらいで、現代人とほぼ同じ体格をしていた。脳の容量も大きく、顔は平らで、額は高かった。

クロマニヨン人は、洞穴に住み、石器や骨角器を使い、洞穴の壁に動物の絵を描いた。

○

ユダヤ の 兄弟 たち も、 異邦人 が 神 の 言葉 を 受け入れた こと を 聞き ました。 1 ペテロ が エルサレム に 上った とき、 割礼 の 者 たち は 彼 と 争って、 2 言った、「 あなた は 無割礼 の 人 の ところ に 行って、 一緒 に 食事 を した。」 3 そこで ペテロ は 事 の 次第 を 順序 を 立てて 説明 し、 4 言った、 5「 わたし が ヨッパ の 町 に いる と、 我を忘れて 幻 を 見た。 大きな 布 の ような もの が、 四隅 を 吊るされて、 天 から 降りて 来て、 わたし の ところ まで 届いた。 6 その 中 を 見つめて 考えて みる と、 地 の 四つ足 の 獣、 野獣、 這う もの、 空 の 鳥 が 見えた。 7 また、「 ペテロ よ、 立って、 屠って 食べ なさい。」 と 言う 声 を 聞いた。 8 しかし わたし は、「 主 よ、 とんでも ありません。 清い もの も 汚れた もの も、 口 に 入れた こと は ありません。」 と 言った。 9 すると 天 から 再び 声 が 答えた、「 神 が 清めた もの を、 あなた が 清い と 言う な。」 10 こう して 三度 繰り返された が、 また 皆 天 に 引き上げられた。 11 ちょうど その とき、 三 人 の 者 が、 カイサリア から わたし に 遣わされて、 わたし たち の 泊まって いる 家 に 来て 立った。 12 すると 霊 が わたし に、 ためらう な、 一緒 に 行け、 と 言った。 この 六 人 の 兄弟 も 一緒 に 来て、 わたし たち は その 人 の 家 に 入った。 13 彼 は、 御使い が 自分 の 家 に 立って、「 ヨッパ に 人 を 遣わして、 シモン と 呼ばれる ペテロ を 招き なさい。 14 彼 は、 あなた と あなた の 家族 の 全て が 救われる ため の 言葉 を 語る で あろう。」 と 言う の を 聞いた、 と 話した。 15 わたし が 話し 始めた とき、 聖霊 が 最初 に 我々 の 上 に 降った ように、 彼ら の 上 に も 降った。 16 わたし は、 主 が、「 ヨハネ は 水 で バプテスマ を 授けた が、 あなた たち は 聖霊 で バプテスマ を 受ける で あろう。」 と 言われた 御言葉 を 思い出した。 17 神 が 我々 信じた 者 に 賜った の と 同じ 賜物 を 彼ら に も 賜った と すれば、 わたし は 何者 で あって、 神 の 邪魔 が 出来よう か。」 18 これ を 聞いて、 彼ら は 黙り、 神 を 讃美して、「 神 は 悔い改め に 至る 命 を 異邦人 に も 与えた の だ。」 と 言った。

19 ステファノ の 事 で 起こった 迫害 の ため に 散らされた 人々 は、 フェニキア、 キプロス、 アンティオキア まで 行った が、 ユダヤ 人 の ほか に は 誰 に も 御言葉 を 語らなかった。 20 ところが、 その 中 に キプロス と クレネ の 人 が 幾人 か いて、 アンティオキア に 来て、 ギリシア 人 に も 語りかけ、 主 イエス の 福音 を 宣べ伝えた。 21 主 の 御手 が 彼ら と 共に あった ので、 大勢 の 人 が 信じて 主 に 立ち返った。 22 この 事 が エルサレム の 教会 の 耳 に 入った ので、 人々 は バルナバ を アンティオキア まで 遣わした。 23 彼 は 到着 して、 神 の 恵み を 見て 喜び、 固い 心 で 主 に とどまる よう に と、 皆 を 励ました。 24 バルナバ は 立派な 人 で、 聖霊 と 信仰 に 満ちて いた。 こう して 大勢 の 人 が 主 に 導かれた。 25 バルナバ は サウロ を 捜す ため に タルソ に 行き、 26 見つけて アンティオキア に 連れて 来た。 二人 は 丸一年 教会 に 集い、 大勢 の 人 を 教えた。 弟子 たち が 初めて キリスト者 と 呼ばれた の は、 アンティオキア で の こと で ある。

○

27 その 頃、 預言者 たち が エルサレム から アンティオキア に 下って 来た。 28 その 中 の アガボ と いう 者 が 立って、 霊 に 導かれて、 全 世界 に 大飢饉 が 起こる と 予告 した が、 それ は クラウディオ の 時代 に 実現 した。 29 そこで 弟子 たち は、 それぞれ の 力 に 応じて、 ユダヤ に 住む 兄弟 たち に 援助 を 送る こと に した。 30 そして それ を バルナバ と サウロ の 手 に 託して、 長老 たち の ところ に 送った。

12 1 ちょうど その 頃、 ヘロデ 王 は 教会 の 中 の 幾人 か を 苦しめ ようと して 手 を 下した。 2 ヨハネ の 兄弟 ヤコブ を 剣 で 殺した。 3 ユダヤ 人 たち が これ を 喜ぶ の を 見て、 更に ペテロ を も 捕らえた。 それ は 除酵祭 の 時期 で あった。 4 ペテロ を 捕らえて 牢 に 入れ、 四 人 ずつ 四 組 の 兵士 に 引き渡して 見張り を させた。 過越祭 の 後 で 民 の 前 に 引き出す つもり で あった。 5 こう して ペテロ は 牢 に 入れられて いた が、 教会 は 彼 の ため に 熱心 に 神 に 祈り を 捧げた。 6 ヘロデ が 引き出そう と して いた 前 の 晩、 ペテロ は 二 本 の 鎖 に つながれて 二 人 の 兵士 の 間 に 寝て おり、 番兵 たち は 戸口 で 牢 を 見張って いた。 7 すると 主 の 御使い が 現れ、 牢 の 中 に 光 が 輝いた。 御使い は ペテロ の 脇 を 叩いて 起こし、「 急いで 立ち なさい。」 と 言った。 すると 鎖 が 両手 から 外れた。 8 御使い は、「 帯 を 締めて、 履物 を 履き なさい。」 と 言った。 ペテロ が そう した ので、 御使い は また、「 上着 を 着て、 わたし に 従って 来い。」 と 言った。 9 ペテロ は 外 に 出て 従った が、 御使い の する こと が 現実 の 事 と は 思え ず、 幻 を 見て いる の だ と 思った。 10 第一 の 衛兵 所 と 第二 の 衛兵 所 を 過ぎて、 町 に 通じる 鉄 の 門 の ところ に 来る と、 門 は ひとりでに 開いた。 二 人 は 門 を 出て、 一 筋 の 通り を 進んだ が、 すぐ に 御使い は 離れて 行った。

そをそちんよ くさくげ ごとく てうの つえを
めくの ごときけんをと ひと ちくより うけとりて
あるくん。[29]そくあるものい そよきやうくものよ いふ ところの ことを
きけよ。

すら 三ーやく

Sardonno
あんち さるぞすの きやうくとうの つりひよ あ
うの さきと あくうのあーをゆそるもの この こと
おこるひを ちる。あんち いけるのあれとも
ちるんとするのとりの ものをかさよせよ。ひと
まんよ おのて まうくく そをとりさるを そず。
ところを おがんくて これを まもり まさくひあと
さやんば ひれ ぬすびとの ごとくよ いさとん、
とんや あんち これを ちとぐる べー。[4]ちうれとも
きものを けりさぐる ものく ひうの あり。
ひれとともよ あゆなん、そい あゆ ぬよ されば
あり。 。めちを うる ものいかく

そうろこころをきをとるべー、ひれそのあをいのちの ふこよりけさやーて ひケ
ちくと そのつうひくちとの まんくよおのてその
ものい そくさの ちよまやうくとうのよ いふ ところの ことをきけよ。

[7]Filadelfiano
あんち ひとぐるひやの さやうくとうのつう
とぐすことを えぐる やうよ ひとすu、まくさ
とぐすもの すあるもち [8]Dubidemo そびぐの めぎを ゆてる ゆの、まことの ゆの、きこあき
ものの このことを いふ、いそく、 。ひれ あんち
あんぐの まんくよ されも とぐすことを えぐるの おこるひを ちる。そよ、ひれ
ちうと ありて ひケ ことをまもり まくひケ
。そよ、さくんの くさのとうよ ぞくする ゆのとも すあるもち そうくと ゆざやびと
ありといひて ゆざやびとよあとすu、いうそりを
あんちの あーゆとよきうり ふさを、めら ひケ
めん。[10]あんち ひケ さくーのひの ことをを ちるすむ
ものとゆを こころそん さめよ せうのちうよ きこよ
おのて あんちを まゆとん。[11]ひれ すそやうよ

ものりを うちひ ととぎる やう あんぢ ゆてる ところの ものを めつくさ そゆつ べー。
12 めぢを うる ものん これ これを ひケ めその そやの を、まく かその いまず てんより
いぞぎる べー。 これ かれの うんよ ひケ めその そやこの を、おょび ひケ
くさる あるとーる あるされむ、すあそち これ あるとーる あを あるさん。 13 そ〜 ある ものん
そるまやうくちゆ いふ ところの ことを きけよ。

14 あんぢ らそでけやの きやうくちの つろひよ ふそを おくりて いん、あめん
ある もの、ちうき ある まことの あうーひと、かその うちうの ゆと ある もの
この ことを いふ、いそく、15 これ あんぢの おこあひを ある、あんぢら ひやくろ
あよぎ あつくよぎ。 これ あんぢの ひやくろ あつくよん ことを わつず。
16 あんぢん あくくろうーて あつくよぎ まくひやくろ あよぎる ゆあよ これ あん
ぢを ひケ くち より そる いざさんと ず。 17 あんぢ そごうよ、これん とめり、
くろよくを えくり、めくる ところ あーと いひて あんぢん あんとう ある あそれむ
べきもの、まくーきもの、めくよ まくそざう ある をよぎ。 18 この ゆあよ これ
あんぢよ すくめん、あんぢ とむ やうよ ひそ ゆつて ねりくる きんを これ より

めん、まくきものを きて あんぢの そくろの あよそれざる やうよ をろき
ころもを めん、めつ あんぢ そる ことを うる やうよめの こうやくを めふて あん
ぢの めを ぬれよ。 19 ひケ あの ず する ところの ものん これを とぢめ めつ ことず、
さくく、これち ひケ こあを きくて とそ ひとくん これ すくそて めれよ いくり、
これ めれと ともよ あり、めれこれと ともよ ありて のそくひ せん。 21 めちそうる
ものん これ めちて ひケ ちくの そざよ おのて めれよ これと ともよ ひケ ざよ ず する ことと くこれ
そくさの あるきやうくろのよ いふ ところの ことを きけよ。

さん 四ーやう

この のち これ そて との てんよ おのて ひとくけくる を そくり。 ひケ そとめて
きける こあんちらの ととくよ きくくーげ ひ これよ めくりて いひけくん、あんぢ
こくよの がれ、これ この のちあとんところの ことを あんぢよ ちめさん。 2 これ
そちらよ そくさの うちよ ありて てんよ おうれさる そざと その そざよ ず する
ものを そるり。 3 ず する ゆのー そうけい こんがうせきと こうぎよくの ごとー。 その

Laodicenno
Laodicean
金剛石 kongouseki
紅玉 kougyokuno

○ あとそーらる よけん さの 四 ちやう

そぎの まそりよ そとりさもの そうけよ あくさ あり。[4]まく そぎの まそりよ そのさ ありて ちろき ころもを きめう めんむりを いくさ
りよ あとう そのさ ありて ちろき ころもを きめう めんむりを いくさ
よきさる [1,2] nijiru yonimo toçiyoricomo sono sani とーふりとも そのまとう そのぎよ ざんり。[5]いきひうり、こえ、かさ
ありそのそぎよりいぞうり。そぎのまくよひのゆゆるあくうのとゆーひあり、
すあそち かそのあくうのそうまあり。[6]そぎのまくんすいちやうよあくうきや
あんのうそのごとー。そぎのあう、そぎの [目 mimo] まそりよ、まんうーうんめよて そち
そうようのいきものあり。[7]そとめのいきものんひとの ごとき めわを ゆそり、
ものんこうーの ごとー、さら さんのいきものんおのあのむうの
ざんーのいきものんとぶ ひーの ごとー。
つそさあり、そのうとおゆてんめうて そそり。めれとあちや やすまやーて
いひけさん、きうのうる、むうー ありー、いまあり、
のちよあとん ゆの、つうりきのかを あうるきそよ。[9]いきものとゆよ よ~ ざん
ざんいける ものよ えのうう、わまれ、めんーやを
きをる とき、[10]あとう よそうんの とーふりとる そぎよ ざをる ゆの~ まんよひれ
あー、よ~ そんざのいける ゆのをそのーめうおのれのめんむりをそぎのまんよ

おきて いそん、[11]さぎ [1,Kimiyo] ある ひれとうの かそよ、あまれ、けん
ゆをうくるん うべ あり。いろんと あれば あ [1,2,niçi mata tabunaretari] ありー まく
そんゆうん そごころよ よりて ありー まく つくとれくり。

さの 五ーゆう

ひれ そぎよ さする ゆの~ そきの てよ ある まきものの そうそち うと おゆてよ
かきて あくうの いんぎやうを ゆうて ふうの いんーくる まきものを そくり。[2]まく
おそひある こあをゆうて、それら このまきものをひとつゆ このふうのんをきるよ
くとんやと よをそる ところの ちうと あるつうひを そくり。[3]てんよ あるゆの、
ちよ あるゆの、まく ちの そうさよ あるゆの そのまきものをひとき あるひん
これを そる ことを えぎり。[4]その まきものをひとつゆ あるひん これをそるよ
くる ゆの ある ゆあよ ひれ おそひよ あけんゆ あけきくり。[5]とーふりの うちの ひとり
ひれよ いひけるん、あけく あうれ、そよ、そひぢの [根 nenjo] ねよーて ゆうの ぞくの そ~
まぢよ かちて その まきものと あくうのを ひとく ことを えぎり。
[6]ひれ つひよ そぎ、ようの いきもの、とーふりとものの あひぢよ こそる こひうと
を そぎり。それん かうて ころされくる あ~うの つの、

あとらの めあり、そのめん せうのぢうよ おとりとる かそのあとらの そとまあり。7そのこひつと きとりて そぎよ ぜする ゆの〜 そぎの てより まき ものを うけとれり。8まぐよ まきものを 琴 こと まくよりんの とーるりとる おの物の まんくよ ひれふをり。9かれと あとそちくる きんの もちを もちて こひつとの まきものを とりて その ふうらんを ひとーき うとをうとふ、いそく、おきとげ まきとんく うん。10かつ これを 己れとの かそのそくとんで、こと、くよ より かそよ かんと 塩 ちよ おのて おとの する ゆのと あとうとの 11己れまくそて そぎ、いきゆの、とーるりとものまとりよ あるおとうとのつうひ そちの こおを きけり。そのかぎんまんせんせん ありけるげ 12おとどおを もつて いひけるん、ところされくる こひつとのけんる、とと、ちおと、ちうと、わなれ、えのうう、さんひをうとくるんうん。13己れまくもべて てんよあるゆの おとびちのうんちの まくそのうちよあるもべてのゆの〜

りんくるをきけり、いそく、さんひわかまれ、まつりどとん そぎよさするゆのと こひつとよ よ〜なんるのさんよ。14よつのふりとゆ ひれふーて そらんをり。

yoyo bandai ikeru Mononowo; 1,3,4,7,1, nossesu

ぞの 六 ーゆう

こひつとまくらのふうらんのひとうをひとくとゆ己れ そてよつのいきゆの〜うちのひとつけめそおりのごとゆこおをゆつて ぞそれ〔そそゆ〕とうてをきけり。2己れ そて ろろゆむをそくり、ゆそをゆそるゆの これよのる、めんむりをさおそる、めれめちつ〜まくめつんらくあよいぞくり。3まくのふうらんをひとくとゆ己れ そらうのいきゆの〜さくれと いつをきけり。4まくいつひきのあろむよいぞくり、これよのるゆのよ 地 ち より おぞやうそうぜとりめつひとびとをーてあらくぞひよころぞーむるのけんるをさおそる、まくめれよおそひるるつるぎをそくり。5さらのさんのふうらんをひとくとゆ己れまらさんのいきゆの〜さくれ〔そそゆ〕とうふをきけり。6己れ そてくろゆむをおるをりをゆそり。

ひとろよ むき いろーやう、きん ひとろよ おわむき さんをやうを うべーー、あふとと ぶそうーのを くさとよするあうれ。

7ぶろーの あうのんを ひとく ときよ ひれ さろーの いきもの〜きられと いふ 死ぬこと こあをきけり。8ひれ そて おわるこ むをを そるり、これよ のる もの〜あん 死ぬこと いふ、よろも めれと ともよ ゆけり。つるき、きくん、ち、まく ちの けものを ゆろて ひとを ころす くめよ ちの をぶんの いちを ちそう するの けんるを めれとよ くまそれり。

9ろのでの あうのんを ひとく ときよ ひれ めそのの くとをの さめ、まく そのもの〜くろーひをさらぶんの ちくよ あろーくる ちようこの くめよ ころされんと ゆるあるもの よ ひれと おわでこあを ゆろて さけび いひけるん、きくく〜て まくこと あるそくり。10めれと おわでこあを ゆろて さけび いひけるん、きくく〜て まくこと あるきそよ、あるくん くをこる 地獄 せ年〜て 血 ちの むくひをせざるん いろをでぞや。11ころる こころもを めれと おの あのよ くまそりて めれとの ごとく ころされんと するところの とうやく おふび きやうざひとの めをの そろる まを ちをとく やすろを べーと いそれくる おふび ひれ そーろんべ おろひあるる ぢーん あり、

日ぢ ひい けの あとる こあをきもの〜ごとく くろく あり、つきの せんめんん 血 ちの ごとく あり、12てんの あーん いちとくの きそ おろう せよ ゆ 地獄 ちよ おちくり。13てんの ほしら まきくる まきもの〜ごとく ちる ふゆくんをざる さり、すべての やをと おをん そのところより うろくれくり。14てんん やをと ひと、せんまんの めーと、とめる ものの、ゆうー、まく すべての ちもんべ、おふゆうの ものも そろうと おふび やをの いをとよ めくれて 15やをと いをとよ いくり、ひれとの うんよ おち ひれとを めくーて そをざる ものー めあと こひろとの いろりを さけーめよ、17いろんと 日ぢ ひい すべよ いくれり、それらる ことを えんや。

さの 七ーやう

この のち ひれ よまんの つろひろちを そくり、めれとい めせを ちあろひい うこあるひんきよ あろぐる やうちの よろの めせを ひき ととめて ちの まろの すそよ そくり。18まく いける かろの いんきやうそ ゆちて ひけーまりの おれる つろひを そくり。めれ おあでをよ よをそりて ちとうろる よまんの つろひろちよ いのけるん、19ひれとの めろの ちもべとものひろ

○あとそーふる よけん さの 七をやう

のよ これとけ いんを おすれー ものゝ ぞをきけり、いすとふるの ことものの すべての
4これ いんを おされー ものゝ ぞをきけり、いすとふるの ことものの すべての
ぞくの うちより いんを おされー ものの いつひやく ちとう ちせんうへん あり、5すべ
そちの うちより おされー ものの ゆだの ぞくより おうるせん、るべんの ぞくより おう
うるせん、6がどの ぞくより おうるせん、あせるの ぞくより おうるせん、あふくりの
ぞくより おうるせん、まるせの ぞくより おうるせん、れひの ぞくより おうるせん、
8ぜぶろんの ぞくより おうるせん、よせふみの ぞくより おうるせん いんを おされくり。
○この のち これそれも めぞくを ぞるる わとの おわひある くんおうを そくり、
めれとん すべての くよ、すべての ぞく、さよ、ことぞの うちより きくり、ちろも
ころもを き、てよ ちゆろの えさを ゆち そぞと こひつとの まんよ さちて 10おわ
ぞあよ よをとりて、すくひの めくそん そぞよ ざする ところの これとの わそと
こひつとよ ありとりくり。11めつ そぞ、とーふりとる、よろの いきものを めくりて
さそる ところの すべての つろひちち そぞの まんよ おのて ちよ ひれふー わそを

おりそて いひけるん、12あめん、さんひ、えのろう、ち糸、めんーや、わまれ、
けんる、ちろとん、よく をんさの わそよ きをよ、あめん。
18とーふりの ひとり これよ めくりて いひけるん、この ちろも ころもを きくる
ものん されぞや、いんくよりきくろう、14これ めれよ、きそよ、あんち これをちる
とりくり。めれこれよいひけるん、めれとん おわひある あやそのうちより きくり
こひつとの ちを ゆりて その ころもを あとひて これを ちろくーふるる あり。15ゆあよ
めれとん わそのそぞの まんよ おのて これよ つろふ、そぞよ
ざする ものの めれとの うんよ おのれの まくや そのそやを ひろけん。16めれとんもやうあぞ、
ゆをや めのろぞ、まさひも あろさも めれとよ あれば そさの
まんあろよ をる こひつと これを かひ、めろの そらの そあもとよ そちひ
ろん、まさ わを その めより すべての あをそ ぬぐひ とれば あり。
さの八ーやう
さの そちの あうのんを ひとく とる おふそ そんとろんてん ちろう あり る。19これ
わそのまんよ そそる そちろんの つろひさを そくり、これよ あろのろを ゆち きくりて きらそんの まんよ
○あとそーふる よけん さの 八をやう

○ あとそーるる よけん さの 八ちやう

そてり。 [1]われ すぐその きこゑ ゆの〳〵 いのりと ともよ そらの きんの さのさんよ おりて さゝぐる やうよ おそろしくとれくり。 [2]のうの けもり きこゑ ゆの〳〵 いのりと ともよ つくひの て より かそ の まくよ [3]のわれり。 [4]さて つくひ のうろを とり これよ さのさんの ひを ゆりて ちよ あけしくひ かそ多り、 いる ひくり、 こゑ おそひ ちーんあり〳〵。 [5]こゝよ おりて あくろの ちくちを ゆてる ちくちんの つくひくち そらくろと ふく さめよ まくのとあーくり。 [6]さの いちの つくひ ふきければ へうと ひ [火E] あり [7]さの いちの つくひ ふきければ へうと ひ [火E] あり [8]ちの [血E] とゆよ まざりて [地E] ちよ あけよれくり、 ちの さんぶんの いち、 おそひ あわゆ くさ そる やうれくり。

[8]さのうの つくひ ふきければ ひの [火E] ゆゆる おそひある やま うそよ あけよれーケ ことく ありて うその さんぶんの いち [血E] ちよ かそれり、 [9]うその いのち ある どう ぶら さんぶんの いち ちくくり、 かつ ふねの さんぶんの いち わろひくり。

[10]さのさんの つくひ ふきければ とゆーひの ことく ゆゆる ところの おそひある わーてん よりおちて めの [目E] さんぶんの いち おそひ そらの そそゆとよ おちくり。 [11]その わーの あん [interlinear: inside] いんちんと いふ、 そら さんぶんの いち いんちんと あれり。

ひとひと そらの おくく ありーを ゆりて おそく ちくり。 [12]さのーの つくひ ふきければ ひの さんぶんの いち、 つきの さんぶんの いち、 わーの さんぶんの いち うくれくり、 これ、 その さんぶんの いち ひる さんぶんの いち ひくりあく、 よるも かくの ごとく あとん さめあり。 [13]ひれ そて そとの おんあうよ とぶ [flying creature E] ロニーケ [eagle E] おそろしき こゑにて ゆりて、 のこりの さんの つくひくちの、 おさよ ふうんとゆる らくちの ものの ひさくひ、 ひさくひ ありと いふを きけり。

さの 九ーやう

さのとの つくひ ふきければ ひれ てん よりちよ おちくる わーを ころり、 これよ そこ多き おゆの のぎを ころゆる。 [14]〔われ そこ多き [sea E] おゆを ひときーくん〕 おそひ ある よりの ものりーケ [日 Life] ひと くうきい ある のの けもりよ よりて くとくあれり。 [15]いゆと けもり ちよ いでくり、 ちの さそりの ゆてる ちくとの ごとき ちくとを これよ つけ さり、 ちの そさ、 あるひい あるもの、 あるひい きを がらもる あれ、 そら ひる らよ かそ の いんぎやうの ある ひとを がらを さ べーと。 [16]ちろーあケと これを

○ あとそーるる よけん さの 九ちやう

ころ今 ことを ゆるさぎ、そら いつくきの
そのくるーそん さそりの ひとを さす ときの くるーその ごとー。6その ころ ひと
ひと 死 Fra 也と もとめん、されど えざるべー、ちまん ことを わらはれとる ちん めれら
より おそる あり。7いまごの すぐるん いくさよ そまゆるの むまよ みくり、その
かーよよ ある かんねりん きんの めんねりの ごとく、その かろん ひとの かろの
ごとー。8驢 Kimira かこい をんまの かその ごとく、ものの あり。その
てつの むまのあての ごとき ゆの あり。その
おろくの むまの mimano ひく くるまの おとの ごとくーてそり
あり、まく をのうちよ いつくきの あひよ ひとを がらをるの けんる あり。11かれ
よの うんよ そこある ある の つうひ ある ごう あり、その あん へぶらの ことそ
まそ あをとんと Adodonto いつ、ぐりきやの Grikiano ことそまそ あをりあんと Apollonto いくる あり、12さの
いちの ひざそひん すぎくり、そよ、この のちふくらの ひざそひ きくよんと今。
13さい ろくの つうひ ある けれん これ かそ
よろの つの より いくる こあを きけり、ちうをを ゆてる さい ろくの つうひよ
いひけるん、14おろひある かん ふとくよ Furuland おのて つあげれくる よまんの つうひ

とあを とけると。15さて ひとびとの さんぶんの いちを ころす やうよ その
ころ今の とき、ひ、つき、とーの さあよ そあへぶれくる よまんの つうひとも
とられくり。16騎馬 Kuno さだの ぐんせんの かぎん あをよ おのて むまと これよ のる ものとを
きけり。17これ かくの ごとく まがろーよ
そくり。そのむまあてん ひ、火 E あろざま、いろ
ひーよの ごとー、ひ、けむり、いそう そのくち
まあそち そのくちより いくる ところの ひ、けむり、いそうよ ようて ひとびとの
さんぶんの いち ころされくり。19むまの ちを
をよ へびの ごとき かーよ あり、これを ゆうて がのを あを。
20このさんあんよ おのて ころされざる のこりの ひとびとん あくま まく そる
ことる、きく ことる、あのむ ことをも えざる ところの きん、ぎん、ちんちう、
いー、きの ぐうざうを おがまざる やうよ その てつ つくりくる ひざを くひ あと
くあを、21まく ひとびとろー、まとゆう、そうくう、時をそを くひ あとくあぐりる。

さん 十ーやう

これ まく そて ひとりの つうる つうりの てん より くだるを そくり、かれん

兄弟は神の子孫で神聖な血統だから、人間の女と結婚してはならないと言った。

「日本人は一神論の民族ではない。」と、ライシャワーは言った。

彼はまた日本人の宗教的寛容さと、外国の思想や習慣を吸収する能力を指摘した。

「日本人は、ある思想を全体として受け入れるのではなく、自分たちの目的に合うものだけを取り入れる。」

ライシャワーは、日本人の思考様式を「包含的」と表現した。

「日本人は、矛盾する二つの考えを同時に持つことができる。」

例えば、神道と仏教、儒教と西洋思想を、同じ人が同時に信じることができる。

「日本人は、論理的な一貫性よりも、状況に応じた柔軟性を重視する。」

ライシャワーは、日本人の思考様式を「包含的」と表現した。

「日本人は、矛盾する二つの考えを同時に持つことができる。」

例えば、神道と仏教、儒教と西洋思想を、同じ人が同時に信じることができる。

「日本人は、論理的な一貫性よりも、状況に応じた柔軟性を重視する。」

第十一章　岩戸隠れ

I, takai tateite iwaku

高い立て石

ライシャワーは、日本人の思考様式を「包含的」と表現した。

「日本人は、矛盾する二つの考えを同時に持つことができる。」

例えば、神道と仏教、儒教と西洋思想を、同じ人が同時に信じることができる。

「日本人は、論理的な一貫性よりも、状況に応じた柔軟性を重視する。」

ふくろの めんどんの きるーて ちの きその まんよ
さの あり。5 それら もー これを がのやんとわらーまん ひ その くち より いでー
めのきの ものとものを わろがさん、 これを がのやんと わらする ものの あとん その
ものん めくの でとく ころさる べー。6 めれとら ちよ 血豆 めそこを、 めつ その
ふとさる やう てんを とらるの けん あり、 まる そ
わらする ときよ ちさひ すべその さらまんを ゆらて 地豆 ちと うつの けん あり。
7 めれと その あろーを をそる ときよ そこまり ところ よりの ぎる けものの めれ
ぐと さこうひ まる めらて これを ころさん。8 その ちうをねん さとくを ゆらて
そとむ、 Sodom, Eiptoto えとふとー とまふる ところの おわひまる そやこの ちまるすまそちその
きそのの そりつけとれさる ところよ のこと。9 さこ、 ぞく、 ことん、 くまこうの
うちよ そつう そんの あひぶ その ちうをねを そる ものの ありて その ちうをねを
そろよ わうむる ことを ゆるさん。10 まる ちよ すある ものとも これが そめよ
よろこひ そのーまん、 めつ この ふさりの よけんしゃ めつて ちよ すある ものと
ものを そうーめー ゆまよ あのさうひよ おくりものを おくこん。
11 そつう そん すぎて かこ よりの いのちの いりー その ふさりの ものよ いりー

うんめれとー あーそてさそり、これを そるものとも こころよ おわひまる おそれ
おそれり。12 あろーひと てん よりの めれとよ、 あんなと こころよの ぶれと いくる
おわひまる こまをさそられんくもよ おのてんよの ぶれり、 そのかさきの ものも
これを そさり。13 その ときよ おわひまる ちーんよ おのて ころさられさる ものも
さふれさり。ちーんよ おのて ころさられさる ものの ちせんまん、のこりの ものん
おのさきて えのうつを てんの かそよ きんり。14 さのまの ひさそひん すぎさり、
そよ、 さのさんの ひきそひ すそやうよ きさこんありて そやこの おうぶんの いち
15 さのーちの つうひ ふき けれん てんよ おわひまる こ表 あり、いそく、よの
まりごとん ひれとの きそとその きりすとこの ものの あり、 めれん よー そんさの
ちそ ひれふー、かそを おけそて いひけるん、17 いま あり、むうー ありー きそまる
つうりきの かそよ、ひれと あまさよ めんこん おわひ
まる けんを まきりて ちそのー さまふ。18 さこ
その そのうりも いさり、まる ちんそー ものー
あまこの ちまべと さこま ものの おふひ さのーや
ちうの ひうち あく そまを おそる

ゼカネ　ああ、神様、お助けください。ゼカネが、ゼカネが、ゼカネが……

ゼカネは、ゼカネが、ゼカネが、ゼカネが

ちゃーかーは ものがたりを はじめました。

「むかし むかし、あるところに、とても まずしい おじいさんと おばあさんが いました。ふたりは まいにち、やまへ しばかりに いって、しばを とって、それを うって、くらして いました。

ある ひ、おじいさんは、やまで しばを かって いました。すると、とおくの ほうから、ぶんぶんと いう おとが きこえて きました。

「なんだろう。」

おじいさんは、おとの ほうへ、そっと あるいて いきました。

すると、おおきな くまが、はちの すを こわして、はちみつを なめて いました。

「くまさん、くまさん、はちみつを ください。」

おじいさんは、こえを かけました。

くまは、びっくりして、こちらを みました。

「おじいさんに あげるから、すこし だけ ください。」

おじいさんは、ていねいに たのみました。

くまは、すこし だけ はちみつを おじいさんに あげました。

おじいさんは、それを もって、うちへ かえりました。

おばあさんは、それを なめて、とても おいしい と いって、よろこんで くれました。

ふたりは、その よる、ひさしぶりに、たのしく ゆめを みました。

○ 神武天皇は、日向の高千穂の宮に三十七年、

○ 神武天皇は、日向の高千穂の宮に三十七年、

ふくらんを もち おそごあるて いひけるん、[7]かその さそきの ときん すぞよ いくれり、この ゆあよ かれを おそれて これよ わまれを きんよ、てん、ち、うえ まるそらの そあもとを つくりるる ところの ものを おげめよ。

[8]まるそるるの つろひ これよ ちるぐみて いひけるん、おそひある そびろうんん おちくり、おちくり、かれん そんくくをして そのそろくの いろりの さけを のまーめられん あり。

[9]まる そのさんの つろひ これよ ちるぐひ おそごあを ゆうて いひけるん、それろ ゆー けものと その そうとを おげを かろら その そるーを ひるら あるひん てよ うけあん、その ものん かその いろりの ちくるる ところの まざり ある その いろりの さけを のむ べー、まる きるる つろひるち おふび こひろとの まんよ おらて[火]ひと いそうを ゆうて くるーるくるーそを うくるの けものと その そうを おげむ ものの けむりん よ~ そんさら のるる あり、けものと その そうとを おげを かろら その そるーを ひるら あるひん まる そのものの そるーをうくるる ものん ひるよるや すむ ことを えぞ。[12]これ かその おきてと あすの そろうのうの そちを まゆる きるる ものくくんーのひの あとそる~ ところ あり。

[13]これ てん よりの こあを きけり、いそく、これを かけよ、この のち きそよ ぞくーて そろる そうろん さらは いひけるん、ちろり、かれくん そのそそくる よりや すまん、そのおくあひ こんよ そのそそくる。[14]これ そて そろる くゆと まんけんの むすこの ごとき ゆの~ くゆよ ざする とそそるり。かれん かーぶよ きんの かんむりを ゆてり。[15]まる ひとりの つろひ そや よりいそ おそごあを ゆうて よそそり いひけるん、まんちの そるとき ときん いくれーるび ちん かとれるり。

[16]くゆよ ざする ゆの そのものを ちよ いれーるび ちん かとれるり。

[17]まる そうの つろひ てんよ あるそや よりいけ、かれも そるとき かまを ゆうて そるとき [18]まる [火]ひと つろさとる そうの つろひ さらさん よりいけるん、まんちの そるとき かまを ゆてる ゆのよ むうひて よそそり いひけるん、そのふさうんまろくくおゆくめまをいれて ちの ふさうんるの ふさを あろめよ、そのふさうんまろくくおゆくをり。[19]つろひ そのかまをちよ いれ ちの ふさうんるを あろめて これを かその いろりの さうふねよ あけるり。[20]その さうふねん そやこの そとよ おのてふまれ

Gemponni 1600 tcou, sunawatei Nipponno
tel 里
2560 tcouni staru

一六〇〇里ほどあるところ、ここから日本の方へ向かって、

第五十四章

Mouseno
t, 4, yono ; 8, 6, 7, kunino
hito 人

"私は、ここから日本の方へ向かって、一六〇〇里ほどあるところ、ここから日本の方へ向かって、

第五十五章

1, 3, 4, 7, nanatsuno hatciwo ; 6, 1, hatciwo
tcini 為

"私は、ここから日本の方へ向かって、一六〇〇里ほどあるところ、ここから日本の方へ向かって、

第五十六章

1, 3, 4, 6, dainino mono ; 7, 1, dainino takai
teino 庭

"私は、ここから日本の方へ向かって、一六〇〇里ほどあるところ、ここから日本の方へ向かって、

血 ちと あれり。5 これ そらの つうひの いくるを きけり、いそく、いま あり、むろー
1, 6, 1; 11. Hiroki Monoyo
ありー ところの さるぎる ものよ、おるくん めくの ごとく さぜる さまふよ よりて
そくーる あり。6 めれくん めりてきくる ものと よけんーやくちとの ちをあげぜー
ゆるよ おるくん これよちを のまをり、めれとんうん より
7, 1, bokaxo mumomo iyeruwo
いくるを きけり、いそく、むろり、つうりる あるきこ あるかそよ、おるくの
さぜきん まこと あり さじーる あり。

8 ざら そのつうひ そのそちを 日 hi ひよ めるぜ
こげすことを ひよ 日 hi さまそりくり。9 ひとびとと おそひおる あらさを ゆりて こげ
されん けれん この さらるんを つうさとる ところの かその あを けげぜり、めら
くひ おとふるめて わまれを めれよ きんぞ。

10 ざら ごの ゆの そのそちを けゆの〜 ざよ めるぜ
あれり、さて ひとびと くるーその さめよ てんの かそを のくーりて そのおそるひを くひあとふるめき。
ちゆゆうの さめよ てんの かそを おそひおる めそ ふとうよ めるぜ ふとうよ めるぜ けれん ひげ
12 ざら ろくの ゆの そのそちを おそひおる めそ ふとうよ めるぜ けれん ひげ
ーの めうの さうふちの さめよ そちの そるん かそきくり。

18 これ まる りふうの くち、けゆの〜 くち、
かそらの ごとる そうの あけうある さまの いんぜ
さまるーて ふーぎの ひぎを おこるひ、まる つう
さふうひよ あうめんげ さめよ せうのぢうの ひ
これぬすびとの ごとくよ きくる。これうそも
ひとよ そのそちを そそぎる やうよ めを さまる
り。

1, karera ; 5, 7, karo
16 われら へぶるの ことばうて めぎとぎんと
1, 6, 1; 11. Harmagedon, sumawaki Megidosan
くり。17 ふら そちの ゆの そのそちを くうふちを あうめ
そゆの そぎより いぜくり、いそく、をそれり。
かそるり あり、まる おわひおる ちーん あり。
めくの ごとる つよる おわひおる ぢーんん あふ
ひろれり、くうぐふの まちも さふれり。おわひ
されくり、こん そのいうりの いきとおりの さ
あり。20 すべての そまん すぎくりくり、やまん
Babilonwa
ひおる そびろんん かそよ おもひいざ
さうぐきを これよ あるくんぐ さめ
そんぎ。21 めう おもさ いうひやく

きん わとの おわひまる へう てん より ひとびとの うへよ おちくり。さて ひとびと へうの さいまんの さめよ おそを のくーれり、いろんと あれば その さの まんん いと おわひまれば あり。

さの 十七 ーやう

あーろの そちを ゆそる そちまんの つろひそちの ひとり きくりて これよ めくり いひけるん、まんち きされ、これ おわくの そひまる ゆうぢうの さそきを まんぢよ ちめさん。[2]めれ すめる ものとを おそをそる ゆの まくそのそろくうの さけを ゆうてちよ ありと。[3]これ そのの うちよ をりーケ めれ これを のよ そちひき ゆけり。これ まうろの めーよ、とその つの ありて めくさびうよ けケす ことの あの そちくる くれあらの けものよ ざする をんまを そくり、[4]その をんまん むふさきと ひどころ ものを き、まく きん、わうんでき、そんよゆを ものぎりとー、てよ きんの ちまくを ゆちて これよ その そろくうの さけを ゆうてちよ すめる ものとを おそをそる ゆの

1, 3, 6, 7, tsunoto kemonowa

ゐ給ふ。[2]女君は、あやしきまで思ひ入れたるさまにて、[3]ものなどのたまふ。[4]男君、[5]いとあはれなる御ありさまを、[6]いかでかは見捨てたてまつり給はむ、[7]とのみ思ひ給へり。

十八 ―ゆき―

[8]あやしき山賤の垣ほにも、[9]なべての人の住まひとは見えず、[10]木立ものふりて、[11]いかめしう造りなしたる家の内の、[12]人の気色もさまことなるを、[13]いぶかしう思ひ給へり。[14]御供にはべる人々、[15]あやしき山賤の垣ほにも、[16]なべての人の住まひとは見えず、[17]木立ものふりて、[18]いかめしう造りなしたる家の内の、人の気色もさまことなるを、いぶかしう思ひ給へり。

1, 3, 4, 6, 7, otcitari; 6, 1, youtari

3, 6, otcitnri; 1, 7, nosezu

1, 3, 4, 6, 7, tsumorite tenni itareri

of

ゐ給ふ。[2]女君は、あやしきまで思ひ入れたるさまにて、[3]ものなどのたまふ。[4]男君、[5]いとあはれなる御ありさまを、[6]いかでかは見捨てたてまつり給はむ、[7]とのみ思ひ給へり。

1, 3, 4, 6, koubaçki mono; 1, ii, nosezu

[12]ものがたり、[13]ものがたる、ものがたれ、ものがたろう、ものがたらない、ものがたらず、ものがたった、ものがたって、ものがたれば、ものがたりたい、ものがたりたかった、ものがたりたがる、ものがたりたがった、ものがたりたがって、ものがたりたがれば、ものがたりたがらない、ものがたりたがらず、ものがたりたがろう、ものがたりたがりたい、ものがたりたがりたかった、ものがたりたがりたがる、ものがたりたがりたがった、ものがたりたがりたがって、ものがたりたがりたがれば、ものがたりたがりたがらない、ものがたりたがりたがらず、ものがたりたがりたがろう、[14]ものがたられる、ものがたられた、ものがたられて、ものがたられれば、ものがたられない、ものがたられず、ものがたられよう、ものがたられたい、ものがたられたかった、ものがたられたがる、ものがたられたがった、ものがたられたがって、ものがたられたがれば、ものがたられたがらない、ものがたられたがらず、ものがたられたがろう、[15]ものがたらせる、ものがたらせた、ものがたらせて、ものがたらせれば、ものがたらせない、ものがたらせず、ものがたらせよう、ものがたらせたい、ものがたらせたかった、ものがたらせたがる、ものがたらせたがった、ものがたらせたがって、ものがたらせたがれば、ものがたらせたがらない、ものがたらせたがらず、ものがたらせたがろう、[16]ものがたらす、ものがたらした、ものがたらして、ものがたらせば、ものがたらさない、ものがたらさず、ものがたらそう、ものがたらしたい、ものがたらしたかった、ものがたらしたがる、ものがたらしたがった、ものがたらしたがって、ものがたらしたがれば、ものがたらしたがらない、ものがたらしたがらず、ものがたらしたがろう、[17]ものがたらす、ものがたらした、ものがたらして、ものがたらせば、ものがたらさない、ものがたらさず、ものがたらそう、ものがたらしたい、ものがたらしたかった、ものがたらしたがる、ものがたらしたがった、ものがたらしたがって、ものがたらしたがれば、ものがたらしたがらない、ものがたらしたがらず、ものがたらしたがろう、[18]ものがたらす、ものがたらした、ものがたらして、ものがたらせば、ものがたらさない、ものがたらさず、ものがたらそう、ものがたらしたい、ものがたらしたかった、ものがたらしたがる、ものがたらしたがった、ものがたらしたがって、ものがたらしたがれば、ものがたらしたがらない、ものがたらしたがらず、ものがたらしたがろう、[19]ものがたらす、ものがたらした、ものがたらして、ものがたらせば、ものがたらさない、ものがたらさず、ものがたらそう、ものがたらしたい、ものがたらしたかった、ものがたらしたがる、ものがたらしたがった、ものがたらしたがって、ものがたらしたがれば、ものがたらしたがらない、ものがたらしたがらず、ものがたらしたがろう、[20]ものがたらす、ものがたらした、ものがたらして、ものがたらせば、ものがたらさない、ものがたらさず、ものがたらそう、ものがたらしたい、ものがたらしたかった、ものがたらしたがる、ものがたらしたがった、ものがたらしたがって、ものがたらしたがれば、ものがたらしたがらない、ものがたらしたがらず、ものがたらしたがろう、[21]ものがたらす、ものがたらした、ものがたらして、ものがたらせば、ものがたらさない、ものがたらさず、ものがたらそう、ものがたらしたい、ものがたらしたかった、ものがたらしたがる、ものがたらしたがった、ものがたらしたがって、ものがたらしたがれば、ものがたらしたがらない、ものがたらしたがらず、ものがたらしたがろう、[22]ものがたらす、ものがたらした、ものがたらして、ものがたらせば、ものがたらさない、ものがたらさず、ものがたらそう、ものがたらしたい、ものがたらしたかった、ものがたらしたがる、ものがたらしたがった、ものがたらしたがって、ものがたらしたがれば、ものがたらしたがらない、ものがたらしたがらず、ものがたらしたがろう、

ふき、ちらも ふく ゆの〜 こゑ いも やま あんぢの あんの さらくるんるそも ゆそや あんぢの うちよ そんぢ、ひきう すの こゑる もそや あんぢの うちよ きこんぐる べー。[23]とも ーひの ひとりる ゆそや あんぢの うちよ てとさや、そあむこ そあよめの こゑも ゆそや あんぢの うちよ きこんぐる べー。いうんと あれば あんぢの あきうとん せろうの さんこころの ひとびとん あんぢの まとゆうよ よりて まとそさられくられ あり。[24]この まちよ よけんーやと [血5] きよる ゆの、まく せうのよ おりて ころさられくる すべての ゆの〜ち あうを そとれくり。

ざの 十九ーやう

このの のち これ てんよ くんとうの おそひ あるを きけり、いそく、さんびせよ、すくひ、そのうう、ちうとん これとの かその ゆの あり。[2]その さをきい まこと まく さとーる あり、いうんと あれば そらうを ゆうて よを けがーさる おそひ ある ゆうぢうを さをきて おのれの [血totno] ちの むくひを ゆうぢうの てより そとそを さまんべ あり。[3]のれと ふさうび いのけうん、さんびせうと。ゆう ぢうの けがりん よ〜 そんざの のがる。[4]おとそ ようまんの とーふりと よりの いき

ゆの ひれふーて そざよ ざする ところの かそを おげそて、ありん、さんびせうと いくり。[5]まく そさ より いうる こゑ あり、いそく、すべて その そゆべうーて のれを おそる〜 ゆのんさのーやうとも これとの かそを ありよ。[6]これ まく おそ せうの こゑ、おそそうの おと、つよる かそ あり、いそく、さんびせよ、つうりる ある これとの きこ ある かそ そそのーそ さまふよ よりて あり。[7]これと よろこび そのーそて わ よの こんれりの ときん すべよ いうれり、その つまる そうんと ようのを あせーよ よりて あり。[8]のれん のとやる まく いさざうる ぬの このぬのん きよる ゆの〜 そうーる ことあり。

[9]これよ いふ ゆの あり、いそく、あんぢ これを のけ、こひうとの こんれりの ふるまひよ めさる〜 ゆのんさのそひ あり。まく これ かその まことの ことを あり。[10]これつりよ のれを おげ まんとて その あーの まんよ ふーければ かれ これよ いひけるん、つーめよ、これを あを あうれ。これん あんぢ おそひ あんぢの きやうざい すあそち あすの そうこと そうる ゆのと どうやく あり。あんぢ さう かそを おげめ、あすよ つりの その そうこと さうる ゆのと どうやく よけんの ころろ

○あとそーるる よゆん その十九 ちやう

あり。11 ひとれ まる てんの ひとつけうるをそて そろうき むは およひ これよ のる ととろの ちうぎ まること いんる ものを そうり。かれん そとーきを ゆうて さそうき かろ そうろふ。12 その めん ひの そのの ふんの ごとー、その かーしよ おやうの かんりをいうこきうり、かろ おのれの そうろうる ところの そるーうる あり。13 めれん ちよ そそうる さものをき、かれの あい かその ことをと いんり。14 てんの ぐんせい そろうき むまよ のり そうき そのくちより いろ、かれん ゲんり。15 くるうるを うう やうよ するとき てんの つえを ゆうて これを おそのぜん、かろ つうりき あるかその いうりの いきとおりの さうぶねを ふむ。16 その ゆうの きそそうもの きそと そるーうる あり。

17 ひとれ ひとりの つうのケ 日 Ete ひよ そそうるを そうり。めれ おやどあよ よそうりて、 1, 3, 7; Kamino そとよ ところの すべその とりよ いひけうん、あんちよ きうりて かその おやひあるふうるのよあうまれ、18 そん、あんちよ ととうるうの おく、せんうんの かーしよの うく、あのゆうの うく、むまとこれよ のるものとの うく、おうびすべて おのゆうの ものの、そもん、まる そのそやうの ものの〜 まうを くとそん うめ あり。

19 ひとれ けものとちの ととうるち まる そのの ぐんせのケ むまよ のる ものの おうび そのの ぐんせのとそそうふ うめよ あうまりうるを そうり。20 けものの とよそれうり、 けものの〜 まんよ おそあひ これをゆうて けものの〜 そるーをうけー ものの まるその ぞうをおゲむ ものとうをおとそーうる ものの とよそれうり。この ふうりいきを ゲトいうをゆうて ゆゆる ひの うそよ あみいれとれうり。21 のこりの ものん むまよ のる ものの〜 そのくちより いんる つるぎを ゆうて ころされうり。その まうくよ よりて すべその とりん あくことを そうり。

さの 二十ーやう

ひとれまる ひとりの つうのケ てよ そそうき あるの のぎと おそひある くさりを Zinki Satan ゆちて てん より くるるを そうり。22 めれ りやう するもち ざんき さうん ある ふるき へひを とよんて せんねんの あひさ これを ちもり おく、23 すあもち せんねんの そうる あぜん ゆもや くるるを まとそそうる やうよ これを そそうき あるよ あけ、とぢて その うんよ ふうのんぜり。のち そそとよくそうる べー。

4 ひとれ ゆうゆうの ざを そうり、これよ さする ゆのよ さそきを うまそりうり。

のう あすの そうこと およひ かその ことその
けもの あるひん その ぞうを おけまき まく
うけざる もの〜 さまーひを そくり。 かれよ
と〜 ともよ をそらのせり。 5その わうの ちうそ
ざりき。 これ さの そよめの いきけんり あ
あひうる ものい さらのそひ まく きよきま あり。
ゆくや、 かれじん かこ およひ きり今との かん
あひよ きりをと〜 ともよ をそらのせん。
7せんねん そうる ときん さくさん そのろうや より とうれて 8ちの をそうよ ある
くるくよ すまそち ごくと Gogato Magonuvo まどそーて これを さくうひよ あらめん さめよ
いそえん、 その かすん うその すまの でとー。 9かれよ ちの ひろき おもてよ の分
りて きよきま ものく ちんやと ありをそくる〜 そ 火三 ひ かその いまや
てん よりくさりて かれよをわろ分をり。 10これを まとそーる ざんきん けもの と
いうそりの よけんーやの をる ところ ある 火三 ひと いをうとの うそよ あけよれて
よ〜 をんさの ひる さる くるーめとれん。

11これ おそひまる そうき そぐと これよ さ
その まん より のかれくり、 かれよ をる ぐき ところを えざりき。 12これ まく
さのーやうの ちうんケ 1.3.6.7: misano i1 Kamino そぐの まんよ そそ
まく わうの ふと すまそち いのちの ふそも ひとうれくり。 ちうんん ふそよ ちる
さられる こと すまそち その おこまひよ ちる
うちの ちうんを ひさをり、 死 Big と よそも その
おのあの そのおこまひよ ちくくみて さをうれくり。 14から そと よそん ひのうそよ
あけよれくり。 これ ととめの ち、 すまそち ひ
ふそよ ちるされざりー ものい ひの うそよ あけ いれよれくり。

さの 二十一ーやう

これ あそよーきてんと あそよーき ちを そうる まんくの てんと まんくの ちい すぐよ
すぎくり、 ゆそや うそ あよき。 2これ まく きうき そやこ ある あそよーき
ちるされ初ケ そうとの うめよ かざりる ちめの ごとく ようのーて かその
いまや てん より くさるを そうり。 3これ そぐ Lo mismo: 9.11.13 よりの おそひまる こまを きけり、
いそく、 そよ、 かその まくやん まんけんと ととよ あり、 かを のれよと ととよ

そる、のれとん その ささと あり。のれん のれとの
かそと あとん。[4]のこ すべその あそそを のれとの
死[fin]も、のあーそる、あく ことる、いくそる あとぐそる べー、いろんと あれば まんの
ことん すぐよ すぎさりくるよ よりて あり。

[5]そぐよ ざする ゆの いひけるん、そよ、ひれ すべその ゆのを あとくよ つくる。
まく いひけるん、あんち のけ、これとの ことをん あれば
あり。[6]のれまく ひれよ いひけるん、をそれり。ひれ のそく ゆのよ いのちの
もとめと をそり あり。ひれ のそく ゆのよ いのちの
のむ ことを さまそん。[7]のちを うる ゆのん こ
ひれん のれの かそと あとん、のれん ひけ[to] こと あとん。
ちんせぐる ゆの、まくむ べき ゆの、ひとそろー
ぐうぐうを そのする ゆの まく すべて いりそりを
ゆのる うと をあもち ことめの そよ おりて その
[9]をそりの あくろの さの あんの そちくる あくろの
つろひくちの ひとり きくりて ひれよ のくり いひけるん、あんち こくよ きくれ、

ひれ こひりとの つま ある そあくめを あんちよ ちめさん。[10]のれ つひよ ひれを
そくまよ おりて おちひる くうき やまよ つれ ゆの
きくうき そやと ある あるくされむケ かそのの います てん より くざるを ひれよ ちめ
むり。[11]その ひろりん ゆりとも くうとき いーを あ
とある 金剛石[kongouseki] こんがうせきの ごとし。[12]これよ おちひる
ゆん あり、ゆんよ おうもくんの つろひ あり、
をあもち いすとえうの ことゆの おうよ ぞくの あ
きくよ そろの ゆん、そあそよ そろの ゆん、まーう
いーげきよ おうゆの とすの あり、これよ こひりとの
ゆの あり。

[15]ひれと のくる ゆの そやこと その ゆんと そる くめよ
きんの けんぎちを ゆてり。[16]そやこん ちそふよ ひろがる、その あげさん そぐと
おあと。のれ さちを ゆりて そやこを もろりーろん ひやくりありき。あげ
さと そこと くうさん そる ひとし。[17]まく その
ひちよやく いーげきを そろりーろん ひとの
のいーげきを そろりーろん ひやく ろうひやく そぐう ちやくの

○あとそーさる よゆん さら 二十一 をやう

さうさ あり。18そのひーげきの そそものい こんげうせき あり、そやこん きんむく よーて すきとありさる きやをんの ごとー。19そやこのひーげきの どさらの ゆうをの ありんせきを ゆうて めざれり。さらいちの どさらの こんげうせき あり、さらゆいるり、さらさんら めのう、ざらーん そとりさは、さらでん ざっうきよく、さら ろくん 紅玉 kouryoku かうぎよく、さら ーちん 黄玉 ouryoku おうぎよく、さら そちんあやさは、さら くん 紅碧 kouheki かうへき、さらよう そとりの めのう、さら ようらちん むとさる ざまあり。21ようあの ゆんん ようあの あうんよゆあり、ゆんん おの あの ひとつの ちんよゆうて あれり。そやこの とありいきんむくるーて きよとある ぎやをんの でとー。22これ そやこの うちよ そや あるを そを、いうんと あれば つうりきの かを ある きを おうび こひうト その そや あれば ありて あゆを、せうの ひうりよ よつて おうを、かその えうつう これを てとー、めつ こひうトその ひうりよ ありて あゆを、せうの ひうりよ よつて あゆを、せうの ひうりよ よつて あゆを、せうの ひうりよ よつ

ある，また土台石には羊の十二使徒の十二の名が，しるされていた。[15] わたしと語っていた者は，この都とその門と城壁とを測るために，金の測りざおを持っていた。[16] この都は，長さと幅と高さとが同じである。彼はざおで都を測ると，一万二千スタディオンであった。長さと幅と高さとは同じである。[17] また，城壁を測ると，百四十四キュビトであった。これは人間の測り方によるが，御使の測り方によるのである。[18] 城壁は碧玉で築かれ，都は純金で，清いガラスのようであった。[19] 都の城壁の土台石は，あらゆる宝石で飾られていた。第一の石は碧玉，第二はサファイア，第三はめのう，第四はエメラルド，[20] 第五は赤めのう，第六はかんらん石，第七はとうき石，第八はひすい，第九は黄玉，第十は緑玉，第十一はほんのり赤い玉，第十二は紫水晶であった。[21] また，十二の門は十二の真珠であって，門はそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは，すきとおったガラスのような純金であった。

[22] わたしは，この都の中に神殿を見なかった。全能の神である主と小羊とが，その神殿だからである。[23] この都は，日や月の照すことを必要としない。神の栄光が都を輝し，小羊が都の明かりだからである。[24] 救われた人々の国民は，この光の中を歩み，地の王たちは，自分の栄光をこの都にもたらすであろう。[25] 都の門は，昼の間は決して閉されることはない。そこには夜がないからである。[26] 人々は，国民の栄光と誉れとを都にもたらすであろう。[27] しかし，汚れたものは，どんなものでも，また，憎むべきことと偽りとを行う者は，決してはいることができない。小羊のいのちの書に，その名が記されている者だけが，はいることができる。

[1] 御使はまた，水晶のように輝いているいのちの水の川を，わたしに見せた。それは，神と小羊との御座から出て，[2] 都の大通りの中央を流れていた。また，川の両岸には，いのちの木があって，十二種の実を結び，毎月実ができた。その木の葉は諸国の民を癒すためのものであった。[3] 神と小羊との御座が都の中にあって，神のしもべたちは彼に仕え，[4] 御顔を仰ぎ見るであろう。また，彼らの額には神の名がしるされているであろう。[5] 夜はもはやない。ともしびの光も，太陽の光もいらない。神である主が彼らを照すからである。彼らは，世々限りなく統べ治めるであろう。

[6] 御使はまた，わたしに言った，「これらの言葉は信ずべきであり，また真実である。預言者たちの霊の神である主は，すぐに起るはずのことを，しもべたちに示すために，御使を遣わされたのである。[7] 見よ，わたしはすぐに来る。この書の預言の言葉を守る者は，さいわいである。」

[8] これらのことを聞いて見たのは，わたしヨハネである。聞いて見たとき，これらのことを示してくれた御使の足もとにひれ伏して拝しようとした。[9] すると，彼はわたしに言った，「いけない。わたしは，あなたや，預言者たちや，この書の言葉を守る者たちと，同じしもべなのだ。神を拝しなさい。」

[10] また，彼はわたしに言った，「この書の預言の言葉を封じてはならない。時が近いからである。[11] 不義を行う者は，なおも不義を行うままにさせておけ。汚れた者は，なおも汚れたままにさせておけ。義を行う者は，なおも義を行うままにさせておけ。聖なる者は，なおも聖なるままにさせておけ。」

[12] 見よ，わたしはすぐに来る。わたしは，それぞれの行いに応じて報いるために，報いを携えてくる。[13] わたしはアルパであり，オメガであり，初めであり，終りであり，最初の者であり，最後の者である。[14] 自分の衣を洗う者たちは，さいわいである。彼らは，いのちの木に対する権利を与えられ，門をとおって都にはいることができる。[15] 犬どもや，魔術を使う者や，淫らな者や，人殺しや，偶像を拝む者や，すべて偽りを愛し，また行う者は，外にいるのである。

[16] 教会のために，これらのことをあかしするために，わたしイエスは，わたしの御使を遣わした。わたしはダビデの root であり，また子孫であり，輝く明けの星である。」

[17] 御霊と花嫁とが言う，「来てください。」これを聞く者も，「来てください。」と言いなさい。渇いている者は来なさい。いのちの水を価なしに受けるがよい。

[18] この書の預言の言葉を聞くすべての者に，わたしはあかしする。もしこれに付け加える者があれば，神はこの書に書いてある災害をその者に加えられるであろう。[19] また，もしこの預言の書の言葉から取り去る者があれば，神はこの書に書いてあるいのちの木と聖なる都とから，その者の受ける分を取り去られるであろう。

[20] これらのことをあかしする者が言う，「然り，わたしは，すぐに来る。」アーメン。主イエスよ，来てください。

[21] 主イエスの恵みが，すべての者と共にあるように。アーメン。